富士見地区遺跡群

愛宕山遺跡
初室古墳
愛宕遺跡
日向遺跡

平成２年度県営圃場整備事業富士見地区
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

１９９４

群馬県勢多郡富士見村教育委員会

赤城山を背景に愛宕山遺跡を望む

愛宕山遺跡上空より初室古墳を望む

初室古墳出土頭椎太刀柄頭

同　刀装具

愛宕山遺跡出土土器

序　　文

富士見村は、赤城山の南西麓に位置し、西に榛名山、妙義山を望み、南に西上州の山々、さらには遠く富士山が見えるということが村名の由来になったように、豊かな自然に囲まれた風光明媚な地であります。また、赤城山の南麓から南西麓にかけては、広く遺跡の宝庫として知られており、近年の発掘調査の増加によって、具体的な歴史事象が次第に明らかにされつつ有ります。

農業を主産業とする富士見村でも、農業を巡る環境の変化に伴い、昭和58年度から県営の圃場整備事業を行ってまいりましたが、今回の調査はその８年次事業に伴い行われたものであります。

愛宕山遺跡では縄文時代前期の集落が調査され、遺跡の変遷が解明されました。初室古墳では本村で初めて頭椎大刀の柄頭が出土しました。愛宕遺跡では江戸時代の採石跡が調査されました。また、日向遺跡では館跡を構成すると思われる溝を調査しました。これら４遺跡はそれぞれ調査の規模や遺跡の時代、性格も異なっていますが、本村の歴史を解明する上で欠かすことのできない貴重な資料を提供してくれました。

しかし、調査によって新たな知見が得られる代償として、多くの遺跡が永遠に失われていくこともまた事実であります。愛宕山遺跡、初室古墳、愛宕遺跡はすでに完全に消滅してしまいました。文化財保護行政に携わるものとして、いかに我々の祖先の足跡を保護・保存し、また、後世に伝えていくかという責任の重さを痛感する次第です。

最後に、発掘調査・整理作業にあたりご助力・御協力いただきました群馬県教育委員会文化財保護課、前橋土地改良事務所、富士見・北橘土地改良区を始めとする関係機関、さらには、現場作業や整理作業に携わった作業員の皆様に心より感謝申し上げ序といたします。

平成６年３月

富士見村教育委員会

教育長　鈴　木　清　茂

例　　言

1．本書は県営圃場整備事業富士見地区に伴い事前調査を行った愛宕山遺跡、初室古墳、愛宕遺跡、日向遺跡の発掘調査報告書である。

2．遺跡の所在地は以下のとおりである。

愛宕山遺跡　群馬県勢多郡富士見村大字横室字愛宕山１番地－15他
初室古墳　〃　〃　〃　〃　字初室35番地－１他
愛宕遺跡　〃　〃　〃　大字引田字愛宕306番地－２他
日向遺跡　〃　〃　〃　〃　日向291番地－３他

3．試掘調査　平成２年２月26日～平成２年３月13日
本調査　愛宕山遺跡　平成２年８月17日～平成２年10月31日
初室古墳　平成２年７月16日～平成２年10月28日
愛宕遺跡　平成２年９月15日～平成２年10月28日
日向遺跡　平成２年10月15日～平成２年10月28日
整理作業　平成３年４月１日～平成６年３月31日

4．調査は前橋土地改良事務所の委託を受け、群馬県教育委員会文化財保護課の指導のもと、富士見村教育委員会が主体となって行った。発掘調査及び整理作業は委託金及び国庫補助金、県費補助金、村費で行った。報告書作成・刊行は国庫補助金、県費補助金、村費で行った。

5．調査・整理組織は次のとおりである。

富士見村教育委員会　教育長　鈴木清茂
社会教育課長　狩野　透（～平成４年３月）　青木鶴男（平成４年４月～）
係　長　本多幸一（～平成５年３月）　樺沢幹夫（平成５年４月～）
文化財係　羽鳥政彦　（調査担当）

6．本書の作成は編集、執筆、遺構写真、遺物写真の撮影を主に羽鳥政彦が行ったが、遺構・遺物写真の一部については外部委託した。遺物・遺構図面トレースの一部も外部委託している。また、縄文土器図版作成については早稲田大学大学院生松田光太郎及び早稲田大学学生諸君の協力を得た。さらに、縄文土器の観察・分類、考察については松田が執筆した。

7．発掘調査から整理作業にかけて以下のかたがたから指導助言を賜った。また地元地権者各位には調査に際し、全面的な協力を受けた。記して心より感謝の意を表したい。　（敬称略　順不同）
群馬県教育委員会文化財保護課　前橋土地改良事務所　富士見村土地改良課　富士見北橘土地改良区
大栗勇一　木津博明　関根慎二　富澤敏弘　近藤尚嗣　岩崎泰一　右島和夫　津金沢吉茂　山下歳信

細野高伯　谷藤保彦　勢多郡社会教育部会文化財分会の諸氏

8．発掘調査・整理作業員は以下のとおりである。

阿久沢志津子　伊藤ふさ枝　大木とみ　大友保光　金子和也　金子君代　狩野志津江　狩野徳一
狩野光江　狩野かほる　木暮朱実　木村利男　斎藤正子　鈴木朋茂　田村節子　田村福司　田村ミチ
都丸安雄　平沢小夜子　福田松江　船津かほる　塩沢雪江　関口すみ子　萩原優子　久保学
松田光太郎（早稲田大学大学院生）　植月学　小高健太郎　前沢智子　草鹿涼子　牧野光隆　児玉好美
中島直樹　今井晃樹　中山弘樹　更田和子　青山未来　奥田夏美　是永真美　塚原潤一　名久井綾
根岸要　吉野真由美　宮田郷史　八筬武彦（以上早稲田大学学生）

凡　　例

1．本書の挿図の方位は座標北を表す。

2．挿図の縮尺は以下のとおりである。

遺構図	竪穴住居跡	1／80	遺物図	縄文土器実測	1／3、1／4　(○囲み数字)
	炉・埋甕	1／40		縄文土器拓影	1／3
	土坑	1／40		石器類	1／1、1／2、1／3
	石室展開図等	1／40			1／4、1／6
	道路跡	1／200		焼成粘土塊等・金属製品	1／2
	溝跡	1／80		須恵器	1／4、1／6（○囲み数字）
	全体図	1／200、1／400		土師器	1／4

3．遺物写真の縮尺は統一していない。

4．遺構番号は基本的に調査時点に付したものをそのまま用いている。
愛宕山遺跡の土坑番号は精査途中で調査を中止したものがあるため多量に欠番を生じている。また、発掘調査・整理作業の過程で枝番を付したものがあるため繁雑になってしまったことをお詫びしたい。

5．遺構図のうち、出土遺物及び出土位置ドットに付けられた番号は、遺物実測図の番号と一致する。

6．第１図は建設省国土地理院発行の2.5万分の１地形図「渋川」を一部加筆して使用した。
第２図は富士見村役場発行2,500分の１現形図を縮小（１／２）・加筆して使用した。

目　　次

口絵　序文　例言　凡例　目次　抄録

I　発掘調査と遺跡の概要
1．発掘調査に至る経緯…… 3
2．発掘調査の経過…… 3
3．遺跡の位置と周辺の遺跡 …… 4
4．遺跡の立地 …… 7
5．発掘調査の方法…… 7
6．基準土層 …… 9
7．遺跡の概要 ……10
II　愛宕山遺跡
1．概　要 ……15
2．縄文時代の遺構
(1)　竪穴住居跡……15
(2)　土坑……29
(3)　ピット群……33
3．縄文時代の遺物
(1)　出土土器……58
(2)　焼成粘土塊、土製品など ……219
(3)　出土石器 ……220
4．その他の時代の遺構
(1)　炭窯跡 ……235
(2)　道路状遺構 ……236
(3)　溝跡 ……236
III　初室古墳 ……241
IV　愛宕遺跡 ……249
V　日向遺跡 ……251
VI　調査の成果と課題
(1)　縄文時代前期後半諸磯ｂ～ｃ式土器（第III群土器）の考察 ……255
(2)　愛宕山遺跡出土の縄文時代前期後半土器の胎土分析 ……308

挿 図 目 次

第 1 図　遺跡の位置及び周辺の遺跡……5
第 2 図　立地図……8
第 3 図　基本土層図……9

＜愛宕山遺跡＞
第 4 図　愛宕山遺跡全体図……13
第 5 図　1 号住居跡……16
第 6 図　2 号住居跡……17
第 7 図　3 号住居跡……18
第 8 図　4 号住居跡……20
第 9 図　4 号住居跡遺物出土状態……20
第 10 図　4 号住居跡出土土器平面分布……21
第 11 図　4 号住居跡出土土器垂直分布……22
第 12 図　5 号住居跡……23
第 13 図　6 号住居跡……23
第 14 図　7 号住居跡……24
第 15 図　8 号住居跡……25
第 16 図　9 号住居跡……26
第 17 図　10号住居跡……27
第 18 図　11号住居跡……28
第 19 図　12号住居跡……28
第 20 図　1 ～ 9 号土坑……37
第 21 図　10～14、16～19号土坑……38
第 22 図　20～24、29、31、35号土坑……39
第 23 図　30、33、34、36、37号土坑……40
第 24 図　38～43号土坑……41
第 25 図　44～50、52号土坑……42
第 26 図　51、53～59号土坑……43
第 27 図　60～62、64、65号土坑……44
第 28 図　63、66～68号土坑……45
第 29 図　71～76号土坑……46
第 30 図　77～81号土坑……47
第 31 図　82～84、91、92、94、95号土坑……48
第 32 図　96～101号土坑……49
第 33 図　102、104～108号土坑……50
第 34 図　109、111～117、128号土坑……51
第 35 図　118、121～123号土坑……52
第 36 図　124、125、127、134、136号土坑……53
第 37 図　130～132、137、138号土坑……54
第 38 図　135、139～144、147号土坑……55
第 39 図　148～152号土坑……56
第 40 図　ピット群……57
第 41 図　1 号住居跡出土土器（1）……80
第 42 図　1 号住居跡出土土器（2）……81
第 43 図　1 号住居跡出土土器（3）……82
第 44 図　1 号住居跡出土土器（4）……83
第 45 図　1 号住居跡出土土器（5）……84
第 46 図　2 号住居跡出土土器（1）……85
第 47 図　2 号住居跡出土土器（2）……86
第 48 図　3 号住居跡出土土器（1）……87
第 49 図　3 号住居跡出土土器（2）……88
第 50 図　3 号住居跡出土土器（3）……89
第 51 図　3 号住居跡出土土器（4）……90
第 52 図　3 号住居跡出土土器（5）……91
第 53 図　4 号住居跡出土土器（1）……92
第 54 図　4 号住居跡出土土器（2）……93
第 55 図　4 号住居跡出土土器（3）……94
第 56 図　4 号住居跡出土土器（4）……95
第 57 図　4 号住居跡出土土器（5）……96
第 58 図　4 号住居跡出土土器（6）……97
第 59 図　4 号住居跡出土土器（7）……98
第 60 図　4 号住居跡出土土器（8）……99
第 61 図　4 号住居跡出土土器（9）……100
第 62 図　4 号住居跡出土土器(10)……101
第 63 図　4 号住居跡出土土器(11)……102
第 64 図　4 号住居跡出土土器(12)……103
第 65 図　4 号住居跡出土土器(13)……104
第 66 図　4 号住居跡出土土器(14)……105
第 67 図　4 号住居跡出土土器(15)……106
第 68 図　4 号住居跡出土土器(16)……107
第 69 図　4 号住居跡出土土器(17)……108
第 70 図　4 号住居跡出土土器(18)……109
第 71 図　4 号住居跡出土土器(19)……110
第 72 図　5 号住居跡出土土器（1）……111
第 73 図　5 号住居跡出土土器（2）……112
第 74 図　6 号住居跡出土土器……113
第 75 図　7 号住居跡出土土器（1）……114
第 76 図　7 号住居跡出土土器（2）……115
第 77 図　8 号住居跡出土土器（1）……116
第 78 図　8 号住居跡出土土器（2）……117
第 79 図　9 号住居跡出土土器（1）……118
第 80 図　9 号住居跡出土土器（2）……119
第 81 図　10号住居跡出土土器（1）……120
第 82 図　10号住居跡出土土器（2）……121
第 83 図　10号住居跡出土土器（3）……122
第 84 図　10号住居跡出土土器（4）……123
第 85 図　10号住居跡出土土器（5）……124
第 86 図　10号住居跡出土土器（6）……125

第87図　11号住居跡出土土器(1)……126
第88図　11号住居跡出土土器(2)……127
第89図　2、4、5、8号土坑出土土器……128
第90図　10、11、17、18号土坑出土土器……129
第91図　19、29、30号土坑出土土器……130
第92図　30号土坑出土土器……131
第93図　31～34号土坑出土土器……132
第94図　35号土坑出土土器……133
第95図　36、37号土坑出土土器……134
第96図　38号土坑出土土器……135
第97図　39号土坑出土土器(1)……136
第98図　39号土坑出土土器(2)……137
第99図　39－(3)、41・42号土坑出土土器……138
第100図　42、43、50～53、55、56号土坑出土土器……139
第101図　57、58、60、64～66号土坑出土土器……140
第102図　67号土坑出土土器(1)……141
第103図　67－(2)、68－(1)号土坑出土土器……142
第104図　68号土坑出土土器(2)……143
第105図　71号土坑出土土器……144
第106図　72～74号土坑出土土器……145
第107図　75、80、81号土坑出土土器……146
第108図　82～84、91号土坑出土土器……147
第109図　92、94、99－(1)号土坑出土土器……148
第110図　99号土坑出土土器(2)……149
第111図　100、105、108号土坑出土土器……150
第112図　107号土坑出土土器(1)……151
第113図　107号土坑出土土器(2)……152
第114図　109、111、112号土坑出土土器……153
第115図　113、116、118、121号土坑出土土器……154
第116図　122、123A・B号土坑出土土器……155
第117図　124、130・131、134号土坑出土土器……156
第118図　132、137号土坑出土土器……157
第119図　138号土坑出土土器……158
第120図　139、141～144号土坑出土土器……159
第121図　140号土坑出土土器……160
第122図　147号土坑出土土器……161
第123図　145A、148号土坑出土土器……162
第124図　149、151、152号土坑、ピット出土土器……163
第125図　遺構外出土土器(1)……164
第126図　遺構外出土土器(2)……165
第127図　遺構外出土土器(3)……166
第128図　焼成粘土塊・土製品……219
第129図　1号住居跡出土石器……220
第130図　2号住居跡出土石器……221
第131図　3号住居跡出土石器……222
第132図　4号住居跡出土石器(1)……223
第133図　4号住居跡出土石器(2)……224
第134図　6・7号住居跡出土石器……225
第135図　8・9号住居跡出土石器……226
第136図　10・11・12号住居跡出土石器……227
第137図　土坑出土石器(1)……228
第138図　土坑出土石器(2)……229
第139図　土坑出土石器(3)……230
第140図　遺構外出土石器……231
第141図　炭窯跡……235
第142図　道路跡……236

＜初室古墳＞
第143図　初室古墳全体図……239
第144図　石室検出状況及び裏込……241
第145図　羨道部閉塞状態……242
第146図　石室展開図……244
第147図　遺物出土状態……243
第148図　出土遺物(1)……246
第149図　出土遺物(2)……247

＜愛宕遺跡＞
第150図　愛宕遺跡全体図及び出土遺物……250
第151図　採石跡（1号石）……249

＜日向遺跡＞
第152図　日向遺跡全体図……251
第153図　溝跡……252

＜発掘調査の成果と課題＞
第154図　諸磯b式土器の文様要素……256
第155-1図　諸磯b式土器の文様(1)　波状縁……258
第155-2図　諸磯b式土器の文様(2)　平縁……259
第155-3図　諸磯b式土器の文様(3)　平縁……260
第156-1図　諸磯b式土器の口縁部形態(1)……262
第156-2図　諸磯b式土器の口縁部形態(2)……263
第157図　諸磯b式土器の口唇部加工……265
第158-1図　諸磯b式土器の浅鉢形土器(1)……266
第158-2図　諸磯b式土器の浅鉢形土器(2)……267
第159図　諸磯b式土器の底部……267
第160図　愛宕山遺跡出土資料(1)……271
第161図　愛宕山遺跡出土資料(2)……273
第162図　愛宕山遺跡出土資料(3)……275
第163図　愛宕山遺跡住居別文様要素出現頻度……277
第164図　愛宕山遺跡住居別文様要素分布……278
第165図　愛宕山遺跡住居別文様出現頻度……279
第166図　他遺跡出土資料(1)……283
第167図　他遺跡出土資料(2)……285
第168図　他遺跡出土資料(3)……287

第169図　他遺跡出土資料(４)……289
第170-１図　諸磯ｂ～ｃ式の諸属性の分布状況(１)……292
第170-２図　諸磯ｂ～ｃ式の諸属性の分布状況(２)……293
第171-１図　諸磯ｂ～ｃ式土器の変遷
－爪形文土器・櫛歯文土器……296
第171-２図　諸磯ｂ～ｃ式土器の変遷－浮線文土器……297
第171-３図　諸磯ｂ～ｃ式土器の変遷－沈線文土器(１)……298
第171-４図　諸磯ｂ～ｃ式土器の変遷－沈線文土器(２)……299
第172図　諸磯ｂ～ｃ式土器の変遷－浅鉢形土器……301
第173図　胎土分析試料……308
第174図　愛宕山遺跡と河川砂採取地点……309
第175図　土器・河川砂の三角ダイアグラム……312
第176図　赤城山麓の地質図……314

表　目　次

第１表　周辺の遺跡一覧表……６

＜愛宕山遺跡＞
第２表　縄文土坑一覧表……34
第３表　遺構別出土土器総数……79
第４表　縄文土器観察表……167
第５表　出土石器数量表……220
第６表　出土石器一覧表……232

＜初室古墳＞
第７表　出土遺物観察表……248

＜調査の成果と課題＞
第８表　遺構別第Ⅲ群土器の文様要素出土総数……269
第９表　爪形文の幅の分布数……277
第10表　沈線文の幅の分布数……277
第11表　浮線文の厚さ、加工の分布数……297
第12表　文様の分布数……279
第13表　口縁部各形態の分布数……280
第14表　口唇部加工の分布数……280
第15表　縄文・底部形態の分布数……280
第16表　浅鉢の分布数……280
第17表　諸磯ｂ式各段階の代表資料……281
第18表　諸磯ｂ～ｃ式細分名称の対比……293
第19表　愛宕山遺跡出土試料・
河川砂試料の岩石・鉱物……311

写真図版目次

巻頭写真

赤城山を背景に愛宕山遺跡を望む（西上空から）

愛宕山遺跡出土土器

愛宕山遺跡上空から初室古墳を望む

出土頭椎太刀柄頭及び刀装具

愛宕山遺跡

ＰＬ１　１．愛宕山遺跡全景（上空から－上が北）

ＰＬ２　１．愛宕山遺跡遠望（南西から）　２．愛宕山遺跡東上空より榛名山を望む

ＰＬ３　１．１・２号住居跡周辺（上空から－上が北）　２．３・４・８号住居跡周辺（上空から－上が北）

ＰＬ４　１．５・６・７号住居跡周辺（上空から－上が北）　２．10・11号住居跡周辺（上空から－上が北）

ＰＬ５　１．１号住居跡全景（北東から）　２．同遺物出土状態（北西から）　３．同近接（東から）　４．同埋甕（東から）
５．２号住居跡全景（北から）　６．同遺物出土状態（東から）　７．同埋甕　８．同２号柱穴セクション（南から）

ＰＬ６　１．３号住居跡全景（南東から）　２．同全景（北から）　３．同床面遺物出土状態（南西から）
４．同覆土上層遺物出土状態（西から）　５．同（南から）

ＰＬ７　１．４号住居跡覆土上層遺物出土状態全景（東から）　２．同覆土下層～床面遺物出土状態（北から）

ＰＬ８　１．４号住居跡掘上全景（北から）　２．同遺物出土状態（南から）　３．同同（北西から）　４．同同
５．５号住居跡全景（東から）　６．同遺物出土状態（北西から）　７．６号住居跡全景（南から）　２．同遺物出土状態

ＰＬ９　１．７号住居跡全景（東から）　２．同遺物出土状態（北東から）　３．８号住居跡全景　４．同遺物出土状態
５．同セクション　６．同埋甕　７．９号住居跡全景　８．同遺物出土状態

ＰＬ10　１．同セクション　２．同柱穴　３．10号住居跡全景　４．同遺物出土状態
５．同埋甕　６．同柱穴　７．11号住居跡全景　８．同遺物出土状態

ＰＬ11　１．１号土坑　２．３号土坑　３．２号土坑　４．同セクション
５．同遺物出土状態　６．４号土坑　７．５号土坑　８．７号土坑

ＰＬ12　１．８・９号土坑　２．同遺物出土状態　３．10号土坑　４．11号土坑
５．12・13号土坑　６．12号土坑セクション　７．14号土坑　８．16号土坑

ＰＬ13　１．17号土坑　２．18号土坑　３．19号土坑　４．20号土坑
５．21号土坑　６．22号土坑　７．23号土坑セクション　８．29号土坑

ＰＬ14　１．30・33・36・37号土坑　２．33号土坑　３．30・36号土坑　４．37号土坑
５．31号土坑　６．同上層遺物出土状態　７．34号土坑　８．35号土坑

ＰＬ15　１．39号土坑　２．38号土坑遺物出土状態　３．39号土坑遺物出土状態　４．41号土坑セクション
５．45号土坑

ＰＬ16　１．44号土坑　２．同セクション　３．46・47・48号土坑　４．50号土坑
５．51号土坑　６．52号土坑　７．53号土坑　８．54号土坑

ＰＬ17　１．55号土坑セクション　２．56号土坑セクション　３．57号土坑　４．同セクション
５．同遺物出土状態　６．58号土坑　２．59号土坑　３．60号土坑

ＰＬ18　１．61号土坑　２．63号土坑　３．66号土坑　４．72号土坑
５．67号土坑　６．同遺物出土状態　７．同遺物出土状態　８．同土玉出土状態

ＰＬ19　１．68号土坑　２．71号土坑

ＰＬ20　１．71号土坑覆土上層遺物出土状態　２．74号土坑　３．75号土坑　４．80号土坑
５．81号土坑　６．82号土坑　７．95号土坑　８．96号土坑

ＰＬ21　１．97号土坑　２．99号土坑底面遺物出土状態　３．99号土坑　４．100・101号土坑
５．104号土坑

ＰＬ22　1．105号土坑　2．106号土坑　3．107号土坑　4．107号土坑覆土上層遺物出土状態
5．108号土坑
ＰＬ23　1．109号土坑　2．111号土坑　3．112号土坑　4．113号土坑
5．117号土坑　6．118号土坑　7．121号土坑　8．同覆土上層遺物出土状態
ＰＬ24　1．10号住東土坑群　2．122・123号土坑　3．124号土坑　4．125号土坑　5．128号土坑
ＰＬ25　1．130・131・132号土坑　2．133・138号土坑　3．134号土坑　4．135号土坑　5．137号土坑
ＰＬ26　1．139号土坑　2．140号土坑　3．141号土坑　4．142号土坑
5．143号土坑　6．144号土坑　7．145・146号土坑　8．147号土坑
ＰＬ27　1．148～152号土坑　2．129号土坑　3．２号ピット　4．４号ピット
5．５号ピット　6．６号ピット　7．７号ピット　8．８号ピット
ＰＬ28　1．９号ピット　2．10・11号ピット　3．12号ピット　4．ピット群
5．炭窯跡　6．道路跡　7．撹乱坑
ＰＬ29　１号住居跡出土土器
ＰＬ30　２・５号住居跡出土土器
ＰＬ31　３号住居跡出土土器
ＰＬ32　４号住居跡出土土器(1)
ＰＬ33　４号住居跡出土土器(2)
ＰＬ34　４号住居跡出土土器(3)
ＰＬ35　４号住居跡出土土器(4)
ＰＬ36　４号住居跡出土土器(5)
ＰＬ37　６・７号住居跡出土土器
ＰＬ38　８・９号住居跡出土土器
ＰＬ39　10号住居跡出土土器(1)
ＰＬ40　10-(2)、11号住居跡出土土器
ＰＬ41　２・４・８・10・11・19・29・35号土坑出土土器
ＰＬ42　38・39号土坑出土土器
ＰＬ43　30・31・36・37・41・42・57・64号土坑出土土器
ＰＬ44　67・68号土坑出土土器
ＰＬ45　71・74・75・80・82号土坑出土土器
ＰＬ46　84・92・94・99・105・108号土坑出土土器
ＰＬ47　107・109・113・121・122号土坑出土土器
ＰＬ48　123・124・130・131・132・137・138号土坑出土土器
ＰＬ49　140・144・145・147・148・149号土坑出土土器
ＰＬ50　遺構外出土土器、獣面把手、焼成粘土塊など
ＰＬ51　出土石器(1)
ＰＬ52　出土石器(2)

初室古墳
ＰＬ53　1．初室古墳全景　2．石室全景
ＰＬ54　1．初室古墳調査前遠望　2．調査前－石室周辺　3．葺石崩落状況－墳丘西側　4．同北側
5．葺石残存状況－墳丘北側
ＰＬ55　1．葺石残存状況－墳丘西側　2．同－同　3．周堀　4．同セクション
5．石室閉塞　6．羨道部閉塞状況　7．閉塞及び玄門部　8．奥石
ＰＬ56　1．玄室床面　2．玄室石　3．玄室左壁　4．羨道部左壁
5．羨道部右壁　6．玄室右壁　7．頭椎大刀柄頭出土状態　8．縁金具出土状態
ＰＬ57　1．切羽出土状態　2．耳環出土状態　3．具出土状態　4．同
5．石室裏込状況　6．墳丘盛土セクション　7．石室裏込状況　8．作業風景

ＰＬ58　初室古墳出土遺物

愛宕遺跡

ＰＬ59　1．愛宕遺跡全景　2．1号石　3．同　4．2号石　5．3号石

日向遺跡

ＰＬ60　1．日向遺跡全景　2．溝跡　3．同　4．同　5．同

発掘調査報告書抄録

フリガナ	アタゴヤマイセキ　ショムロコフン　アタゴイセキ　ヒナタイセキ
書名	愛宕山遺跡、初室古墳、愛宕遺跡、日向遺跡
副書名	県営圃場整備事業富士見地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
編著者名	羽鳥　政彦　松田光太郎
編集機関	群馬県勢多郡富士見村教育委員会
編集機関所在地	〒371-01　群馬県勢多郡富士見村大字田島866-1　☎ 0272－88－6111
発行年月日	西暦1994年3月25日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積	調査原因
愛宕山遺跡	勢多郡富士見村 大字横室字愛宕山	10303		36°27′10″	139°3′56″	19900802 ～ 19901031	7,000	県営圃場整備事業
初室古墳	勢多郡富士見村 大字横室字初室	10303		36°27′3″	139°3′56″	19900715 ～ 19901028	1,000	県営圃場整備事業
愛宕遺跡	勢多郡富士見村 大字引田字愛宕	10303		36°27′10″	139°4′1″	19900915 ～ 19901028	960	県営圃場整備事業
日向遺跡	勢多郡富士見村 大字引田字日向	10303		36°27′9″	139°4′3″	19901015 ～ 19901028	160	県営圃場整備事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
愛宕山遺跡	集落	縄文 平安	住居跡　12軒 土坑　150基 炭窯跡　1基	前期土器、石器	諸磯b式期の良好な資料
初室古墳	墳墓	古墳	古墳　1基	頭椎大刀柄頭　耳環 刀装具　馬具　鉄鏃	両袖型横穴式石室
愛宕遺跡	その他	近世	採石跡	寛永通宝	
日向遺跡	城館	中世	溝跡・柱穴		

論考
縄文時代前期後半諸磯b～c式土器の考察
愛宕山遺跡出土の縄文時代前期後半土器の胎土分析

発掘調査と遺跡の概要

Ⅰ　発掘調査と遺跡の概要

1．発掘調査に至る経緯

富士見村では昭和58年から本村の南西部を中心に県営の圃場整備事業を行っている。平成2年度の事業は大字横室から大字引田にまたがる十二山周辺を予定しており、この中には周知の遺跡も含まれていた為、事業実施以前に発掘調査を行う必要があった。

事業実施に先立ち遺跡の範囲・密度等を把握するため、平成2年初めに平成元年度事業として圃場整備予定地区の、主に道路予定地を対象として試掘調査を行った。この結果大字横室字愛宕山で縄文時代の集落跡、大字引田字日向で館跡の一部と思われる溝跡を検出し、本調査を行うこととなった。初室古墳については工事予定地からの除外を協議したが、既に地権者により石室の大半が破壊されてしまったとのことであり、また、墳丘上に散乱する石材からもある程度石室の残存状況が推測できたので、予定どおり工事区域に含むことで合意した。大字引田字愛宕では前橋城築城の際に石材を切り出したという伝承があり、実際に「矢」痕の刻まれた大岩などが畑地に露出していることから、調査を実施することとした。また、岩は特定はできないものの「夜泣き石」の伝承があり、また、地元民からの保存要望があったため、これも現状での保存を協議したが、工事施工上現状での保存は不可能ということで、調査終了後、工事予定地外でなるべく原位置に近い十二山の中腹に、可能性のある大岩の一つを移設することで合意した。さらに、工事予定地区内には「富士見村誌」に記載される「引田の蔵骨器」が畑の一角に置かれており、地権者と現状保存を協議したが、耕作の邪魔になるということで、やむなく教育委員会で引き取ることになった。なお、蔵骨器の出土位置は不明で、踏査によっても位置が確定できなかったため、発掘調査は行なっていない。

以上のように上記4地区・遺跡で本調査を行うこととなったが、引田字愛宕（調査地北方の隣接地）では試掘調査の際に縄文時代後期の遺物が数点検出されたものの、遺跡の性格・範囲等が不明であったため、他遺跡の本調査開始後に改めて細かく試掘調査を行ったが、新たな遺構・遺物は検出されなかったため本調査には至らなかった。

2．発掘調査の経過

本調査は県営圃場整備事業嶺地区に伴う発掘調査（小暮地区遺跡群－広面遺跡）の終了後に開始する予定であった。しかし、広面遺跡の調査終盤に梅雨時期となり、また、田植えの為の揚水により遺跡地内から湧水するという不測の事態が重なり、調査は伸び伸びになっていた。そのため、一部の作業員を割いて、もっとも手間がかかると予想される初室古墳の調査を先行して開始した。7月中旬にまず墳丘上の桑、篠等の上物除去作業から開始した。さらに撹乱された石室の石材除去、重機による表土除去作業と続き本格的に作業員を導入しての墳丘・周堀調査、石室調査は8月からである。この間8月初旬には愛宕山遺跡の調査も始まり、並行して調査を行った。愛宕山遺跡の調査は、試掘調査で遺構・遺物の検出された区域を中心に拡幅して行ったが、遺跡範囲が確定できていなかったため、本調査開始後に随時新たに試掘を行い、調査範囲を確定していった。石室調査終了後に一旦初室古墳の調査を中断し、愛宕山遺跡の調査に全力を投入した。9月初旬には一部の作業員を割いて、愛宕遺跡の調査を行った。また10月初旬には日向遺跡の調査を行った。さらに、10月には初室古墳の墳丘断割調査も行った。この間他遺跡の調査と並行しつつも愛宕山遺跡の調査を

継続し、10月中でほぼ調査は終了した。若干の補足調査と遺物洗浄作業、残務整理等行い11月中旬には現場事務所を撤収し、現地調査は全て終了した。

3．遺跡の位置と周辺の遺跡

〈位置〉

富士見村は群馬県の県庁所在地である前橋市に北接し、上毛三山の一峰赤城山の南西に位置する。村域は赤城山頂までも含む狭長な村である。東方に大胡町・宮城村、西方に北橘村、赤城村等が隣接している。標高は南端の約150mから山頂の1,828mまでを測り、標高450m前後の傾斜変換点を境として、北東部の山岳地と南西の裾野部分に分けられる。さらに、裾野部は東方の扇状地形（白川扇状地）と西方の比較的開析谷の発達した丘陵状地形とに大まかに区分できる。北橘村から富士見村の南西端にかけてはいわゆる「流れ山」と呼称される独立丘が点在するが、この独立丘の一つである「十二山」の山域に４遺跡は位置している。富士見村役場のほぼ真西約500mの距離に位置する。

〈周辺の遺跡〉

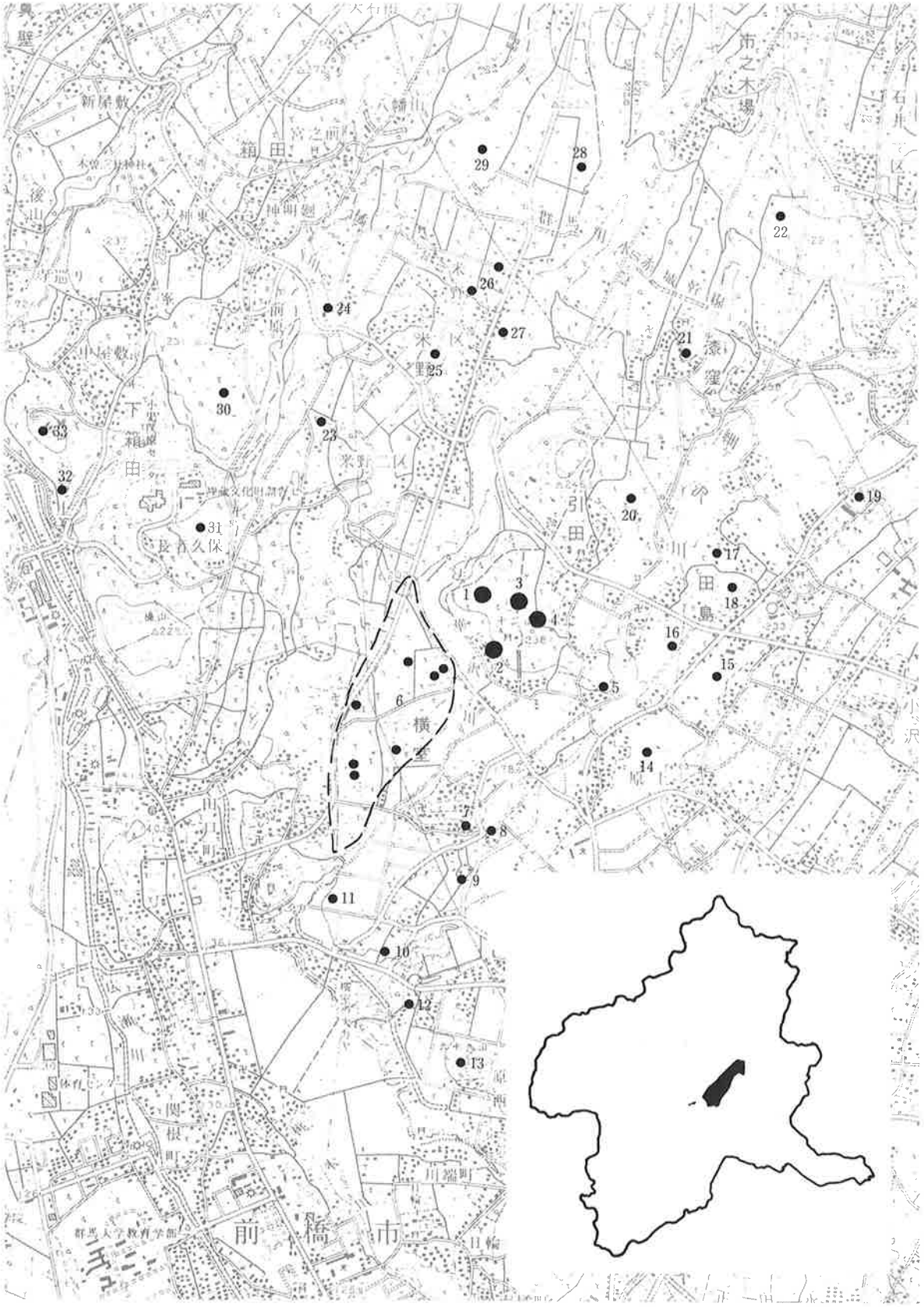
富士見村では詳細散布調査を行っていないため、全村的な分布傾向は不明であるが、南西部の大字横室、米野のほぼ全域及び大字引田、原之郷、田島の一部では富士見地区の県営圃場整備事業に伴い、すでに発掘調査を実施してきているので、ある程度の状況が把握できるようになった。周辺の遺跡の概要については一覧表を参照していただきたいが、記載していない遺跡も含め、時期的に関連する遺跡について若干の説明を行いたい。

十二山の山頂には竪穴式石室の古墳があったと伝えられ、赤城神社建設の際に耳環が出土したということであるが、現状では全く痕跡を留めていない。東麓には森山古墳と道上古墳があるが未調査である。本調査は行っていないが、道上古墳の南西方に近接して古墳時代後期集落が展開している。

法華沢川を挟んで南方には平成元年度に調査を行った陣場・庄司原遺跡群がある。縄文時代は陣場遺跡の中期（～後期）集落が主体であるが、陣場遺跡と上庄司原東遺跡、下庄司原西遺跡、下庄司原東遺跡で諸磯式期の住居跡も調査している。古墳時代は下庄司原東遺跡と上庄司原西遺跡で前期の方形周溝墓を計５基調査している。下庄司原東遺跡では後期の集落を調査している。古墳は各遺跡で合計７基調査しており、全て両袖型横穴式石室の円墳である。この中には角閃石安山岩（榛名山二ツ岳噴出）を用いた截石切組積み、削り石積み石室古墳各１基もあるが、他は基本的に（一部分に切り石を用いたものも２基ある）赤城山の地石である輝石安山岩の自然石を用いている。陣場・庄司原遺跡群全体ではこの他に平安時代の住居跡約150軒を調査している。

大字横室の田中遺跡では諸磯ｃ式期の住居跡1軒、田中田遺跡では諸磯ｂ式期の住居跡1軒と土坑を調査した。田中田遺跡は古墳時代前期～後期の集落を主とし60余軒を調査している。細ケ沢川を挟んで東方に位置する大字田島の由森遺跡、白川遺跡、大字原之郷の久保田遺跡は奈良・平安時代を主体とする集落遺跡であるが、白川遺跡では古墳時代中～後期の集落、久保田遺跡では縄文時代前期初頭の集落等も調査している。本跡の北方に位置する大字米野の向吹張遺跡では諸磯ｂ～ｃ式期の集落、米野田遺跡でｂ式期の集落を調査している。

中近世の城館跡関係では南方の横室寄居遺跡、東方の原之郷久保田遺跡、北方の米野向吹張遺跡、米野田



第１図　遺跡の位置及び周辺の遺跡

第１表　周辺の遺跡一覧表

番号	遺　跡　名	所　　在　　地	内　　容	備　　考	群馬県遺跡台帳No.
1	愛宕山遺跡	富士見村大字横室字愛宕山	縄文、平安　集落跡など	平成２年度調査、本報告書	2140
2	初室古墳	富士見村大字横室字初室	円墳　両袖型横穴式石室 頭椎太刀柄頭出土	〃　　〃 上毛古墳綜覧７号、群大調査円墳	2130
3	愛宕遺跡	〃　　引田字愛宕	近世採石跡	〃　　〃	
4	日向遺跡	〃　　〃　字日向	中近世館跡	〃　　〃	
5	道上古墳	富士見村大字横室字道上	山寄墳２基	昭和62年度試掘調査	2129
6	陣場・庄司原遺跡群	富士見村大字横室字陣場・上庄司原・下庄司原	縄文・古墳・平安　集落跡・墳墓	平成元年度調査 円墳７基、方形周溝墓５基 縄文・古墳・平安住居跡約200軒	2131 2133他
7	横室古墳	富士見村大字横室字中	円墳　自然石積横穴式石室開口	上毛古墳綜覧13号　　円墳	2127
8	田中遺跡	富士見村大字横室字田中	縄文前期住居跡２軒	昭和61年度調査、報告書既刊	2141
9	寄居遺跡	富士見村大字横室字寄居	近世溝跡	〃　　〃	
10	岩之下遺跡	富士見村大字横室字岩之下	古墳、奈良・平安住居跡25軒 掘立柱建物跡２棟	〃　　〃	
11	田中田遺跡	富士見村大字横室字田中田	縄文前期住居跡２軒、古墳前～後期住居跡66軒	昭和58年度調査、報告書既刊	
12	金山城跡	富士見村大字原之郷字岡	室町城館跡		2149
13	九十九山古墳	富士見村大字原之郷字九十九山	前方後円墳　袖無型横穴式石室	上毛古墳綜覧16号、群馬大学調査	2151
14	久保田遺跡	富士見村大字原之郷字久保田	縄文前期住居跡６軒、古墳～平安住居17軒、掘立柱建物跡１	昭和62年度調査、報告書既刊	
15	白川遺跡	富士見村大字田島字白川	縄文前期・後期住居各１、古墳～平安住居35、掘立柱建物跡10	〃　　〃	
16	由森遺跡	〃　　大字田島字由森	縄文前期住居２、平安住居22 掘立柱建物跡９	〃　　〃	
17	赤城遺跡	富士見村大字田島字赤城	近世溝（屋敷跡）	平成３年度調査、報告書既刊	2120
18	長泉寺遺跡	富士見村大字田島字長泉寺	縄文前期・中期住居各１、平安住居４	〃　　〃	
19	新井遺跡	富士見村大字田島字新井	縄文中期住居１、奈良・平安住居３、溝跡（館跡）	平成４年度調査	2121
20	（宿原）	富士見村大字引田字宿原	縄文、古墳　包蔵地	広範囲に散布多量縄文前～後期 土師－新	2123
21	小原目	富士見村大字石井字下小原目他	縄文前期集落、平安時代集落、古墳	平成５・６年度調査	2196
22	漆窪城跡	富士見村大字漆窪字上城	戦国　城跡		2181
23	丸山城跡 （丸山）	富士見村大字米野字丸山	室町　　城館跡 包蔵地	散布やや多量、縄文後期？弥生	2153
24	向吹張遺跡	富士見村大字米野字向吹張・尺神	縄文前期住居３、中期住居５、奈良・平安住居18、溝跡（館跡）	昭和60・61年度調査 報告書既刊	2154
25	窪谷戸遺跡	富士見村大字米野字窪谷戸	縄文前期住居１、奈良・平安住居	昭和59年度調査、報告書既刊	2156
26	見眼遺跡	富士見村大字米野字見眼	縄文中期住居２、土坑群、奈良・平安住居20、掘立柱建物５	〃　　〃	2155
27	米野田遺跡	富士見村大字米野字米野田	縄文住居５、奈良・平安住居10、中近世溝、柵列、土坑墓（館跡）	昭和63年度調査、報告書既刊	
28	東上原遺跡	富士見村大字米野字東上原	奈良・平安住居11	〃　　〃	2157
29	西上原遺跡	富士見村大字米野字西上原	縄文中期遺物包含層、平安住居１溝	〃　　〃	

番号	遺跡名	所在地	時代 種別	備考	群馬県遺跡台帳No.
30	芝山遺跡	北橘村大字箱田字芝山他	縄文前～中期住居17、奈良・平安住居21、掘立柱建物跡18	平成２・３年度北橘村教委調査	
31	瓜山遺跡	北橘村大字箱田字瓜山	縄文中期住居２、遺物包含層	昭和62年北橘村教委調査	
32	城山遺跡	北橘村大字箱田字城山	縄文早期集落	昭和62年北橘村教委調査	
33	箱田城跡	北橘村大字箱田字城山	戦国　城跡		

図註：陣場・庄司原遺跡群の範囲は破線で表記した。遺跡群中のドットは古墳の位置を示す。
表註：群馬県遺跡台帳Ⅰ（東毛編）及び富士見村誌を参考に作成した。
既調査地については調査成果に基ずく。
包蔵地の遺跡名は便宜的に小字名をあてた。

遺跡などで館跡の一部と思われる溝を調査している。米野窪谷戸遺跡と東方の田島新井遺跡では溝と竪穴状遺構を調査している。城跡は東北方の大字漆窪の漆窪城跡、北西方の米野丸山城跡、東南方の田島森山城跡、南西方の原之郷金山城跡がある。

尚、若干距離は離れるが、本村内の諸磯式期の遺跡としては、他に大字小暮の広面遺跡(平成２年度調査)と大字時沢の上百駄山遺跡（平成５年度調査）でｂ～ｃ式期の集落を調査している。また、大字石井の坂上遺跡（平成３年度調査）と大字小暮の孫田遺跡（平成５年度調査）でｃ式期の土坑群を調査している。

4．遺跡の立地

本報告の４遺跡はいずれも独立丘（流れ山）である十二山の山域に占地している。十二山の南端にはもっとも標高（239.2m）の高い、赤城神社の乗る円錐形の主丘がある。初室古墳はこの主丘の西麓に位置する。山裾の平坦地から10mほど上った西向きの緩斜面である。標高は190m前後を測る。主丘から一段下がって北側に馬の背状の丘陵が続く。愛宕遺跡はこの丘陵上に位置している。標高は約232mを測る。この丘陵の中腹からさらに舌状の台地が西側に張り出すが、この台地の基部に愛宕山遺跡が位置する。標高は210m前後を測る。十二山の東側は西側に比べると緩傾斜になっているが、この中腹に日向遺跡が位置する。標高は約220mを測る。

大字米野から南流してきた法華沢川は愛宕山遺跡の乗る舌状台地にぶつかり、台地に添って西方に迂回する。さらに、陣場・庄司原遺跡群の乗る台地の東に沿って南西下している。現況で愛宕山遺跡と法華沢川の直線距離は最も近い所で約100m、比高差は約25mである。十二山の東方には細ケ沢川がやはり南西方向に流下している。十二山全体を西方から見ると、まるで巨大な前方後円墳のようであり、非常に優美な形状をしていた。

5．発掘調査の方法

〈愛宕山遺跡〉

表土除去は重機を用いて行った。作業員による遺構検出作業ののち、住居跡は基本的に土層観察のためのベルトを十字に残し、床面・壁面精査を行った。土坑は検出した平面のほぼ中央で半裁し、土層観察後全掘した。住居跡の土層断面図は１／20、土坑の土層断面図は１／20もしくは１／10で実測した。住居跡の遺物平面は１／20で平板実測、土坑の遺物出土状態は１／10で任意に基準線を設定して実測を行った。各遺構平

第２図　立地図

面図は写真実測を行い、住居跡・土坑・炭窯跡は1／20で、道路跡・溝跡は1／40で、遺跡全体図は1／100で図面を作成した。

〈初室古墳〉

上物（桑、篠）除去は人力で行った。表土除去及び、周堀の覆土除去は遺構を痛めない程度に重機を用いて行った。また、石室に崩落していた石材の除去にも重機を用いている。周堀の調査、墳丘の調査では任意に土層観察の為のベルトを残し精査を行った。土層断面図の縮尺は基本的に1／20で実測している。石室は1／10で展開実測を行った。全体図、石室平面図、裏込めの状態等は写真実測を行い、石室、裏込めは1／10、全体図は1／100で図面を作成した。写真撮影、実測後墳丘の断割調査を行った。

〈愛宕遺跡〉

重機による表土除去後、遺構検出作業を行い、精査を行った。平面図は写真実測で行い、個別平面を1／40、全体図を1／100で作成した。

〈日向遺跡〉

重機による表土除去後精査を行った。時間的な制約から基本的に柱穴の土層観察は行っていない。溝の土層断面図は1／20、遺構平面図は写真実測で行い、溝・柱穴1／40、全体図1／100で図面を作成した。

6．基準土層

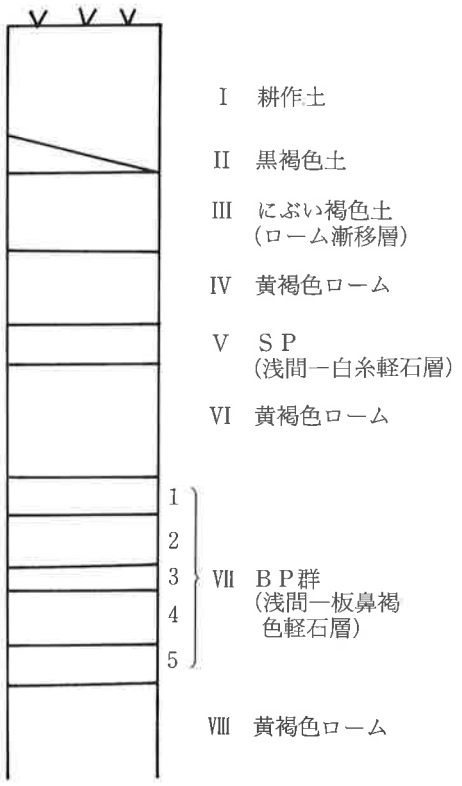
富士見村の台地における土層堆積は基本的には同様の堆積状況を示す。十二山の山域に位置する本報告書の4遺跡においても同様であるが、基盤層の相違や現在までの土地の利用法の差異によって多少の違いが生じている。

愛宕山遺跡に堆積する土層は基本的に図示したとおりであるが、畑地の利用の程度によって表土直下に黄褐色ロームが現れるところもあれば、黒色土～にぶい褐色土が残る部分もある。愛宕山遺跡の南東部では黒褐色土～にぶい褐色土（ローム漸移層）の堆積が比較的厚い。

初室古墳も基本的に愛宕山遺跡と同様であり、墳丘外は黄褐色ローム面が検出面である。ただし、古墳築造以後に自然・人為的な影響を受けていない墳丘下には、上からＦＡ火山灰層、Ｃ軽石を含む黒色土層、黒色土層が残存する。これらは基準土層のII層より上位に元来堆積していたものである。

愛宕遺跡は耕作による削平が進み遺構検出面は黄褐色ロームである。本跡は独立丘（流れ山）主丘の北接地であり、地表面に赤城山の岩塊が露出する。

日向遺跡は調査区域の東側では表土層直下に薄く黒色土層



第3図　基本土層図

が残存する。

7．遺跡の概要

愛宕山遺跡

諸磯ｂ式期を主体とする縄文時代前期（有尾式並行期～諸磯ｃ式期）の集落を調査した。竪穴住居跡は11（12）軒検出されている。土坑は約150基調査した。このほか、倒木痕４基を調査した。

縄文時代以外の遺構は炭窯跡１基、溝跡１条、道路状遺構が１条検出されただけであり、遺物も出土していない。

初室古墳

山寄せ式の横穴式石室古墳を１基調査した。金銅製の頭椎大刀柄頭が出土した。

愛宕遺跡

江戸時代の採石跡を調査した。

日向遺跡

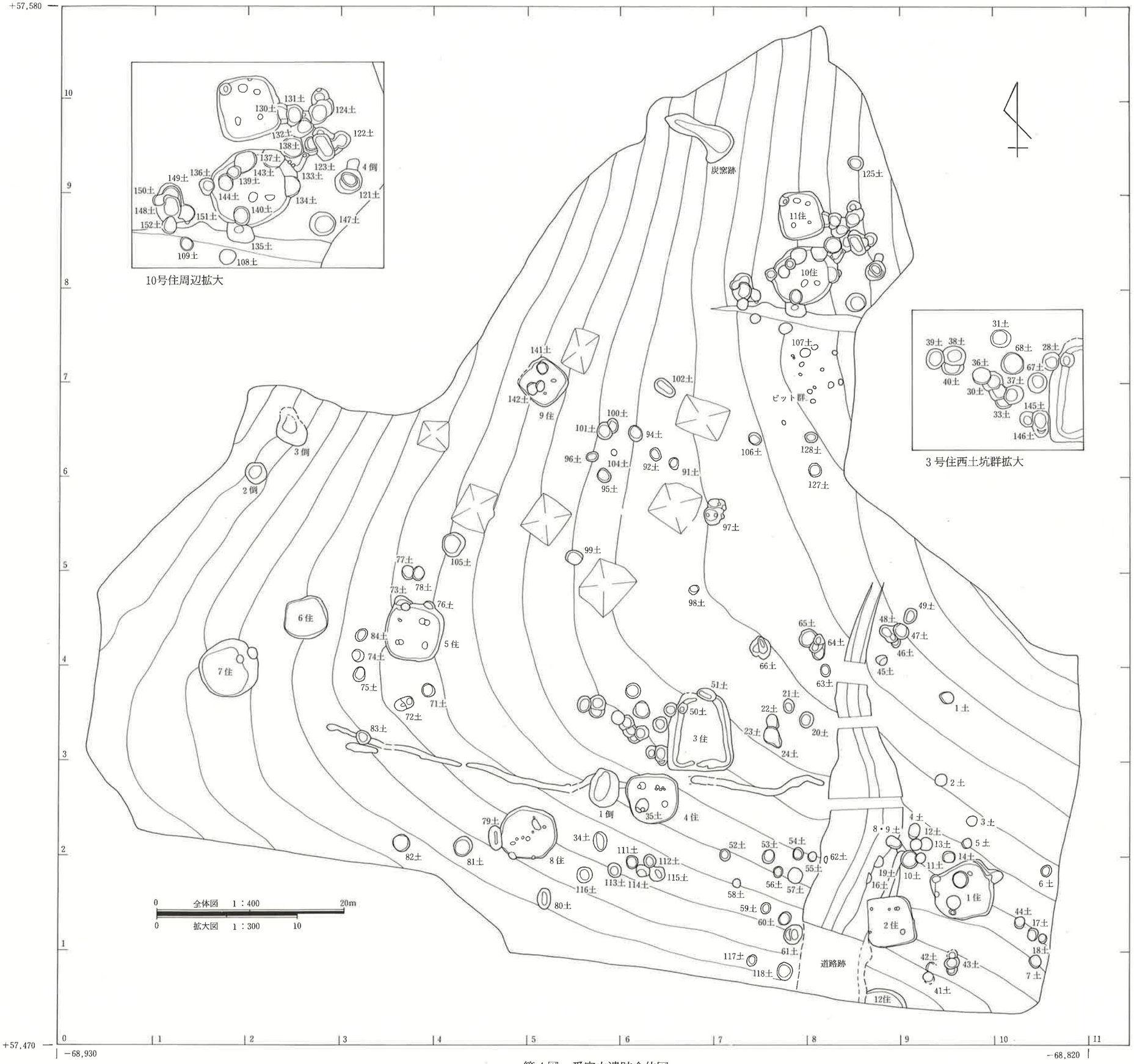
館跡に伴うと思われる溝跡と付随する柱穴群を調査した。

愛宕山遺跡

+57,580

10号住周辺拡大

3 号住西土坑群拡大



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11

+57,470

−68,930

−68,820

第 4 図　愛宕山遺跡全体図

II　愛宕山遺跡

1．概　　要

愛宕山遺跡から検出された遺構と遺物の大半は縄文時代前期後半に帰属する。竪穴住居跡は11（12）軒検出されている。全体的には台地の縁辺に沿うように馬蹄形に散在するが、部分的にみると平面的には3軒を中心とした1～3軒でグループを形成しているような占地状況を示している。時期的に細別すると有尾式並行期1軒、諸磯b式期9軒、諸磯c式期1軒、（時期不明1軒）である。

土坑は約150基検出されている。土坑もほぼ馬蹄形に占地するが、竪穴住居跡の周辺に密度が濃く群在する。調査区の西側から北西の急傾斜面には検出されず、馬蹄形内部にも散在するだけである。土器・石器等の遺物を出土した土坑は半数以上を数える。時期の判明しているものは、竪穴住居跡の量に比例して有尾式並行期が数基ある他は全て諸磯b式期であり、c式期のものは検出されていない。小ピットも多数検出されているが、調査期間等の制約から調査できたのはわずかである。

縄文時代の遺物は表土除去作業、遺構検出作業の際に出土し、遺構への帰属が不明なものもあるが、大半は竪穴住居跡、土坑から出土したものである。試掘調査の際に少量の中期土器が出土したが、本調査では遺構は検出されず、新たな遺物も出土していない。

縄文時代以外の遺構は調査区北端に炭窯1基、南半部に溝1条、東端部に道路跡が1条検出されただけである。炭窯跡は軽石の堆積状況から平安時代に属すると思われるが、いずれも遺構に伴うと思われる遺物は出土していないため、明確な時期は不明である。

調査区の北西部に集中して、最近掘削された大きな撹乱坑（桑根を埋めた）が7基あるが、これによる遺跡・遺構への影響はごく少ないものと思われる。

2．縄文時代の遺構

(1)　竪穴住居跡

1号住居跡（第5図、第41～45図）

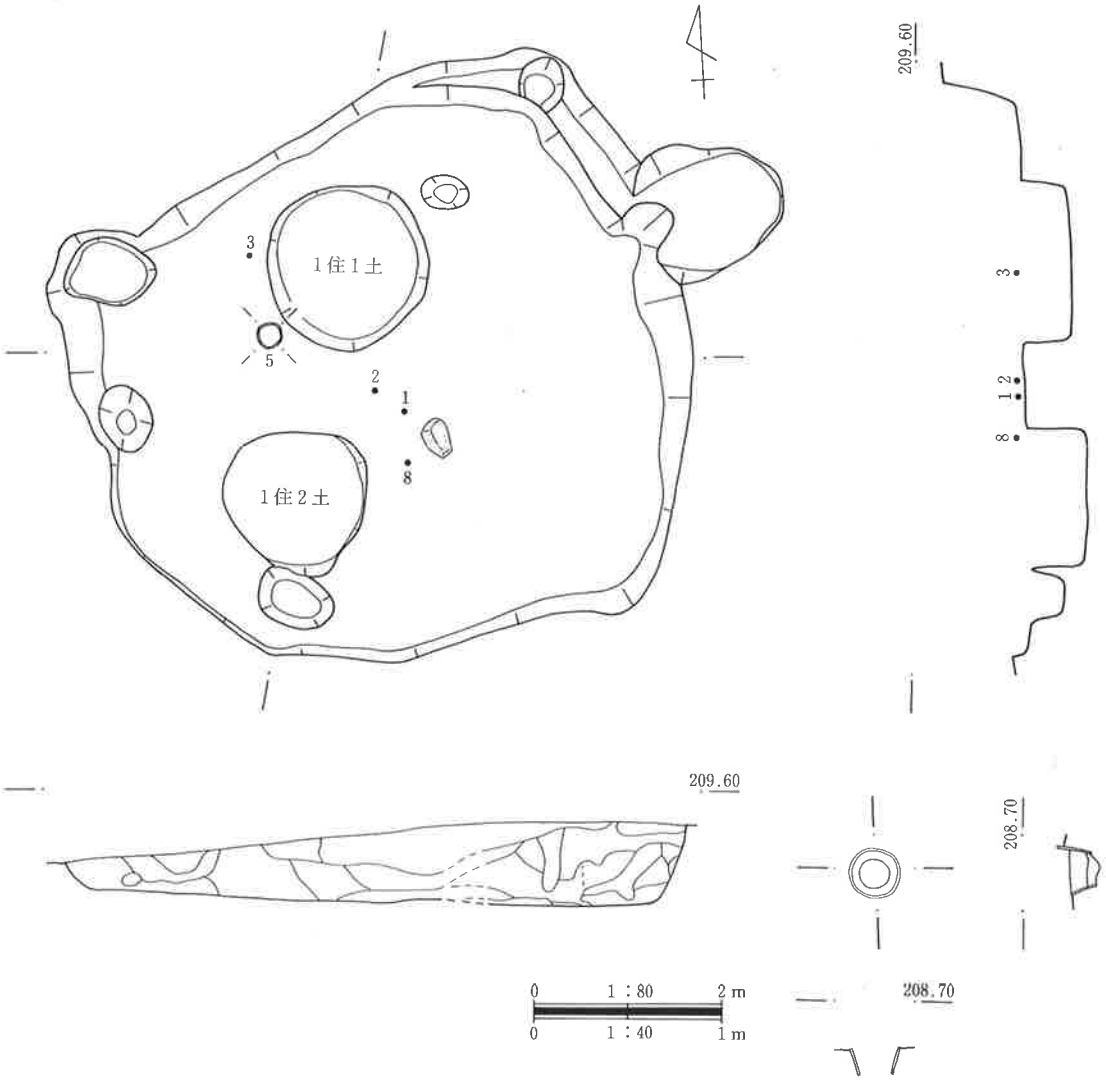
1－10グリッドに位置し、2号住居跡が西側約3mに近接する。南～西側には住居の覆土に類似した黒褐色土が堆積しているため、壁面は明瞭に捕らえられていない。北東隅に狭いテラス状の部分があり、住居等の他の遺構が重複していた可能性もある。床面には2基の土坑が検出されているが、新旧関係は不明である。また、東壁、北東隅、北西隅、西壁に土坑・ピットが重複するが、いずれも新旧関係は捉えられていない。さらに、西端と南端の覆土中にも土坑が重複していることが、土層断面の観察の結果判明している。

東西、南北とも約6m強の規模を測るが、南～西の壁面が明瞭に検出できなかったため、歪んだ隅丸方形状を呈する。残存壁高は東壁が95cmを測り、南西方向にいくにしたがい暫減する。壁面はいずれも若干角度をもって立ち上がる。床面はあまり踏み固められていない。柱穴は、北東と南西に2本検出されている。北東が長径50cm、短径30cm、深さ55cm、南西が長径88cm、短径50cm、深さ40cmを測る。北西に寄った床面に埋甕が埋設されている。内部には焼土粒、焼土ブロックが認められ炉跡と思われる。

遺物は埋甕（第42図－5）の他には、底部を欠失した深鉢（同図－3、過半部は盗難にあった）が埋甕の北側の床面から若干浮いた状態で、また、中央部にも深鉢（第41図－1、2、第42図－8）が床面から若干

浮いて出土している。出土土器の時期は諸磯ｃ式期が主体であるが、諸磯ｂ式期のものも比較的多く混在する。石器は石鏃、石匙、石錐、打製石斧、磨石、凹石、多孔石などが出土している。

住居跡の時期は埋甕や床面直上土器から諸磯ｃ式期と思われる。



第５図　１号住居跡

２号住居跡（第６図、第46～47図）

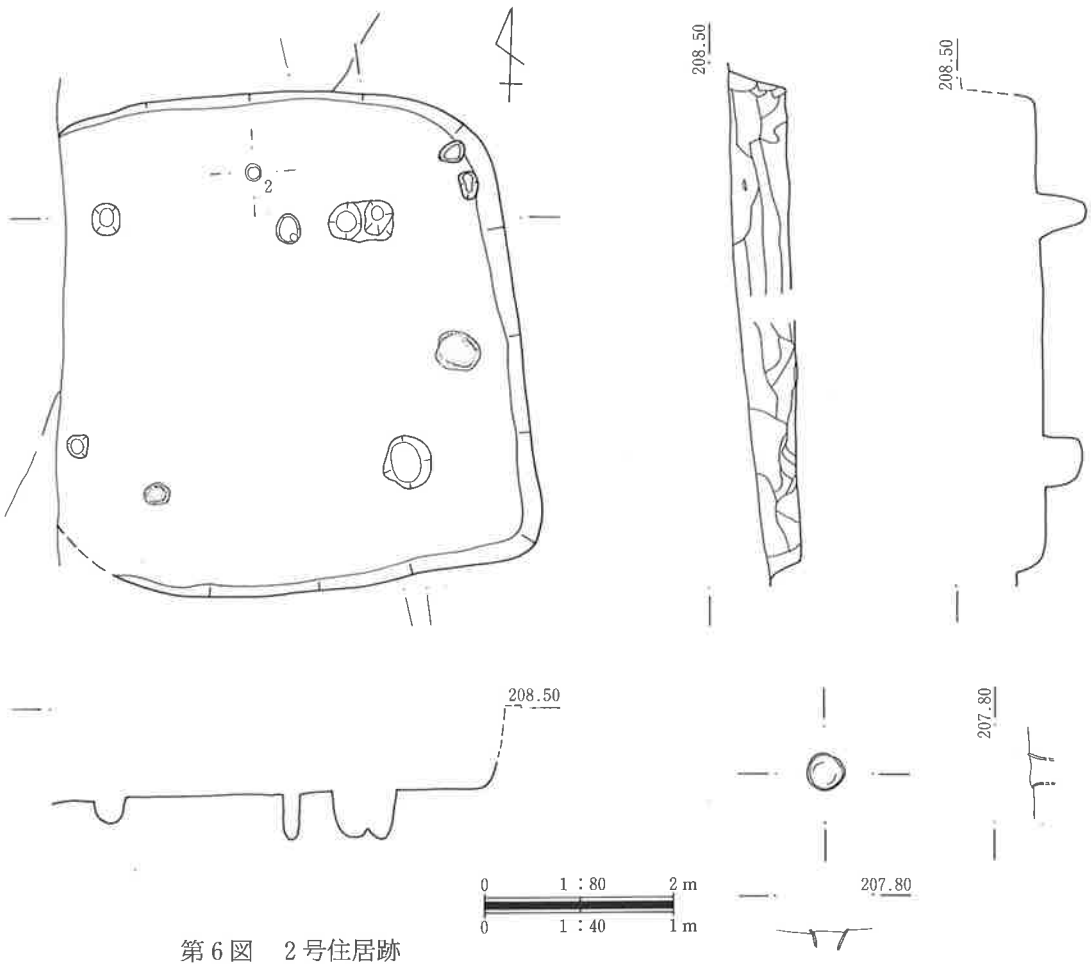
１－９グリッドを主体に位置する。道路跡によって西壁が壊されている。１号住居跡が東側３ｍに近接する。また、南側約4.5mに12号住居跡も近接する。

南北5.3m、東西は現状で5.1mを測る。西端は残存していないが平面形状は隅丸方形状を呈すると思われる。残存壁高は東壁で95cmを測る。壁の立ち上がりは比較的直である。覆土は上層から黒褐色主体層、にぶい黄褐色土ブロックを比較的多く含む褐色土、黒褐色土と褐色土の混土層、褐色土を含むにぶい黄褐色土の順で堆積する。壁際には褐色土、にぶい褐色土が主体的に堆積する。床面はほぼ全面が良好に踏み固められている。柱穴は６ケ所に８本検出されているが、ほぼ対角線上に位置する４ケ所、５基が主柱穴と思われる。北東の柱穴には重複がみられ、建て変えの可能性もある。柱穴の深さはＰ１－約40cm、Ｐ２－約50cm、Ｐ３－

45cm、Ｐ４－50cm、Ｐ５－20cm、Ｐ６－12cm、Ｐ７－40cm、Ｐ８－50cmである。東壁直下の床面に長径50cmの台石が置かれている。北壁から約70cm離れて埋甕（第46図－２）が埋設されていた。内部には焼土が認められ、埋甕の周囲も焼土化しており炉跡と思われる。また、床面の一部が焼土化しており、地床炉と思われるが、明瞭な掘り込みは確認できなかった。

遺物は埋甕以外には埋土中から少量出土しただけである。石器は台石の他に石匙、打製石斧、石皿、磨石等が出土している。

住居跡の時期は埋甕や覆土出土遺物から諸磯ｂ式期と思われる。



第６図　２号住居跡

３号住居跡（第７図、第48～52図）

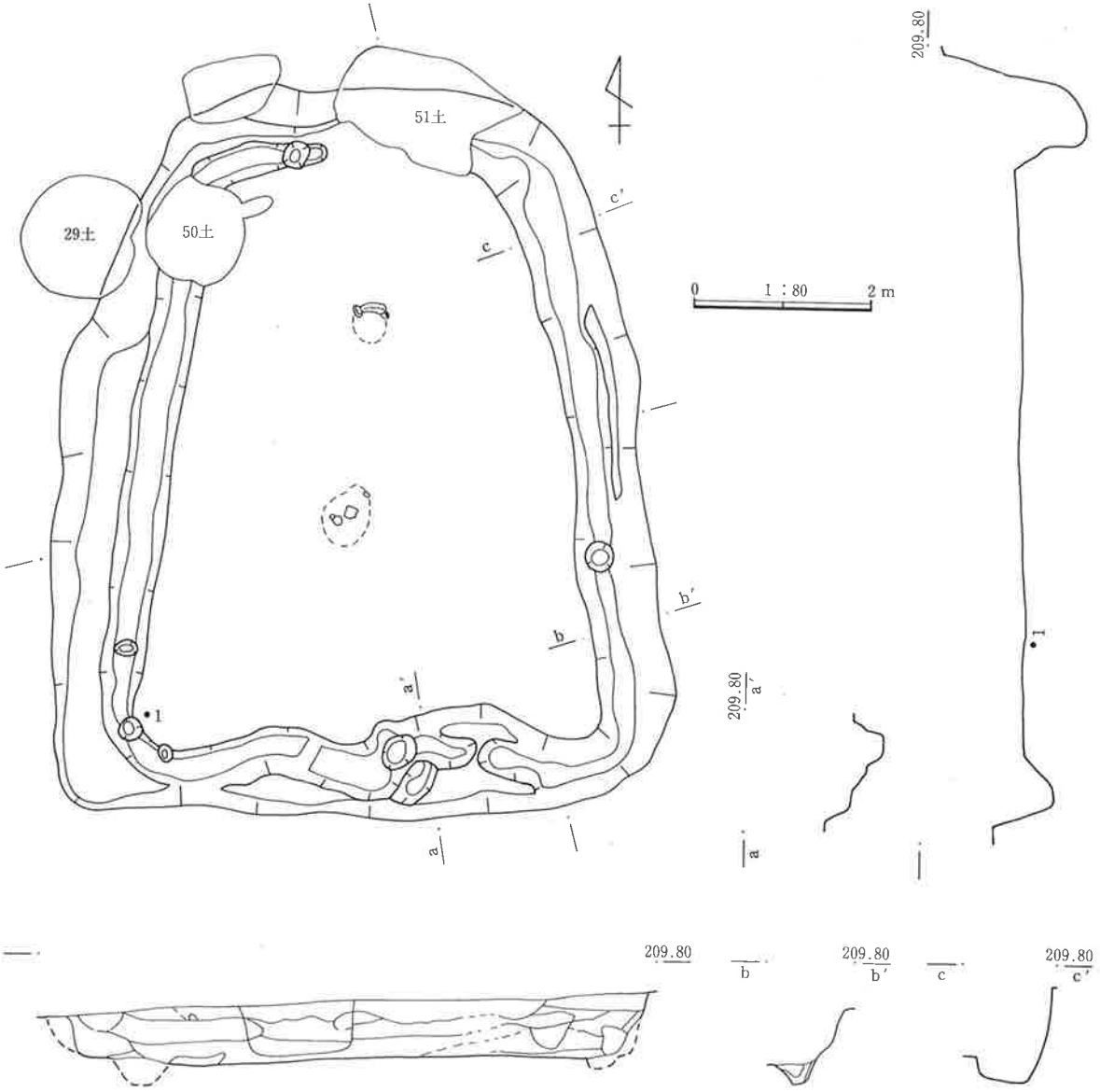
３－７グリッドを中心に位置する。南約１ｍに４号住居跡が近接する。29号・50号・51号土坑が重複する。51号土坑は覆土堆積状況から本跡よりも新しいと思われるが、29号・50号土坑との新旧関係は不明である。また、覆土中に土坑等の遺構が重複すると思われるが、重複する遺構の詳細は不明である。

北辺約4.5m、南辺約6.5m、南北約8.2mを測り、縦に長い隅丸台形状を呈する。深さは北壁で約80cmを測る。西壁の南半部は壁周溝よりも若干西側に張り出しており、拡幅住居若しくは他の住居跡等が重複する可能性も考えられるが、土層堆積状況からは明瞭には判断できなかった。覆土は上層の東半部にかたい黒色土ブロック主体層、西半部ににぶい褐色土層が堆積する。壁周溝は北壁の一部を除いてほぼ全周する。南側壁周溝は激しく屈曲する。周溝には部分的に小ピットが認められるが、浅く、規則的に配置されているわけで

はない。床面は軟弱で、中央部には薄く黒色土が堆積する。床面の中央部北寄りに、北端だけに礫を据えた炉が検出されている。明瞭な掘り込みは検出されていないが、床面は径約30cm程の範囲が焼土化していた。この炉から南に約２m離れた床面も径70～60cmの範囲が焼土化しており、炉跡と思われる。やはり掘り込みは認められなかったが、中央部から礫が数点出土している。主柱穴は検出されていない。

遺物は南西隅の床面に密着して深鉢（第48図－１）が出土し、石器・剥片が数点出土しているが、覆土下層から出土した遺物は少ない。覆土中～上層で南西寄りの部分からは多量の土器（第48・49図－３～14等）が出土している。土層断面から土坑の重複は確認されているが、遺物量や出土位置から判断するとさらに他の遺構の存在も推定される。中～上層ではこの土坑の周辺以外から出土した遺物は少量である。石器は磨石類が多く、他に打製石斧、磨製石斧等が出土している。

住居跡の時期は床面直上の出土遺物から有尾式並行期であるが、覆土中～上層出土遺物は諸磯ｂ式期が主体である。



第７図　３号住居跡

4号住居跡（第8～11図、第53～71図）

2－7グリッドに位置する。北東約1mに3号住居跡、西側約8mに8号住居跡が近接する。また、1号倒木痕が西側1mに近接する。35号土坑が南西柱穴部分に重複するが、新旧関係は不明である。西～南側は検出面から浅く、壁面を明瞭には把握できなかった部分がある。

東西5.4m、南北5.2mを測り、隅丸長方形を呈する。深さは北壁で約80cmを測る。壁面の立ち上がりは東側は直であるが、他は若干角度をもって立ち上がる。床面は中央部には踏み固められた部分も認められるものの、周縁は軟弱である。柱穴は4個所に検出されている。南西柱穴には35号土坑が重複する。P3を除き複数個認められており、建て替えを行ったものと思われる。柱穴の深さはP1が西側約60cm、東側55cm、P2が西から約25cm、55cm、55cm、55cm、15cm、P3が約30cm、P4が東西ともに約100cmを測る。床面には小範囲に焼土化している部分もあったが、明確な炉跡と判断できるものはなかった。

遺物は覆土中（～底面）から多量の土器・石器が出土している。出土の状況は典型的な廃棄の形態を示すと思われるが、おおむね間層を挟み上層と下層に分離可能で、2回（以上）の投棄時期が推定されるものの、上層出土土器と下層出土土器で接合関係にあるものもあり、明確に区分できるわけではない。出土土器の様相は復元個体で見るかぎり比較的近接した時期の投棄が推定され、基本的な組成に大きな相違はないものの、下層に比べて上層では沈線文系統の土器が少なくなり、浮線文系統の土器が増加するような傾向を示している。

石器も土器と同様に検出された住居跡の中で最も多量に出土している。器種は打製石斧、磨石、凹石が多く、石鏃、石匙、石錐、石皿等も出土している。このほか、装飾品が2点北壁際から出土している。製品以外では、鶏卵大以下の小礫（焼石）も他の遺物に混じって多量に出土している。また、焼成粘土塊が覆土中から数点出土した。

住居跡の使用もしくは廃棄された時期を示す明瞭な遺物はないが、住居廃絶後程無く遺物投棄が行われたと思われることから、本跡も諸磯b式期に属すると思われる。

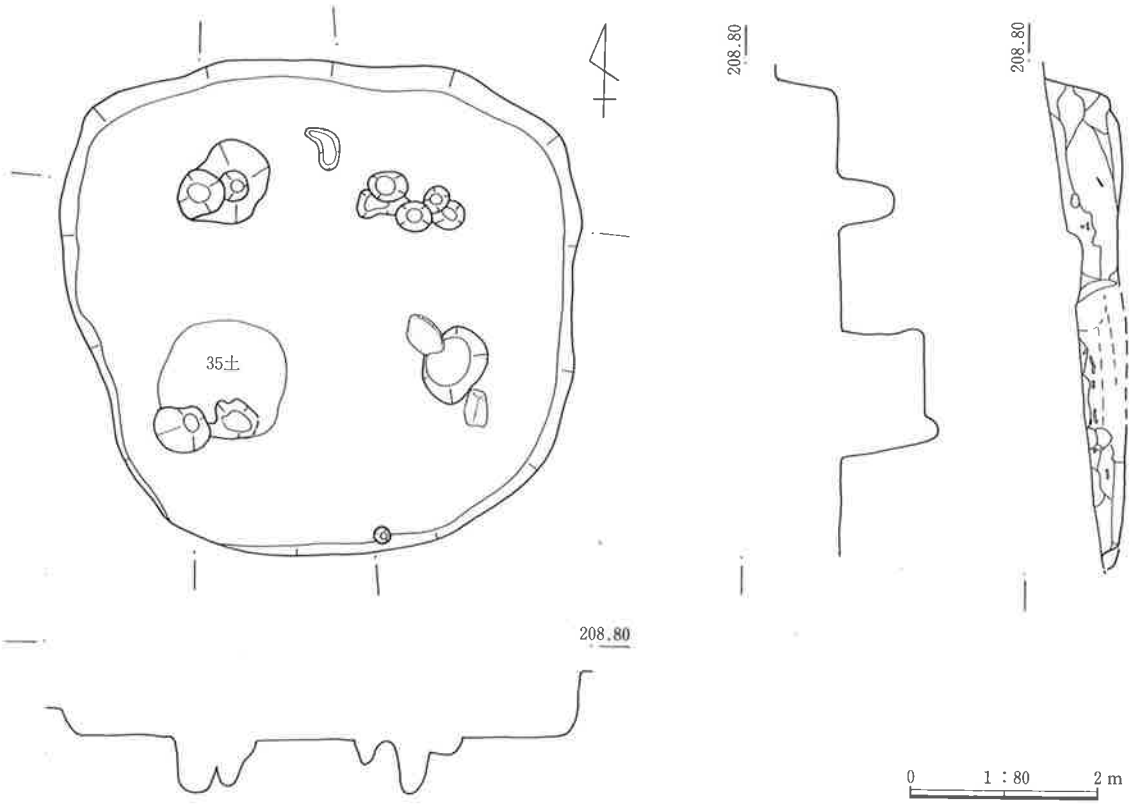
5号住居跡（第12図、第72～73図）

4－4グリッドに位置する。西方約6mに6号住居跡が近接する。北壁際に73号土坑、北壁に76号土坑が重複するが新旧関係は不明である。

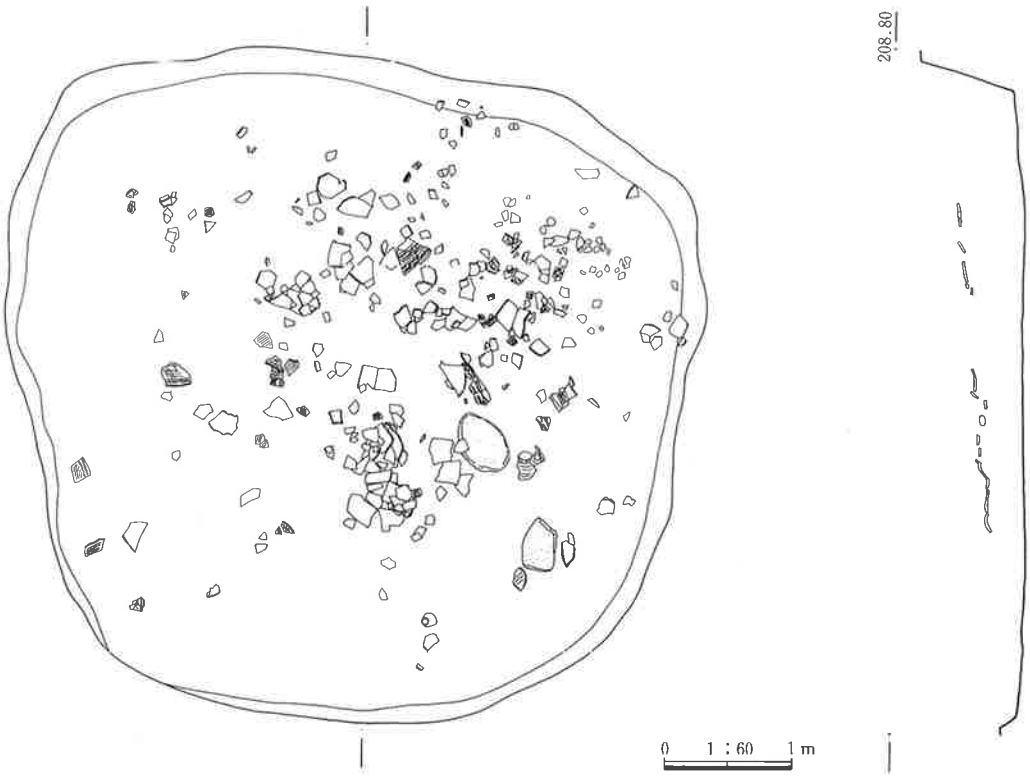
東西、南北とも約6mを測り、隅丸方形状を呈する。壁高は北東隅で約90cmを測る。覆土は中央部が褐色土・黄褐色土中心に堆積し、壁寄りの周縁には締まって堅い暗褐色土が堆積するため、人為的に埋没された可能性も考えられる。覆土中にも土坑の重複が認められる。壁面はいずれも角度をもって立ち上がる。北壁と南壁の東半部に浅い周溝が掘削されている。北壁周溝の内外には小ピットが認められる。床面はあまり踏み固められていない。主柱穴は対角線上の4ケ所に検出されているが、建て替えが認められる。主柱穴の深さはP1西側が30cm、東側25cm、P2西側50cm、東側40cm、P3北側50cm、南側60cm、P4東側がどちらも15cm、西側が35cmである。炉跡、埋甕等他の施設は明瞭には検出されていない。

遺物は覆土中、床面上ともに少量出土しただけである。第72図4は西壁寄り床上20cmから出土している。石器は石錐、打製石斧、磨石、砥石等が出土したが、いずれも残存状態が悪く資料提示していない。

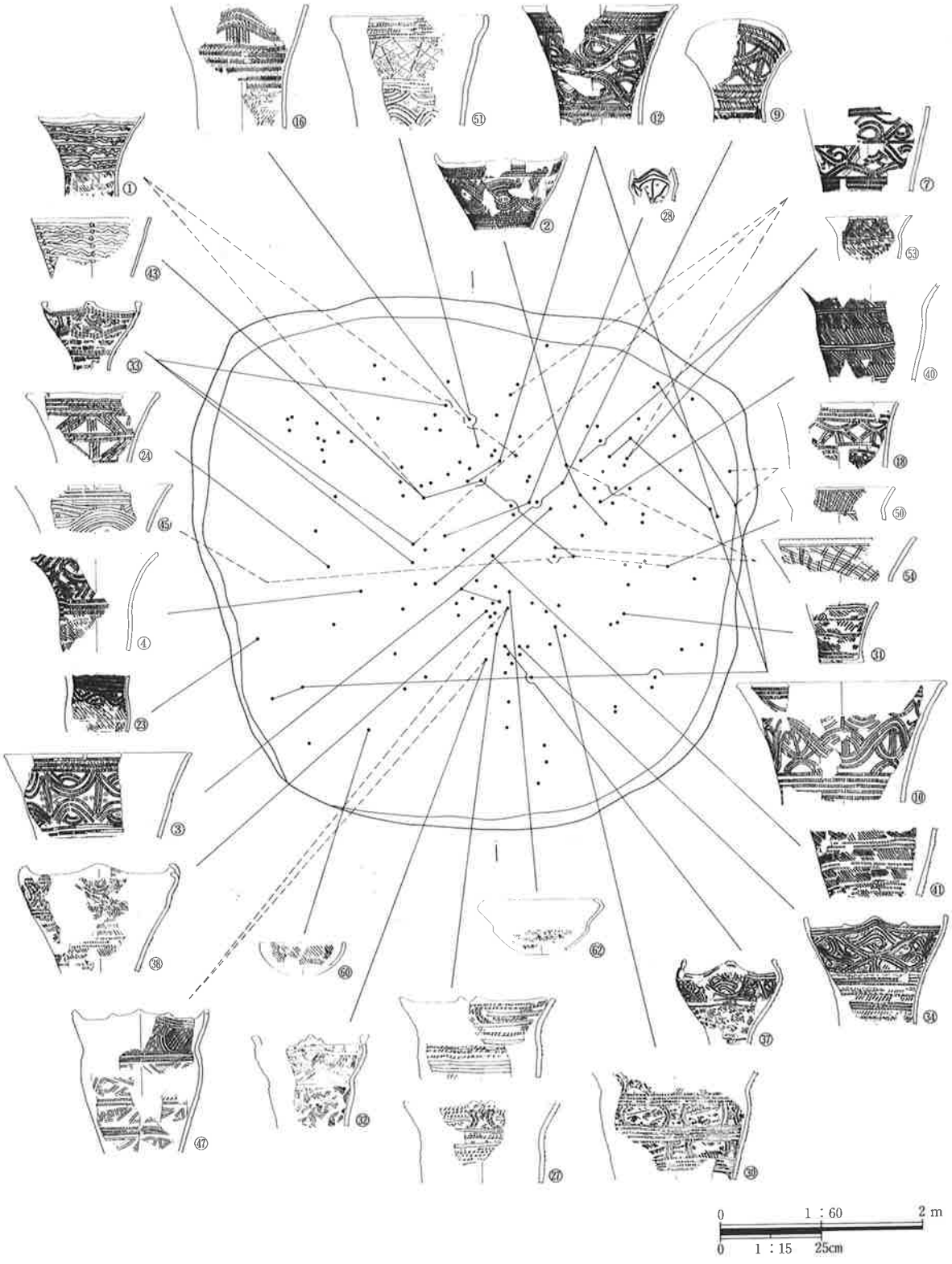
住居跡の時期は出土遺物から諸磯b式期と思われる。



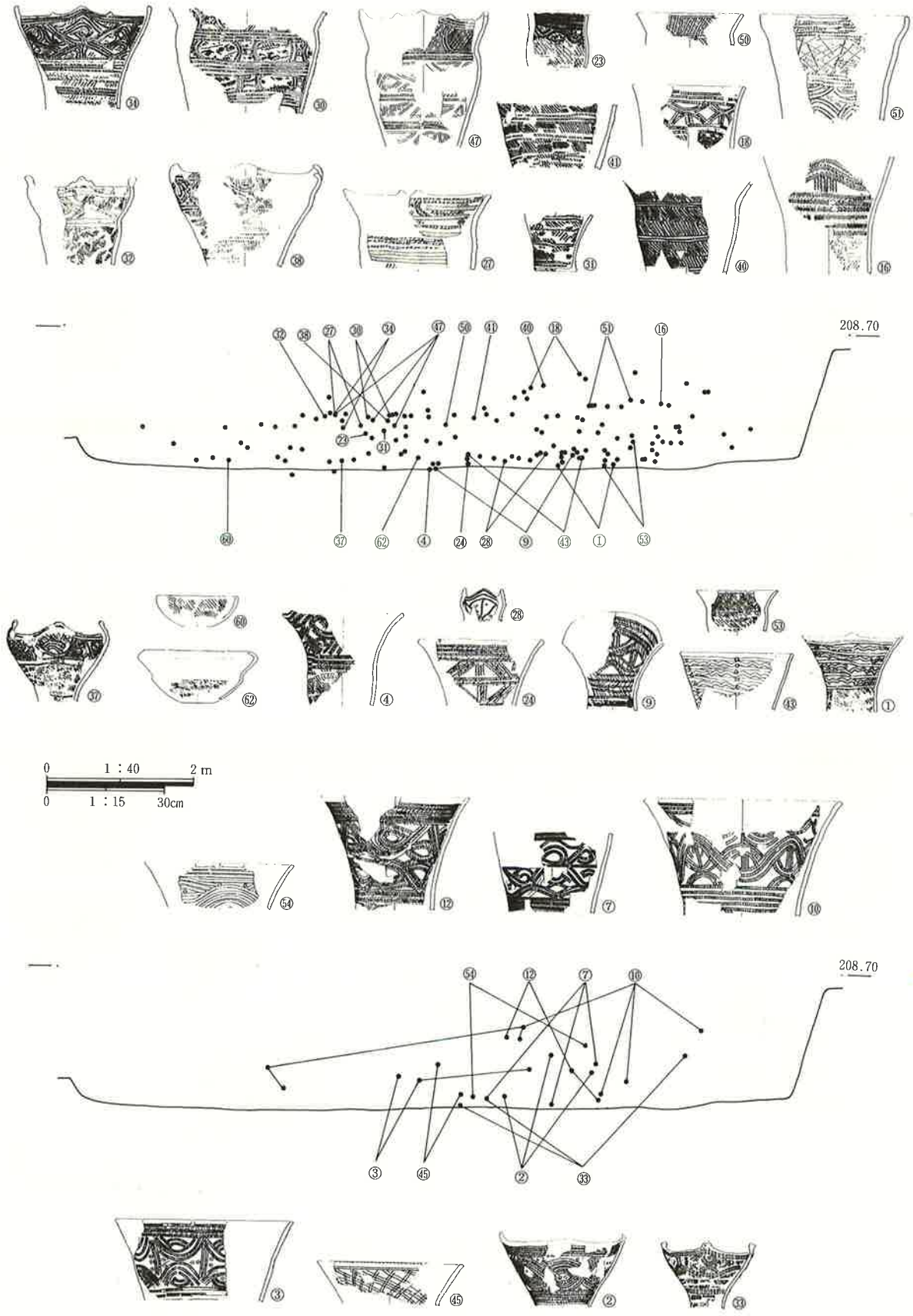
第 8 図　4 号住居跡



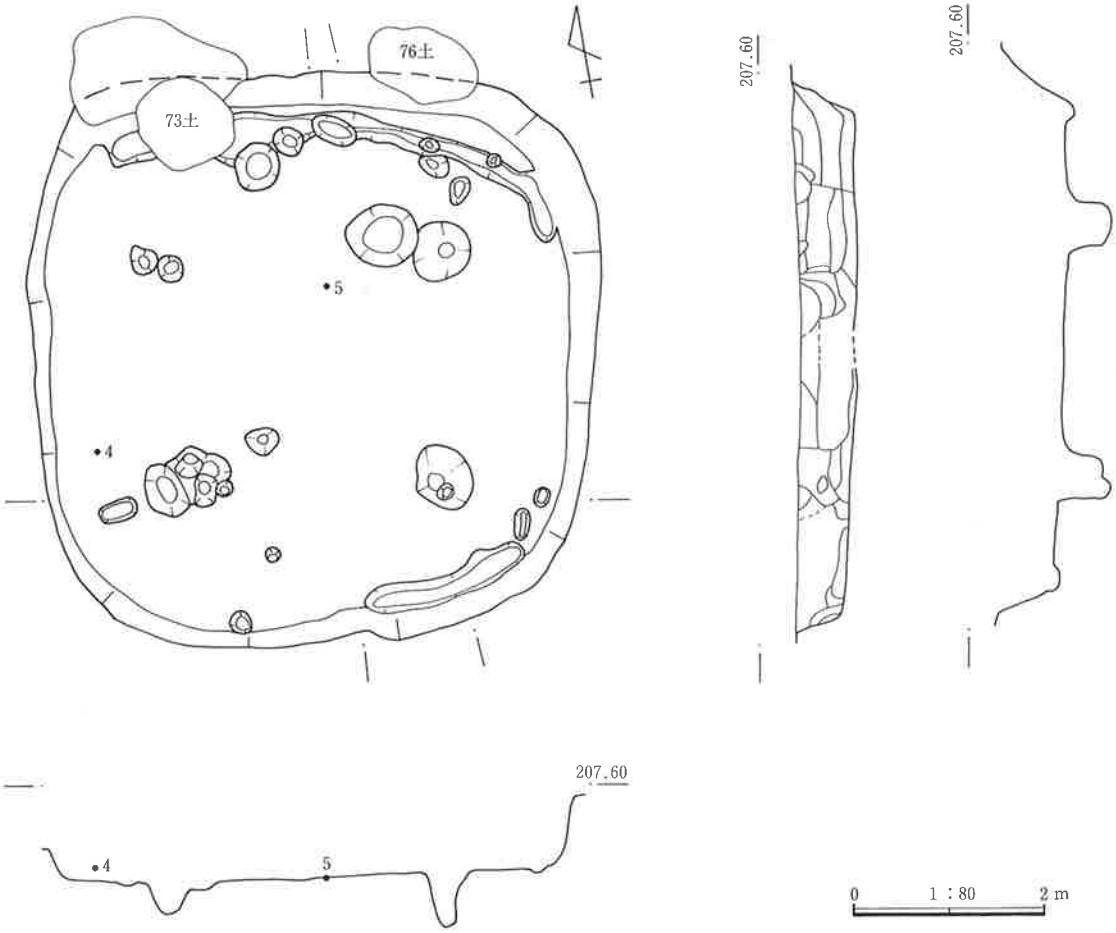
第 9 図　4 号住居跡遺物出土状態



第10図　4号住居跡出土土器平面分布



第11図　4号住居跡出土土器垂直分布



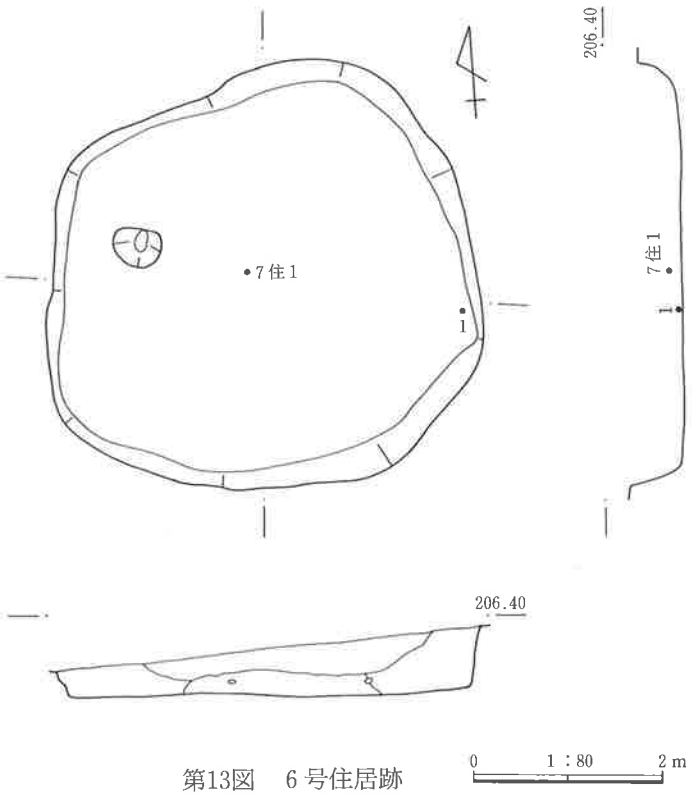
第12図　5号住居跡

6号住居跡（第13図、第74図）

4－3グリッドに位置する。南西4mに7号住居跡、東約6mに5号住居跡が近接する。

規模は東西4.6m、南北4.4mを測るが、南辺が北辺より長いため、隅の丸い台形状を呈する。覆土は全体的ににぶい黄褐色土、褐色土を主体に堆積する。壁高は東壁で60cmを測る。壁面はいずれも角度をもって立ち上がる。床面は軟弱である。柱穴、炉跡ともに明確には検出されていない。

遺物は床面、覆土中ともに少量出土しただけである。第74図－1は東壁際床直で出土した。また、7号住居跡－



第13図　6号住居跡

1（第75図）と接合した破片が中央部床上20cmからまとまって出土している。石器も磨石、凹石、石皿等ごく少量出土しただけである。

住居跡の時期は出土遺物から諸磯ｂ式期と思われる。

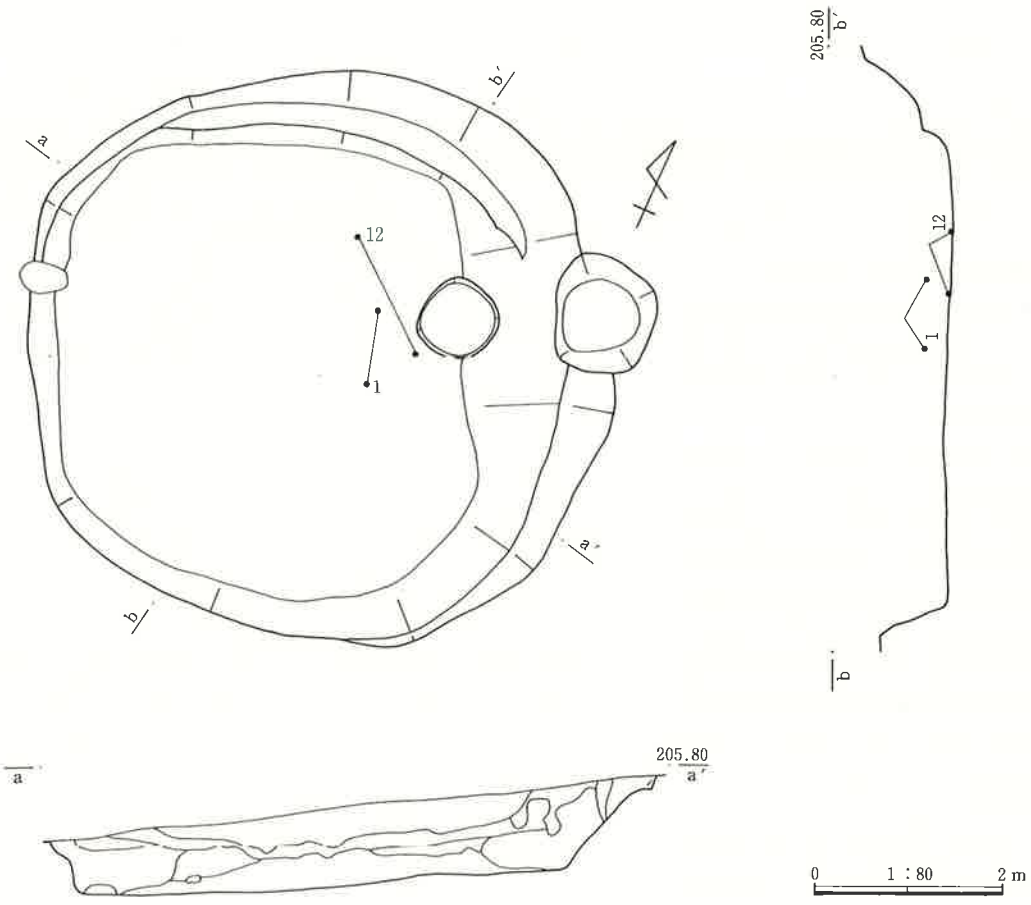
7号住居跡（第14図、第75～76図）

3・4－2グリッドに位置する。北東4mに6号住居跡が近接する。東壁及び壁際に土坑が重複するがいずれも新旧関係は不明である。

平面規模は上端で東西、南北ともに約6.1m、下端は東西4.4m、南北4.8mを測る。壁高は東壁で約100cm、西壁で60cmを測る。覆土は壁際に暗褐色土主体層が堆積し、中央部は下層に褐色土主体層、中層に黒色土ブロックを多量に含む褐色土層、上層に黒色土層が堆積する。壁面は、東壁はなだらかに立ち上がる。北壁は比較的直に立ち上がるが、上段で大きく開く。床面は軟弱で、炉跡、柱穴ともに検出されていない。

遺物は床面、覆土中とも少量出土しただけである。第75図－1は中央部床上20cmから出土しており、6号住居跡出土破片と接合した。同図－4は中央部床直で出土した。石器は石匙が3点出土しており、他に打製石斧、石鏃、磨石、凹石、台石等が出土している。

住居跡の時期は出土遺物から諸磯ｂ式期と思われる。



第14図　7号住居跡

8号住居跡（第15図、第77～78図）

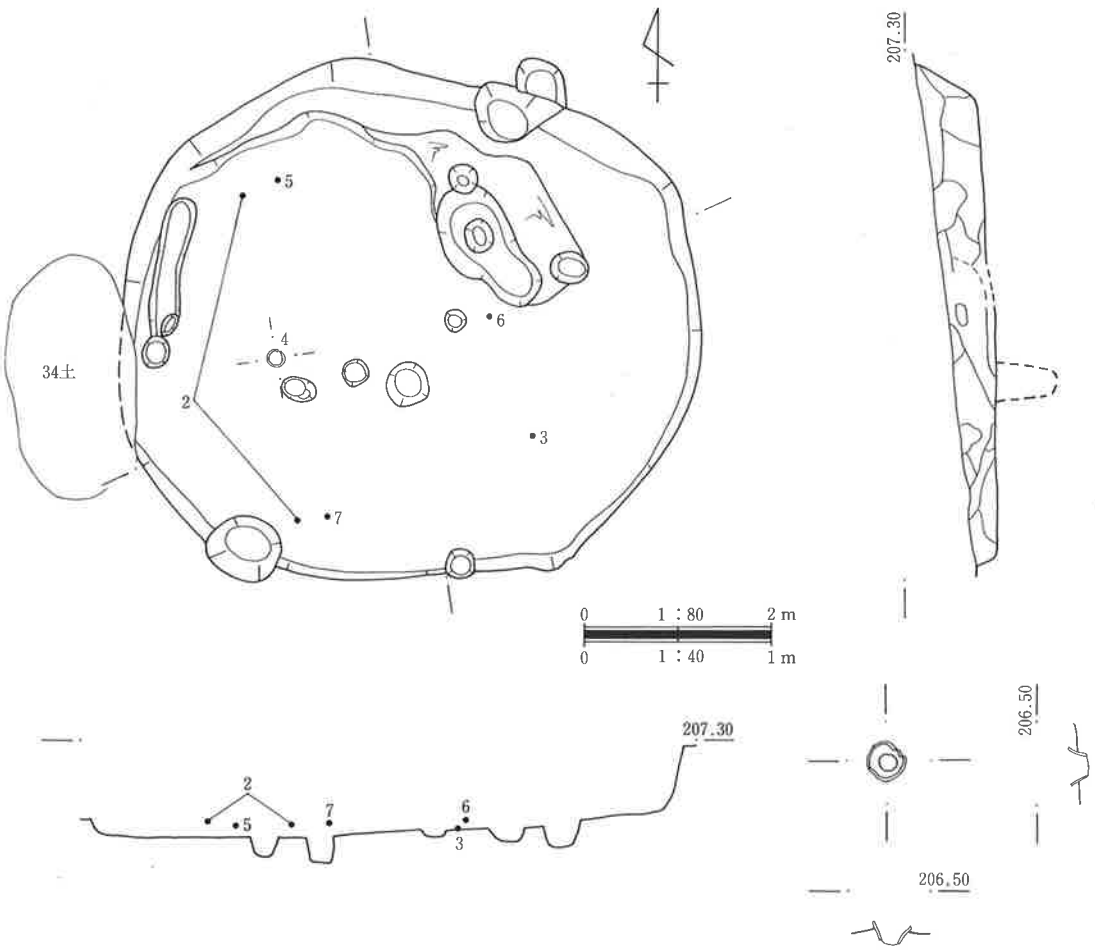
２－５・６グリッドに位置する。４号住居跡が東８ｍに近接する。79号土坑が西壁に重複し、本跡が新しいと思われる。また、北壁・南壁にも土坑状の遺構が重複するが、新旧関係等の詳細は不明である。

東西約6.1m、南北5.4mを測り、楕円形状を呈する。壁高は北壁で70cmを測る。平面形や、床面にわずかではあるが段差があること、あるいは土層観察から重複の可能性も考えているが、明瞭には把握できなかった。覆土は全体的ににぶい黄褐色土、褐色土を主体に堆積するが、自然堆積と思われる。壁面は北壁は角度をもって立ち上がるが、他は比較的直に立ち上がる。床面は西半部は比較的堅緻であるが、東半部は軟弱である。柱穴は中央部に検出された１基を除くといずれも浅く、主柱穴は不明である。

西半部のほぼ中央に埋甕が埋設されている。

遺物は器形の伺える土器はない。埋甕（第77図－１）の他、深鉢の底部（３、５～７）、や胴部破片（２）が床面から若干浮いた状態で出土しているが、他は小破片が覆土中から少量出土しただけである。石器も磨石・凹石、剥片石器類が少量出土しただけである。

住居跡の時期は出土遺物から諸磯ｂ式期と思われる。



第15図　８号住居跡

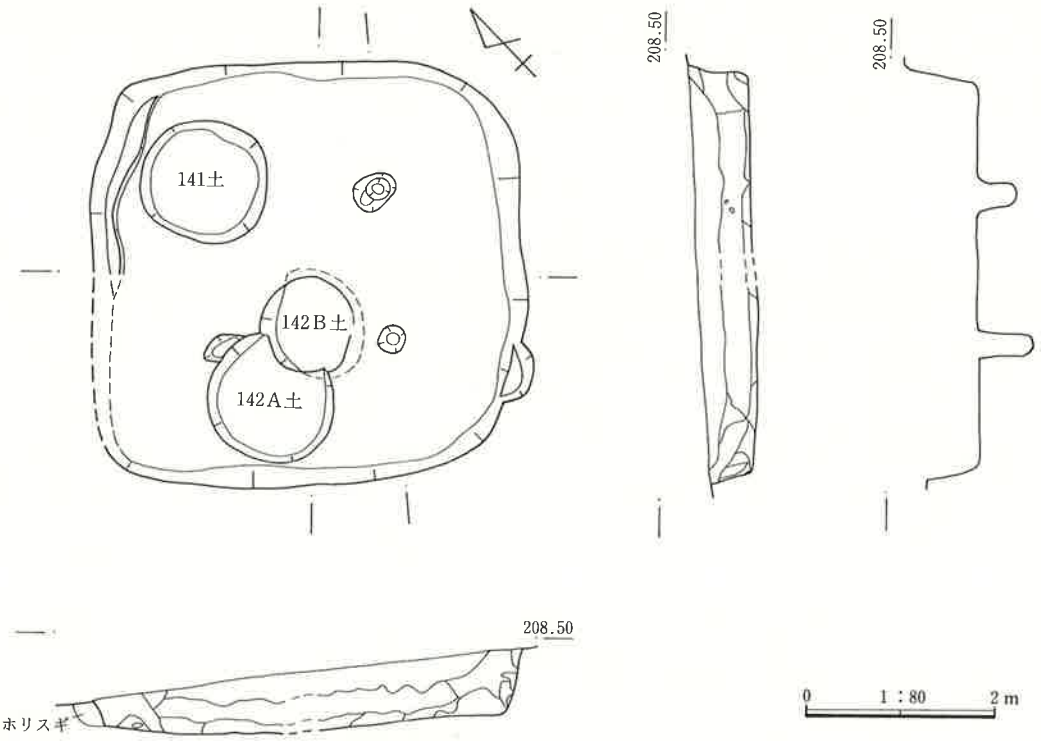
9号住居跡（第16図、第79～80図）

6・7－6グリッドを主体に位置する。近接する住居跡はない。土坑が内部に3基重複する。新旧関係は142A号は住居廃棄後に掘削されたと思われるが、他は不明である。

北西－南東4.6m、北東－南西4.5mを測り、ほぼ隅丸正方形状を呈する。壁高は最大80cmを測る。覆土は下層に褐色土を含む黄褐色ローム主体層、上層ににぶい黄褐色ロームブロックを含む暗褐色と黒褐色の混土層が堆積し、壁際下層に炭化物を含む黒色土層、上層ににぶい黄褐色ロームブロックを含む締まって堅い暗褐色土が堆積する。中央部の床面直上にも炭化物堆積層が確認されており、焼失家屋の可能性もある。壁面はいずれも若干の角度を持つが比較的直に立ち上がる。床面は周縁を除き良好に踏み固められている。柱穴は3ケ所に検出されている。北側の柱穴は141号土坑の部分にあったと思われる。深さはP1が40cm、P2が60cmを測る。P3は142A号土坑との重複により過半部が削平されており詳細不明である。炉は検出されていない。

遺物は床面からは磨石等が少量出土しただけで、大半は覆土から出土した。出土土器の中で器形を伺えるものは少ない。石器も磨石、凹石、石皿等少量出土しただけである。

住居跡の時期は出土遺物から諸磯b式期と思われる。



第16図　9号住居跡

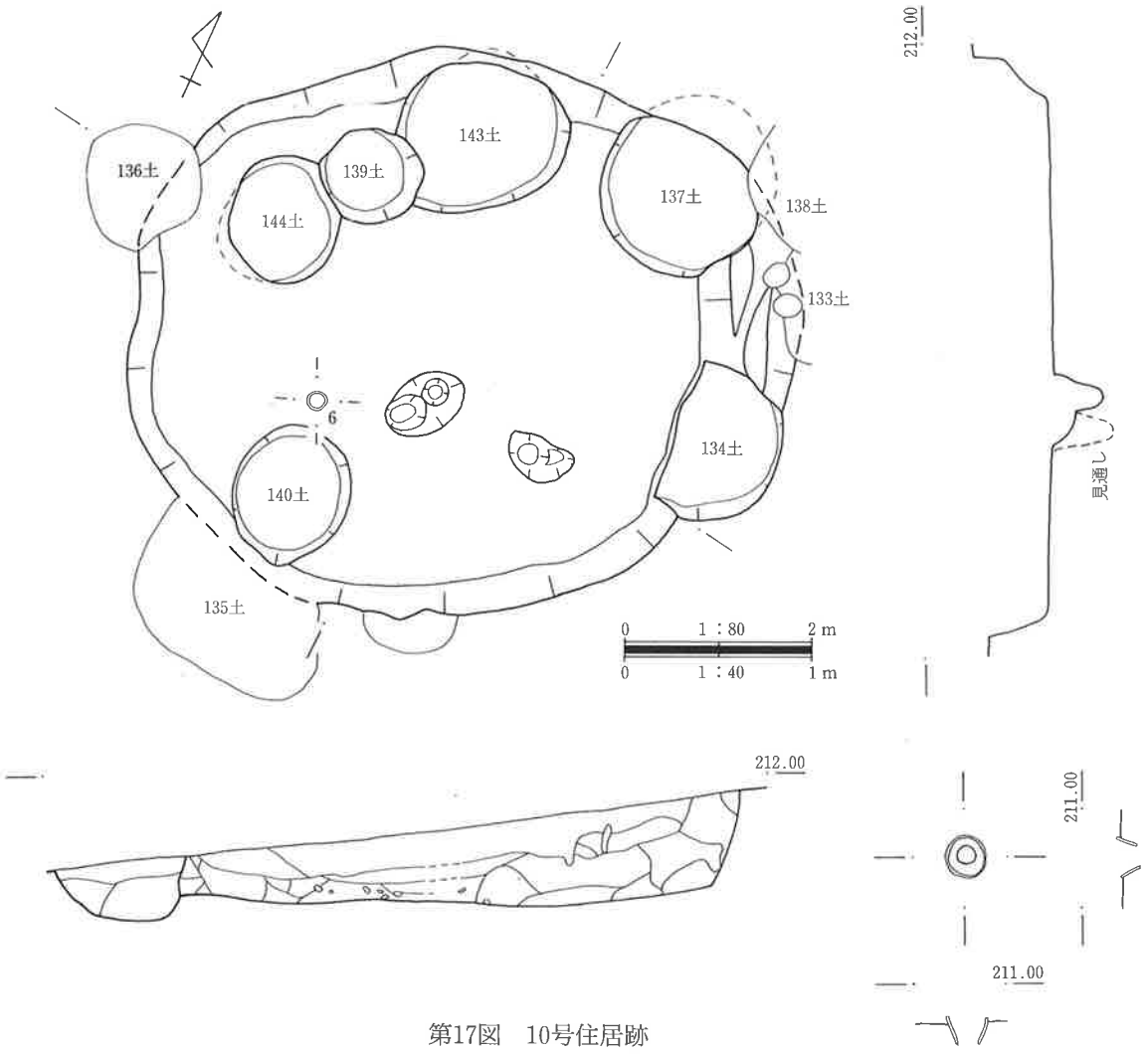
10号住居跡（第17図、第81～86図）

8－8・9グリッドに位置する。11号住居跡が北2mに近接する。多数の土坑が重複するが、明確に新旧を判断できるのは136号土坑だけで、本跡が古い。144号土坑も土層断面から本跡よりも新しいと考えられる。また、P1は本跡埋没途中で掘削された可能性がある。

東西約7m、南北約6mを測り、楕円形状を呈する。壁高は北壁で80cmを測る。覆土は上層に黒色土主体

層、中層に黒褐色と褐色の混土層、壁際から下層ににぶい黄褐色土、褐色土層が堆積する。壁は角度をもって立ち上がる。床面は比較的良好に踏み固められている。柱穴は２ケ所に検出されているが、Ｐ２は主柱穴の可能がある。他の柱穴は多数の土坑が重複していることもあり検出できなかった。中央部より南西に偏して深鉢（第81図－６）が埋設されている。内部には焼土粒を含む黒褐色土が堆積しており、埋甕炉と思われる。

遺物は覆土の中～下層を中心に多量に出土している。ある程度器形を伺える土器もあるが、残存状態は余り良好ではない。南西部の床面直上からも比較的多量の遺物が出土した。但し、調査期間の制約から出土位置は記録できなかった。なお、本跡出土として提示した遺物の中には、本来土坑に帰属するものも多く含まれると思われる。石器は打製石斧と磨石、凹石が主で、他に石鏃、磨製石斧、剥片石器類が出土している。住居跡の時期は出土遺物から諸磯ｂ式期と思われる。



第17図　10号住居跡

11号住居跡（第18図、第87～88、119図）

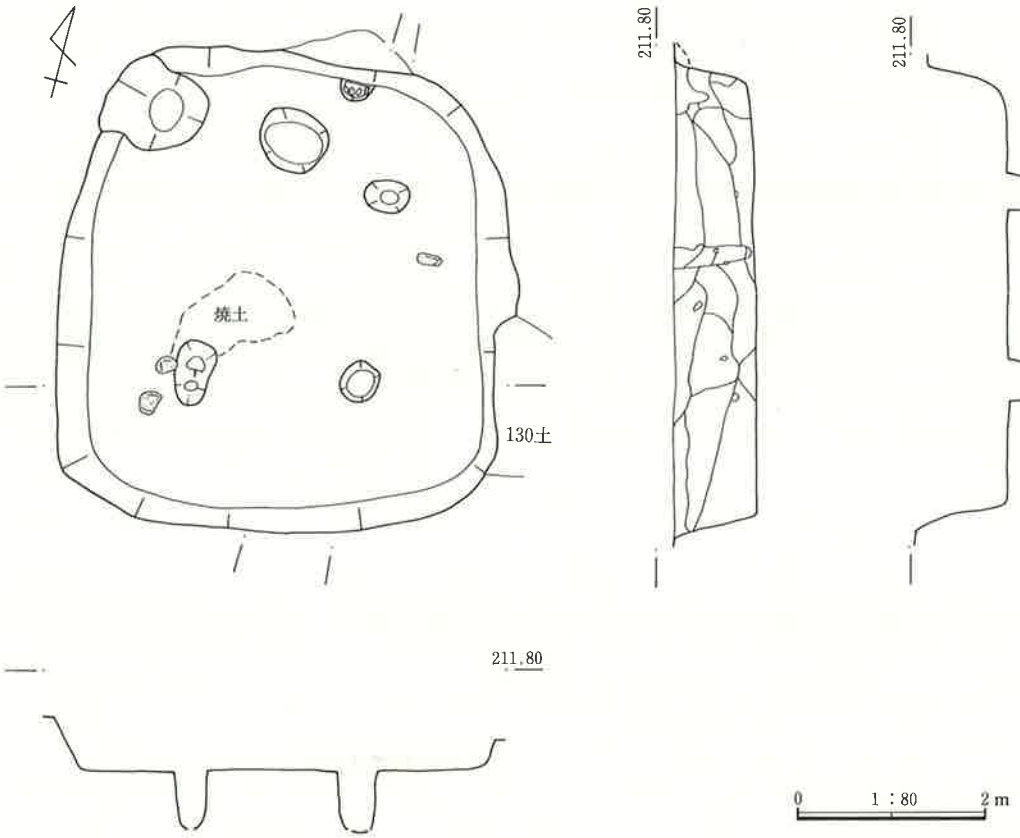
８－８グリッドを主体に位置する。10号住居跡が南２ｍに近接する。北西隅及び東壁の南端に土坑が重複するが、新旧関係は不明である。

東西約4.8m、南北5.1mを測り、若干南北に長いものの、ほぼ隅丸方形状を呈する。壁高は東壁で約110cmを測る。壁面は若干角度をもっが、ほぼ直に立ち上がる。床面は平坦で周縁を除いて比較的良好に踏み固め

られている。柱穴は対角線上の3ケ所に検出されているが、北西部には検出できなかった。炉は明確な掘り込み等は検出されていないが、中央から南西柱穴にかけての床面が広範囲に焼土化しており、地床炉と思われる。北壁直下の床面が半円形に浅く掘り込まれており、小礫が4点並んで出土しているが、性格は不明である。

遺物は覆土の中層を中心に深鉢、浅鉢等が出土しているが、量的には多くない。石器は打製石斧、磨石，凹石，石皿等が出土している。

住居跡の時期は出土遺物から諸磯b式期と思われる。



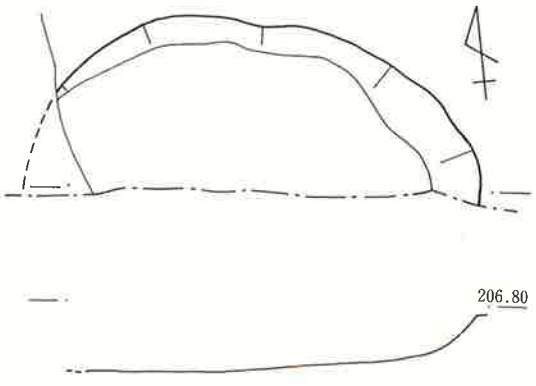
第18図　11号住居跡

12号住居跡（第19図）

0－9グリッドに位置する。2号住居跡が北4.4mに近接する。南側過半部は調査区域外である。西端は道路状遺構によって削平されている。

東西4.5m、南北約2m程の範囲を調査した。壁高は北壁で約60cmを測る。調査範囲から判断すると円形状を呈すると思われる。壁面は角度をもって立ち上がる底面は平坦であるが、若干西方に下っている。

遺物は数点の石器類が出土しただけで、土器は出土しておらず、遺構の時期は不明である。



第19図　12号住居跡

(2) 土　坑

縄文時代の土坑として約150基を調査した。この中には木根等の影響によると思われる自然の落ち込み(倒木痕4基を除く)も含んでいる可能性があり、明確に人為的に掘り込まれたと判断できるのは130基前後である。このうち陥穴と判断できる数基を除くと、ほぼ円形を呈する土坑が大半である。土器を主体とする遺物を出土したものが半数以上あり、完形若しくは復元実測可能な土器を出土した土坑が10基以上ある。また、底部から大小の礫が出土したものもあるが、個々の土坑の性格について推定できるものは多くない。遺構検出は遺物出土その他の理由により、基本的に黄褐色ローム層よりも10～20cm上位のにぶい褐色土層中で行っている。検出面では黒褐色若しくは暗褐色の円形あるいは染み状の部分として確認しているが、黄褐色やにぶい黄褐色の部分として検出されている土坑も多い。

本項では比較的遺物残存状態が良好な土坑の遺物出土状態及び覆土堆積状況を中心に説明を行い、その他の土坑については概要を一覧表に記して提示するに留めたい。

8号土坑（第20図、第89図）

2－9グリッドに位置する。9号土坑と重複し、土層断面からは本跡が古いと思われる。覆土は下層中央に黒褐色土、中～上層に褐色土・黄褐色土の混土層が堆積する。

遺物は検出面直下から底部を欠失する深鉢の大破片が出土した。これ以外には埋土中から小破片が少量出土しただけである。

11号土坑（第21図、第90図）

2－10グリッドに位置する。10号土坑と重複し、本跡が新しい。覆土は中～下層に黒褐色土が堆積し、中～上層は暗褐色土主体でにぶい黄褐色土ブロックが混入する。底面直上は黄褐色土と暗褐色土の混土層である。

遺物は底面から約10cm上位（黒褐色土中）に深鉢の大破片が出土している。石器は出土していない。

30号土坑（第23図、第92図）

3－7グリッドに位置する。33号・36号土坑と重複するが、新旧関係は不明である。覆土は上層に暗褐色土と褐色土、中層に褐色土主体層、下層に黒褐色土を含む褐色土ブロック主体層が堆積し、底面直上に黄褐色土主体層が薄く堆積する。壁際にはしまって堅いにぶい褐色土・淡褐色土が堆積する。

床面直上から覆土中位にかけて土器破片と人頭大～拳大の礫（焼け石を含む）が出土した。石器は磨石3点と凹石などが出土している。

31号土坑（第22図、第93図）

3－7グリッドに位置する。覆土は上層に堅い黒褐色土ブロックを含むにぶい黄褐色土、中層上位に褐色土と黒褐色土の混土、中層下位に黒褐色土主体層、下層に暗褐色土と黒褐色土の混土層が堆積し、底面直上に淡黄色ロームが堆積する。壁際には褐色土、にぶい褐色土が堆積する。全体的に炭化物・焼土が含まれる。覆土中にも遺物が散在するが、底面直上から土器破片がまとまって出土した。石器は磨石と剥片石器が出土している。

35号土坑（第22図、第94図）

２－６グリッドに位置する。４号住居跡と重複する。南西柱穴と重複するが、新旧関係は不明である。覆土は床面直上ににぶい褐色土、中～下層に暗褐色土を混入する褐色土、上層に黒褐色土を混入する褐色土、検出面直下に黒褐色土層が堆積する。

遺物は土器小破片だけであるが、底面直上に集中して比較的多量に出土している。覆土中は少量である。石器は打製石斧、磨石、剥片石器が出土している。

37号土坑（第23図、第95図）

３－７グリッドに位置する。33号土坑と重複するが、新旧関係は不明である。覆土は上層に黄褐色土、中層ににぶい黄褐色土が混入する黒褐色土、下層に黒褐色土が混入する褐色土が堆積する。

遺物は覆土下層を中心に出土している。石器類は剥片石器だけである。

38号土坑（第24図、第96図）

３－６Ｇに位置する。39・40号土坑と重複するが新旧関係は不明である。上層は堅い黒色土ブロックを混入するにぶい褐色土、中層は黄褐色土と褐色土の混土層、下層は黒褐色土を混入する褐色土層が堆積する。

遺物は南壁際の覆土下位から底部を欠失する深鉢が、口縁部を北に向けた横倒し状態で出土している。これ以外の遺物はすべて小破片で、覆土中に散在して出土している。石器は石錐が１点出土している。

39号土坑（第24図、第97～98図）

３－６Ｇに位置し38・40号土坑と重複するが、新旧関係は不明である。覆土は上層に褐色土を混入する暗褐色土、中－上層に褐色土、中－下層に黒褐色土と褐色土の混土、下層に炭化物を混入するにぶい黄褐色土が厚く堆積する。

遺物はほぼ中央部の覆土中位から正立状態で完形の深鉢と底部が並んで出土し、覆土その他からも多量の遺物が出土している。石器は石斧の欠損品が出土している。

45号土坑（第25図）

４－９グリッドに位置する。覆土は全体的に暗褐色土とにぶい黄褐色ロームブロックの混土で、上層はにぶい黄褐色ロームブロック主体、下層は暗褐色土主体である。

遺物は底面密着で拳大の焼石が10点、南西壁に密着して人頭大の礫が出土している。土器・石器類は全く出土していない。

57号土坑（第26図、第101図）

１－８グリッドに位置する。覆土は上層から暗褐色土、にぶい黄褐色土、黄褐色土を間層に挟む黒褐色土、黄褐色土の順に堆積し、最下層にも薄く黒褐色土が堆積する。

遺物はほぼ中央部の検出面直下（暗褐色土中）から小型の深鉢１個体が出土した。覆土中位からは数点の礫と深鉢の大片が出土している。底面直上からは深鉢の底部等が少量出土しただけであり、全体的に量は多くない。石器は、覆土中位から台石、多孔石が出土し、打製石斧、磨石も出土している。

63号土坑（第28図）

3－9グリッドに位置する。覆土は黄褐色土とにぶい褐色土を主体に堆積する。中央部には黒褐色土と褐色土の混土が堆積する。全体的に炭化物を含み、特に黒褐色土中に多い。

底面中央部に集中して鶏卵大の焼石が出土している。土器・石器は1点も出土していない。

67号土坑（第28図、第102～103図）

3－7グリッドに位置する。覆土は上層に暗褐色土、中層に黒褐色土、下層に褐色土が堆積する。

遺物はほぼ完形に復せる深鉢を始めとする数個体分の土器破片が、北側の覆土上位から中位にかけて流れ込むような状態で出土した。また多量の小礫も同様な状態で出土している。下層からは土器片と小礫が少量出土しただけである。石器類は剝片石器・剝片が出土しただけである。

68号土坑（第28図、第103～104図）

3－7グリッドに位置する。覆土は上層に暗褐色土、中層ににぶい黄褐色土、下層に黒褐色土が堆積し、中～上層の側縁部に黄褐色土が堆積する。

遺物は検出面直下の西壁寄りに焼石とともに深鉢の大破片が出土した。また、南壁寄りの覆土中位から底部を欠失した深鉢がほぼ縦に半截された状態で出土し、他にも覆土中から多量に出土している。石器は打製石斧、凹石等が出土している。

71号土坑（第29図、第105図）

3－4グリッドに位置する。覆土は上層に暗褐色土、中層ににぶい黄褐色土、下層に黄褐色土が堆積する。

遺物は検出面直下に丸石を含む礫、焼石と土器破片が焼土・炭化物とともに出土した。中層の中央部には深鉢の大破片が、また、底面近くには多量の拳大の焼石があたかも敷き詰められたように出土している。石器は土器に混じって覆土中から石皿、多孔石、磨石、凹石等多数出土している。

74号土坑（第29図、第106図）

4－4グリッドに位置する。上層には暗褐色土、西側に寄って上～下層に褐色土、下層には東側から流れ込むような状態で黄褐色土が堆積する。

遺物は底面から若干浮き、伏せられた状態で完形の浅鉢が出土している。これ以外には少量の小破片が出土しただけである。石器は先端を欠損する石錐が1点出土している。

75号土坑（第29図、第107図）

平面形状から2基の重複と考えた。覆土は断割面では上層に黒褐色土、中層に焼土・炭化物を含む黒褐色土、下層に黄褐色土と褐色土の混土が堆積し、下層中央部には焼土が混入するが、土層堆積状況から新旧の判断はできなかった。

遺物は覆土上～中層に北壁から流れ込むような状態で土器小破片、ミニチュア土器、玦状耳飾り、打製石斧、石皿等が出土した。遺物出土状態から判断すると、A号→B号の新旧関係が考えられる。

99号土坑（第32図、第109～110図）

5－6グリッドに位置する。覆土の上～中層には黒褐色土ブロックを含む褐色土が堆積する。中層側縁から下層にかけては黄褐色土を主体に堆積する。

遺物は検出面直下覆土上層の中央部から多量の小礫とともに深鉢の大破片が出土した。また底面直上にも多数の小礫が検出され、大小の土器破片が混在して出土した。なお、底面西端に塊状の白色粘土が検出されている。石器は剥片石器類が出土しただけである。

107号土坑（第33図、第112～113図）

7－8グリッドを主に位置する。覆土は下層に黒褐色土、中層に褐色土ブロックを含む黒褐色土、上層に黒褐色土を含む褐色土が堆積する。中～上層の側縁は暗褐色土を主体に堆積する。

遺物は底面直上～覆土下層を中心に深鉢大・中破片、礫、石器類が出土した。覆土中～上層からは小破片が主に出土しているが、検出面直下の西壁際からは深鉢底部が出土している。石器の器種は打製石斧、石匙、磨石、凹石等である。

108号土坑（第33図、第111図）

7－8グリッドに位置する。覆土は上層に褐色土、中層上半中央部に黄褐色土、中層（下半）に褐色土、下層に暗褐色土と黒色土を含む褐色土が堆積する。

遺物は覆土下層の北壁寄りに底部と口縁部を欠失する深鉢が、口縁部を南に向けた横倒しの状態で出土した。これ以外の遺物は覆土から少量出土しただけであり、掲載した遺物が全てである。石器は打製石斧が1点出土している。

121号土坑（第35図、第115図）

8－9グリッドに位置する。4号倒木痕と重複し本跡が古い。覆土は上層に暗褐色土を含むにぶい褐色土、中層上位に暗褐色主体層、中層下位に黒褐色土とにぶい褐色土を含む褐色土、下層に褐色土を含む黄褐色土が堆積する。2重の掘り込みが見られるが、底部の掘り込みは掘り過ぎた可能性もある。

遺物は覆土の中～上層から小～拳大の礫に混じって出土している。中層上位からは深鉢底部、南東部中層下位から底部を欠失する深鉢が出土している。石器は磨石と剥片石器類が出土している。

123号土坑（第35図、第116図）

8－9グリッドに位置する。プラン確認の段階で122号、132号、138号との重複が認識できたが、本跡部分ではどのように遺構が重複しているのか把握できなかったため、全体を123号土坑とした。調査の結果5基の土坑の重複と考えているが、A号は形状から陥穴の可能性がある。ただし、逆茂木は検出されていない。B号、C号については底面レベルがほぼ等しく、平面形状等からも陥穴の可能性を考えている。

遺物は覆土上層から土器小破片がまとまって出土しているが、どの土坑に帰属するかは明確には不明である。

124号土坑（第36図、第117図）

8－9グリッドに位置する。当初A号部分だけを土坑と認識し、順次B・C号を確認したものである。A

号の覆土は上層に暗褐色土と褐色土を含むにぶい褐色土、中層に褐色土主体層、下層に褐色土を含むにぶい褐色土が堆積する。B号はA号との重複部以外の狭い部分であるが、上層からにぶい褐色土主体層、黒褐色土を含む褐色土、黄褐色ロームブロックを含む黒褐色土、にぶい黄褐色土を含むにぶい褐色土が堆積する。下層には炭化物を含み、黒褐色土を混入する褐色土が堆積する。側縁部にはにぶい黄褐色土、黄褐色土が堆積する。C号には上層に褐色土とにぶい黄褐色土、中層に黒褐色土ブロックを含む褐色土、下層ににぶい黄褐色土と褐色土の混土が堆積する。

遺物はB号の深鉢底部は北東壁寄りの底面直上から出土している。重複関係が明瞭でないため、A号出土遺物はB号もしくはC号に帰属する可能性もある。

137号土坑（第37図、第118図）

8－9グリッドに位置する。10号住居跡と重複するが新旧関係は不明である。検出状況から住居に伴う可能性も考えられる。

遺物は底面から若干浮いた東壁寄りから深鉢底部が出土している。他の遺物も全て本跡が土坑と認識できた以降に取り上げたものである。

138号土坑（第37図、第119図）

8－9グリッドに位置する。133号・123B号と重複するが新旧関係は不明である。遺物は覆土のほぼ全体に散在するように中・小破片が出土している。炭化したクルミの殻も多く出土した。石器は打製石斧、台石が出土している。

140号土坑（第38図、第121図）

7－8グリッドに位置する。10号住居跡と重複するが、新旧関係は不明である。覆土の下層に集中して中・小の土器破片が出土している。石器は打製石斧と磨石が出土している。

147号土坑（第38図、第122図）

7－9グリッドに位置する。

主に覆土中～上層から中・小破片がまとまって出土している。

(3) ピット群（第40図、第123図）

7－8杭の周辺に位置する。調査時点では建物跡の可能性がある程度の認識であった。しかし、該地は畑地耕作により大幅に削平されていること、規模の近似する3号、5号、6号、8号ピットに方形の配列が看取でき、また、この4基からは土器が出土していることなどから、この4基を主柱穴とする竪穴住居跡の可能性に思い至った。この4基が竪穴住居跡の主柱穴とすると、主軸方向は北方に近接する11号住居跡とほぼ近似しており、柱間距離の相違から、規模は11号住居跡よりも若干大きいと推定される。この4基以外のピット（129号土坑も含む）や107号土坑と竪穴住居跡の関係は不明であるが、住居跡に伴う可能性もある。さらに、7号、12号、9号、11（10）号ピットも規模は一定していないが、方形に配列されていると見ることもでき、また別の住居跡が重複している可能性も完全には否定できない。

第2表　縄文土坑一覧表

凡例及び事項説明

番号：基本的に調査時点の番号表記を用いているが、整理の結果アルファベットの枝番を新たに付したものがある。

深さ：住居内に重複する土坑は床面からの深さである。

遺物：土器　量－　多≧40＞中≧10＞少　基本的には数量で分別している。

残存－完形・半完形…底部を意識的に打ち欠いている個体が多いため、底部を除いた部分の残存程度て判別する。

実…復元実測固体で破片の大小は区別しない。

小片…基本的に拓本実測程度の小破片である。

石器類　土坑出土の石器類の数量は多くないため数量提示は行わず、製品等の種別を列記する。なお、焼石、自然礫については調査時点で捨てたものが多く、出土が記載されていない土坑からも出土した可能性はある。

※重複する土坑間での遺物の帰属は不確実である。特に枝番を付した土坑で帰属の不明なものはAの欄に記載した。A欄以外に記載したものはある程度出土位置を確定できたものであるが、全てその土坑から出土したことを意味しない。

平面形状：長－短軸比がほぼ円形≦1.1＜楕円形≦1.4＜長円形とした。このほか隅丸（長）方形と不整形を区分した。

断面形状：壁面が内傾するいわゆる袋状を呈するものだけを記載した。

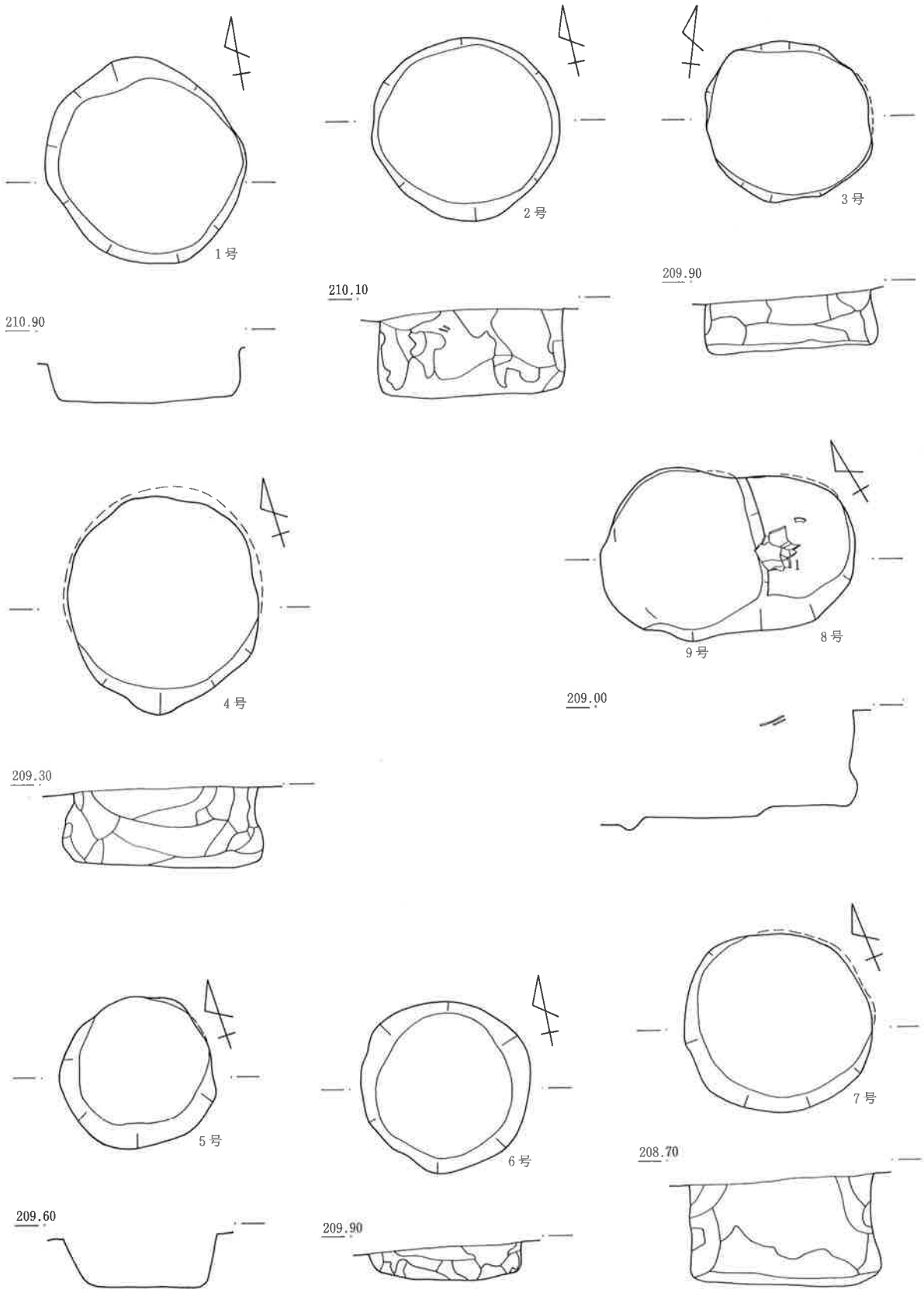
備考：主に重複・新旧関係を提示する。新旧関係の判明しているものは旧→新で提示した。判明していないものは重複とだけ表示した。

●印は土層堆積状態・形状等を検討した結果、人為的な土坑ではない可能性をもつと判断したものである。

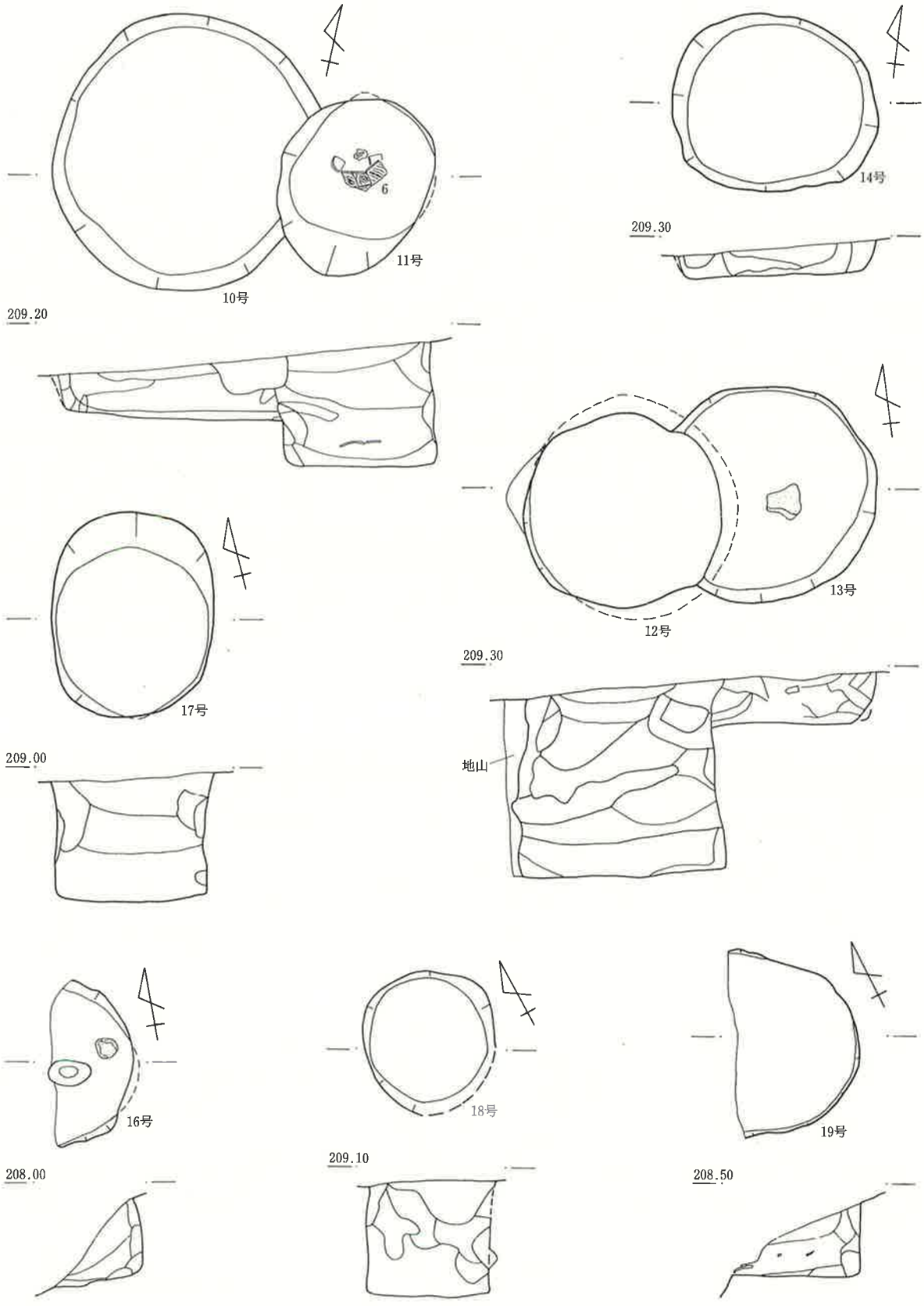
番号	位置	上面規模 長軸×短軸 cm	底面規模 長軸×短軸 cm	深さ cm	出土遺物 土器 量	土器 残存	石器類 製品等	平面形状（断面形状）	備考（重複、新旧など）
1	3－10G	140×128	120×112	28	無			円形	
2	2－10G	128×124	120×108	56	少	実		円形	
3	2－10G	112×112	112×96	36	無			円形	
4	2－10G	140×128	136×132	56	少	実	剝片	円形・袋状	
5	2－10G	104×104	88×88	36	少	小		円形	
6	1－11G	112×112	100×92	24	無			円形	
7	0－11G	124×120	120×112	76	無			円形	
8	2－9G	120×(104)	108×(104)	67	少	実		円形？	8土→9土
9	2－9G	100×(68)	84×(64)	64	無			円形？	
10	1－10G	188×168	164×156	54	少	小	礫、剝片	円形	10土→11土
11	1－10G	124×100	96×92	90	少	実		楕円形	
12	2－10G	132×128	152×140	126	無			円形・袋状	13土→12土
13	2－10G	144×(136)	132×(120)	42	無		礫	円形	
14	1－10G	140×120	120×108	20	無			楕円形	
16	1－9G	(112)×(56)	(104)×(52)	72	無		礫	円形？	
17	1－10G	136×110	112×	76	少	小		楕円形	
18	1－11G	102×88	80×80	76	少	小		円形	
19	1－11G	(124×100)	(116×96)	54	少	小	礫、剝片	円形？	
20	3－8G	160×160	128×112	60	無			円形	中央部ピットは撹乱
21	3－8G	136×124	112×72	53	無			楕円形	中央部に小ピット
22	3－8G	(136×128)	(124×112)	52	無			円形	重複 ●
23	3－8G	(192)×176	176×164	72	無			不止円形	●
24	3－8G	92×(60)	7×(44)	45	無			円形？	●
29	3－7G	140×(132)	84×90	69	中	実	打斧、多孔石、剝片石器	円形	3住と重複
30	3－7G	160×(144)	1×(104)	100	多	中	磨石、凹石、剝片石器、剝片	円形	36・33土と重複
31	3－7G	156×144	124×108	124	中	中	磨石、剝片石器、剝片	円形	
32	4－6G	径約110	径約90	20	少	小		円形？	全掘せず
33A	3－7G	140×(110)	96×(108)	87	少	小	剝片石器、剝片	円形	30・37土と重複
33B	3－7G	(136×84)	(112×72)	42	無			円形？	●
34	2－6G	200×156	92×50	167	少	小	礫	楕円形	陥穴、南半上部掘り過ぎ
35	2－6G	136×124	112×100	(113)	多	大	磨石、打斧、剝片石器	円形	4住内、新旧不明
36	3－6G	径約40cm	径144	110	多	小		円形・袋状	30土と重複
37	3－7G	160×140	96×88	160	中	実	剝片石器、剝片	楕円形	33土と重複
38	3－6G	180×148	116×88	87	多	完	石錐、剝片石器、剝片	楕円形	重複
39	3－6G	166×152	112×104	129	多	完	打斧、剝片石器、剝片	円形	
40	3－6G	172×(108)	120×(80)	47	無			円形	
41	0－10G	(120×110)	96×92	114	中	小	打斧、剝片石器、剝片	円形	42土→41土
42	0－10G	径約120	径約100	47			剝片	不明	●
43A	0－10G	168×(120)	104×94	100	少	小		円形？	重複 ●
43B	0－10G	径約105	径約75	80	－			楕円形	遺物の帰属不明 ●
43C	0－10G	(112×104)	(96×84)	56	－			楕円形？	●
44	1－11G	116×110	108×104	97	無			円形	

番号	位置	上面規模 長軸×短軸 cm	底面規模 長軸×短軸 cm	深さ cm	出土遺物 土器 量	土器 残存	石器類 製品等	平面形状（断面形状）	備考（重複、新旧など）
45	4－9G	120×116	96×76	68	無		礫	不正円形	
46	4－9G	径約100	径約76	34	無			円形？	48土と重複
47	4－9G	164×(130)	132×116	96	無			円形	48土と重複
48	4－9G	(214×124)		110	無			長円形	46・47土と重複、陥穴？
49	4－10G	172×132	160×112	(45)	無			楕円形	●
50	3－7G	112×108	60×48	(48)	少	小	剝片、礫	円形	3住内、新旧不明
51	3－7G	(200×124)	132×52	166	少	中	磨石	長円形	3住→51土
52	1－8G	径約108	径約85	50	少	小	剝片、礫	円形	
53	1－8G	132×124	径120	105	中	中	石匙、剝片石器、剝片	円形	
54	1－8G	132×112	106×100	76	無		礫、焼石	楕円形	
55	1－9G	96×92	径88	70	少	小	礫	円形	
56	1－8G	104×100	84×80	72	少	小		円形	
57	1－8G	160×152	170×168	136	少	実	磨石、台石、多孔石	円形	
58	1－8G	100×92	92×80	60	少	小	剝片	円形	
59	1－8G	116×112	88×(64)	63	少	小		円形	
60	1－8G	144×130	132×130	95	少	小	尖頭器	円形	
61	1－8G	220×196	136×132	71	無			円形	●
62	1－9G	――	――	約50	無			不明	道路跡により大半削平
63	3－9G	128×108	92×76	34			礫	楕円形	
64A	4－9G	(160×116)	(56)×60	90	少	中		円形	┐重複 ┐陥穴？
64B	4－9G	112×104	68×48	104				楕円形	┘
64C	4－9G	146×104	128×80	30				隅丸方形	┘65土と重複
65	4－8G	200×(152)	158×(124)	30	少	小	磨石	楕円形	64土と重複
66A	4－8G	(236×160)	140×36	126	少	小	剝片石器、剝片	長円形	┐重複陥穴？
66B	4－8G	(168×100)	(116)×64	60				楕円形？	┘ ●
67	3－7G	径約160	径約96	133	多	実	剝片石器、剝片	円形	
68	3－7G	180×172	152×148	97	多	実	凹石、打斧、剝片石器	円形	
71	3－4G	140×128	132×104	112	多	実	石皿、磨石、凹石、多孔石	楕円形	集石
72A	3－4G	116×(128)	76×70	104	少	小	剝片	円形	┐重複
72B	3－4G	(128)×116	(52×24)	45	無		石核	楕円形	┘ ●
73	4－4G	100×92	100×92	90	少	小		不正円形	5住内、新旧不明
74	4－4G	径約135	100×92	35	少	実	石錐、剝片、礫	円形	
75A	3－4G	径約130	100×80	64				円形？	┐A→B
75B	3－4G	径約100	径約70	60	中	小	石皿、打斧、耳飾り、剝片石器	円形	┘
76	4－4G	112×(80)	88×(68)	50	無			不明	5住と重複 ●
77	5－4G	140×128	132×136	80	無			円形	┐78土→77土
78	5－4G	132×108	132×(100)	40	無			不正形	┘ ●
79	2－5G	260×183	132×36	140	無			長円形	79土→8住、陥穴
80	1－6G	208×148	124×56	80	少	小	剝片，礫	楕円形	
81	2－5G	204×184	152×44	110	少	小		円形	
82	2－4G	204×168	160×152	86	多	中	剝片石器、剝片、礫	円形	
83	3－4G	156×148	114×100	59	少	小	剝片	不正円形	
84	4－4G	136×108	108×84	53	少	実	石皿、磨斧、打斧、剝片石器	楕円形	
91	6－7G	100×102	96×84	68	少	小		円形	
92	6－7G	120×106	88×(90)	40	少	小	剝片	隅丸方形？	
94	6－7G	156×140	120×104	73	少	小	剝片	円形	南端にピット
95	6－6G	152×128	124×106	39	無			楕円形	┐重複 ●
96	6－6G	132×104	104×84	27	無		礫	楕円形	┘ ●
97A	5－7G	(200×180)	(径約130)	57	無			楕円形	
97B	5－7G	(160×120)	110×90	61	無			不正円形	
98	4－7G	104×92	84×68	47	無		石鏃	円形	
99	5－6G	180×160	160×136	86	多	実	剝片石器、剝片、焼石	楕円形？	
100	6－6G	152×120	112×84	45	少	小	剝片石器	楕円形？	┐重複
101	6－6G	184×172	140×124	73	無			円形	┘
102	6－7G	216×140	140×60	123	無		焼石	隅丸方形	陥穴
104	6－6G	径約72	径約56	17	無		剝片石器、剝片、礫、焼石	円形	ピットは撹乱？
105	5－5G	268×236	200×180	40	少	大	剝片	不正円形	
106	6－8G	144×120	108×86	40	無			楕円形	

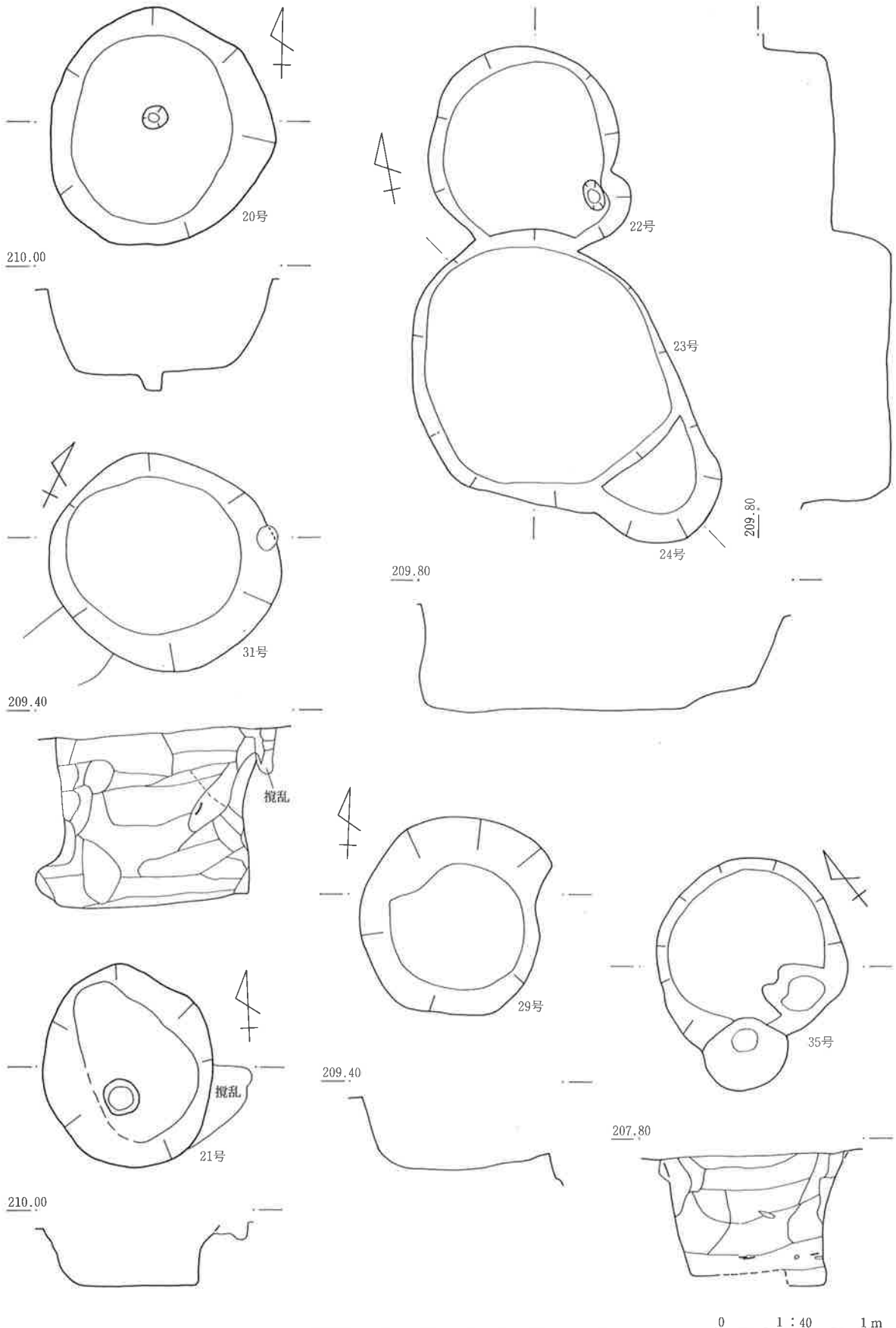
番号	位置	上面規模 長軸×短軸 cm	底面規模 長軸×短軸 cm	深さ cm	出土遺物 土器 量	土器 残存	石器類 製品等	平面形状（断面形状）	備考（重複、新旧など）
107	7－8G	径約100	径約100	87	多	実	石匙、打斧、磨石、凹石	円形・袋状	
108	7－8G	128×120	132×120	96	少	実	打斧、剝片石器、剝片	円形・袋状	
109	7－8G	104×92	94×88	75	多	中	剝片、焼石	円形・袋状	
111	1－7G	136×126	108×106	89	少	中	磨石、剝片石器、剝片	円形	
112	1－7G	136×140	88×80	64	少	中	磨石、焼石	円形	114・115土と重複
113	1－6G	156×136	径約86	124	少	小	打斧、磨石、小礫、剝片	円形	
114	1－7G	142×112	径約60	30	無			不正円形	112・115土と重複 ●
115	1－7G	(180)×140	96×68	87	無			不正円形	112・114土と重複 ●
116	1－6G	172×156	120×96	74	少	小		円形	
117	0－8G	136×128	84×(80)	56	無			円形	
118	0－8G	径168	径124	90	少	小	焼石	円形	
121	8－9G	224×204	160×124	94	中	実	磨石、剝片石器、焼石	円形	121土→4号倒木痕
122	8－9G	140×(128)	96×80	115	中	中	磨石、剝片、小礫	円形	123土と重複
123A	8－9G	(232×140)	106×84	148	少	大	打斧、剝片石器、剝片、礫	楕円形	┐重複陥穴？
123B	8－9G	———	120×?	93	多	中	剝片石器、剝片		┐
123C	8－9G	———	100×?	114	無				┐
123D	8－9G	———	92×?	114	無				┐
123E	8－9G	径約120	径約40	101	－				┘
124A	8－9G	径約160	径約120	117	少	小	焼石	(円形)	┐重複
124B	8－9G	径約140	径約120	112	少	実		(円形)	┐
124C	8－9G	径約140	径約70	86	少	小		(円形)	┘
125	9－9G	146×140	110×98	50	無			不整円形	
127	6－9G	136×132	112×108	28	無		礫	円形	底部にピット
128	6－9G	112×106	80×72	50	無			円形	西壁にピット重複
129	6－9G	72×66	34×30	51	無			円形	ピット
130	8－9G	径約160	径約100	86	中	小	剝片	不明	11住・131土と重複
131	8－9G	径160以上	120×100	111	無			(円形)	130・132土と重複
132	8－9G	180×(160)	116×100	135	多	小	剝片石器、剝片、礫	円形	124・131・138土と重複
133	8－9G	———	———	67	無			不明	10住・123・138土と重複
134	8－9G	径約160	径約160	119	少	小	剝片	(円形)	10住と重複
135	7－8G	240×(168)	66×58	91	無			不整円形	10住・140土と重複 ●
136	8－8G	132×(128)	84×76	64	無			円形	10住→136土
137	8－9G	180×152	194×168	130	多	中		(楕円形)	10住の施設？
138	8－9G	径約180	径約156	76	多	大	打斧、台石、剝片石器、剝片	円形	10住等と重複、クルミ
139	8－8G	径約100	径約84	(137)	少	中		円形	10住内、新旧不明
140	7－8G	140×124	124×108	118	多	大	磨石、打斧、焼石	楕円形	10住内、新旧不明
141	7－6G	140×132	115×110	120	少	小		円形	9住内、新旧不明
142A	6－6G	径約96	112×92	(150)	無			円形	9住内、新旧不明
142B	6－6G	140×116	120×116	(110)	少	小	磨石、礫	円形	9住内、新旧不明
143	8－8G	184×156	180×148	107	少	小	打斧、凹石	不整円形	10住と重複
144	8－8G	136×116	132×112	154	中	中	磨斧、台石、剝片石器、剝片	円形・袋状	10住内、新旧不明
145A	3－7G	(168×128)	132×104	92	中	大	剝片石器、剝片	楕円形？	┐重複
145B	3－7G	(120×108)	(44)×72	62	無			円形	┐
145C	3－7G	(径約70)	56×48	94	－			円形？	┘146土と重複
146	3－7G	132×(108)	80×72	87	無			円形	145土と重複
147	7－9G	径約200	径約140	84	多	中	尖頭器、剝片石器、剝片	円形	
148	8－8G	(220×220)	164×120	120	少	実		円形＋？	┐重複
149	8－8G	径約192	径約116	106	中	小	剝片石器、剝片、礫	(楕円形)	┐2基？
150	8－8G	径約100	径約112	90	無			(円形)	┐
151	7－8G	径約140	径約140	124	少	小		(円形)	┐
152	7－8G	径約96	144×128	104	少	中	剝片	円形・袋状	┘
1住1	1－10G	径約172	160×150	50	無		磨石	円形	1住と重複、北側
1住2	1－10G	径約152	152×140	62	無			円形	1住と重複、南側


1号
2号
3号
4号
5号
6号
7号
8号
9号
210.90
210.10
209.90
209.30
209.00
209.60
209.90
208.70
0 1：40 1m

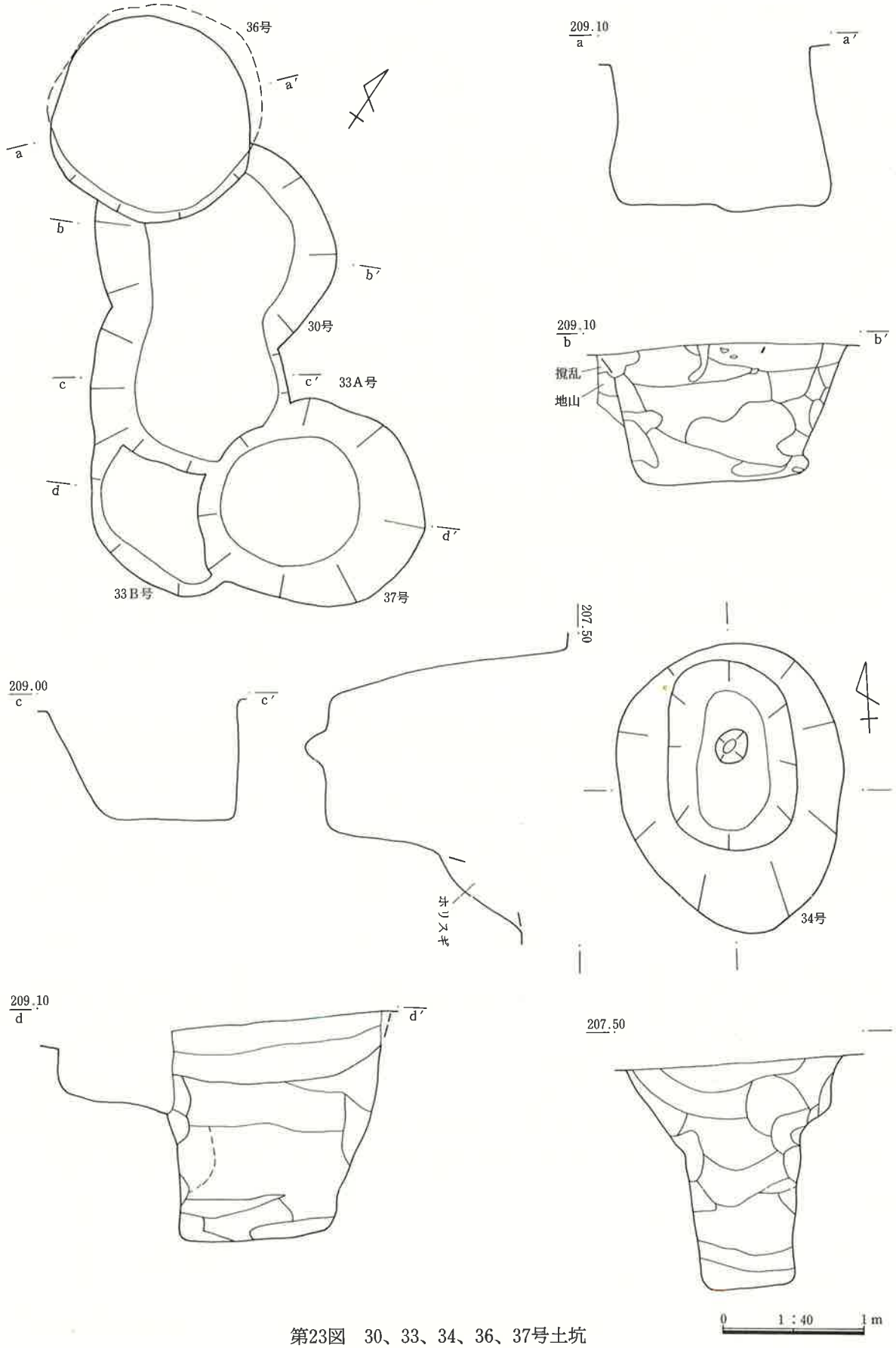
第20図　1～9号土坑



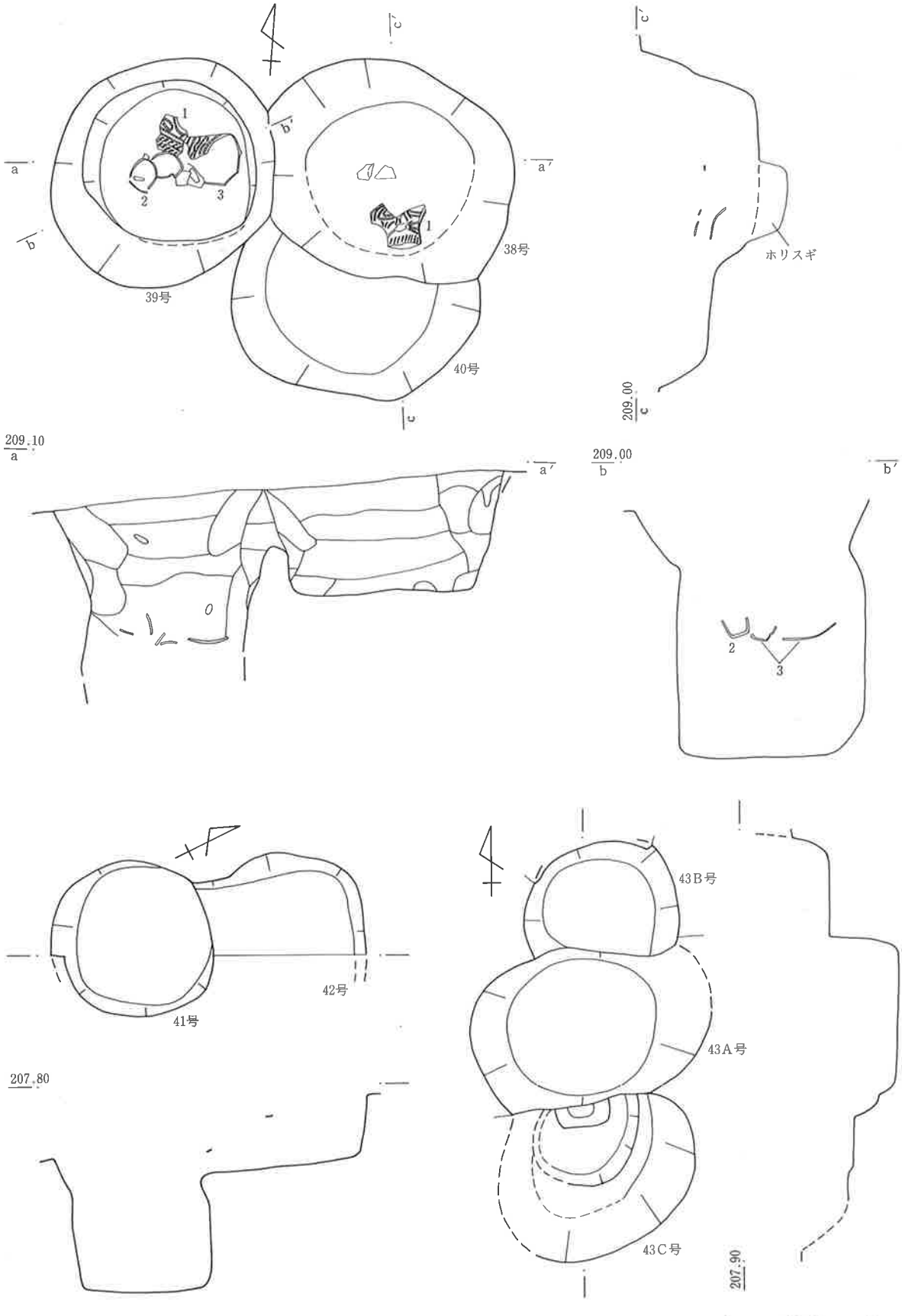
第21図　10～14、16～19号土坑



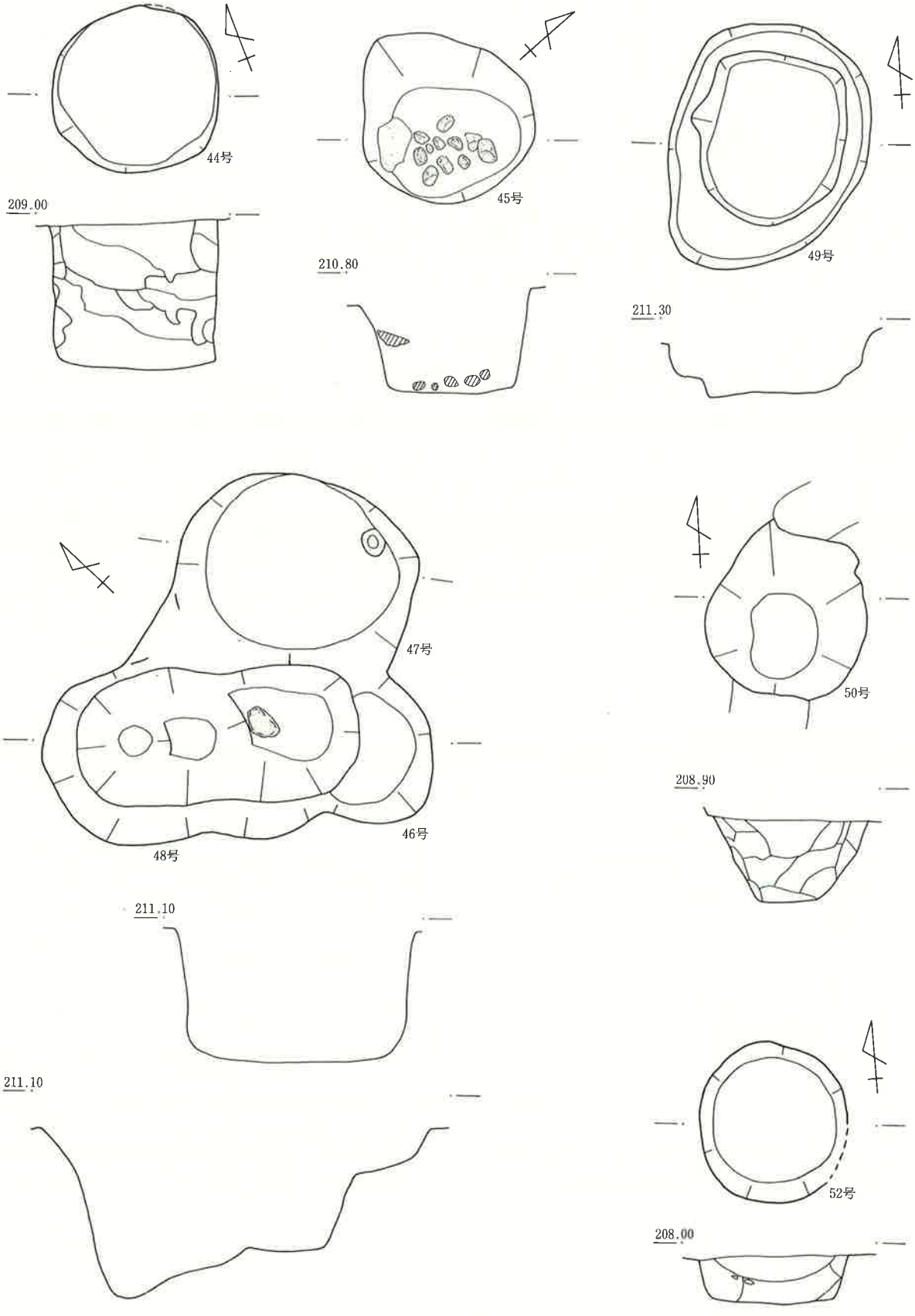
第22図　20～24、29、31、35号土坑



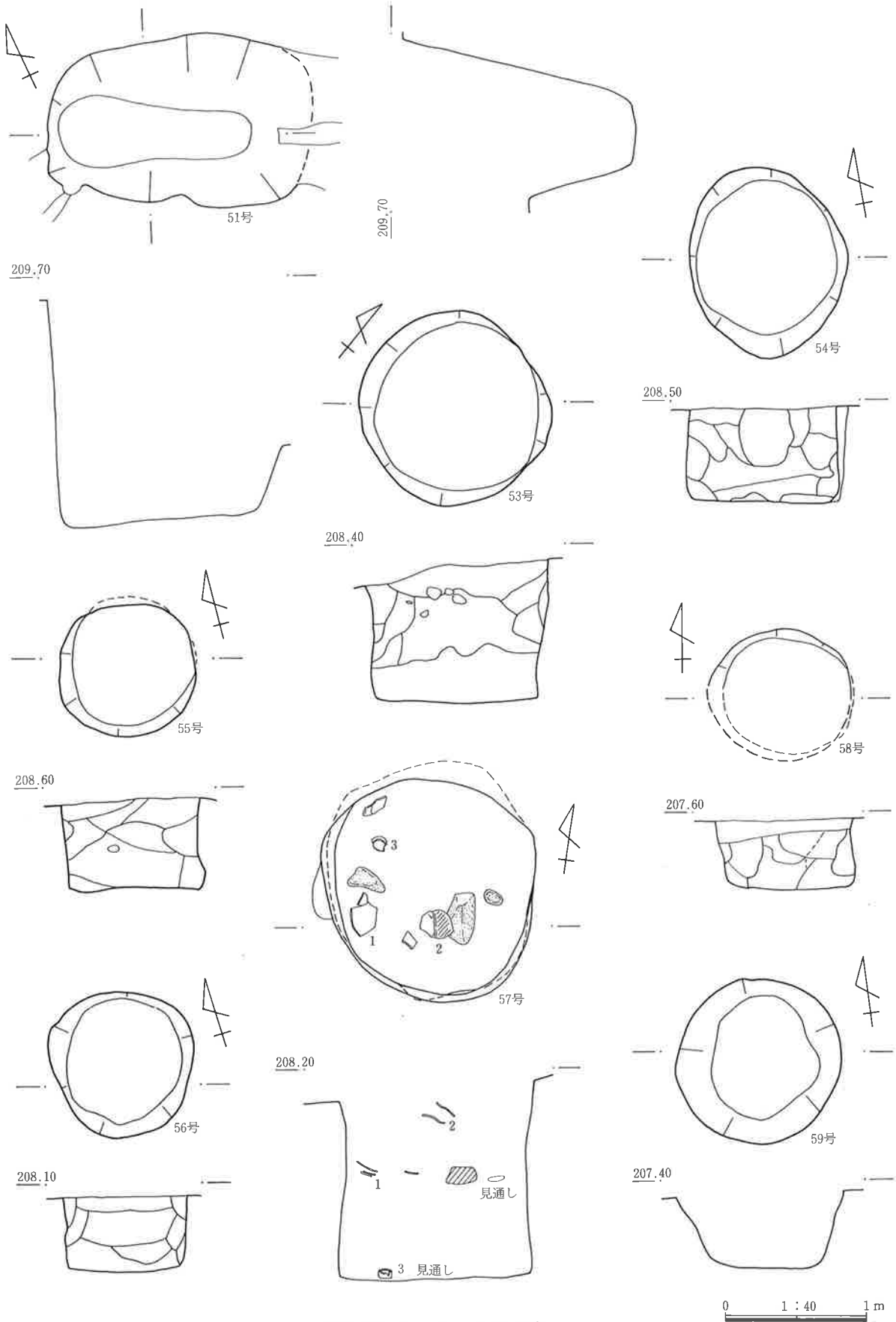
第23図　30、33、34、36、37号土坑



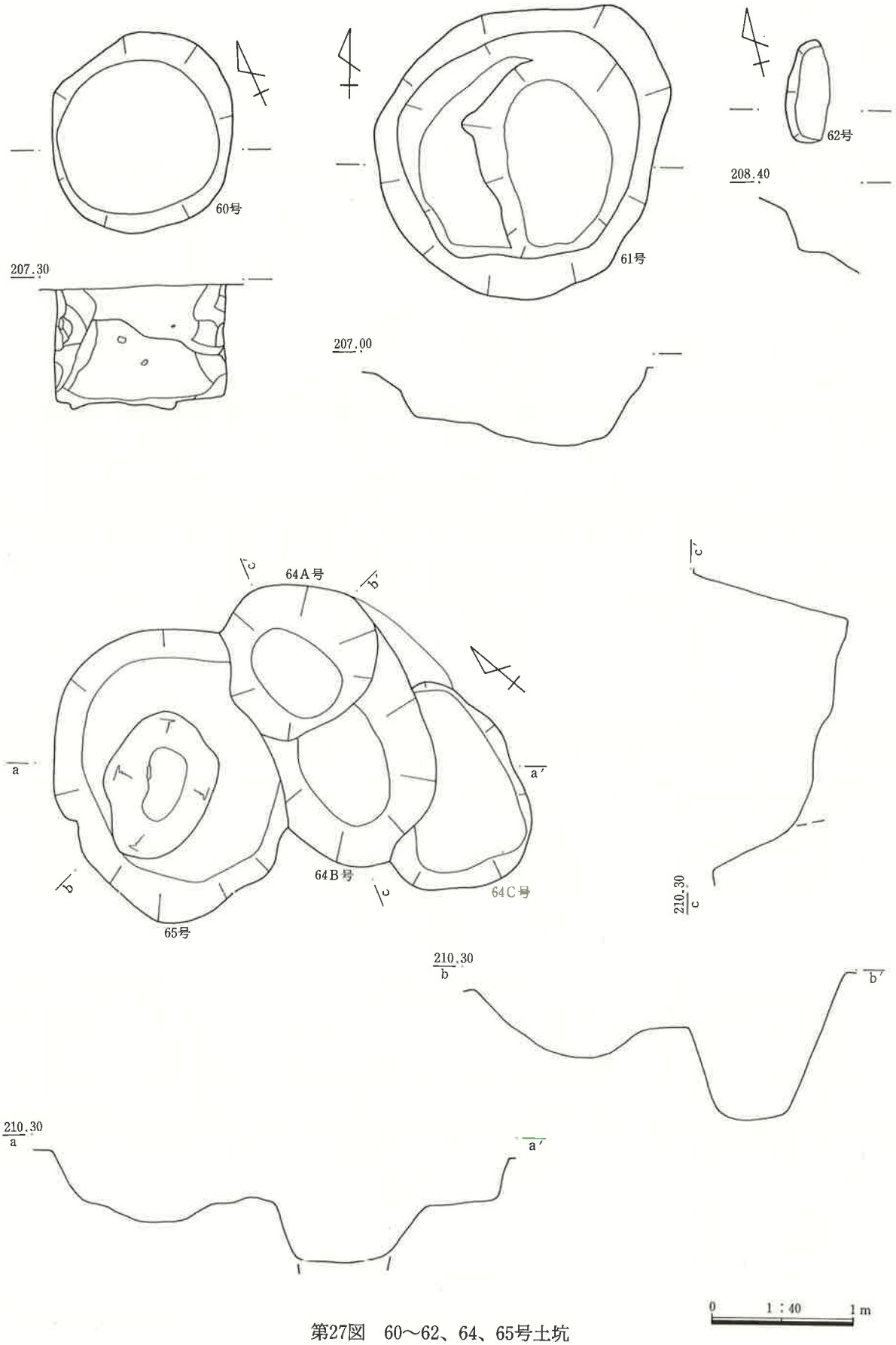
第24図　38～43号土坑



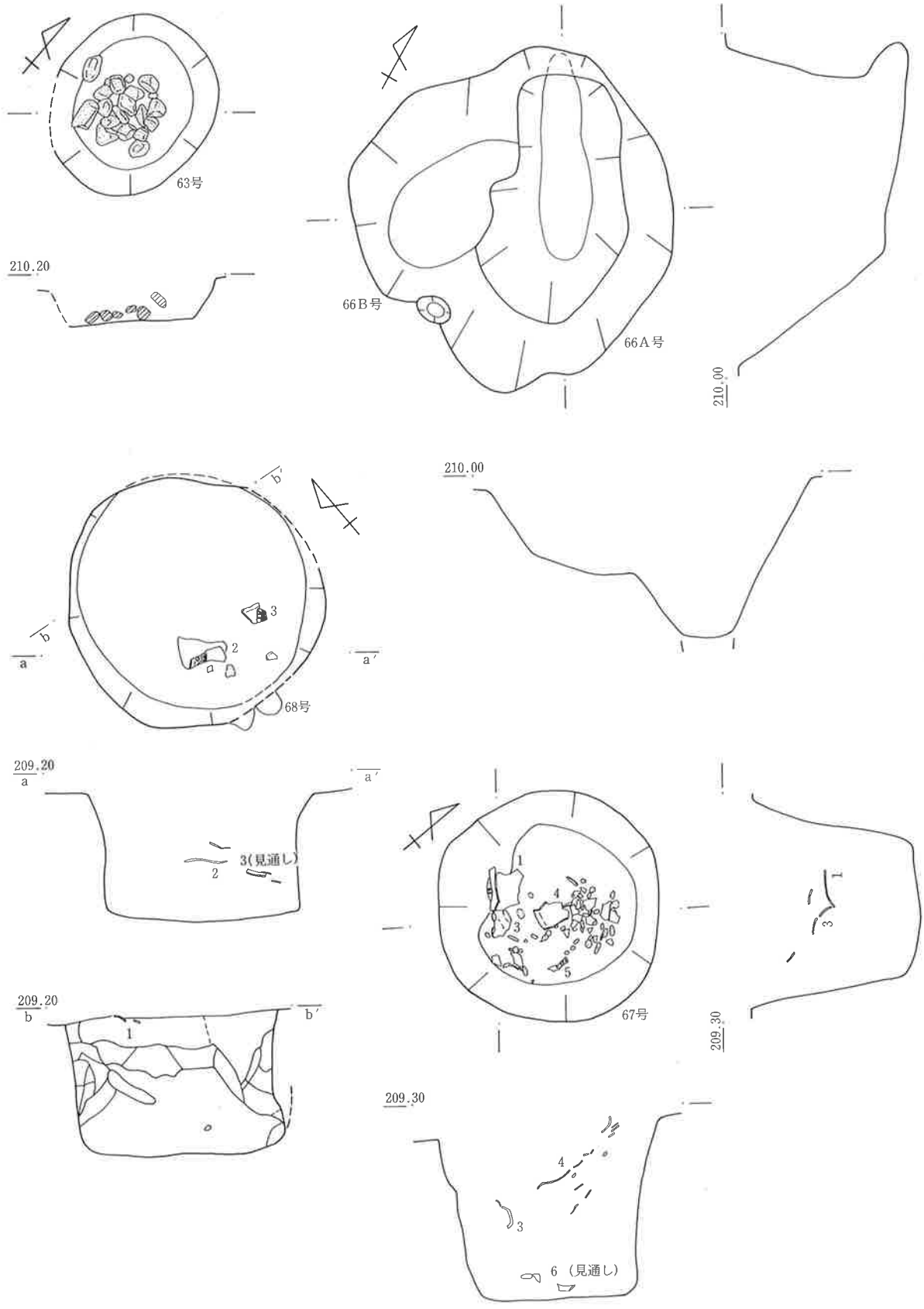
第25図　44～50、52号土坑



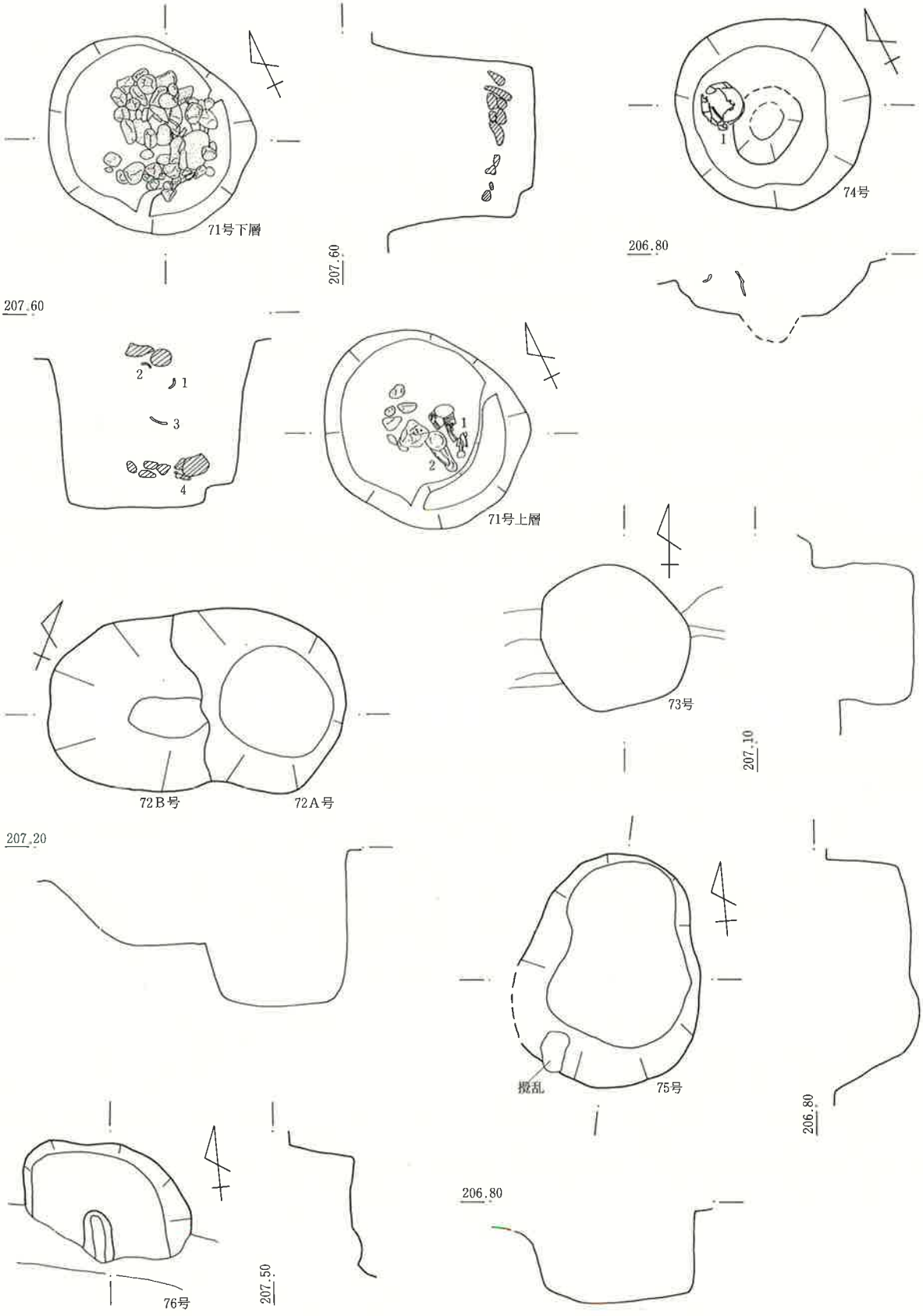
第26図　51、53～59号土坑



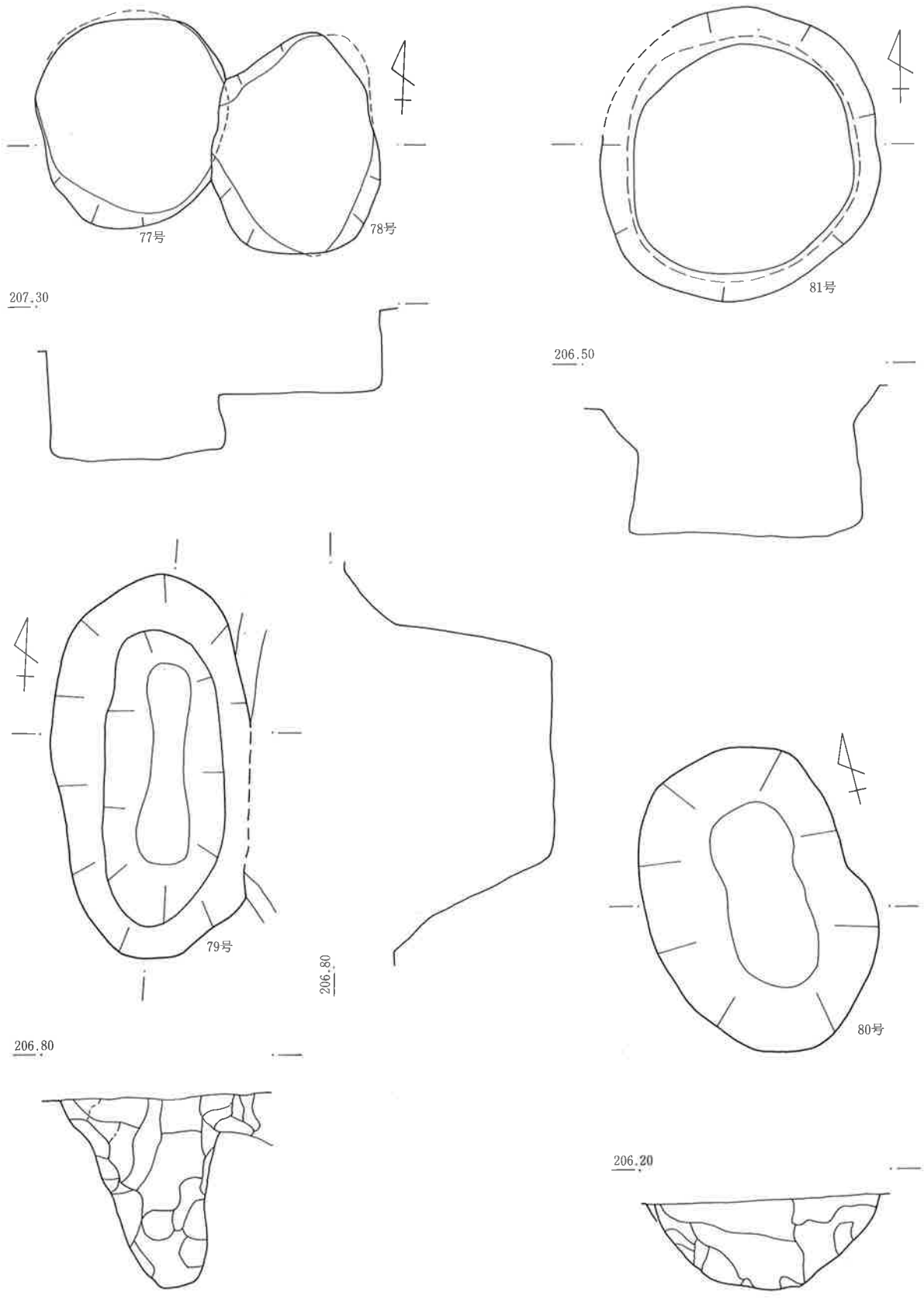
第27図　60～62、64、65号土坑



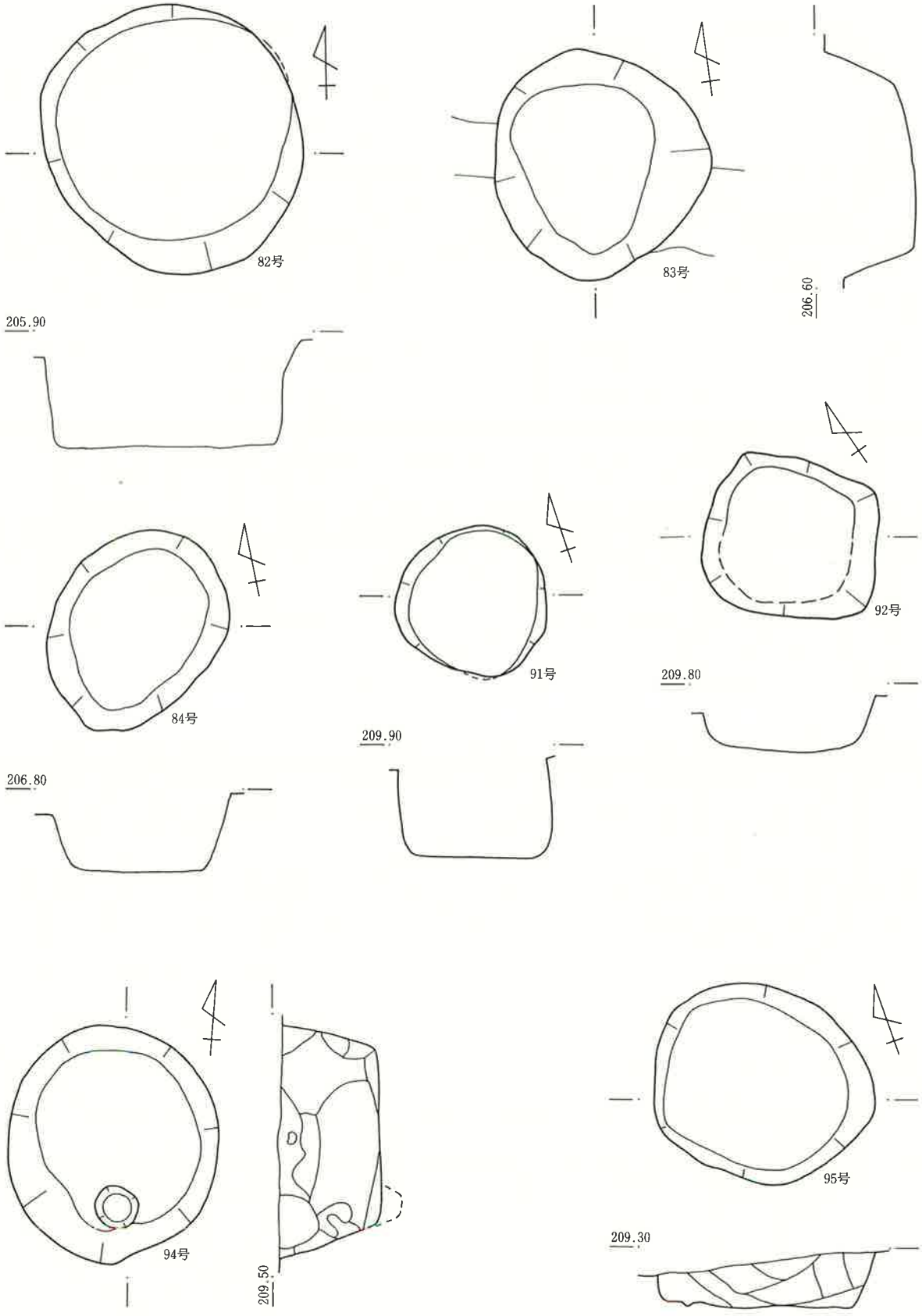
第28図　63、66～68号土坑



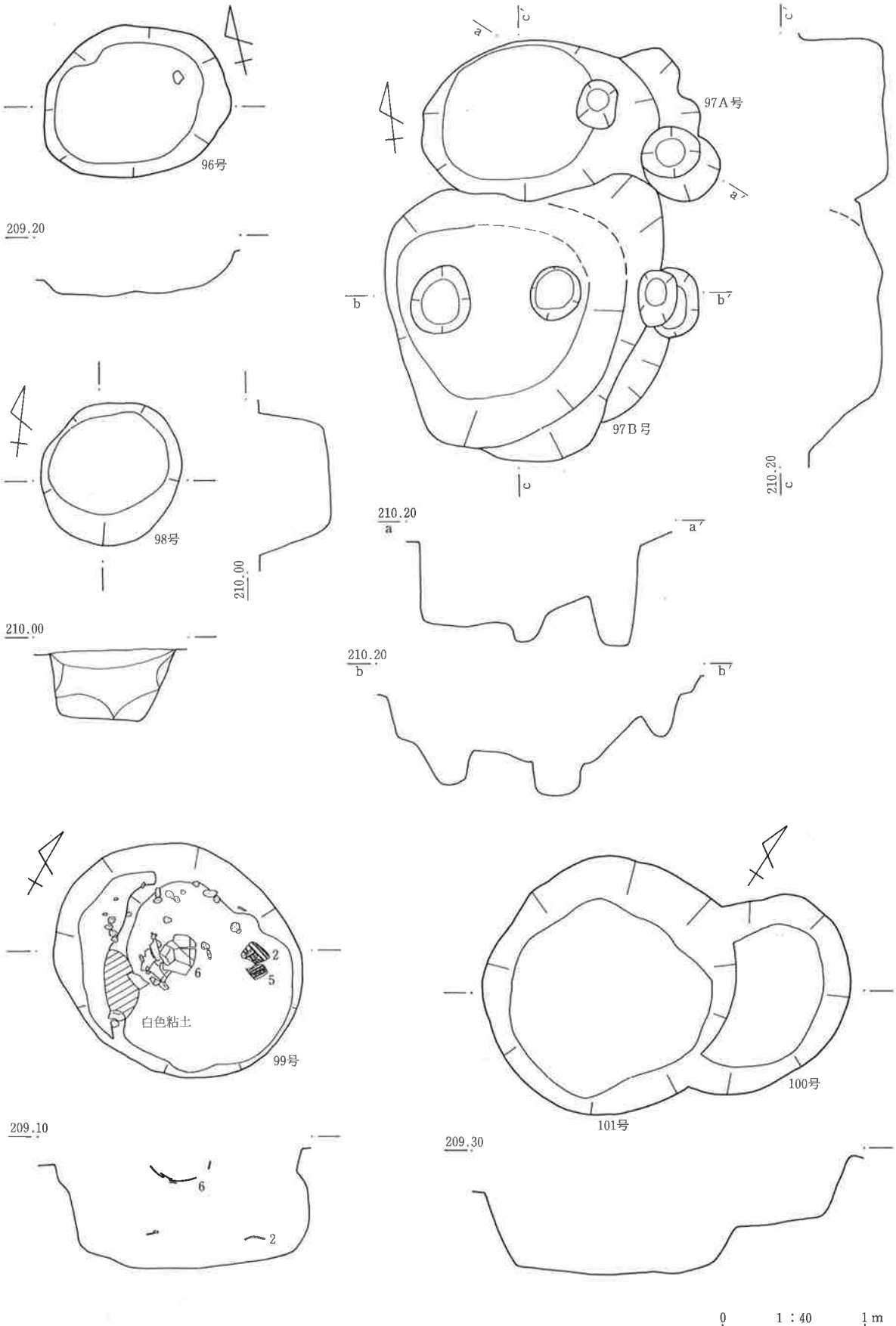
第29図　71～76号土坑



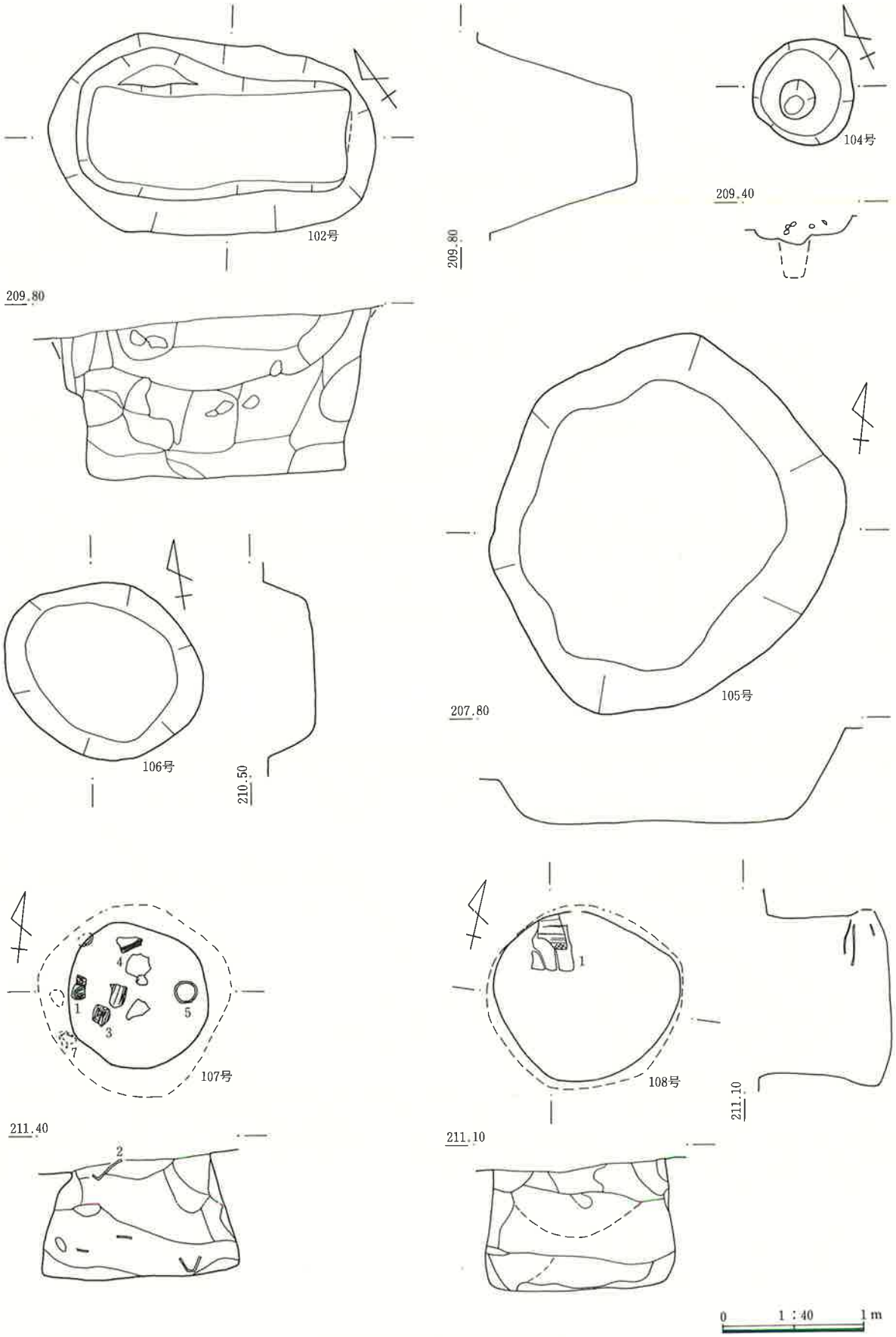
第30図　77～81号土坑



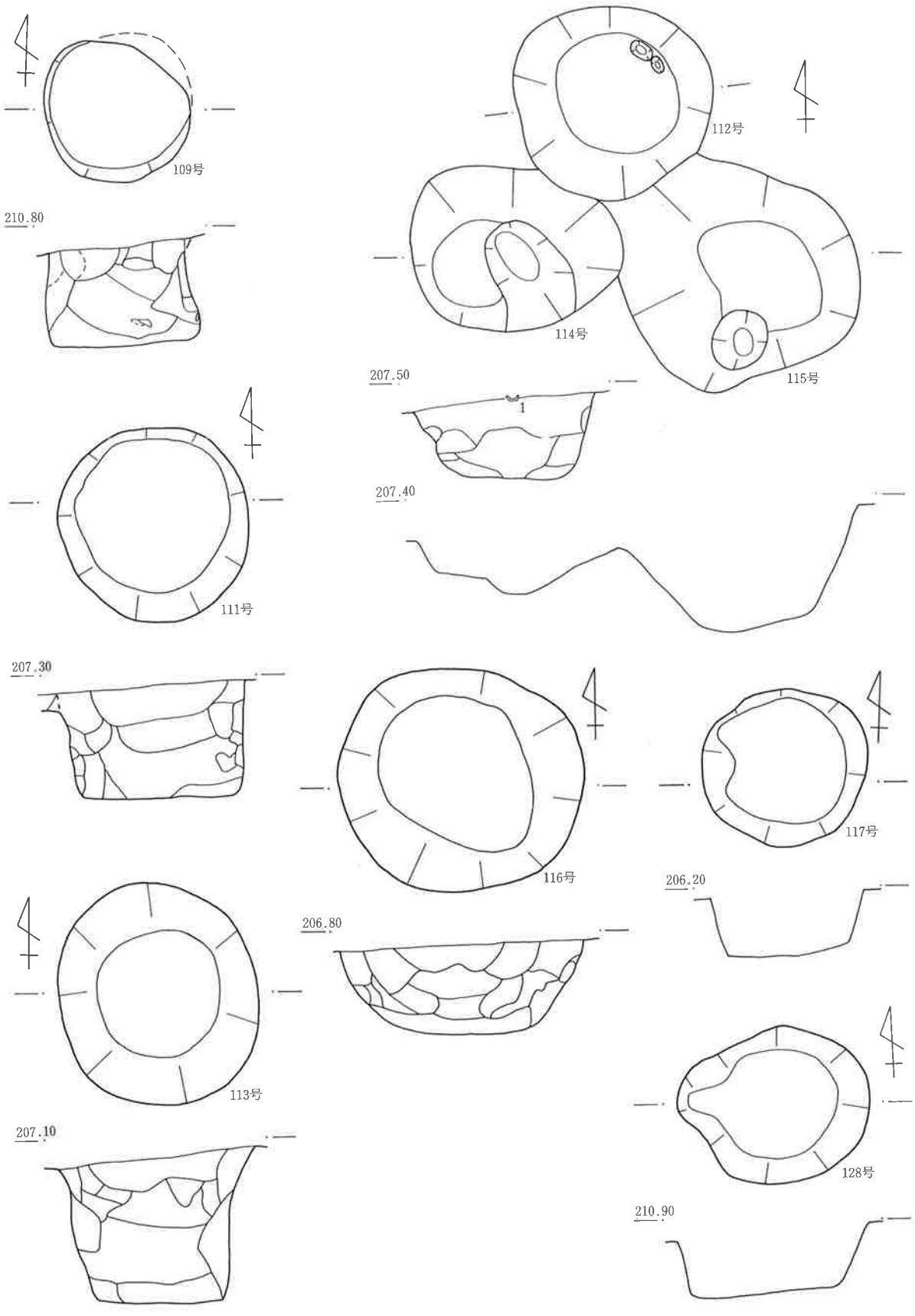
第31図　82～84、91、92、94、95号土坑



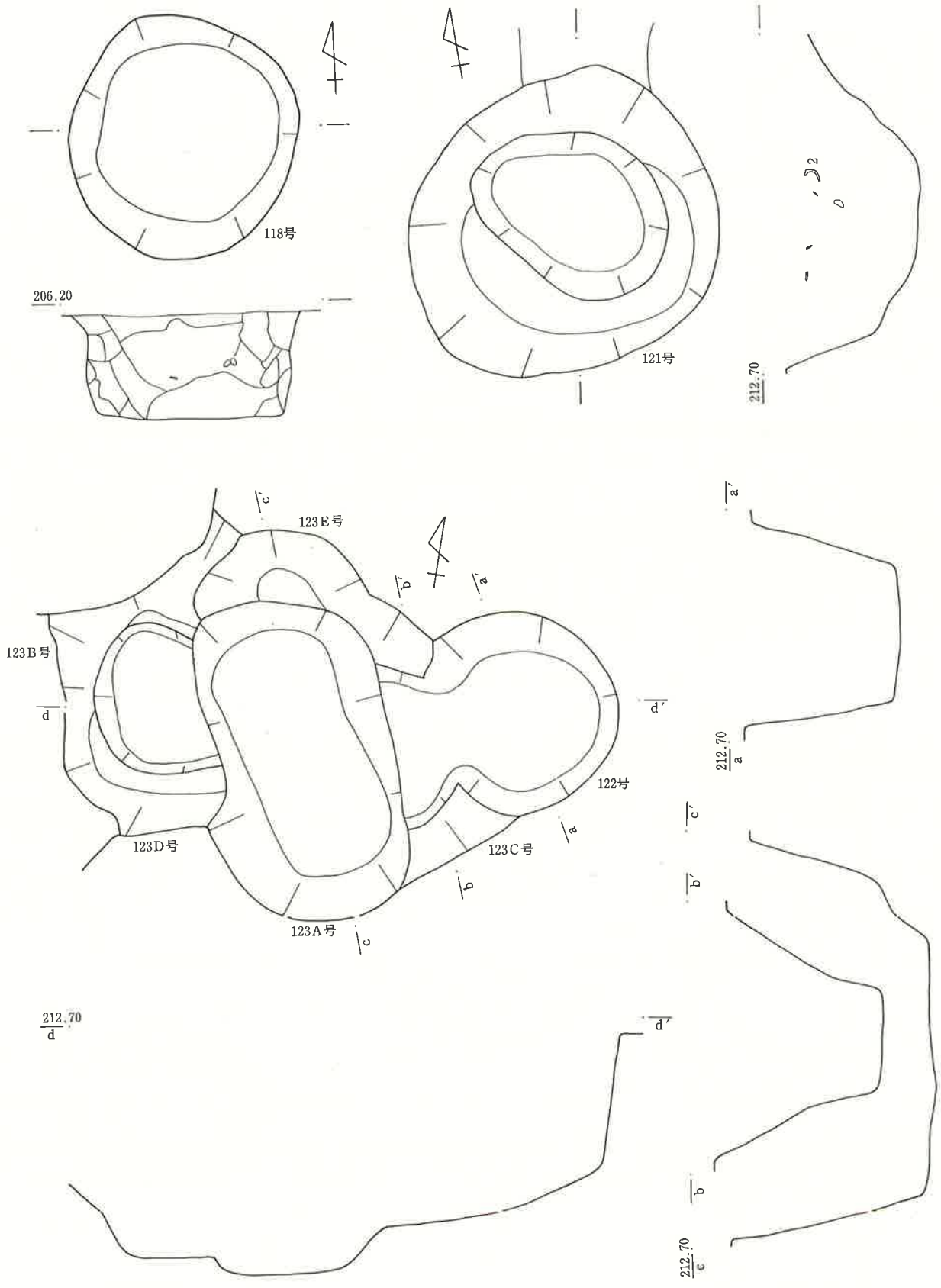
第32図　96～101号土坑



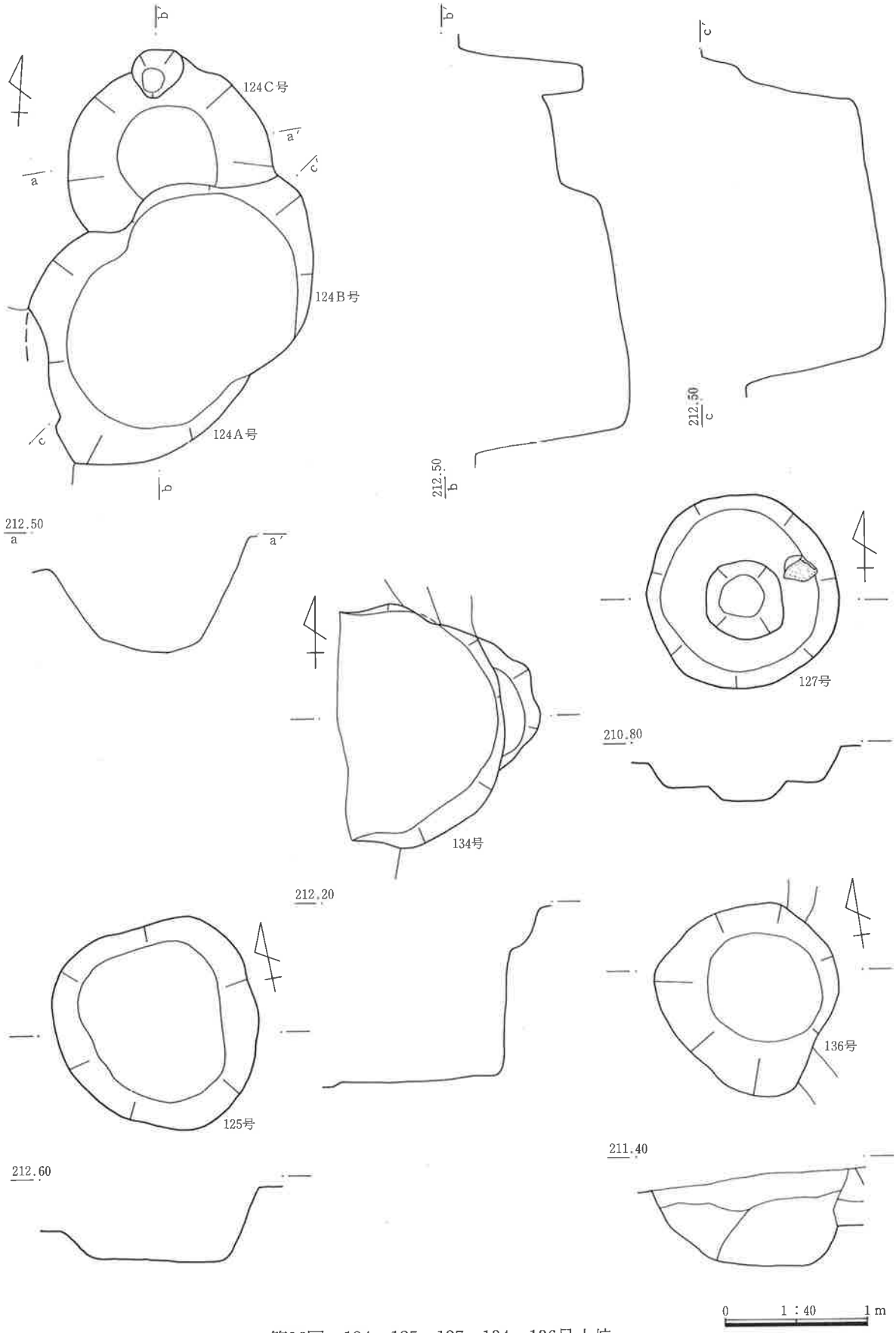
第33図　102、104～108号土坑



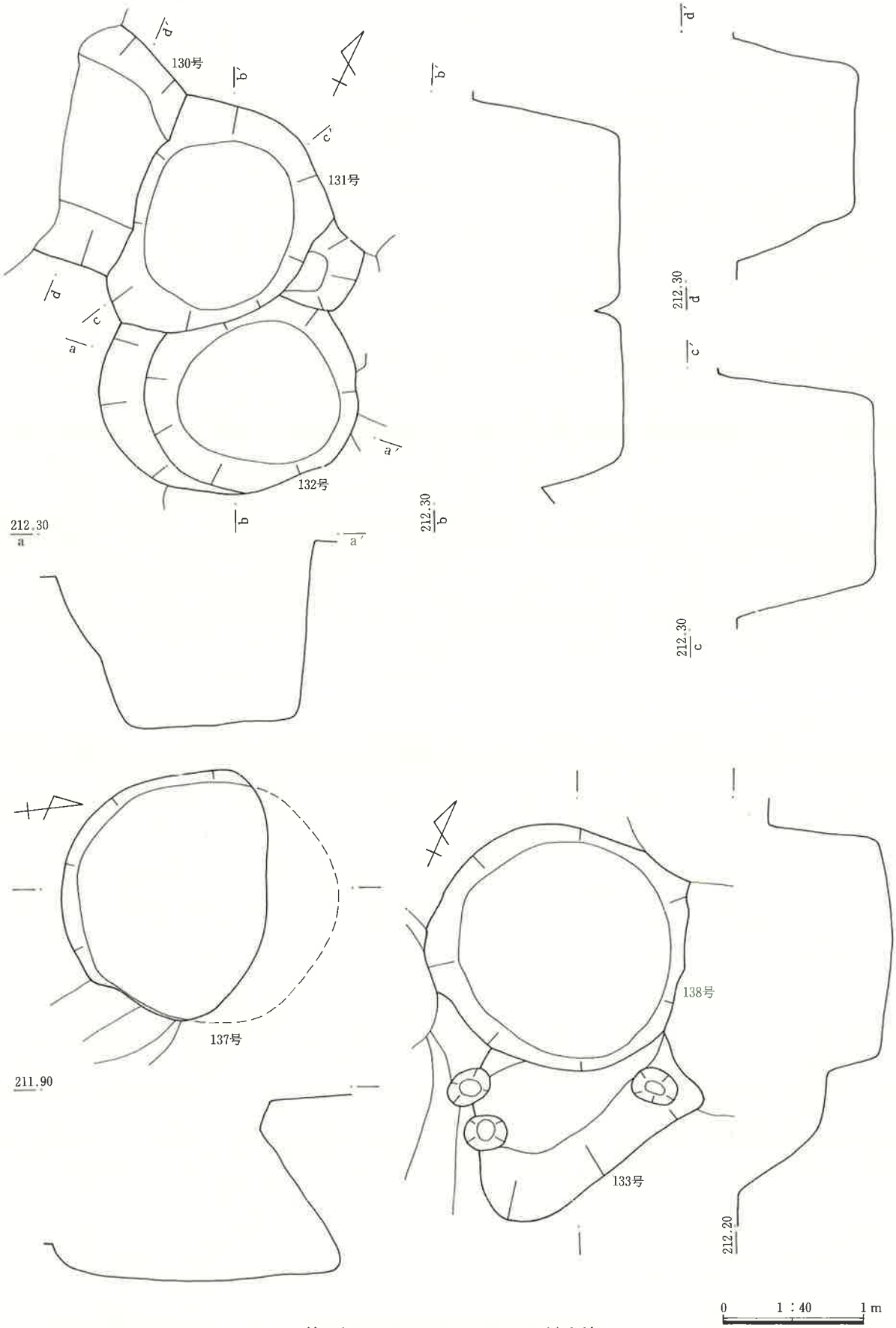
第34図　109、111～117、128号土坑



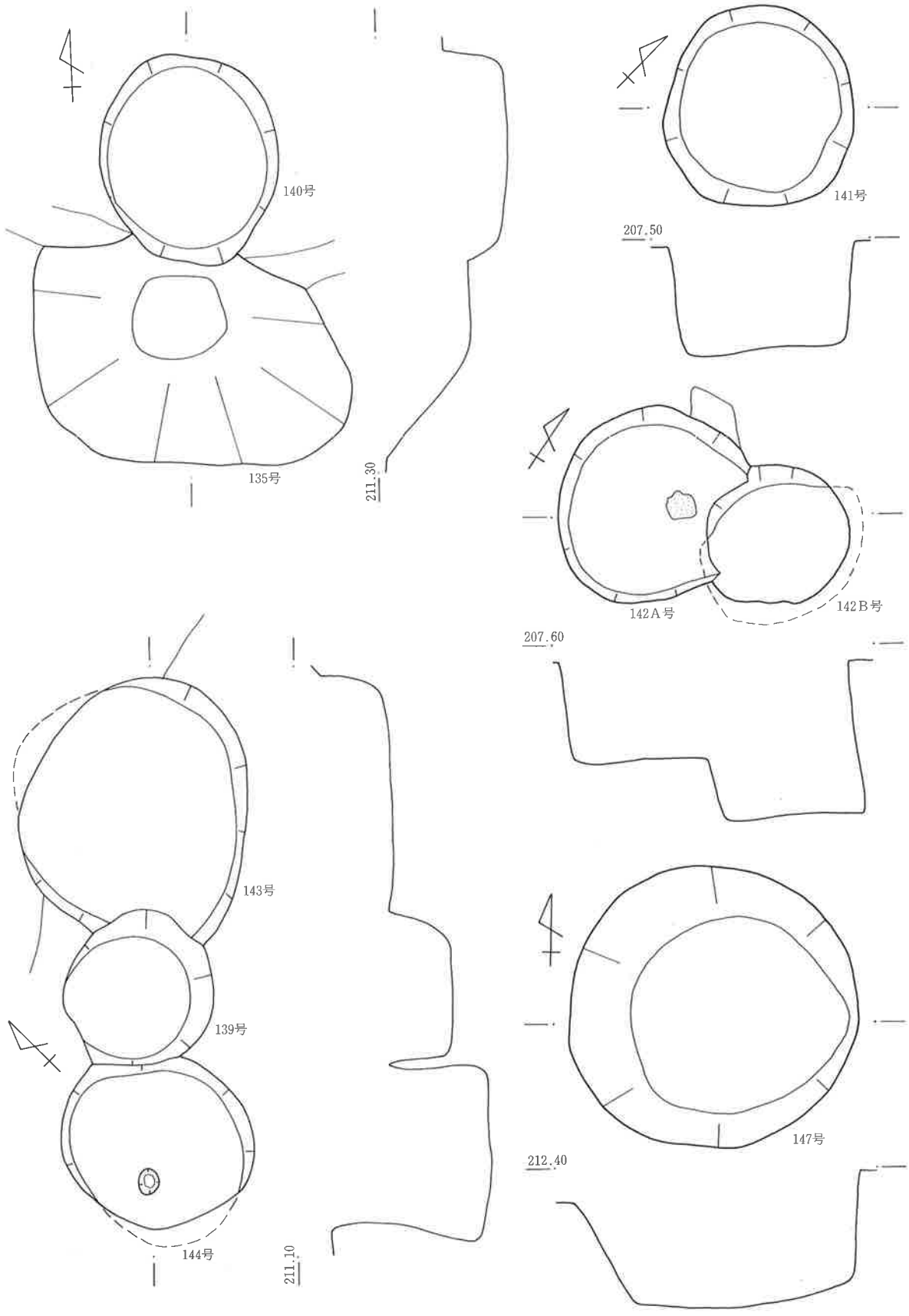
第35図　118、121～123号土坑



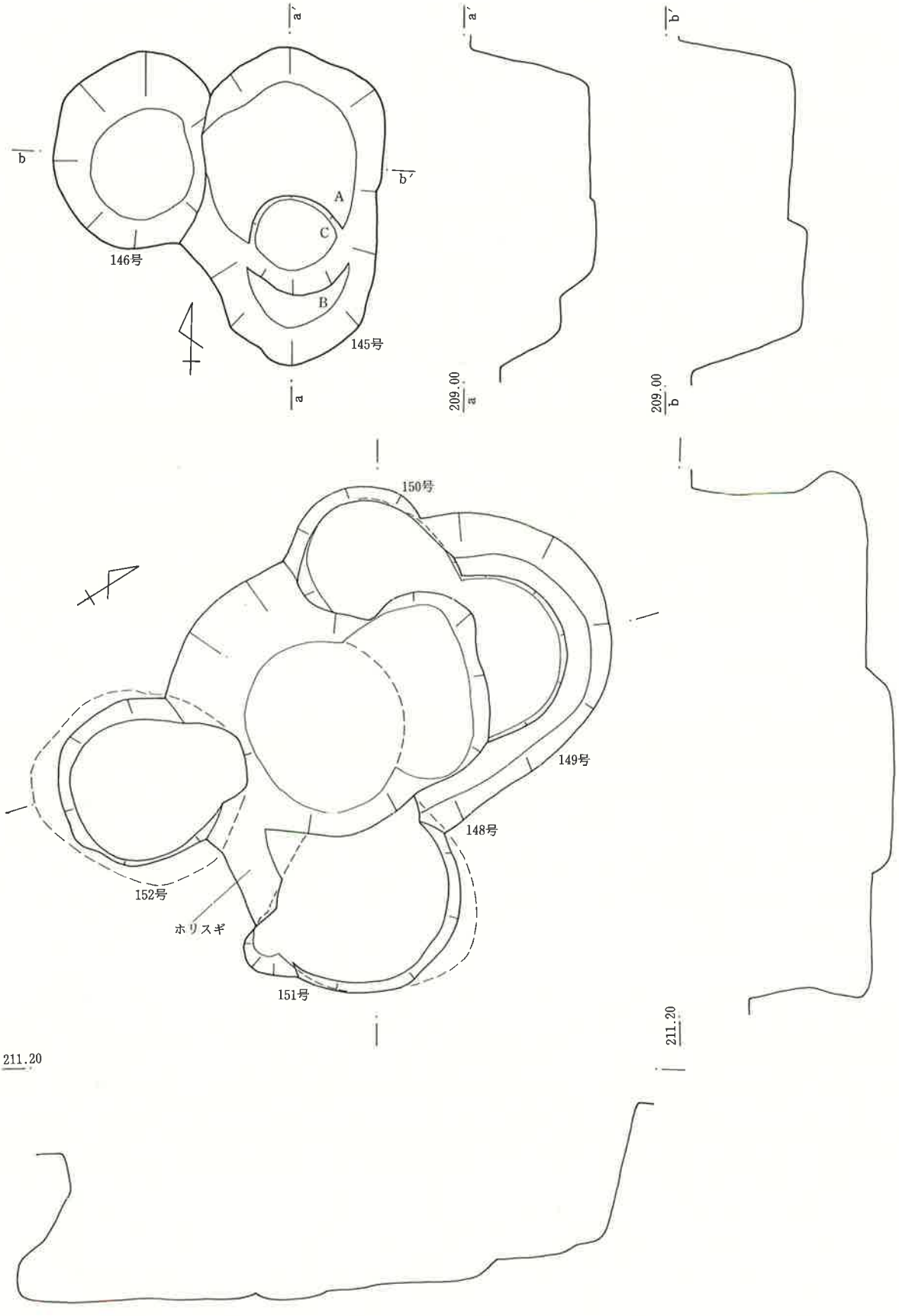
第36図　124、125、127、134、136号土坑



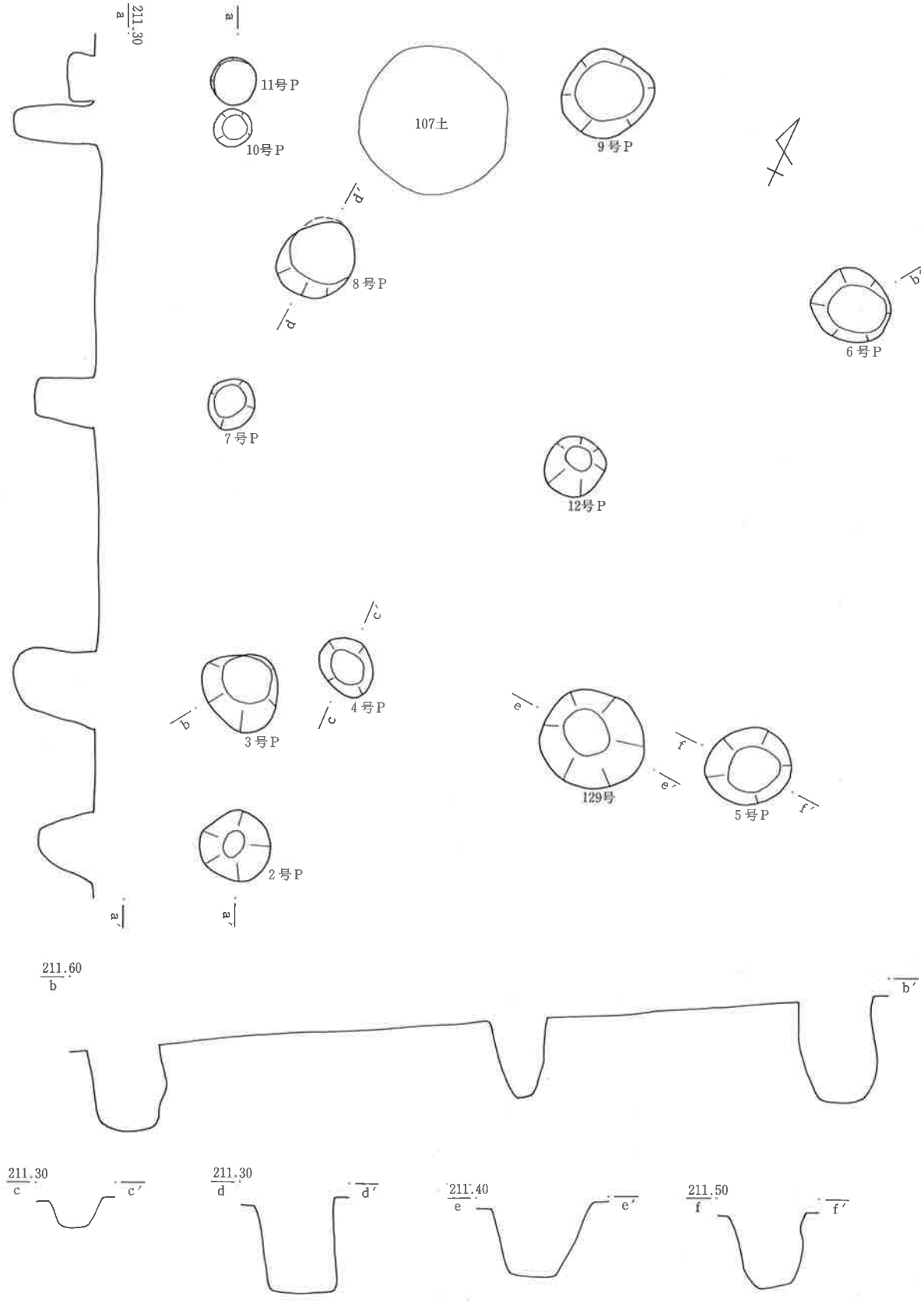
第37図　130～132、137、138号土坑



第38図　135、139～144、147号土坑



第39図　148～152号土坑


211.30
a
a′
11号P
10号P
107土
9号P
d
d′
8号P
6号P
b
b′
7号P
12号P
c
c′
4号P
3号P
b
b′
e
e′
129号
f
f′
5号P
2号P
a′
211.60
b
b′
211.30
c
c′
211.30
d
d′
211.40
e
e′
211.50
f
f′
0
1：40
1m

第40図　ピット群

3．縄文時代の遺物

(1)　出土土器

今回の調査で出土した土器はほとんどが縄文土器であるが、それらを所属型式から大きく第Ⅰ～Ⅶ群土器に分けた。その出土量は第3表に示した。第Ⅲ群土器は量が多いので、文様要素により細分した。さらに文中では独自の文様名を使って解説するが、その詳しい分類基準については、第Ⅵ章、縄文時代前期後半諸磯ｂ～ｃ式土器の考察を参考にしていただきたい。

第Ⅰ群土器　縄文時代草創期後半（稲荷台式）
第Ⅱ群土器　縄文時代前期前半　（有尾式併行）
第Ⅲ群土器　縄文時代前期後半　（諸磯ｂ、ｃ式）
　1類　櫛歯文土器；櫛歯文により文様を描いたもの。
　2類　爪形文土器；爪形文により文様を描いたもの。
　2′類　爪形文＋隆帯文土器；爪形文と隆帯により文様を描いたもの。
　3類　浮線文土器；浮線文により文様を描いたもの。
　4類　平行沈線文土器；平行沈線文により文様を描いたもの。
　4′類　平行沈線文＋隆帯文土器；沈線文と隆帯により文様を描いたもの。
　5類　集合沈線文土器；集合沈線文により文様を描いたもの。
　6類　縄文土器；縄文が施文されたのみのもの。
　7類　無文土器；無文のもの。（1～7類は深鉢形土器）
　8類　浅鉢形土器。
第Ⅳ群土器　縄文時代前期後半　（浮島、興津式）
第Ⅴ群土器　縄文時代前期後半　（北白川下層Ⅱｃ式）
第Ⅵ群土器　縄文時代中期　　（勝坂式～加曽利Ｅ式併行）
第Ⅶ群土器　縄文時代後期

―住居―

第1号住居跡出土土器（第41～45図）

第Ⅲ群土器2類、爪形文土器（10～18）14は渦巻文、17は横位弧線文（向弧型）、18は蕨手文が描かれている。

第Ⅲ群土器3類、浮線文土器（19～39、141）　浮線上には刻みが施されるのが普通だが、26の刻みは浮線一本に対して羽状に刻んでいる点が珍しい。また33は先端の尖った丸棒状工具を刺突した列点を浮線の両側に沿わせている。38、39の浮線は厚さが非常に薄く、浮線が無いようにも見える。

第Ⅲ群土器4類、平行沈線文土器（8、40～45、47、48、61～67、72、74～76、78、80～92、94～96、103～118、121、124～126、129、131、132、134、135）　8は胴上半に格子目文、下半に横位矢羽根状文が描かれ、底部が上底である。破片では40は波状文、41、42は横線文、47は縦位背弧線文、76は縦区画縦位向弧線文が描かれる。また62は木葉文、103、104は格子目文である。80は菱形文、95、96は短渦巻文を描いている。

第Ⅲ群土器5類、集合沈線文土器（1～7、49～60、68～71、73、77、93、97～102、119、120、122、123、

127、128、130、133、136）　1は矢羽根状文を含んだ四単位の縦区画線（第41図ア）を引いた後、その間に向い合った弧線文（向弧線文）を配し（第41図イ）、弧線文内にはさらに斜線や矢羽根状文を書き込んだ（第41図ウ）ものである。突起は口縁部に限定されるが、四単位縦位垂下文に対応する位置には二個一対の刺突付棒状突起が付き、その間には棒状突起と二個一対のボタン状貼付文が配されている。施文順序は棒状突起→集合沈線文→ボタン状貼付文。二個一対の棒状突起の両側には楕円孔がある。2は四単位の縦の区画線を垂下させ（第41図ア）、その間に向弧線文（第41図イ）を引き、さらにその内部にも弧線文を描いている（第図ウ）。区画線上には刺突付棒状貼付文が付く。施文順序は棒状貼付文→集合沈線文。3は複屈曲口縁をもつが、波頂部が内へくぼみ、その両側では口唇部がめくれている。4、5は横位の矢羽根状文がつくが、5は埋設土器である。6は風車状渦巻文。7は縦位に展開する弧線文が描かれ、複屈曲口縁で、波頂部に棒状突起が付く。その他、文様のわかるものとして、58は横線文、59、77は縦位向弧線文、60は縦区画縦位向弧線文、68～71は風車状渦巻文、93は縦位背弧線文、98～102は矢羽根状文が描かれている。

第Ⅲ群土器6類、縄文土器（9、137～140、142～160、165）　無節、単節、羽状、非羽状などの種類がある。160にはボタン状貼付文がある。

第Ⅲ群土器7類、無文土器（46、161、162）

第Ⅲ群土器8類、浅鉢形土器（163～168）　163、164は無文の内湾浅鉢の口縁部破片である。163は多くの円孔が巡ると思われる（多孔型）。ともに口唇はやや直立気味である。166は複段内湾浅鉢の上段部で、おそらく上面が平坦で円孔が多く開くもの（多孔型）であろう。167は胴下半の屈折する稜部の破片である。

第Ⅳ群土器（169～177）　169、171～173は変形爪形文をもつ。爪形文の幅の広いものが多いが、中でも171、173は特に広い。両者は細い平行沈線文により矢羽根状文や弧線文も描かれており、浮島Ⅲ式（～興津Ⅰ式）と思われる。174、175は爪形文をもつ。175は竹管を器面に直角かやや鈍角気味に傾けて施文しており、文様も横位構成をなす点から、興津Ⅰ式と考えられる。176は刺突文であるが、三角文に類似する。177はアナダラ属の貝殻を寝せ気味にして施文したため放射肋痕が横に伸びた貝殻文土器である。

第2号住居跡出土土器（第46、47図）

第Ⅱ群土器（5～7）　みな繊維を含む。5、6は列点文で菱形文を描出したもの。7は縄文が付くのみである。

第Ⅲ群土器2類、爪形文土器（1、2、8～32、34）　1は二単位波状口縁をもつ。2は大波状文が描かれている。破片資料では15、16などには蕨手文、23、24は横位弧線文（向弧型）が描かれている。また31、32は爪形文間にD字刺突文が付いている。

第Ⅲ群土器3類、浮線文土器（35～37）

第Ⅲ群土器4類、平行沈線文土器（3、33、38～54）　3は渦巻文を描いたものである。40や52は菱形文を描いた後、中に小さい渦巻文を埋めている。また42は格子目文、43～45は波状文、51は菱形文を描いている。53は矢羽根状文が描かれているが、器厚が非常に薄く、諸磯式でないかもしれない。

第Ⅲ群土器6類、縄文土器（4、55～71）　66のみＬＲだが、他はみなＲＬ縄文である。

第Ⅲ群土器8類、浅鉢形土器（72、73）　72は有稜浅鉢で、胴下半に縄文が付いている。73は内湾浅鉢で一条の隆帯と円孔が巡っている（多孔型隆帯付き）。

第3号住居跡出土土器（第48～52図）

第Ⅰ群土器（15）　縦位の撚糸文を施文している。条間隔が開き気味である。稲荷台式土器であろう。

第Ⅱ群土器（1、2、16～58）　本群は繊維を含む。1は床面直上出土で、この住居跡の時期を決定している。器面は凹凸し、何らかの文様が施文されているようにも思えるがはっきりしない。2は平行沈線で葉脈文を描いたものである。文様には列点文を施文した16～18、平行沈線文を施文した19～23、縄文のみの24～58がある。列点文は16のような菱形文構成を、平行沈線文も菱形ないしは葉脈状の文様をなすように思われる。縄文では無節、単節、羽状縄文などがある。底部は2、58のごとく上底である。

第Ⅲ群土器1類、櫛歯文土器（3、4）　ともに波状文をなしている。

第Ⅲ群土器2類、爪形文土器（5、7～11、59～63、65～80）　5、7は入組木葉文、8、9は蕨手文、10は渦巻文、11は横位弧線文（背弧型）が描かれている。なお80の爪形文は断面中央のへこむ凹型である。

第Ⅲ群土器2′類、爪形文＋隆帯文土器（64）　口縁部に隆帯が巡っている。

第Ⅲ群土器3類、浮線文土器（81）

第Ⅲ群土器4類、平行沈線文土器（12、14、82～98）　12は遺存が悪いが、蕨手文をなすのだろうか。14は平行沈線で格子目文を描いた後に、爪形文で文様帯の区画を行っている。82～84は文様は不明だが、単頭突起が付いている。85は菱形文、92は波状文、90、97、98は格子目文の描かれた土器である。格子目文土器には単沈線で描いたもの（97）もある。

第Ⅲ群土器6類、縄文土器（99～131）　99～101は無節Ｌ、126～129は単節ＬＲ、その他の大多数は単節ＲＬ縄文が施文されている。129～131は底部資料。

第Ⅲ群土器7類、無文土器（13）　ミニチュア土器である。

第Ⅲ群土器8類、浅鉢形土器（6、132～134）　6は湾曲度の弱い内湾浅鉢（弱内湾浅鉢）で、入組木葉文が描かれている。132は稜をもつ有稜浅鉢、133は湾曲度の弱い内湾浅鉢である。

第4号住居跡出土土器（第53～71図）

第Ⅱ群土器（67～72、336）　67、336は列点文、68～72は縄文が施文されている。72は附加条である。

第Ⅲ群土器1類、櫛歯文土器（1、246～249）　全て波状文を描いている。

第Ⅲ群土器2類、爪形文土器（2～26、73～79、81～92、94～107、109～143、145～164、166～169、172～183）　2～7は蕨手文、8～10、12、14、15は横位弧線文（向弧型）、17、18は横位弧線文（背弧型）、19～21は渦巻文をもつ土器である。また24は鋸歯状文であるが、上下の鋸歯状文の山谷、谷山がうまく並んでおり、25の菱形文に変化するように思われる。

拓本資料では、73～79、81～92、94～107、109～136は口縁部資料。口唇部には刻み、凹み、爪形文、隆線などの加工が施されるものがある。また突起をもつものでは、単頭突起（100～102）、双頭突起（98、99）、鰭状突起（104）などがある。文様では138～140は木葉文、141～143、145～153は蕨手文、154～156は横位弧線文（向弧型）、159～162は横位弧線文（背弧型）、167～169は渦巻文が描かれている。

珍しい資料としては、断面中央のへこんだ爪形文（凹型）を使用した79がある。

第Ⅲ群土器2′類、爪形文＋隆帯文土器（27、80、93、108、144、165、170、171、199、200）　27では爪形文は横走するだけであるが、隆帯は枠状に配されている。80は口縁部に、爪形文に直交して隆帯が付いている。199は爪形文と離れて隆帯が付いている。170、171、200などは爪形文間が隆起したもので、爪形文押捺時の粘土の盛り上りとも考えられるが、隆起部の厚さが著しく厚いことから隆帯と判断した。浮線文発生を

考えるうえで注目すべき資料であろう。

第Ⅲ群土器３類、浮線文土器（28～41、184～198、201～225）　28は瘤状の貼付がある。29、32はπ字蕨手文、30は枠状文、34～37はπ字蕨手文（渦巻型）、38は多重渦巻文を文様とする。

拓本資料では、184～198に口縁部資料をまとめた。口唇部には刻みや隆線が付いたものがある。特に184や188は波状、189は眼鏡状の隆線をもつ。187は獣面突起（簡素型）が付いている。文様は184が蕨手文、185はπ字蕨手文、186はπ字蕨手文（渦巻型）、197は枠状文を描いている。209は一部に瘤状の貼付がある。また198、203は浮線と言うより微隆起線であり、異質である。219～225は底部資料である。

第Ⅲ群土器４類、平行沈線文土器（42～46、48～56、226～245、250～291）　42、45は大波状文、43、44は波状文、46は横位弧線文（背弧型）を文様にもつ。48～54は格子目文土器である。50～52は爪形文を区画文としてもつが、これら格子目文は区画文よりも先に描かれているという特徴をもち、諸磯式一般の施文順序（区画文→区画内文様）とは異っている。また格子目文を描く沈線は区画文の沈線と同一幅のもののほか、それよりも細いもの（48、52）や単沈線のもの（51）があり、これも諸磯式にはあまりない。

拓本資料では226～245は口縁部破片を置いた。文様は226の波状文、227、250、251の木葉文、253の大波状文、259、260の横位弧線文（向弧型）、261～266の横位弧線文（背弧型）、267の渦巻文などがある。他に269の山形文、234～240、271～278の格子目文、279、281の横線文もある。

第Ⅲ群土器４′類、平行沈線文＋隆帯文土器（47）　47の口縁部文様は隆帯で枠状に区画した中に平行沈線文で格子文を描いている。胴部は平行沈線による木葉文からなるが、胴部の沈線は口縁部の沈線より太い。

第Ⅲ群土器６類、縄文土器（57～59、292～383）　292～296は口縁部破片だが、刻みをもつものがある。原体では、無節、単節、結束をもつ羽状縄文などの種類があるが、ＲＬの優位が伺われる。

第Ⅲ群土器８類、浅鉢形土器（60～66、384～387）　60は縄文の付いた湾曲度の弱い内湾浅鉢である（弱内湾浅鉢）。61は無文の底部付近の資料である。62は胴部に稜をもつ有稜浅鉢だが、胴上半が開き、口縁部が内湾している（屈折口縁型）。63も屈折口縁型だが、口縁部が平坦面をなし、その上に渦巻く隆線が貼付されている。胴部の屈折点には刻みが付き、その直上が強くくびれる。胎土に金雲母を含む。64は口縁部に隆線が貼付され、胴部に沈線文による木葉文が描かれる。65も有稜浅鉢（屈折口縁型）になると思われるが、口縁部に波状の隆線文、胴部は沈線による木葉文が施される。66も類似した器形をなし、胴部屈折点には刻みが、それ以下では木葉文が付けられている。64～66は赤塗されている。384は内湾するもので、口縁部に円孔と隆帯が巡る（内湾浅鉢多孔型隆帯付き）。385は有稜浅鉢で、沈線による木葉文が描かれる。386、387は隆帯を伴う内湾浅鉢で、胴部には沈線による木葉文が描かれている。

第Ⅳ群土器（388）　貝殻文を地文とした上に平行沈線文が描かれている。貝殻文はアナダラ属の貝殻により付けたもので、稚拙な感じがする。おそらく浮島Ⅰｂ式であろう。

第５号住居跡出土土器（第72、73図）

第Ⅲ群土器２類、爪形文土器（１、７～26）　１は渦巻文、12、13、15、18は蕨手文を文様とする。

第Ⅲ群土器３類、浮線文土器（27～33）　27は獣面突起が付いている。また29はπ字蕨手文、30は枠状文、31は横線文が描かれている。

第Ⅲ群土器４類、平行沈線文土器（34～47）　34、36、45は菱形文、40は鋸歯状文、46は格子目文を文様としている。

第Ⅲ群土器６類、縄文土器（４、48～63）　原体は無節、単節、羽状縄文などがある。

第Ⅲ群土器８類、浅鉢形土器（２、３、５、６、64）　３は無文の有稜浅鉢で、口縁は屈折すると思われる。５は内湾浅鉢で、口縁部には円孔と隆帯、胴部にも隆帯が巡る(内湾浅鉢多孔型隆帯付き)。区画内には沈線で木葉類似文が描かれている。この沈線は施文時に半截竹管を傾けているためか、平行沈線の一方が深くなり、単沈線のようになっている。ここではこれを「半截竹管による単沈線手法」と呼ぶことにする。２、64も同様の手法を用いて、木葉類似文を描いている。２では多截の竹管による爪形文が加えられている。６は隆帯を伴う内湾浅鉢の底部資料である。

第Ⅳ群土器（65、66）　幅の広い変形爪形文を施文してある。爪形文の両端が深いため、有節平行線文とも言えるものである。66は下部に貝殻文が付いている。共に浮島II式土器であろう。

第６号住居跡出土土器（第74図）

第Ⅲ群土器２類、爪形文土器（５～７）　６は横位弧線文（向弧型）を文様とする。

第Ⅲ群土器３類、浮線文土器（１、８～17）　８は獣面突起。９は強く内湾する口縁と瘤をもち、文様は風車状渦巻文が描かれる。１、16、17は底部資料である。１は眼鏡状の浮線が付いている。

第Ⅲ群土器４類、平行沈線文土器（４、18～23）　19、20は波状文、21は菱形文、22は鋸歯状文を描く。

第Ⅲ群土器６類、縄文土器（２、24～27）

第Ⅲ群土器７類、無文土器（３、28）　３は横方向の擦痕が顕著である。

第Ⅲ群土器８類、浅鉢形土器（29）　29は内湾浅鉢で、胴下部に一条の隆帯が付いている。

第Ⅳ群土器（30、31）　30は幅広変形爪形文で区画を行い、内部に細い平行沈線で矢羽根状文を描いている。31は半截竹管文による刺突文をもっているが、三角文に類似する。共に浮島Ⅲ式であろう。

第７号住居跡出土土器（第75、76図）

第Ⅱ群土器（７）　繊維を含む。文様はＲＬ、ＬＲによる羽状縄文である。

第Ⅲ群土器２類、爪形文土器（８～12）　８～10は口縁部破片で、８は鰭状突起がある。

第Ⅲ群土器３類、浮線文土器（13～28）　文様は20は多重渦巻文だが、16などは風車状渦巻文をもつと思われる。浮線の厚さは薄いものが多く、ヘラによる細い刻みをもつものもある。

第Ⅲ群土器４類、平行沈線文土器（29～32、35～45）　文様は29が縦位背弧線文、30、31は横線文、43が格子目文を描いている。

第Ⅲ群土器５類、集合沈線文土器（１～３、33、34）　１は内側に屈折する内折口縁Ｂ種である。文様は口縁部には風車状渦巻文、頸部には縦位背弧線文、胴部には横位矢羽根状文と短渦巻文が描かれている。２は菱形区画つ字文が描かれている。３は口縁部に風車状渦巻文、胴部に二段の短渦巻文が描かれている。また３では口縁部の沈線が列点刺突を伴っている。

第Ⅲ群土器６類、縄文土器（46～54）　46～49は無節Ｌ、50～52は羽状縄文が施文されている。

第Ⅲ群土器７類、無文土器（５）　底部資料である。

第Ⅲ群土器８類、浅鉢形土器（４、６、55）　４は口縁直立内湾浅鉢で、口縁部に円孔と隆帯文が巡る(多孔型隆帯付き)。６は無文の内湾浅鉢であろうか。55は有稜浅鉢の稜部の破片である。

第Ⅳ群土器（57～62）　57～60は幅広変形爪形文をもつ。60は細い平行沈線により矢羽根状文が描かれている。61も同種文様の平行沈線文部分の破片であり、おそらくみな浮島Ⅲ式に属するだろう。62は爪形文と平行沈線文が横位に引かれている。62は興津Ⅰ式土器である。

第Ⅴ群土器（56）　口縁部に隆帯（凸帯）が付いている。器厚が薄く、北白川下層ⅡC式ではないにしろ、中部地方以西の土器と思われる。

第8号住居跡出土土器（第77、78図）

第Ⅱ群土器（8、9）　ともに繊維土器で、ループ文をもつが、9はさらに平行沈線文が引かれている。

第Ⅲ群土器2類、爪形文土器（10～12）

第Ⅲ群土器3類、浮線文土器（13～20）　20は枠状文を文様とする。

第Ⅲ群土器4類、平行沈線文土器（1、3、6、21～25、27、29～34、36～39、41～48、50、56）　1は内側に屈折する口縁で、緩やかな波状をなす。波頂部には瘤が付く。文様は鋸歯状文。3、6は底部資料。破片では22が短渦巻文、25は縦位背弧線文、29、30は菱形区画短渦巻文、37は菱形文を描いている。

第Ⅲ群土器5類、集合沈線文土器（2、4、5、7、26、28、40）　2は胴部に風車状渦巻文が描かれる。4は埋設土器であるが、鋸歯状文が描かれている。5、7は底部資料。7は縦位矢羽根状文が描かれ、諸磯C式である。破片では26、28は菱形区画つ字文を描いている。

第Ⅲ群土器6類、縄文土器（49、51～55、57～59）　無節、単節、羽状縄文が施文されている。

第Ⅲ群土器7類、無文土器（60～62）

第Ⅳ群土器（35、63～65）　64は貝殻文の地文上に平行沈線文が引かれており、粗い刻みが付いた口唇部をもつ。63、65は幅広変形爪形文を文様とするが、63の口唇部には竹管による粗い刻みが付けられている。64の型式は不明だが、63や65は浮島Ⅱ式～興津Ⅰ式に存在する変形爪形文土器である。

第9号住居跡出土土器（第79、80図）

第Ⅱ群土器（7）　繊維土器。縄文が施文されている。

第Ⅲ群土器2類、爪形文土器（8～16）　8～12は口縁部破片。文様は15は渦巻文、16は蕨手文である。

第Ⅲ群土器3類、浮線文土器（1、2、17～26）　1は内湾がきつく、波頂部には円形貼付文がある。細い刻みの付いた薄い浮線文により向弧渦巻文が描かれている。2は同種の浮線文により渦巻文が描かれている。17、18は口唇部に眼鏡状隆線をもつ。25、26の浮線は非常に薄く、26はさらに浮線に列点が沿っている。

第Ⅲ群土器4類、平行沈線文土器（4、6、27～35、37～52）　4、6は菱形区画つ字文。32、35は弧線区画縦位背弧線文、34は横線文、38は菱形文、37は菱形区画小渦巻文が描かれている。52は縄文を地文にもちながら浮島式に見られる有節平行線文がついており、浮島式との折衷土器と考えられる。

第Ⅲ群土器6類、縄文土器（3、53～60）

第Ⅲ群土器8類、浅鉢形土器（5）　内湾浅鉢で、口縁部に多くの円孔が巡る（内湾浅鉢多孔型）。

第Ⅳ群土器（36、61）　36は有節平行線文をもつ。61は幅が15㎜とかなり広い変形爪形文をもつ。後者は浮島Ⅲ式であろう。

第10号住居跡出土土器（第81～86図）

第Ⅱ群土器（21）　繊維土器。列点文を口縁部では縦に、その下では菱形に押捺する。

第Ⅲ群土器2類、爪形文土器（22～30）

第Ⅲ群土器3類、浮線文土器（1、2、18、19、31～69、161）　1は口唇部に眼鏡状の隆線をもち、文様はπ字蕨手文（渦巻型）をなす。2は多重渦巻文が描かれている。拓本資料では31、32は横線文であるが、他

は多重渦巻文が多い（35～39）。18、19、67～69は底部である。

第Ⅲ群土器４類、平行沈線文土器（３～14、71～158、182）　３は弧線区画縦位背弧線文、４は風車状渦巻文と横位弧線文（背弧型）を文様とする。また５、６は鋸歯状文が描かれ、５の口唇部には渦巻突起が付く。８は弧線文の描かれた小形土器である。７は菱形区画つ字文、９、12、13は菱形文を文様にもつ。11は菱形文のみの破片もあるが、同一個体（11ｂ）では弧線区画縦位背弧線文がある。10は横線文である。

拓本資料では71～104に口縁部を掲載した。内湾するものでは退化した獣面突起が付いたり（71）、渦巻突起がつくもの（72）もあるが、外反するものの方が多い。文様では80、81、142は格子目文、105は木葉文、107は大波状文、108、109は多重渦巻文、111などは菱形文、116～119は鋸歯状文、132～135は菱形区画つ字文、136、141は弧線区画縦位背弧線文が描かれている。５、７、12～15は床面出土である。

第Ⅲ群土器６類、縄文土器（15、16、159、160、162～181、183～185）　無節、単節の両者がある。

第Ⅲ群土器７類、無文土器（186、193、194）　193は突起がある。

第Ⅲ群土器８類、浅鉢形土器（17、20、187～192）　17は複段内湾浅鉢で、半截竹管により単沈線を引いたのち、間に浅く爪形文を押捺している（半截竹管の単沈線手法）。文様は渦巻状をなし、かすかに赤塗が認められる。胴部に段があり、底は丸みを帯びて、不安定である。20は内湾浅鉢で、円孔が巡る（内湾浅鉢多孔型）。187は有稜浅鉢（屈折口縁型）の口縁部破片で、口縁には１個の円孔が開いている。188は内湾浅鉢の口縁部で、口縁には二条の隆帯と多くの円孔が巡る（内湾浅鉢多孔型隆帯付き）。189、192は内湾浅鉢の胴部破片で、爪形文による木葉類似文が描かれている。190は底部。191は胴下部の隆帯部分である。

第Ⅳ群土器（195～204）　195～199は変形爪形文が施文された土器で、195、197、199は波状貝殻文を伴っている。変形爪形文の幅は９～13㎜と幅が広く、浮島Ⅱ式と考えられる。200、201は輪積痕の上に指による粗い凹凸文が付けられている。202～205は波状貝殻文がある。202はいわゆるアナダラ属の貝殻、そのほかはハマグリによるものであろう。凹凸文、貝殻文とも浮島Ⅱ式と考えられる。

第11号住居跡出土土器（第87、88、119図）

第Ⅲ群土器２類、爪形文土器（７）　口唇部に爪形文が押されている。

第Ⅲ群土器３類、浮線文土器（８～27、75）　８～13は口縁部で、８、９は獣面突起（顔面表現型）が付いている。文様は14はπ字蕨手文、16はπ字蕨手文（渦巻型）、18は多重渦巻文、19は枠状文である。

第Ⅲ群土器４類、平行沈線文土器（１、２、28～66）　１は138号土坑13と同一個体であり、獣面突起が付いていたはずである。文様はπ字蕨手文（渦巻型）。２は多重渦巻文が描かれている。拓本資料では28～41に口縁部破片を集めた。29には渦巻突起が付き、30には刻み、31には凹み、32には眼鏡状隆線が付いている。文様では29、42、45、47は多重渦巻文、43はπ字蕨手文（渦巻型）、44、50は菱形区画つ字文、51などは菱形文、49は鋸歯状文、55、60は格子目文である。

第Ⅲ群土器６類、縄文土器（５、67～74、76、77）　67～70は口縁部。無節、単節の両者がある。

第Ⅲ群土器７類、無文土器（78、79、80）　79は口縁部。78は底部である。

第Ⅲ群土器８類、浅鉢形土器（６、81～83、第119図85）　６は隆帯の付いた内湾浅鉢である。81は円孔の巡る内湾浅鉢（多孔型）の口縁部破片である。82は無文の有稜浅鉢の稜部破片であろう。83は内湾する浅鉢の胴部であるが、半截竹管の単沈線手法と爪形文による木葉類似文が描かれている。85は内湾浅鉢で、口縁直下に二条の刻み付隆帯と円孔をもつ（内湾浅鉢多孔型隆帯付き）。

第Ⅳ群土器（３、４、84）　３は変形爪形文で区画した後、細い平行沈線で菱形文を描いている。４は幅

広変形爪形文を引いた間に、細い平行沈線を横に引いている。口唇部に竹管による粗い刻みが付き、条線帯の初源形態を思わせるとともに、胴下部の波状貝殻文も貝殻文の一部が途切れ、三角文に似た文様効果を出している。こうした波状貝殻文は腹縁の一部が欠損した貝殻を施文具として利用したためできたものと思われるが、それが三角文の発生に関わっていたことを暗示させる資料である。84はハマグリによる波状貝殻文が付いている。3、4、84ともは浮島II式土器に比定できる。

―土坑―

第2号土坑出土土器（第89図）

第III群土器2類、爪形文土器（1～3）　1は蕨手文が描かれている。

第III群土器4類、平行沈線文土器（4）

第III群土器6類、縄文土器（6、7）　6は単節ＬＲ、7はＲＬが施文されている。

第4号土坑出土土器（第89図）

第III群土器2類、爪形文土器（1、4、5）　1は鋸歯状文が描かれている。

第III群土器2′類、爪形文＋隆帯文土器（3）　3は口縁に平行する隆帯が一条巡っている。

第III群土器6類、縄文土器（2、6、7）　2は底部資料。みな単節ＲＬが施文されている。

第5号土坑出土土器（第89図）

第III群土器2類、爪形文土器（1、2）　ともに横位弧線文（背弧型）が描かれている。

第8号土坑出土土器（第89図）

第III群土器2類、爪形文土器（1）　1は蕨手文を描くが、横位弧線文（向弧型）になった部分もある。

第10号土坑出土土器（第90図）

第III群土器2類、爪形文土器（1～4）　1、2は蕨手文、4は横位弧線文（背弧型）を文様とする。

第III群土器4類、平行沈線文土器（5、6）

第III群土器6類、縄文土器（7）　7は単節ＲＬが施されている。

第11号土坑出土土器（第90図）

第III群土器2類、爪形文土器（1～3、5）　1は横位弧線文（背弧型）が施文されている。

第III群土器3類、浮線文土器（4）

第III群土器4類、平行沈線文土器（6）　6は波状文が描かれている。

第17号土坑出土土器（第90図）

第III群土器2類、爪形文土器（1、2）　1は横位弧線文（背弧型）が描かれている。

第18号土坑出土土器（第90図）

第III群土器6類、縄文土器（1）　1は単節ＲＬが施文されている。

第19号土坑出土土器（第91図）

第III群土器2類、爪形文土器（1～11）　7は横位弧線文（背弧型）が描かれている。

第III群土器4類、平行沈線文土器（12）

第III群土器8類、浅鉢形土器（13）　13は無文の有稜浅鉢である。

第29号土坑出土土器（第91図）

第III群土器2類、爪形文土器（2～9）　5、7、8は横位弧線文、6は蕨手文を描く。

第III群土器3類、浮線文土器（10）

第Ⅲ群土器4類、平行沈線文土器（1、11）　1は蕨手文が描かれている。

第Ⅲ群土器6類、縄文土器（12、13）　原体は12が単節ＲＬ、13がＬＲである。

第30号土坑出土土器（第91、92図）

第Ⅰ群土器（2）　2は口縁が肥厚し、撚糸Ｒが縦位施文されている。稲荷台式土器と思われる。

第Ⅱ群土器（3）　3は繊維土器。単節ＬＲが施文されている。

第Ⅲ群土器1類、櫛歯文土器（4）　4は波状文が描かれている。

第Ⅲ群土器2類、爪形文土器（1、5～14、16～26）　5～14は口縁部資料。6は鋸歯状文、1、9は渦巻文、16～19は蕨手文、8、10、20は横位弧線文（背弧型）、14は横位弧線文（向弧型）が描かれている。

第Ⅲ群土器2′類、爪形文＋隆帯文土器（15）　渦巻文を描いている。

第Ⅲ群土器3類、浮線文土器（27、28）　27は口縁部破片でπ字蕨手文が描かれている。

第Ⅲ群土器4類、平行沈線文土器（29～34）　30、32は波状文、33は木葉文、34は蕨手文をもつ。

第Ⅲ群土器6類、縄文土器（36～41）　すべて単節ＲＬ縄文である。

第Ⅲ群土器7類、無文土器（35）　35は口縁部資料である。

第31号土坑出土土器（第93図）

第Ⅱ群土器（1）　1は羽状縄文の施された繊維土器である。

第Ⅲ群土器2類、爪形文土器（2～5、7～13）　2は蕨手文、5は渦巻文、9は横位弧線文（背弧型）、10は菱形文が描かれている。

第Ⅲ群土器2′類、爪形文＋隆帯文土器（6）　6の文様は渦巻文である。

第Ⅲ群土器4類、平行沈線文土器（14～16）　16は格子目文が描かれている。

第Ⅲ群土器6類、縄文土器（17～21）

第Ⅲ群土器8類、浅鉢形土器（22）　開きの緩い無文の外反浅鉢である。

第32号土坑出土土器（第93図）

第Ⅲ群土器6類、縄文土器（1）　1は単節ＲＬが付いている。

第33号土坑出土土器（第93図）

第Ⅲ群土器2類、爪形文土器（1、3～5）

第Ⅲ群土器2′類、爪形文＋隆帯文土器（2）　2は隆帯上にＤ字刺突をもつ。文様は山形文である。

第Ⅲ群土器3類、浮線文土器（6）

第Ⅲ群土器4類、平行沈線文土器（7）　7は木葉文の空白部につく三角形の文様が見える。

第Ⅲ群土器6類、縄文土器（8）　8は無節Ｌが施されている。

第34号土坑出土土器（第93図）

第Ⅱ群土器（1）　1は単節ＬＲの施文された繊維土器である。

第Ⅲ群土器4類、平行沈線文土器（2）　2は平行沈線で入組木葉文が描かれている。

第Ⅲ群土器6類、縄文土器（3）　3は単節ＲＬが付いている。

第35号土坑出土土器（第94図）

第Ⅱ群土器（2）　2はループ文を地文にもち、平行沈線が引かれている。繊維土器。

第Ⅲ群土器2類、爪形文土器（1、3～8、15）　6は横位弧線文（向弧型）である。

第Ⅲ群土器4類、平行沈線文土器（9～12）

第Ⅲ群土器6類、縄文土器（13、14）　ともに単節ＲＬが施文されている。

第36号土坑出土土器（第95図）

第Ⅲ群土器１類、櫛歯文土器（13）　13は波状文が描かれている。

第Ⅲ群土器２類、爪形文土器（１～10）

第Ⅲ群土器３類、浮線文土器（11、12）

第Ⅲ群土器４類、平行沈線文土器（14、15）　14は波状文、15は菱形文が描かれている。

第Ⅲ群土器６類、縄文土器（16～19）　みな単節ＲＬが施文されている。

第37号土坑出土土器（第95図）

第Ⅱ群土器（３～６）　３～５は縄文施文、６は無文の繊維土器。

第Ⅲ群土器２類、爪形文土器（１、７～10）　１は蕨手文が描かれる。

第Ⅲ群土器４類、平行沈線文土器（11、12）　11は波状文、12は蕨手文を文様とする。

第Ⅲ群土器６類、縄文土器（13～16）　13～15は単節ＲＬ、16は羽状縄文をもっている。

第Ⅲ群土器８類、浅鉢形土器（２）　２は無文の内湾浅鉢である。口縁部に孔は無い。

第38号土坑出土土器（第96図）

第Ⅱ群土器（４）　４はループ文をともなう縄文土器。

第Ⅲ群土器１類、櫛歯文土器（13）　13は波状文をもつ。

第Ⅲ群土器２類、爪形文土器（１、５、６、８、９）　１は蕨手文（渦巻型）、６は蕨手文を文様とする。

第Ⅲ群土器３類、浮線文土器（10、11）　共に口縁部であるが、10は刻み、11は隆線が付いている。

第Ⅲ群土器４類、平行沈線文土器（７、12、14、15）　15は格子目文を文様とする。

第Ⅲ群土器６類、縄文土器（２、16、17）　２、17は単節ＬＲ、16は同ＲＬが施文されている。

第Ⅲ群土器７類、無文土器（３）　底部資料である。

第39号土坑出土土器（第97～99図）

第Ⅱ群土器（６）　６は列点文をもつ繊維土器である。

第Ⅲ群土器２類、爪形文土器（１、３、７～23）　１は蕨手文（渦巻型）、３は大波状文が描かれている。

第Ⅲ群土器２′類、爪形文＋隆帯文土器（24）　24は爪形文と隆帯が共存している。

第Ⅲ群土器３類、浮線文土器（２、４、25～33）　２は底部資料。４は枠状文が描かれる。

第Ⅲ群土器４類、平行沈線文土器（35～44）　35は渦巻文、39は横位弧線文、43は格子目文をもつ。

第Ⅲ群土器４′類、沈線文＋隆帯文土器（34）　34は沈線による木葉文と隆帯が共存している。

第Ⅲ群土器６類、縄文土器（45～56）　45、47～50、55はＲＬ、他は羽状縄文である。

第Ⅲ群土器７類、無文土器（57）

第Ⅲ群土器８類、浅鉢形土器（５、58、59）　５は有稜浅鉢（屈折口縁型）で、口唇部に隆線が付き、胴部には木葉文が描かれている。木葉文は平行沈線文で描かれるが、その平行沈線は一方が深い。おそらく半截竹管を傾けて施文したのであろう。その沈線内に浅く竹管を押捺し、爪形文としている。58は内湾浅鉢の胴部破片で、隆帯で区画した中に爪形文で木葉文を描いている。59は無文の有稜浅鉢の稜部破片である。

第41、42号土坑出土土器（第99図）

第Ⅱ群土器（２）　２は縄文施文の繊維土器である。

第Ⅲ群土器２類、爪形文土器（３～６）　５は横位弧線文（向弧型）を文様とする。

第Ⅲ群土器３類、浮線文土器（７～12）　７、９は多重渦巻文が描かれる。

第Ⅲ群土器４類、平行沈線文土器（１、13～16）　１は蕨手文（渦巻型）、14は格子目文が描かれる。

第Ⅲ群土器６類、縄文土器（17～19）　17、19は単節ＲＬ、18はＬＲが施文される。

第Ⅳ群土器（20）　いわゆるアナダラ属貝殻による波状貝殻文が付いている。

第42号土坑出土土器（第100図）

第Ⅲ群土器３類、浮線文土器（１）　蕨手文（渦巻型）が描かれている。

第43号土坑出土土器（第100図）

第Ⅱ群土器（１、２）　１は列点文をもつ、２は縄文が施文された繊維土器である。

第50号土坑出土土器（第100図）

第Ⅱ群土器（１）　１は列点をもつ繊維土器である。

第51号土坑出土土器（第100図）

第Ⅱ群土器（１）　羽状縄文の施文された繊維土器である。

第52号土坑出土土器（第100図）

第Ⅲ群土器２類、爪形文土器（１）

第Ⅲ群土器４類、平行沈線文土器（２、３）　２は格子目文を描く。

第Ⅲ群土器６類、縄文土器（４）　４は無節Ｌが施文されている。

第53号土坑出土土器（第100図）

第Ⅲ群土器２類、爪形文土器（２～６）　４、６は横位弧線文（向弧型）が描かれる。

第Ⅲ群土器４類、平行沈線文土器（７～10）　８～10は横位弧線文（背弧型）が描かれている。

第Ⅲ群土器６類、縄文土器（１、11）１は綾繰文のある羽状縄文が、11はＲＬが施されている。

第55号土坑出土土器（第100図）

第Ⅲ群土器２類、爪形文土器（１）　１はおそらく蕨手文を描くのであろう。

第56号土坑出土土器（第100図）

第Ⅲ群土器６類、縄文土器（１）　１は無節Ｌが施文されている。

第57号土坑出土土器（第101図）

第Ⅲ群土器２類、爪形文土器（１、４～６）

第Ⅲ群土器３類、浮線文土器（２）　２は長方形に浮線を貼り付けている。

第Ⅲ群土器４類、平行沈線文土器（７、８）　７、８は口縁部破片である。

第Ⅲ群土器６類、縄文土器（３、９）　３は綾繰文の付いたＲＬ、９はＬＲ縄文が施文されている。

第58号土坑出土土器（第101図）

第Ⅲ群土器３類、浮線文土器（１、２）　１は横位弧線文（向弧型）である。

第Ⅲ群土器４類、平行沈線文土器（３）　３は菱形文を描いている。

第Ⅲ群土器６類、縄文土器（４）　４はＲＬを施文している。

第60号土坑出土土器（第101図）

第Ⅲ群土器２類、爪形文土器（１、２）　１は口縁部破片である。

第Ⅲ群土器３類、浮線文土器（３）　３は口縁部破片で、浮線が口縁に平行して付けられている。

第Ⅲ群土器４類、平行沈線文土器（４、５）

第64号土坑出土土器（第101図）

第Ⅲ群土器２類、爪形文土器（２）

第Ⅲ群土器６類、縄文土器（１）　１は単節ＬＲの施文された底部資料である。

第65号土坑出土土器（第101図）

第Ⅱ群土器（１～５）　みな縄文施文の繊維土器である。

第66号土坑出土土器（第101図）

第Ⅱ群土器（１～５）　みな縄文施文の繊維土器である。

第67号土坑出土土器（第102、103図）

第Ⅲ群土器１類、櫛歯文土器（19）　文様は不明だが、櫛歯文が十字に描かれている。

第Ⅲ群土器２類、爪形文土器（１、２、５～10、12～17）　１は蕨手文、２、５は波状文、６は格子目文を文様とする。また９、10は渦巻文、12は木葉文、13は山形区画蕨手文、14は蕨手文が描かれている。

第Ⅲ群土器３類、浮線文土器（18）　18は底部資料である。

第Ⅲ群土器４類、平行沈線文土器（３、４、11）　３は菱形文、４は斜線文を文様とする。11は爪形文で区画している中に平行沈線で波状文を描いている。

第Ⅲ群土器６類、縄文土器（20～24）　すべて単節ＲＬを原体とする。

第Ⅲ群土器７類、無文土器（25）　25は底部資料で、上部に文様が付く可能性がある。

第68号土坑出土土器（第103、104図）

第Ⅲ群土器１類、櫛歯文土器（30）　30は波状文を描くものと思われる。

第Ⅲ群土器２類、爪形文土器（１、４、６～25）　１は横位弧線文（向弧型）を文様とする。拓本資料４、６、７、25は口縁部であるが、４は鰭状突起をもち、口唇部には隆帯が貼付されている。文様は４は蕨手文、８、10、12は横位弧線文（向弧型）、９、11は横位弧線文（背弧型）である。

第Ⅲ群土器４類、平行沈線文土器（２、５、26～29）　５は格子目文、29は波状文をなす。

第Ⅲ群土器６類、縄文土器（31～40）　31～39は単節ＲＬ、40はＬＲが施文されている。

第Ⅲ群土器８類、浅鉢形土器（３）　有稜浅鉢（屈折口縁型）で、口縁に一個の円孔、胴部に縄文がある。

第71号土坑出土土器（第105図）

第Ⅲ群土器２類、爪形文土器（６～13）　７は横位弧線文（背弧型）を描いている。

第Ⅲ群土器３類、浮線文土器（４、14～19）　15、16はπ字蕨手文（渦巻型）を描き、16は獣面突起をもつ。

第Ⅲ群土器４類、平行沈線文土器（１、21～23）　小破片のため文様は不明。

第Ⅲ群土器６類、縄文土器（５、24～27）　５は口唇部が少し内へ折れている。25は羽状縄文。

第Ⅲ群土器７類、無文土器（20）

第Ⅲ群土器８類、浅鉢形土器（２）　胴部は丸く膨らむが、口縁部はやや外反する。爪形文により菱形ないしは山形の文様を描いている。器面は平滑に磨かれ、赤く塗られている。

この他、第Ⅲ群土器としては、円形竹管を押捺したもの（３）がある。

第72号土坑出土土器（第106図）

第Ⅲ群土器２類、爪形文土器（１）　波状口縁をなし、文様は蕨手文を描くと思われる。

第73号土坑出土土器（第106図）

第Ⅲ群土器３類、浮線文土器（１）　１は獣面突起をもつ。

第Ⅲ群土器６類、縄文土器（２）

第74号土坑出土土器（第106図）

第Ⅲ群土器２類、爪形文土器（３、４）　小破片のため文様は不明。

第Ⅲ群土器３類、浮線文土器（２、５～８）　２の浮線文はπ字蕨手文を描くものの、浮線の断面は三角形

状をなし、余白部に瘤をもつ点や、浮線の下地に全く縄文がない点などにおいて、他の浮線文土器とは違いが見られる。他地域の影響を受けた土器であろうか。

第Ⅲ群土器４類、平行沈線文土器（９～13）　10は多重渦巻文、11は鋸歯状文を描いている。

第Ⅲ群土器６類、縄文土器（14）

第Ⅲ群土器８類、浅鉢形土器（１）　有稜浅鉢（屈折口縁型）である。口縁部は断面が紡錘形に肥厚し、その上には波状に隆線が配されている。焼成前に開けられた円孔が対角線上に二個付いている。

第75号土坑出土土器（第107図）

第Ⅲ群土器２類、爪形文土器（１～11）

第Ⅲ群土器３類、浮線文土器（13～17）　13、14は横線文をなす。

第Ⅲ群土器４類、平行沈線文土器（12、18、19）　12は爪形文で区画した文様帯内に平行沈線で格子目文を描いたもので、格子目の交点に円形竹管の刺突を加えている。18は木葉文を描いたものである。

第Ⅲ群土器６類、縄文土器（21～24）

第Ⅲ群土器７類、無文土器（20）　20は口径2.6cm、高さ2.5cmのミニチュア土器である。

第80号土坑出土土器（第107図）

第Ⅲ群土器２類、爪形文土器（２）

第Ⅲ群土器３類、浮線文土器（３）

第Ⅲ群土器４類、平行沈線文土器（１、４、５）　１は外反する波状口縁で、菱形区画つ字文を描いている。４は内湾波状口縁で、波頂部に瘤状突起が付いている。５も似た器形だが、多重渦巻文を描いている。

第Ⅲ群土器６類、縄文土器（６）

第81号土坑出土土器（第107図）

第Ⅱ群土器（１）　繊維を含むが、文様は特に施されてはいない。

第Ⅲ群土器４類、平行沈線文土器（２～４）　２は多重渦巻文を描いている。

第Ⅲ群土器６類、縄文土器（５～10）　５は外反する口縁部資料である。

第Ⅲ群土器７類、無文土器（11）

第82号土坑出土土器（第108図）

第Ⅱ群土器（２）　２はループ文をもっている。

第Ⅲ群土器４類、平行沈線文土器（１、３～12）　１は菱形文、５、６は菱形区画渦巻文である。

第Ⅲ群土器６類、縄文土器（13～15）

第Ⅲ群土器７類、無文土器（16）

第83号土坑出土土器（第108図）

第Ⅱ群土器（１）　１は文様は認められない。

第Ⅲ群土器３類、浮線文土器（２）

第Ⅲ群土器６類、縄文土器（３）

第84号土坑出土土器（第108図）

第Ⅲ群土器２類、爪形文土器（１、３～９）　１、５は蕨手文または渦巻文をなす。

第Ⅲ群土器４類、平行沈線文土器（10）　10は格子目文を描いている。

第Ⅲ群土器４′類、平行沈線＋隆帯文土器（11）　11は上端を隆帯で区画し、以下に格子目文を描く。

第Ⅲ群土器６類、縄文土器（13）

第Ⅲ群土器７類、無文土器（２、12）

第91号土坑出土土器（第108図）

第Ⅲ群土器２類、爪形文土器（１）

第Ⅲ群土器８類、浅鉢形土器（２）　おそらく内湾する浅鉢で、胴下部に隆帯が付いている。

第92号土坑出土土器（第109図）

第Ⅲ群土器１類、櫛歯文土器（１）　１は波状文をなす。

第Ⅲ群土器２類、爪形文土器（２～５）　４は渦巻文を描くと思われる。

第Ⅲ群土器３類、浮線文土器（６、７）　６は多重渦巻文を描くと思われる。

第Ⅲ群土器４類、平行沈線文土器（８）　８は爪形文で区画した中に平行沈線で格子目文を描く。

第Ⅲ群土器６類、縄文土器（９、10）

第94号土坑出土土器（第109図）

第Ⅲ群土器２類、爪形文土器（１～５）　１は爪形文間にＤ字刺突を施している。

第Ⅲ群土器３類、浮線文土器（９）

第Ⅲ群土器４類、平行沈線文土器（６、７）　７は多重渦巻文をなす。

第Ⅲ群土器６類、縄文土器（８）　８は綾繰文をもっている。

第99号土坑出土土器（第109、110図）

第Ⅲ群土器１類、櫛歯文土器（５、16）　共に波状文を描出している。

第Ⅲ群土器２類、爪形文土器（１～３、８～13）　１は横位弧線文（向弧型）、２は山形区画蕨手文を描く。

第Ⅲ群土器２′類、爪形文＋隆帯文土器（７）　７は口縁直下に隆帯を付け、以下に爪形文で山形文を描く。

第Ⅲ群土器３類、浮線文土器（６、14、15）　６は口縁に突起と凹みをもつ。文様は横走する梯子状と１本の浮線を交互に配している。浮線上には刻みが付いている。

第Ⅲ群土器４類、平行沈線文土器（17～19）　17、18は波状文である。

第Ⅲ群土器６類、縄文土器（４、20～22）　４は綾繰文を有する。

第100号土坑出土土器（第111図）

第Ⅲ群土器２類、爪形文土器（１～３）　２は横位弧線文を描くようである。

第Ⅲ群土器６類、縄文土器（４～６）

第105号土坑出土土器（第111図）

第Ⅱ群土器（２）　２は縄文が施文されている。

第Ⅲ群土器２類、爪形文土器（１）　１は蕨手文を構成するのであろう。

第107号土坑出土土器（第112、113図）

第Ⅱ群土器（50）　羽状縄文をなす。

第Ⅲ群土器２類、爪形文土器（１、２、８～33）　１は蕨手文をなす。13～18も蕨手文や渦巻文、弧線文をなすものと思われる。

第Ⅲ群土器３類、浮線文土器（３～５、７、34～43）　３は枠状文、４は横線文を描き、共に口唇部に刻みをもつ。拓本資料では36、37は横線文、38はπ字蕨手文（渦巻型）をなすのであろう。

第Ⅲ群土器４類、平行沈線文土器（44、45、57）

第Ⅲ群土器６類、縄文土器（６、46～56）　６は内湾波状口縁で、波頂部が袋状に膨らんでいる。

第Ⅲ群土器８類、浅鉢形土器（58）　58は内湾浅鉢で、爪形文による文様を描いている。

第108号土坑出土土器（第111図）

第Ⅲ群土器２類、爪形文土器（４）

第Ⅲ群土器３類、浮線文土器（５～７）

第Ⅲ群土器４類、平行沈線文土器（１、８～12）　１は平行沈線で区画した内部に単沈線により格子目文を描いている。12は菱形区画つ字文である。

第Ⅲ群土器６類、縄文土器（３、13～16）　３は底部資料。

第Ⅳ群土器（２）　２は爪形文で区画した後、内部に同じ幅の平行沈線で矢羽根状文を描いている。胴部には縦方向の沈線を引いている。浮島Ⅰb式（または、Ⅱ式）に相当しよう。

第109号土坑出土土器（第114図）

第Ⅱ群土器（３）　羽状縄文をなす。

第Ⅲ群土器２類、爪形文土器（４、10）

第Ⅲ群土器３類、浮線文土器（５～８）　５は多重渦巻文をなす。

第Ⅲ群土器４類、平行沈線文土器（１、２、９、11～17）　１は入組木葉文であるが、木葉文を沈線が取り囲み、木葉文が渦巻化しているように見える。９、11、12は口縁部資料である。また13は横位弧線文（向弧型）、14は入組木葉文、15は菱形文を描いている。

第Ⅲ群土器６類、縄文土器（18～28）

第111号土坑出土土器（第114図）

第Ⅱ群土器（１）　縄文ＬＲが付いているのみ。

第Ⅲ群土器２類、爪形文土器（２～４）　蕨手文などの文様の一部であろうか。

第Ⅲ群土器６類、縄文土器（５～10）

第112号土坑出土土器（第114図）

第Ⅱ群土器（１）　底部。上底が発展して、台状をなしたものであろう。

第Ⅲ群土器３類、浮線文土器（２）　浮線上に刻みをもつ。

第113号土坑出土土器（第115図）

第Ⅲ群土器２類、爪形文土器（１～６）　１、２は口縁部資料。３は蕨手文、６は菱形文を描く。

第Ⅲ群土器６類、縄文土器（７～９）

第116号土坑出土土器（第115図）

第Ⅲ群土器４類、平行沈線文土器（１）　横走する沈線が雑に引かれている。

第Ⅲ群土器６類、縄文土器（２）

第118号土坑出土土器（第115図）

第Ⅲ群土器２類、爪形文土器（１）　１は口縁部資料。

第Ⅲ群土器６類、縄文土器（２～４）

第121号土坑出土土器（第115図）

第Ⅲ群土器２類、爪形文土器（３）

第Ⅲ群土器３類、浮線文土器（１、４～６）　１は渦巻突起をもつ土器で、文様は多重渦巻文をなす。

第Ⅲ群土器４類、平行沈線文土器（２、７～12）　10は菱形文を描く。

第Ⅲ群土器６類、縄文土器（13～24）　13、14は口縁部資料である。

第Ⅲ群土器７類、無文土器（27、28）

第Ⅳ群土器（25、26、29）　25はアナダラ属の貝殻文。26は幅広変形爪形文で区画した下に細い平行沈線を引いている。29は幅広変形爪形文の直下に貝殻文（アナダラ属）をもつ。三角文は出土していないが、口縁に条線帯をもつことや、貝殻文の放射肋が線状をなす点などから、浮島Ⅲ式に近いと考えられる。

第122号土坑出土土器（第116図）

第Ⅱ群土器（２）　縄文をもつのみ。

第Ⅲ群土器３類、浮線文土器（１、３）　１は多重渦巻文を描く。

第Ⅲ群土器４類、平行沈線文土器（４～12）　４はキャリパー口縁をなし、鋸歯状文を文様にもつ。また５は菱形区画小渦巻文、６、７は菱形文を文様とする。

第Ⅲ群土器６類、縄文土器（13～17）　13は口縁部資料である。

第123Ａ号土坑出土土器（第116図）

第Ⅲ群土器２類、爪形文土器（２）

第Ⅲ群土器４類、平行沈線文土器（１、３～５）　３、４は双頭突起の付く口縁をもつ。５は木葉文を描く。

第Ⅲ群土器６類、縄文土器（６）

第Ⅳ群土器（７）　幅広変形爪形文で区画した下に細い沈線で矢羽根状文を描いている。三角文が出土していないので、断定はできないが、浮島Ⅲ式かと思われる。

第123Ｂ号土坑出土土器（第116図）

第Ⅲ群土器３類、浮線文土器（１、２）　２は口縁部付近の破片であって、多重渦巻文を文様とする。

第Ⅲ群土器４類、平行沈線文土器（３～７）　６は菱形文、７は菱形区画つ字文を描いている。

第Ⅲ群土器６類、縄文土器（８、９）

第Ⅳ群土器（10）　ハマグリなどによる波状貝殻文。貝殻文では決めにくいが、浮島Ⅱ式が最も近い。

第124Ａ号土坑出土土器（第117図）

第Ⅲ群土器２類、爪形文土器（１、２）　２は蕨手文をもつ。

第Ⅲ群土器３類、浮線文土器（３～５）　３は枠状文。４、５は浮線に列点を沿わしたものであるが、４は風車状渦巻文を描くのであろう。

第Ⅲ群土器４類、平行沈線文土器（６、７）　６は平行沈線内に鋭利な刻みを加えている。７は格子目文を描き、斜線の交点には円形竹管文が押捺されている。

第Ⅲ群土器７類、無文土器（８）　８はヘラ削りが顕著な土器である。

第Ⅳ群土器（９）　９はアナダラ属の波状貝殻文である。貝殻を器面に垂直気味に立てて施文しているが、こうした手法は浮島Ⅰｂ式に顕著な特徴である。ゆえに浮島Ⅰｂ式と考えたい。

第124Ｂ号土坑出土土器（第117図）

第Ⅲ群土器４類、平行沈線文土器（１）　底部付近の資料であるため、沈線は横走するのみである。

第124Ｃ号土坑出土土器（第117図）

第Ⅲ群土器４類、平行沈線文土器（１～３）　１は緩く内湾する口縁部資料である。

第Ⅲ群土器６類、縄文土器（４）　４は底部資料である。

第130、131号土坑出土土器（第117図）

第Ⅱ群土器（１）　縄文の付いた口縁部破片である。

第Ⅲ群土器２類、爪形文土器（２）　２は蕨手文などを構成するのであろう。

第Ⅲ群土器３類、浮線文土器（３～８）

第Ⅲ群土器４類、平行沈線文土器（９～13）　９は菱形区画つ字文をもつ口縁部資料である。

第Ⅲ群土器６類、縄文土器（15～20）

第Ⅳ群土器（14）　14は細い平行沈線で菱形を描いた後、一部分に爪形文を入れている。これは諸磯式ではなく、浮島II式または浮島III式と考えられる。

第132号土坑出土土器（第118図）

第Ⅲ群土器２類、爪形文土器（１～４）　３は横位弧線文（向弧型）をなす。

第Ⅲ群土器３類、浮線文土器（５～14）　７はπ字蕨手文（渦巻型）をなす。14は列点刺突付浮線である。

第Ⅲ群土器４類、平行沈線文土器（16～22）　20は横位弧線文（背弧型）、21、22は菱形文を描く。

第Ⅲ群土器４′類、平行沈線文＋隆帯文土器（15）　沈線の下端に隆帯が走っている。

第Ⅲ群土器６類、縄文土器（23～25）

第Ⅲ群土器８類、浅鉢形土器（26）　内湾する浅鉢で、口縁に円孔が巡っている。文様は爪形文で描かれる（内湾浅鉢多孔型）。

第134号土坑出土土器（第117図）

第Ⅱ群土器（１）　縄文の施文された口縁部資料である。

第Ⅲ群土器４類、平行沈線文土器（２）　２の文様は多重渦巻文をなす。

第Ⅲ群土器６類、縄文土器（３、４）

第137号土坑出土土器（第118図）

第Ⅱ群土器（１）　縄文が付くのみである。

第Ⅲ群土器２類、爪形文土器（２～４）　４は蕨手文をなす。

第Ⅲ群土器３類、浮線文土器（５～10）　５は口縁に突起をもち、π字蕨手文（渦巻型）を描いている。また９は浮線を眼鏡状に、10は梯子状に貼り付けている。

第Ⅲ群土器４類、平行沈線文土器（11～16）　14は菱形文、16は弧線文を描く。

第Ⅲ群土器６類、縄文土器（17～25，27，28）　17は内湾口縁で、刻みを有する。23は綾繰文付き。

第Ⅲ群土器８類、浅鉢形土器（26）　26は無文の内湾浅鉢である。

第138号土坑出土土器（第119図）

第Ⅲ群土器２類、爪形文土器（４～６）

第Ⅲ群土器２′類、爪形文＋隆帯文土器（３）　爪形文間に隆帯が付いている。

第Ⅲ群土器３類、浮線文土器（７～12）

第Ⅲ群土器４類、平行沈線文土器（１、13～23）　１は横線文。13は獣面突起をもつが、11号住居１と同一個体で、π字蕨手文（渦巻型）を描くものだろう。16は格子目文、17は多重渦巻文、21は菱形文を描く。

第Ⅲ群土器６類、縄文土器（24～26）

第Ⅲ群土器７類、無文土器（27）

第Ⅲ群土器８類、浅鉢形土器（28）28は浅鉢の胴下部の破片である。

第Ⅳ群土器（29～31）　29は口縁に粗い刻みをもつ。文様は変形爪形文で区画した下に細い平行沈線文によって菱形（または矢羽根状）の文様を描いている。30、31は波状貝殻文であるが、貝殻文の中に無文部があって、一見すると三角文に似て見える。腹縁に凹みのある貝殻を施文具としたためにできたのであろう。これらは11号住居の第87図４と同一個体である。

第139号土坑出土土器（第120図）

第Ⅲ群土器3類、浮線文土器（1～3）

第Ⅲ群土器4類、平行沈線文土器（4～7）　4、5は菱形文を持っている。

第Ⅲ群土器6類、縄文土器（8）

第Ⅲ群土器8類、浅鉢形土器（9）　9は内湾する無文浅鉢である。

第140号土坑出土土器（第121図）

第Ⅲ群土器2類、爪形文土器（6）　蕨手文などを描くと思われる。

第Ⅲ群土器3類、浮線文土器（1、8～12）　1は器壁が剝落しているが、獣面突起の付く内湾口縁をなし、文様にはπ字蕨手文（渦巻型）をもつ。8も獣面突起をもっている。

第Ⅲ群土器4類、平行沈線文土器（2、4、13～18）　2、15は大波状文、4は菱形区画小渦巻文、13は格子目文、14は菱形文、16は鋸歯状文を描く。

第Ⅲ群土器6類、縄文土器（5、19、20）

第Ⅲ群土器8類、浅鉢形土器（7）　内湾する浅鉢で、爪形文により文様を描いている。

第Ⅳ群土器（3、21）　3はアナダラ属の稚拙な貝殻文を地文とし、その上に平行沈線によって菱形文を描いている。胴下端の区画には沈線の他、爪形文刺突を伴う低隆帯がある。21もアナダラ属の貝殻による波状貝殻文が付いている。貝殻を器面に垂直気味に立てて施文したためか、貝の腹縁圧痕は稚拙なものとなっている。3、21ともに浮島Ⅰb式土器であろう。

第141号土坑出土土器（第120図）

第Ⅲ群土器2類、爪形文土器（1、2）　1は口縁部資料である。

第Ⅲ群土器3類、浮線文土器（3）

第Ⅲ群土器4類、平行沈線文土器（4）　4は口縁部資料である。

第Ⅲ群土器6類、縄文土器（5、6）

第142Ｂ号土坑出土土器（第120図）

第Ⅲ群土器2類、爪形文土器（1）

第Ⅲ群土器3類、浮線文土器（2）

第Ⅲ群土器6類、縄文土器（3、4）

第143号土坑出土土器（第120図）

第Ⅲ群土器2類、爪形文土器（1）　1は口縁部資料である。

第Ⅲ群土器3類、浮線文土器（2）

第Ⅲ群土器4類、平行沈線文土器（3）

第144号土坑出土土器（第120図）

第Ⅲ群土器2類、爪形文土器（1、2）

第Ⅲ群土器3類、浮線文土器（3～5）　3は内湾する口縁をなす。

第Ⅲ群土器4類、平行沈線文土器（6～14、16）　6は菱形区画つ字文、7は鋸歯状文、10は渦巻文を描く。

第Ⅲ群土器6類、縄文土器（15、17）

第Ⅲ群土器8類、浅鉢形土器（18）　内湾する無文浅鉢である。

第Ⅳ群土器（19）　ハマグリなどの貝殻による波状貝殻文である。浮島Ⅱ式土器であろう。

第145A号土坑出土土器（第123図）

第III群土器2類、爪形文土器（1、2、4～6）　1、2、5は蕨手文をなす。

第III群土器3類、浮線文土器（7）

第III群土器4類、平行沈線文土器（3）　3は横位弧線文（向弧型）で、円形竹管が押されている。

第III群土器6類、縄文土器（8）

第147号土坑出土土器（第122図）

第II群土器（4）　無文の口縁部資料。

第III群土器2類、爪形文土器（5～9）　5、6は口縁部資料で、6は口唇部に凹みがある。

第III群土器3類、浮線文土器（10～23）　10は横線文、12はπ字蕨手文（渦巻型）を描いている。

第III群土器4類、平行沈線文土器（24～32）　25はπ字蕨手文（渦巻型）を描く。

第III群土器6類、縄文土器（1～3、33～37）　1は内湾口縁で、口縁部に瘤状突起が付いている。

第IV群土器（38～40）　38はハマグリなどの貝殻による波状貝殻文地文の上に、沈線によって菱形の文様が描かれている。39、40はいわゆるアナダラ属の貝殻文であるが、前者の圧痕は繊細、稚拙で、後者の圧痕は太い。前者は貝殻の内面を器面に向けるか、垂直気味に立てて施文したのに対し、後者は貝殻の背を器面に向けて施文したためと思われる。38、39は浮島Ib式土器、40は浮島II式土器であろう。

第148号土坑出土土器（第123図）

第II群土器（2）　特に文様はない。

第III群土器2類、爪形文土器（3）　3は口縁部資料である。

第III群土器3類、浮線文土器（4）

第III群土器4類、平行沈線文土器（1、5～8）　1は緩い内湾口縁で、菱形区画小渦巻文を描く。

第III群土器6類、縄文土器（9）

第III群土器7類、無文土器（10）

第149号土坑出土土器（第124図）

第II群土器（1、2）　1は列点により文様を描出している。2は羽状縄文が付いている。

第III群土器3類、浮線文土器（3～7）　3は枠状文を描くと思われる。

第III群土器4類、平行沈線文土器（8～12）　9は多重渦巻文をなす。

第III群土器6類、縄文土器（13～16）

第151号土坑出土土器（第124図）

第III群土器3類、浮線文土器（1）

第III群土器4類、平行沈線文土器（2、3）

第III群土器6類、縄文土器（4、5）　4、5はともに口縁部資料。

第152号土坑出土土器（第124図）

第III群土器2類、爪形文土器（1、2）　2は横位弧線文（背弧型）を描く。

第III群土器4類、平行沈線文土器（3）

第III群土器7類、無文土器（4）

―ピット―

第3号ピット出土土器（第124図）

第Ⅲ群土器3類、浮線文土器（1、2）

第Ⅲ群土器6類、縄文土器（3）　3は口縁部資料である。

第5号ピット出土土器（第124図）

第Ⅲ群土器3類、浮線文土器（1）

第Ⅲ群土器6類、縄文土器（2）

第6号ピット出土土器（第124図）

第Ⅲ群土器2類、爪形文土器（1）

第Ⅲ群土器3類、浮線文土器（2）

第Ⅲ群土器4類、平行沈線文土器（3、4）　3は口縁部資料である。

第Ⅲ群土器6類、縄文土器（5）5は綾繰文をもつ。

第8号ピット出土土器（第124図）

第Ⅲ群土器2類、爪形文土器（1～3）　2は口縁部資料である。

第Ⅲ群土器4類、平行沈線文土器（4）

第Ⅲ群土器6類、縄文土器（5）　5は口縁部資料で、口唇部に太い刻みが付いている。

―遺構外―

遺構外出土土器（第125～127図）

第Ⅰ群土器（1）　口縁が肥厚し、器面には縦走する撚糸Rが施文されている。撚糸文の間にはやや広い無文部もある。稲荷台式と思われる。

第Ⅱ群土器（2～9）　すべて胎土に繊維を含む。2～5は列点文をもつが、2～4は口縁部資料で、口縁部には列点が縦位に施されている。5は列点の沿った平行沈線で菱形文を描出している。

これらのうち口縁に縦位の刺突をもつものは中部地方の神之木式に類似するが、神之木式のそれとは施文具が異る。むしろ、文様が菱形文を描く点などから判断して、群馬県方面の有尾式土器と考えておきたい。

6、7はループ文をもつ縄文を地文とし、その上に平行沈線を引いている。この沈線は関山式のような、施文具の竹管の内皮が器面に触れているものである。8は無節縄文、9は幅広の羽状縄文をもつ土器である。

これらの土器うち、6、7は関山式に似た特徴をもち、8、9は黒浜式に似た特徴をもつと言える。これらは時期的に近接し、併行する可能性があるが、本遺跡からは関山Ⅱ式にある組紐は出土していないため、これらはみな黒浜式土器古段階の所産と考えられる。

第Ⅲ群土器1類、櫛歯文土器（10）　櫛歯文が緩い波状を描き、円形竹管文が押捺されている。

第Ⅲ群土器2類、爪形文土器（11～13、17～29、31～32）　11～13、20は口縁部資料。文様としては22、25は蕨手文、18、27は渦巻文、19、31は横位弧線文を描いている。

第Ⅲ群土器2′類、爪形文＋隆帯文土器（14～16、30）　14～16は隆帯が口縁下に横走するだけで、15、16では爪形文により文様（山形文）が描かれている。一方30は爪形文間に沿う隆帯自体も渦巻文を描く。

第Ⅲ群土器3類、浮線文土器（33～41）　35、37、38は口縁部資料で、35は刻み、37は隆線が付けられる。文様では、35は横線文、36はπ字蕨手文（渦巻型）、39は風車状渦巻文を描いている。また39は浮線の両脇に列点が沿う特徴がある。41は底部資料で、眼鏡状に浮線が貼られている。

第Ⅲ群土器４類、平行沈線文土器（42～72）　42～53は口縁部破片である。42は渦巻突起、43は瘤状突起が付いている。文様としては、43～45は横位弧線文(背弧型)、46は菱形区画木葉文、47～50は菱形文、52は格子目文を描いている。また口縁を欠く資料の文様としては、54は多重渦巻文、55はπ字蕨手文（渦巻型)、59は弧線区画縦位背弧線文、60、61は横位弧線文(向弧型)、65は鋸歯状文、67～69は格子目文を描いている。また66は集合沈線により縦位矢羽根状文を描出している諸磯ｃ式である。

第Ⅲ群土器６類、縄文土器（73～76）　74は無節の、75、76は単節の結束付羽状縄文である。

第Ⅲ群土器８類、浅鉢形土器（77～80）　みな内湾浅鉢もしくは複段内湾浅鉢である。77は口縁に波状の隆線をもつ。78は円孔をもつ。79も口縁に平行する刻み付き隆帯をもつ。さらに78～80では爪形文により木葉文や渦巻文に類似した文様が描かれている。

第Ⅳ群土器（81～88）　81、83、84は幅広変形爪形文と幅狭沈線により文様を描いている。81は粗い刻みがつく。83、84はともに浮島Ⅱ式土器であろう。85は平行沈線文と貝殻文を文様とする。86は爪形文と平行沈線文を横走させている。87、88はいわゆるアナダラ属貝殻による波状貝殻文土器である。特に87は貝殻の放射肋を条線状に表出した土器で浮島Ⅲ式に多く見られるものである。貝殻文上には刺突がある。82は凹凸文であるが、凹凸文同士の間隔が密で、興津式土器に類似する。しかし上下に並ぶ凹凸文が接している点は茨城、千葉県方面のものとは異る。群馬県方面で興津式土器を模倣製作したものかもしれない。

第Ⅴ群土器（89、90）　89、90は器壁が５㎜程度しかなく、通常の諸磯ｂ式では６～10㎜くらいあるのと比較して非常に薄い。０段多条の単節縄文を地文とし、その上に厚さ１㎜程度の凸帯を貼付している。89では×字状、90では梯子状をなす。凸帯上にはヘラ状工具により鋭利な細い刻みが付けられている。中部地方以西に分布する北白川下層Ⅱｃ式土器であろう。

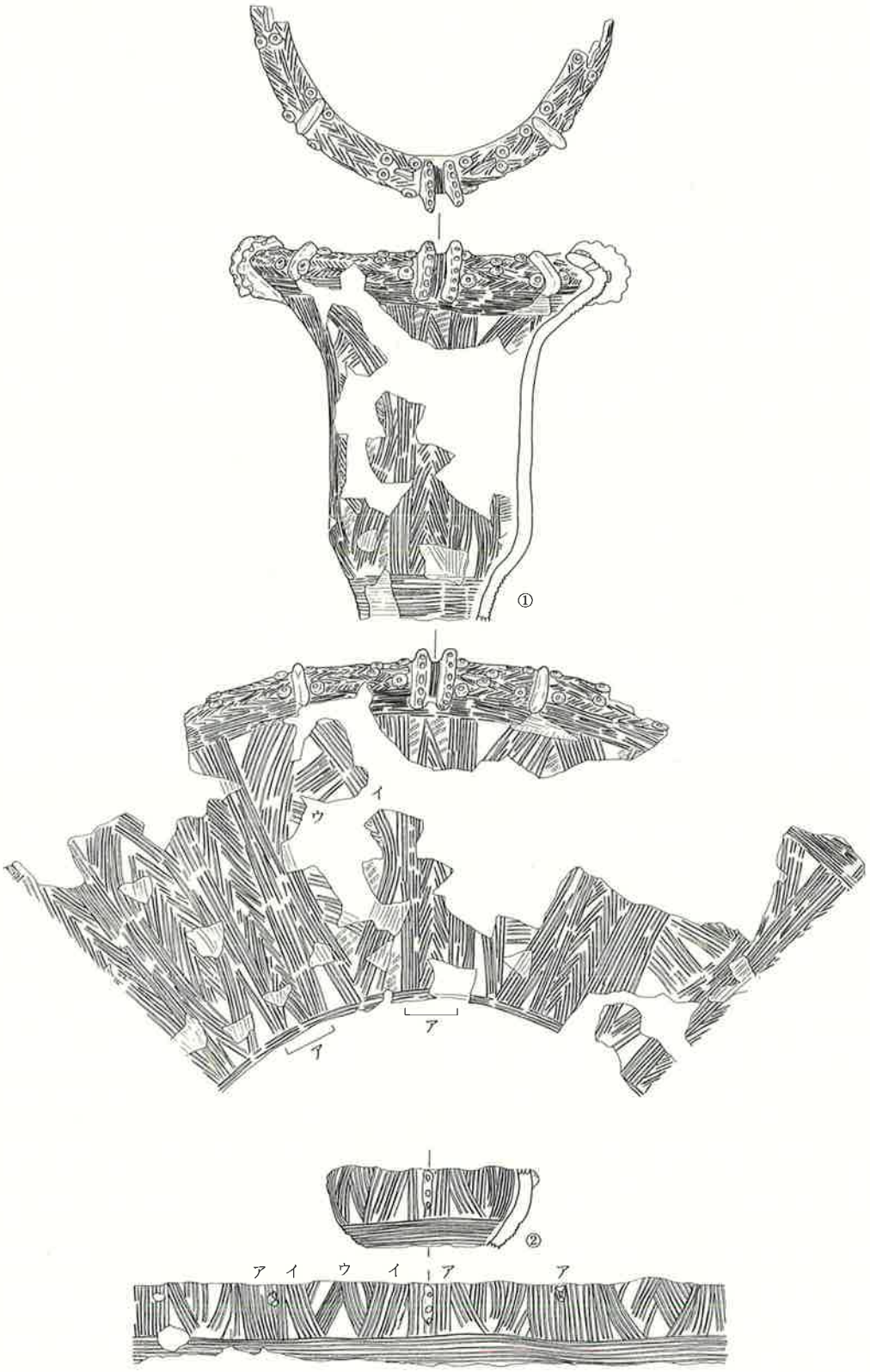
第Ⅵ群土器（91～95）　91は大きく開く口縁、92は肥厚する内湾口縁をなす。91、94、95は単節ＲＬ縄文を施した隆帯と太い沈線、93は太い沈線で文様を描いている。隆帯は区画文的性格をもち、横走したり、渦を描いたりしている。沈線は隆帯で区画された中に文様を描くのに使われ、渦巻文などを描いている。勝坂式終末～加曽利ＥⅠ式の頃の群馬県方面独自の土器である。

第Ⅶ群土器（96～98）　96は沈線により文様を描く。97は磨消縄文を持つ。また98は外面には縄文、内面には一条の沈線をもつ。96は堀之内１式または２式土器、97、98は堀之内２式土器である。

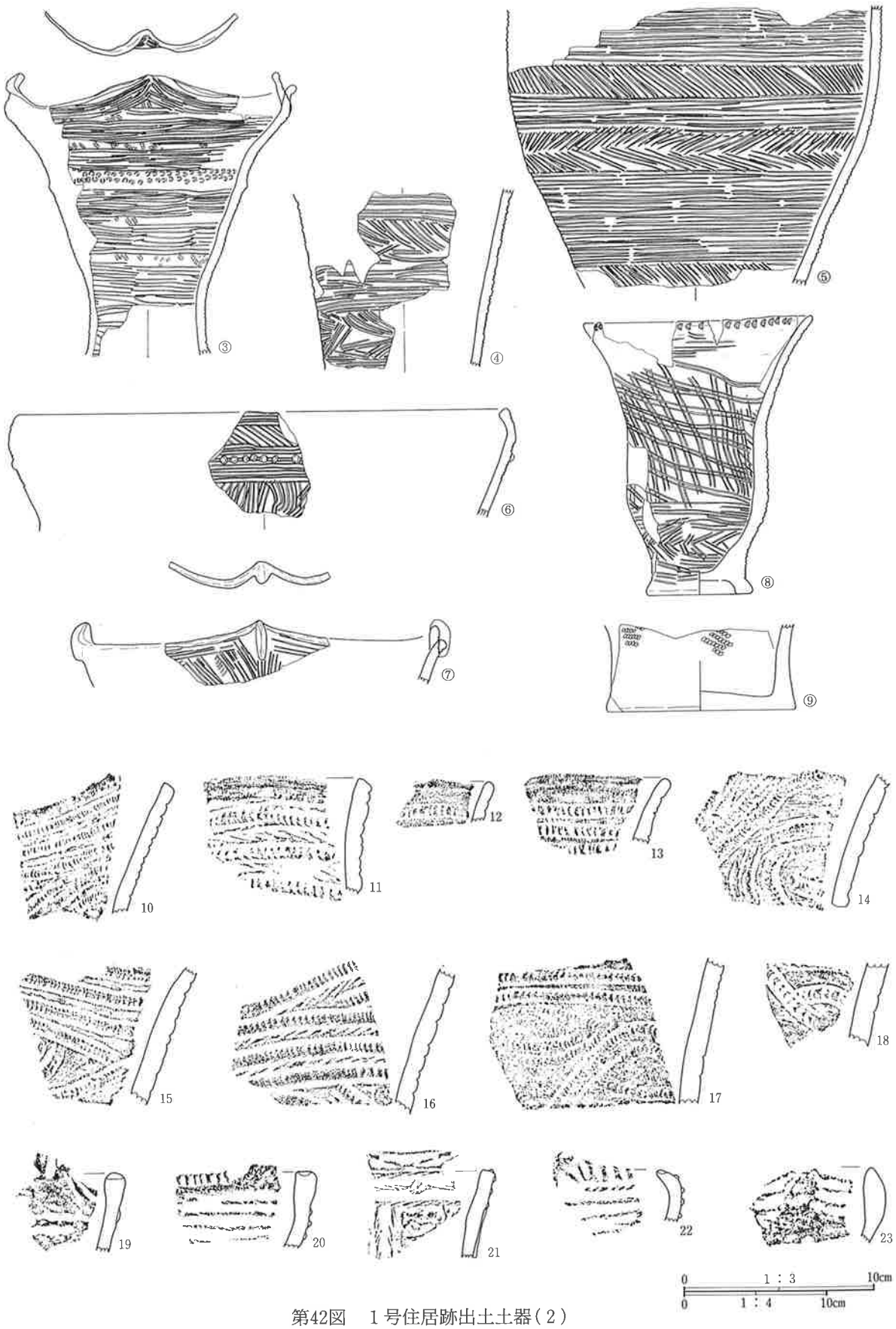
第3表　遺構別出土土器総数

遺　　構	Ⅰ群	Ⅱ群	Ⅲ群	Ⅳ群	Ⅴ群	Ⅵ群	Ⅶ群	総数
1号住居		8	646	9				663
2号住居		5	154					159
3号住居	1	157	337					495
4号住居		23	2422	1				2446
5号住居		6	291	2				299
6号住居			71	2				73
7号住居		9	156	5				170
8号住居		2	209	3				214
9号住居		10	179	1				190
10号住居		12	1113	14				1139
11号住居		8	376	9				393
2号土坑			13					13
4号土坑			7					7
5号土坑			2					2
8号土坑			11					11
10号土坑			7					7
11号土坑		4	9					13
17号土坑			2					2
18号土坑			1					1
19号土坑			18					18
29号土坑			22					22
30号土坑	1	1	42					44
31号土坑		1	28					29
32号土坑			1					1
33号土坑		1	12					13
34号土坑		1	2					3
35号土坑		4	56					60
36号土坑		3	45					48
37号土坑		6	23					29
38号土坑		1	42					43
39号土坑		4	115					119
41、42号土坑		1	23	1				25
42号土坑			1					1
43号土坑		11						11
50号土坑		3						3
51号土坑		1						1
52号土坑			4					4
53号土坑		1	29					30
55号土坑			8					8
56号土坑			1					1
57号土坑			15					15
58号土坑			4					4
59号土坑			2					2
60号土坑		1	17					18
64号土坑			7					7
65号土坑		5						5
66号土坑		10	2					12
67号土坑			67					67
68号土坑		3	81					84
71号土坑		1	39					40
72号土坑			2					2

遺　　構	Ⅰ群	Ⅱ群	Ⅲ群	Ⅳ群	Ⅴ群	Ⅵ群	Ⅶ群	総数
73号土坑			2					2
74号土坑			15					15
75号土坑		1	30					31
80号土坑			13					13
81号土坑		1	10					11
82号土坑		2	38					40
83号土坑		1	2					3
84号土坑			18					18
91号土坑			2					2
92号土坑			10					10
94号土坑		1	17					18
99号土坑		1	48					49
100号土坑			8					8
105号土坑		5	3					8
107号土坑			75					75
108号土坑			15	1				16
109号土坑		1	42					43
111号土坑		1	10					11
112号土坑		1	1					2
113号土坑			9					9
116号土坑			2					2
118号土坑			4					4
121号土坑		1	63	3				67
122号土坑		1	29					30
123A号土坑			18	1				19
123B号土坑			37	1				38
124A号土坑			17	1				18
124B号土坑			1					1
124C号土坑			8					8
130号土坑		1	22	1				24
132号土坑		1	71					72
134号土坑			8					8
137号土坑		4	39					43
138号土坑			67	3				70
139号土坑			16					16
140号土坑			37	2				39
141号土坑			7					7
142B号土坑			4					4
143号土坑			3					3
144号土坑			22	1				23
145A号土坑		1	27					28
147号土坑		1	72	3				76
148号土坑		1	9					10
149号土坑		3	23					26
151号土坑			9					9
152号土坑			7					7
3 P			5					5
5 P			2					2
6 P			5					5
8 P			8					8
遺構外	1	43	1432	10	2	5	4	1497
総　計	3	375	9156	74	2	5	4	9619

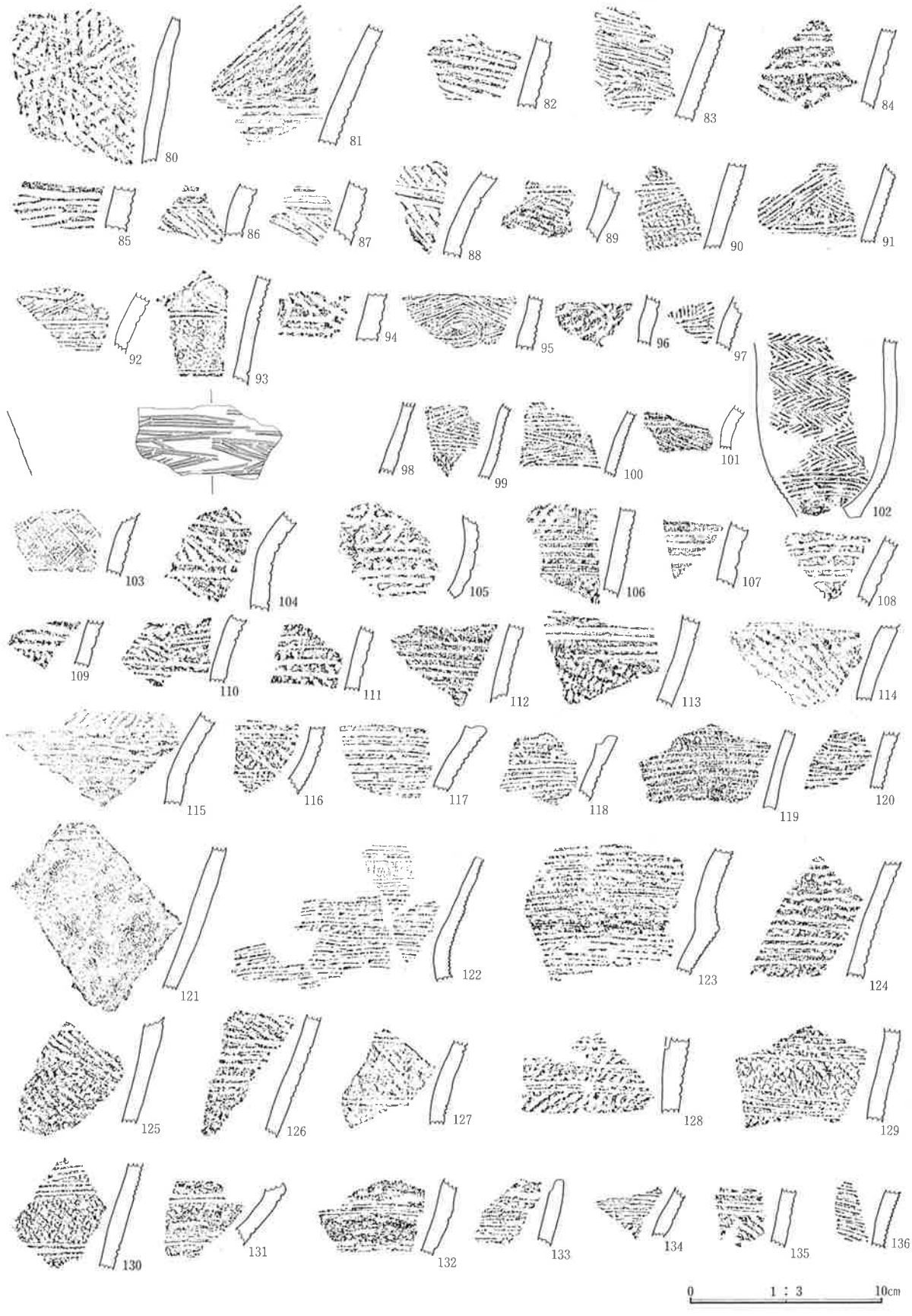


第41図　1号住居跡出土土器（1）

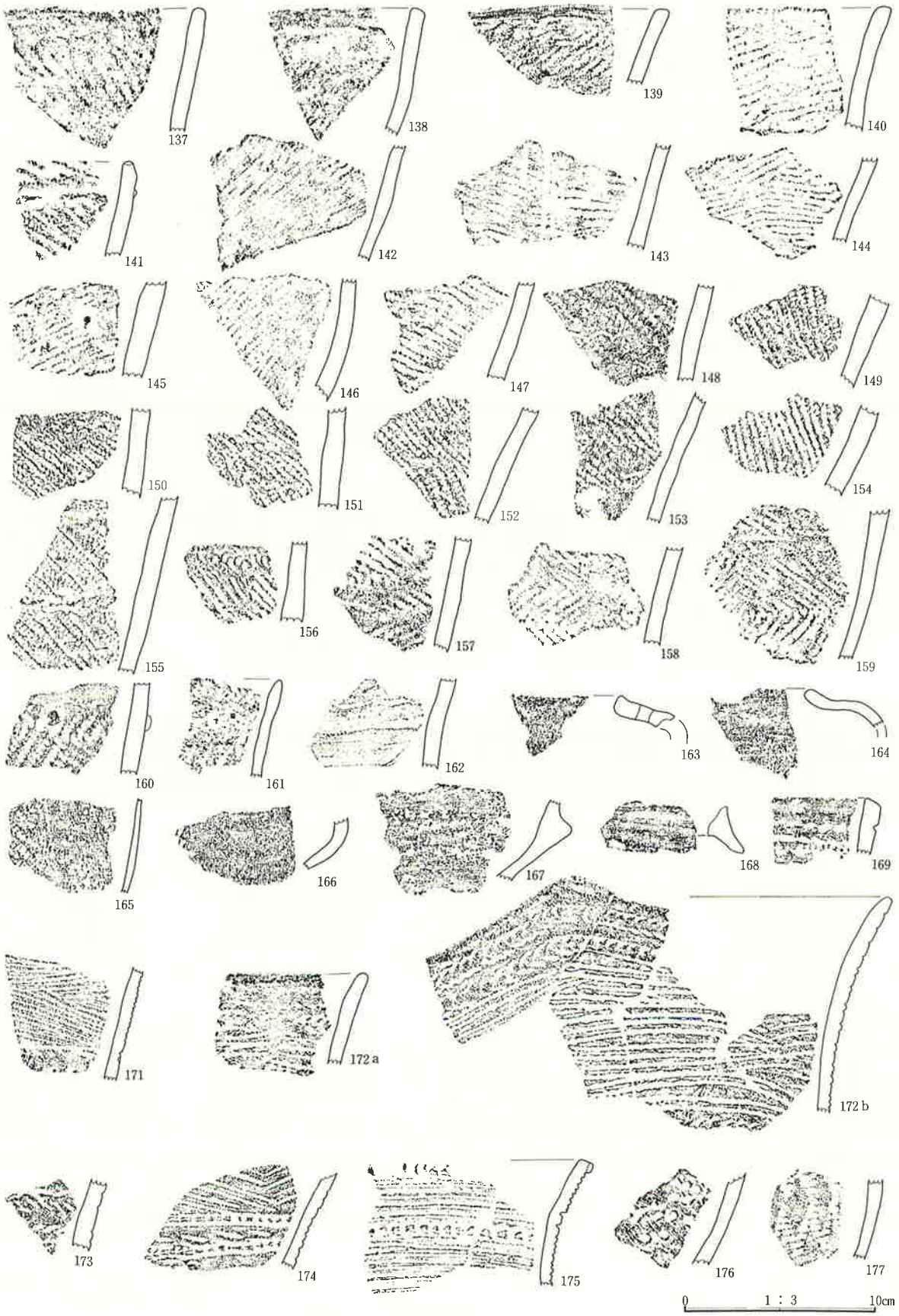


第42図　1号住居跡出土土器（2）

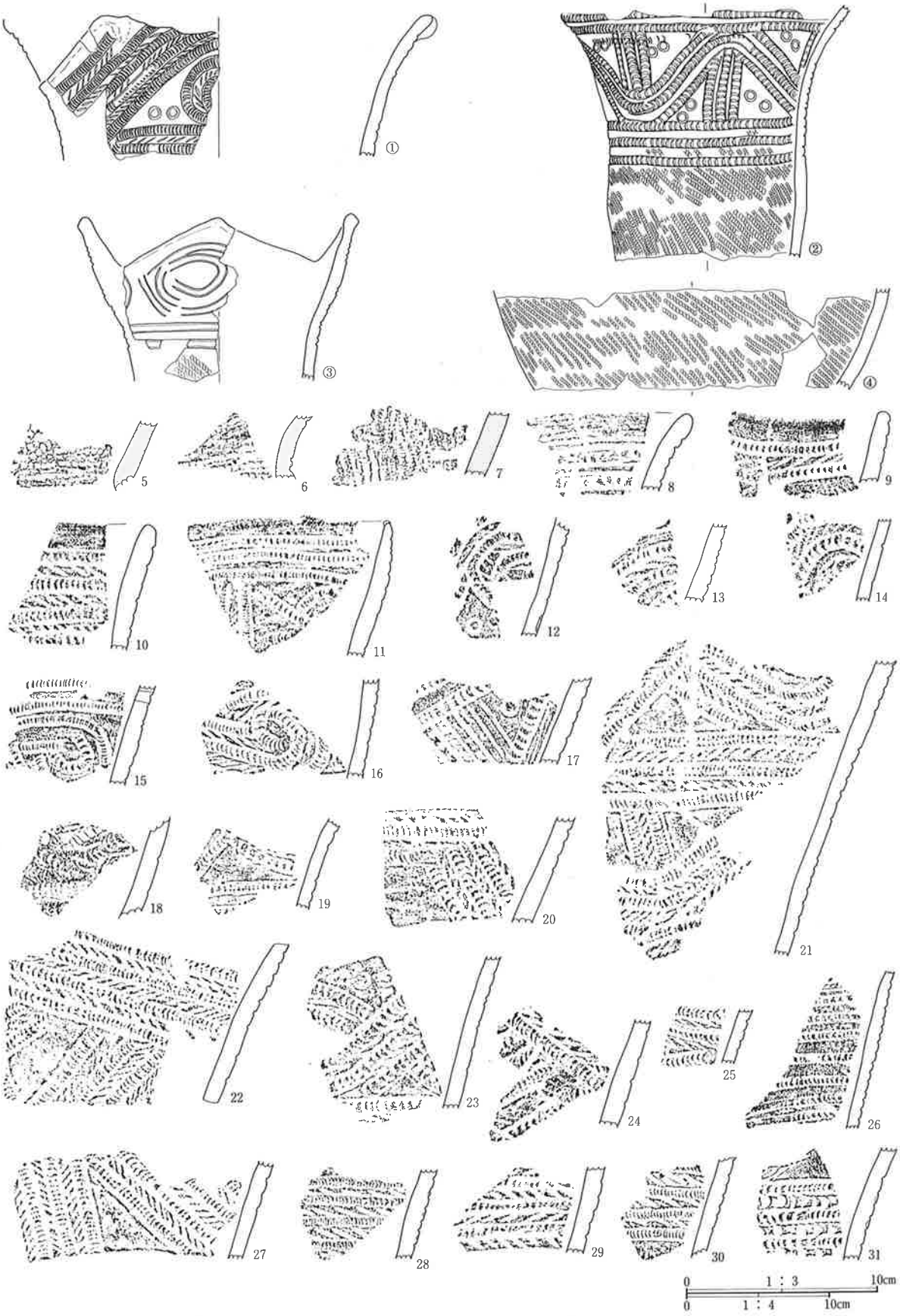
第43図　1号住居跡出土土器（3）



第44図　1号住居跡出土土器（4）



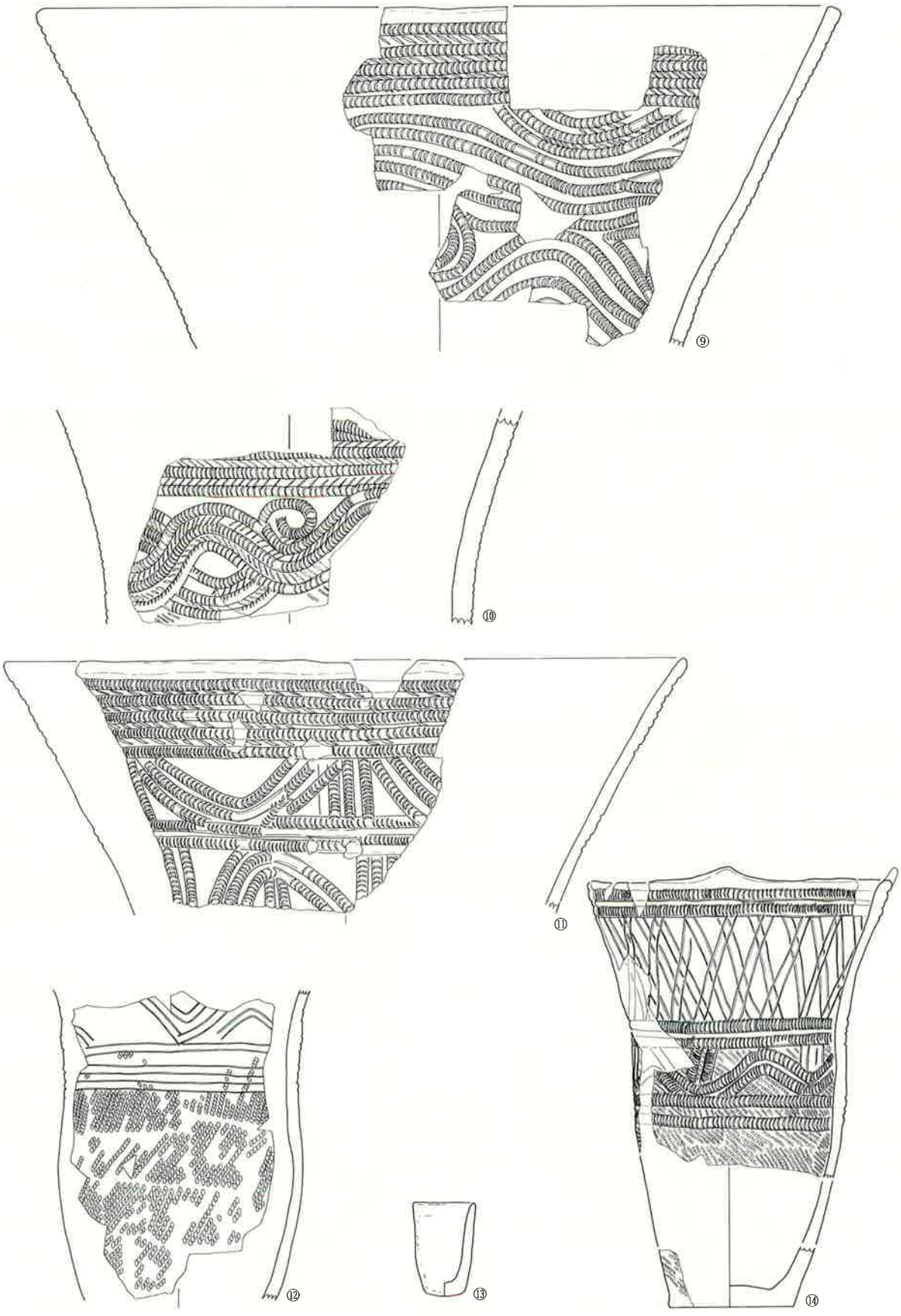
第45図　1号住居跡出土土器（5）



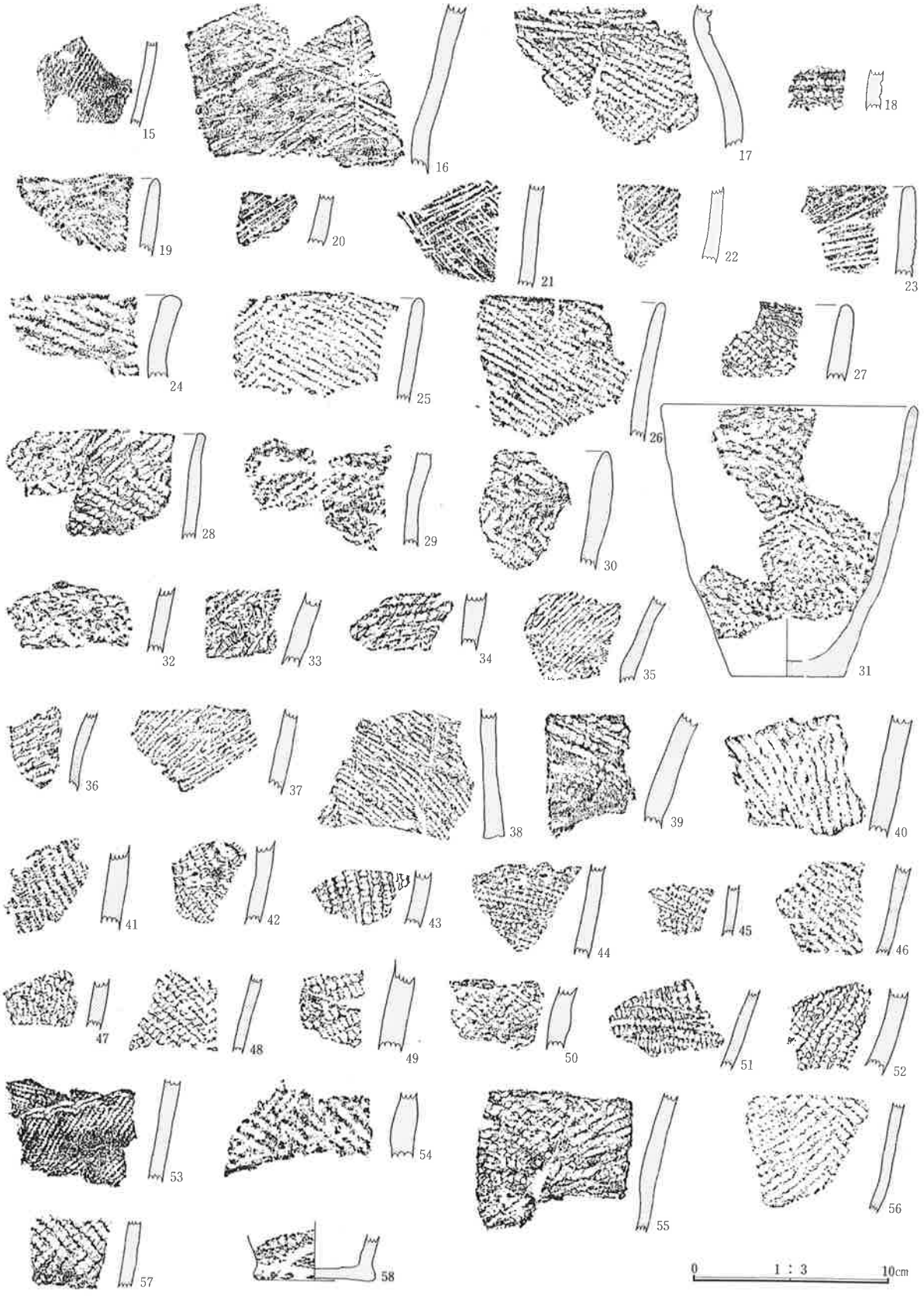
第46図　2号住居跡出土土器（1）

第47図　2号住居跡出土土器（2）

第48図　3号住居跡出土土器（1）

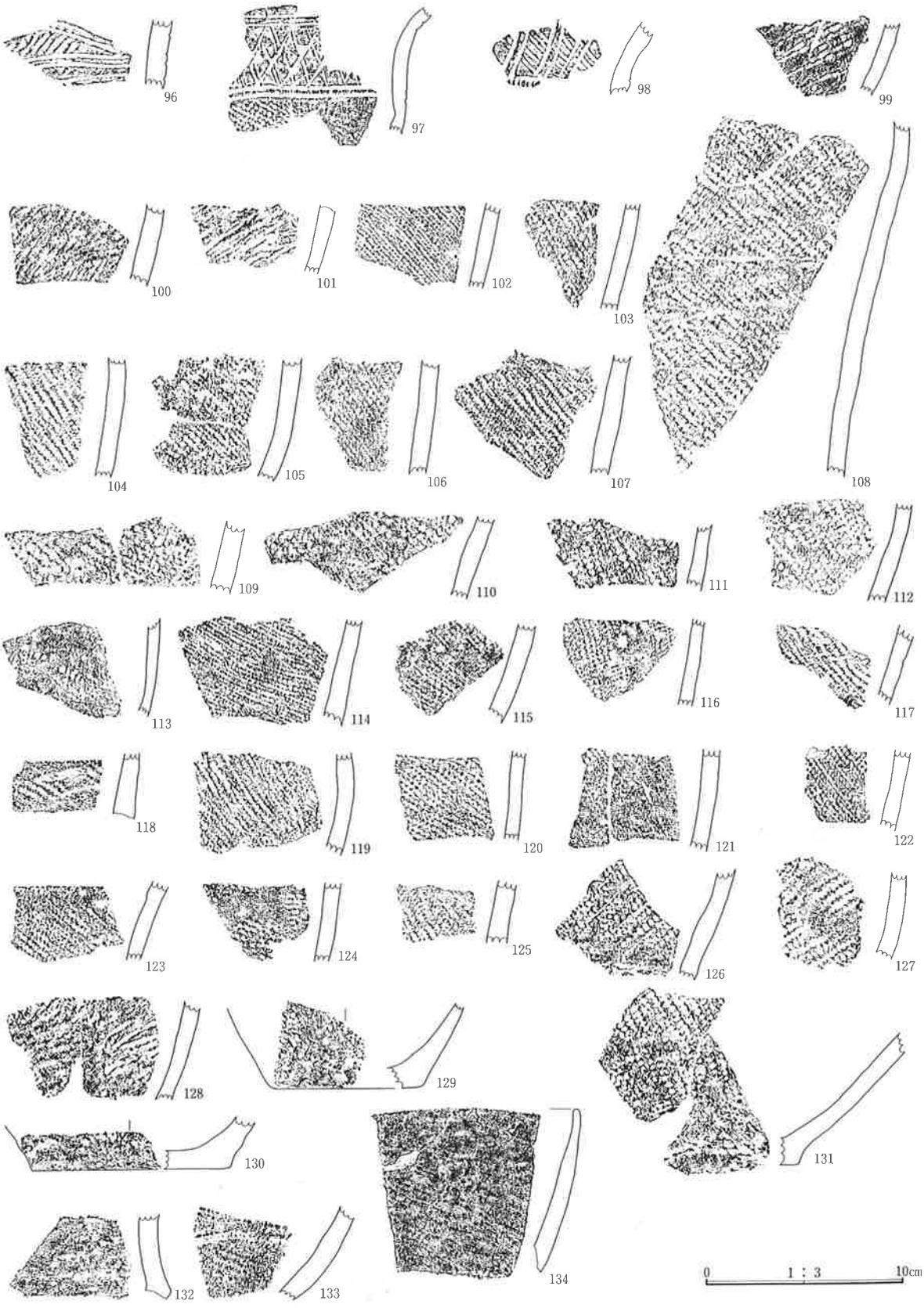


第49図　3号住居跡出土土器（2）

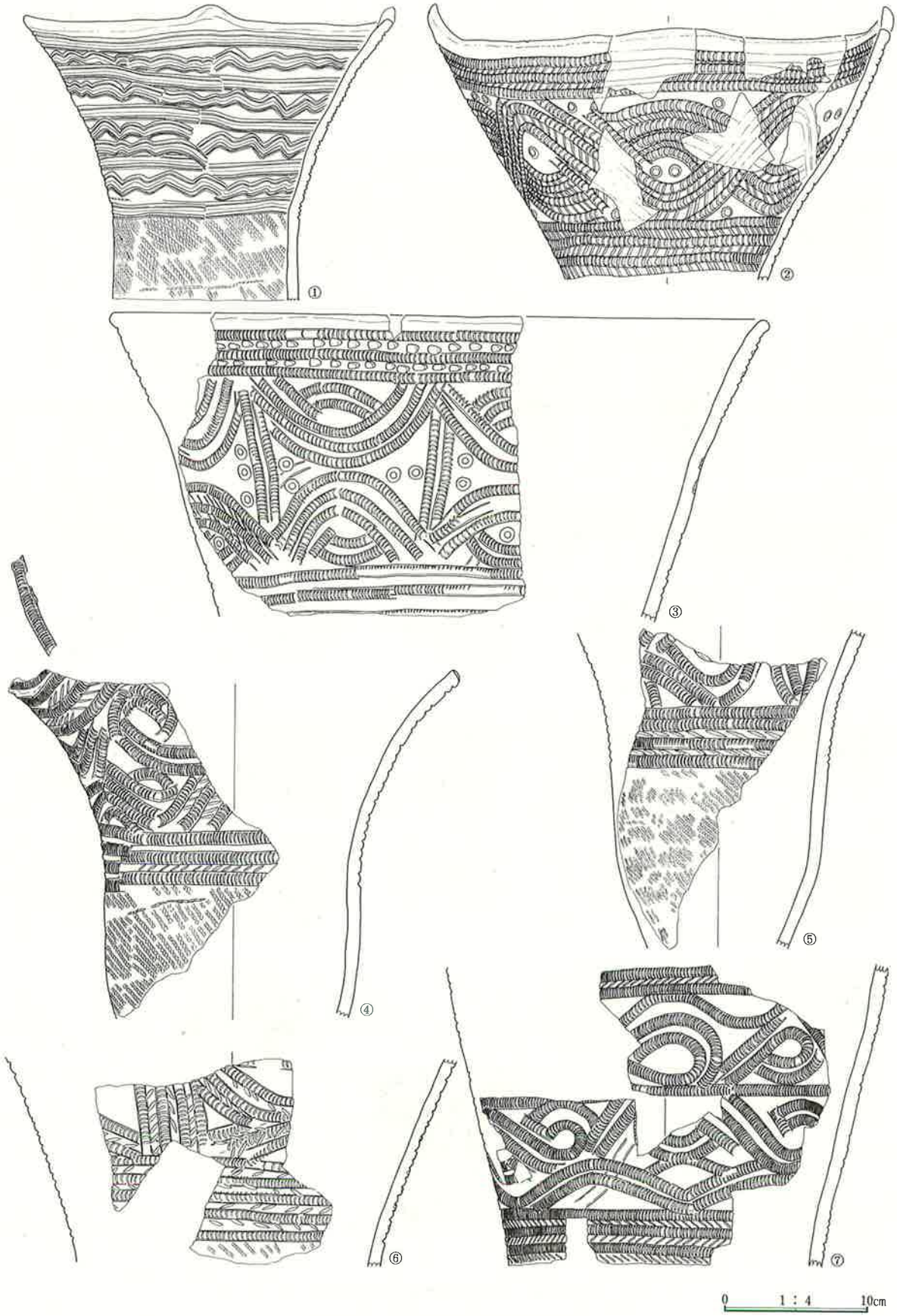


第50図　3号住居跡出土土器（3）

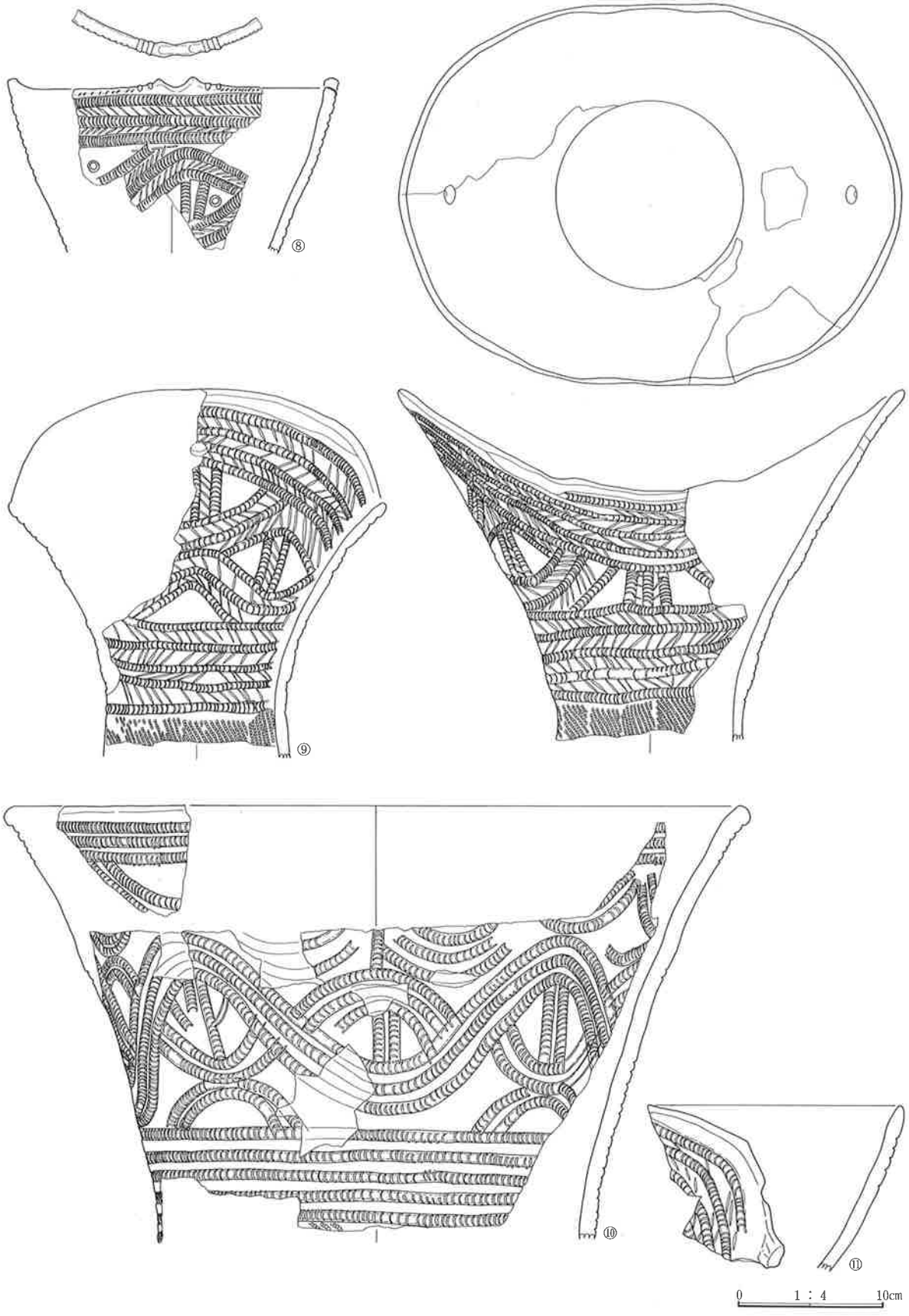
第51図　3号住居跡出土土器（4）



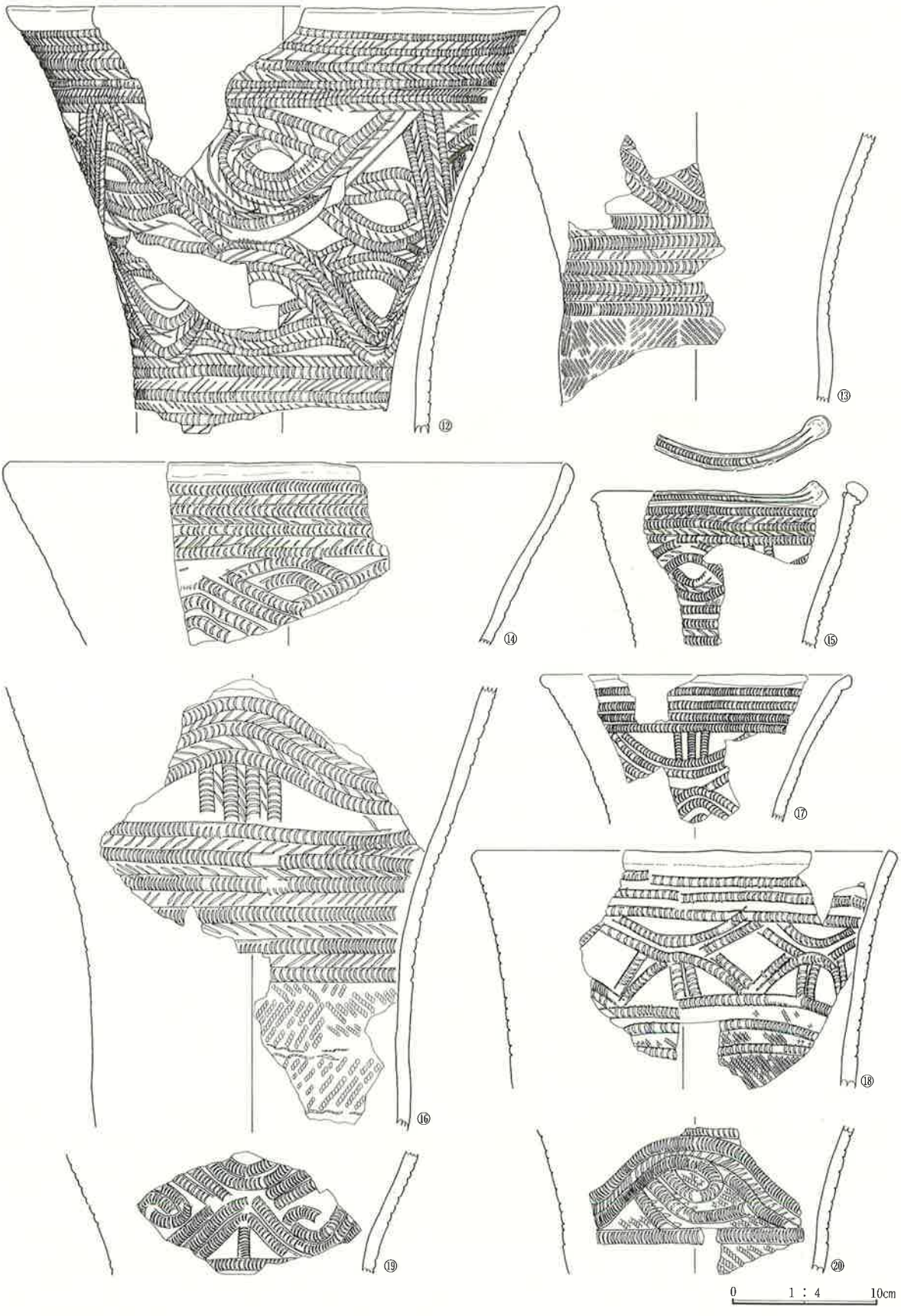
第52図　3号住居跡出土土器（5）



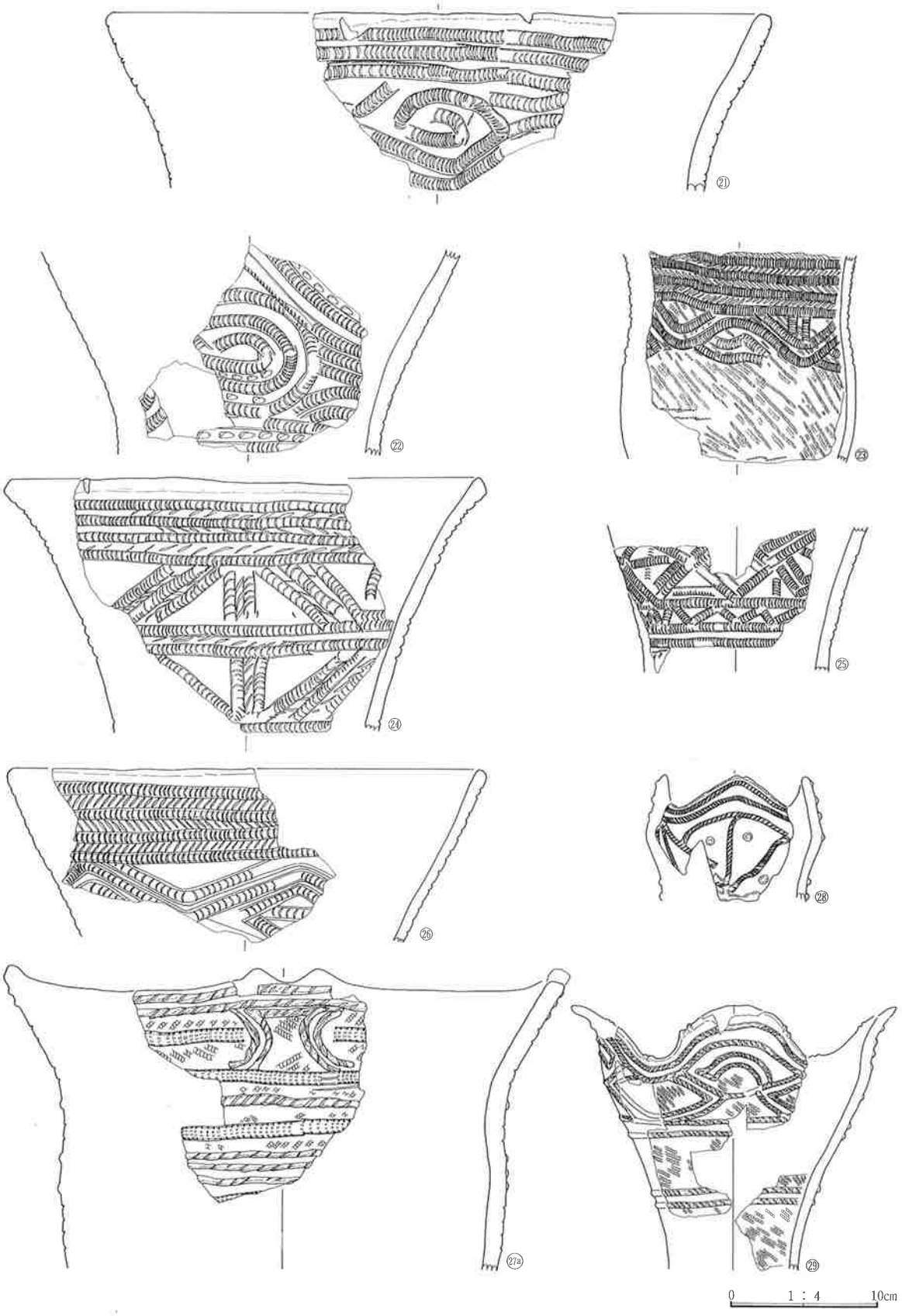
第53図　4号住居跡出土土器（1）



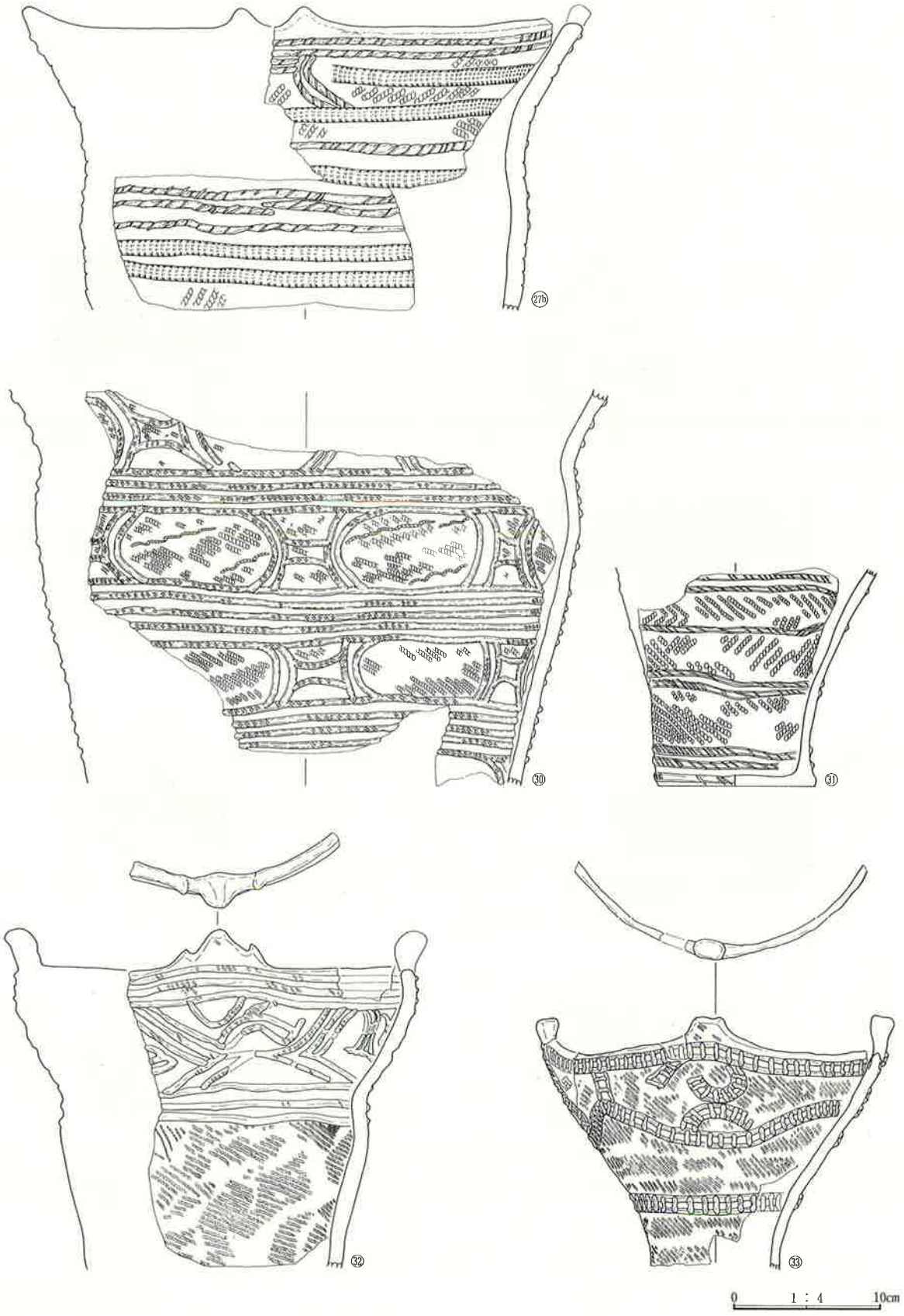
第54図　4号住居跡出土土器（2）



第55図　4号住居跡出土土器（3）

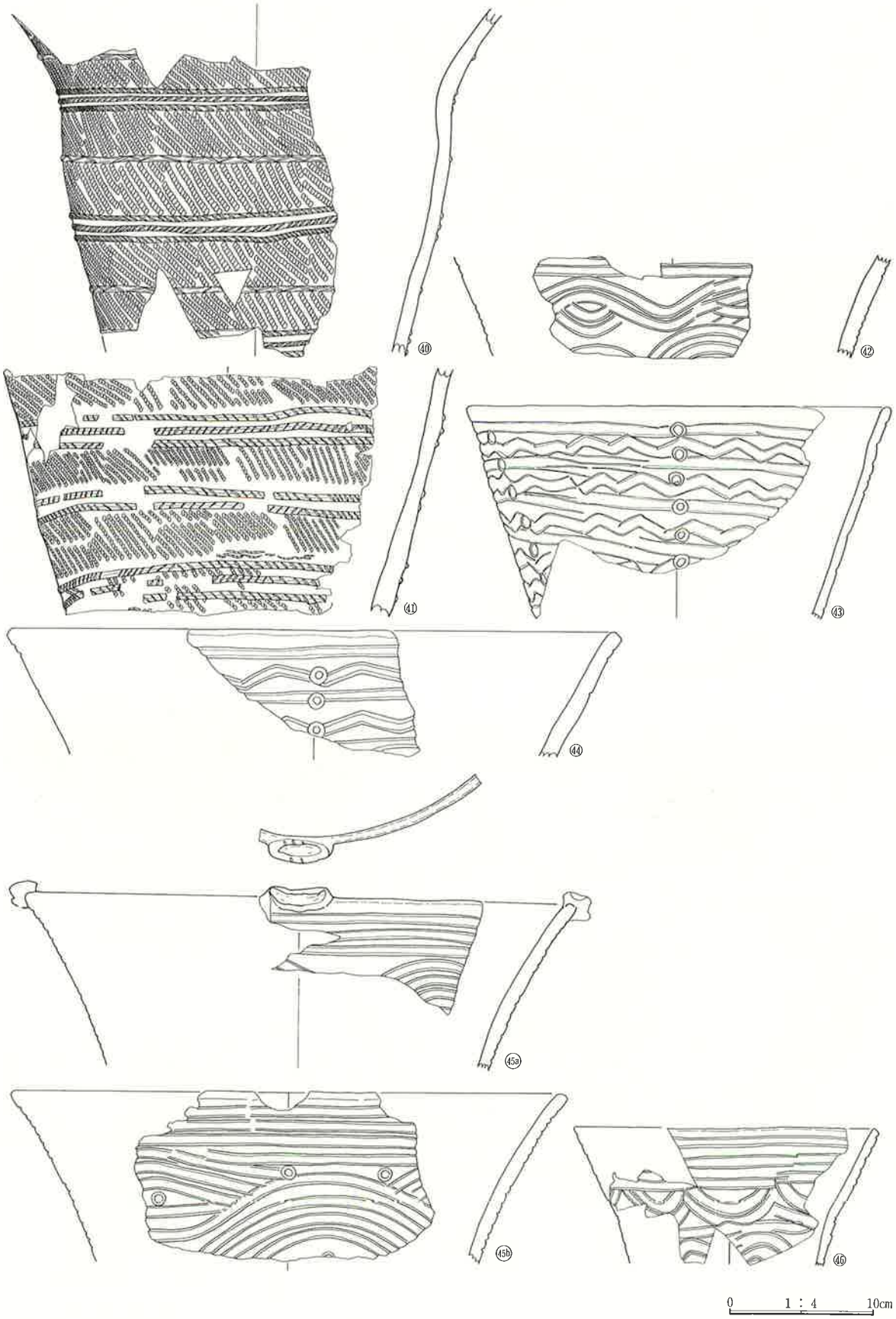


第56図　4号住居跡出土土器（4）

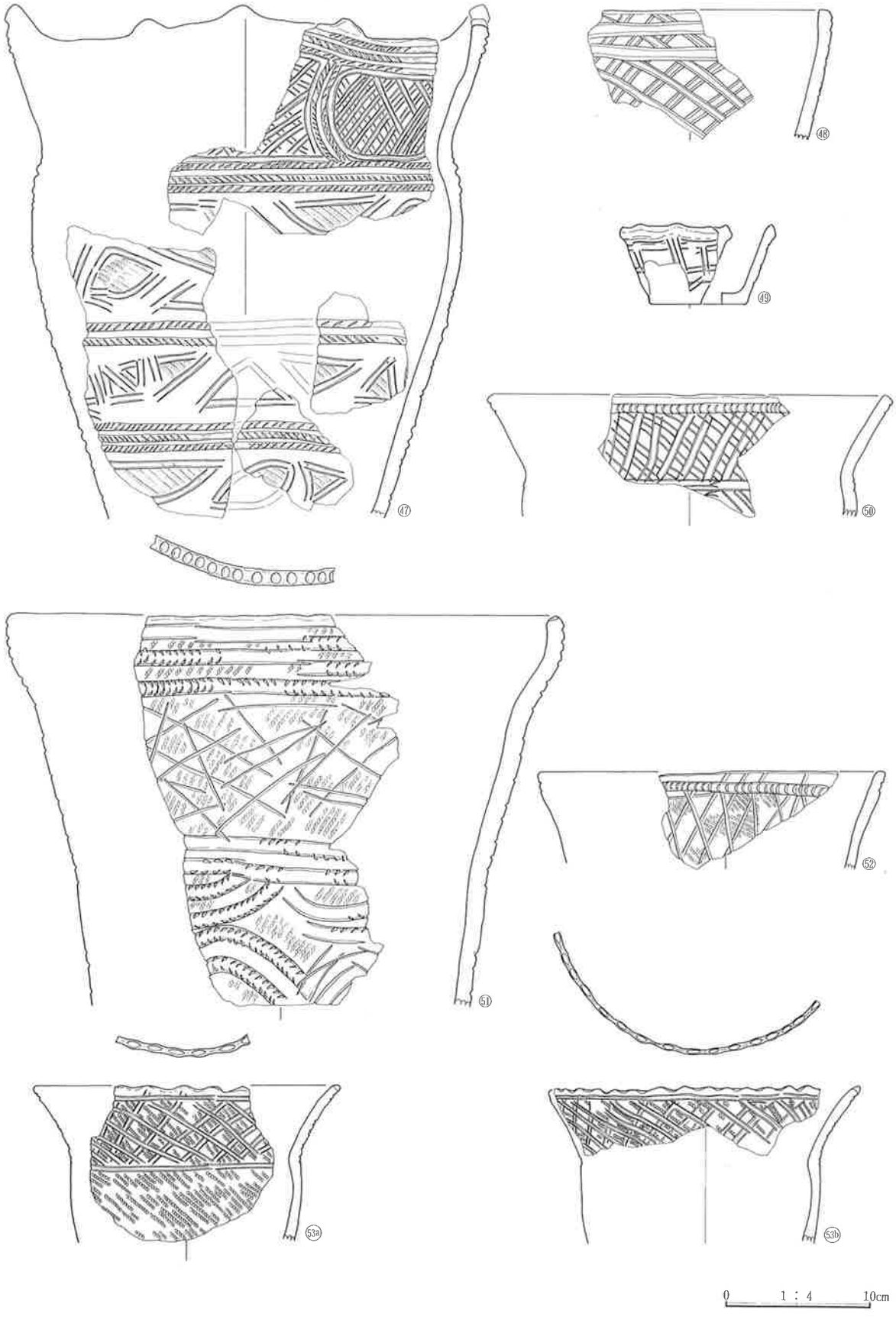


第57図　4号住居跡出土土器（5）

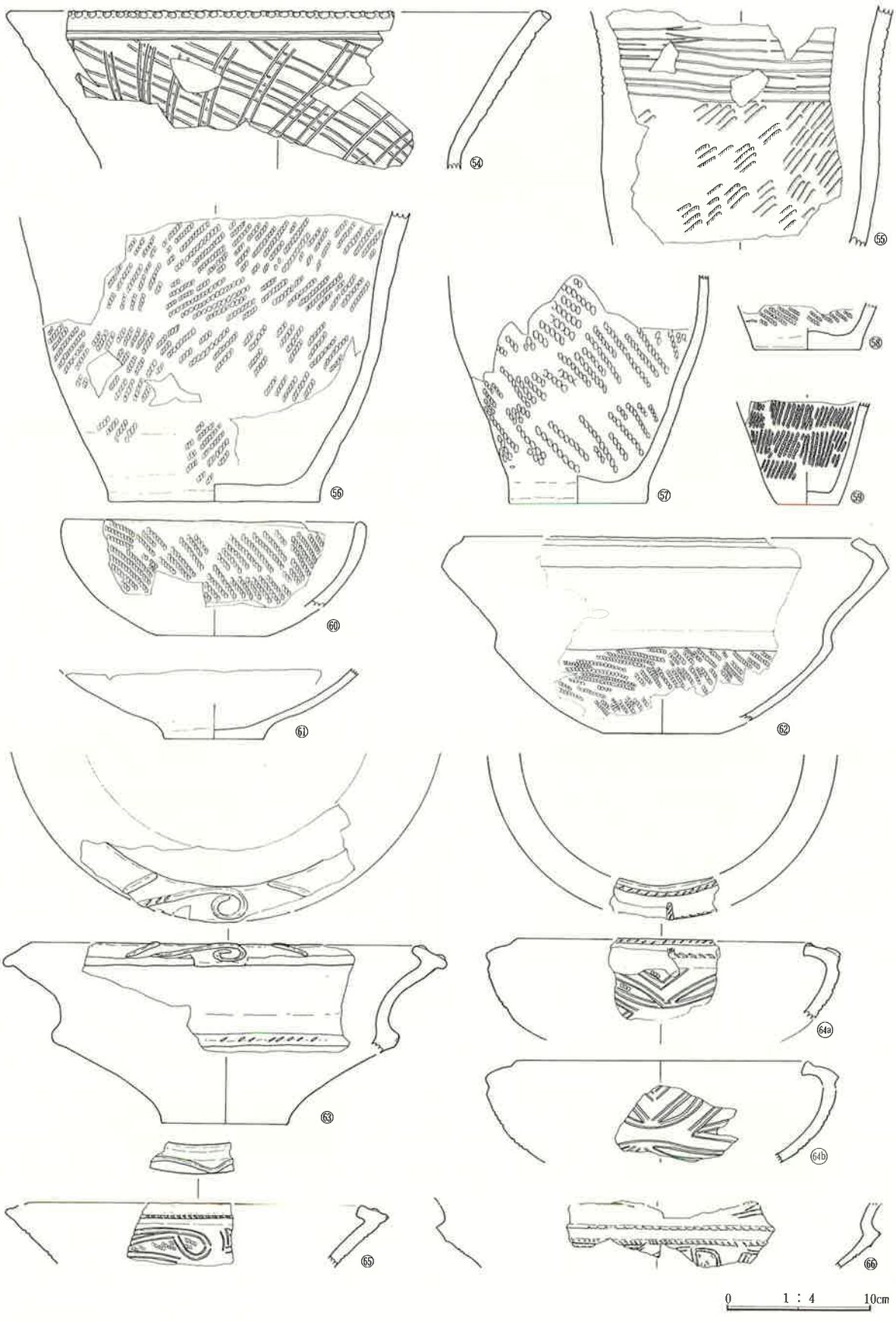
第58図　4号住居跡出土土器（6）



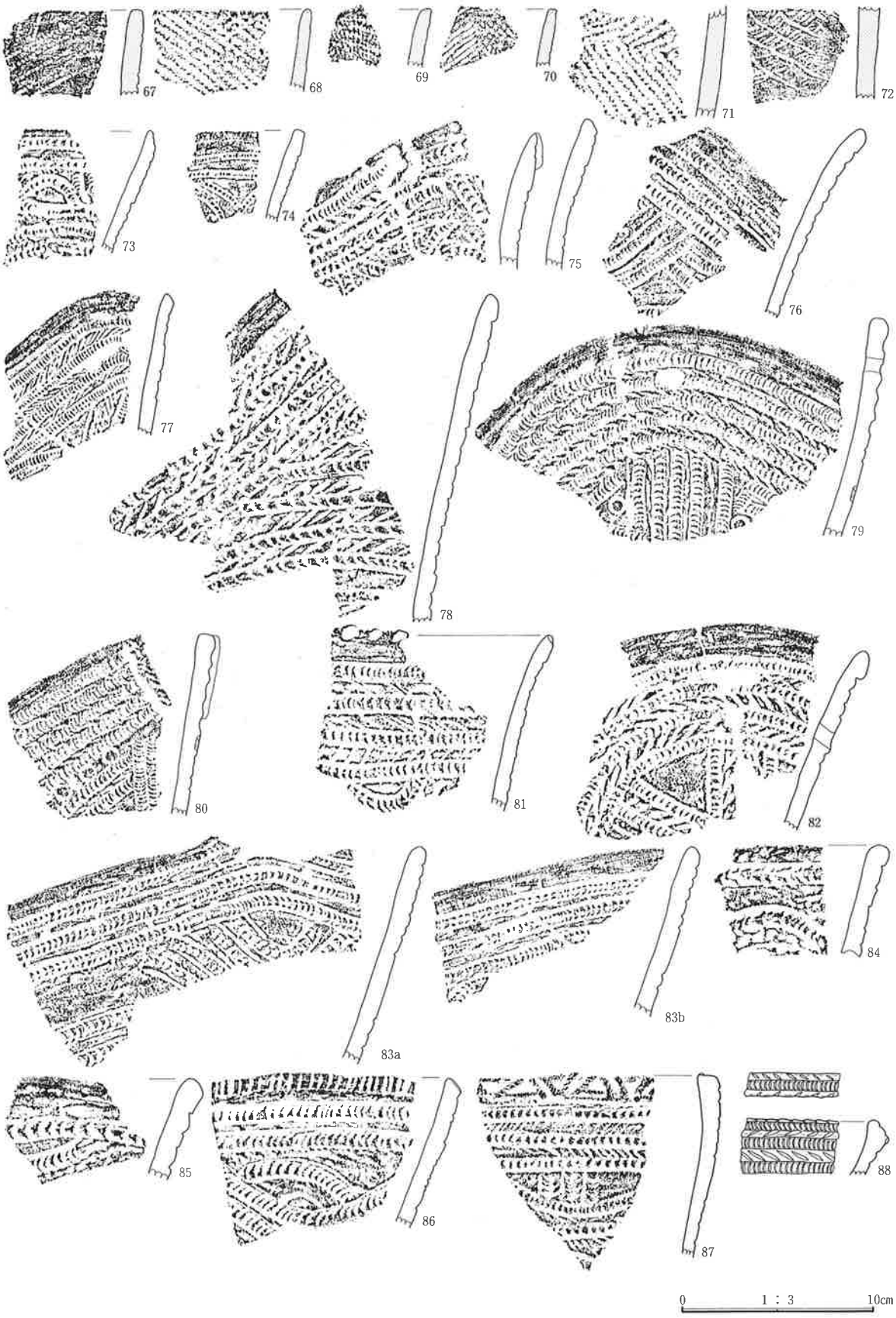
第59図　4号住居跡出土土器（7）



第60図　4号住居跡出土土器（8）

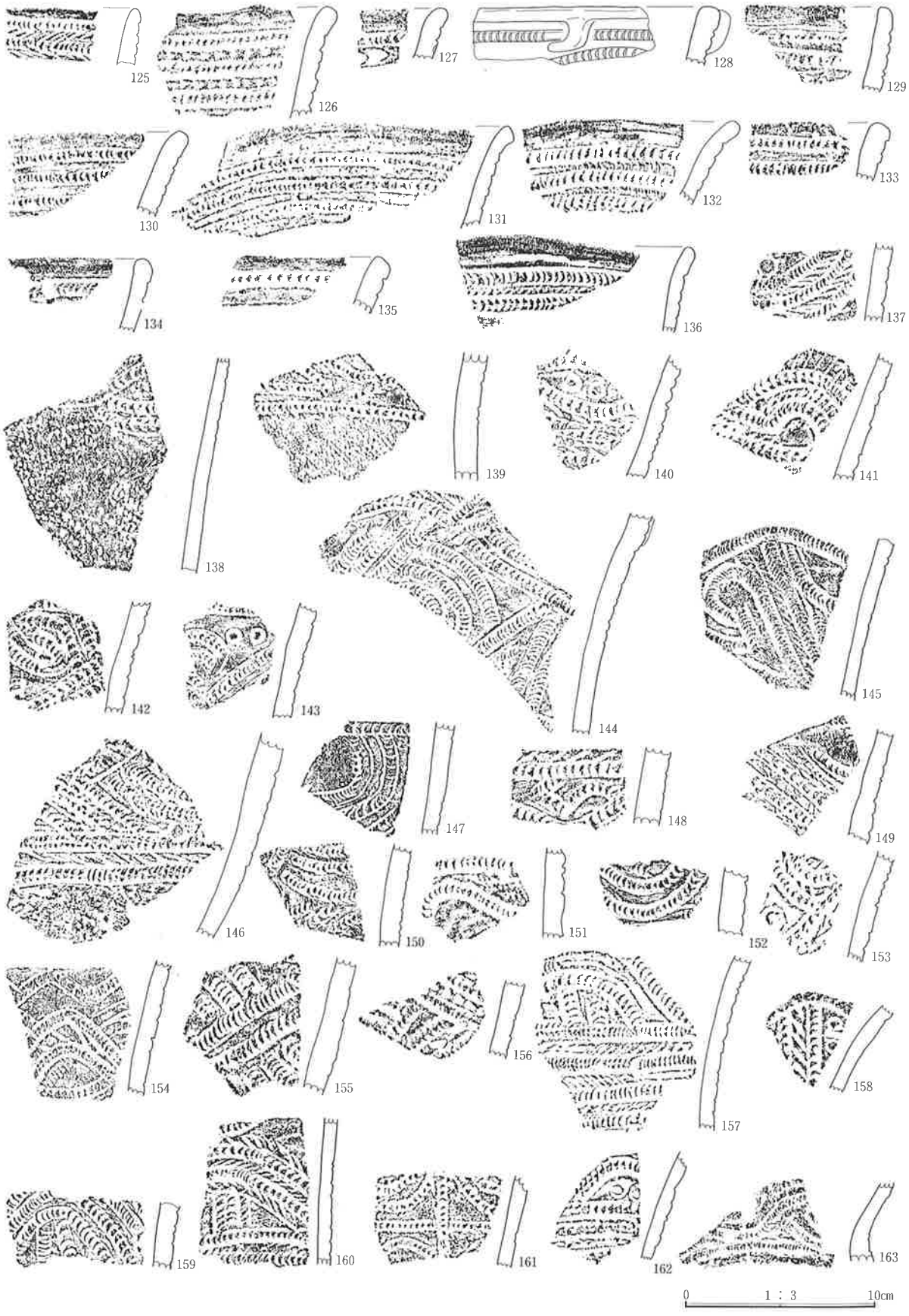


第61図　4号住居跡出土土器（9）



第62図　4号住居跡出土土器(10)

第63図　4号住居跡出土土器(11)



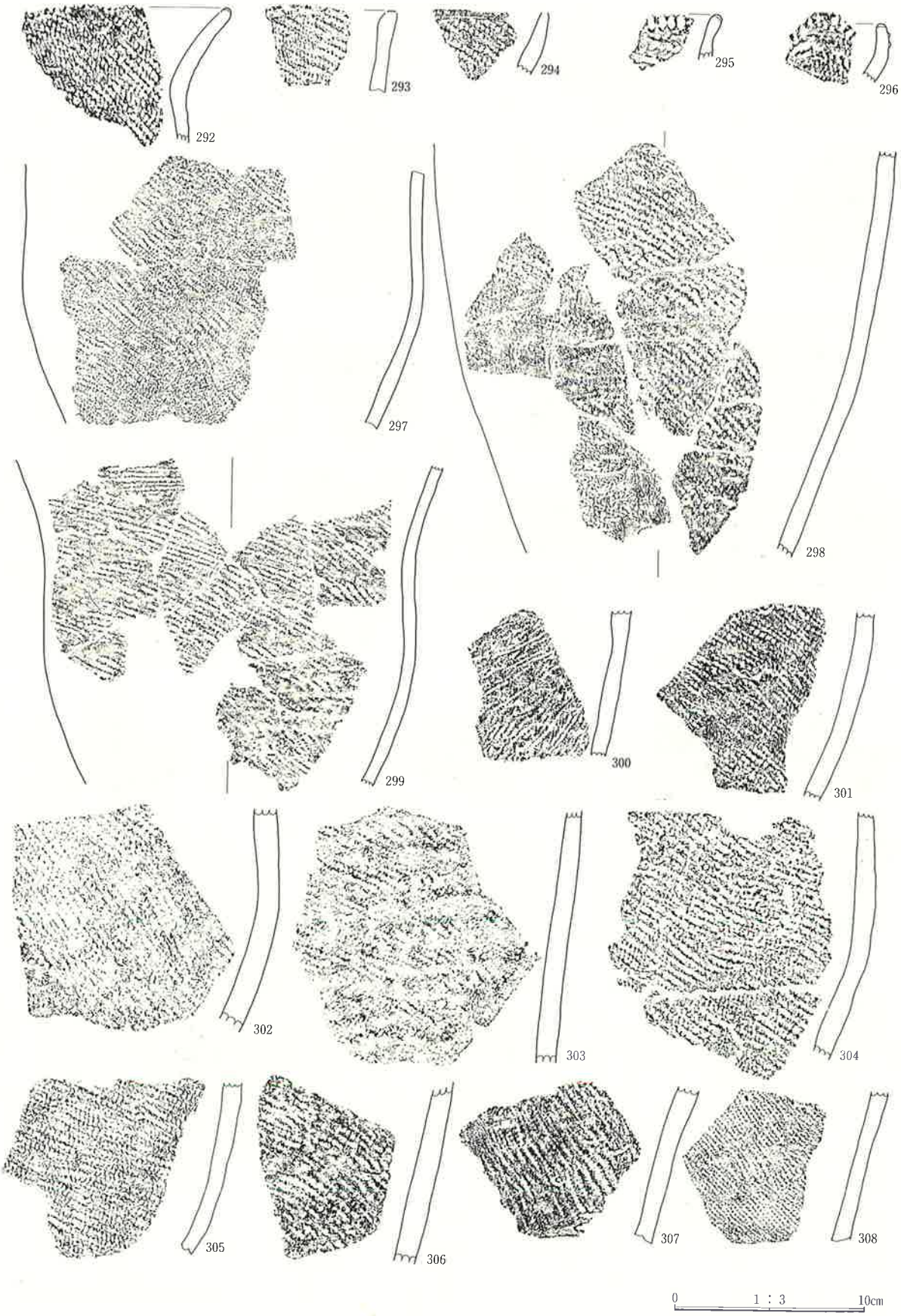
第64図　4号住居跡出土土器(12)

第65図　4号住居跡出土土器(13)

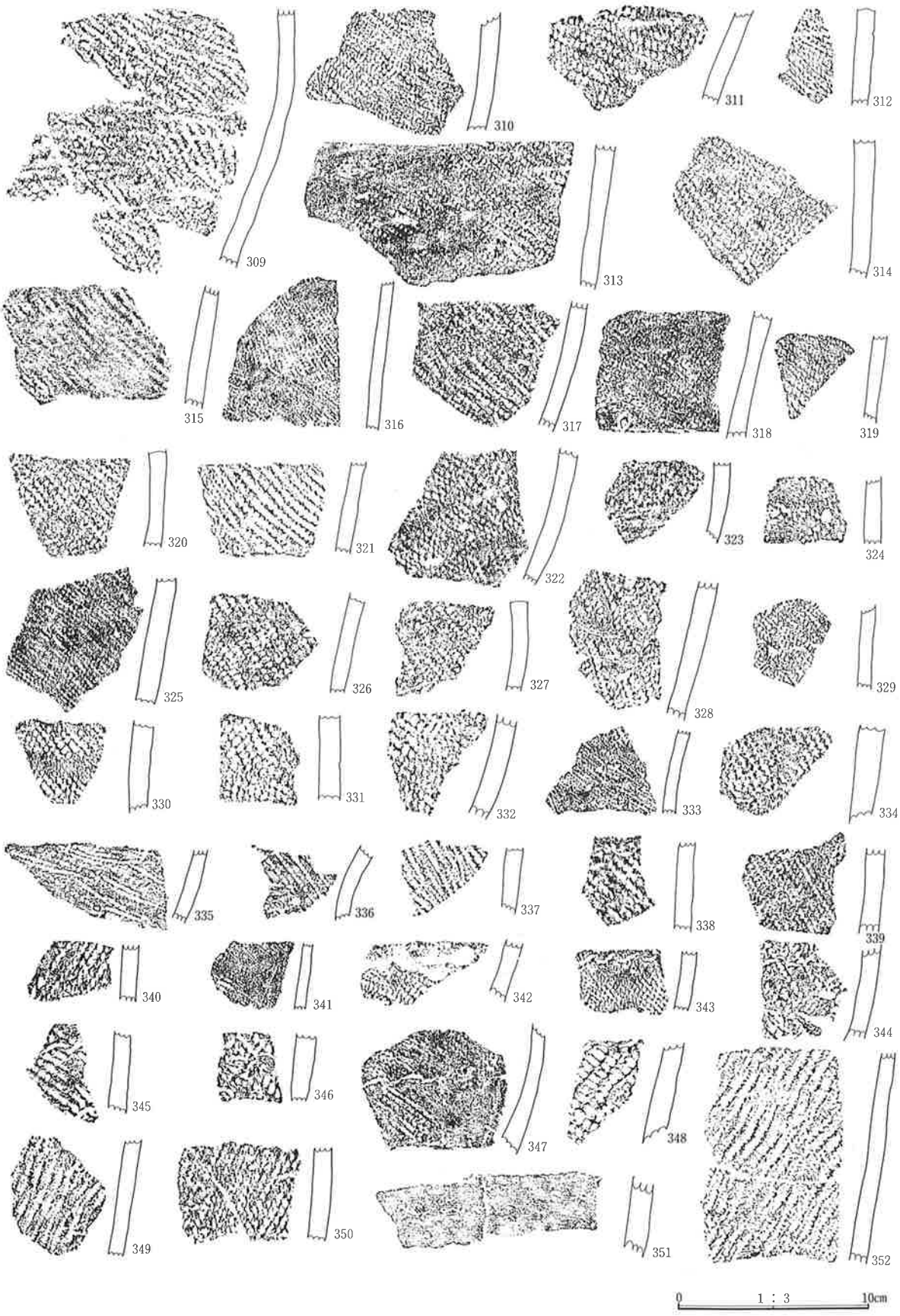
第66図　4号住居跡出土土器(14)

第67図　4号住居跡出土土器(15)

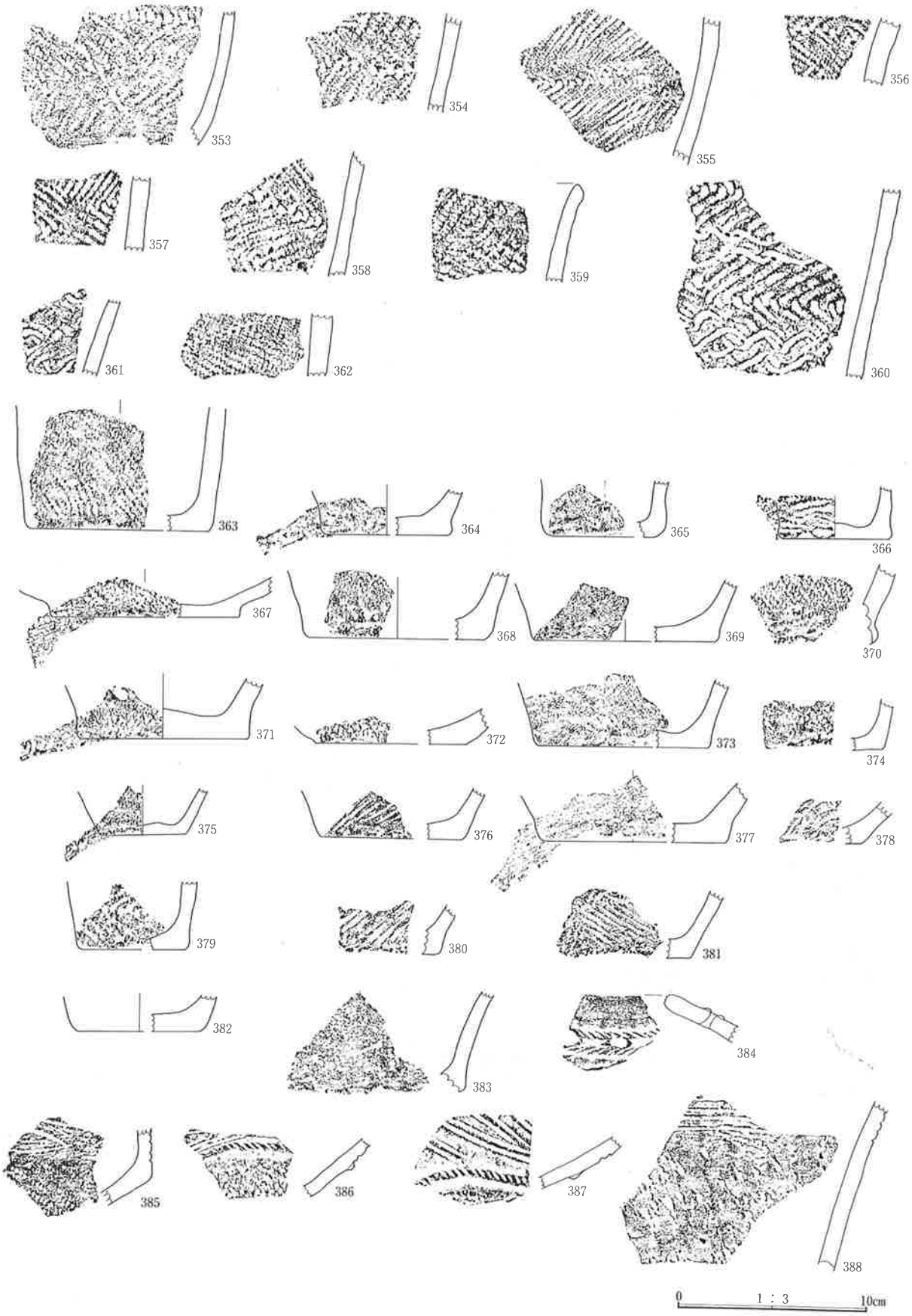
第68図　4号住居跡出土土器(16)



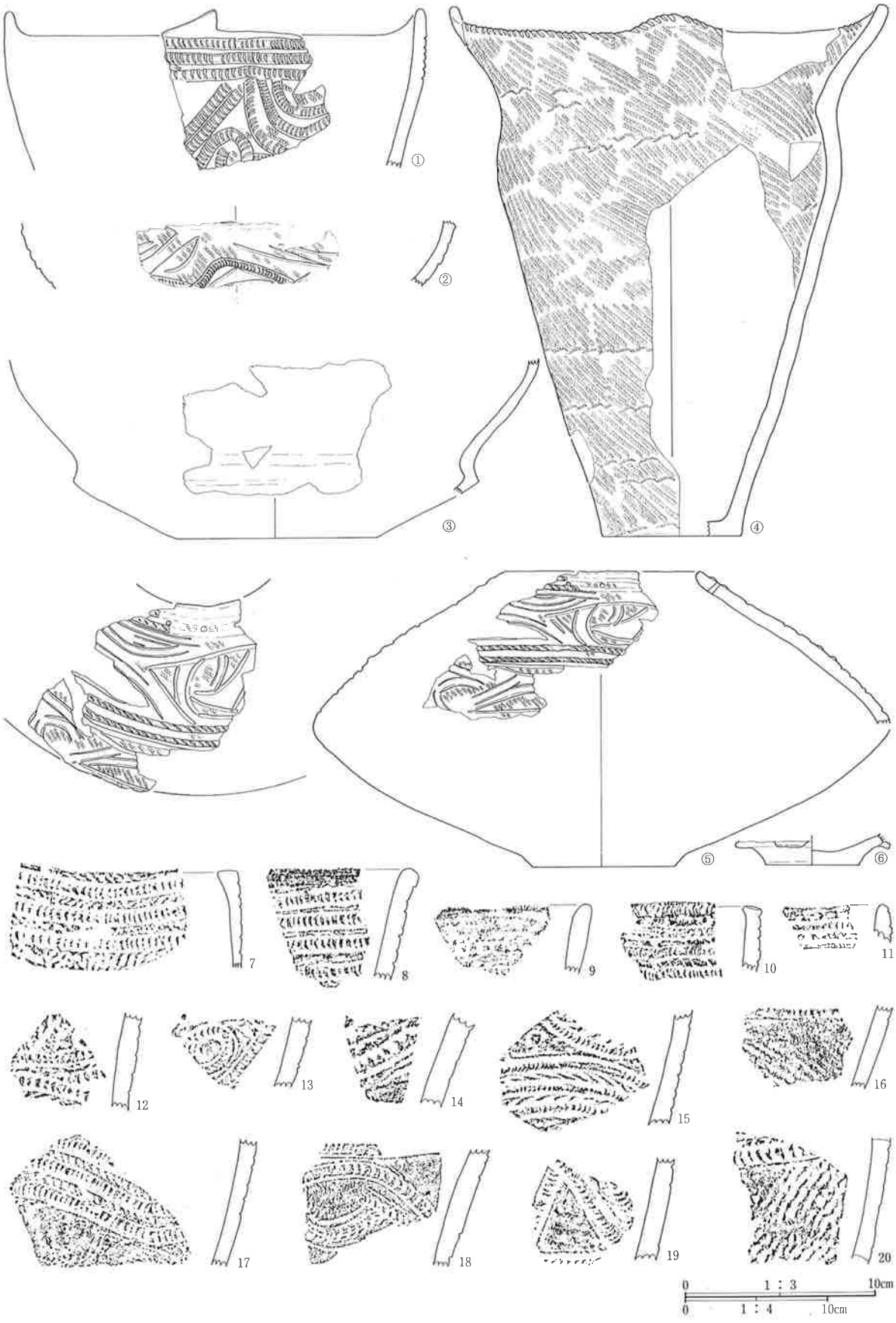
第69図　4号住居跡出土土器(17)



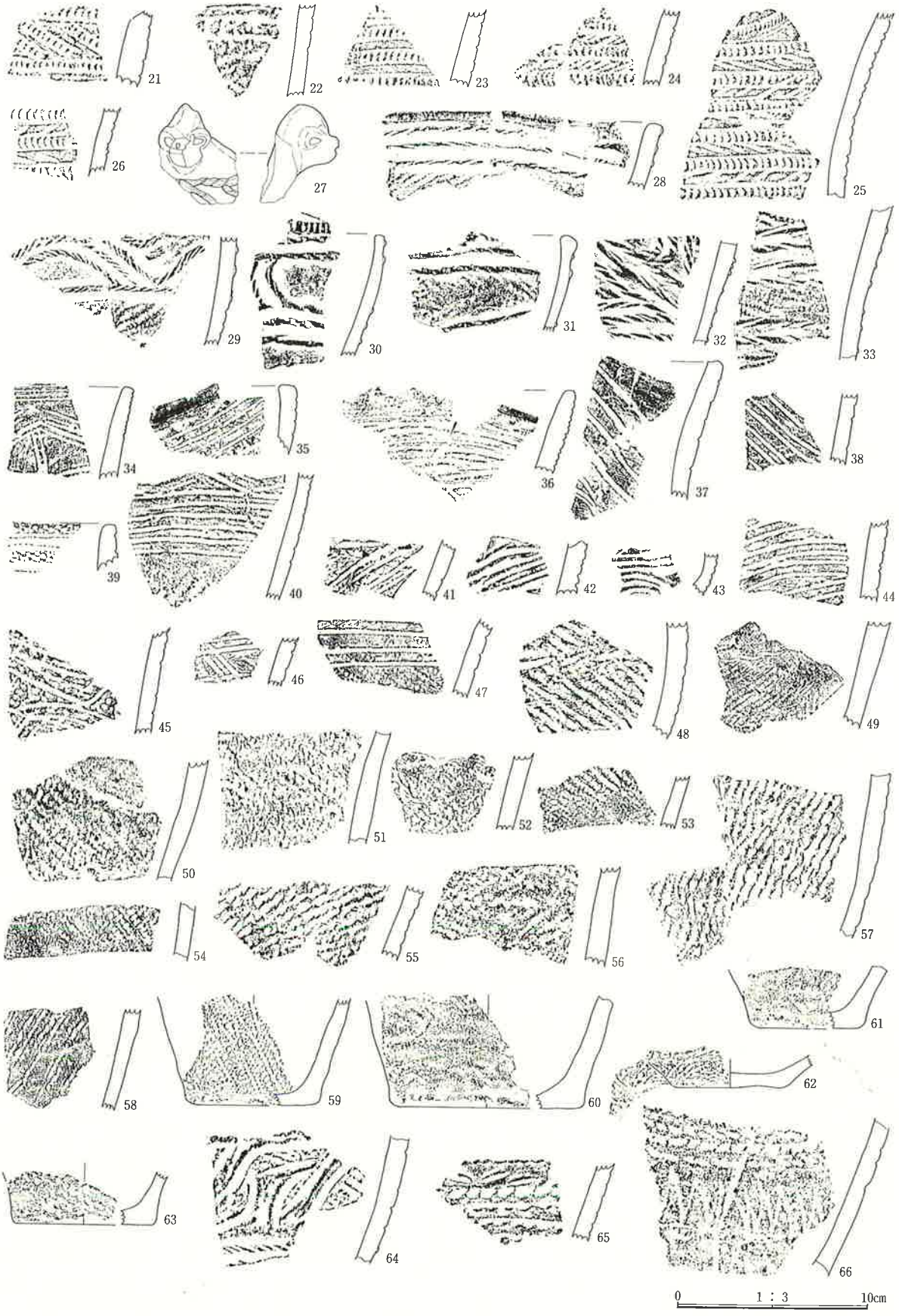
第70図　4号住居跡出土土器(18)



第71図　4号住居跡出土土器(19)

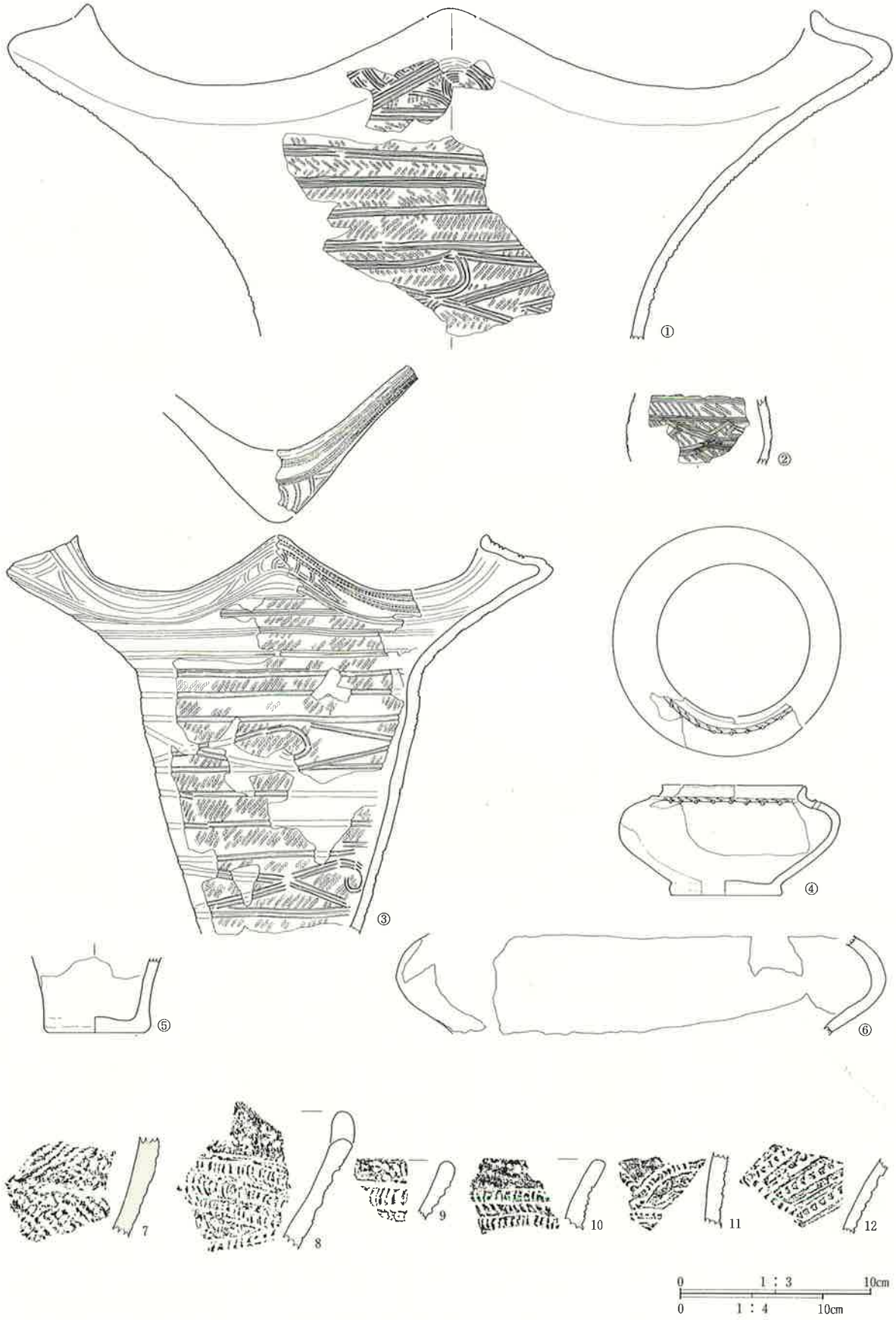


第72図　５号住居跡出土土器（１）



第73図　5号住居跡出土土器（2）

第74図　6号住居跡出土土器

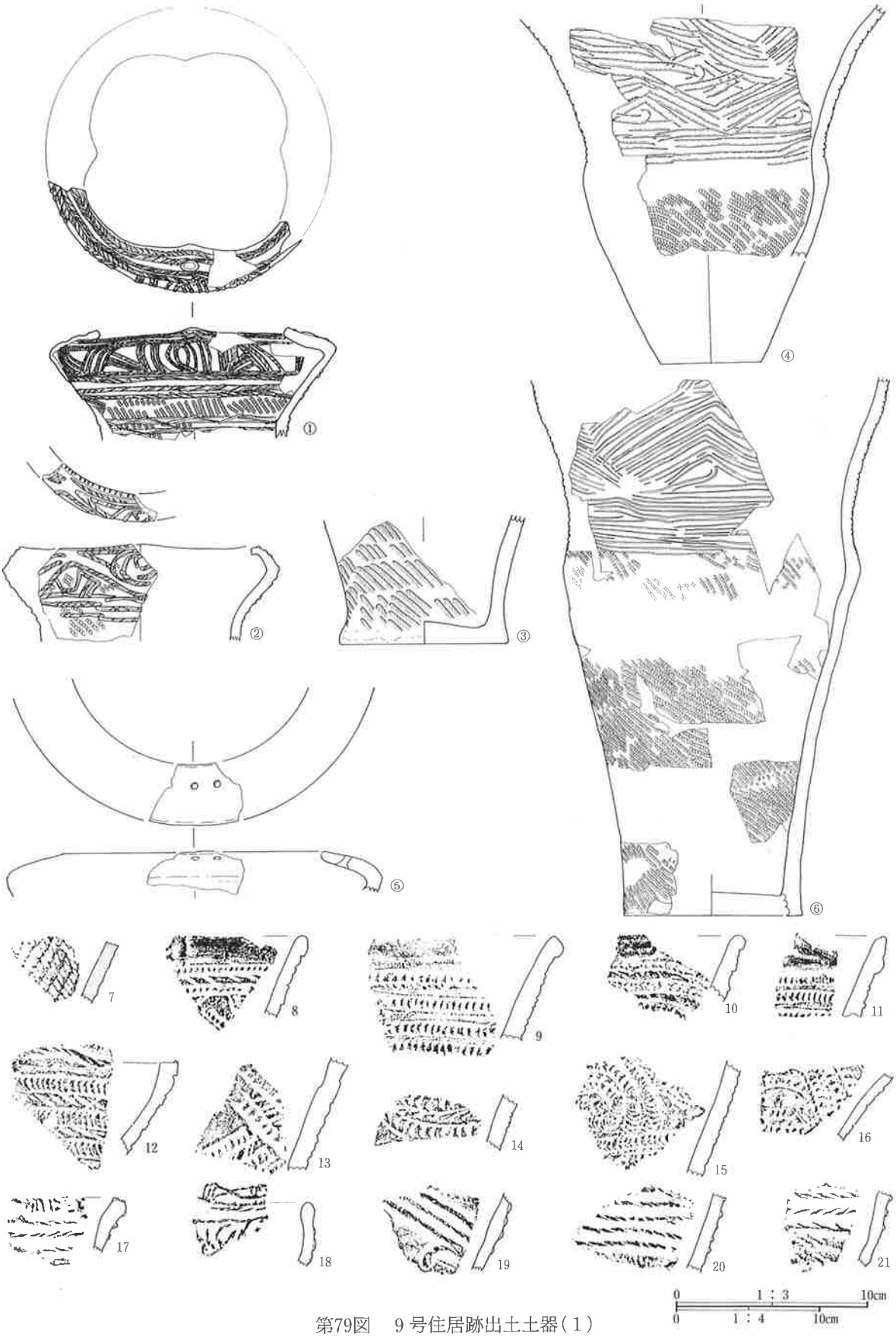


第75図　7号住居跡出土土器（1）

第76図　7号住居跡出土土器（2）

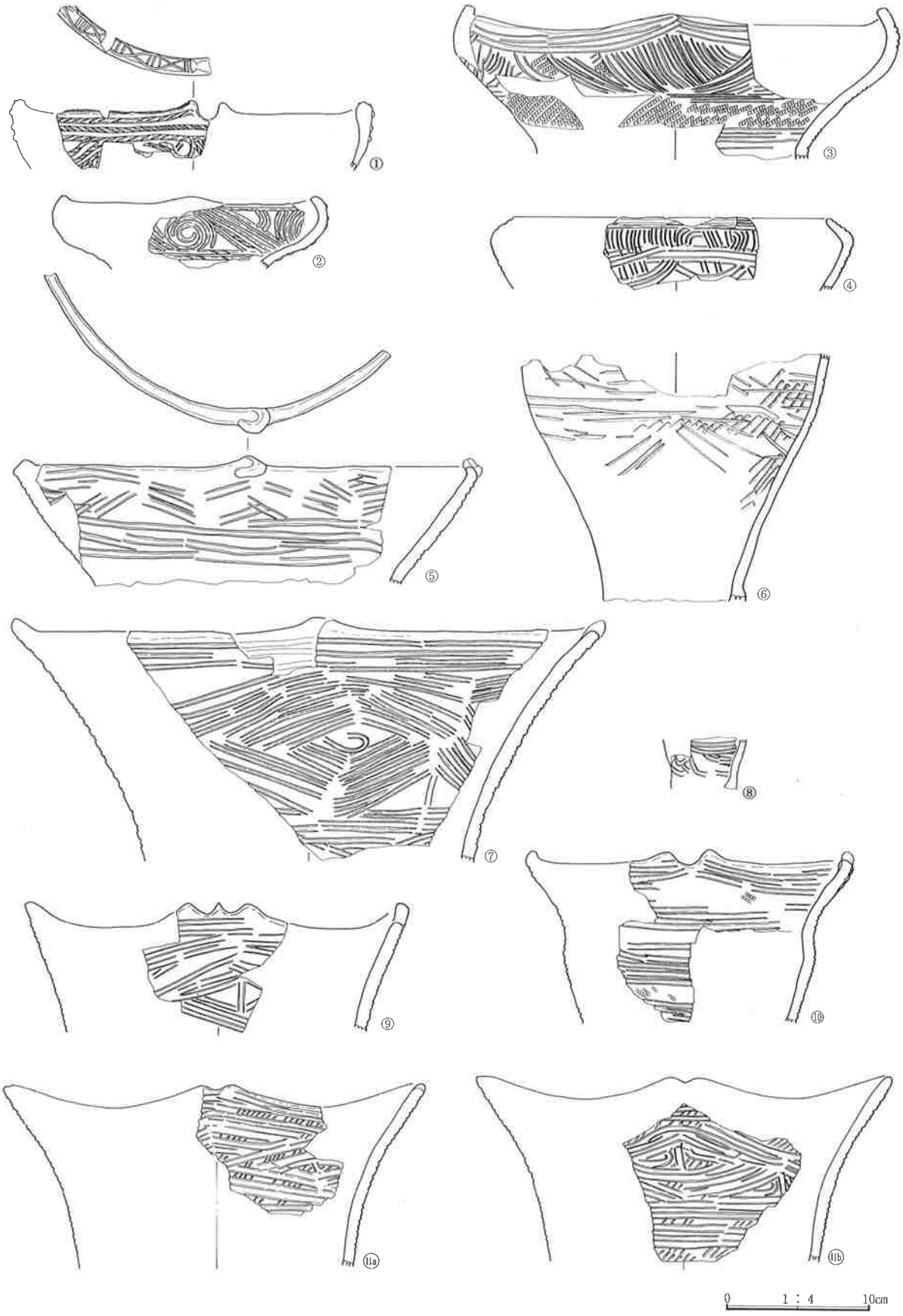
第77図　8号住居跡出土土器（1）

第78図　8号住居跡出土土器（2）

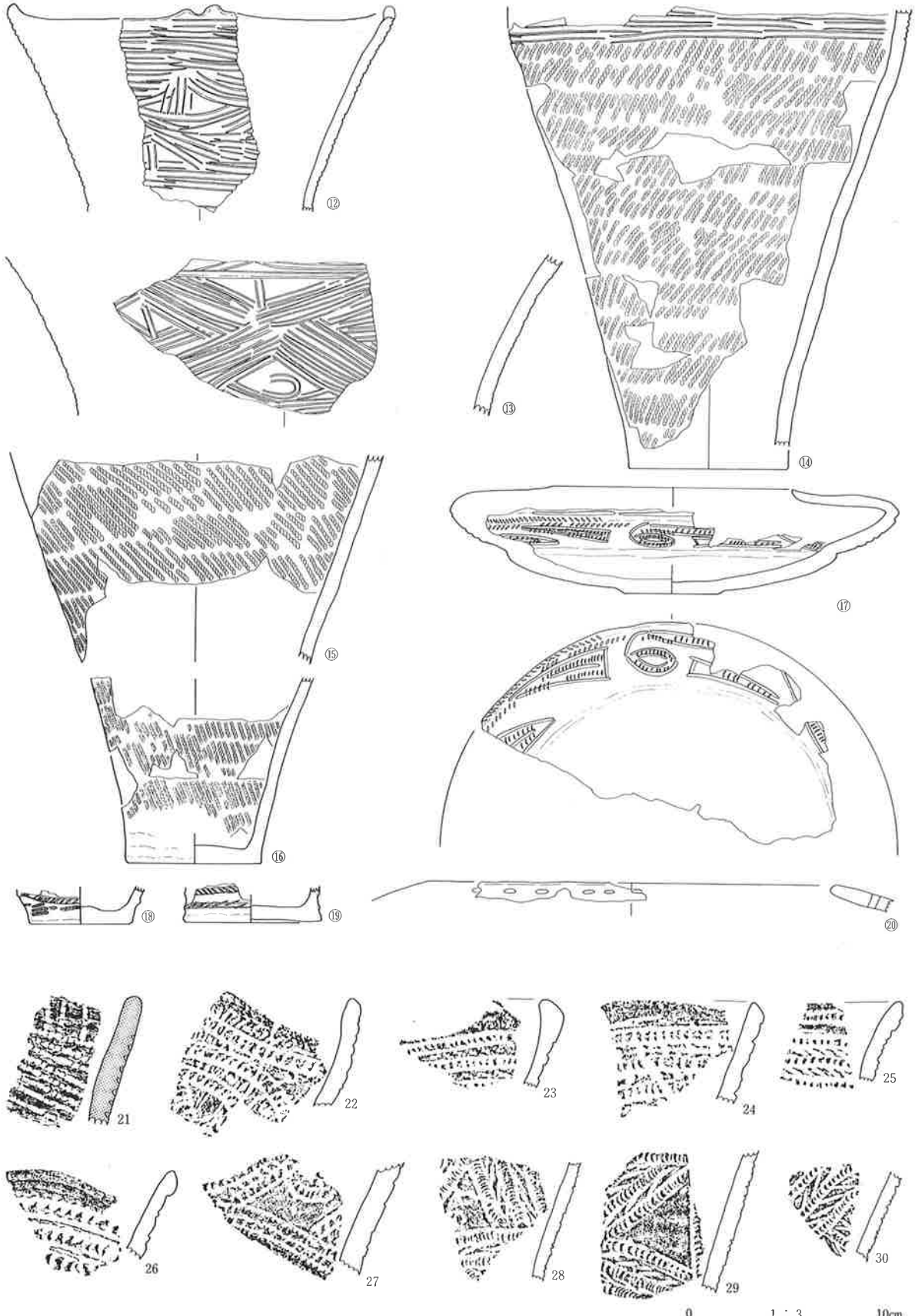


第79図　9号住居跡出土土器（1）

第80図　9号住居跡出土土器（2）

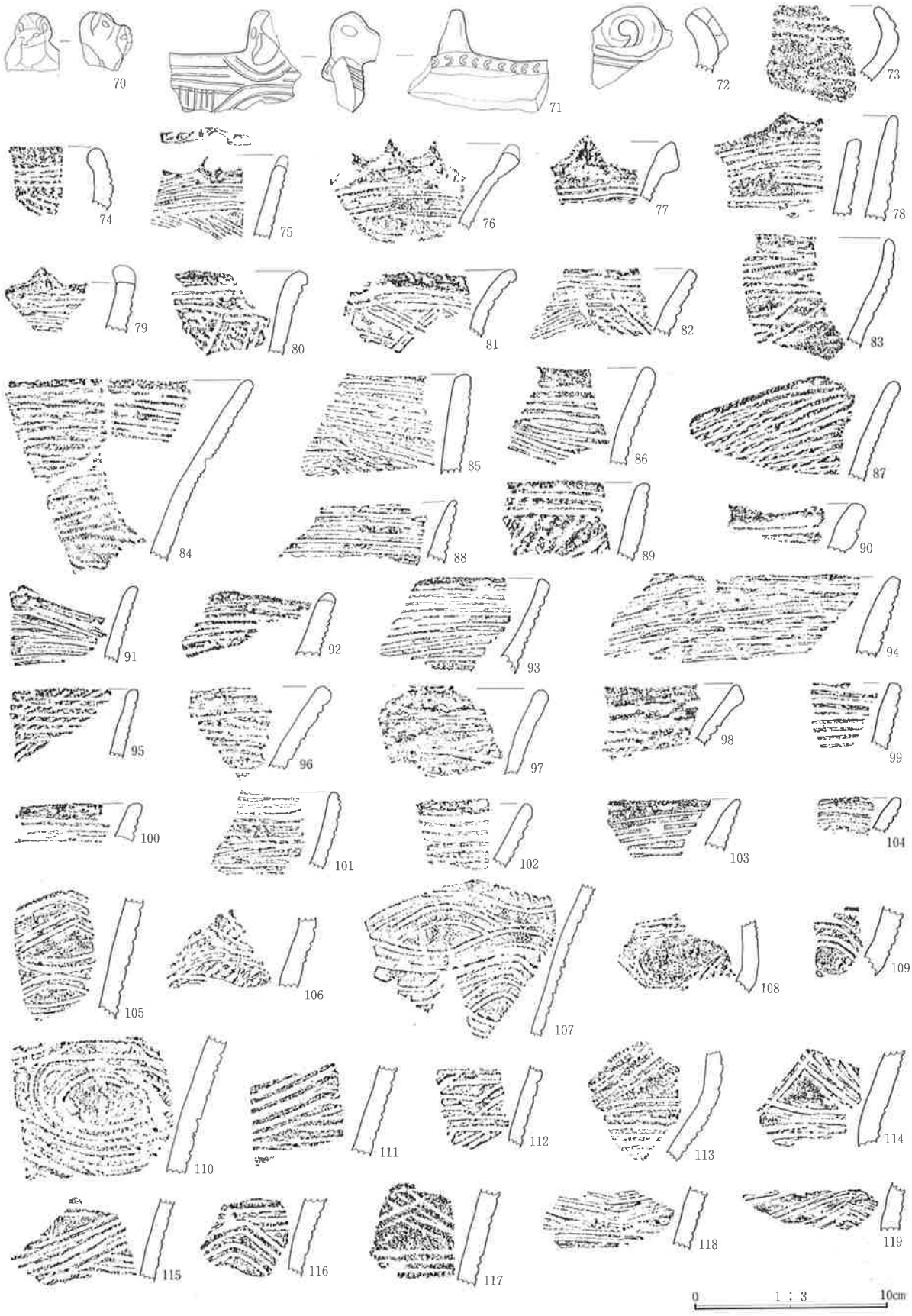


第81図　10号住居跡出土土器（1）



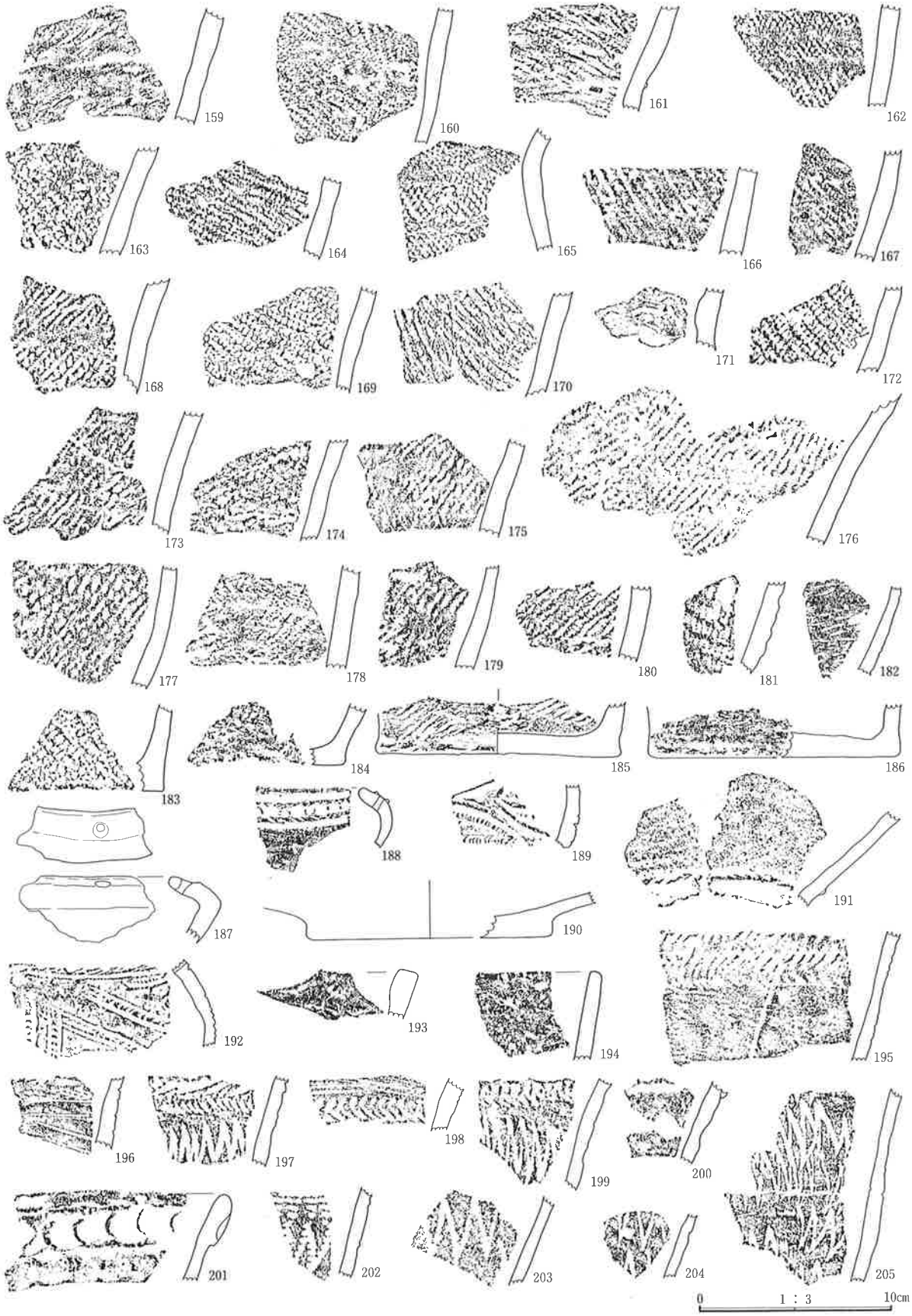
第82図　10号住居跡出土土器（２）

第83図　10号住居跡出土土器（３）

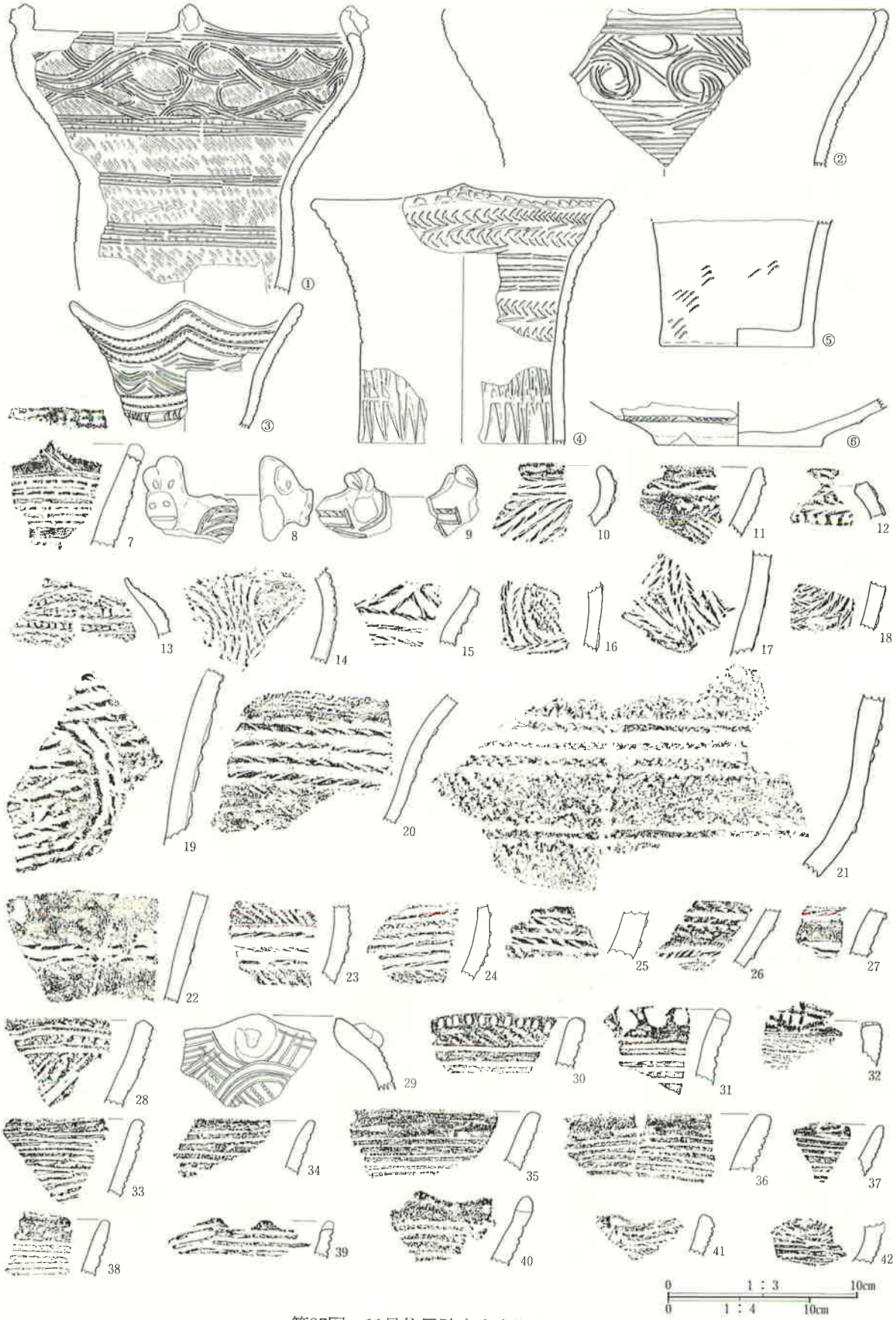


第84図　10号住居跡出土土器（４）

第85図　10号住居跡出土土器（5）

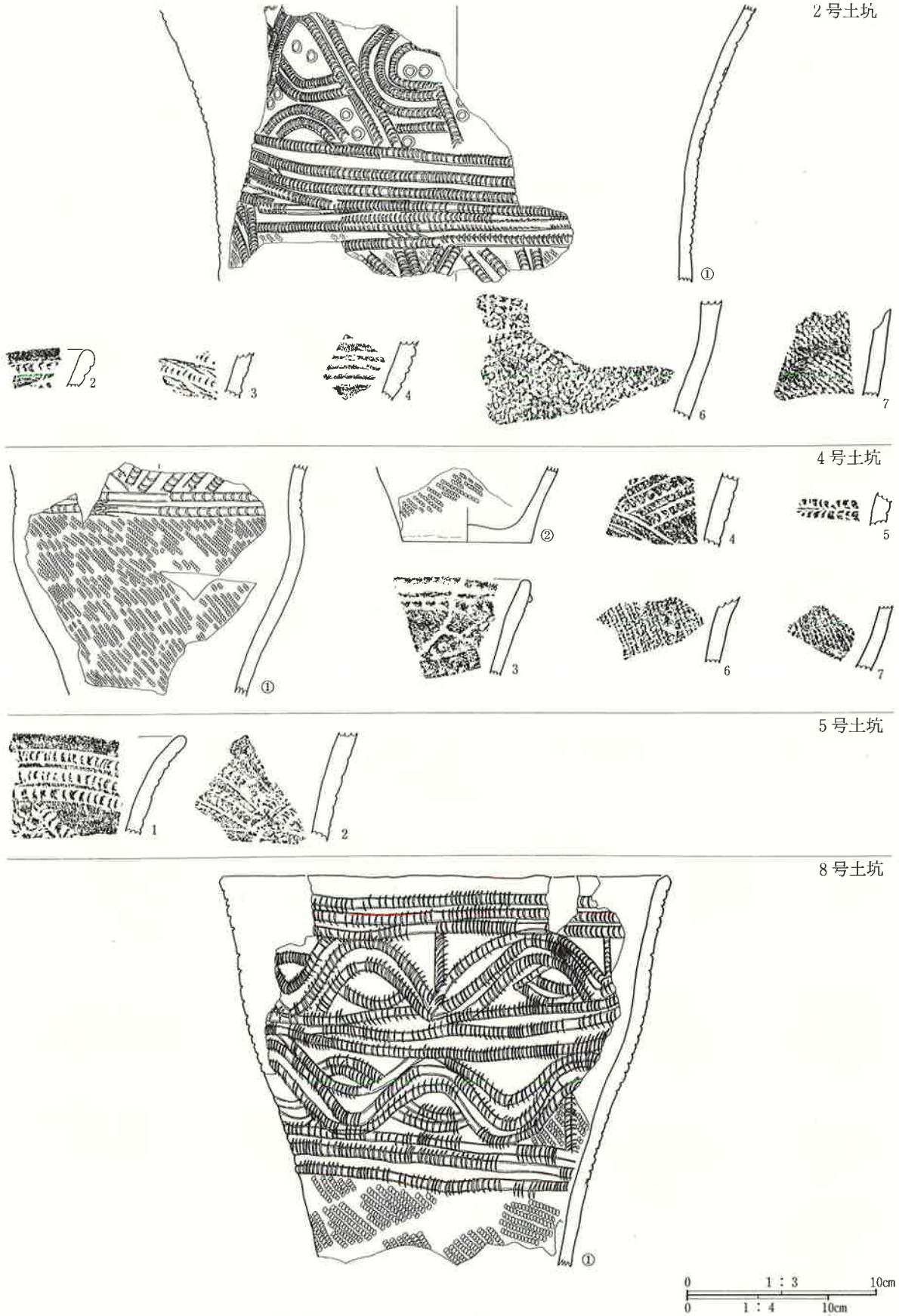


第86図　10号住居跡出土土器（6）

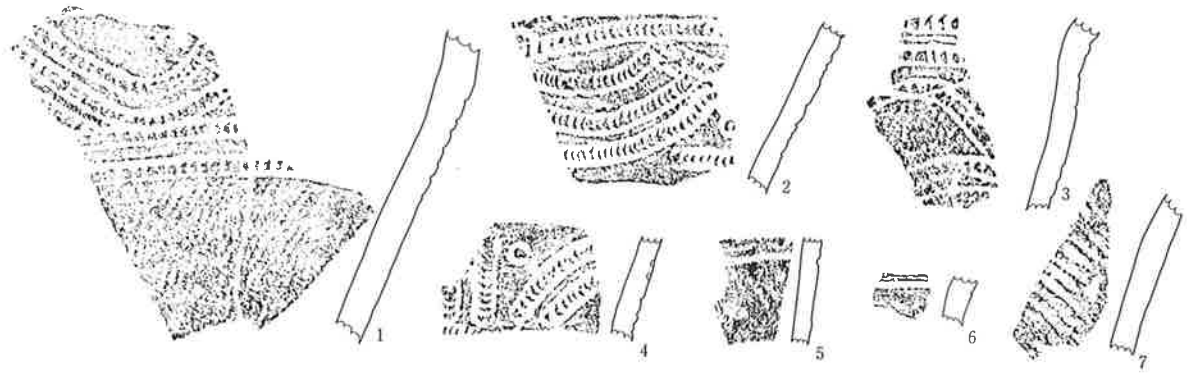


第87図　11号住居跡出土土器（1）

第88図　11号住居跡出土土器（２）

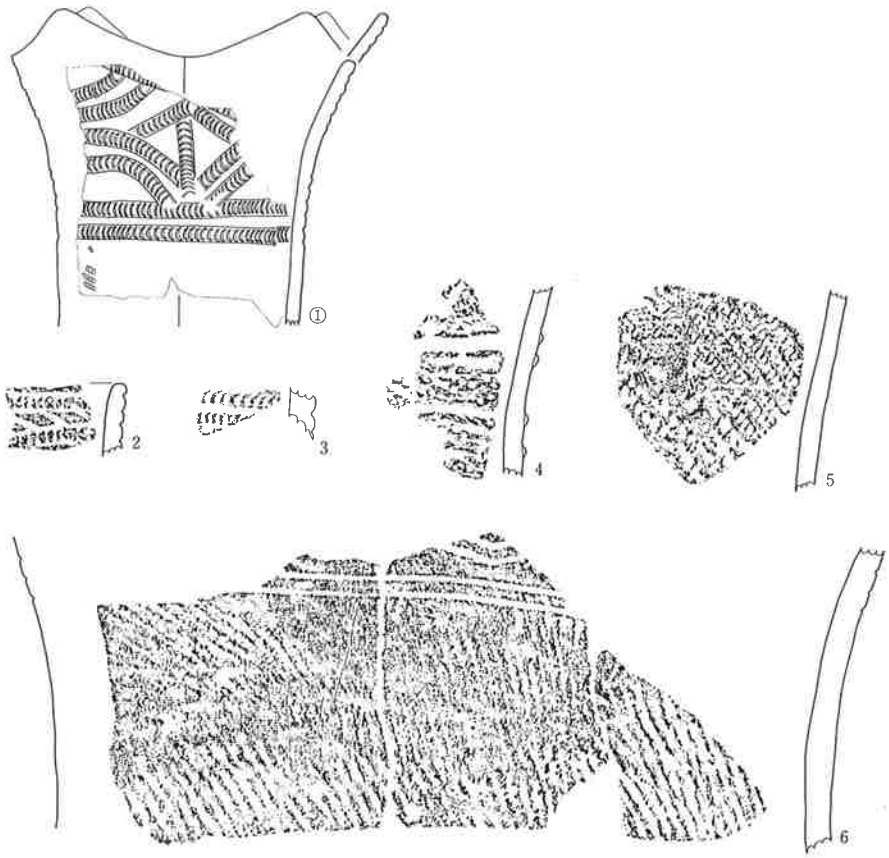


第89図　2、4、5、8号土坑出土土器



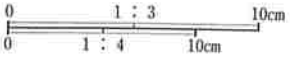
10号土坑

11号土坑

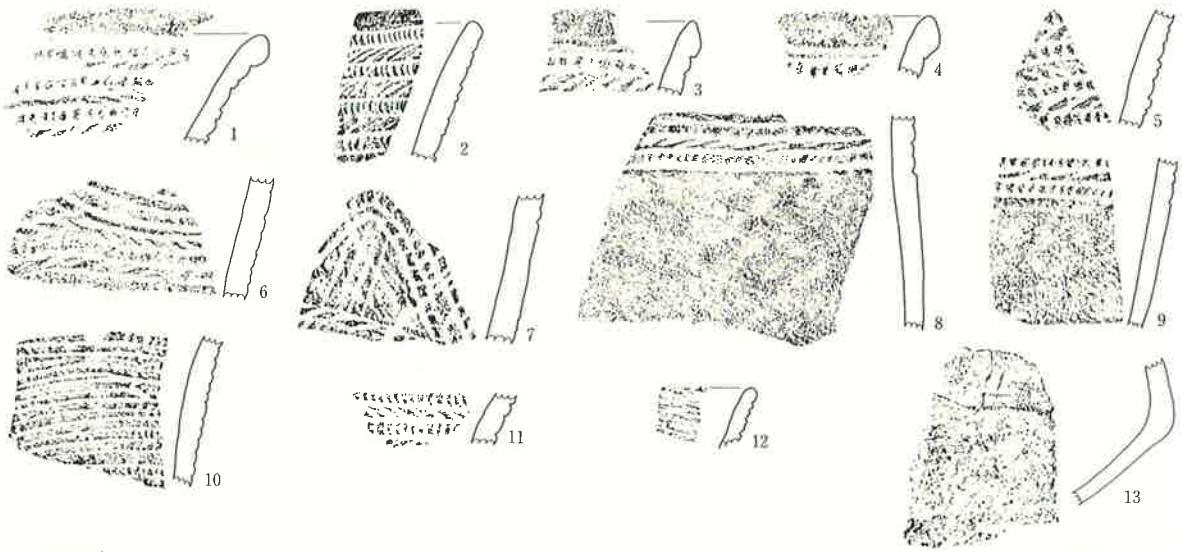


17号土坑

18号土坑

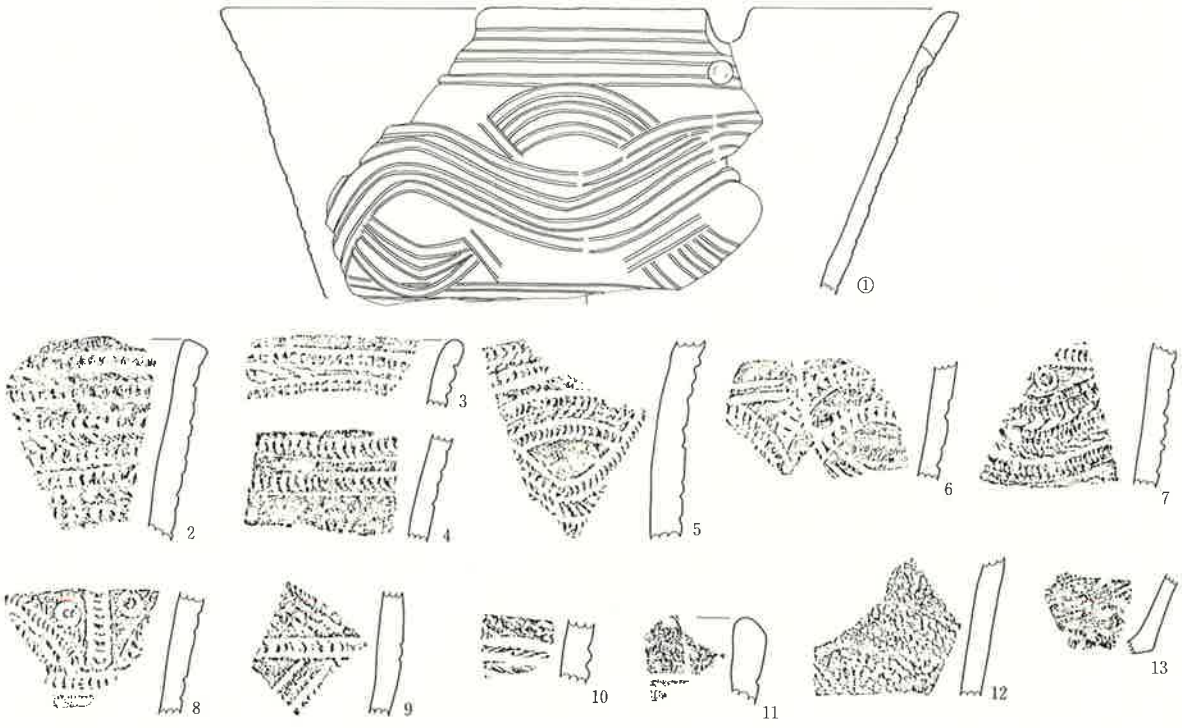


第90図　10、11、17、18号土坑出土土器

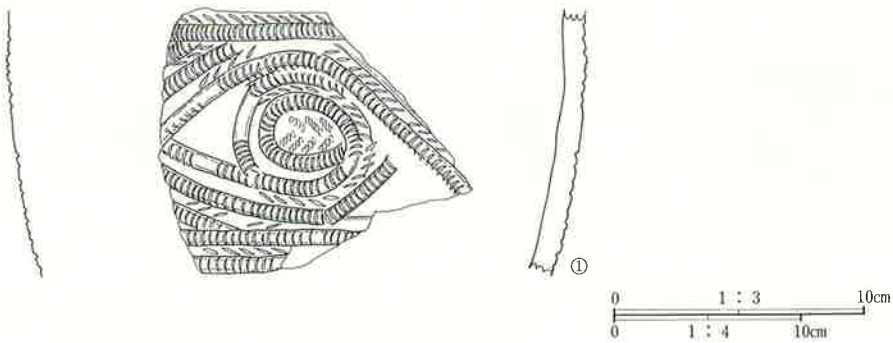


19号土坑

29号土坑

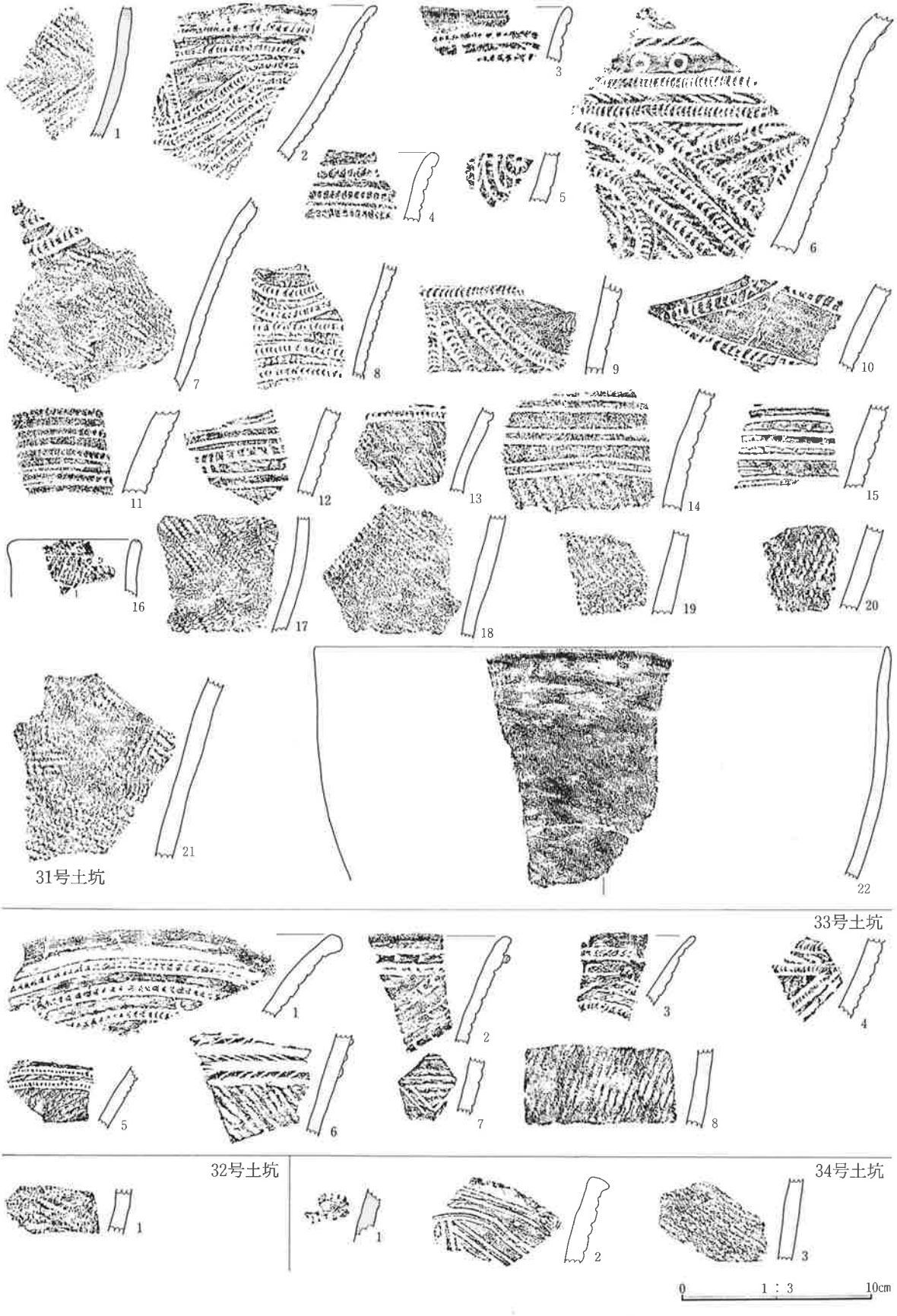


30号土坑

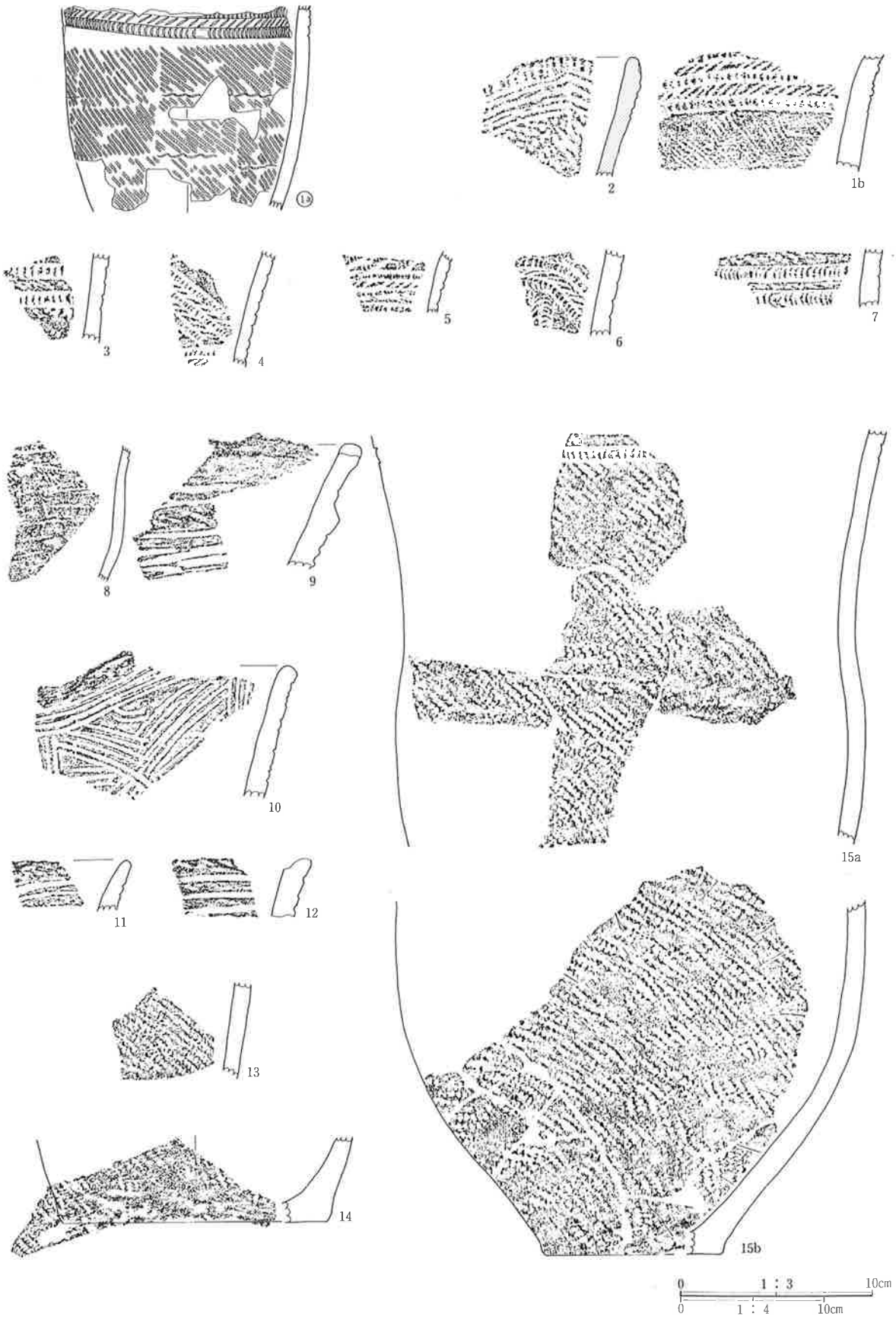


第91図　19、29、30号土坑出土土器

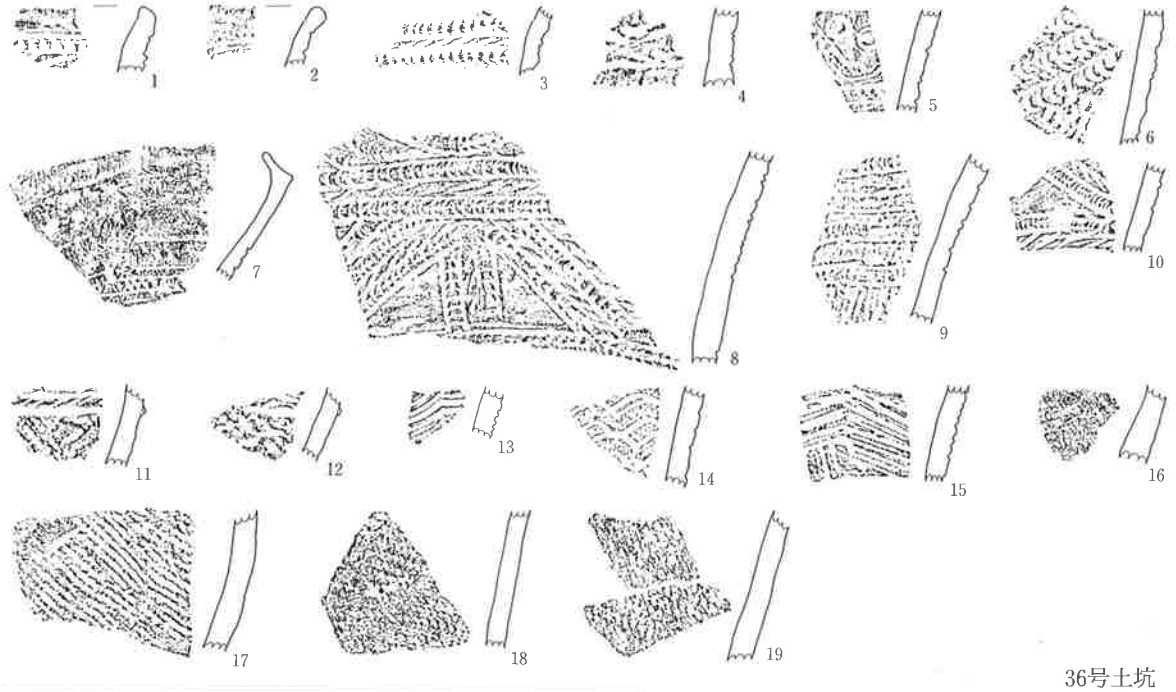
第92図　30号土坑出土土器



第93図　31～34号土坑出土土器

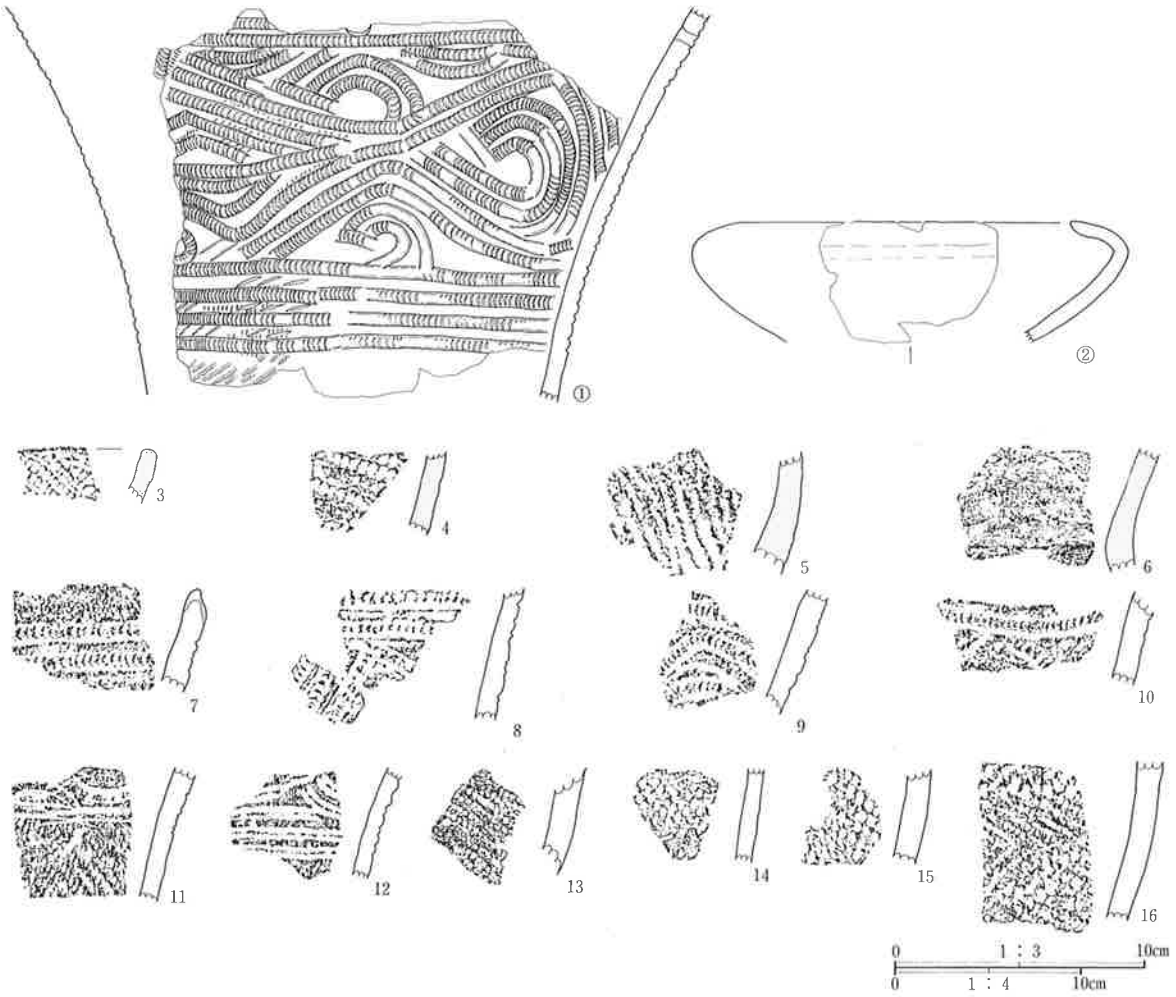


第94図　35号土坑出土土器

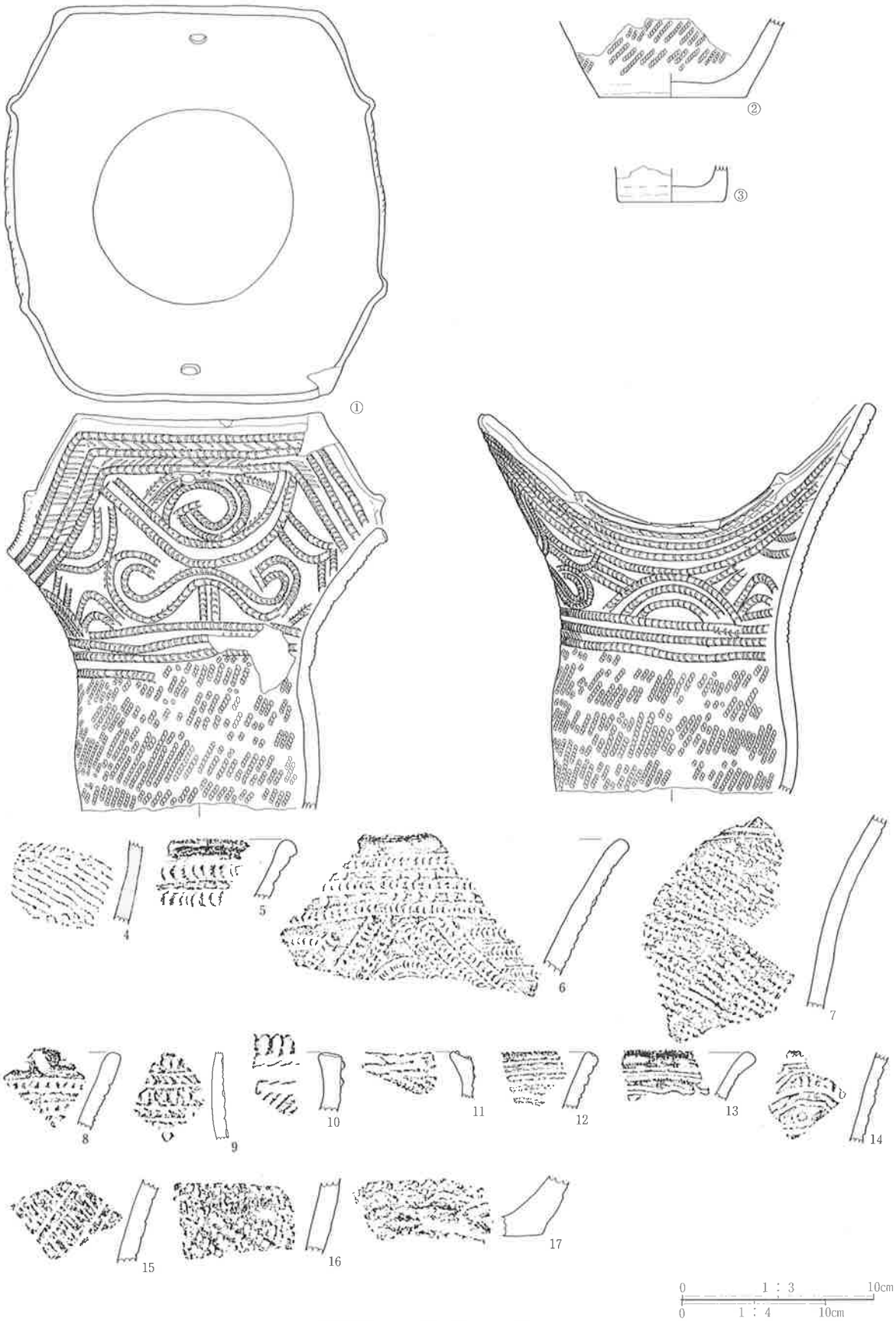


36号土坑

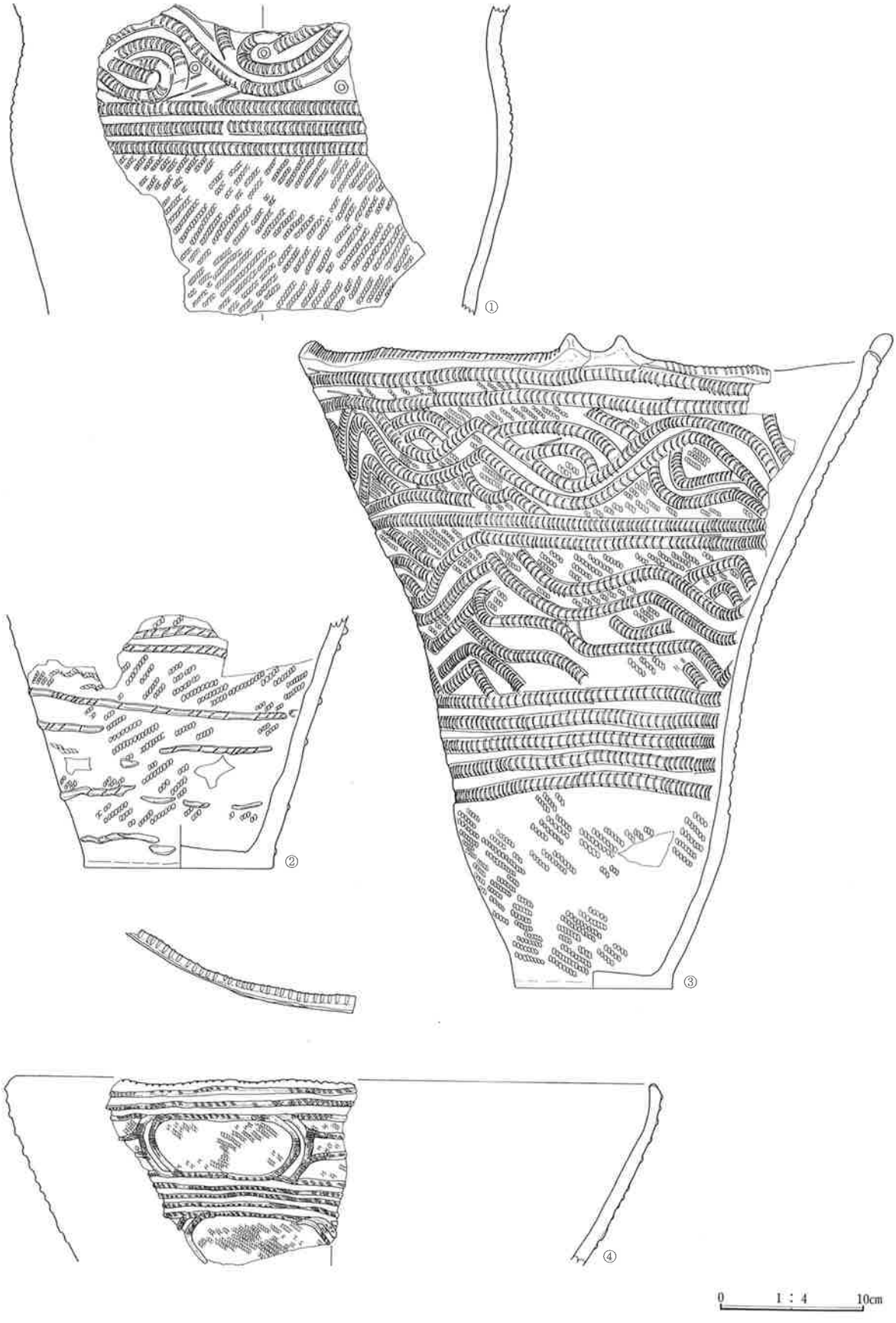
37号土坑



第95図　36、37号土坑出土土器

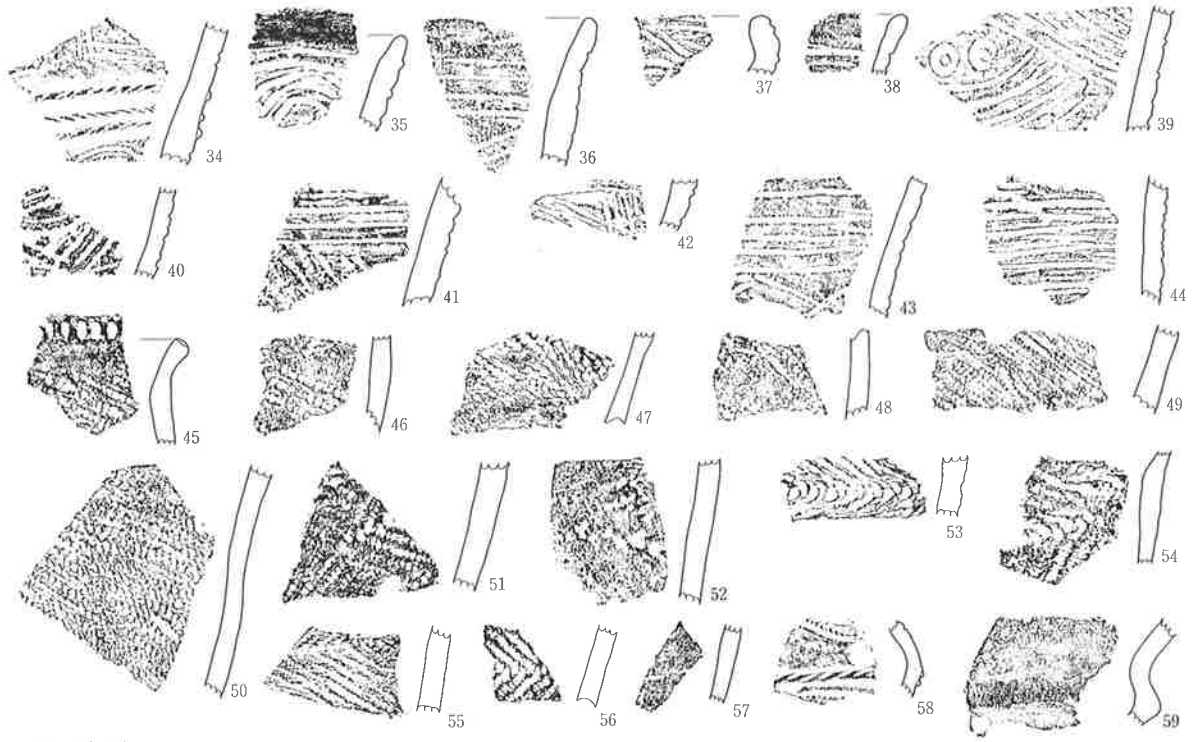


第96図　38号土坑出土土器



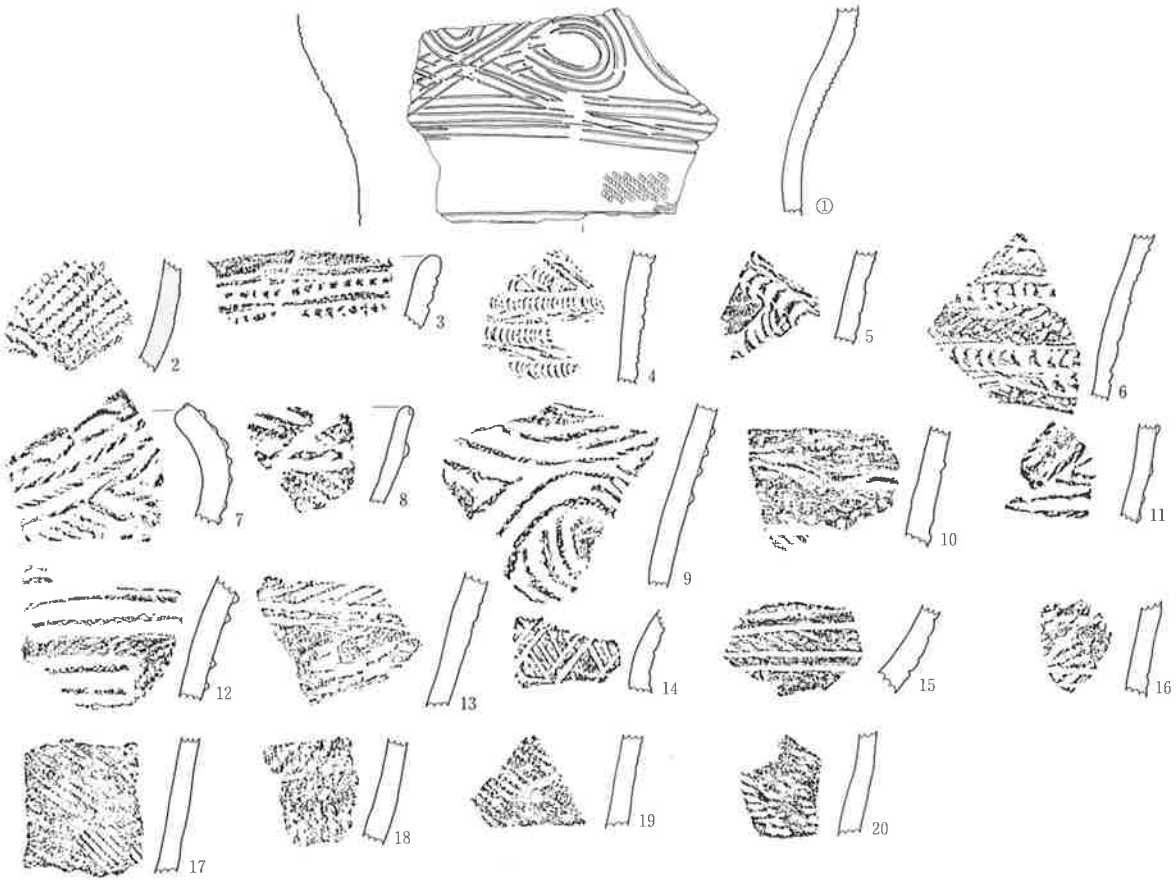
第97図　39号土坑出土土器（1）

第98図　39号土坑出土土器（２）



39号土坑(3)

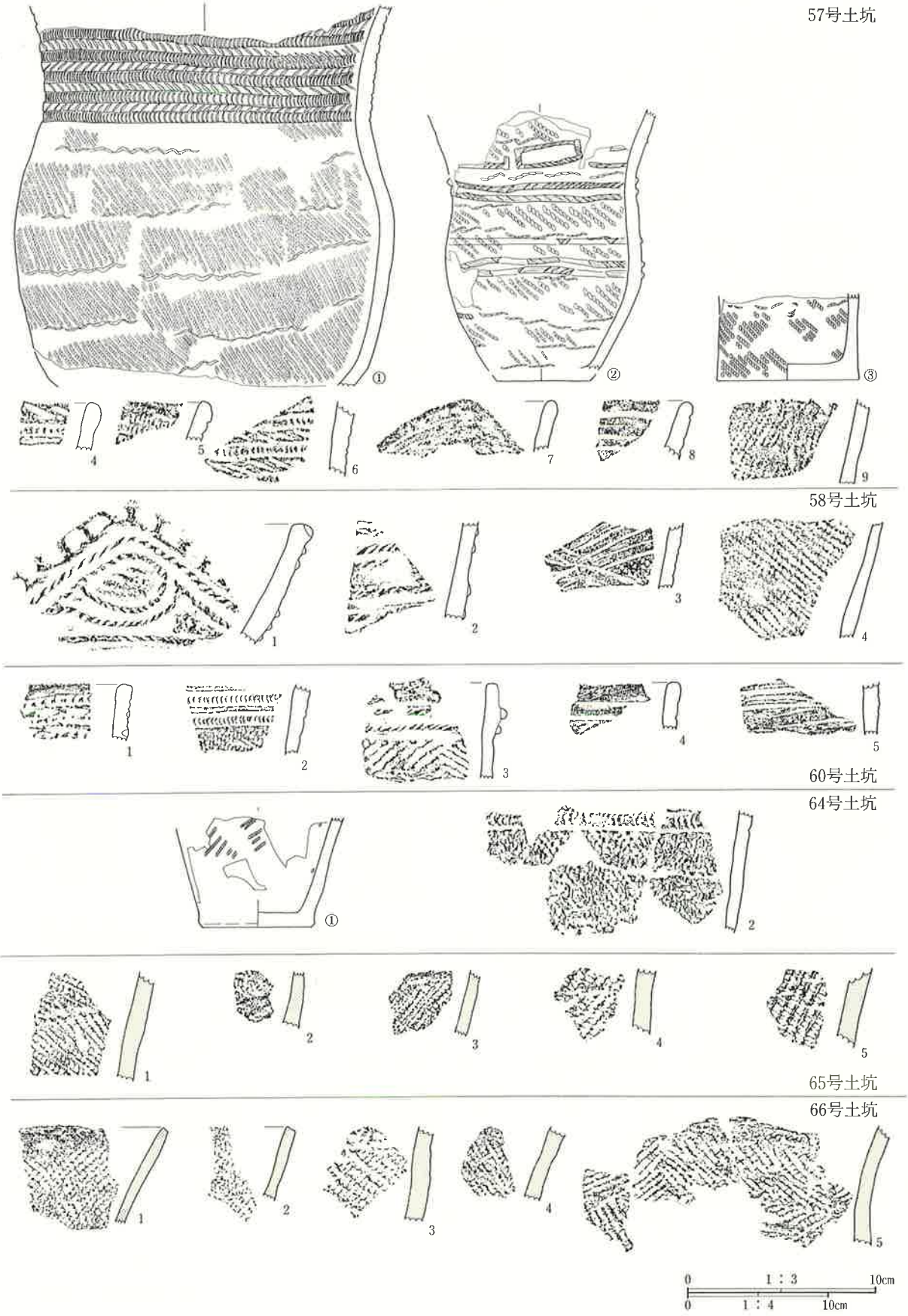
41、42号土坑



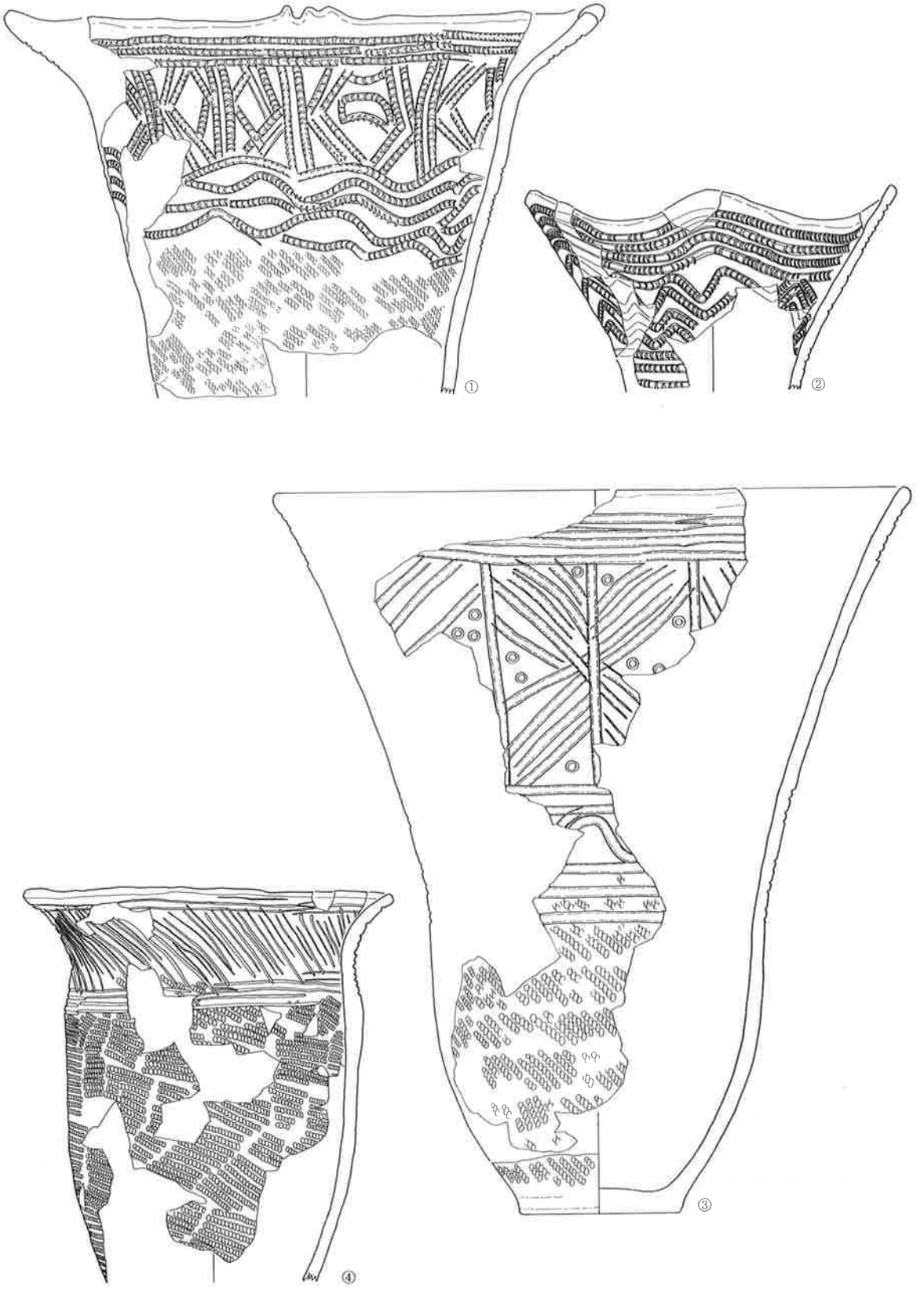
0　1：3　10cm
0　1：4　10cm

第99図　39－(3)、41・42号土坑出土土器

第100図　42、43、50～53、55、56号土坑出土土器

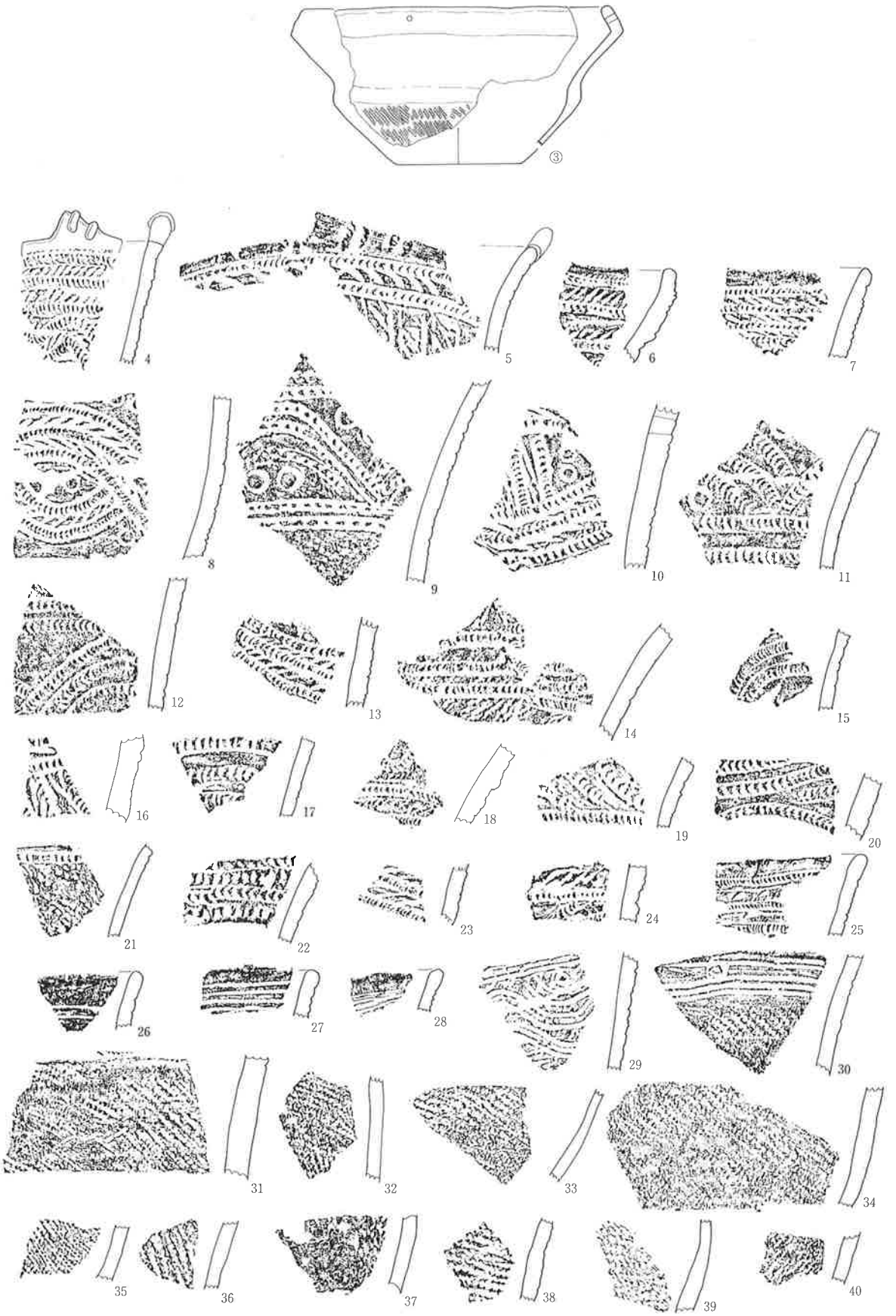


第101図　57、58、60、64～66号土坑出土土器



第102図　67号土坑出土土器（1）

第103図　67－（２）、68－（１）号土坑出土土器

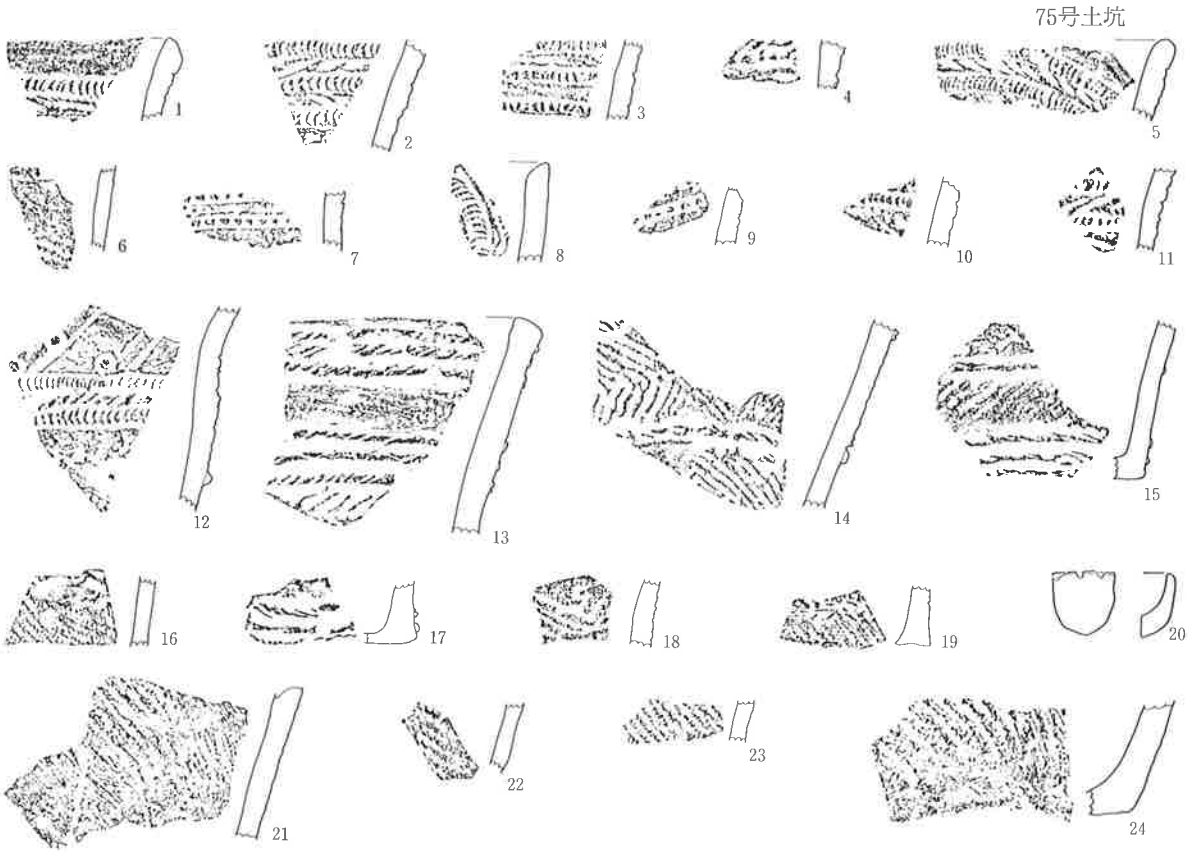


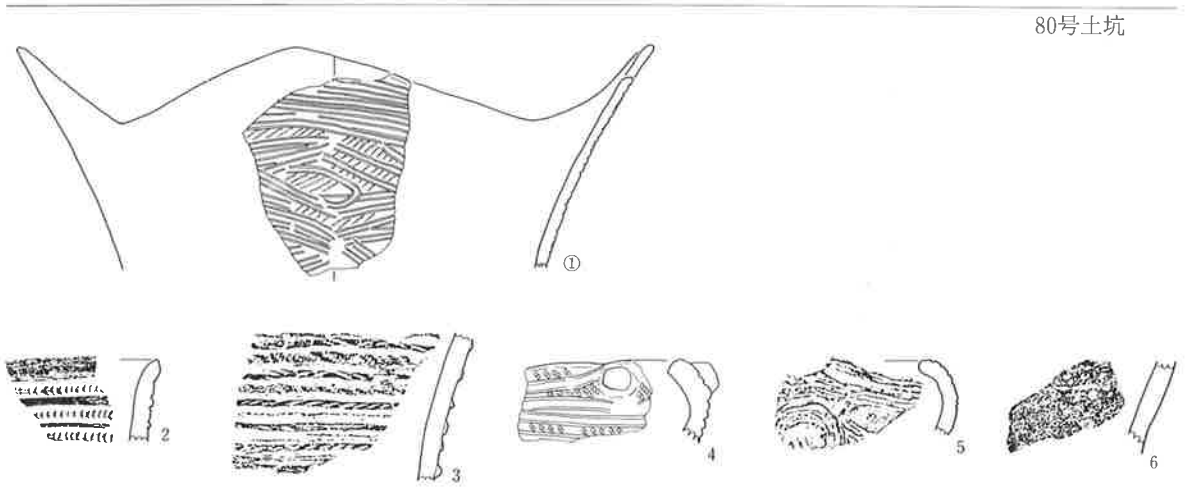
第104図　68号土坑出土土器（２）

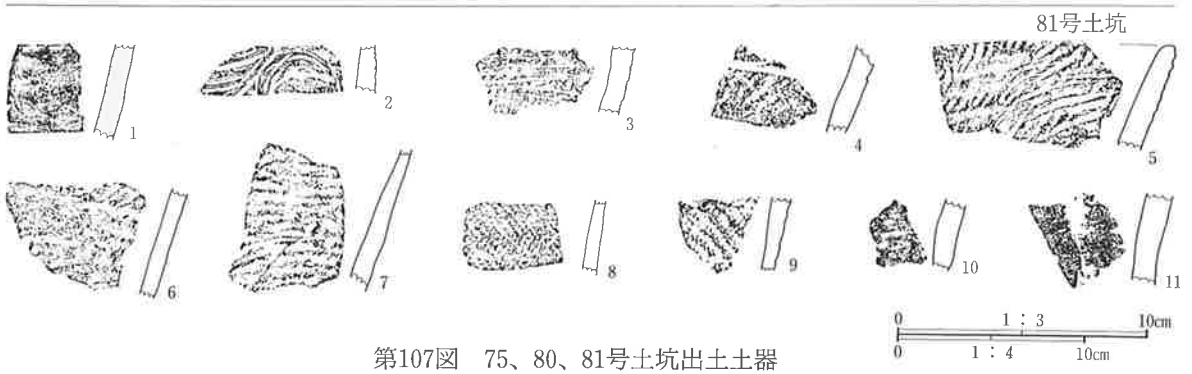
0　1：3　10cm
0　1：4　10cm

第105図　71号土坑出土土器

第106図　72～74号土坑出土土器

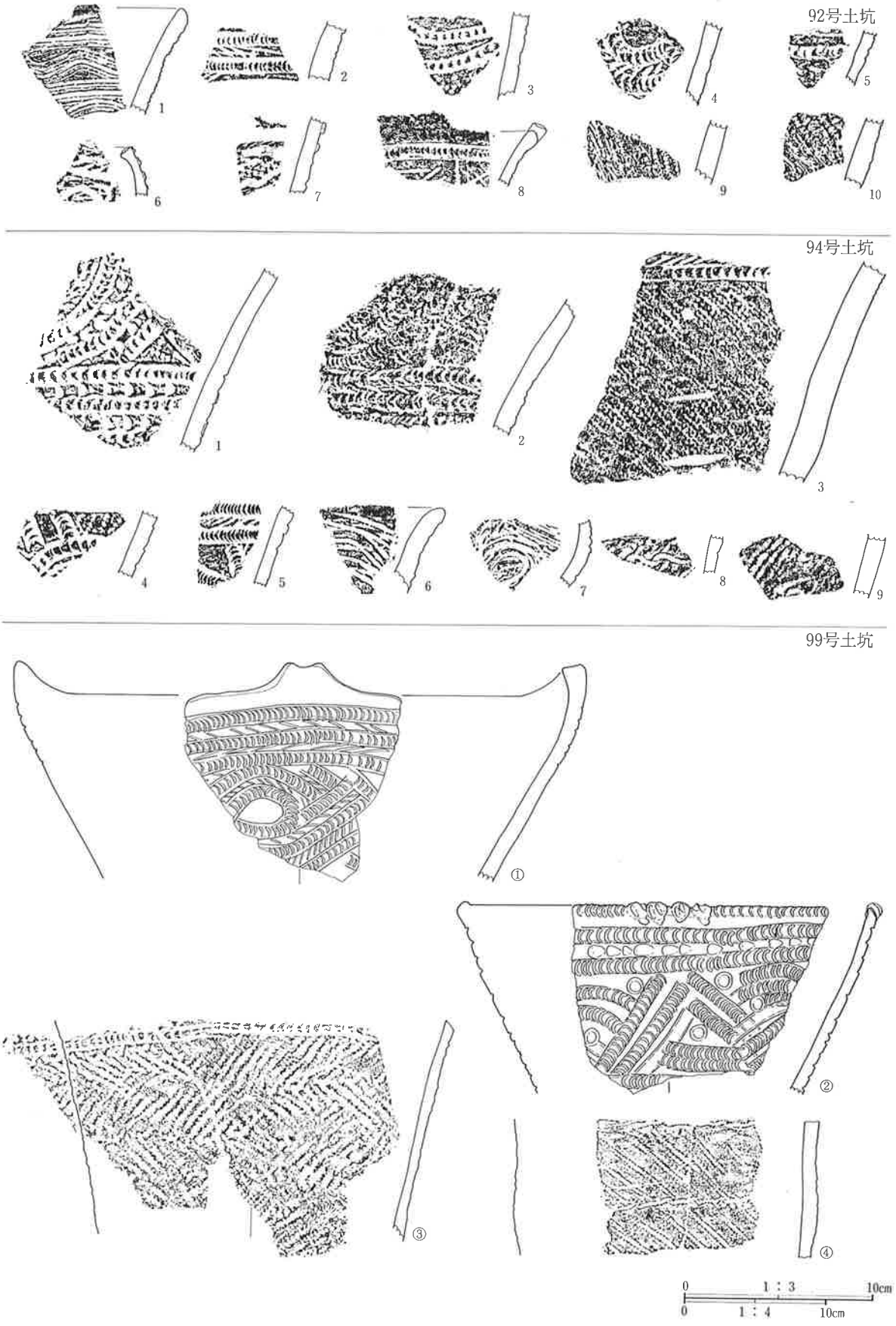






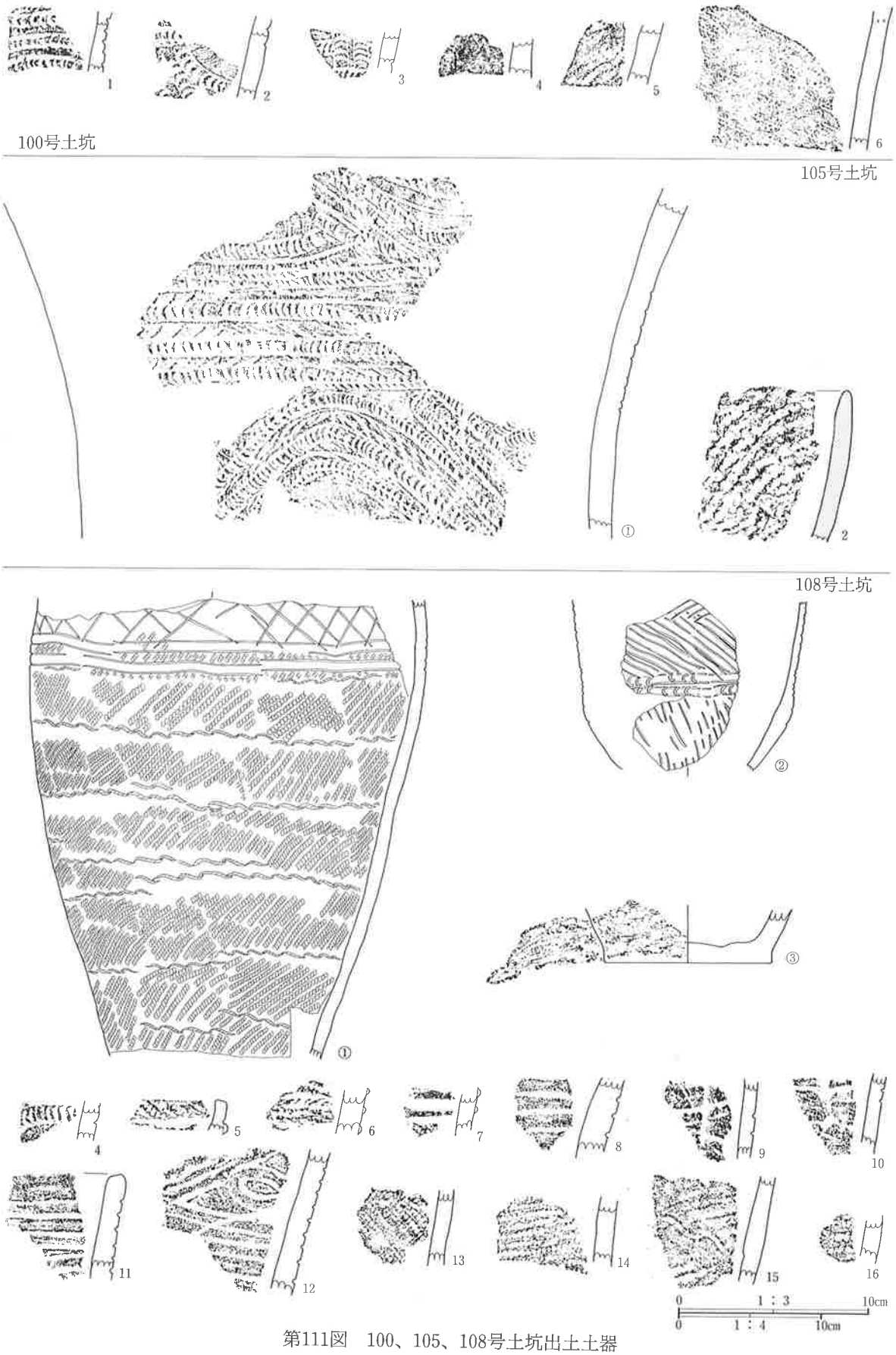
第107図　75、80、81号土坑出土土器

第108図　82～84、91号土坑出土土器

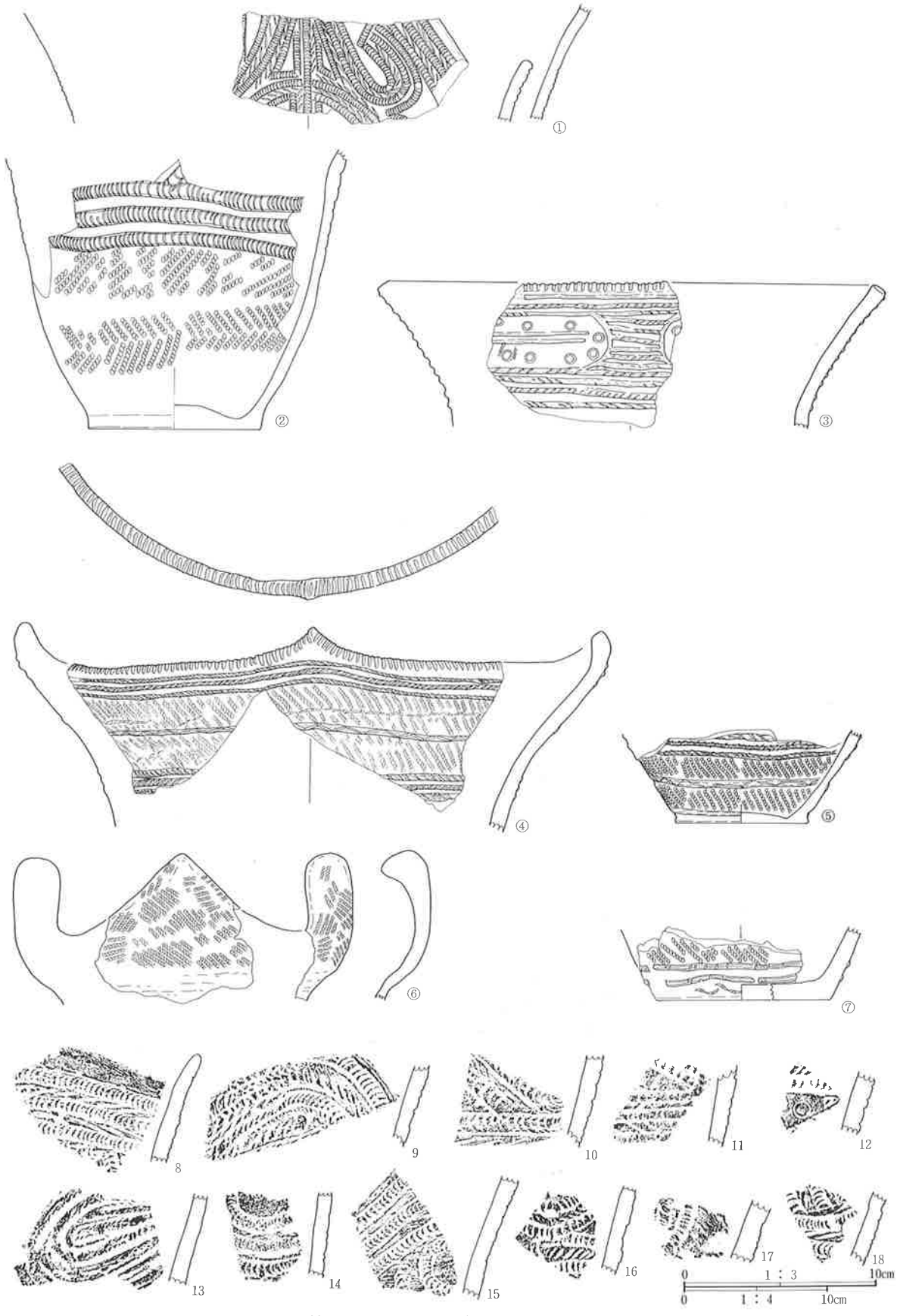


第109図　92、94、99－(1)号土坑出土土器

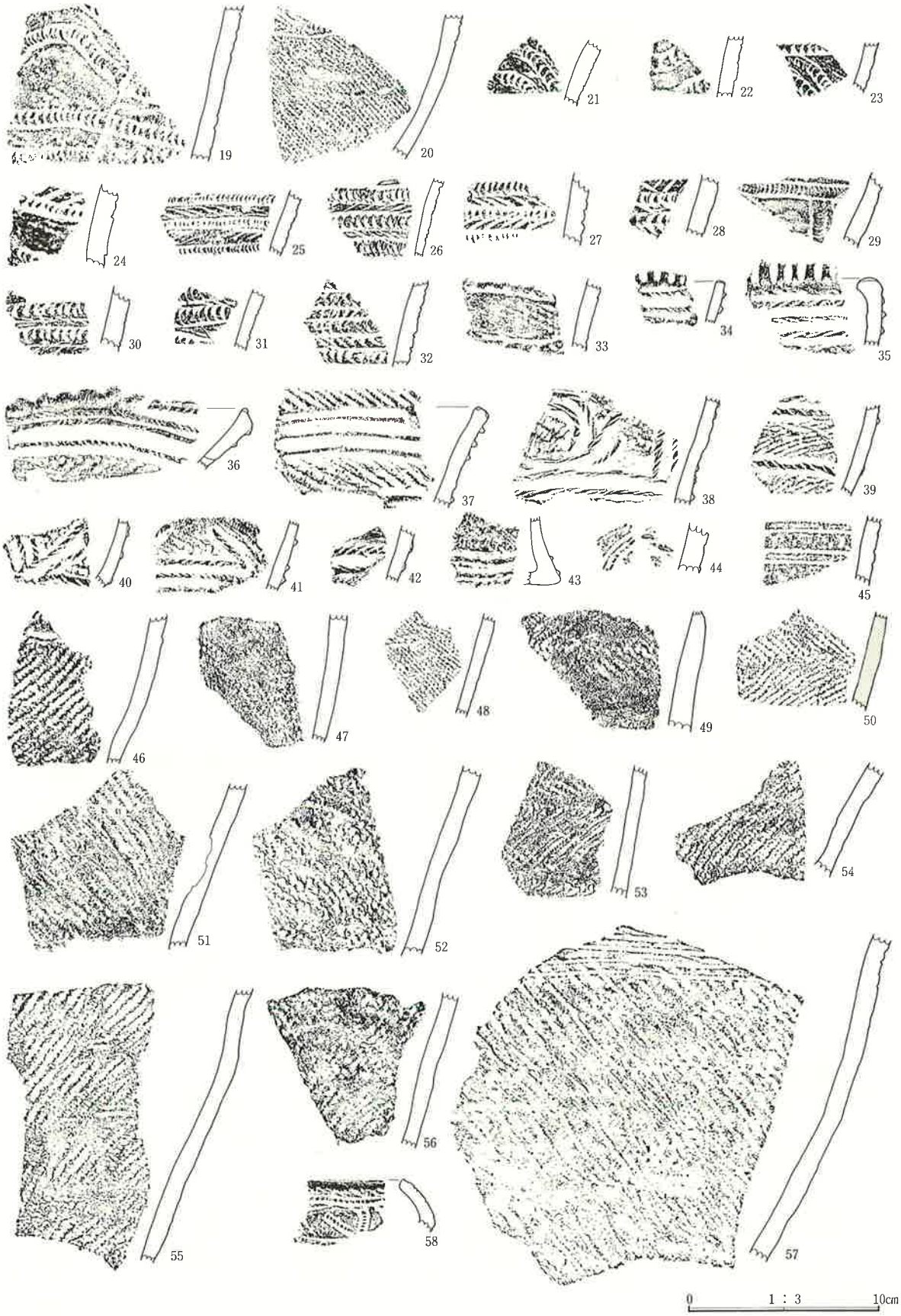
第110図　99号土坑出土土器（2）



第111図　100、105、108号土坑出土土器

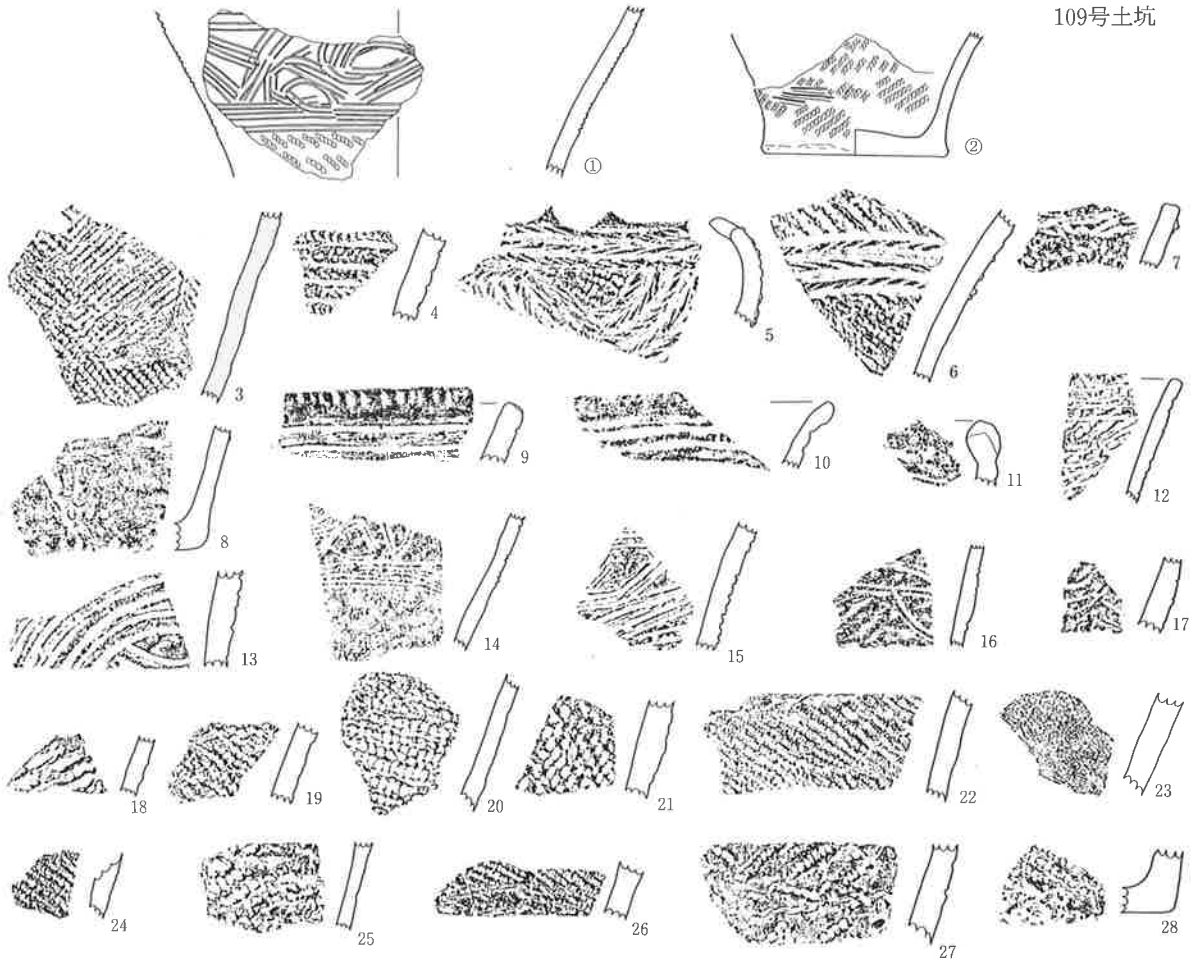


第112図　107号土坑出土土器（１）

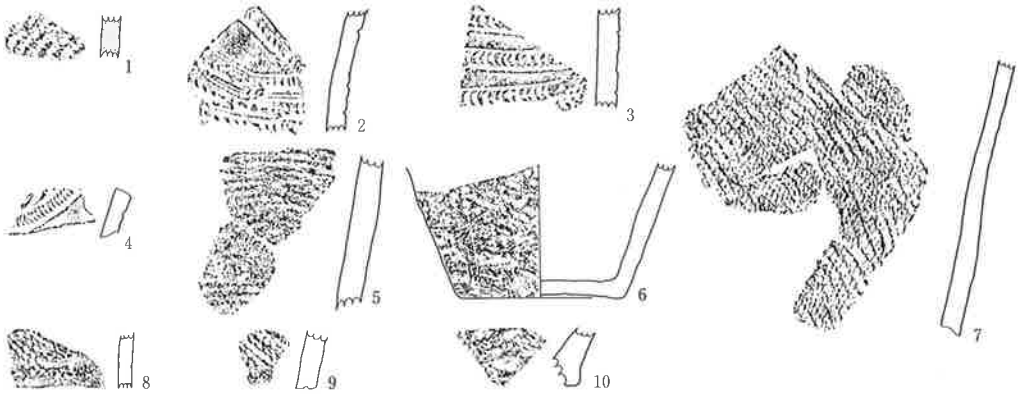


第113図　107号土坑出土土器（２）

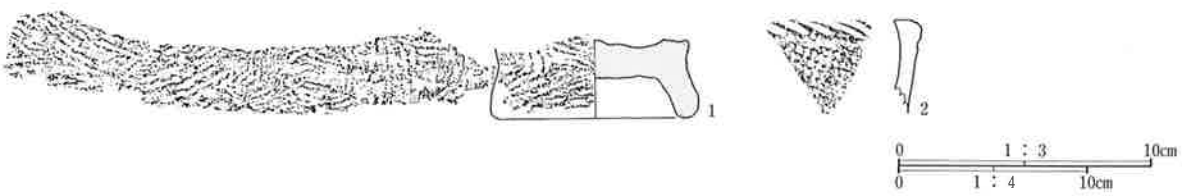
109号土坑



111号土坑



112号土坑



第114図　109、111、112号土坑出土土器

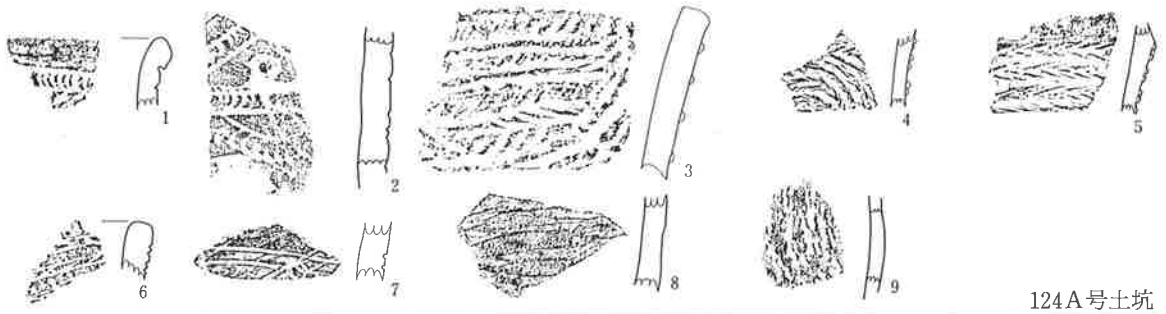
第115図　113、116、118、121号土坑出土土器

122号土坑

123A号土坑

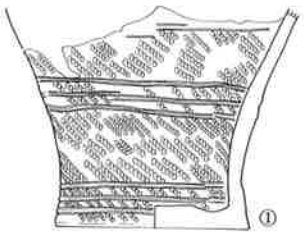
123B号土坑

第116図　122、123号土坑出土土器



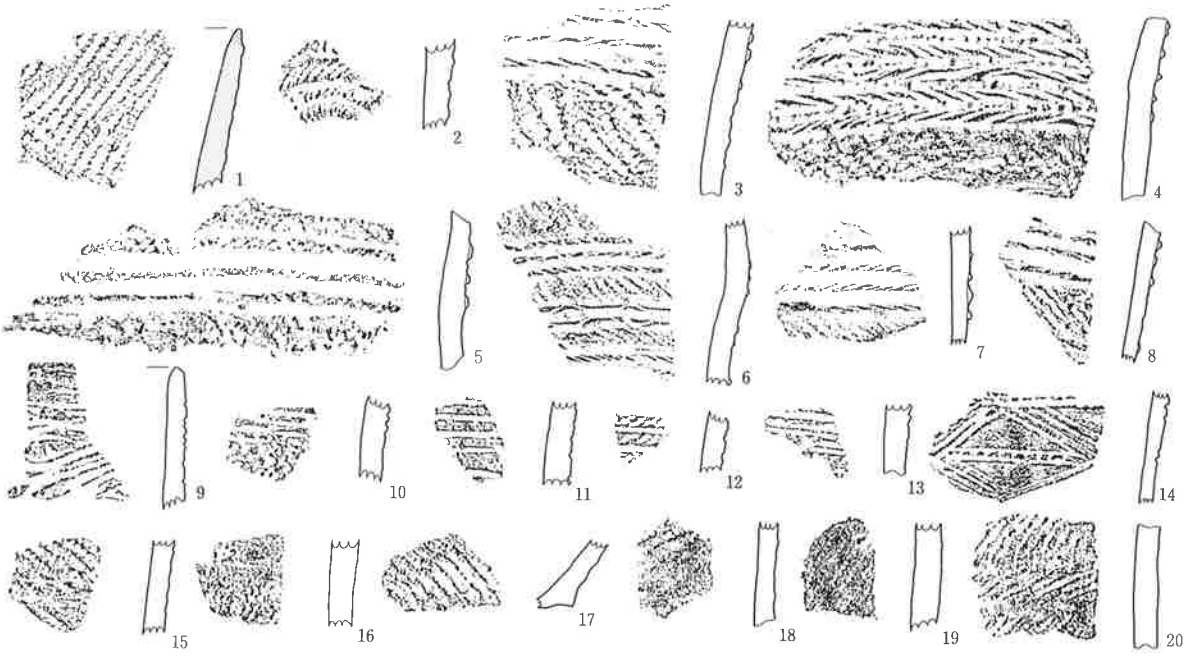
124A号土坑

124B号土坑

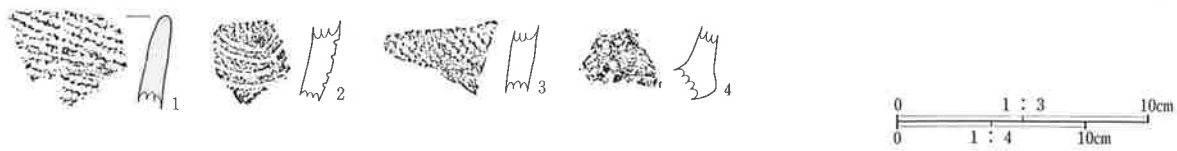


124C号土坑

130－131号土坑

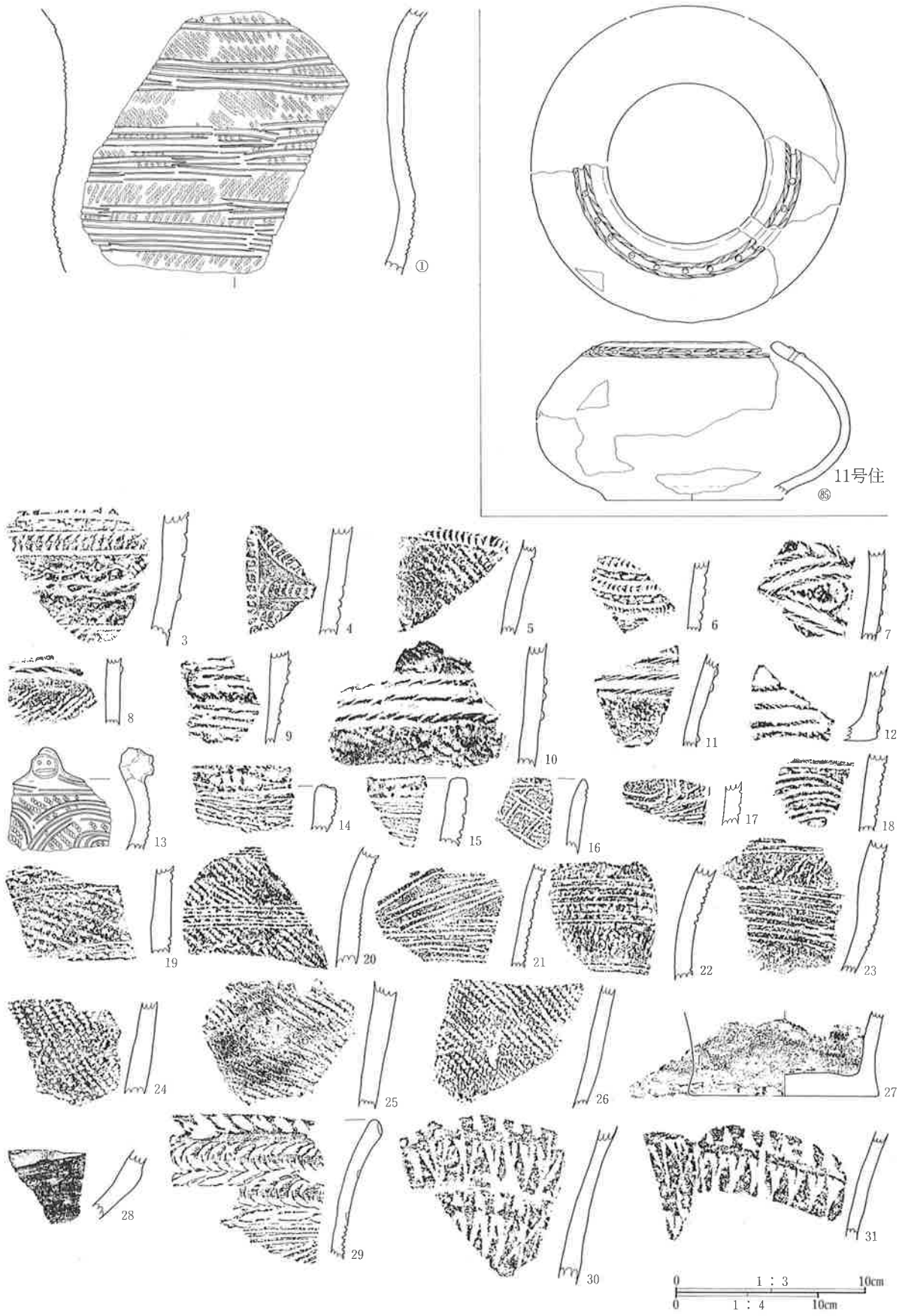


134号土坑

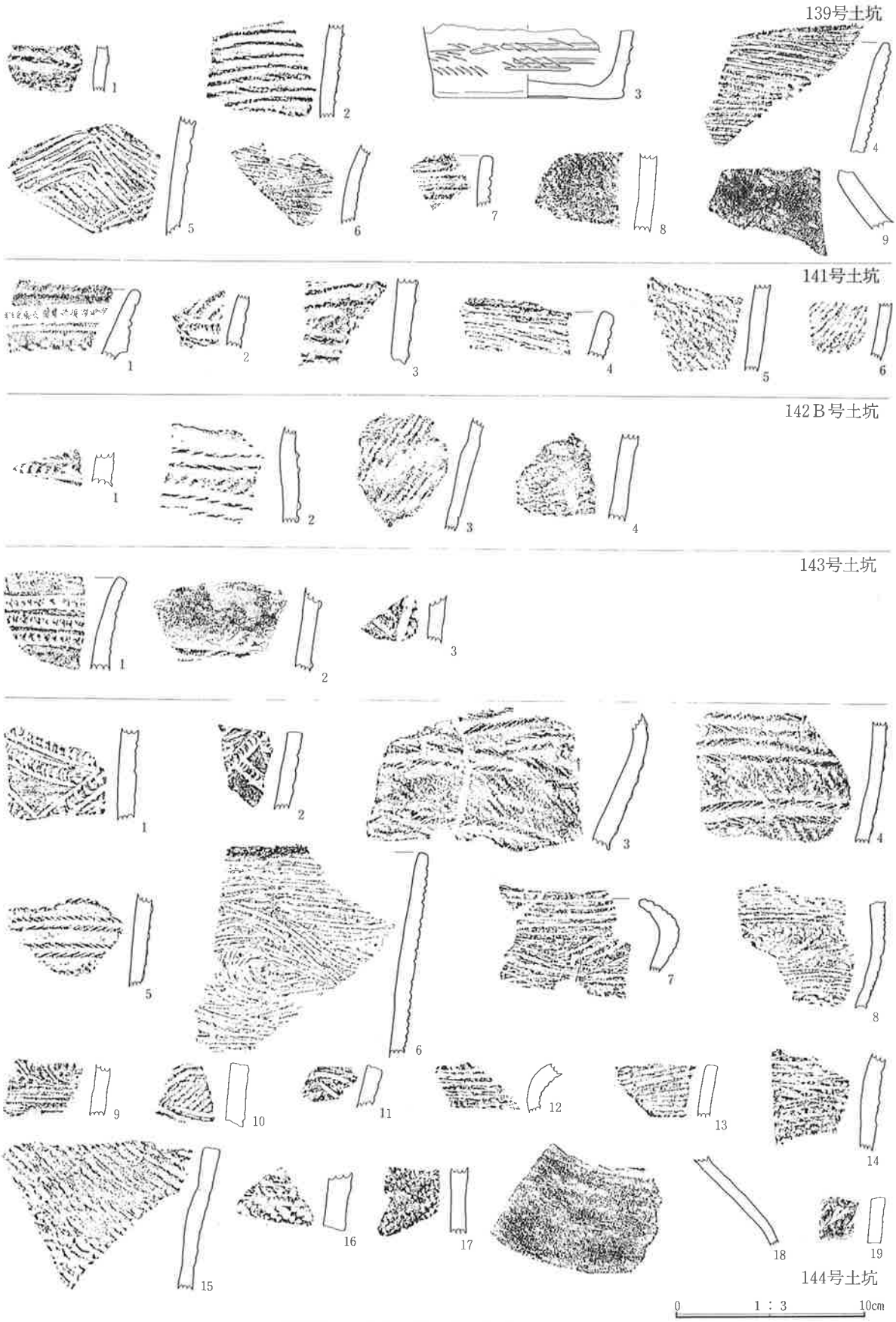


第117図　124、130・131、134号土坑出土土器

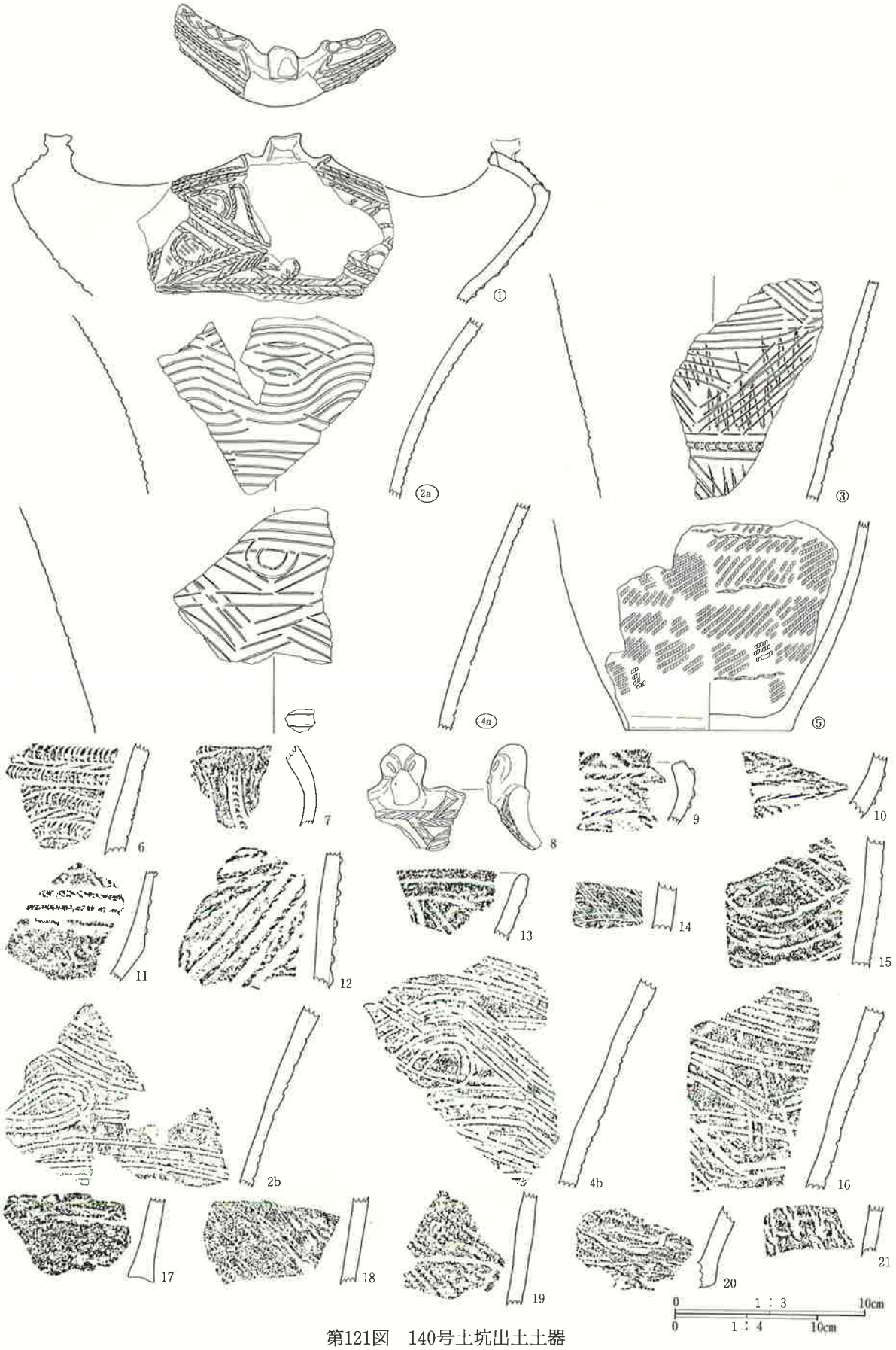
第118図　132、137号土坑出土土器



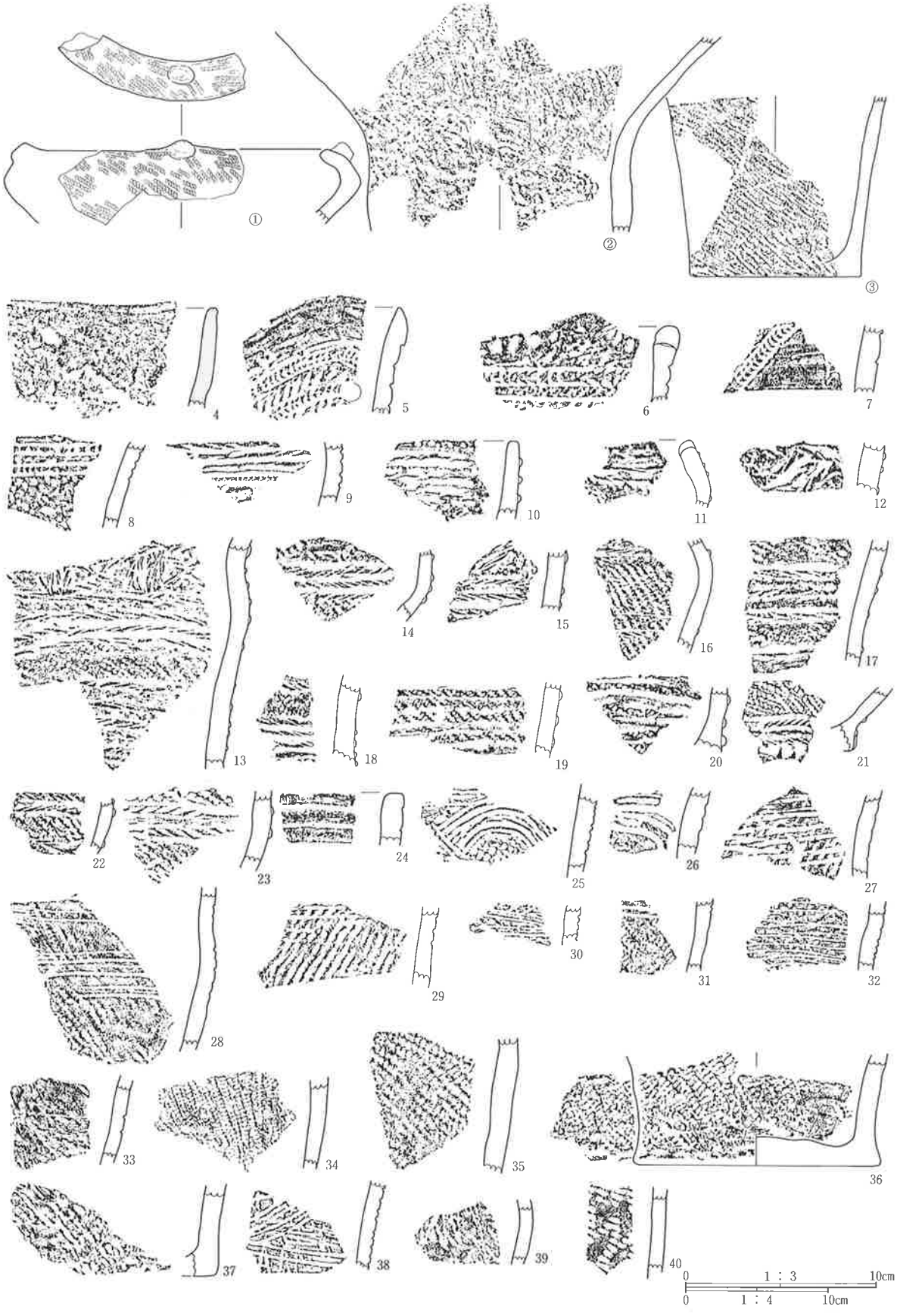
第119図　138号土坑出土土器



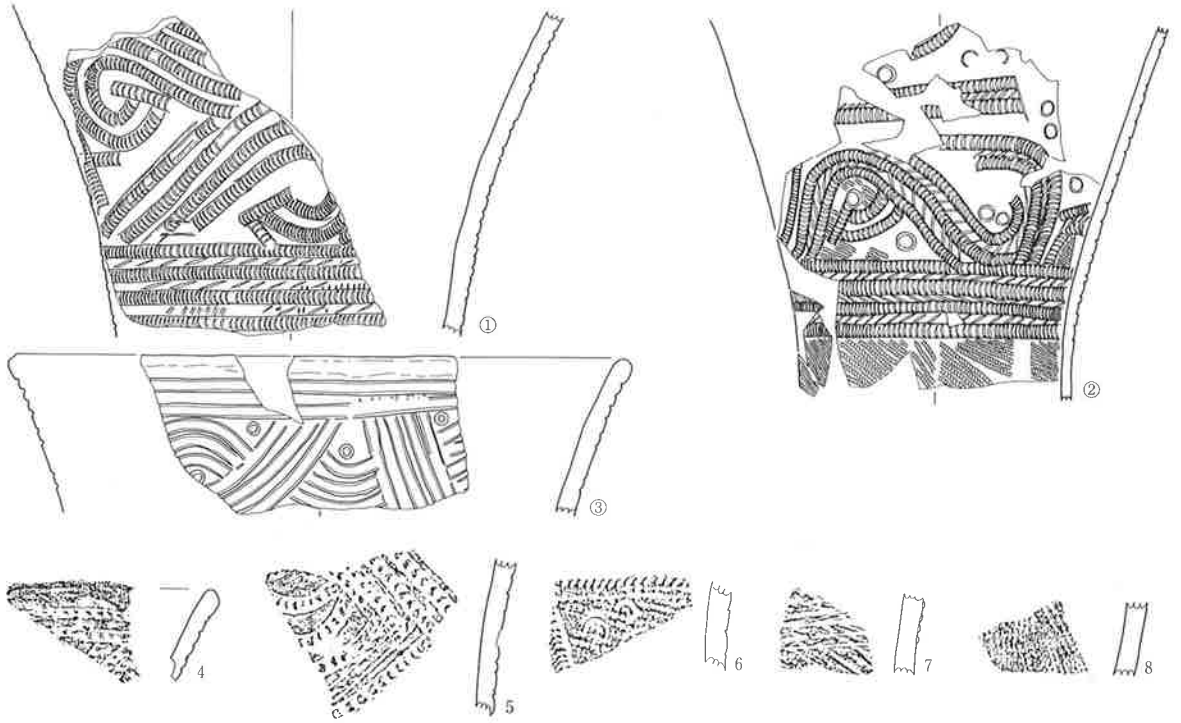
第120図　139、141～144号土坑出土土器



第121図　140号土坑出土土器

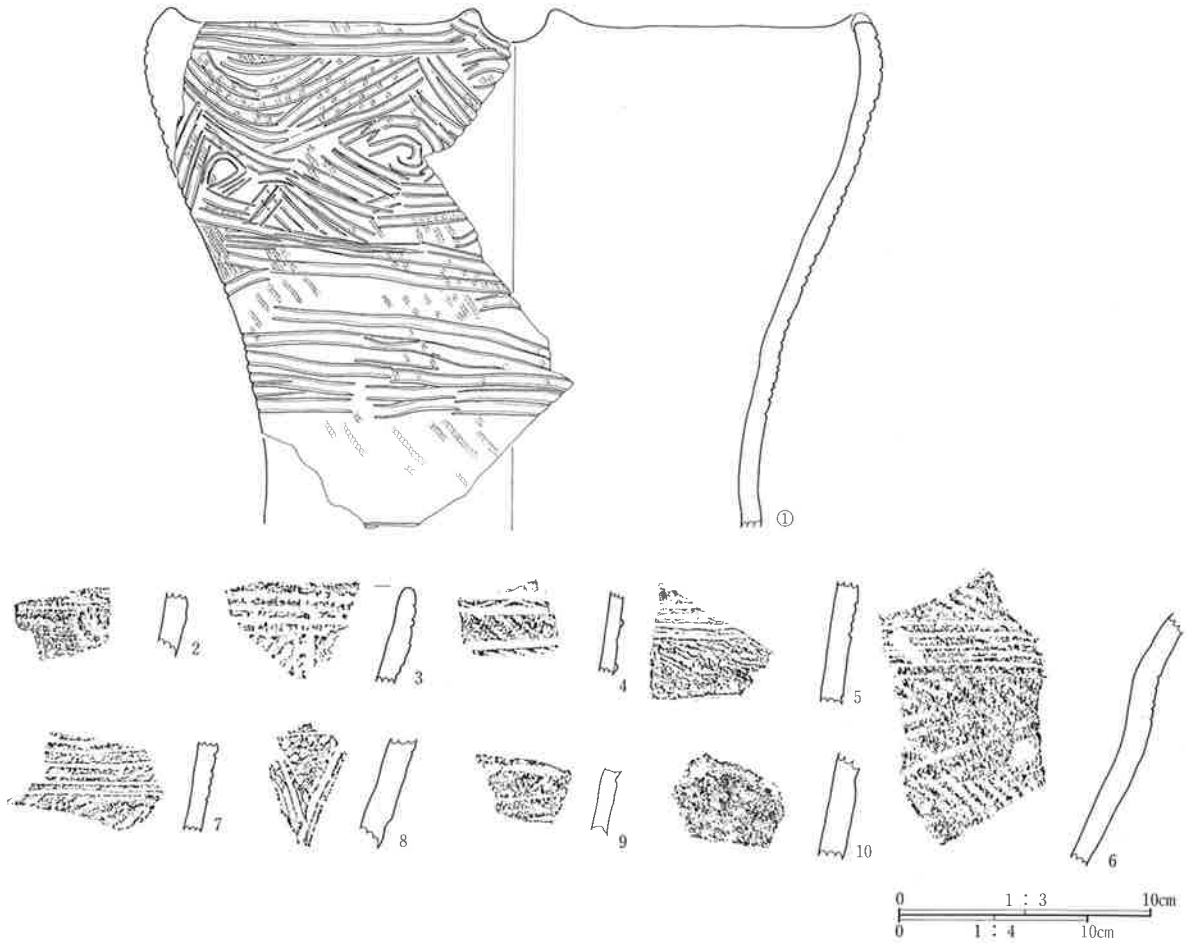


第122図　147号土坑出土土器

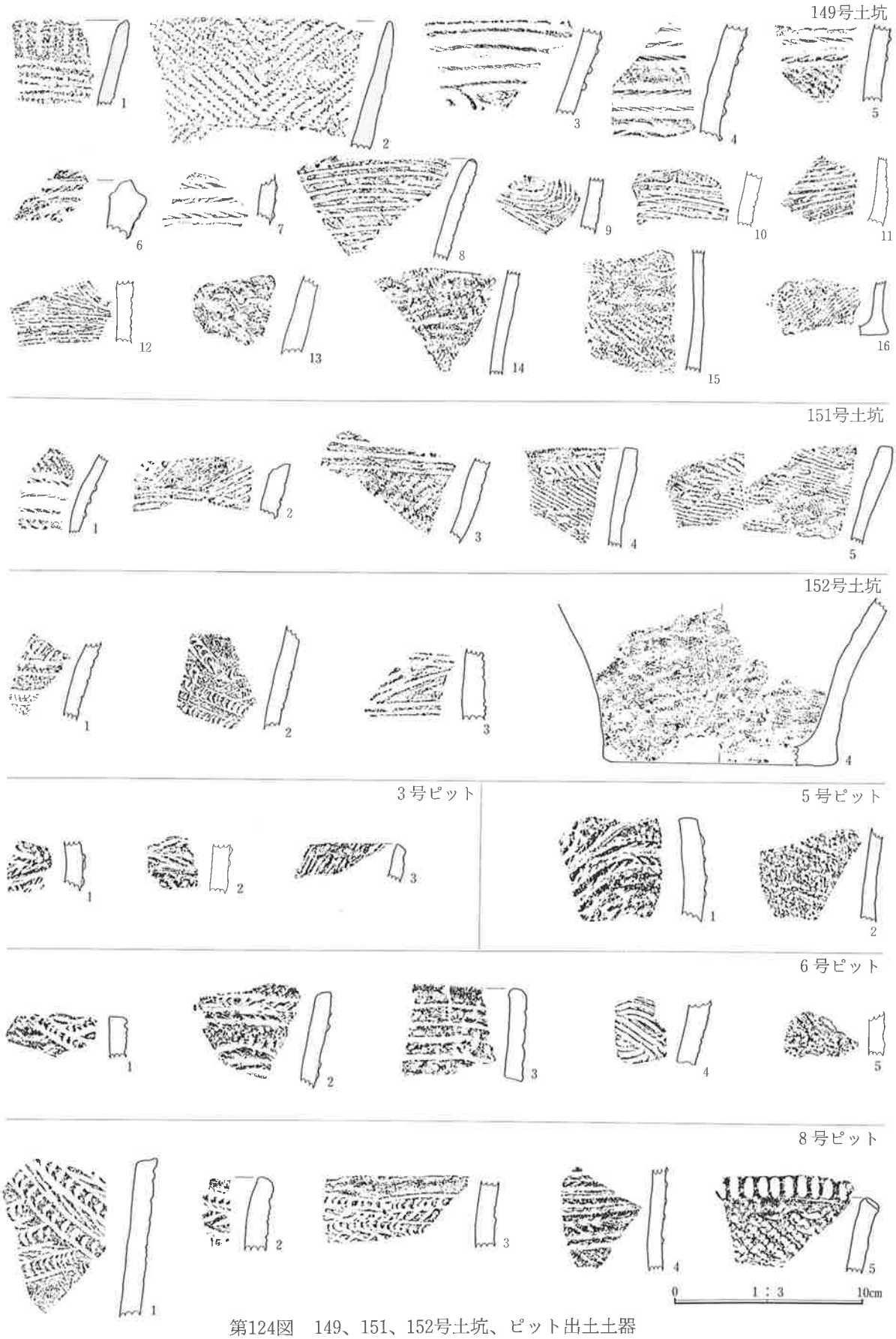


145A号土坑

148号土坑

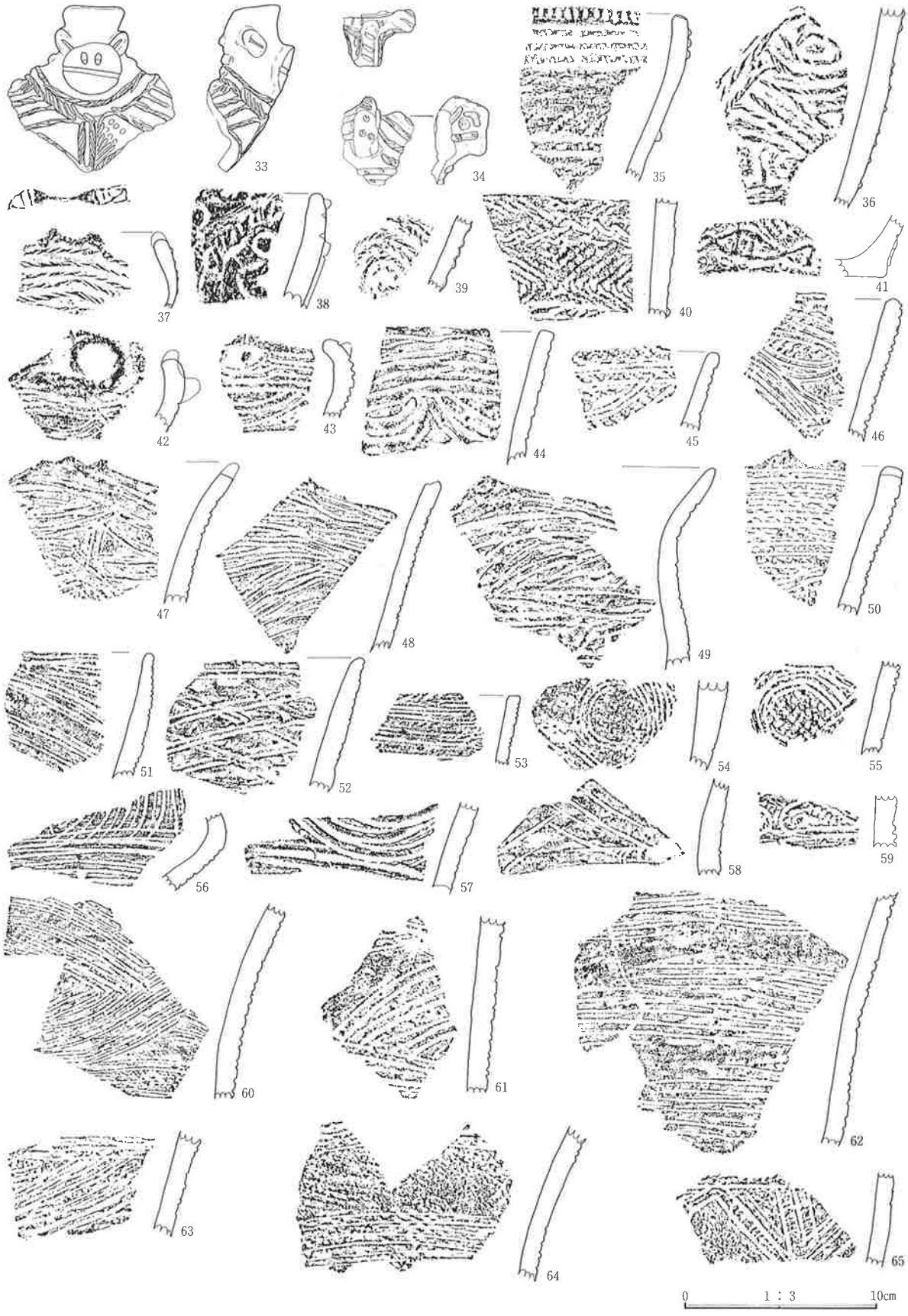


第123図　145A、148号土坑出土土器

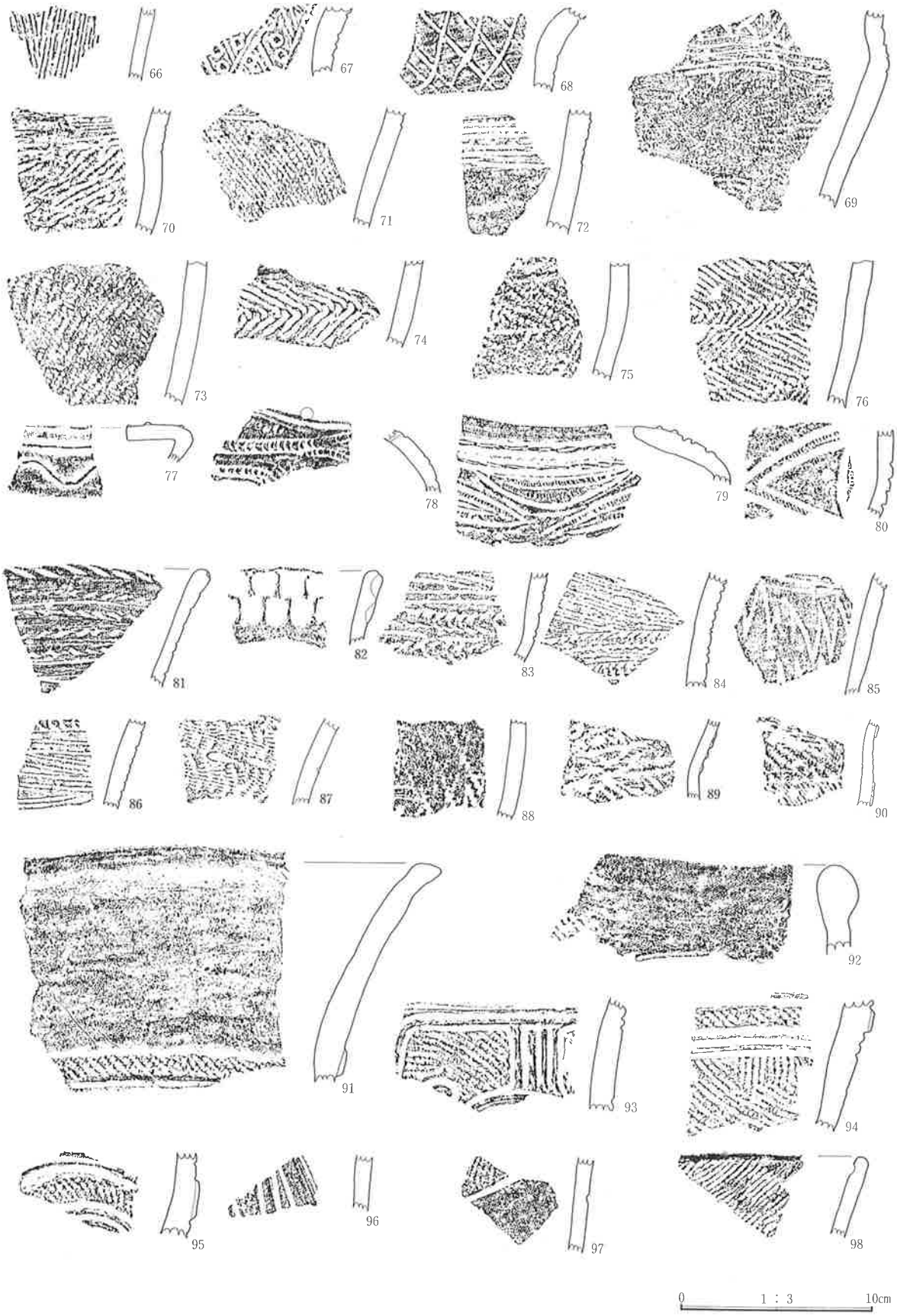


第124図　149、151、152号土坑、ピット出土土器

第125図　遺構外出土土器（1）



第126図　遺構外出土土器（２）



第127図　遺構外出土土器（３）

第4表　縄文土器観察表

1号住居跡出土土器

	分類	口　縁	口唇加工	底	地文	文　様　要　素	文　様	胎　土	色調
1	III－5	内折E平縁	棒状突起		LR	幅3㎜集合沈線文	縦区画縦位向弧線文	礫・砂、黒色鉱物	赤褐
2	III－5					幅3㎜集合沈線文、棒状貼付文	縦区画縦位向弧線文	礫・砂、黒・白色鉱物	橙
3	III－5	複屈曲波状		4	RL	幅3㎜集合沈線文、円形竹管文	横線文	礫・砂、黒色鉱物	褐
4	III－5					幅2㎜集合沈線文	横位矢羽根状文	礫・砂、黒色鉱物	暗褐
5	III－5					幅3㎜集合沈線文	横位矢羽根状文	礫・砂、赤色鉱物	黄橙
6	III－5	内湾平縁				幅3㎜集合沈線文、ボタン状貼付文	風車状渦巻文	礫・砂、黒・白色鉱物	褐
7	III－5	複屈曲波状	棒状突起		LR	幅3㎜集合沈線文	縦位向弧線文	礫・砂、黒・白色鉱物	赤褐
8	III－4	外反平縁	D字刺突	6		幅4㎜平行沈線文	格子目文、横位矢羽文	礫・砂	赤褐
9	III－6			4	LR			礫・砂、黒色鉱物	赤褐
10	III－2	二単位波状				幅6㎜爪形文		礫・砂	橙
11	III－2	外反平縁				幅10㎜爪形文（右傾太刻み付）		礫・黒色鉱物	黄橙
12	III－2	外反平縁				幅7㎜爪形文		礫・砂、白色鉱物	黄橙
13	III－2	外反平縁				幅7㎜爪形文		砂	黄橙
14	III－2					幅9㎜爪形文	渦巻文	礫・砂、黒色鉱物	黄橙
15	III－2					幅9㎜爪形文		礫・砂、黒色鉱物	黄橙
16	III－2					幅9㎜爪形文（左傾太刻み付）		礫・砂、黒・白色鉱物	褐
17	III－2					幅7㎜爪形文	横位弧線文（向弧型）	礫・砂	黄橙
18	III－2					幅9㎜爪形文	蕨手文	礫・砂、黒色鉱物	赤褐
19	III－3	弱内湾A波状	単頭突起、縦刻み		RL	厚1.5㎜浮線文（凹み付）		礫・砂	黒褐
20	III－3	弱内湾A平縁	単頭突起、縦刻み		RL	厚2㎜浮線文（右傾太刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	赤褐
21	III－3	弱外反平縁	波状隆線		LR	厚1㎜浮線文（羽状太刻み付）		礫・砂、赤色鉱物	灰褐
22	III－3	内湾波状	縦刻み			厚1㎜浮線文（左傾太刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	赤橙
23	III－3	弱内湾A波状				厚2.5㎜浮線文		礫・砂	橙
24	III－3	弱内湾A平縁				厚1㎜浮線文（右傾細刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	赤橙
25	III－3	弱外反平縁				厚1.5㎜浮線文（羽状太刻み付）		砂、赤色鉱物	灰褐
26	III－3	内湾波状			RL	厚1㎜浮線文（羽状細刻み付）		礫・砂、赤色鉱物	黄褐
27	III－3					厚1.5㎜浮線文（羽状太刻み付）		礫・砂	橙
28	III－3	内湾平縁				厚0.5㎜浮線文（羽状太刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	黄橙
29	III－3					厚0.5㎜浮線文（羽状太刻み付）		礫・砂、黒・白色鉱物	赤褐
30	III－3					厚1.5㎜浮線文（羽状太刻み付）		礫・砂	褐
31	III－3				RL	厚1㎜浮線文（羽状細刻み付）		砂	黄橙
32	III－3					厚1㎜浮線文（羽状細刻み付）		礫・砂	橙
33	III－3					厚0.5㎜浮線文(羽状細刻み、列点付)		礫・砂	橙
34	III－3				RL	厚1㎜浮線文（ハ字太刻み付）		砂、黒色鉱物	赤橙
35	III－3				RL	厚1㎜浮線文（右傾太刻み付）		礫・砂	橙
36	III－3				RL・LR	厚1㎜浮線文（ハ字太刻み付）		礫・砂	褐
37	III－3				RL	厚1㎜浮線文（ハ字太刻み付）		砂	橙
38	III－3				R	厚0.5㎜浮線文（右傾細刻み付）		礫・砂	赤褐
39	III－3				R	厚0.5㎜浮線文（羽状細刻み付）		礫・砂、白色鉱物	赤橙
40	III－4	外反平縁				幅6㎜爪形文、幅4㎜平行沈線文	波状文（交互型）	砂、白色鉱物	黄橙
41	III－4	外反平縁				幅7㎜平行沈線文	横線文	砂、黒・赤色鉱物	黄橙
42	III－4	弱外反平縁				幅4㎜平行沈線文	横線文	礫・砂、黒・赤色鉱物	赤橙
43	III－4	弱外反平縁	単頭突起			幅5㎜平行沈線文		礫・砂、黒・赤色鉱物	暗褐
44	III　4	外反波状				幅7㎜平行沈線文		砂、赤色鉱物	灰褐
45	III－4	弱外反平縁				幅7㎜平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	黒褐
46	III－7	外反平縁						砂、赤色鉱物	赤褐
47	III－4	内湾波状				幅5㎜平行沈線文	縦位背弧線文	礫・砂、白色鉱物	赤褐
48	III－4	内湾波状				幅5㎜平行沈線文	弧線文	砂、黒色鉱物	灰褐
49	III－5	外反平縁				幅2㎜集合沈線文		砂、黒色鉱物	赤橙
50	III－5	外反平縁				幅3㎜集合沈線文		砂、赤色鉱物	黄橙
51	III－5	複屈曲波状				幅2㎜集合沈線文		礫・砂	灰褐

	分類	口　縁	口唇加工	底	地文	文　様　要　素	文　様	胎　土	色調
52	III—5	外反波状				幅3㎜集合沈線文		礫・砂	褐
53	III—5	外反平縁				幅4㎜集合沈線文		砂、赤色鉱物	赤橙
54	III—5	内折B波状				幅4㎜集合沈線文		礫・砂、赤色鉱物	赤褐
55	III—5	内折B波状			RL	幅3㎜集合沈線文		礫、赤色鉱物	暗赤褐
56	III—5	複屈曲波状				幅2㎜集合沈線文		礫・砂	橙
57	III—5	複屈曲波状				幅2㎜集合沈線文		礫・砂	暗褐
58	III—5	複屈曲波状				幅2㎜集合沈線文	横線文	砂	黄褐
59	III—5	弱外反平縁				幅2㎜集合沈線文	縦位向弧線文	礫・砂、赤色鉱物	赤褐
60	III—5	外反平縁			L	幅3㎜集合沈線文	縦区画縦位向弧線文	砂、黒・赤色鉱物	赤橙
61	III—4					幅4㎜平行沈線文	木葉文	礫・砂、黒色鉱物	赤褐
62	III—4					幅10㎜平行沈線文	区画線付木葉文	礫、黒色鉱物	褐
63	III—4					幅9㎜平行沈線文		砂、黒色鉱物	赤橙
64	III—4					幅9㎜平行沈線文		砂	橙
65	III—4					幅4㎜平行沈線文		砂、赤色鉱物	暗褐
66	III—4					幅7㎜平行沈線文		礫・砂、黒・赤色鉱物	赤橙
67	III—4					幅9㎜平行沈線文		砂、赤色鉱物	褐
68	III—5					幅3㎜集合沈線文	風車状渦巻文	礫・砂	褐
69	III—5				RL	幅3㎜集合沈線文	風車状渦巻文	礫・砂、赤色鉱物	暗褐
70	III—5					幅3㎜集合沈線文	風車状渦巻文	礫・砂、黒・赤色鉱物	暗赤褐
71	III—5				RL	幅3㎜集合沈線文	風車状渦巻文	礫・砂	暗赤褐
72	III—4					幅5㎜平行沈線文		礫・砂、黒・白色鉱物	赤橙
73	III—5					幅3㎜集合沈線文		礫・砂、赤色鉱物	赤橙
74	III—4					幅3㎜平行沈線文		礫・砂、赤色鉱物	赤橙
75	III—4					幅3㎜平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	赤褐
76	III—4					幅3㎜平行沈線文	縦区画縦位向弧線文	礫・砂、黒色鉱物	橙
77	III—5					幅3㎜集合沈線文	縦位向弧線文	砂	黄橙
78	III—4					幅5㎜平行沈線文		礫・砂	赤橙
80	III—4					幅9㎜平行沈線文	菱形文	礫、黒・白・赤色鉱物	褐
81	III—4					幅4㎜平行沈線文		砂、黒色鉱物	黄橙
82	III—4					幅6㎜平行沈線文		礫・砂、黒・白色鉱物	暗赤褐
83	III—4					幅4㎜平行沈線文		砂	黄橙
84	III—4					幅7㎜平行沈線文		礫・砂、白・赤色鉱物	褐
85	III—4					幅5㎜平行沈線文		砂、黒色鉱物	赤橙
86	III—4				R	幅7㎜平行沈線文		礫・砂	黄橙
87	III—4					幅5㎜平行沈線文		礫・砂、白・赤色鉱物	暗赤褐
88	III—4				RL	幅8㎜平行沈線文		砂・礫	褐
89	III—4				RL	幅3㎜平行沈線文		砂、赤色鉱物	赤褐
90	III—4					幅3㎜平行沈線文		礫・砂、赤色鉱物	赤橙
91	III—4					幅4㎜平行沈線文		砂、白色鉱物	赤橙
92	III—4					幅4㎜平行沈線文		砂、黒色鉱物	赤褐
93	III—5				RL	幅3㎜集合沈線文	縦位背弧線文	礫・砂、赤色鉱物	褐
94	III—4					幅7㎜平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	赤橙
95	III—4					幅5㎜平行沈線文	短渦巻文	砂、赤色鉱物	黄橙
96	III—4					幅4㎜平行沈線文	短渦巻文	砂、黒色鉱物	暗赤褐
97	III—5					幅2㎜集合沈線文		砂、赤色鉱物	暗赤褐
98	III—5					幅2㎜集合沈線文	横位矢羽根状文	礫・砂、黒色鉱物	褐
99	III—5					幅3㎜集合沈線文	横位矢羽根状文	礫・砂	赤橙
100	III—5					幅2㎜集合沈線文	横位矢羽根状文	砂、白色鉱物	褐
101	III—5					幅3㎜集合沈線文	横位矢羽根状文	砂	赤褐
102	III—5					幅2㎜集合沈線文	横位矢羽根状文	砂	赤褐
103	III—4					幅3㎜平行沈線文	格子目文	礫・砂	黄橙
104	III—4					幅7㎜平行沈線文、径6㎜円形竹管文	格子目文	礫・砂	赤橙
105	III—4					幅5㎜平行沈線文		砂	橙
106	III—4					幅4㎜平行沈線文		礫・砂、白色鉱物	赤褐
107	III—4					幅9㎜平行沈線文		砂、黒・赤色鉱物	褐
108	III—4					幅7㎜平行沈線文		礫・砂	黄橙
109	III—4				RL	幅6㎜平行沈線文		砂、赤色鉱物	黄橙
110	III—4					幅6㎜平行沈線文		礫・砂、白色鉱物	赤橙

	分類	口　縁	口唇加工	底	地文	文　様　要　素	文　様	胎　土	色調
111	III－4					幅8㎜平行沈線文		礫、黒・白・赤色鉱物	暗赤褐
112	III－4					幅5㎜平行沈線文		礫・砂、黒・白色鉱物	赤橙
113	III－4				LR	幅5㎜平行沈線文		礫・砂、黒・白色鉱物	暗褐
114	III－4				RL	幅4㎜平行沈線文		礫、白色鉱物	赤褐
115	III－4					幅6㎜平行沈線文		砂、黒・白色鉱物	褐
116	III－4				RL	幅5㎜平行沈線文		砂、白色鉱物	黄橙
117	III－4					幅6㎜平行沈線文		礫・砂、赤色鉱物	暗褐
118	III－4					幅6㎜平行沈線文		礫・砂	暗赤褐
119	III－5					幅3㎜集合沈線文		礫・砂、赤色鉱物	橙
120	III－5					幅2㎜集合沈線文		砂、黒・赤色鉱物	黒褐
121	III－4					幅8㎜平行沈線文		礫、黒・白色鉱物	褐
122	III－5					幅3㎜集合沈線文		礫・砂	黄橙
123	III－5					幅3㎜集合沈線文		礫・砂、白色鉱物	黄橙
124	III－4					幅4㎜平行沈線文		砂、黒・白色鉱物	橙
125	III－4				RL	幅9㎜平行沈線文		砂、黒色鉱物	暗赤褐
126	III－4					幅5㎜平行沈線文		礫・砂、白色鉱物	橙
127	III－5				RL	幅3㎜集合沈線文		礫・砂、赤色鉱物	暗赤褐
128	III－5					幅3㎜集合沈線文		砂	赤橙
129	III－4				RL	幅4㎜平行沈線文		礫・砂、白色鉱物	褐
130	III－5				RL	幅3㎜集合沈線文		礫・砂、赤色鉱物	褐
131	III－4				RL	幅4㎜平行沈線文		礫・砂、赤色鉱物	暗褐
132	III－4				RL	幅3㎜平行沈線文		礫・砂	赤褐
133	III－5					幅5㎜集合沈線文		礫・砂	黄橙
134	III－4					幅3㎜平行沈線文		礫・砂、白色鉱物	黄橙
135	III－4					幅4㎜平行沈線文		砂、赤色鉱物	赤褐
136	III－5					幅3㎜集合沈線文		礫、黒色鉱物	黄橙
137	III－6	外反平縁			R			礫、白色鉱物	黄橙
138	III－6	弱外反平縁			L			砂、黒色鉱物	褐
139	III－6	外反平縁			L			礫・砂	赤褐
140	III－6	外反平縁			L			礫、黒・白色鉱物	赤褐
141	III－3	弱内湾A平縁			RL	厚1.5㎜浮線文（刺突付）		礫・砂、黒色鉱物	暗褐
142	III－6				L			礫、白色鉱物	暗赤褐
143	III－6				R			礫・砂、黒色鉱物	赤褐
144	III－6				L			礫・砂、白色鉱物	褐
145	III－6				L			砂、黒色鉱物	褐
146	III－6				L			砂、黒色鉱物	黄褐
147	III－6				RL			砂、黒色鉱物	暗褐
148	III－6				RL			礫、黒色鉱物	黄橙
149	III－6				RL			砂	暗赤褐
150	III－6				RL			礫・砂	赤橙
151	III－6				RL			礫・砂	赤褐
152	III－6				RL			礫・砂、黒色鉱物	赤褐
153	III－6				RL			礫・砂、黒・白色鉱物	赤褐
154	III－6				RL			礫・砂、黒・赤色鉱物	暗褐
155	III－6				RL			礫・砂、黒色鉱物	橙
156	III－6				L・R			礫・砂、黒・白色鉱物	暗赤褐
157	III－6				L・R			礫・砂、黒・白色鉱物	赤橙
158	III－6				L・R			礫・砂、黒・白色鉱物	赤橙
159	III－6				LR・RL			礫、白色鉱物	赤褐
160	III－6				LR	ボタン状貼付文		礫・砂、黒色鉱物	暗褐
161	III－7	外反平縁						砂、黒色鉱物	暗褐
162	III－7							礫・砂、黒色鉱物	黄褐
163	III－8	内湾						砂、金色鉱物	橙
164	III－8	内湾						礫・砂、黒・白色鉱物	赤橙
165	III－6				L			礫・砂	黄橙
166	III－8							砂、赤・金色鉱物	黄褐
167	III－8							礫・砂	赤橙
168	III－8							砂	赤橙

	分類	口　縁	口唇加工	底	地文	文　様　要　素	文　様	胎　土	色調
169	IV	外反				幅９㎜変形爪形文		礫・砂	褐
171	IV					幅15㎜変形爪形文、幅３㎜平行沈線文	横位矢羽根状文	砂	橙
172	IV	外反				幅９㎜変形爪形文、幅５㎜平行沈線文	弧線文	礫・砂、黒色鉱物	暗褐
173	IV					幅14㎜変形爪形文		砂、赤色鉱物	黄橙
174	IV					幅６㎜爪形文、幅４㎜平行沈線文	菱形文	砂、赤色鉱物	褐
175	IV					幅８㎜爪形文、幅４㎜平行沈線文		砂	橙
176	IV					刺突文		砂	暗褐
177	IV				貝			砂	黄橙

2号住居跡出土土器

	分類	口　縁	口唇加工	底	地文	文　様　要　素	文　様	胎　土	色調
1	III－2	二単位波状				幅７㎜爪形文（羽状太刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	褐
2	III－2				RL	幅７㎜爪形文、円形竹管文	大波状文（支柱付）	礫・砂	黄橙
3	III－4	弱外反平縁			RL	幅６㎜平行沈線文	渦巻文	礫・砂、黒色鉱物	暗褐
4	III－6				RL			礫・砂、黒色鉱物	褐
5	II					列点文	菱形文	繊維・砂	橙
6	II					列点文	菱形文	繊維・砂、赤色鉱物	褐
7	II				RL			繊維・礫・砂	褐
8	III－2	外反平縁				幅８㎜爪形文、幅６㎜平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	赤橙
9	III－2	弱外反平縁				幅７㎜爪形文（左傾太刻み付）		礫・砂、黒・赤色鉱物	黄橙
10	III－2	外反平縁				幅９㎜爪形文（右傾太刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	橙
11	III－2	弱外反平縁	縦隆線			幅７㎜爪形文	蕨手文	礫・砂、白・黒色鉱物	黄褐
12	III－2					幅５㎜爪形文（右傾太刻み付）	渦巻文	礫・砂、黒色鉱物	褐
13	III－2					幅７㎜爪形文（右傾太刻み付）		礫・砂、白・黒色鉱物	灰褐
14	III－2					幅８㎜爪形文（左傾太刻み付）		礫・砂	黄褐
15	III－2					幅６㎜爪形文	蕨手文	礫・砂、黒色鉱物	暗褐
16	III－2					幅６㎜爪形文（羽状太刻み付）	蕨手文	礫・砂、黒色鉱物	褐
17	III－2					幅９㎜爪形文、径９㎜円形竹管文		礫・砂、黒色鉱物	黒褐
18	III－2					幅８㎜爪形文（羽状太刻み付）	蕨手文	礫・砂	褐
19	III－2					幅７㎜爪形文	蕨手文	礫・砂、黒色鉱物	黒褐
20	III－2					幅８㎜爪形文（右傾太刻み付）	蕨手文	礫・砂、黒色鉱物	褐
21	III－2					幅７㎜爪形文（羽状太刻み付）	蕨手文	礫・砂、黒色鉱物	褐
22	III－2					幅７㎜爪形文（羽状太刻み付）	蕨手文	礫・砂、白・黒色鉱物	褐
23	III－2					幅９㎜爪形文（右傾太刻み付）	横位弧線文（向弧型）	礫・砂、黒色鉱物	赤褐
24	III－2					幅９㎜爪形文（右傾太刻み付）	横位弧線文（向弧型）	礫・砂、黒色鉱物	橙
25	III－2					幅７㎜爪形文（右傾太刻み付）		砂、黒色鉱物	褐
26	III－2					幅５㎜爪形文	横線文	砂、黒色鉱物	褐
27	III－2					幅８㎜爪形文（羽状太刻み付）		礫・砂、白色鉱物	褐
28	III－2					幅５㎜爪形文（右傾太刻み付）		砂、黒色鉱物	灰褐
29	III－2					幅７㎜爪形文（羽状太刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	黄褐
30	III－2					幅５㎜爪形文（右傾太刻み付）		砂、黒色鉱物	暗褐
31	III－2					幅８㎜爪形文（D字刺突文付）		砂、黒色鉱物	褐
32	III－2				RL	幅８㎜爪形文（D字刺突文付）		礫・砂、黒色鉱物	灰褐
33	III－2				RL	幅７㎜平行沈線文（右傾太刻み付）		砂、黒色鉱物	黄橙
34	III－2				RL	幅６㎜爪形文		礫・砂、黒色鉱物	黄橙
35	III－3					厚1.5㎜浮線文（羽状太刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	橙
36	III－3					厚1.5㎜浮線文（羽状太刻み付）		礫・砂、白・黒色鉱物	赤橙
37	III－3				RL	厚１㎜浮線文（羽状太刻み付）		砂、黒色鉱物	褐
38	III－4	外反平縁				幅６㎜平行沈線文		礫・砂、黒・白色鉱物	黄橙
39	III－4	弱内湾A平縁	縦刻み			幅９㎜平行沈線文		礫・砂、赤・白・黒色鉱物	橙
40	III－4	外反波状				幅６㎜平行沈線文	菱形区画小渦巻文	砂、黒色鉱物	黒褐
41	III－4	内折B波状			RL	幅４㎜平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	褐
42	III－4	外反平縁	単頭突起			幅７㎜爪形文、幅４㎜平行沈線文	格子目文	礫・砂、白・黒色鉱物	赤褐
43	III－4					幅８㎜平行沈線文	波状文（交互型）	礫・砂、黒色鉱物	黄橙
44	III－4					幅９㎜平行沈線文、径13㎜円形竹管文	波状文（交互型）	砂、白・黒色鉱物	褐

	分類	口　縁	口唇加工	底	地文	文　様　要　素	文　様	胎　土	色調
45	III－4					幅8㎜平行沈線文	波状文（交互型）	礫・砂、黒色鉱物	黄橙
46	III－4					幅5㎜平行沈線文	菱形文	礫・砂、白・黒色鉱物	褐
47	III－4				RL	幅6㎜平行沈線文		砂、黒色鉱物	黄橙
48	III－4					幅7㎜平行沈線文、径8㎜円形竹管文	弧線文	礫・砂、黒・白色鉱物	黄橙
49	III－4					幅9㎜平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	黄橙
50	III－4					幅8㎜平行沈線文、径8㎜円形竹管文	横位弧線文（背弧型）	礫・砂、黒色鉱物	黄橙
51	III－4					幅7㎜平行沈線文	菱形文	砂、黒色鉱物	灰褐
52	III－4					幅6㎜平行沈線文	菱形区画小渦巻文	砂、黒色鉱物	褐
53	III－4					幅3㎜平行沈線文	横位矢羽根状文	礫・砂	暗褐
54	III－4					幅10㎜平行沈線文		礫・砂、黒・赤色鉱物	黒褐
55	III－6	弱外反平縁			RL			砂、黒色鉱物	褐
56	III－6				RL			礫・砂、黒色鉱物	赤橙
57	III－6				RL			礫・砂、黒色鉱物	赤橙
58	III－6				RL			礫・砂、黒色鉱物	橙
59	III－6				RL			礫・砂、黒・白色鉱物	黄褐
60	III－6				RL			礫・砂、黒色鉱物	黄橙
61	III－6				RL			礫・砂、黒色鉱物	赤橙
62	III－6				RL			礫・砂、黒色鉱物	橙
63	III－6				RL			礫・砂、黒色鉱物	黄橙
64	III－6				RL			礫・砂、黒色鉱物	暗褐
65	III－6				RL			砂、黒色鉱物	黄橙
66	III－6				LR			礫・砂、赤・白・黒色鉱物	赤橙
67	III－6				RL			礫・砂	黄橙
68	III－6				RL			礫・砂、黒色鉱物	赤橙
69	III－6			2	RL			礫・砂、黒色鉱物	褐
70	III－6			1	RL			礫・砂、黒色鉱物	赤橙
71	III－7			1				礫・砂、黒色鉱物	褐
72	III－8				RL			礫・砂	橙
73	III－8					厚2㎜隆帯（羽状太刻付、孔）		礫・砂、黒色鉱物	褐

3号住居跡出土土器

	分類	口　縁	口唇加工	底	地文	文　様　要　素	文　様	胎　土	色調
1	II	内湾						繊維	黒褐
2	II			0		幅4㎜平行沈線文	葉脈文	繊維、礫・砂、黒・赤色鉱物	赤橙
3	III－1	外反平縁				櫛歯文、径8㎜円形竹管文	波状文（多段型）	礫・砂、黒色鉱物	暗褐
4	III－1	外反平縁				櫛歯文	波状文（交互型）	礫・砂、黒色鉱物	褐
5	III－2	外反波状				幅5㎜爪形文、径8㎜円形竹管文	入組木葉文	礫・砂、黒色鉱物	黒褐
6	III－8	内湾				幅4㎜平行沈線文	入組木葉文	砂、白色鉱物	赤橙
7	III－2	外反平縁				幅5㎜爪形文、径8㎜円形竹管文	入組木葉文	礫・砂、黒色鉱物	黒褐
8	III－2					幅7㎜爪形文	蕨手文	礫・砂、黒・白色鉱物	黒褐
9	III－2	外反平縁				幅8㎜爪形文（右傾太刻み付）	蕨手文	礫・砂、黒色鉱物	黄橙
10	III－2					幅7㎜爪形文（羽状太刻み付）	渦巻文	礫・砂、黒色鉱物	暗褐
11	III－2	外反平縁				幅9㎜爪形文（右傾太刻み付）	横位弧線文（背弧型）	礫・砂、黒色鉱物	橙
12	III－4					幅7㎜平行沈線文	蕨手文	礫・砂、黒色鉱物	赤橙
13	III－7	外反平縁		1				礫・砂、黒色鉱物	黄橙
14	III－4	外反平縁	単頭突起	1		幅8㎜爪形文、幅8㎜平行沈線文	格子目文	礫・砂、黒色鉱物	黄橙
15	I				撚R			礫・砂、黒・赤色鉱物	黄橙
16	II					列点文		繊維、黒・赤色鉱物	黄褐
17	II				RL・LR	列点文		繊維、砂、赤色鉱物	黄褐
18	II					列点文		繊維、赤色鉱物	灰褐
19	II	外反				幅4㎜平行沈線文		繊維、礫・砂・黒・白・赤色鉱物	赤橙
20	II					幅4㎜平行沈線文		繊維、礫・砂、黒・赤色鉱	赤褐

	分類	口縁	口唇加工	底	地文	文様要素	文様	胎土	色調
								物	
21	II					幅4㎜平行沈線文		繊維、礫・砂、黒・白・赤色鉱物	赤橙
22	II					幅4㎜平行沈線文		繊維、礫・砂、黒・赤色鉱物	赤橙
23	II	外反				幅4㎜平行沈線文		繊維、礫・砂、黒・白・赤色鉱物	赤橙
24	II	外反			RL			繊維、砂、赤色鉱物	褐
25	II	外反			RL			繊維・礫	褐
26	II	外反			RL			繊維・礫、赤色鉱物	黒褐
27	II	外反			RL			繊維・砂	黄橙
28	II	外反			RL・LR			繊維、赤色鉱物	褐
29	II	外反			LR			繊維、黒色鉱物	橙
30	II	外反			RL・LR			繊維・礫、白・赤色鉱物	黒褐
31	II	外反			RL・LR			繊維、黒色鉱物	黄橙
32	II				L			繊維・礫	褐
33	II				L			繊維、黒色鉱物	黄橙
34	II				L			繊維、黒・赤色鉱物	橙
35	II				L			繊維・礫・砂、黒・白・赤色鉱物	暗褐
36	II				L			繊維、赤色鉱物	黄橙
37	II				L			繊維・礫・砂、黒・赤色鉱物	暗赤褐
38	II				RL			繊維、白・赤色鉱物	橙
39	II				RL			繊維・礫・砂、黒・赤色鉱物	赤褐
40	II				RL			繊維・砂、白・赤色鉱物	橙
41	II				RL			繊維、赤色鉱物	橙
42	II				RL			繊維、赤色鉱物	橙
43	II				RL			繊維、赤色鉱物	橙
44	II				L			繊維・礫・砂、黒・白・赤色鉱物	暗赤褐
45	II				RL			繊維	橙
46	II				RL			繊維・礫、赤色鉱物	黒褐
47	II				RL			繊維、黒・赤色鉱物	黄橙
48	II				RL			繊維、赤色鉱物	黄褐
49	II				LR			繊維	
50	II				LR			繊維・礫、黒色鉱物	褐
51	II				LR			繊維・礫	黄褐
52	II				LR			繊維、赤色鉱物	橙
53	II				RL・LR			繊維・砂、黒・白・赤色鉱物	褐
54	II				RL・LR			繊維・礫・砂、白色鉱物	黄橙
55	II				RL・LR			繊維、赤色鉱物	黄褐
56	II				RL・LR			繊維、白・赤色鉱物	黒褐
57	II				RL・LR			繊維・砂、赤色鉱物	橙
58	II							繊維、黒色鉱物	橙
59	III—2	外反平縁				幅8㎜爪形文（羽状太刻み付）		砂、黒色鉱物	赤褐
60	III—2	二単位波状	爪形文			幅8㎜爪形文		砂、赤色鉱物	赤橙
61	III—2	二単位波状				幅8㎜爪形文（ハ字状太刻み付）		礫・砂、赤色鉱物	暗褐
62	III—2	外反平縁				幅7㎜爪形文（左傾太刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	褐

	分類	口　縁	口唇加工	底	地文	文　様　要　素	文　様	胎　土	色調
63	III— 2	外反平縁	縦隆線			幅 9 ㎜爪形文		砂、赤色鉱物	灰褐
64	III—2′	外反平縁				幅 6 ㎜爪形文、厚 3 ㎜隆帯		砂、黒色鉱物	暗褐
65	III— 2	外反平縁	縦隆線			幅 6 ㎜爪形文		砂、黒・赤色鉱物	赤橙
66	III— 2					幅10㎜爪形文、径 9 ㎜円形竹管文	横位弧線文（向弧型）	砂、黒・赤色鉱物	黄橙
67	III— 2					幅 9 ㎜爪形文、径12㎜円形竹管文	横位弧線文（背弧型）	砂、黒・赤色鉱物	黄橙
68	III— 2					幅 8 ㎜爪形文（羽状太刻み付）	横位弧線文（向弧型）	砂、黒・赤色鉱物	暗褐
69	III— 2					幅 6 ㎜爪形文		砂、黒・赤色鉱物	黄橙
70	III— 2					幅 5 ㎜爪形文、径 8 ㎜円形竹管文	入組木葉文	礫・砂、黒色鉱物	黒褐
71	III— 2					幅 9 ㎜爪形文、径 7 ㎜円形竹管文	蕨手文	砂、黒色鉱物	褐
72	III— 2					幅 8 ㎜爪形文	蕨手文	砂、黒色鉱物	黄橙
73	III— 2					幅 6 ㎜爪形文	斜線文	礫・砂、黒・赤色鉱物	赤褐
74	III— 2					幅 8 ㎜爪形文（羽状太刻み付）		礫・砂、黒・赤色鉱物	暗褐
75	III— 2				RL	幅 8 ㎜爪形文（羽状太刻み付）		礫・砂、黒・赤色鉱物	赤褐
76	III— 2					幅 7 ㎜爪形文		砂、黒・赤色鉱物	黄橙
77	III— 2					幅 9 ㎜爪形文		砂、黒・赤	黄橙
78	III— 2					幅 8 ㎜爪形文		砂、黒・白色鉱物	暗褐
79	III— 2					幅 8 ㎜爪形文	横位弧線文（向弧型）	砂、黒・赤色鉱物	赤橙
80	III— 2					幅 9 ㎜爪形文		礫・砂、赤色鉱物	橙
81	III— 3				RL	厚1.5㎜浮線文（左傾太刻み付）		赤色鉱物	黄橙
82	III— 4	外反平縁	単頭突起			平行沈線文		砂、黒・白・赤色鉱物	黄橙
83	III— 4		単頭突起			平行沈線文		砂、黒・赤色鉱物	灰褐
84	III		単頭突起					砂	橙
85	III— 4	外反平縁				幅 6 ㎜平行沈線文	菱形文	砂、黒・白・赤色鉱物	赤橙
86	III— 4	外反平縁	斜刻み		LR	幅 6 ㎜平行沈線文	横位弧線文（背弧型）	礫・砂、黒・白色鉱物	暗褐
87	III— 4	外反平縁				幅 5 ㎜平行沈線文		礫・砂、黒・赤色鉱条	黄褐
88	III— 4	外反平縁				幅 5 ㎜平行沈線文		砂、黒・白色鉱物	赤橙
89	III— 4	外反平縁				幅 6 ㎜平行沈線文		砂、黒・白色鉱物	黄橙
90	III— 4	外反平縁				幅 6 ㎜爪形文、幅 6 ㎜平行沈線文	格子目文	砂、黒・赤色鉱物	黄橙
91	III— 4	外反平縁			RL	幅 4 ㎜平行沈線文		礫・砂、黒・白・赤色鉱物	赤橙
92	III— 4				RL	幅 5 ㎜平行沈線文	波状文（多段型）	砂、黒色鉱物	黄橙
94	III— 4				RL	平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	褐
95	III— 4					幅 5 ㎜平行沈線文	菱形文	砂、黒・白色鉱物	赤橙
96	III— 4				L	幅 6 ㎜平行沈線文		砂、黒・赤色鉱物	黄褐
97	III— 4					幅 6 ㎜平行沈線文、単沈線	格子目文	砂、赤色鉱物	灰褐
98	III— 4					幅 6 ㎜平行沈線文	格子目文	砂、黒・赤色鉱物	黄橙
99	III— 6				L			黒・赤色鉱物	赤橙
100	III— 6				L			礫・砂、黒・白・赤色鉱物	赤褐
101	III— 6				L			礫・砂、黒・赤色鉱物	橙
102	III— 6				RL			赤色鉱物	褐
103	III— 6				RL			礫・砂、黒・白・赤色鉱物	褐
104	III— 6				RL			砂、黒・白色鉱物	橙
105	III— 6				RL			礫・砂、黒・白・赤色鉱物	黄橙
106	III— 6				RL			礫・砂、黒・白・赤色鉱物	褐
107	III— 6				RL			砂、黒・白・赤色鉱物	橙
108	III— 6				RL			砂、黒・赤色鉱物	褐
109	III— 6				RL			砂、黒・赤色鉱物	黄橙
110	III— 6				RL			砂、黒・赤色鉱物	黄橙
111	III— 6				RL			礫・砂、黒・赤色鉱物	黄橙
112	III— 6				RL			砂、黒・赤色鉱物	黄橙
113	III— 6				RL			礫・砂、黒・白・赤色鉱物	赤褐
114	III— 6				RL			砂、黒・赤色鉱物	黄橙
115	III　6				RL			砂、黒・赤色鉱物	黄橙
116	III— 6				RL			砂、黒・白・赤色鉱物	黄橙
117	III— 6				RL			砂、赤色鉱物	褐
118	III— 6				RL			砂、黒・赤色鉱物	黄橙
119	III— 6				RL			砂、黒・赤色鉱物	黄橙
120	III— 6				RL			砂、黒・赤色鉱物	灰褐
121	III— 6				RL			砂、黒・白・赤色鉱物	黄橙
122	III— 6				RL			砂、赤色鉱物	赤橙

	分類	口　縁	口唇加工	底	地文	文　様　要　素	文　様	胎　土	色調
123	III－6				RL			砂、白・赤色鉱物	灰褐
124	III－6				RL			砂、黒・赤色鉱物	橙
125	III－6				RL			砂、黒・赤色鉱物	灰褐
126	III－6				LR			礫・砂、赤色鉱物	赤橙
127	III－6				LR			砂、黒・赤色鉱物	黄橙
128	III－6				LR			礫・砂、黒・赤色鉱物	橙
129	III－6			1	LR			砂、黒色鉱物	赤橙
130	III－6			2	RL			砂、白・赤色鉱物	黄橙
131	III－6			2	RL			砂、黒・赤色鉱物	黄橙
132	III－8							礫・砂、黒・白・赤色鉱物	黄橙
133	III－8					幅３㎜爪形文		礫・砂、黒・赤色鉱物	黄橙
134	III－8							黒・白色鉱物	赤橙

4号住居跡出土土器

	分類	口　縁	口唇加工	底	地文	文　様　要　素	文　様	胎　土	色調
1	III－1	外反平縁	単頭突起		RL	櫛歯文	波状文（交互型）	礫・砂、黒色鉱物	赤褐
2	III－2	弱外反波状				幅８㎜爪形文	蕨手文	礫・砂	赤褐
3	III－2	外反平縁				幅７㎜爪形文（D字刺突付）	蕨手文	礫・砂、黒色鉱物	褐
4	III－2	二単位波状	爪形文		RL	幅10㎜爪形文（羽状太刻み付）	蕨手文（渦巻型）	礫・砂、黒・白色鉱物	褐
5	III－2				RL	幅９㎜爪形文（右傾太刻み付）	蕨手文	礫・砂、黒色鉱物	暗褐
6	III－2				RL	幅８㎜爪形文（羽状太刻み付）	蕨手文	礫・砂、黒・白色鉱物	黒褐
7	III－2					幅９㎜爪形文（羽状太刻み付）	蕨手文（渦巻型）	礫・砂、黒・白色鉱物	暗褐
8	III－2	弱外反平縁	双頭突起、縦隆線			幅８㎜爪形文（羽状太刻み付）	横位弧線文（向弧型）	礫・砂、黒色鉱物	褐
9	III－2	二単位波状				幅８㎜爪形文（羽状太刻み付）	横位弧線文（向弧型）	礫・砂、黒・白色鉱物	赤褐
10	III－2	外反平縁				幅８㎜爪形文	横位弧線文（向弧型）	礫・砂、黒色鉱物	灰褐
11	III－2	二単位波状				幅８㎜爪形文（右傾太刻み付）		礫・砂	褐
12	III－2	外反平縁				幅８㎜爪形文（羽状太刻み付）	横位弧線文（向弧型）	礫・砂、黒色鉱物	赤褐
13	III－2				RL・LR	幅10㎜爪形文（羽状太刻み付）		礫・砂	灰褐
14	III－2	弱外反平縁				幅10㎜爪形文（羽状太刻み付）	横位弧線文（向弧型）	礫・砂、黒・白色鉱物	褐
15	III－2	弱外反平縁	爪形文			幅６㎜爪形文（羽状太刻み付）	横位弧線文（向弧型）	礫・砂、黒色鉱物	褐
16	III－2				RL・LR	幅10㎜爪形文（羽状太刻み付）	大波状文	礫・砂、黒色鉱物	赤橙
17	III－2	外反平縁				幅６㎜爪形文	横位弧線文（背弧型）	礫・砂、黒色鉱物	赤褐
18	III－2	外反平縁			RL	幅８㎜爪形文	横位弧線文（背弧型）	礫・砂、黒・白色鉱物	暗褐
19	III－2					幅８㎜爪形文	渦巻文	礫・砂、黒色鉱物	暗褐
20	III－2				RL	幅11㎜爪形文（左傾太刻み付）	渦巻文	礫・砂、黒色鉱物	暗褐
21	III－2	弱外反平縁				幅11㎜爪形文	渦巻文	礫・砂、黒色鉱物	赤褐
22	III－2					幅８㎜爪形文（D字刺突付）	蕨手文（渦巻型）	礫・砂	赤褐
23	III－2				RL	幅６㎜爪形文（羽状太刻み付）	π字蕨手文	礫・砂、黒色鉱物	黄橙
24	III－2	外反平縁	縦隆線			幅８㎜爪形文（羽状太刻み付）	鋸歯状文	礫・砂、黒・白色鉱物	褐
25	III－2					幅６㎜爪形文	菱形文	礫・砂、黒・白色鉱物	黄橙
26	III－2	弱外反平縁				幅９㎜爪形文（羽状太刻み付）	菱形文	礫・砂、黒色鉱物	赤褐
27	III－2′	外反平縁	双頭突起		RL・LR	幅11㎜爪形文、厚さ３㎜隆帯	枠状文	礫・砂、黒・白色鉱物	褐
28	III－3	弱内湾A波状				厚1.5㎜浮線文（羽状太刻み付）・瘤		砂、黒色鉱物	褐
29	III－3	外反波状	縦隆線		RL	厚２㎜浮線文（右傾太刻み付）	π字蕨手文	礫・砂、赤色鉱物	赤褐
30	III－3				RL	厚2.5㎜浮線文（RL付）	枠状文	礫・砂、黒色鉱物	橙
31	III－3			4	RL・LR	厚２㎜浮線文（羽状太刻み）		礫・砂、黒・白色鉱物	褐
32	III－3	弱内湾A平縁	三頭突起		RL	厚2.5㎜浮線文（RL付）	π字蕨手文	礫・砂、黒色鉱物	黄橙
33	III－3	弱内湾A平縁	単頭突起		RL	厚３㎜浮線文	蕨手文	礫・砂、黒色鉱物	赤褐
34	III－3	弱外反波状	縦刻み、鰭突起		RL・LR	厚1.5㎜浮線文（羽状、ハ字太刻み付）	π字蕨手文（渦巻型）	礫・砂、黒色鉱物	橙
35	III－3	弱内湾A波状	縦隆線		RL	厚２㎜浮線文（羽状太刻み付）、孔	π字蕨手文（渦巻型）	礫・砂、黒色鉱物	暗褐
36	III－3	弱内湾A波状	眼鏡隆線			厚２㎜浮線文（羽状太刻み付）、円形竹管文	π字蕨手文（渦巻型）	礫・砂、黒色鉱物	褐

	分類	口　縁	口唇加工	底	地文	文　様　要　素	文　様	胎　土	色調
37	III－3	弱内湾A波状	縦隆線		RL	厚2㎜浮線文(羽状太刻み付)、孔	π字蕨手文（渦巻型）	礫・砂、黒色鉱物	灰褐
38	III－3	内湾波状			RL	厚2.5㎜浮線文（右傾太刻み、RL付）	多重渦巻文	礫・砂、白・赤色鉱物	橙
39	III－3				RL・LR	厚2㎜浮線文（羽状太刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	赤橙
40	III－3				RL	厚2.5㎜浮線文(羽状、ハ字太刻み付)		礫・砂、黒色鉱物	暗褐
41	III－3				RL	厚2.5㎜浮線文（羽状太刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	褐
42	III－4					幅8㎜平行沈線文	大波状文	礫・砂、黒色鉱物	黄橙
43	III－4	外反平縁				幅10㎜平行沈線文、径11㎜円形竹管文	波状文（交互型）	礫・砂、黒・赤色鉱物	黄橙
44	III－4	外反平縁				幅8㎜平行沈線文、径12㎜円形竹管文	波状文（交互型）	礫・砂、黒・白・赤色鉱物	黄橙
45	III－4	外反平縁	環状突起			幅9㎜平行沈線文、円形竹管文	太波状文	礫・砂、黒色鉱物	黄橙
46	III－4	外反平縁				幅8㎜平行沈線文	横位弧線文（背弧型）	礫・砂、黒色鉱物	褐
47	III－4′	弱内湾A波状	鰭状突起		R	幅5㎜平行沈線文、厚2.5㎜隆帯	格子目文、分離木葉文	礫・砂、黒色鉱物	黄橙
48	III－4	弱外反平縁				幅10，5㎜平行沈線文	格子目文	礫・砂、黒・白色鉱物	黄橙
49	III－4	外反平縁	肥厚口縁			幅4㎜平行沈線文	格子目文	礫・砂、黒・白色鉱物	灰褐
50	III－4	外反平縁			RL	幅6㎜平行沈線文、幅6㎜爪形文	格子目文	礫・砂、黒色鉱物	黄橙
51	III－4	弱内湾A平縁	凹み		LR	幅10㎜平行沈線文、爪形文、単沈線文	格子目文、横位弧線文	礫・砂、黒色鉱物	黄橙
52	III－4	外反平縁			RL	幅2㎜平行沈線文、幅7㎜爪形文	格子目文	礫・砂、黒色鉱物	暗褐
53	III－4	外反平縁	凹み		RL	幅3㎜平行沈線文	格子目文	礫・砂、黒色鉱物	暗褐
54	III－4	外反平縁	凹み			幅9㎜平行沈線文	格子目文	礫・砂、黒・白色鉱物	黄橙
55	III－4					幅8㎜平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	灰褐
56	III－4			2	LR	平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	橙
57	III－6			2	RL			礫・砂、黒色鉱物	褐
58	III－6			2	RL			礫・砂、黒色鉱物	赤褐
59	III－6			1	LR			礫・砂、黒・白色鉱物	赤褐
60	III－8	内湾			RL			砂、黒色鉱物	黄橙
61	III－8							礫・砂、白色鉱物	黄橙
62	III－8	内湾			RL			礫・砂、赤色鉱物	赤褐
63	III－8	内湾	渦巻隆線					礫・砂、金色鉱物	赤褐
64	III－8	内湾	縦隆線		RL	幅5㎜平行沈線文	入組木葉文	礫・砂、赤色鉱物	褐
65	III－8				RL	幅5㎜平行沈線文	入組木葉文	礫・砂	橙
66	III－8		波状隆線		RL	幅3㎜平行沈線文	入組木葉文	礫・砂、赤色鉱物	赤褐
67	II	外反				列点文		繊維、砂	黄橙
68	II	外反			RL			繊維、砂、黒色鉱物	赤橙
69	II	外反			RL			繊維、礫・砂	灰褐
70	II	外反			L・RL			繊維、礫	暗褐
71	II				LR・RL			繊維、砂	橙
72	II				L＋R			繊維、砂	暗褐
73	III－2	外反平縁				幅6㎜爪形文	連結木葉文	砂	灰褐
74	III－2	外反平縁				幅4㎜爪形文		砂、黒・赤色鉱物	灰褐
75	III－2	二単位波状				幅8㎜爪形文	蕨手文	礫・砂	黄橙
76	III－2	二単位波状				幅8㎜爪形文	蕨手文	礫・砂、黒色鉱物	赤橙
77	III－2	二単位波状				幅6㎜爪形文（羽状太刻み付）		礫・砂、黒・赤色鉱物	黄橙
78	III－2	二単位波状				幅8㎜爪形文（左傾太刻み付）		礫・砂、金色鉱物	赤橙
79	III－2	二単位波状				幅7㎜爪形文、径9㎜円形竹管文		砂、黒色鉱物	黄褐
80	III－2′	二単位波状				幅7㎜爪形文、厚2㎜隆帯		礫・砂、黒色鉱物	黄褐
81	III－2	二単位波状	凹み			幅10㎜爪形文（羽状太刻み付）	蕨手文	礫・砂	赤橙
82	III－2	二単位波状				幅8㎜爪形文（羽状太刻み付）	横位弧線文（向弧型）	礫・砂、赤色鉱物	赤橙
83	III－2	弱外反波状				幅9㎜爪形文	横位弧線文（向弧型）	礫・砂、白色鉱物	赤褐
84	III－2	外反平縁				幅11㎜爪形文		砂、黒色鉱物	灰褐
85	III－2	外反平縁			LR	幅11㎜爪形文（右傾太刻み付）		礫・砂、黒・白色鉱物	赤橙
86	III－2	弱外反平縁	縦刻み		RL	幅10㎜爪形文	横位弧線文（向弧型）	礫・砂、黒・赤色鉱物	黄橙
87	III－2	弱外反平縁	鋸歯隆線			幅9㎜爪形文（羽状太刻み付）	横位弧線文（背弧型）	砂、黒・赤色鉱物	黄橙

	分類	口　縁	口唇加工	底	地文	文　様　要　素	文　様	胎　土	色調
88	III－2	弱外反平縁	爪形文			幅７㎜爪形文（羽状太刻み付）		砂	黄橙
89	III－2	外反平縁	斜刻み			幅９㎜爪形文（羽状太刻み付）		礫・砂、赤色鉱物	赤橙
90	III－2	外反平縁	斜刻み			幅９㎜爪形文（左傾太刻み付）		砂、赤色鉱物	橙
91	III－2	外反平縁	斜刻み			幅８㎜爪形文（左傾太刻み付）		砂	赤橙
92	III－2	外反平縁	凹み			幅９㎜爪形文（左傾太刻み付）		礫・砂、赤色鉱物	赤橙
93	III－2′	外反平縁	凹み			幅12㎜爪形文、厚2.5㎜隆帯		砂、黒・白色鉱物	赤橙
94	III－2	弱外反平縁	凹み			幅10㎜爪形文（左傾太刻み付）		礫・砂、黒・白・赤色鉱物	赤橙
95	III－2	外反平縁	縦隆線			幅９㎜爪形文（羽状太刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	赤橙
96	III－2	外反平縁	縦隆線			幅７㎜爪形文		礫・砂	褐
97	III－2	外反平縁	縦隆線			幅５㎜爪形文、幅５㎜平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	赤褐
98	III－2	外反平縁	双頭突起			幅７㎜爪形文		礫・砂	赤褐
99	III－2	外反平縁	双頭突起			幅９㎜爪形文		礫・砂、黒色鉱物	黄橙
100	III－2	外反平縁	単頭突起			幅８㎜爪形文		礫・砂	黄橙
101	III－2	外反平縁	単頭突起			幅11㎜爪形文		礫・砂、黒色鉱物	褐
102	III－2	外反平縁	単頭突起			幅12㎜爪形文		砂、黒・白色鉱物	暗褐
103	III－2	外反				幅９㎜爪形文		礫・砂、黒・白・赤色鉱物	橙
104	III－2	弱外反平縁	鰭状突起、隆線			幅８㎜爪形文		礫・砂、黒色鉱物	黄橙
105	III－2	外反				幅７㎜爪形文（右傾太刻み付）		礫・砂	黒褐
106	III－2	二単位波状				幅９㎜爪形文（D字刺突付）		礫・砂、黒・白色鉱物	褐
107	III－2	外反	斜刻み			幅10㎜爪形文（右傾太刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	赤褐
108	III－2′	二単位波状				幅８㎜爪形文、厚1.5㎜隆帯		砂、黒色鉱物	橙
109	III－2	二単位波状				幅10㎜爪形文（羽状太刻み付）		礫・砂	橙
110	III－2	二単位波状				幅11㎜爪形文		礫・砂、白色鉱物	灰褐
111	III－2	外反波状				幅10㎜爪形文（D字刺突付）		礫・砂、白・赤色鉱物	赤橙
112	III－2	外反波状	斜刻み		RL	幅７㎜爪形文		礫・砂、黒色鉱物	赤橙
113	III－2	二単位波状				幅８㎜爪形文（右傾太刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	黄橙
114	III－2	二単位波状				幅８㎜爪形文（左傾太刻み付）		礫・砂、赤色鉱物	橙
115	III－2	二単位波状				幅９㎜爪形文（右傾太刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	橙
116	III－2	弱外反平縁				幅９㎜爪形文（羽状太刻み付）		礫・砂、白・黒・赤色鉱物	赤褐
117	III－2	外反平縁				幅11㎜爪形文（左傾太刻み付）		礫・砂	黄橙
118	III－2	外反平縁				幅９㎜爪形文（左傾太刻み付）		礫・砂、黒・白・赤色鉱物	橙
119	III－2	外反平縁				幅８㎜爪形文（羽状太刻み付）		砂、黒・赤色鉱物	橙
120	III－2	外反平縁				幅８㎜爪形文（左傾太刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	赤橙
121	III－2	外反波状				幅９㎜爪形文（左傾太刻み付）		砂、黒色鉱物	褐
122	III－2	外反平縁				幅10㎜爪形文（左傾太刻み付）		砂	赤橙
123	III－2	外反平縁				幅７㎜爪形文（左傾太刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	橙
124	III－2	外反平縁				幅９㎜爪形文（左傾太刻み付）		礫・砂、赤色鉱物	赤橙
125	III－2	外反平縁				幅７㎜爪形文（羽状太刻み付）		礫・砂	褐
126	III－2	二単位波状				幅７㎜爪形文（D字刺突付）		礫・砂、黒色鉱物	暗赤褐
127	III－2	外反平縁				幅８㎜爪形文（D字刺突付）		砂、黒色鉱物	灰褐
128	III－2	外反平縁				幅７㎜爪形文		砂、白・赤色鉱物	橙
129	III－2	弱外反平縁				幅８㎜爪形文		砂、黒色鉱物	黄橙
130	III－2	外反平縁				幅７㎜爪形文		礫・砂、赤色鉱物	黄橙
131	III－2	二単位波状				幅７㎜爪形文		礫・砂、白・黒・赤色鉱物	黄褐
132	III－2	外反平縁				幅９㎜爪形文		砂、黒・赤色鉱物	橙
133	III－2	外反平縁				幅８㎜爪形文		礫・砂	灰褐
134	III－2	外反平縁				幅９㎜爪形文		礫・砂、黒・白・赤色鉱物	赤橙
135	III－2	外反平縁				幅９㎜爪形文		砂、黒色鉱物	灰褐
136	III－2	外反平縁				幅９㎜爪形文（左傾太刻み付）		砂	黄橙
137	III－2					幅７㎜爪形文（右傾太刻み付）		砂、黒・赤色鉱物	赤褐
138	III－2				RL	幅７㎜爪形文	入組木葉文	礫・砂、赤・黒色鉱物	橙
139	III－2				RL	幅５㎜爪形文	入組木葉文	礫・砂、黒色鉱物	黄橙
140	III－2					幅９㎜爪形文（右傾太刻み付）	入組木葉文	砂	赤褐
141	III－2					幅10㎜爪形文（左傾太刻み付）	蕨手文（渦巻型）	礫・砂	赤橙
142	III－2					幅８㎜爪形文、径８㎜円形竹管文	蕨手文（渦巻型）	礫・砂、黒色鉱物	黄橙
143	III－2					幅７㎜爪形文、径８㎜円形竹管文	蕨手文（渦巻型）	砂、黒・白色鉱物	暗褐
144	III－2′					幅９㎜爪形文、厚２㎜隆帯	蕨手文（渦巻型）	砂、黒・赤色鉱物	黄橙
145	III－2					幅９㎜爪形文	蕨手文（渦巻型）	礫・砂	橙

	分類	口縁	口唇加工	底	地文	文様要素	文様	胎土	色調
146	III—2				RL	幅11㎜爪形文（右傾太刻み付）	蕨手文	砂、黒色鉱物	赤橙
147	III—2					幅８㎜爪形文	蕨手文（渦巻型）	礫・砂、黒色鉱物	橙
148	III—2					幅８㎜爪形文（左傾太刻み付）	蕨手文	礫・砂、黒・赤色鉱物	黄橙
149	III—2				RL	幅７㎜爪形文	蕨手文（渦巻型）	礫・砂、黒色鉱物	赤橙
150	III—2					幅７㎜爪形文	蕨手文	礫・砂、黒色鉱物	黄橙
151	III—2				RL	幅９㎜爪形文	蕨手文	砂、黒色鉱物	赤橙
152	III—2					幅８㎜爪形文	蕨手文	礫・砂	灰褐
153	III—2					幅９㎜爪形文、径13㎜円形竹管文	蕨手文	礫・砂	赤橙
154	III—2					幅８㎜爪形文（右傾太刻み付）	横位弧線文（向弧型）	砂、赤・金色鉱物	灰褐
155	III—2					幅10㎜爪形文	横位弧線文（向弧型）	礫・砂、黒色鉱物	黄橙
156	III—2					幅９㎜爪形文（D字刺突付）	横位弧線文（向弧型）	砂、黒色鉱物	赤橙
157	III—2					幅９㎜爪形文（羽状太刻み付）	横位弧線文（向弧型）	礫・砂、赤色鉱物	赤橙
158	III—2					幅８㎜爪形文（右傾太刻み付）	横位弧線文（向弧型）	砂、黒色鉱物	赤橙
159	III—2					幅８㎜爪形文	横位弧線文（背弧型）	礫・砂、黒色鉱物	灰褐
160	III—2					幅８㎜爪形文（羽状太刻み付）	横位弧線文（背弧型）	礫・砂、黒色鉱物	黄橙
161	III—2					幅６㎜爪形文	横位弧線文（背弧型）	礫・砂、金色鉱物	黄橙
162	III—2					幅９㎜爪形文、径９㎜円形竹管文	横位弧線文（背弧型）	砂、赤色鉱物	黄橙
163	III—2					幅７㎜爪形文	渦巻文	礫・砂、赤色鉱物	橙
164	III—2					幅10㎜爪形文（左傾太刻み付）	渦巻文	礫・砂、黒・白色鉱物	橙
165	III—2′					幅９㎜爪形文、厚１㎜隆帯	渦巻文	礫・砂	黄橙
166	III—2					幅９㎜爪形文（左傾太刻み付）	渦巻文	礫・砂	暗褐
167	III—2					幅10㎜爪形文	渦巻文	礫・砂、白色鉱物	橙
168	III—2					幅８㎜爪形文、径８㎜円形竹管文	渦巻文	礫・砂、黒・赤色鉱物	黄橙
169	III—2				LR	幅９㎜爪形文	渦巻文	礫・砂、黒・赤色鉱物	橙
170	III—2′					幅８㎜爪形文、厚1.5㎜隆帯	渦巻文	礫・砂、黒・白色鉱物	褐
171	III—2′				RL	幅10㎜爪形文、厚１㎜隆帯		礫・砂	橙
172	III—2					幅９㎜爪形文（右傾太刻み付）		砂、黒・赤色鉱物	褐
173	III—2					幅９㎜爪形文（左傾太刻み付）		礫・砂、白・黒色鉱物	暗褐
174	III—2				RL	幅７㎜爪形文		礫・砂、黒色鉱物	赤橙
175	III—2					幅12㎜爪形文		礫・砂、赤色鉱物	赤橙
176	III—2					幅６㎜爪形文	横線文	礫・砂、黒色鉱物	黄橙
177	III—2				RL	幅９㎜爪形文（左傾太刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	橙
178	III—2				RL	幅９㎜爪形文（羽状太刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	暗褐
179	III—2					幅８㎜爪形文（羽状太刻み付）		礫・砂、赤色鉱物	橙
180	III—2				RL	幅10㎜爪形文		砂、黒・赤色鉱物	黄橙
181	III—2				RL	幅９㎜爪形文		礫・砂、黒色鉱物	暗褐
182	III—2				RL	爪形文		砂、黒色鉱物	赤橙
183	III—2				LR・RL	幅11㎜爪形文		礫・砂、黒・白・赤色鉱物	黄橙
184	III—3	弱内湾Ａ波状	波状隆線		RL	厚２㎜浮線文（羽状太刻み付）	蕨手文	砂、黒色鉱物	黒褐
185	III—3	内湾波状	斜刻み		RL	厚２㎜浮線文（羽状太刻み付）	π字蕨手文	礫・砂、黒色鉱物	赤褐
186	III—3	弱内湾Ａ波状	波状隆線		LR・RL	厚２㎜浮線文（羽状太刻み付）	π字蕨手文（渦巻型）	礫・砂、黒・白色鉱物	灰褐
187	III—3	弱内湾Ａ波状	獣面突起			厚２㎜浮線文（右傾太刻み付）		礫・砂	赤橙
188	III—3	弱内湾Ａ平縁	波状隆線		R	厚1.5㎜浮線文（羽状太刻み付）		砂、黒・金色鉱物	黄橙
189	III—3	弱内湾Ａ波状	眼鏡隆線		RL	厚1.5㎜浮線文（羽状太刻み付）		砂	灰褐
190	III—3	弱内湾Ａ波状	縦刻み			厚1.5㎜浮線文（右傾太刻み付）	π字蕨手文	礫・砂、黒色鉱物	橙
191	III—3	弱内湾Ａ平縁	縦刻み			厚2.5㎜浮線文（羽状太刻み付）		礫・砂	暗褐
192	III—3	弱内湾Ａ波状	双頭突起			厚３㎜浮線文（ハ字、羽状太刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	赤橙
193	III—3	弱内湾Ａ波状	双頭突起			厚2.5㎜浮線文（羽状太刻み付）		砂、黒・白色鉱物	赤橙
194	III—3	弱外反平縁				厚２㎜浮線文（羽状太刻み付）		礫・砂	褐
195	III—3	弱外反平縁			RL	厚２㎜浮線文（羽状太刻み付）		礫・砂、赤色鉱物	赤橙
196	III—3	弱外反平縁			LR・RL	厚2.5㎜浮線文（左傾太刻み付）	横線文	礫・砂、黒・赤色鉱物	橙
197	III—3	弱外反平縁				厚2.5㎜浮線文（左傾太刻み付）	枠状文	礫・砂、白色鉱物	赤橙
198	III—3	弱外反平縁				厚0.5㎜浮線文（ハ字太刻み付）		礫・砂、黒・白色鉱物	橙
199	III—2′				RL	厚３㎜隆帯、幅８㎜爪形文		礫・砂、黒色鉱物	暗赤褐
200	III—2′					幅８㎜爪形文、厚1.5㎜隆帯		礫・砂	褐

	分類	口　縁	口唇加工	底	地文	文　様　要　素	文　様	胎　土	色調
201	III－3					厚1.5㎜浮線文（右傾太刻み付）	蕨手文	砂、黒色鉱物	赤橙
202	III－3					厚２㎜浮線文（羽状太刻み付）	蕨手文（渦巻型）	砂	赤褐
203	III－3				LR	厚２㎜浮線文		砂	褐
204	III－3				RL	厚２㎜浮線文（RL付）		礫・砂、黒色鉱物	橙
205	III　3				LR	厚1.5㎜浮線文（左傾太刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	赤橙
206	III－3				RL	厚１㎜浮線文（左傾太刻み付）		礫・砂、黒・白色鉱物	橙
207	III－3				LR	厚1.5㎜浮線文（羽状太刻み付）		礫・砂	赤橙
208	III－3				RL	厚２㎜浮線文（羽状太刻み付）		砂、黒・赤色鉱物	暗褐
209	III－3				LR・RL	厚３㎜浮線文（右傾太刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	赤褐
210	III－3				LR・RL	厚２㎜浮線文（羽状太刻み付）		礫・砂、赤色鉱物	橙
211	III－3				LR・RL	厚２㎜浮線文（羽状太刻み付）		砂、黒色鉱物	黄橙
212	III－3				LR	厚２㎜浮線文（羽状太刻み付）		礫・砂、黒・白色鉱物	赤褐
213	III－3				LR・RL	厚2.5㎜浮線文（羽状太刻み付）		砂	赤橙
214	III－3				LR	厚１㎜浮線文（羽状太刻み付）		砂、赤色鉱物	黄橙
215	III－3				LR・RL	厚１㎜浮線文（羽状太刻み付）		砂、白色鉱物	赤橙
216	III－3				LR	厚２㎜浮線文（左傾、ハ字太刻み付）		礫・砂	赤橙
217	III－3				LR・RL	厚2.5㎜浮線文（ハ字太刻み付）		砂、黒色鉱物	赤橙
218	III－3				LR・RL	厚1.5㎜浮線文（LR付）		礫・砂、黒色鉱物	赤橙
219	III－3			1		厚１㎜浮線文（右傾太刻み付）		礫・砂、赤色鉱物	黄橙
220	III－3			1		厚２㎜浮線文（右傾太刻み付）		砂	黄橙
221	III－3			2	RL	厚２㎜浮線文（羽状太刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	橙
222	III－3			4	R	厚１㎜浮線文（羽状太刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	赤褐
223	III－3			3	RL	厚１㎜浮線文（羽状太刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	赤橙
224	III－3			4	RL	厚2.5㎜浮線文（右傾太刻み付）		礫・砂、赤色鉱物	赤橙
225	III－3			4	RL	厚１㎜浮線文（羽状太刻み付）		礫・砂、黒・白色鉱物	赤橙
226	III－4	外反平縁			RL	幅９㎜平行沈線文、爪形文	波状文（多段型）	砂、黒・白色鉱物	黄橙
227	III－4	外反平縁				幅７㎜平行沈線文	分離木葉文	礫・砂、黒色鉱物	黄橙
228	III－4	外反平縁				幅７㎜平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	橙
229	III－4	外反平縁				幅９㎜平行沈線文		砂、黒色鉱物	黄橙
230	III－4	外反波状	環状突起			幅７㎜平行沈線文		礫・砂、黒・赤色鉱物	黄橙
231	III－4	外反平縁	縦隆線			幅７㎜平行沈線文、幅７㎜爪形文	横位弧線文（背弧型）	礫・砂、黒色鉱物	赤褐
232	III－4	外反平縁				幅９㎜平行沈線文	横位弧線文（背弧型）	礫・砂、黒色鉱物	暗褐
233	III－4	外反平縁				幅４㎜平行沈線文		砂、黒色鉱物	赤橙
234	III－4	外反平縁	凹み		LR	幅８㎜平行沈線文、径８㎜円形竹管文	格子目文	礫・砂、黒色鉱物	赤褐
235	III－4	外反平縁	波状隆線			幅７㎜平行沈線文、幅７㎜爪形文	格子目文	砂、黒・白色鉱物	赤橙
236	III－4	外反平縁				幅６㎜平行沈線文、幅６㎜爪形文	格子目文	礫・砂、黒色鉱物	灰褐
237	III－4	弱外反平縁	単頭突起			幅７㎜平行沈線文	格子目文	礫・砂、黒・赤色鉱物	赤橙
238	III－4	外反平縁				幅７㎜平行沈線文	格子目文	砂、黒色鉱物	赤橙
239	III－4	外反平縁				幅７㎜平行沈線文	格子目文	礫・砂、黒色鉱物	橙
240	III－4	外反平縁				幅７㎜平行沈線文	格子目文	砂、黒色鉱物	橙
241	III－4	外反平縁				幅７㎜平行沈線文		礫・砂、黒・赤色鉱物	黄橙
242	III－4	外反平縁				幅８㎜平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	赤橙
243	III－4	外反平縁	単頭突起			幅10㎜平行沈線文		砂、黒色鉱物	灰褐
244	III－4	外反平縁				幅６㎜平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	灰褐
245	III－4	外反平縁				幅７㎜平行沈線文		砂、黒色鉱物	灰褐
246	III－1					櫛歯文	波状文（多段型）	礫・砂、黒色鉱物	暗褐
247	III－1					櫛歯文	波状文（交互型）	礫・砂、黒色鉱物	黄橙
248	III－1					櫛歯文、径８㎜円形竹管文	波状文（交互型）	礫・砂、黒色鉱物	暗褐
249	III－1					櫛歯文、径７㎜円形竹管文	波状文（多段型）	礫・砂、黒色鉱物	暗褐
250	III－4					幅４㎜平行沈線文	木葉文	砂	灰褐

	分類	口縁	口唇加工	底	地文	文様要素	文様	胎土	色調
251	III－4				RL	幅3㎜平行沈線文	入組木葉文	礫・砂、黒色鉱物	赤橙
252	III－4				LR	幅5㎜平行沈線文		礫・砂、黒・白色鉱物	
253	III－4					幅7㎜平行沈線文、径11㎜円形竹管文	大波状文	砂、赤・黒色鉱物	黄橙
254	III－4					幅7㎜平行沈線文	木葉文	礫・砂、黒色鉱物	灰褐
255	III－4					幅8㎜平行沈線文	横位弧線文（向弧型）	礫・砂、黒色鉱物	黄橙
256	III－4					幅8㎜平行沈線文	木葉文	礫・砂、黒色鉱物	橙
257	III－4					幅9㎜平行沈線文、幅9㎜爪形文		砂、黒色鉱物	黄橙
258	III－4					幅5㎜平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	黄橙
259	III－4					幅8㎜平行沈線文	横位弧線文（向弧型）	礫・砂、黒・赤色鉱物	橙
260	III－4					幅8㎜平行沈線文	横位弧線文（向弧型）	礫・砂、黒色鉱物	暗褐
261	III－4					幅8㎜平行沈線文、幅8㎜爪形文	横位弧線文（背弧型）	礫・砂、黒・赤色鉱物	褐
262	III－4					幅8㎜平行沈線文	横位弧線文（背弧型）	礫・砂、黒色鉱物	赤橙
263	III－4					幅6㎜平行沈線文	横位弧線文（背弧型）	礫・砂、黒色鉱物	褐
264	III－4				LR	幅11㎜平行沈線文	横位弧線文（背弧型）	礫・砂、黒・白色鉱物	橙
265	III－4					幅7㎜平行沈線文	横位弧線文（背弧型）	礫・砂、黒色鉱物	褐
266	III－4					幅8㎜平行沈線文	横位弧線文（背弧型）	礫・砂、黒色鉱物	赤褐
267	III－4					幅9㎜平行沈線文	渦巻文	砂、黒色鉱物	黄橙
268	III－4					幅8㎜平行沈線文	菱形区画小渦巻文	礫・砂、黒色鉱物	赤橙
269	III－4				L	幅7㎜平行沈線文、径8㎜円形竹管文	山形文	礫・砂、黒色鉱物	灰褐
270	III－4					幅9㎜平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	黄橙
271	III－4				LR	幅6㎜平行沈線文、幅6㎜爪形文	格子目文	砂	黒褐
272	III－4					幅5㎜平行沈線文、幅10㎜爪形文	格子目文	礫・砂、黒・白色鉱物	黄橙
273	III－4				RL	幅7㎜平行沈線文	格子目文	礫・砂、黒・赤色鉱物	黄橙
274	III－4				RL	幅5㎜平行沈線文	格子目文	礫・砂、黒色鉱物	暗褐
275	III－4					幅6㎜平行沈線文	格子目文	礫・砂、黒色鉱物	暗褐
276	III－4					幅7㎜平行沈線文、単沈線	格子目文	礫・砂、黒色鉱物	灰褐
277	III－4					幅5㎜平行沈線文	格子目文	礫・砂、黒色鉱物	黄橙
278	III－4					幅7㎜平行沈線文、爪形文	格子目文	礫・砂、黒色鉱物	赤橙
279	III－4					幅11㎜平行沈線文	横線文	礫・砂、黒色鉱物	赤褐
280	III－4				RL＋L	幅7㎜平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	暗褐
281	III－4					幅11㎜平行沈線文	横線文	礫・砂、黒色鉱物	赤褐
282	III－4				RL	幅9㎜平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	黄褐
283	III－4				RL	幅5㎜平行沈線文		礫・砂、黒・赤色鉱物	黄橙
284	III－4				RL	幅6㎜平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	暗褐
285	III－4				RL	単沈線		礫・砂、黒色鉱物	赤褐
286	III－4				RL	平行沈線文		礫・砂、黒・赤色鉱物	黄橙
287	III－4				RL	幅8㎜平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	灰褐
288	III－4				RL	幅10㎜平行沈線文		砂、赤色鉱物	灰褐
289	III－4				LR・RL	幅7㎜平行沈線文		礫・砂、黒・白色鉱物	赤橙
290	III－4				RL	幅5㎜平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	灰褐
291	III－4				RL	幅4㎜平行沈線文		礫・砂	赤橙
292	III－6	外反平縁	縦刻み		RL			礫・砂、黒色鉱物	赤褐
239	III－6	外反平縁			RL			礫・砂、黒色鉱物	灰褐
294	III－6	弱外反平縁			RL			砂、黒色鉱物	黄橙
295	III－6	外反平縁	縦刻み		LR			礫・砂、黒色鉱物	黄橙
296	III－3	弱内湾A平縁	縦刻み		RL	厚1㎜浮線文		礫・砂、黒色鉱物	赤褐
297	III－6				RL			礫・砂	赤橙
298	III－6				RL			礫・砂、黒・白色鉱物	黄橙
299	III－6				RL			礫・砂、黒色鉱物	赤褐
300	III－6				L			礫・砂、黒色鉱物	褐
301	III－6				RL			礫・砂、黒色鉱物	橙
302	III－6				RL			礫・砂、黒色鉱物	黄橙
303	III－6				RL			礫・砂、黒色鉱物	褐
304	III－6				RL			礫・砂	赤橙
305	III－6				RL			礫・砂	赤橙

	分類	口縁	口唇加工	底	地文	文様要素	文様	胎土	色調
306	III—6				RL			礫・砂、黒色鉱物	赤褐
307	III—6				RL			礫・砂、赤色鉱物	黄橙
308	III—6				RL			礫・砂、黒色鉱物	赤橙
309	III—6				RL			礫・砂、黒・赤色鉱物	赤橙
310	III—6				RL			礫・砂	赤橙
311	III—6				RL			礫・砂、黒色鉱物	赤橙
312	III—6				RL			礫・砂、黒・赤色鉱物	暗褐
313	III—6				RL			礫・砂、黒・赤色鉱物	黄橙
314	III—6				RL			礫・砂、黒・赤色鉱物	黄橙
315	III—6				RL			礫・砂、白色鉱物	橙
316	III—6				RL			砂、赤色鉱物	黄橙
317	III—6				RL			礫・砂、黒色鉱物	赤褐
318	III—6				RL			礫・砂、黒・赤色鉱物	灰褐
319	III—6				RL			砂、黒色鉱物	灰褐
320	III—6				RL			礫・砂、黒色鉱物	黄橙
321	III—6				RL			礫・砂、黒色鉱物	黄橙
322	III—6				RL			礫・砂、黒色鉱物	赤褐
323	III—6				RL			礫・砂、黒色鉱物	赤橙
324	III—6				RL			礫・砂、黒色鉱物	黄橙
325	III—6				RL			礫・砂、黒色鉱物	橙
326	III—6				RL			礫・砂、黒・赤色鉱物	灰褐
327	III—6				RL			礫・砂、黒・白色鉱物	赤橙
328	III—6				RL			礫・砂、黒・白色鉱物	赤橙
329	III—6				RL			礫・砂、赤色鉱物	赤褐
330	III—6				RL			砂、黒色鉱物	黄橙
331	III—6				RL			礫・砂、黒色鉱物	褐
332	III—6				RL			礫・砂、黒・赤色鉱物	黄橙
333	III—6				RL			礫・砂、赤色鉱物	赤橙
334	III—6				RL			礫・砂、黒色鉱物	黄橙
335	III—6				RL			礫・砂、黒色鉱物	赤褐
336	II					列点文		繊維、砂	黄褐
337	III—6				RL			礫・砂、黒色鉱物	黄橙
338	III—6				RL			礫・砂、黒色鉱物	黄橙
339	III—6				RL			礫・砂、黒・白色鉱物	赤橙
340	III—6				LR			礫・砂、黒・赤色鉱物	赤橙
341	III—6				RL			礫・砂、黒・赤色鉱物	黄橙
342	III—6				RL			礫・砂	
343	III—6				RL			礫・砂、黒色鉱物	灰褐
344	III—6				RL			礫・砂、黒色鉱物	褐
345	III—6				RL			礫・砂、黒色鉱物	灰褐
346	III—6				RL			礫・砂、黒色鉱物	黄橙
347	III—6				RL			礫・砂、黒色鉱物	黄橙
348	III—6				LR			砂	黄橙
349	III—6				LR			礫・砂、黒色鉱物	赤橙
350	III—6				LR			礫・砂、黒色鉱物	赤褐
351	III—6				LR			砂、黒・白色鉱物	橙
352	III—6				LR			礫・砂、黒・白色鉱物	黄褐
353	III—6				LR・RL			礫・砂、黒色鉱物	黄橙
354	III—6				LR・RL			礫・砂、黒・白色鉱物	赤橙
355	III—6				LR・RL			礫・砂、黒色鉱物	灰褐
356	III—6				LR・RL			礫・砂、黒色鉱物	暗褐
357	III—6				LR・RL			礫・砂、黒色鉱物	褐
358	III—6				LR・RL			礫・砂、黒・白色鉱物	赤橙

	分類	口　縁	口唇加工	底	地文	文　様　要　素	文　様	胎　土	色調
359	III－6				LR・RL			礫・砂、黒・白色鉱物	赤橙
360	III－6				LR・RL			礫・砂、白・黒色鉱物	灰褐
361	III－6				LR・RL			礫・砂、黒色鉱物	黄橙
362	III－6				LR・RL			礫・砂、黒色鉱物	暗赤褐
363	III－6			3	RL			礫・砂、黒色鉱物	橙
364	III－6			2	RL			礫・砂、黒色鉱物	灰褐
365	III－6			3	RL			礫・砂、黒色鉱物	赤褐
366	III－6			3	L			礫・砂、黒色鉱物	黄橙
367	III－6			2	RL			白色鉱物	黄褐
368	III－6			2	RL			礫・砂、黒色鉱物	黄橙
369	III－6			2	RL			礫・砂、黒色鉱物	黄橙
370	III－6			2	RL			礫・砂、黒色鉱物	赤橙
371	III－6			2	RL			砂、黒・白色鉱物	赤橙
372	III－6			1	RL			砂、黒・赤色鉱物	黄橙
373	III－6			2	RL			礫・砂、黒・赤色鉱物	赤橙
374	III－6			2	RL			礫・砂、黒色鉱物	黄橙
375	III－6			1	LR			礫・砂、黒色鉱物	赤褐
376	III－6			1	LR			礫・砂、黒・白色鉱物	赤橙
377	III－6			2	LR			礫・砂、黒色鉱物	赤橙
378	III－6			1	LR			礫・砂	赤橙
379	III－6			3	LR			礫・砂、黒色鉱物	橙
380	III－6			2	LR			礫・砂、赤・白色鉱物	黄橙
381	III－6			2	LR・RL			礫・砂、黒色鉱物	黄橙
382	III－7			1				礫・砂、黒色鉱物	黄橙
383	III－7			2				礫・砂、黒色鉱物	黄橙
384	III－8	内湾				厚1㎜隆帯（羽状太刻み付）孔		砂	赤橙
385	III－8				RL	幅6㎜平行沈線文	分離木葉文	礫・砂、黒・赤色鉱物	橙
386	III－8				LR	幅5㎜平行沈線文、厚2㎜隆帯	木葉文	砂	橙
387	III－8					厚2㎜隆帯(右傾太刻み付)、幅5㎜平行沈線文	木葉文	砂、黒色鉱物	黄褐
388	IV				貝	幅7㎜平行沈線文		砂、白色鉱物	赤橙

5号住居跡出土土器

	分類	口　縁	口唇加工	底	地文	文　様　要　素	文　様	胎　土	色調
1	III－2	弱外反平縁	鰭状突起		RL	幅7㎜爪形文	渦巻文	礫・砂、黒色鉱物	黒褐
2	III－8					幅7㎜爪形文	入組木葉文	礫・砂、白色鉱物	褐
3	III－8							砂	橙
4	III－6	外反波状縁	斜刻み	2	RL			礫・砂	黒褐
5	III－8	内湾			RL	厚2㎜隆帯、幅7㎜平行沈線文、孔	入組木葉文	礫・砂、白色鉱物	赤橙
6	III－8					厚5㎜隆帯		礫・砂	黄橙
7	III－2	弱外反平縁			RL・LR	幅9㎜爪形文		礫・砂、黒色鉱物	灰褐
8	III－2	外反平縁				幅10㎜爪形文		礫・砂、黒・白色鉱物	黄橙
9	III－2	外反平縁				幅7㎜爪形文		砂、黒色鉱物	灰褐
10	III－2	弱外反平縁	爪形文			幅7㎜爪形文		礫・砂、赤色鉱物	褐
11	III－2	外反平縁				幅7㎜爪形文		砂	灰褐
12	III－2					幅8㎜爪形文、円形竹管文	蕨手文	礫・砂、黒・赤色鉱物	赤橙
13	III－2					幅8㎜爪形文	蕨手文（渦巻文）	砂、黒色鉱物	灰褐
14	III－2					幅12㎜爪形文		礫・砂、黒・赤色鉱物	赤橙
15	III－2					幅8㎜爪形文（羽状太刻み付）	蕨手文	礫・砂、黒色鉱物	赤橙
16	III－2				RL	幅6㎜爪形文		礫・砂、赤色鉱物	橙
17	III－2					幅9㎜爪形文（右傾太刻み付）		礫・砂、黒・赤色鉱物	赤橙

	分類	口　縁	口唇加工	底	地文	文　様　要　素	文　様	胎　土	色調
18	III－2					幅８㎜爪形文	蕨手文	礫・砂、黒色鉱物	黒褐
19	III－2					幅11㎜爪形文		礫・砂、黒・赤色鉱物	赤橙
20	III－2				L	幅10㎜爪形文（右傾太刻み付）		礫・砂、黒・白色鉱物	褐
21	III－2					幅７㎜爪形文		礫・砂、黒色鉱物	赤橙
22	III－2					幅12㎜爪形文		礫・砂、黒色鉱物	橙
23	III－2					幅８㎜爪形文		礫・砂、赤色鉱物	黄橙
24	III－2					幅９㎜爪形文（左傾太刻み付）		礫・砂、赤色鉱物	橙
25	III－2					幅８㎜爪形文（羽状太刻み付）		礫・砂、赤・黒色鉱物	赤橙
26	III－2					幅８㎜爪形文（羽状太刻み付）		礫・砂、黒・赤・白色鉱物	赤橙
27	III－3	弱内湾Ａ平縁	獣面突起			厚1.5㎜浮線文（左傾太刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	橙
28	III－3	弱外反平縁				厚３㎜浮線文（羽状太刻み付）	横線文	砂・礫、黒色鉱物	橙
29	III－3					厚２㎜浮線文（羽状太刻み付）	π字蕨手文	礫・砂、黒・白色鉱物	赤褐
30	III－3	弱内湾Ａ平縁	縦刻み		RL	厚２㎜浮線文（右傾太刻み付）	枠状文	砂、黒色鉱物	灰褐
31	III－3	弱内湾Ａ平縁	単頭突起、縦刻み		RL	厚２㎜浮線文（右傾太刻み付）	横線文	礫・砂	黒褐
32	III－3					厚１㎜浮線文（羽状太刻み付）		砂、赤・黒色鉱物	橙
33	III－3				RL	厚１㎜浮線文（羽状太刻み付）		砂、黒色鉱物	橙
34	III－4	外反平縁				幅５㎜平行沈線文	菱形文	礫・砂	赤橙
35	III－4	弱外反平縁				幅７㎜平行沈線文		礫・砂、黒・赤色鉱物	黄橙
36	III－4	外反平縁	双頭突起			幅５㎜平行沈線文	菱形文	礫・砂、赤色鉱物	赤褐
37	III－4	外反波状				幅14㎜平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	赤橙
38	III－4					幅７㎜平行沈線文		礫・砂	黄橙
39	III－4	外反平縁			RL	幅９㎜平行沈線文		砂	灰褐
40	III－4				LR	幅８㎜平行沈線文	鋸歯状文	礫・砂、黒色鉱物	暗褐
41	III－4				RL	幅７㎜平行沈線文		礫・砂	褐
42	III－4					幅７㎜平行沈線文		礫・砂、白色鉱物	暗褐
43	III－4					幅５㎜平行沈線文		礫・砂、白色鉱物	黄橙
44	III－4					幅８㎜平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	褐
45	III－4				LR	幅８㎜平行沈線文	菱形文	礫・砂、黒色鉱物	橙
46	III－4					幅８㎜平行沈線文、径７㎜円形竹管文	格子目文	砂、黒色鉱物	黄褐
47	III－4				RL	幅９㎜平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	赤橙
48	III－6				RL			礫・砂、黒・赤色鉱物	黄橙
49	III－6				L			礫・砂、黒色鉱物	橙
50	III－6				RL			砂、赤・黒	黄橙
51	III－6				RL			礫・砂、黒色鉱物	橙
52	III－6				RL・LR			礫・砂、白・黒色鉱物	黄橙
53	III－6				RL			礫・砂、黒・赤色鉱物	橙
54	III－6				RL			礫・砂、白・黒色鉱物	橙
55	III－6				L			礫・砂、白・黒色鉱物	橙
56	III－6				RL・LR			礫・砂、黒色鉱物	黒褐
57	III－6				LR			礫・砂、黒・白色鉱物	灰褐
58	III－6				L			礫・砂、赤・白色鉱物	赤橙
57	III－6			2	RL			礫・砂、黒色鉱物	赤橙
60	III－7			2				礫・砂、黒・白色鉱物	黄橙
61	III－7			1				礫・砂、白色鉱物	橙
62	III－6			1	LR			礫・砂	橙
63	III－6			2	RL			礫・砂	黄橙
64	III－8				RL	厚1.5㎜隆帯、平行沈線文	入組木葉文	礫・砂	赤橙
65	IV					幅10㎜変形爪形文		砂	橙
66	IV				貝	幅12㎜変形爪形文		砂	橙

6号住居跡出土土器

	分類	口縁	口唇加工	底	地文	文様要素	文様	胎土	色調
1	III－3			4	RL	厚1㎜浮線文		礫・砂、黒・白色鉱物	褐
2	III－6			1	RL			礫・砂、黒色鉱物	橙
3	III－7	外反		1				礫・砂、黒色鉱物	赤褐
4	III－4	外反平縁				幅7㎜爪形文、幅7㎜平行沈線文	菱形文	礫・砂、黒色鉱物	黄橙
5	III－2					幅8㎜爪形文		礫・砂、黒・白・赤色鉱物	黄橙
6	III－2					幅14㎜爪形文	横位弧線文（向弧型）	礫・砂、黒・赤色鉱物	黄橙
7	III－2					幅7㎜爪形文（左傾太刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	黄橙
8	III－3		獣面突起					礫・砂、黒色鉱物	黄橙
9	III－3	内折B波状	瘤状突起			厚0.5㎜浮線文（羽状細刻み付）	風車状渦巻文	礫・砂、黒・赤色鉱物	暗褐
10	III－3				LR	厚1.5㎜浮線文（ハ字細刻み付）		礫・砂、黒・白色鉱物	
11	III－3				RL・LR	厚1.5㎜浮線文（LR付）		礫・砂、黒・赤色鉱物	橙
12	III－3				RL	厚1㎜浮線文（RL付）		砂	黄橙
13	III－3				RL・LR	厚1.5㎜浮線文(羽状、ハ字太刻み付)		礫・砂、黒色鉱物	灰褐
14	III－3				R	厚2㎜浮線文（羽状、ハ字太刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	赤橙
15	III－3			2	LR	厚1.5㎜浮線文（RL付）		礫・砂、赤色鉱物	橙
16	III－3			2		厚1㎜浮線文（羽状太刻み付）		砂、黒色鉱物	黄橙
17	III－3				RL	厚1.5㎜浮線文（RL付）		礫・砂、黒色鉱物	橙
18	III－4	弱内湾A平縁	単頭突起、斜刻み		L	幅8㎜平行沈線文		礫・砂、黒・赤・白色鉱物	褐
19	III－4					幅9㎜平行沈線文、径12㎜円形竹管文	波状文（交互型）	礫・砂、黒色鉱物	灰褐
20	III－4				LR	幅9㎜平行沈線文	波状文	礫・砂、黒・赤色鉱物	橙
21	III－4					幅6㎜平行沈線文	菱形文	礫・砂	赤褐
22	III－4				LR	幅10㎜平行沈線文	鋸歯状文	礫・砂、黒・赤色鉱物	褐
23	III－4					幅7㎜平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	黄橙
24	III－6				RL			砂、黒・赤色鉱物	黄橙
25	III－6				RL			砂、黒色鉱物	黄橙
26	III－6				RL・LR			礫・砂、黒・赤色鉱物	黄橙
27	III－6				RL・LR			礫・砂、黒・赤・白色鉱物	赤橙
28	III－7	外反平縁						砂、黒色鉱物	黄橙
29	III－8					隆帯		砂、黒・赤色鉱物	赤橙
30	IV					幅10㎜変形爪形文、幅4㎜平行沈線文	矢羽根状文	礫・砂、黒色鉱物	橙
31	IV					刺突文		砂、黒色鉱物	褐

7号住居跡出土土器

	分類	口縁	口唇加工	底	地文	文様要素	文様	胎土	色調
1	III－5	内折B波状			LR・RL	幅4㎜集合沈線文	風車状渦巻文	礫・砂、黒色鉱物	赤褐
2	III－5				RL	幅3㎜集合沈線文	菱形区画つ字文	礫・砂、黒・白色鉱物	黒褐
3	III－5	内折B波状			LR	幅4㎜集合沈線文、列点文	風車状渦巻文、短渦巻文	礫・砂、黒色鉱物	赤褐
4	III－8	外反				厚1.5㎜隆帯（右傾太刻み付）、孔		砂、黒色鉱物	赤橙
5	III－7			3				礫・砂、黒色鉱物	灰褐
6	III－8							礫・砂	黄橙
7	II				LR・RL			繊維、礫・砂、黒色鉱物	黄褐
8	III－2	弱外反平縁	鰭状突起			幅8㎜爪形文		礫・砂、黒色鉱物	黄橙
9	III－2	弱外反平縁				幅14㎜爪形文		礫・砂、黒色鉱物	黄橙
10	III－2	外反平縁				幅7㎜爪形文		礫・砂、黒・赤色鉱物	黄褐
11	III－2					幅7㎜爪形文	横位弧線文（背弧型）	礫・砂	赤橙
12	III－2					幅7㎜爪形文（右傾太刻み付）		砂、黒色鉱物	黄橙

	分類	口　縁	口唇加工	底	地文	文　様　要　素	文　様	胎　土	色調
13	III－3	内湾平縁	波状隆線		RL	厚１㎜浮線文（羽状太刻み付）		礫・砂、黒・白色鉱物	橙
14	III－3					厚0.5㎜浮線文（羽状細刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	灰褐
15	III－3	弱外反波状	眼鏡隆線			厚0.5㎜浮線文（羽状太刻み付）		砂・黒色鉱物	赤橙
16	III－3	内折Ｂ波状				厚0.5㎜浮線文（羽状細刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	黄橙
17	III－3					厚２㎜浮線文（RL付）		砂、黒色鉱物	灰褐
18	III－3				RL	厚1.5㎜浮線文（左傾太刻み付）		砂	黒褐
19	III－3				RL	厚２㎜浮線文（羽状太刻み付）		砂、黒色鉱物	赤橙
20	III－3					厚２㎜浮線文（羽状太刻み付）	多重渦巻文	礫・砂、黒色鉱物	橙
21	III－3				RL	厚0.5㎜浮線文（羽状太刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	赤橙
22	III－3				RL	厚１㎜浮線文（羽状太刻み付）		砂、黒色鉱物	黄橙
23	III－3				RL	厚２㎜浮線文（羽状太刻み付）		礫・砂	赤橙
24	III－3				RL	厚0.5㎜浮線文（羽状太刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	赤橙
25	III－3					厚0.5㎜浮線文（羽状細刻み付）		礫・砂、黒・赤色鉱物	暗褐
26	III－3				RL	厚0.5㎜浮線文（羽状細刻み付）		礫・砂、赤色鉱物	黄橙
27	III－3				RL	厚1.5㎜浮線文(羽状、ハ字太刻み付)		砂、黒色鉱物	褐
28	III－3				RL	厚1.5㎜浮線文（羽状太刻み付）		砂、黒色鉱物	黄橙
29	III－4	内折Ｂ波状				幅６㎜平行沈線文	縦位背弧線文	礫・砂、黒・白色鉱物	赤橙
30	III－4	内折Ｂ波状				幅６㎜平行沈線文	横線文	礫・砂、黒色鉱物	褐
31	III－4	内折Ｂ波状				幅５㎜平行沈線文	横線文	礫・砂、黒色鉱物	赤橙
32	III－4					幅９㎜平行沈線文		砂	赤橙
33	III－5					幅３㎜集合沈線文		礫・砂、黒色鉱物	赤褐
34	III－5					幅５㎜集合沈線文		礫・砂、黒色鉱物	赤橙
35	III－4					幅４㎜平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	赤橙
36	III－4					幅４㎜平行沈線文		砂、黒色鉱物	赤橙
37	III－4					幅４㎜平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	赤橙
38	III－4					幅９㎜平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	赤橙
39	III－4					幅10㎜平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	褐
40	III－4				LR	幅10㎜平行沈線文		礫・砂、黒・白色鉱物	赤橙
41	III－4					幅７㎜平行沈線文		砂	黄橙
42	III－4					幅３㎜平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	灰褐
43	III－4				LR	幅４㎜平行沈線文、径８㎜円形竹管文	格子目文	礫・砂、黒色鉱物	赤橙
44	III－4				RL	幅10㎜平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	黄橙
45	III－4					幅４㎜平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	赤褐
46	III－6	外反平縁			L			礫・砂	赤褐
47	III－6				L			礫・砂	赤褐
48	III－6				L			礫・砂、黒・白色鉱物	赤橙
49	III－6				L			礫・砂、黒色鉱物	赤橙
50	III－6				LR・RL			礫・砂、赤・白色鉱物	橙
51	III－6				LR・RL			礫・砂、赤色鉱物	橙
52	III－6				LR・RL			礫・砂、黒色鉱物	黄橙
53	III－6			4	RL			砂、黒色鉱物	赤橙
54	III－6			3	RL			礫・砂、黒色鉱物	橙
55	III－8							礫・砂	赤橙
56	III－8	内湾				厚0.5㎜隆帯		砂、黒色鉱物	橙
57	IV					幅10㎜変形爪形文		砂	黄橙
58	IV					幅10㎜変形爪形文		砂	黄橙
59	IV					幅11㎜変形爪形文		礫・砂、白色鉱物	黄橙
60	IV					幅10㎜変形爪形文、幅４㎜平行沈線文	矢羽根状文	砂、白色鉱物	赤橙
61	IV					幅４㎜平行沈線文	矢羽根状文	砂、白色鉱物	赤橙
62	IV					幅８㎜爪形文、幅４㎜平行沈線文	横線文	礫・砂、黒色鉱物	赤橙

8号住居跡出土土器

	分類	口縁	口唇加工	底	地文	文様要素	文様	胎土	色調
1	III—4	内折A波状	瘤状突起			幅5㎜平行沈線文	鋸歯状文	礫・砂、黒色鉱物	暗褐
2	III—5					幅4㎜集合沈線文	風車状渦巻文	礫・砂、黒色鉱物	褐
3	III—4			3	RL	幅3㎜平行沈線文		礫・砂、白・黒色鉱物	褐
4	III—5					幅3㎜集合沈線文	鋸歯状文	礫・砂、白・黒・赤色鉱物	橙
5	III—5			4	LR	幅4㎜集合沈線文		礫・砂、白色鉱物	赤褐
6	III—4			4		幅4㎜平行沈線文		礫、白・黒・赤色鉱物	赤褐
7	III—5			3		幅3㎜集合沈線文	縦位矢羽根状文	礫・砂、黒色鉱物	褐
8	II	外反			RL ループ			繊維、砂、黒色鉱物	黄橙
9	II				ループ	幅6㎜平行沈線文		繊維、礫・砂、白・黒色鉱物	褐
10	III—2	外反平縁				幅9㎜爪形文		砂、黒色鉱物	黄橙
11	III—2					幅7㎜爪形文		砂、黒・赤色鉱物	褐
12	III—2					幅12㎜爪形文		砂、黒・赤色鉱物	黄橙
13	III—3	内湾平縁			RL	厚1㎜浮線文（羽状細刻み付）		礫・砂、黒・赤色鉱物	黄橙
14	III—3	弱内湾A平縁	縦刻み			厚1.5㎜浮線文（羽状細刻み付）		砂、白・黒色鉱物	褐
15	III—3	外反平縁	斜刻み		RL	厚1.5㎜浮線文（右傾太刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	黄橙
16	III—3				RL	厚1.5㎜浮線文（羽状太刻み付）		砂、黒・赤色鉱物	黄橙
17	III—3				RL	厚1㎜浮線文（RL付）		礫・砂	黄橙
18	III—3					厚0.5㎜浮線文（羽状細刻み付）		礫・砂、黒・赤色鉱物	暗褐
19	III—3				RL	厚0.5㎜浮線文（RL付）		礫・砂、黒・赤色鉱物	黄橙
20	III—3				RL	厚1㎜浮線文（右傾太刻み付）	枠状文	礫・砂、白・黒色鉱物	黄橙
21	III—4	弱内湾A波状	双頭突起			幅5㎜平行沈線文		砂、黒色鉱物	褐
22	III—4	弱内湾C波状	瘤状突起			幅4㎜平行沈線文	短渦巻文	砂、黒色鉱物	赤褐
23	III—4	外反平縁				幅6㎜平行沈線文		砂、黒色鉱物	黄橙
24	III—4	外反波状				幅6㎜平行沈線文		砂、黒色鉱物	褐
25	III—4					幅4㎜平行沈線文	縦位背弧線文	礫・砂、黒・赤色鉱物	赤褐
26	III—5					幅4㎜集合沈線文	菱形区画つ字文	礫・砂、黒・赤色鉱物	暗赤褐
27	III—4					幅4㎜平行沈線文		砂、黒・赤色鉱物	赤褐
28	III—5					幅5㎜集合沈線文	菱形区画つ字文	砂、白・黒・赤色鉱物	赤褐
29	III—4					幅4㎜平行沈線文	菱形区画短渦巻文	砂、白・黒・赤色鉱物	赤褐
30	III—4					幅3㎜平行沈線文	菱形区画短渦巻文	砂、白・黒・赤色鉱物	褐
31	III—4					幅6㎜平行沈線文		礫・砂、白・黒色鉱物	赤橙
32	III—4					幅4㎜平行沈線文		礫・砂、黒・赤色鉱物	赤褐
33	III—4					幅3㎜平行沈線文		礫・砂、白・黒色鉱物	褐
34	III—4				RL	幅5㎜平行沈線文		砂、白・黒色鉱物	赤褐
35	IV					幅3㎜爪形文、幅3㎜平行沈線文		礫・砂、白・黒・赤色鉱物	黄橙
36	III—4					幅4㎜平行沈線文		礫・砂、黒・白・赤色鉱物	赤褐
37	III—4					幅5㎜平行沈線文	菱形文	礫・砂、黒色鉱物	赤橙
38	III—4					幅4㎜平行沈線文	格子目文	礫・砂、黒・赤色鉱物	褐
39	III—4				LR	単沈線	格子目文	砂、黒色鉱物	灰褐
40	III—5					幅3㎜集合沈線文		砂、黒色鉱物	褐
41	III—4				L	幅5㎜平行沈線文		砂、黒・白・赤色鉱物	褐
42	III—4				L	幅5㎜平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	褐
43	III—4				R	幅5㎜平行沈線文		砂、白・黒色鉱物	赤褐
44	III—4					幅4㎜平行沈線文		砂、黒・赤色鉱物	赤褐
45	III—4					幅5㎜平行沈線文		砂、白・黒色鉱物	赤褐
46	III—4					幅4㎜平行沈線文		砂、白・黒・赤色鉱物	赤褐
47	III—4				R	幅5㎜平行沈線文		砂，白・黒色鉱物	赤橙
48	III—4				R	幅5㎜平行沈線文		砂、黒・赤色鉱物	赤橙
49	III—6				L			礫・砂、黒・赤色鉱物	赤褐
50	III—4					幅4㎜平行沈線文		礫・砂、白・黒色鉱物	赤褐
51	III—6				RL			礫・砂、黒・赤色鉱物	褐
52	III—6				RL			礫・砂、黒色鉱物	赤橙
53	III—6				RL			礫・砂、白・黒色鉱物	赤橙
54	III—6				RL			礫・砂、黒・赤色鉱物	橙
55	III—6				RL			砂、白・黒色鉱物	赤褐
56	III—4				RL	幅3㎜平行沈線文		砂、白・黒色鉱物	褐

	分類	口　縁	口唇加工	底	地文	文　様　要　素	文　様	胎　土	色調
57	III－6				RL			砂、黒・赤色鉱物	黄橙
58	III－6				RL			砂、黒・赤色鉱物	灰褐
59	III－6				LR・RL			砂、白・黒色鉱物	黄橙
60	III－7	外反平縁						礫・砂、黒・赤色鉱物	褐
61	III－7							砂	褐
62	III－7							礫・砂、黒色鉱物	赤褐
63	IV	外反	斜刻み			幅12㎜変形爪形文、横位刻み		砂、黒・赤色鉱物	黒褐
64	IV	外反	条線帯		貝	幅５㎜平行沈線文		砂、黒色鉱物	黄橙
65	IV					幅13㎜変形爪形文		礫・砂、黒・白色鉱物	褐

9号住居跡出土土器

	分類	口　縁	口唇加工	底	地文	文　様　要　素	文　様	胎　土	色調
1	III－3	内折A波状	円形貼付文		RL	厚0.5㎜浮線文(羽状、ハ字細刻み付)	向弧渦巻文	礫・砂	暗褐
2	III－3	内湾波状	縦刻み		RL	厚１㎜浮線文（羽状細刻み付）	多重渦巻文	礫・砂、黒色鉱物	褐
3	III－6			4	R			礫・砂、白・黒・赤色鉱物	赤褐
4	III－4				RL	幅６㎜平行沈線文	菱形区画つ字文	礫・砂、黒色鉱物	褐
5	III－8	内湾				孔		砂、黒色鉱物	赤褐
6	III－4			3	RL	幅４㎜平行沈線文	菱形区画つ字文	礫・砂	褐
7	II				LR			礫・砂、白・繊維	黒褐
8	III－2	外反平縁	縦隆線			幅５㎜爪形文（右傾太刻み付）		砂、白・黒色鉱物	黄褐
9	III－2	外反平縁				幅８㎜爪形文		砂、黒色鉱物	黄橙
10	III－2	外反平縁				幅６㎜爪形文（右傾太刻み付）		礫・砂、白・黒・赤色鉱物	褐
11	III－2	外反平縁	単頭突起			幅６㎜爪形文		砂、黒色鉱物	黒褐
12	III－2	弱外反平縁	波状隆線			幅９㎜爪形文（右傾太刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	赤褐
13	III－2					幅９㎜爪形文（左傾太刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	黄褐
14	III－2					幅10㎜爪形文（左傾太刻み付）		礫・砂、黒・赤色鉱物	黄褐
15	III－2					幅７㎜爪形文	渦巻文	礫・砂、白・黒色鉱物	黄橙
16	III－2					幅６㎜爪形文	蕨手文（渦巻型）	砂、黒色鉱物	灰褐
17	III－3	外反平縁	眼鏡隆線			厚３㎜浮線文（羽状太刻み付）		礫・砂、白・黒色鉱物	赤褐
18	III－3	弱内湾A波状	眼鏡隆線			厚0.5㎜浮線文（羽状細刻み付）	多重渦巻文	礫・砂、黒色鉱物	赤褐
19	III－3					厚２㎜浮線文		砂、黒・赤色鉱物	橙
20	III－3				RL	厚２㎜浮線文（右傾細刻み付）		砂、白・黒・赤色鉱物	暗褐
21	III－3				RL	厚2.5㎜浮線文（羽状太刻み付）		礫・砂、白・黒色鉱物	黄褐
22	III－3				LR	厚１㎜浮線文（羽状細刻み付）		砂、黒色鉱物	黄褐
23	III－3				RL	厚３㎜浮線文（羽状太刻み付）		砂、白・黒・赤色鉱物	褐
24	III－3					厚１㎜浮線文（羽状細刻み付）		砂、白・黒色鉱物	黄褐
25	III－3					厚0.5㎜浮線文（羽状細刻み付）		砂、黒色鉱物	灰褐
26	III－3					厚0.5㎜浮線文(羽状細刻み、列点付)		礫・砂、黒色鉱物	赤橙
27	III－4	外反平縁	双頭突起			幅10㎜平行沈線文		砂、白・黒色鉱物	赤褐
28	III－4	外反平縁	凹み			幅10㎜平行沈線文		砂、黒色鉱物	黄橙
29	III－4	外反平縁				幅８㎜平行沈線文(右傾細刻み付)		砂、白・黒・赤色鉱物	黒褐
30	III－4	外反波状	凹み			幅７㎜平行沈線文		砂、白・黒色鉱物	褐
31	III－4	外反波状				幅７㎜平行沈線文		礫・砂、赤色鉱物	灰褐
32	III－4	弱内湾A波状				幅６㎜平行沈線文	弧線区画縦位背弧線文	礫・砂、黒色鉱物	赤褐
33	III－4	外反波状				幅５㎜平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	褐
34	III－4	内湾波状				幅５㎜平行沈線文	横線文	砂、黒色鉱物	褐
35	III－4					幅５㎜平行沈線文	弧線区画縦位背弧線文	砂、黒色鉱物	褐
36	IV					幅５㎜平行沈線文、有節平行線文	菱形文	砂、黒色鉱物	褐
37	III－4					幅９㎜平行沈線文	菱形区画小渦巻文	礫・砂、黒色鉱物	赤橙
38	III－4					幅７㎜平行沈線文	菱形文	礫・砂、黒色鉱物	褐
39	III－4					幅５㎜平行沈線文		砂、黒色鉱物	黒褐
40	III－4				LR	幅８㎜平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	褐
41	III－4				RL	幅７㎜平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	赤褐
42	III－4				RL	幅６㎜平行沈線文		砂．黒色鉱物	赤褐
43	III－4				RL	幅４㎜平行沈線文		礫・砂、白・黒色鉱物	赤褐
44	III－4				LR	幅７㎜平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	褐

	分類	口縁	口唇加工	底	地文	文様要素	文様	胎土	色調
45	III－4				RL	幅7㎜平行沈線文		砂、黒・白色鉱物	褐
46	III－4				RL	幅4㎜平行沈線文		砂、白・黒・赤色鉱物	灰褐
47	III－4					幅6㎜平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	褐
48	III－4					幅5㎜平行沈線文		砂、黒色鉱物	赤橙
49	III－4				RL	幅6㎜平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	赤褐
50	III－4				RL	幅5㎜平行沈線文		砂、白・黒色鉱物	赤褐
51	III－4				RL	幅4㎜平行沈線文		砂、黒色鉱物	灰褐
52	III－4				RL	幅7㎜有節平行線文		礫・砂、白・黒色鉱物	黄橙
53	III－6				RL			礫・砂、黒色鉱物	橙
54	III－6				RL			礫・砂、白・黒・赤色鉱物	黄橙
55	III－6				RL			砂、白・黒・赤色鉱物	灰褐
56	III－6				L			砂、白・黒色鉱物	黄橙
57	III							礫・砂、黒・赤色鉱物	黒褐
58	III－6			2	RL			礫・砂、黒・赤色鉱物	赤褐
59	III－6			2	RL			礫・砂、黒・赤色鉱物	黄橙
60	III－6			3	L			礫・砂、黒色鉱物	赤褐
61	IV					幅15㎜変形爪形文、横位刻み		砂、白・黒・赤色鉱物	暗褐

10号住居跡出土土器

	分類	口縁	口唇加工	底	地文	文様要素	文様	胎土	色調
1	III－3	弱内湾A平縁	眼鏡隆線		LR	厚0.5㎜浮線文（羽状太刻み付）	π字蕨手文（渦巻型）	礫・砂、黒・白色鉱物	暗褐
2	III－3	内湾波状				厚0.5㎜浮線文（右傾太刻み付）	多重渦巻文	礫・砂、白色鉱物	灰褐
3	III－4	内湾波状			LR	幅4㎜平行沈線文	弧線区画縦位背弧線文	礫・砂、黒色鉱物	褐
4	III－4	内折A平縁				幅4㎜平行沈線文	風車状渦巻文	礫・砂、黒・白色鉱物	暗褐
5	III－4	弱内湾A平縁	渦巻突起			幅5㎜平行沈線文	鋸歯状文	礫・砂、黒色鉱物	赤褐
6	III－4			3	L	幅7㎜平行沈線文、単沈線	鋸歯状文	礫・砂、黒色鉱物	赤褐
7	III－4	外反平縁	単頭突起			幅4㎜平行沈線文	菱形区画つ字文	礫・砂、黒・赤色鉱物	黄橙
8	III－4			3		幅3㎜平行沈線文		礫・砂、黒・白色鉱物	黄橙
9	III－4	外反波状	三頭突起			幅4㎜平行沈線文	菱形文	礫・砂、黒・白色鉱物	黄橙
10	III－4	弱外反波状	双頭突起			幅4㎜平行沈線文	横線文	礫・砂、黒色鉱物	褐
11	III－4	外反波状	双頭突起		L	幅5㎜平行沈線文	弧線区画縦位背弧線文	礫・砂、黒色鉱物	褐
12	III－4	外反波状				幅6㎜平行沈線文	菱形文	礫・砂、黒色鉱物	赤褐
13	III－4					幅4㎜平行沈線文	菱形文	礫・砂、黒色鉱物	橙
14	III－4				LR	幅5㎜平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	赤褐
15	III－6				RL			礫・砂	褐
16	III－6			3	RL			礫・砂、黒色鉱物	橙
17	III－8					幅7㎜爪形文	木葉文	礫・砂、白・金色鉱物	黒褐
18	III－3			4		厚1.5㎜浮線文（左傾太刻み付）		砂、黒色鉱物	赤褐
19	III－3			4		厚1㎜浮線文（羽状細刻み付）		砂	褐
20	III－8	内湾				孔		礫・砂	赤橙
21	II	外反				列点文		繊維、砂	褐
22	III－2	弱外反波状			L	幅10㎜爪形文		砂、黒・赤色鉱物	赤橙
23	III－2	弱外反平縁	単頭突起		RL	幅6㎜爪形文		砂	赤褐
24	III－2	外反波状				幅10㎜爪形文（D字刺突付）		砂、黒色鉱物	黄橙
25	III－2	外反平縁				幅5㎜爪形文（右傾太刻み付）		砂、黒色鉱物	赤橙
26	III－2	外反波状				幅10㎜爪形文		砂、黒色鉱物	灰褐
27	III－2					幅8㎜爪形文		砂、黒色鉱物	黄橙
28	III－2					幅8㎜爪形文、径8㎜円形竹管文		砂	赤橙
29	III－2					幅8㎜爪形文（羽状太刻み付）		砂、黒色鉱物	黄橙
30	III－2					幅5㎜爪形文（羽状太刻み付）		砂	灰褐
31	III－3	外反平縁	縦刻み		RL・LR	厚1.5㎜浮線文	横線文	砂、黒色鉱物	橙
32	III－3	弱内湾A平縁	縦刻み			厚2㎜浮線文（羽状太刻み付）	横線文	砂、黒・赤色鉱物	褐
33	III－3	内湾平縁	眼鏡隆線			厚1.5㎜浮線文（羽状太刻み付）		砂、赤色鉱物	赤橙
34	III－3	弱外反平縁				厚1.5㎜浮線文（右傾太刻み付）		礫・砂	赤橙
35	III－3					厚0.5㎜浮線文（羽状細刻み付）	多重渦巻文	砂、黒色鉱物	黄橙
36	III－3	内湾波状				厚0.5㎜浮線文（右傾細刻み付）	多重渦巻文	砂、黒色鉱物	赤褐
37	III－3				RL	厚1㎜浮線文（左傾太刻み付）	多重渦巻文	砂、黒色鉱物	暗赤褐

	分類	口　縁	口唇加工	底	地文	文　様　要　素	文　様	胎　土	色調
38	III－3					厚0.5㎜浮線文（羽状細刻み付）	多重渦巻文	砂、黒色鉱物	褐
39	III－3					厚１㎜浮線文（右傾太刻み付）	多重渦巻文	砂、黒色鉱物	橙
40	III－3				LR	厚１㎜浮線文（LR付）		礫・砂	赤褐
41	III－3					厚１㎜浮線文（羽状太刻み付）		砂	赤橙
42	III－3					厚0.5㎜浮線文（左傾細刻み付）		砂、黒色鉱物	赤褐
43	III－3					厚１㎜浮線文（羽状太刻み付）		砂、黒色鉱物	暗褐
44	III－3					厚0.5㎜浮線文（羽状細刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	暗赤褐
45	III－3					厚1.5㎜浮線文（左傾細刻み付）		礫・砂	赤橙
46	III－3					厚１㎜浮線文（羽状、ハ字細刻み付）		砂、黒色鉱物	褐
47	III－3					厚0.5㎜浮線文（左傾細刻み付）		礫・砂、白・黒色鉱物	赤褐
48	III－3					厚0.5㎜浮線文（羽状細刻み付）		砂、黒色鉱物	黄褐
49	III－3					厚１㎜浮線文（羽状細刻み付）		砂、赤色鉱物	黄橙
50	III－3					厚１㎜浮線文（羽状、ハ字細刻み付）		砂、黒色鉱物	赤橙
51	III－3				RL	厚0.5㎜浮線文(羽状、ハ字細刻み付)		砂	暗褐
52	III－3				LR	厚２㎜浮線文（左傾太刻み付）		礫・砂、白・黒・赤色鉱物	赤橙
53	III－3				LR	厚0.5㎜浮線文（羽状細刻み付）		白・黒色鉱物	黄橙
54	III－3				LR	厚１㎜浮線文		砂、黒色鉱物	赤橙
55	III－3					厚0.5㎜浮線文（羽状細刻み付）		砂、黒色鉱物	黄橙
56	III－3					厚１㎜浮線文（羽状細刻み付）		礫・砂	橙
57	III－3				RL	厚0.5㎜浮線文（羽状細刻み付）		赤・黒色鉱物	暗褐
58	III－3				LR	厚0.5㎜浮線文（羽状細刻み付）		砂、黒色鉱物	黄橙
59	III－3				RL	厚1.5㎜浮線文（右傾太刻み付）		砂、白色鉱物	赤橙
60	III－3				RL	厚0.5㎜浮線文（羽状細刻み付）		砂、黒・赤色鉱物	黄橙
61	III－3					厚１㎜浮線文(羽状ハ字細刻み付)		礫・砂、黒色鉱物	灰褐
62	III－3				RL	厚1.5㎜浮線文（RL付）		砂、黒色鉱物	暗褐
63	III－3					厚0.5㎜浮線文（LR付）		砂、黒色鉱物	暗赤褐
64	III－3				RL	厚1.5㎜浮線文（羽状太刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	赤橙
65	III－3					厚0.5㎜浮線文（羽状細刻み付）		砂、黒色鉱物	黄橙
66	III－3				RL	厚１㎜浮線文（羽状細刻み付）		砂、黒色鉱物	赤褐
67	III－3			3	RL	厚0.5㎜浮線文（右傾細刻み付）		砂、黒色鉱物	橙
68	III－3			4	LR	厚1.5㎜浮線文（羽状細刻み付）		砂、黒色鉱物	赤橙
69	III－3			3		厚0.5㎜浮線文（羽状太刻み付）		砂、黒・赤色鉱物	赤橙
70	III		獣面突起					砂	赤橙
71	III－4	弱内湾A平縁	獣面突起、爪形文			幅５㎜平行沈線文		砂、黒色鉱物	赤橙
72	III－4	内湾平縁	渦巻突起			幅５㎜平行沈線文		砂、白・黒色鉱物	赤橙
73	III－4	内湾波状				幅５㎜平行沈線文		砂	黄橙
74	III－4	内湾波状			RL	幅４㎜平行沈線文		砂	黄褐
75	III－4	外反平縁	双頭突起			幅５㎜平行沈線文		砂、黒色鉱物	赤褐
76	III－4	外反平縁	三頭突起			幅５㎜平行沈線文		砂、黒色鉱物	赤褐
77	III－4	外反平縁	単頭突起			幅６㎜平行沈線文		砂、白色鉱物	赤褐
78	III－4	外反平縁	双頭突起			幅８㎜平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	褐
79	III－4	弱外反平縁	単頭突起			幅６㎜平行沈線文		砂、黒色鉱物	褐
80	III－4	外反平縁			RL	幅６㎜平行沈線文	格子目文	礫・砂、黒色鉱物	暗赤褐
81	III－4	外反平縁				幅６㎜平行沈線文	格子目文	砂、白色鉱物	暗褐
82	III－4	外反平縁				幅５㎜平行沈線文	鋸歯状文	砂、黒色鉱ぶ	赤褐
83	III－4	弱外反波状				幅５㎜平行沈線文		砂、黒色鉱物	暗赤褐
84	III－4	外反平縁				幅５㎜平行沈線文	菱形文	砂、黒色鉱物	灰褐
85	III－4	外反平縁				幅５㎜平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	褐
86	III－4	外反平縁				幅６㎜平行沈線文		砂	黄橙
87	III－4	外反波状			L	幅５㎜平行沈線文		砂、黒色鉱物	黄橙
88	III－4	外反平縁				幅６㎜平行沈線文		砂、黒・白色鉱物	褐
89	III－4	外反平縁			LR	幅５㎜平行沈線文		砂、黒・白色鉱物	黄橙
90	III－4	外反平縁				幅10㎜平行沈線文		砂	褐
91	III－4	外反波状				幅５㎜平行沈線文		砂、黒色鉱物	赤褐
92	III－4	外反波状				幅５㎜平行沈線文		砂、黒・白色鉱物	橙

	分類	口縁	口唇加工	底	地文	文様要素	文様	胎土	色調
93	III－4	外反平縁				幅6㎜平行沈線文		砂	灰褐
94	III－4	外反波状				幅5㎜平行沈線文		砂、黒・白色鉱物	赤褐
95	III－4	外反波状			L	幅6㎜平行沈線文		砂、黒色鉱物	橙
96	III－4	外反平縁				幅6㎜平行沈線文		砂	赤橙
97	III－4	外反平縁				幅7㎜平行沈線文		礫・砂	暗赤褐
98	III－4	外反波状				幅6㎜平行沈線文		砂、黒色鉱物	黄橙
99	III－4	外反波状				幅6㎜平行沈線文		砂、黒色鉱物	褐
100	III－4	外反平縁				幅5㎜平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	黄橙
101	III 4	弱外反波状				幅5㎜平行沈線文		砂、黒色鉱物	暗
102	III－4	弱外反波状				幅8㎜平行沈線文		砂、黒色鉱物	赤褐
103	III－4	外反波状				幅6㎜平行沈線文		礫・砂	黄褐
104	III－4	外反平縁				幅5㎜平行沈線文		黒色鉱物	黒褐
105	III－4					幅7㎜平行沈線文	区画線付木葉文	砂	赤橙
106	III－4				LR	幅5㎜平行沈線文		礫・砂	赤褐
107	III－4					幅9㎜平行沈線文	大波状文	砂、黒色鉱物	赤橙
108	III－4					幅4㎜平行沈線文	多重渦巻文	礫・砂、黒色鉱物	灰褐
109	III－4				L	幅5㎜平行沈線文	多重渦巻文	礫・砂	赤橙
110	III－4				RL	幅7㎜平行沈線文	渦巻文	砂、黒色鉱物	赤橙
111	III－4					幅7㎜平行沈線文	菱形文	砂	橙
112	III－4					幅7㎜平行沈線文		砂、黒色鉱物	赤橙
113	III－4				RL	幅6㎜平行沈線文		砂、黒色鉱物	赤橙
114	III－4					幅7㎜平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	灰褐
115	III－4					幅6㎜平行沈線文		砂	褐
116	III－4					幅6㎜平行沈線文	鋸歯状文	砂	黄橙
117	III－4					幅6㎜平行沈線文	鋸歯状文	砂、黒色鉱物	赤橙
118	III－4					幅5㎜平行沈線文	鋸歯状文	黒色鉱物	赤褐
119	III－4					幅5㎜平行沈線文	鋸歯状文	礫・砂	暗赤褐
120	III－4					幅6㎜平行沈線文	菱形文	礫・砂、黒色鉱物	赤褐
121	III－4				RL	幅5㎜平行沈線文		砂、黒色鉱物	赤褐
122	III－4					幅5㎜平行沈線文		砂、黒色鉱物	赤褐
123	III－4					幅6㎜平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	暗褐
124	III－4				LR	幅5㎜平行沈線文		礫	赤褐
125	III－4					幅5㎜平行沈線文	菱形文	砂、黒・白色鉱物	赤褐
126	III－4					幅6㎜平行沈線文		砂、黒色鉱物	赤橙
127	III－4					幅6㎜平行沈線文	鋸歯状文	礫・砂	赤褐
128	III－4					幅5㎜平行沈線文	菱形区画つ字文	礫・砂、黒色鉱物	灰褐
129	III－4					幅4㎜平行沈線文	菱形区画つ字文	砂、黒色鉱物	橙
130	III－4					幅9㎜平行沈線文		砂、黒色鉱物	橙
131	III－4					幅6㎜平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	赤褐
132	III－4					幅8㎜平行沈線文	菱形区画つ字文	砂	橙
133	III－4					幅6㎜平行沈線文	菱形区画つ字文	砂	暗赤褐
134	III－4					幅6㎜平行沈線文	菱形区画つ字文	砂	赤橙
135	III－4					幅5㎜平行沈線文	菱形区画つ字文	砂	暗褐
136	III－4				RL	幅6㎜平行沈線文	弧線区画縦位背弧線文	砂、黒色鉱物	赤橙
137	III－4					幅5㎜平行沈線文		砂、黒色鉱物	暗褐
138	III－4					幅5㎜平行沈線文	菱形文	砂、黒色鉱物	橙
139	III－4					幅5㎜平行沈線文	横位弧線文（背弧型）	砂、黒色鉱物	赤橙
140	III－4				RL	幅4㎜平行沈線文		礫・砂、赤色鉱物	橙
141	III－4					幅5㎜平行沈線文	弧線区画縦位背弧線文	礫・砂	橙
142	III－4					幅7㎜平行沈線文、径7㎜円形竹管文	格子目文	砂、黒色鉱物	暗褐
143	III－4				LR	幅6㎜平行沈線文		砂、黒色鉱物	暗赤褐
144	III－4				RL	幅5㎜平行沈線文		砂、黒色鉱物	黄橙
145	III－4				RL	幅6㎜平行沈線文		礫・砂、白色鉱物	暗褐
146	III－4					幅6㎜平行沈線文		砂、黒色鉱物	黄橙
147	III－4				RL	幅7㎜平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	黒褐
148	III－4					幅7㎜平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	赤褐
149	III－4					幅5㎜平行沈線文		礫・砂	暗赤褐
150	III－4					幅5㎜平行沈線文		礫・砂	暗褐

	分類	口縁	口唇加工	底	地文	文様要素	文様	胎土	色調
151	III－4				RL	幅4㎜平行沈線文		砂	灰褐
152	III－4				RL	幅5㎜平行沈線文		砂	暗褐
153	III－4				RL	幅3㎜平行沈線文		砂	橙
154	III－4					幅6㎜平行沈線文		砂、黒色鉱物	赤橙
155	III－4					幅7㎜平行沈線文		砂	黄橙
156	III－4					幅4㎜平行沈線文		砂、黒色鉱物	赤褐
157	III－4				RL	幅7㎜平行沈線文		礫・砂、黒・白色鉱物	暗褐
158	III－4					沈線文		砂、黒色鉱物	暗褐
159	III－6				L			砂、黒色鉱物	黄橙
160	III－6				RL			砂、黒色鉱物	黄橙
161	III－3				RL	厚1㎜浮線文		砂	橙
162	III－6				RL			砂、黒色鉱物	黄橙
163	III－6				RL			黒・白色鉱物	褐
164	III－6				RL			砂、黒色鉱物	褐
165	III－6				RL			黒色鉱物	赤橙
166	III－6				RL			砂、黒色鉱物	暗褐
167	III－6				RL			砂、黒色鉱物	黄橙
168	III－6				LR			砂、黒色鉱物	赤褐
169	III－6				RL	孔		砂、黒・白色鉱物	赤褐
170	III－6				RL			砂、黒・白色鉱物	赤褐
171	III－6				RL			砂、黒色鉱物	灰褐
172	III－6				RL			砂、黒色鉱物	橙
173	III－6				LR			砂、黒色鉱物	赤橙
174	III－6				LR			礫・砂、黒色鉱物	黄橙
175	III－6				LR			砂、黒色鉱物	黄橙
176	III－6				LR			砂、黒色鉱物	赤褐
177	III－6				LR			礫・砂、黒色鉱物	黄橙
178	III－6				LR			礫・砂、黒色鉱物	赤褐
179	III－6				LR			礫・砂、黒色鉱物	黄橙
180	III－6				LR			礫・砂、黒色鉱物	黄橙
181	III－6				LR			礫・砂、黒色鉱物	黄橙
182	III－4					沈線文		砂	暗赤褐
183	III－6			3	RL			礫・砂、黒色鉱物	赤橙
184	III－6			2	RL			礫・砂、黒色鉱物	赤橙
185	III－6			3	LR			礫・砂、黒色鉱物	赤褐
186	III－7			3				礫・砂、黒色鉱物	赤褐
187	III－8	内湾				孔		礫・砂、赤色鉱物	赤褐
188	III－8	内湾				厚1㎜隆帯（羽状太刻み付）、孔		砂	黄橙
189	III－8					幅5㎜爪形文、平行沈線文	木葉文	礫	黄橙
190	III－8							礫・砂、黒色鉱物	黄橙
191	III－8					厚1.5㎜隆帯（左傾太刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	灰褐
192	III－8					幅8㎜爪形文(左傾太刻み付)、孔	木葉文	砂	赤褐
193	III－7	外反平縁	単頭突起					砂、黒色鉱物	灰褐
194	III－7	外反平縁						礫・砂、黒・赤色鉱物	黒褐
195	IV				貝	幅13㎜変形爪形文(左傾太刻み付)		砂、白色鉱物	暗褐
196	IV					幅9㎜平行沈線文、幅11㎜変形爪形文		砂	赤橙
197	IV				貝	幅9㎜変形爪形文(左傾太刻み付)		砂	黄橙
198	IV					幅13㎜変形爪形文、幅4㎜平行沈線文		砂、黒色鉱物	褐
199	IV				貝	幅13㎜変形爪形文		砂、黒色鉱物	赤橙
200	IV					凹凸文		砂	赤橙
201	IV	外反				凹凸文		砂	赤橙
202	IV				貝			砂	灰褐
203	IV				貝			砂	黄褐
204	IV				貝			砂	黄橙
205	IV				貝			砂	赤橙

11号住居跡出土土器

	分類	口縁	口唇加工	底	地文	文様要素	文様	胎土	色調
1	III－4	弱内湾A平縁	獣面突起		RL	幅3㎜平行沈線文	π字蕨手文（渦巻型）	礫・砂、黒色鉱物	黄橙
2	III－4	弱内湾A平縁				幅4㎜平行沈線文	多重渦巻文	礫・砂、黒・白色鉱物	赤褐
3	IV	外反				幅8㎜変形爪形文、幅4㎜平行沈線文	菱形文	砂、白色鉱物	赤橙
4	IV	外反			貝	幅12㎜変形爪形文（左傾刻み付） 幅3㎜平行沈線文	横線文	砂、白色鉱物	褐
5	III－6			3	LR			礫・砂、黒・白色鉱物	赤橙
6	III－8					厚1.5㎜隆帯（羽状太刻み付）		礫・砂、白色鉱物	黄橙
7	III－2	外反平縁	単頭突起、爪形文			幅5㎜爪形文		砂、赤色鉱物	橙
8	III－3	弱内湾A平縁	獣面突起			厚1㎜浮線文（羽状太刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	褐
9	III－3		獣面突起			厚1.5㎜浮線文（右傾太刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	赤褐
10	III－3	内湾平縁				厚1㎜浮線文（羽状細刻み付）		礫・砂	黄橙
11	III－3	弱外反平縁			L	厚1.5㎜浮線文（ハ字太刻み付）		砂、黒色鉱物	橙
12	III－3	内湾波状				厚1.5㎜浮線文（左傾太刻み付）	（梯子状文）	砂、黒色鉱物	黄橙
13	III－3	内湾波状				厚1㎜浮線文（羽状細刻み付）	（梯子状文）	砂	黄橙
14	III－3				RL	厚1.5㎜浮線文（羽状細刻み付）	π字蕨手文	砂、黒色鉱物	灰褐
15	III－3					厚1.5㎜浮線文（羽状太刻み付）		礫・砂	橙
16	III－3				RL	厚1.5㎜浮線文（羽状太刻み付）	π字蕨手文（渦巻型）	礫・砂、赤色鉱物	黄橙
17	III－3					厚1㎜浮線文（羽状太刻み付）		砂、赤色鉱物	黄橙
18	III－3					厚1㎜浮線文（列点、羽状細刻み付）	多重渦巻文	礫・砂、黒・赤色鉱物	褐
19	III－3				LR	厚1.5㎜浮線文（右傾太刻み付）	枠状文	礫・砂、赤色鉱物	黄橙
20	III－3				RL	厚1.5㎜浮線文（羽状太刻み付）		礫・砂	橙
21	III－3				RL	厚1.5㎜浮線文（RL付）		礫・砂、黒色鉱物	褐
22	III－3					厚1.5㎜浮線文（左傾太刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	橙
23	III－3				RL	厚1.5㎜浮線文（羽状太刻み付）		砂、黒色鉱物	黄橙
24	III－3				RL	厚1.5㎜浮線文（右傾太刻み付）		砂、黒色鉱物	黄橙
25	III－3					厚1.5㎜浮線文（右傾太刻み付）		砂、黒・白・赤色鉱物	黄橙
26	III－3				RL	厚1.5㎜浮線文（左傾太刻み付）		砂、黒・赤色鉱物	褐
27	III－3				RL	厚1㎜浮線文（左傾太刻み付）		礫・砂	黄橙
28	III－4	外反平縁			LR	幅4㎜平行沈線文		礫・砂、黒・赤色鉱物	黄橙
29	III－4	内湾平縁	渦巻突起			幅6㎜平行沈線文	多重渦巻文	礫・砂、黒色鉱物	黄橙
30	III－4	外反平縁	縦刻み		RL	幅10㎜平行沈線文		礫・砂、黒・白色鉱物	黄橙
31	III－4	外反平縁	凹み		RL	幅9㎜平行沈線文		黒・赤色鉱物	黄橙
32	III－4	弱内湾A平縁	眼鏡隆線			幅4㎜平行沈線文（右傾細刻み付）		砂、黒色鉱物	黄橙
33	III－4	弱外反平縁				幅5㎜平行沈線文		砂	黒褐
34	III－4	外反平縁				幅6㎜平行沈線文		砂、黒・白色鉱物	黒褐
35	III－4	外反平縁				幅5㎜平行沈線文		砂、黒色鉱物	黄橙
36	III－4	外反平縁				幅5㎜平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	黄橙
37	III－4	外反波状				幅4㎜平行沈線文		砂、黒色鉱物	灰褐
38	III－4	外反平縁				幅8㎜平行沈線文		砂	赤橙
39	III－4	外反波状	双頭突起			幅6㎜平行沈線文		砂、黒色鉱物	赤橙
40	III－4	外反波状	双頭突起			幅6㎜平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	暗褐
41	III－4	外反波状				幅4㎜平行沈線文		砂、白色鉱物	橙
42	III－4					幅4㎜平行沈線文	多重渦巻文	砂、黒色鉱物	赤褐
43	III－4					幅5㎜平行沈線文	π字蕨手文（渦巻型）	礫・砂、黒・白・赤色鉱物	赤褐
44	III－4				LR	幅4㎜平行沈線文	菱形区画つ字文	砂、黒・赤色鉱物	暗赤褐
45	III－4					幅5㎜平行沈線文	多重渦巻文	礫・砂、黒・白色鉱物	褐
46	III－4					幅6㎜平行沈線文	渦巻文	礫・砂、黒色鉱物	赤褐
47	III－4				RL	幅4㎜平行沈線文	多重渦巻文	黒色鉱物	橙
48	III－4					幅6㎜平行沈線文	菱形文	砂、黒色鉱物	黄橙
49	III－4				RL	幅6㎜平行沈線文	鋸歯状文	砂、黒色鉱物	赤橙
50	III－4					幅5㎜平行沈線文	菱形区画つ字文	砂、赤色鉱物	赤橙
51	III－4					幅5㎜平行沈線文	菱形文	礫・砂、黒・赤色鉱物	赤橙
52	III－4					幅5㎜平行沈線文		砂、黒・赤色鉱物	橙
53	III－4				RL	幅5㎜平行沈線文		黒・赤色鉱物	赤褐
54	III－4				LR	幅5㎜平行沈線文		砂、黒・白・赤色鉱物	暗赤褐

	分類	口　縁	口唇加工	底	地文	文　様　要　素	文　様	胎　土	色調
55	III－4				LR	幅5㎜平行沈線文	格子目文	礫・砂、黒・白・赤色鉱物	橙
56	III－4					幅5㎜平行沈線文	菱形文	礫・砂、黒・赤色鉱物	褐
57	III－4					幅4㎜平行沈線文	菱形文	礫・砂、黒・白色鉱物	赤橙
58	III－4				LR	幅8㎜平行沈線文		礫・砂、黒・白色鉱物	暗赤褐
59	III－4				RL	幅4㎜平行沈線文		礫・砂	褐
60	III－4					幅8㎜平行沈線文	格子目文	礫・砂、赤色鉱物	赤橙
61	III－4					幅4㎜平行沈線文		砂、黒色鉱物	赤褐
62	III－4				RL	幅5㎜平行沈線文		礫・砂、黒・白・赤色鉱物	黄橙
63	III－4				RL	幅6㎜平行沈線文		砂、黒色鉱物	橙
64	III－4				RL	幅6㎜平行沈線文		礫・砂、白・赤色鉱物	暗褐
65	III－4				RL	幅6㎜平行沈線文		砂、黒色鉱物	暗褐
66	III－4				RL	幅5㎜平行沈線文		礫・砂、白色鉱物	赤褐
67	III－6	外反平縁	凹み		RL			砂、黒色鉱物	赤橙
68	III－6	内湾平縁			R			砂、黒色鉱物	赤橙
69	III－6	弱外反波状			RL			礫・砂	暗褐
70	III－6	内湾平縁			L			砂、赤色鉱物	褐
71	III－6				R			礫・砂、黒・白色鉱物	赤橙
72	III－6				RL			礫・砂、黒・白色鉱物	赤橙
73	III－6				RL			礫・砂、黒色鉱物	赤橙
74	III－6				RL			礫・砂、黒色鉱物	橙
75	III－3				LR	厚2㎜浮線文		砂、黒色鉱物	赤橙
76	III－6				LR			礫・砂、黒・白・赤色鉱物	赤橙
77	III－6			4	RL			礫・砂、黒色鉱物	赤褐
78	III－7			2				砂、黒・赤色鉱物	赤褐
79	III－7	外反平縁						礫・砂、黒色鉱物	赤橙
80	III－7							礫・砂、赤色鉱物	橙
81	III－8	内湾						砂、赤色鉱物	黄橙
82	III－8							礫・砂、黒色鉱物	黄褐
83	III－8					幅4㎜爪形文	入組木葉文	砂	黄橙
84	IV	外反			貝			砂、白色鉱物	灰褐
85	III－8	内湾				厚1㎜隆帯（羽状太刻み付）、孔		砂、黒色鉱物	暗褐

2号土坑出土土器

	分類	口　縁	口唇加工	底	地文	文　様　要　素	文　様	胎　土	色調
1	III－2				RL	幅7㎜爪形文（右傾太刻み付）	蕨手文	礫・砂、黒・白色鉱物	褐
2	III－2	外反平縁				幅6㎜爪形文（左傾太刻み付）		砂、黒色鉱物	灰褐
3	III－2					幅6㎜爪形文（右傾太刻み付）		礫・砂、白・黒・赤色鉱物	褐
4	III－4					幅6㎜平行沈線文		砂、金雲母	褐
6	III－6				LR			礫・砂、白・黒色鉱物	暗褐
7	III－6				RL			砂、白・黒色鉱物	暗褐

4号土坑出土土器

	分類	口　縁	口唇加工	底	地文	文　様　要　素	文　様	胎　土	色調
1	III－2				RL	幅5㎜爪形文	鋸歯状文	礫・砂、黒色鉱物	暗褐
2	III－6			2	RL			礫・砂、白・黒色鉱物	黄橙
3	III－2′	外反平縁				幅5㎜爪形文、厚2㎜隆帯		礫・砂、黒色鉱物	褐
4	III－2				RL	幅7㎜爪形文、幅7㎜平行沈線文		礫・砂、黒・赤色鉱物	暗褐
5	III－2					幅6㎜爪形文		砂、白・黒・赤色鉱物	褐
6	III－6				RL			砂、白・黒・赤色鉱物	黄橙
7	III－6				RL			礫・砂、白・黒・赤色鉱物	暗赤褐

5号土坑出土土器

	分類	口　縁	口唇加工	底	地文	文　様　要　素	文　様	胎　土	色調
1	III－2	外反平縁				幅7㎜爪形文	横位弧線文（背弧型）	礫・砂、黒・赤色鉱物	黄橙
2	III－2				RL	幅7㎜爪形文	横位弧線文（背弧型）	礫・砂、白・黒・赤色鉱物	暗褐

8号土坑出土土器

	分類	口縁	口唇加工	底	地文	文様要素	文様	胎土	色調
1	III－2	外反平縁			RL	幅7㎜爪形文	蕨手文	礫・砂	灰褐

10号土坑出土土器

	分類	口縁	口唇加工	底	地文	文様要素	文様	胎土	色調
1	III－2				LR	幅8㎜爪形文	蕨手文	礫、白・黒・赤色鉱物	暗赤褐
2	III－2					幅9㎜爪形文(右傾太刻み付)、径9㎜円形竹管文	蕨手文	礫・砂、白・黒・赤色鉱物	黄橙
3	III－2				LR	幅8㎜爪形文		礫・砂、白・黒・赤色鉱物	暗赤褐
4	III－2					幅8㎜爪形文、径10㎜円形竹管文	横位弧線文（背弧型）	砂、白・黒・金・赤色鉱物	黄橙
5	III－4					幅6㎜平行沈線文		礫・砂、白・黒・赤色鉱物	黄橙
6	III－4					幅7㎜平行沈線文		砂、白・黒・赤色鉱物	黄橙
7	III－6				RL			礫、白・黒・赤色鉱物	橙

11号土坑出土土器

	分類	口縁	口唇加工	底	地文	文様要素	文様	胎土	色調
1	III－2				RL	幅8㎜爪形文	横位弧線文（背弧型）	礫・砂、黒・白色鉱物	褐
2	III－2	外反平縁				幅7㎜爪形文（右傾太刻み付）		礫・砂、黒・赤色鉱物	黒褐
3	III－2					幅7㎜爪形文		砂、黒・赤色鉱物	赤橙
4	III－3				RL	厚2.5㎜浮線文（羽状太刻み付）		礫・砂、黒・赤色鉱物	褐
5	III－2				RL	幅7㎜爪形文		礫・砂、黒・赤色鉱物	黒褐
6	III－4				RL	幅8㎜平行沈線文	波状文	礫・砂、白・黒・赤色鉱物	橙

17号土坑出土土器

	分類	口縁	口唇加工	底	地文	文様要素	文様	胎土	色調
1	III－2					幅8㎜爪形文	横位弧線文（背弧型）	礫・砂、白・黒・赤色鉱物	黄橙
2	III－2					幅8㎜爪形文		礫・砂、白・黒・赤色鉱物	褐

18号土坑出土土器

	分類	口縁	口唇加工	底	地文	文様要素	文様	胎土	色調
1	III－6				RL			礫・砂、白・黒色鉱物	褐

19号土坑出土土器

	分類	口縁	口唇加工	底	地文	文様要素	文様	胎土	色調
1	III－2	外反平縁				幅7㎜爪形文（羽状太刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	褐
2	III－2	外反平縁				幅6㎜爪形文（左傾太刻み付）		礫・砂、黒・赤色鉱物	黒褐
3	III－2	外反平縁				幅7㎜爪形文（左傾太刻み付）		礫・砂、白・黒色鉱物	赤褐
4	III－2	外反平縁				幅9㎜爪形文		礫・砂、黒色鉱物	褐
5	III－2					幅7㎜爪形文（羽状太刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	暗褐
6	III－2					幅5㎜爪形文（羽状太刻み付）		礫・砂、黒・赤色鉱物	赤橙
7	III－2				RL	幅5㎜爪形文、幅6㎜平行沈線文	横位弧線文（背弧型）	礫・砂、白・黒・赤色鉱物	赤褐
8	III－2				RL	幅6㎜爪形文（羽状太刻み付）		礫・砂、黒・赤色鉱物	赤褐
9	III－2				RL	幅6㎜爪形文（左傾太刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	赤褐
10	III－2					幅5㎜爪形文、幅5㎜平行沈線文	横線文	砂、白・黒・赤色鉱物	暗褐
11	III－2					幅7㎜爪形文（羽状太刻み付）		礫・砂、白色鉱物	褐
12	III－4	外反平縁				幅3㎜平行沈線文		砂、白色鉱物	赤橙
13	III－8							礫・砂、白・黒・金色鉱物	暗褐

29号土坑出土土器

	分類	口縁	口唇加工	底	地文	文様要素	文様	胎土	色調
1	III－4	外反平縁	凹み			幅8㎜平行沈線文	蕨手文	礫・砂、黒色鉱物	灰褐
2	III－2	外反平縁				幅7㎜爪形文（右傾太刻み付）	横線文	砂、黒・赤色鉱物	黄橙
3	III－2	外反平縁				幅7㎜爪形文（右傾太刻み付）		礫・砂、黒・赤色鉱物	黒褐
4	III－2					幅9㎜爪形文		礫・砂、黒・赤色鉱物	黄橙
5	III－2					幅7㎜爪形文（羽状太刻み付）	横位弧線文（向弧型）	礫・砂、黒・赤色鉱物	灰褐
6	III－2					幅7㎜爪形文	蕨手文	礫・砂、白・黒色鉱物	灰褐

	分類	口　縁	口唇加工	底	地文	文　様　要　素	文　様	胎　土	色調
7	III－2					幅9㎜爪形文(左傾太刻み付)、円形竹管文	横位弧線文（向弧型）	礫・砂、白・黒・赤色鉱物	赤暗褐
8	III－2					幅8㎜爪形文(太刻み付)、円形竹管文	横位弧線文（背弧型）	礫・砂、黒・赤色鉱物	灰褐
9	III－2				RL	幅8㎜爪形文		礫・砂、黒色鉱物	黄橙
10	III－3					厚1.5㎜浮線文（羽状太刻み付）		礫・砂、白・黒・赤色鉱物	橙
11	III－4	外反平縁	単頭突起			幅5㎜平行沈線文、円形竹管文		礫・砂、白・黒色鉱物	褐
12	III－6				RL			礫・砂、黒・赤色鉱物	灰褐
13	III－6				LR			礫・砂、白・黒・赤色鉱物	褐

30号土坑出土土器

	分類	口　縁	口唇加工	底	地文	文　様　要　素	文　様	胎　土	色調
1	III－2				RL・LR	幅10㎜爪形文（羽状太刻み付）	渦巻文	礫・砂、黒・白色鉱物	赤橙
2	I	外反平縁			撚糸R			礫・砂、黒色鉱物	灰褐
3	II				LR			礫・砂、白・黒・赤・繊維	赤褐
4	III－1	外反平縁				櫛歯文、径8㎜円形竹管文	波状文（交互型）	礫・砂、黒色鉱物	褐
5	III－2	外反平縁				幅5㎜爪形文		礫・砂、黒色鉱物	黒褐
6	III－2	外反平縁				幅7㎜爪形文	鋸歯状文	礫・砂、白・黒・赤色鉱物	黒褐
7	III－2	外反平縁				幅6㎜爪形文、D字刺突		礫・砂、白・黒色鉱物	暗褐
8	III－2	外反平縁				幅10㎜爪形文、幅10㎜平行沈線文	横位弧線文（背弧型）	砂、黒色鉱物	黄橙
9	III－2	外反平縁				幅7㎜爪形文（羽状太刻み付）	渦巻文	礫・砂、白・黒色鉱物	赤褐
10	III－2	外反平縁				幅8㎜爪形文	横位弧線文（背弧型）	礫・砂、白・黒・赤色鉱物	灰褐
11	III－2	外反波状				幅9㎜爪形文（右傾太刻み付）		砂、白・黒色鉱物	赤橙
12	III－2	二単位波状	突起			幅8㎜爪形文（右傾太刻み付）		礫・砂、白・黒色鉱物	暗赤褐
13	III－2	外反平縁				幅7㎜爪形文（右傾太刻み付）		礫・砂、金色鉱物	赤橙
14	III－2	外反平縁				幅7㎜爪形文	横位弧線文（向弧型）	礫・砂、白・黒・赤色鉱物	赤褐
15	III－2′					幅10㎜爪形文(羽状太刻み付)、隆帯	渦巻文	礫・砂、黒・赤色鉱物	黄橙
16	III－2					幅7㎜爪形文（羽状太刻み付）	蕨手文	礫・砂、白・黒色鉱物	褐
17	III－2					幅8㎜爪形文（羽状太刻み付）	蕨手文	礫・砂、白・黒・赤色鉱物	赤褐
18	III－2					幅8㎜爪形文	蕨手文（渦巻型）	礫・砂、黒・赤色鉱物	灰褐
19	III－2					幅5㎜爪形文	蕨手文	礫・砂、黒・赤色鉱物	暗褐
20	III－2				RL	幅5㎜爪形文	横位弧線文（背弧型）	礫・砂、白・黒・赤色鉱物	赤褐
21	III－2					幅7㎜爪形文（太刻み付）		礫・砂、白・黒色鉱物	赤褐
22	III－2					幅7㎜爪形文		礫・砂、白・黒・赤色鉱物	暗褐
23	III－2					幅10㎜爪形文（太刻み付）		礫・砂、黒・赤色鉱物	黄褐
24	III－2					幅10㎜爪形文、径12㎜円形竹管文		礫・砂、黒・赤色鉱物	灰褐
25	III－2					幅7㎜爪形文		砂、白・黒色鉱物	暗赤褐
26	III－2					幅7㎜爪形文（左傾太刻み付）		礫・砂、黒・赤色鉱物	赤褐
27	III－3	弱内湾A波状				厚3㎜浮線文（太刻み付）	π字蕨手文	礫・砂、白・黒・赤色鉱物	暗褐
26	III－3			3	LR・RL	厚2㎜浮線文（羽状太刻み付）		礫・砂、金色鉱物	赤橙
29	III－4					幅9㎜平行沈線文	横線文	砂、白・黒・赤色鉱物	黄橙
30	III－4					幅8㎜平行沈線文	波状文（多段型）	礫・砂、黒・赤色鉱物	灰褐
31	III－4					幅6㎜平行沈線文	菱形文	礫・砂、白・黒色鉱物	橙
32	III－4				LR	幅5㎜平行沈線文、幅11㎜円形竹管文	波状文（交互型）	礫・砂、黒・赤色鉱物	黄橙
33	III－4				RL	幅7㎜爪形文、幅7㎜平行沈線文	分離木葉文	砂、黒・赤色鉱物	黄橙
34	III－4					幅4㎜平行沈線文	蕨手文	礫・砂、黒・赤色鉱物	灰褐
35	III－7	外反平縁						礫・砂、黒色鉱物	褐
36	III－6				RL			礫・砂、白・黒・赤色鉱物	赤橙
37	III－6				RL			礫・砂、白・黒色鉱物	暗赤褐
38	III－6				RL			砂、白・黒・赤色鉱物	灰褐
39	III－6				RL			礫・砂、白・黒・赤色鉱物	灰褐
40	III－6				RL			砂、黒・赤色鉱物	灰褐
41	III－6			3	LR・RL			礫・砂、黒・赤色鉱物	赤褐

31号土坑出土土器

	分類	口縁	口唇加工	底	地文	文様要素	文様	胎土	色調
1	II				LR・RL			繊維、砂	黄橙
2	III－2	外反平縁				幅6㎜爪形文	蕨手文	礫・砂、赤・白色鉱物	黄橙
3	III－2	外反平縁				幅7㎜爪形文（ハ字太刻み付）		礫・砂、黒・白色鉱物	赤橙
4	III－2	外反平縁				幅7㎜爪形文（右傾太刻み付）		砂、赤・金色鉱物	黄橙
5	III－2					幅7㎜爪形文	渦巻文	砂、黒・白色鉱物	赤橙
6	III－2′				LR・RL	幅9㎜爪形文、厚2㎜隆帯、円形竹管文	渦巻文	礫・砂、白色鉱物	黄褐
7	III－2				RL	幅9㎜爪形文（左傾太刻み付）		礫・砂、赤色鉱物	赤褐
8	III－2				RL	幅7㎜爪形文		砂、黒・赤色鉱物	黄橙
9	III－2					幅9㎜爪形文	横位弧線文（背弧型）	礫・砂、黒色鉱物	橙
10	III－2					幅8㎜爪形文		砂、黒色鉱物	暗褐
11	III－2					幅6㎜爪形文	横線文	礫・砂、白色鉱物	黄橙
12	III－2				RL	幅8㎜爪形文、幅8㎜平行沈線文		砂、黒・赤色鉱物	黄橙
13	III－2				R{R/L}	幅7㎜爪形文		礫・砂	赤橙
14	III－4				RL	幅8㎜平行沈線文		礫・砂、黒・赤色鉱物	黄褐
15	III－4					幅8㎜平行沈線文		砂、黒・赤色鉱物	黄橙
16	III－4	外反平縁	沈線			幅4㎜平行沈線文	格子目文	礫・砂	橙
17	III－6				RL			礫・砂、赤色鉱物	赤褐
18	III－6				RL			礫・砂、黒・白色鉱物	赤褐
19	III－6				RL			礫・砂、赤色鉱物	赤橙
20	III－6				LR			砂、黒色鉱物	赤橙
21	III－6				RL			礫・砂、黒色鉱物	灰褐
22	III－7	外反						礫・砂、黒・白色鉱物	赤橙

32号土坑出土土器

	分類	口縁	口唇加工	底	地文	文様要素	文様	胎土	色調
1	III－6				RL			砂、黒色鉱物	赤褐

33号土坑出土土器

	分類	口縁	口唇加工	底	地文	文様要素	文様	胎土	色調
1	III－2	二単位波状				幅7㎜爪形文		礫・砂、黒・白色鉱物	黄橙
2	III－2′	外反平縁				幅6㎜爪形文、厚3㎜隆帯、D字刺突	山形文	礫・砂、黒色鉱物	暗褐
3	III－2	外反平縁				幅6㎜爪形文		礫・砂、黒色鉱物	暗褐
4	III－2					幅6㎜爪形文（右傾太刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	赤褐
5	III－2				L	幅4㎜爪形文		砂、黒色鉱物	灰褐
6	III－3				R	厚2㎜浮線文（羽状太刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	橙
7	III－4				RL	幅7㎜平行沈線文	分離木葉文	礫・砂、黒色鉱物	黄橙
8	III－6				L			砂、黒・赤色鉱物	灰褐

34号土坑出土土器

	分類	口縁	口唇加工	底	地文	文様要素	文様	胎土	色調
1	II				LR			繊維、礫・砂	暗褐
2	III－4	外反波状				幅6㎜平行沈線文	入組木葉文	砂、黒色鉱物	黄橙
3	III－6				RL			砂、黒・赤色鉱物	黄橙

35号土坑出土土器

	分類	口縁	口唇加工	底	地文	文様要素	文様	胎土	色調
1	III－2				RL	幅7㎜爪形文（左傾太刻み付）		礫・砂	赤橙
2	II	内湾	縦刻み		ループ	幅5㎜平行沈線文		繊維、礫・砂、黒色鉱物	褐
3	III－2					幅8㎜爪形文（右傾太刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	黄橙
4	III－2					幅6㎜爪形文（左傾太刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	黄橙
5	III－2					幅5㎜爪形文（羽状太刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	橙
6	III－2					幅7㎜爪形文（羽状太刻み付）	横位弧線文（向弧型）	礫・砂	赤褐

	分類	口　縁	口唇加工	底	地文	文　様　要　素	文　様	胎　土	色調
7	III－2					幅9㎜爪形文		砂、黒色鉱物	黄橙
8	III－2				RL	幅5㎜爪形文		礫・砂、黒色鉱物	赤褐
9	III－4	外反平縁	単頭突起			幅9㎜平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	黄橙
10	III－4	外反波状				幅6㎜平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	黄橙
11	III－4	外反平縁				幅7㎜平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	赤褐
12	III－4					幅12㎜平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	黄橙
13	III－6				RL			礫・砂、黒色鉱物	黄橙
14	III－6			2	RL			礫・砂、黒・赤色鉱物	黄橙
15	III－2			1	RL	幅9㎜爪形文		礫・砂、黒・白・赤色鉱物	黄橙

36号土坑出土土器

	分類	口　縁	口唇加工	底	地文	文　様　要　素	文　様	胎　土	色調
1	III－2	外反平縁				幅8㎜爪形文（左傾太刻み付）		礫・砂	赤褐
2	III－2	外反平縁				幅5㎜爪形文（左傾太刻み付）		砂、黒色鉱物	黄橙
3	III－2					幅8㎜爪形文（左傾太刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	赤橙
4	III－2					幅12㎜爪形文		砂、黒・白色鉱物	橙
5	III－2					幅7㎜爪形文、径10㎜円形竹管文	蕨手文	砂、黒色鉱物	黄橙
6	III－2					幅8㎜爪形文（右傾太刻み付）		砂、黒・白色鉱物	黄橙
7	III－4				RL	幅6㎜平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	黄褐
8	III－2					幅9㎜爪形文（羽状太刻み付）		礫・砂、黒・白・赤色鉱物	褐
9	III－2				L	幅8㎜爪形文		礫・砂	褐
10	III－2					幅8㎜爪形文（左傾太刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	赤橙
11	III－3				RL・LR	厚2㎜浮線文（左傾太刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	褐
12	III－3				RL	厚2㎜浮線文（左傾太刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	灰褐
13	III－1					櫛歯文	波状文（多段型）	礫・砂	赤褐
14	III－4				RL	幅9㎜平行沈線文	波状文（多段型）	砂、黒色鉱物	黄橙
15	III－4					幅6㎜平行沈線文	菱形文	礫・砂、黒色鉱物	赤橙
16	III－6				RL			礫・砂、黒色鉱物	赤褐
17	III－6				RL			礫・砂、黒・白色鉱物	橙
18	III－6				RL			砂、黒色鉱物	黄橙
19	III－6				RL			砂、赤色鉱物	橙

37号土坑出土土器

	分類	口　縁	口唇加工	底	地文	文　様　要　素	文　様	胎　土	色調
1	III－2				LR	幅7㎜爪形文（左傾太刻み付）	蕨手文（渦巻型）	礫・砂、赤色鉱物	褐
2	III－8	内湾						砂、黒・白色鉱物	赤橙
3	II	内湾			RL			繊維、砂	黄褐
4	II				RL			繊維、砂、黒色鉱物	橙
5	II				RL			繊維、礫・砂、黒色鉱物	赤橙
6	II							繊維、砂	橙
7	III－2	外反平縁				幅7㎜爪形文		礫・砂	褐
8	III－2					幅7㎜爪形文	山形文	礫・砂、黒・赤色鉱物	暗褐
9	III－2					幅8㎜爪形文		礫・砂	褐
10	III－2					幅7㎜爪形文		礫・砂	褐
11	III－4				RL	幅5㎜平行沈線文	波状文	礫・砂、黒色鉱物	黄橙
12	III－4					幅4㎜平行沈線文	蕨手文	砂、黒色鉱物	褐
13	III－6				RL			砂	橙
14	III－6				RL			礫・砂、黒色鉱物	黄褐
15	III－6				RL			砂、黒色鉱物	黄橙
16	III－6				LR・RL			礫・砂、黒色鉱物	暗褐

38号土坑出土土器

	分類	口　縁	口唇加工	底	地文	文　様　要　素	文　様	胎　土	色調
1	III－2	二単位波状	斜刻み		LR	幅6㎜爪形文（羽状太刻み付）、孔	蕨手文（渦巻型）	礫・砂、黒色鉱物	黄橙
2	III－6			1	LR			砂、黒・赤色鉱物	黄橙
3	III－7			3				砂、黒色鉱物	黄橙
4	II				ループR			繊維、礫・砂、黒色鉱物	赤褐
5	III－2	外反平縁				幅10㎜爪形文		礫・砂、黒色鉱物	褐
6	III－2	外反平縁				幅7㎜爪形文、D字刺突文	蕨手文	礫・砂	赤橙
7	III－4				RL	幅5㎜平行沈線文		砂、黒色鉱物	灰褐
8	III－2	外反平縁	斜刻み			幅7㎜爪形文		砂、黒色鉱物	黒褐
9	III－2					幅8㎜爪形文、D字刺突文		礫・砂	黄橙
10	III－3	弱内湾A平縁	縦刻み		LR	厚2.5㎜浮線文（左傾太刻み付）		砂、黒・赤色鉱物	暗褐
11	III－3	内湾平縁	眼鏡隆線		RL	厚1.5㎜浮線文（右傾太刻み付）		砂	黄橙
12	III－4	外反平縁	斜刻み			幅7㎜平行沈線文		砂、黒色鉱物	黒褐
13	III－1	外反平縁				櫛線文	波状文	砂、黒色鉱物	黄褐
14	III－4					幅9㎜平行沈線文、径9㎜円形竹管文		砂、黒色鉱物	橙
15	III－4				RL	幅6㎜平行沈線文	格子目文	礫・砂、黒色鉱物	暗褐
16	III－6				RL			礫・砂、黒色鉱物	黄橙
17	III－6			1	LR			礫・砂	橙

39号土坑出土土器

	分類	口　縁	口唇加工	底	地文	文　様　要　素	文　様	胎　土	色調
1	III－2				LR	幅9㎜爪形文、径11㎜円形竹管文	蕨手文（渦巻型）	礫・砂、黒・白・赤色鉱物	赤褐
2	III－3			2	LR	厚2㎜浮線文（左傾太刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	褐
3	III－2	弱外反平縁	双頭突起	2	RL	幅10㎜爪形文	大波状文	礫・砂、黒色鉱物	暗褐
4	III－3	弱内湾A平縁	縦刻み		RL	厚2㎜浮線文（RL付）	枠状文	礫・砂、黒色鉱物	褐
5	III－8	内湾	渦巻隆線			幅9㎜平行沈線文、爪形文	入組木葉文	礫・砂	橙
6	II				RL	列点文		繊維、赤色鉱物	黄褐
7	III－2	弱内湾A平縁	RL		RL	幅8㎜爪形文		礫・砂、白・赤色鉱物	赤橙
8	III－2	外反平縁				幅10㎜爪形文		砂	橙
9	III－2					幅6㎜爪形文		砂・黒・白・赤色鉱物	赤褐
10	III－2					幅8㎜爪形文		砂、黒・赤色鉱物	黄橙
11	III－2					幅7㎜爪形文		礫・砂、赤色鉱物	赤橙
12	III－2					幅10㎜爪形文（左傾太刻み付）		砂、黒・白・赤色鉱物	赤褐
13	III－2					幅11㎜爪形文（右傾太刻み付）	横位弧線文（向弧型）	砂、黒色鉱物	黄橙
14	III－2					幅10㎜爪形文（左傾太刻み付）		砂、黒・白・赤色鉱物	赤褐
15	III－2				RL	幅9㎜爪形文		礫・砂、黒・白・赤色鉱物	灰褐
16	III－2					幅8㎜爪形文		礫・砂、黒・白・赤色鉱物	褐
17	III－2					幅9㎜爪形文		砂、白・赤色鉱物	赤橙
18	III－2					幅9㎜爪形文（右傾太刻み付）		砂、黒色鉱物	橙
19	III－2					幅9㎜爪形文		砂、赤色鉱物	灰褐
20	III－2					幅10㎜爪形文		砂	黄橙
21	III－2					幅10㎜爪形文		砂、黒・赤色鉱物	黄橙
22	III－2					幅11㎜爪形文		砂、黒色鉱物	灰褐
23	III－2					幅8㎜爪形文		砂、黒・赤色鉱物	黄橙
24	III－2′	外反平縁			LR	幅11㎜爪形文、厚3㎜隆帯（左傾太刻み付）	枠状文	砂、黒・白・赤色鉱物	赤褐
25	III－3	弱内湾A平縁	縦刻み			厚2㎜浮線文（羽状細刻み付）	π字蕨手文	砂、黒・赤色鉱物	赤褐
26	III－3	弱内湾A平縁				厚1.5㎜浮線文	π字蕨手文	砂、黒色鉱物	黄橙
27	III－3				RL	厚2㎜浮線文（左傾太刻み付）		砂、黒・赤色鉱物	黄橙
28	III－3				RL	厚1.5㎜浮線文（ハ字、羽状太刻み付）		礫・砂	橙
29	III－3				RL	厚1㎜浮線文（羽状細刻み付）		礫・砂、赤色鉱物	黄橙
30	III－3				RL	厚1㎜浮線文（羽状太刻み付）		砂、黒・白色鉱物	橙
31	III－3				LR・RL	厚2.5㎜浮線文（左傾太刻み付）		砂、黒・白・赤色鉱物	黄橙
32	III－3			4	RL	厚2.5㎜浮線文（羽状細刻み付）		礫・砂、黒・赤色鉱物	赤橙

	分類	口縁	口唇加工	底	地文	文様要素	文様	胎土	色調
33	III—3			3		厚0.5㎜浮線文（羽状太刻み付）		砂、赤色鉱物	赤橙
34	III—4′					幅5㎜平行沈線文、厚2.5㎜隆帯	分離木葉文	砂、黒・赤色鉱物	黄橙
35	III—4	外反平縁				幅8㎜平行沈線文	渦巻文	礫・砂、赤色鉱物	橙
36	III—4	外反平縁				幅8㎜平行沈線文		礫・砂、白・赤色鉱物	暗赤褐
37	III—4	弱内湾A平縁			RL	平行沈線文		砂、黒・赤色鉱物	暗褐
38	III—4	外反平縁				幅6㎜平行沈線文		砂、赤色鉱物	黄橙
39	III—4					幅9㎜平行沈線文、径12㎜円形竹管	横位弧線文（向弧型）	砂、黒・白・赤色鉱物	黄橙
40	III—4					幅6㎜平行沈線文		礫・砂、白・赤色鉱物	橙
41	III—4					幅8㎜平行沈線文		礫・砂、白・赤色鉱物	赤橙
42	III—4					幅6㎜平行沈線文		砂、白・赤色鉱物	赤褐
43	III—4					幅9㎜平行沈線文	格子目文	礫・砂、黒・赤色鉱物	赤褐
44	III—4					幅5㎜平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	褐
45	III—6	外反	縦刻み		RL			砂	黄橙
46	III—6				LR・RL			砂、白色鉱物	橙
47	III—6				RL			黒・赤色鉱物	橙
48	III—6				RL			砂	橙
49	III—6				RL			礫・砂、黒・赤色鉱物	赤橙
50	III—6				RL			砂、黒・白色鉱物	赤橙
51	III—6				LR・RL			砂、黒・白色鉱物	黄橙
52	III—6				LR・RL			礫・砂、黒・白色鉱物	赤橙
53	III—6				LR・RL			砂、黒・赤色鉱物	黄橙
54	III—6				LR・RL			砂、白色鉱物	灰褐
55	III—6				RL			礫・砂、黒色鉱物	赤橙
56	III—6				LR・RL			砂	橙
57	III—7							砂、黒色鉱物	褐
58	III—8					幅5㎜爪形文、厚2㎜隆帯（左傾太刻み付）		砂、赤色鉱物	黄橙
59	III—8							砂、黒・赤色鉱物	橙

41、42号土坑出土土器

	分類	口縁	口唇加工	底	地文	文様要素	文様	胎土	色調
1	III—4				RL	幅5㎜平行沈線文	蕨手文（渦巻文）	礫・砂、黒色鉱物	褐
2	II				LR			繊維、砂、赤色鉱物	暗褐
3	III—2	外反平縁				幅7㎜爪形文		礫・砂、白色鉱物	赤褐
4	III—2					幅8㎜爪形文（羽状太刻み付）		砂	赤褐
5	III—2					幅10㎜爪形文	横位弧線文（向弧型）	砂	暗褐
6	III—2				LR	幅10㎜爪形文		礫・砂、黒・白・赤色鉱物	灰褐
7	III—3	内湾波状	波状隆線		RL	厚1.5㎜浮線文（羽状太刻み付）	多重渦巻文	砂、白・赤色鉱物	黄橙
8	III—3	内湾平縁	斜刻み		RL	厚1.5㎜浮線文（刻み付）	横線文	砂、黒・赤色鉱物	褐
9	III—3					厚2㎜浮線文（RL付）	多重渦巻文	礫・砂、赤色鉱物	橙
10	III—3				RL	厚1㎜浮線文（ハ字、右傾太刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	暗赤褐
11	III—3					厚1.5㎜浮線文（羽状太刻み付）	多重渦巻文	砂、白・赤色鉱物	灰褐
12	III—3				LR	厚2㎜浮線文（RL付）	枠状文	礫・砂、赤色鉱物	黄橙
13	III—4				L	幅8㎜平行沈線文		礫・砂、白・赤色鉱物	赤褐
14	III—4					幅6㎜平行沈線文	格子目文	砂、黒・赤色鉱物	赤褐
15	III—4				RL	幅8㎜平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	赤橙
16	III—4				L	幅7㎜平行沈線文		砂、黒・赤色鉱物	暗赤褐
17	III—6				RL			砂、黒・白色鉱物	赤褐
18	III—6				LR			砂、黒・白・赤色鉱物	赤橙
19	III—6				RL			礫・砂、黒・赤色鉱物	黄橙
20	IV				貝			砂、白色鉱物	橙

42号土坑出土土器

	分類	口縁	口唇加工	底	地文	文様要素	文様	胎土	色調
1	III－3	内湾波状	波状隆線		RL	厚0.5㎜浮線文（羽状細刻み付）	π字簾手文	砂、黒・赤色鉱物	赤褐

43号土坑出土土器

	分類	口縁	口唇加工	底	地文	文様要素	文様	胎土	色調
1	II					列点文		繊維、砂、白・黒色鉱物	褐
2	II				RL			繊維、礫・砂、赤色鉱物	褐

50号土坑出土土器

	分類	口縁	口唇加工	底	地文	文様要素	文様	胎土	色調
1	II					列点文		繊維、礫・砂、赤色鉱物	褐

51号土坑出土土器

	分類	口縁	口唇加工	底	地文	文様要素	文様	胎土	色調
1	II				LR・RL			繊維、礫・砂、黒・赤色鉱物	赤褐

52号土坑出土土器

	分類	口縁	口唇加工	底	地文	文様要素	文様	胎土	色調
1	III－2				R	幅9㎜爪形文		砂、黒色鉱物	黄橙
2	III－4					幅9㎜平行沈線文	格子目文	砂、黒・赤色鉱物	暗褐
3	III－4				RL	幅7㎜平行沈線文		砂、黒色鉱物	暗赤褐
4	III－6				L			礫・砂	黄橙

53号土坑出土土器

	分類	口縁	口唇加工	底	地文	文様要素	文様	胎土	色調
1	III－6			2	LR・RL			砂、白・黒・赤色鉱物	赤褐
2	III－2					幅8㎜爪形文		礫・砂、赤色鉱物	橙
3	III－2					幅7㎜爪形文		砂、黒色鉱物	橙
4	III－2				RL	幅6㎜爪形文（羽状太刻み付）	横位弧線文（向弧型）	砂、白・黒・赤色鉱物	暗赤褐
5	III－2					幅8㎜爪形文		礫・砂	黄橙
6	III－2					幅8㎜爪形文	簾手文	礫・砂、赤色鉱物	赤褐
7	III－4					幅8㎜平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	暗褐
8	III－4					幅5㎜平行沈線文	横位弧線文（背弧型）	砂、黒・赤色鉱物	灰褐
9	III－4					幅5㎜平行沈線文	横位弧線文（背弧型）	砂、黒・赤色鉱物	灰褐
10	III－4					幅7㎜平行沈線文	横位弧線文（背弧型）	礫・砂、黒・赤色鉱物	灰褐
11	III－4				RL	幅9㎜平行沈線文		砂、黒・赤色鉱物	黄橙

55号土坑出土土器

	分類	口縁	口唇加工	底	地文	文様要素	文様	胎土	色調
1	III－2					幅7㎜爪形文	簾手文	砂、白・黒・赤色鉱物	橙

56号土坑出土土器

	分類	口縁	口唇加工	底	地文	文様要素	文様	胎土	色調
1	III－6				L			砂	赤褐

57号土坑出土土器

	分類	口縁	口唇加工	底	地文	文様要素	文様	胎土	色調
1	III－2				RL	幅8㎜爪形文（羽状太刻み付）		礫・砂、赤色鉱物	赤褐
2	III－3			1	RL	厚3㎜浮線文（羽状太刻み付）		礫・砂、黒・白・赤色鉱物	橙
3	III－6			3	RL			礫・砂	赤褐

	分類	口　縁	口唇加工	底	地文	文　様　要　素	文　様	胎　土	色調
4	III－2	外反平縁	斜刻み			幅5㎜爪形文（右傾太刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	赤橙
5	III－2	外反平縁				幅5㎜爪形文		砂、白・黒色鉱物	赤橙
6	III－2					幅7㎜爪形文（右傾太刻み付）		礫・砂、黒・赤色鉱物	赤褐
7	III－4	外反波状				幅6㎜平行沈線文		砂、白・黒・赤色鉱物	黄橙
8	III－4	外反平縁				幅8㎜平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	赤橙
9	III－6				LR			砂、白・黒色鉱物	褐

58号土坑出土土器

	分類	口　縁	口唇加工	底	地文	文　様　要　素	文　様	胎　土	色調
1	III－3	弱内湾A波状	凹み		RL	厚2㎜浮線文（羽状太刻み付）	横位弧線文（向弧型）	礫・砂、黒・赤色鉱物	暗褐
2	III－3				LR	厚2㎜浮線文（左傾太刻み付）		礫・砂、白・黒・赤色鉱物	黒褐
3	III－4				RL	幅6㎜平行沈線文	菱形文	礫・砂、黒色鉱物	灰褐
4	III－6				RL			砂、白・黒・赤色鉱物	褐

60号土坑出土土器

	分類	口　縁	口唇加工	底	地文	文　様　要　素	文　様	胎　土	色調
1	III－2	外反平縁				幅5㎜爪形文（横位太刻み付）		礫・砂、白・赤色鉱物	褐
2	III－2				RL	幅7㎜爪形文		礫・砂、黒色鉱物	暗褐
3	III－3	弱外反平縁			L・R	厚3.5㎜浮線文（左傾太刻み付）	横線文	礫・砂、白・黒・赤色鉱物	暗褐
4	III－3	外反平縁				幅9㎜平行沈線文		砂、黒・赤色鉱物	灰褐
5	III－3					幅6㎜平行沈線文		礫・砂、黒・赤色鉱物	褐

64号土坑出土土器

	分類	口　縁	口唇加工	底	地文	文　様　要　素	文　様	胎　土	色調
1	III－8			2	LR			礫・砂、黒色鉱物	赤橙
2	III－8				RL	幅10㎜爪形文		礫・砂	赤橙

65号土坑出土土器

	分類	口　縁	口唇加工	底	地文	文　様　要　素	文　様	胎　土	色調
1	II				RL			繊維、砂、赤色鉱物	赤橙
2	II				RL			繊維、礫・砂	橙
3	II				LR			繊維、砂	黄褐
4	II				LR			繊維、砂、黒色鉱物	橙
5	II				LR			繊維、礫・砂	黄橙

66号土坑出土土器

	分類	口　縁	口唇加工	底	地文	文　様　要　素	文　様	胎　土	色調
1	II	外反			LR・RL			繊維、砂	暗褐
2	II	外反			RL			繊維、砂	赤橙
3	II				RL			繊維、礫・砂、黒色鉱物	褐
4	II				RL			繊維、砂、赤色鉱物	赤橙
5	II				LR・RL			繊維、砂、黒色鉱物	暗褐

67号土坑出土土器

	分類	口　縁	口唇加工	底	地文	文　様　要　素	文　様	胎　土	色調
1	III－2	外反平縁	三頭突起		RL	幅6㎜爪形文	蕨手文	礫・砂、黒色鉱物	黒褐
2	III－2	外反波状				幅6㎜爪形文	波状文（多段型）	礫・砂、黒色鉱物	赤橙
3	III－4	外反平縁			RL	幅8㎜平行沈線文、径10㎜円形竹管文	縦区画菱形文	礫・砂、黒色鉱物	灰褐
4	III－4	外反平縁			RL	幅6㎜平行沈線文	斜線文	礫・砂、黒・赤色鉱物	黒褐
5	III－2	外反平縁			RL	幅5㎜爪形文	波状文（多段型）	礫・砂、黒・白色鉱物	暗褐
6	III－2	外反波状	爪形文		RL	幅6㎜爪形文、平行沈線文、孔	格子目文	礫・砂、黒色鉱物	黄橙
7	III－2	弱外反波状				幅6㎜爪形文		礫・砂	橙
8	III－2	弱外反波状				幅8㎜爪形文（右傾太刻み付）		砂、黒色鉱物	赤橙

	分類	口縁	口唇加工	底	地文	文様要素	文様	胎土	色調
9	III－2	弱外反波状				幅5㎜爪形文	渦巻文	礫・砂、黒・白色鉱物	褐
10	III－2	弱外反波状				幅5㎜爪形文	渦巻文	礫・砂、黒色鉱物	褐
11	III－4	外反平縁				幅7㎜爪形文、幅6㎜平行沈線文	波状文	礫・砂、白色鉱物	橙
12	III－2				RL	幅6㎜爪形文、径8㎜円形竹管文	入組木葉文	砂、黒色鉱物	黄橙
13	III－2					幅7㎜爪形文、径8㎜円形竹管文	山形区画蕨手文	礫・砂、黒・白色鉱物	灰褐
14	III－2					幅9㎜爪形文、径12㎜円形竹管文	蕨手文	砂、黒色鉱物	赤橙
15	III－2					幅9㎜爪形文、径11㎜円形竹管文	横位弧線文（向弧型）	砂、黒・白色鉱物	黄橙
16	III－2					幅7㎜爪形文（左傾太刻み付）		礫・砂	黒褐
17	III－2					幅8㎜爪形文（羽状太刻み付）		礫・砂	暗褐
18	III－3				RL	厚2㎜浮線文（羽状太刻み付）		砂、黒色鉱物	橙
19	III－1					櫛歯文		礫・砂、赤色鉱物	暗褐
20	III－6				RL			礫・砂、黒色鉱物	暗赤褐
21	III－6				RL			砂	黄橙
22	III－6				RL			礫・砂、黒色鉱物	赤褐
23	III－6			1	RL			砂、黒色鉱物	赤橙
24	III－6			2	LR・RL			礫・砂、黒・白色鉱物	橙
25	III－7			2				礫・砂、黒・白色鉱物	赤褐

68号土坑出土土器

	分類	口縁	口唇加工	底	地文	文様要素	文様	胎土	色調
1	III－2	外反平縁	斜刻み			幅8㎜爪形文（羽状太刻み付）	横位弧線文（向弧型）	礫・砂、黒色鉱物	黄橙
2	III－4	外反平縁			RL	幅7㎜爪形文、平行沈線文	山形区画蕨手文	礫・砂、黒・白色鉱物	赤橙
3	III－8				RL	孔		礫・砂、黒色鉱物	赤褐
4	III－2	外反平縁	縦隆線			幅7㎜爪形文（左傾太刻み付）	蕨手文	礫・砂	赤褐
5	III－4	外反平縁	縦隆線			幅7㎜爪形文、平行沈線文（右傾太刻み付）	格子目文	礫・砂、黒・白色鉱物	赤褐
6	III－2	弱外反平縁				幅6㎜爪形文（左傾太刻み付）		砂、黒色鉱物	暗褐
7	III－2	外反平縁				幅5㎜爪形文（右傾太刻み付）		礫・砂、金色鉱物	赤褐
8	III－2					幅7㎜爪形文(羽状太刻み付)、円形竹管文	横位弧線文（向弧型）	礫・砂、黒色鉱物	暗褐
9	III－2				RL	幅6㎜爪形文	横位弧線文（背弧型）	礫・砂、黒・赤色鉱物	橙
10	III－2					幅8㎜爪形文(羽状太刻み付)、円形竹管文	横位弧線文（向弧型）	礫・砂、黒色鉱物	褐
11	III－2					幅9㎜爪形文、径12㎜円形竹管文	横位弧線文（背弧型）	砂	黄橙
12	III－2					幅8㎜爪形文	横位弧線文（向弧型）	礫・砂	赤橙
13	III－2					幅7㎜爪形文（右傾太刻み付）		礫・砂	赤褐
14	III－2				L	幅7㎜爪形文		礫・砂、赤色鉱物	橙
15	III－2					幅7㎜爪形文		礫・砂	橙
16	III－2					幅8㎜爪形文（羽状太刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	橙
17	III－2					幅9㎜爪形文（右傾太刻み付）		砂	黒褐
18	III－2					幅6㎜爪形文（左傾細刻み付）		礫・砂、黒・白色鉱物	褐
19	III－2					幅9㎜爪形文（右傾太刻み付）		砂、黒色鉱物	黄橙
20	III－2					幅8㎜爪形文		砂、黒色鉱物	黄橙
21	III－2				RL	幅6㎜爪形文		礫・砂、黒色鉱物	黄橙
22	III－2					幅7㎜爪形文		礫・砂	橙
23	III－2					幅6㎜爪形文（左傾太刻み付）		礫・砂	赤橙
24	III－2					幅6㎜爪形文（羽状太刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	褐
25	III－2	外反平縁				幅6㎜爪形文（左傾太刻み付）		礫・砂	黒褐
26	III－4	外反平縁				幅7㎜平行沈線文			暗褐
27	III－4	外反平縁				幅6㎜平行沈線文		礫・砂、黒・赤色鉱物	赤橙
28	III－4	外反平縁				幅4㎜平行沈線文		砂、黒色鉱物	暗褐
29	III－4				L	幅8㎜平行沈線文、径7㎜円形竹管文	波状文（多段型）	礫・砂、赤・白色鉱物	橙
30	III－1				RL	櫛歯文、径10㎜円形竹管文	波状文	礫・砂、黒色鉱物	黄橙
31	III－6				RL			礫・砂、黒色鉱物	赤褐
32	III－6				RL			礫・砂、黒色鉱物	赤橙
33	III－6				RL			砂、黒色鉱物	赤橙

	分類	口　縁	口唇加工	底	地文	文　様　要　素	文　様	胎　土	色調
34	III－6				RL			礫・砂、黒色鉱物	黄褐
35	III－6				RL			砂、赤色鉱物	赤橙
36	III－6				RL			砂	黄橙
37	III－6				RL			礫・砂、赤色鉱物	赤橙
38	III－6				RL			礫・砂	赤橙
39	III－6				RL			砂、白色鉱物	褐
40	III－6				LR			礫・砂	黄橙

71号土坑出土土器

	分類	口　縁	口唇加工	底	地文	文　様　要　素	文　様	胎　土	色調
1	III－4				RL	幅9㎜爪形文、平行沈線文	菱形文	礫・砂、黒色鉱物	黒褐
2	III－8	外反平縁			RL	幅4㎜爪形文		礫・砂	黒褐
3	III	外反平縁	双頭、鰭突起		RL	径11㎜円形竹管文	横線文	礫・砂	黄橙
4	III－3				LR・RL	厚2㎜浮線文（羽状太刻み付）		礫・砂、黒・白色鉱物	褐
5	III－6				LR			礫・砂、黒色鉱物	灰褐
6	III－2	外反平縁				幅9㎜爪形文		礫・砂、黒色鉱物	黄橙
7	III－2				LR	幅8㎜爪形文	横位弧線文（背弧型）	礫・砂、赤色鉱物	褐
8	III－2				RL	幅7㎜爪形文（羽状太刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	赤橙
9	III－2					幅8㎜爪形文（ハ字太刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	灰褐
10	III－2					幅10㎜爪形文（左傾太刻み付）		礫・砂	赤褐
11	III－2				RL	幅8㎜爪形文		砂、黒色鉱物	赤橙
12	III－2					幅6㎜爪形文		礫・砂、赤色鉱物	黄橙
13	III－2					幅8㎜爪形文		砂、黒色鉱物	黒褐
14	III－3	弱内湾A平縁				厚2㎜浮線文（左傾太刻み付）	π字蕨手文	礫・砂	赤褐
15	III－3					厚1㎜浮線文（羽状太刻み付）	π字蕨手文（渦巻文）	礫・砂	黄橙
16	III－3	弱内湾A平縁	獣面突起		RL	厚2㎜浮線文（羽状、ハ字太刻み付）	π字蕨手文（渦巻文）	砂、黒色鉱物	黄橙
17	III－3				RL	厚2㎜浮線文（右傾太刻み付）		礫・砂、黒・赤色鉱物	褐
18	III－3				RL	厚1.5㎜浮線文（ハ字太刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	赤橙
19	III－3				RL	厚1.5㎜浮線文（右傾太刻み付）		砂、赤色鉱物	黄橙
20	III－7							礫・砂、黒・赤色鉱物	黄橙
21	III－4					幅7㎜平行沈線文		砂	黒褐
22	III－4				LR	幅6㎜平行沈線文		砂	赤褐
23	III－4					幅8㎜平行沈線文		砂、黒・赤色鉱物	暗褐
24	III－6	弱外反平縁	刻み		RL			砂	黄橙
25	III－6				LR・RL			礫・砂、黒色鉱物	赤橙
26	III－6	弱内湾A波状			RL			礫・砂	暗褐
27	III－6				LR			砂	黄橙

72号土坑出土土器

	分類	口　縁	口唇加工	底	地文	文　様　要　素	文　様	胎　土	色調
1	III－2	外反波状				幅9㎜爪形文（左傾太刻み付）円形竹管文	蕨手文	砂、黒・赤色鉱物	黄橙

73号土坑出土土器

	分類	口　縁	口唇加工	底	地文	文　様　要　素	文　様	胎　土	色調
1	III－3	弱内湾A波状	獣面突起			厚2㎜浮線文（羽状太刻み付）		砂、黒・赤色鉱物	黄橙
2	III－6				RL			砂、赤色鉱物	赤褐

74号土坑出土土器

	分類	口　縁	口唇加工	底	地文	文　様　要　素	文　様	胎　土	色調
1	III－8		波状隆線		LR			礫・砂	黄橙
2	III－3	弱内湾A波状	縦隆線			厚2㎜浮線文（羽状太刻み付）、瘤	π字蕨手文	砂	褐
3	III－2					幅9㎜爪形文		礫・砂、黒色鉱物	暗褐

	分類	口　縁	口唇加工	底	地文	文　様　要　素	文　様	胎　土	色調
4	III－2		波状隆線			幅9㎜爪形文		礫・砂、黒・赤色鉱物	赤橙
5	III－3	弱内湾A平縁			RL	厚2㎜浮線文（羽状太刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	赤褐
6	III－3				RL	厚3㎜浮線文（羽状太刻み付）		砂、黒色鉱物	暗褐
7	III－3				L	厚3㎜浮線文（羽状太刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	赤褐
8	III－3				LR	厚1.5㎜浮線文（右傾太刻み付）		砂、黒・赤色鉱物	褐
9	III－4	外反平縁				幅9㎜平行沈線文		砂、赤色鉱物	暗赤褐
10	III－4				RL	幅4㎜平行沈線文	多重渦巻文	礫・砂	灰褐
11	III－4				L	幅7㎜平行沈線文	鋸歯状文	砂、赤色鉱物	暗褐
12	III－4				LR	幅8㎜平行沈線文		砂、白・黒色鉱物	暗褐
13	III－4				L	幅8㎜平行沈線文		礫・砂、赤色鉱物	暗褐
14	III－6				LR			礫・砂、白・黒・赤色鉱物	赤橙

75号土坑出土土器

	分類	口　縁	口唇加工	底	地文	文　様　要　素	文　様	胎　土	色調
1	III－2	外反平縁				幅9㎜爪形文		砂、白・黒・赤色鉱物	褐
2	III－2					幅8㎜爪形文（羽状太刻み付）		砂、白・黒・赤色鉱物	黒褐
3	III－2					幅6㎜爪形文		礫・砂、黒色鉱物	暗褐
4	III－2					幅8㎜爪形文（横位太刻み付）		砂、黒色鉱物	灰褐
5	III－2					幅8㎜爪形文（右傾太刻み付）		砂、白・黒・赤色鉱物	灰褐
6	III－2				RL	幅7㎜爪形文		礫・砂、白・赤色鉱物	褐
7	III－2				RL	幅6㎜爪形文		礫・砂	黒褐
8	III－2					幅8㎜爪形文		礫・砂、赤色鉱物	褐
9	III－2					幅5㎜爪形文		礫・砂、赤色鉱物	暗赤褐
10	III－2					幅6㎜爪形文（右傾太刻み付）		砂、黒・赤色鉱物	灰褐
11	III－2					幅7㎜爪形文（羽状太刻み付）		礫・砂、黒・赤色鉱物	黄橙
12	III－4				LR・RL	幅8㎜爪形文（左傾太刻み付）、瘤幅8㎜平行沈線文、径8㎜円形竹管文	格子目文	礫・砂、白・黒・赤色鉱物	赤褐
13	III－3	外反平縁			L	厚1㎜浮線文（左傾太刻み付）	横線文	礫・砂、白・黒・赤色鉱物	赤褐
14	III－3				LR・RL	厚2.5㎜浮線文（右傾太刻み付）	横線文	砂、黒・赤色鉱物	橙
15	III－3			2	LR	厚2㎜浮線文（右傾太刻み付）		礫・砂、白・黒色鉱物	黄橙
16	III－3				RL	厚2㎜浮線文		礫・砂、黒・赤色鉱物	灰褐
17	III－3			2		厚3㎜浮線文（羽状細刻み付）		砂、黒色鉱物	黄橙
18	III－4					幅4㎜平行沈線文、径5㎜円形竹管文	木葉文	礫・砂、黒・赤色鉱物	黄橙
19	III－4				RL	幅2㎜平行沈線文		礫・砂、黒・赤色鉱物	赤橙
20	III－7	内湾平縁		1				礫・砂、白・赤色鉱物	赤橙
21	III－6				RL			礫・砂、赤色鉱物	赤褐
22	III－6				RL			礫・砂	赤褐
23	III－6				RL			砂、黒色鉱物	灰褐
24	III－6			1	RL			礫・砂、黒色鉱物	赤褐

80号土坑出土土器

	分類	口　縁	口唇加工	底	地文	文　様　要　素	文　様	胎　土	色調
1	III－4	外反波状			L	幅4㎜平行沈線文	菱形区画つ字文	礫・砂、黒色鉱物	赤褐
2	III－2	外反平縁				幅6㎜爪形文		砂、黒色鉱物	赤褐
3	III－3				RL	厚1.5㎜浮線文（ハ字、羽状太刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	赤橙
4	III－4	内湾波状			RL	幅5㎜平行沈線文、瘤	横線文	礫・砂、白・黒色鉱物	暗赤褐
5	III－4	内湾波状				幅4㎜平行沈線文	多重渦巻文	礫・砂、黒・赤色鉱物	赤橙
6	III－6				RL			礫・砂、白・黒色鉱物	赤褐

81号土坑出土土器

	分類	口　縁	口唇加工	底	地文	文　様　要　素	文　様	胎　土	色調
1	II							繊維、礫・砂、赤色鉱物	赤褐
2	III－4					幅4㎜平行沈線文	多重渦巻文	礫・砂、白・黒色鉱物	赤褐
3	III－4				RL	幅5㎜平行沈線文		礫・砂、白・黒色鉱物	赤褐
4	III－4				LR	幅6㎜平行沈線文		礫・砂、黒・赤色鉱物	橙
5	III－6	外反平縁			L			礫・砂、黒・赤色鉱物	暗赤褐
6	III－6				L			礫・砂、白・黒・赤色鉱物	暗褐
7	III－6				RL			礫・砂、白・黒色鉱物	黄橙
8	III－6				RL			砂、黒・赤色鉱物	黄橙
9	III－6				RL			砂、黒・赤色鉱物	暗赤褐
10	III－6				RL			砂、黒・赤色鉱物	黄橙
11	III－7							礫・砂、黒・赤色鉱物	暗褐

82号土坑出土土器

	分類	口　縁	口唇加工	底	地文	文　様　要　素	文　様	胎　土	色調
1	III－4				L	幅3㎜平行沈線文	菱形文	礫・砂、黒色鉱物	暗褐
2	II				ループR			繊維、礫・砂、白色鉱物	褐
3	III－4	外反平縁	縦刻み			幅7㎜平行沈線文		礫・砂、白・黒・赤色鉱物	暗褐
4	III－4	外反平縁				幅5㎜平行沈線文		砂、黒色鉱物	褐
5	III－4					幅5㎜平行沈線文	菱形区画つ字文	砂、白・黒色鉱物	暗褐
6	III－4					幅5㎜平行沈線文	菱形区画つ字文	砂、白・赤色鉱物	暗赤褐
7	III－4					幅6㎜平行沈線文	菱形文	砂、白・黒・赤色鉱物	暗褐
8	III－4					幅6㎜平行沈線文		砂、黒・赤色鉱物	黄橙
9	III－4					幅6㎜平行沈線文	菱形文	砂、白・黒・赤色鉱物	黄橙
10	III－4					幅6㎜平行沈線文		礫・砂、黒・赤色鉱物	赤褐
11	III－4				LR	幅4㎜平行沈線文		礫・砂、白・黒色鉱物	黒褐
12	III－4					幅5㎜平行沈線文	鋸歯状文	砂、白・黒・赤色鉱物	黄橙
13	III－6				RL			砂、黒・赤色鉱物	赤橙
14	III－6				RL			礫・砂、白・黒色鉱物	黄橙
15	III－6				L			礫・砂、黒・赤色鉱物	灰褐
16	III－7							礫・砂、白・黒・赤色鉱物	黄橙

83号土坑出土土器

	分類	口　縁	口唇加工	底	地文	文　様　要　素	文　様	胎　土	色調
1	II							繊維、砂	灰褐
2	III－3				RL	厚2㎜浮線文（羽状太刻み付）		礫・砂、黒・赤色鉱物	橙
3	III－6				RL			礫・砂、黒色鉱物	橙

84号土坑出土土器

	分類	口　縁	口唇加工	底	地文	文　様　要　素	文　様	胎　土	色調
1	III－2				RL	幅8㎜爪形文	蕨手文	礫・砂、黒色鉱物	褐
2	III－7							礫・砂	褐
3	III－2	外反平縁				幅8㎜爪形文		砂	黒褐
4	III－2					幅8㎜爪形文		礫・砂、黒・赤色鉱物	赤橙
5	III－2					幅8㎜爪形文	渦巻文	礫・砂、黒色鉱物	赤橙
6	III－2					幅7㎜爪形文		砂	黄橙
7	III－2					幅9㎜爪形文		礫・砂	赤橙
8	III－2					幅7㎜爪形文	渦巻文	礫・砂、赤色鉱物	黄褐
9	III－2				RL	幅6㎜爪形文		礫・砂、黒色鉱物	暗赤褐
10	III－4	弱外反平縁				幅6㎜平行沈線文	格子目文	礫・砂	暗褐
11	III－4′	弱外反平縁	単頭突起		RL	厚2㎜隆帯（左傾太刻み付）、幅4㎜平行沈線文	格子目文	礫・砂、赤色鉱物	橙
12	III－7	外反平縁						礫・砂	黄橙
13	III－6				RL			礫・砂、黒色鉱物	赤橙

91号土坑出土土器

	分類	口縁	口唇加工	底	地文	文様要素	文様	胎土	色調
1	III－2					幅９㎜爪形文		砂、黒色鉱物	黄橙
2	III－8					厚1.5㎜隆帯（右傾太刻み付）		礫・砂	黒褐

92号土坑出土土器

	分類	口縁	口唇加工	底	地文	文様要素	文様	胎土	色調
1	III－1	外反平縁				櫛歯文	波状文（交互型）	砂、黒色鉱物	橙
2	III－2					幅８㎜爪形文		砂、黒色鉱物	暗褐
3	III－2					幅６㎜爪形文		礫・砂	灰褐
4	III－2					幅９㎜爪形文（左傾太刻み付）	渦巻文	砂、黒色鉱物	赤橙
5	III－2					幅６㎜爪形文		砂、赤色鉱物	黒褐
6	III－3	内湾波状				厚1.5㎜浮線文（羽状太刻み付）	多重渦巻文	礫・砂	黄褐
7	III－3				RL	厚２㎜浮線文（左傾細刻み付）		砂、赤色鉱物	黄褐
8	III－4	外反平縁	突起			幅７㎜爪形文、平行沈線文	格子目文	砂、黒色鉱物	黄橙
9	III－6				RL			礫・砂	暗褐
10	III－6				RL			礫・砂	暗褐

94号土坑出土土器

	分類	口縁	口唇加工	底	地文	文様要素	文様	胎土	色調
1	III－2				RL	幅９㎜爪形文（D字刺突付）		砂、黒・赤色鉱物	黄橙
2	III－2					幅９㎜爪形文（右傾太刻み付）		礫・砂	橙
3	III－2				RL	幅６㎜爪形文（左傾太刻み付）		礫・砂、赤色鉱物	黄橙
4	III－2				LR	幅９㎜爪形文		砂	橙
5	III－2					幅８㎜爪形文（左傾太刻み付）	横位弧線文（背弧型）	砂	橙
6	III－4	外反平縁				幅７㎜平行沈線文		礫・砂、赤色鉱物	赤橙
7	III－4					幅４㎜平行沈線文	多重渦巻文	礫・砂、赤色鉱物	暗赤褐
8	III－6				LR			礫・砂、黒色鉱物	赤橙
9	III－3				LR	厚1.5㎜浮線文		礫・砂、黒色鉱物	橙

99号土坑出土土器

	分類	口縁	口唇加工	底	地文	文様要素	文様	胎土	色調
1	III－2	弱外反平縁	双頭突起			幅11㎜爪形文（羽状太刻み付）	横位弧線文（向弧型）	礫・砂、黒色鉱物	褐
2	III－2	弱外反平縁	爪形文			幅11㎜爪形文（D字刺突付）、円形竹管文	山形区画蕨手文	礫・砂、黒・白色鉱物	褐
3	III－2				LR・RL	幅８㎜爪形文		礫・砂、黒・赤色鉱物	橙
4	III－6				RL			礫・砂、黒色鉱物	橙
5	III－1	外反平縁				櫛歯文	波状文（交互型）	礫・砂、黒色鉱物	灰褐
6	III－3	弱外反平縁	双頭突起、凹み		RL	厚２㎜浮線文（羽状、ハ字太刻み付）	横線文	礫・砂、黒色鉱物	橙
7	III－2′	外反波状				幅６㎜爪形文、厚３㎜隆帯	山形文	砂	黄橙
8	III－2					幅５㎜爪形文（羽状太刻み付）、円形竹管文	蕨手文	礫・砂、赤色鉱物	
9	III－2					幅７㎜爪形文	渦巻文	礫・砂	黄橙
10	III－2					幅６㎜爪形文、径７㎜円形竹管文		砂	黄橙
11	III－2					幅７㎜爪形文、径８㎜円形竹管文		礫・砂、黒・赤色鉱物	褐
12	III－2					幅10㎜爪形文		礫・砂、黒・白色鉱物	橙
13	III－2				LR	幅５㎜爪形文		砂、黒色鉱物	黄橙
14	III－3	弱内湾Ａ波状	縦刻み			厚1.5㎜浮線文（左傾太刻み付）		礫・砂、赤色鉱物	赤橙
15	III－3				LR	厚1.5㎜浮線文（左傾太刻み付）		砂、赤色鉱物	黄褐
16	III－1					櫛歯文	波状文（交互型）	砂、黒色鉱物	橙
17	III－4					幅４㎜平行沈線文	波状文（交互型）	砂	黄橙
18	III－4					幅６㎜平行沈線文	波状文	礫・砂	赤褐
19	III－4					幅６㎜平行沈線文		礫・砂	黄橙
20	III－6				RL			砂	赤褐
21	III－6				LR			砂	橙
22	III－6			2	RL			礫・砂、黒色鉱物	黄橙

100号土坑出土土器

	分類	口　縁	口唇加工	底	地文	文　様　要　素	文　様	胎　土	色調
1	III－2					幅７㎜爪形文		礫・砂、黒色鉱物	赤褐
2	III－2					幅10㎜爪形文	横位弧線文（背弧型）	礫・砂、黒色鉱物	黒褐
3	III－2					幅９㎜爪形文		礫・砂、黒色鉱物	黒褐
4	III－6				RL			礫・砂、黒色鉱物	灰褐
5	III－6				LR			砂	灰褐
6	III－6				RL			礫・砂、黒色鉱物	褐

105号土坑出土土器

	分類	口　縁	口唇加工	底	地文	文　様　要　素	文　様	胎　土	色調
1	III－2					幅９㎜爪形文（右傾太刻み付）	蕨手文	礫・砂、黒色鉱物	赤橙
2	II				LR			繊維、礫・砂、黒色鉱物	黄褐

107号土坑出土土器

	分類	口　縁	口唇加工	底	地文	文　様　要　素	文　様	胎　土	色調
1	III－2	二単位波状				幅５㎜爪形文（右傾太刻み付）	蕨手文	礫・砂、黒色鉱物	褐
2	III－2			2	LR・RL	幅11㎜爪形文		礫・砂、黒色鉱物	黄橙
3	III－3	外反平縁	縦刻み			厚２㎜浮線文（羽状太刻み付）、円形竹管文	枠状文	礫・砂、黒色鉱物	褐
4	III－3	弱内湾Ａ波状	単頭突起、縦刻み		RL	厚２㎜浮線文（羽状太刻み付）	横線文	礫・砂、黒色鉱物	黄橙
5	III－3			1	RL	厚２㎜浮線文（羽状太刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	黄橙
6	III－6	内湾波状			RL			礫・砂、黒・白色鉱物	暗褐
7	III－3			1	RL	厚1.5㎜浮線文（羽状太刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	黄橙
8	III－2	外反波状				幅８㎜爪形文（羽状太刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	赤褐
9	III－2					幅８㎜爪形文（羽状太刻み付）		礫・砂、黒・赤色鉱物	灰褐
10	III－2					幅11㎜爪形文（右傾太刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	赤褐
11	III－2					幅７㎜爪形文（羽状太刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	褐
12	III－2					幅９㎜爪形文、径９㎜円形竹管文		礫・砂、黒色鉱物	暗褐
13	III－2					幅10㎜爪形文	渦巻文	礫・砂、黒・白色鉱物	橙
14	III－2					幅９㎜爪形文	蕨手文	礫・砂、黒色鉱物	暗褐
15	III－2					幅８㎜爪形文	渦巻文	砂、黒色鉱物	黄橙
16	III－2					幅８㎜爪形文（羽状太刻み付）	横位弧線文（背弧型）	礫・砂、黒色鉱物	黄橙
17	III－2					幅８㎜爪形文		礫・砂、黒・赤色鉱物	暗褐
18	III－2					幅８㎜爪形文（右傾太刻み付）	横位弧線文（向弧型）	砂	赤褐
19	III－2				RL	幅10㎜爪形文	大波状文	礫・砂、黒色鉱物	黄橙
20	III－2				RL	幅７㎜爪形文（右傾太刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	赤褐
21	III－2					幅８㎜爪形文		砂、黒色鉱物	灰褐
22	III－2					幅７㎜爪形文		礫・砂	
23	III－2				RL	幅７㎜爪形文		礫・砂、黒色鉱物	赤褐
24	III－2				RL	幅８㎜爪形文（左傾太刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	暗褐
25	III－2					幅６㎜爪形文（羽状太刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	橙
26	III－2					幅10㎜爪形文（羽状太刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	赤褐
27	III－2					幅７㎜爪形文（羽状太刻み付）		砂、黒色鉱物	黄橙
28	III－2					幅７㎜爪形文（羽状太刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	黄橙
29	III－2					幅８㎜爪形文		礫・砂、黒色鉱物	黄橙
30	III－2					幅９㎜爪形文（羽状太刻み付）		礫・砂、黒・赤色鉱物	灰褐
31	III－2					幅９㎜爪形文（右傾太刻み付）		礫・砂	赤橙
32	III－2					幅９㎜爪形文（羽状太刻み付）		礫・砂	黄橙
33	III－2				RL	変形爪形文		砂	
34	III－3	外反平縁				厚２㎜浮線文（右傾太刻み付）		礫・砂	赤褐
35	III－3	弱内湾Ａ平縁				厚2.5㎜浮線文（羽状太刻み付）		礫・砂、黒・赤色鉱物	褐
36	III－3	外反平縁	凹み		LR	厚2.5㎜浮線文（羽状太刻み付）	横線文	砂、黒色鉱物	橙
37	III－3	外反平縁	斜刻		RL	厚２㎜浮線文	横線文	礫・砂、黒・赤色鉱物	黄褐
38	III－3				RL	厚２㎜浮線文（羽状太刻み付）	π字蕨手文（渦巻型）	礫・砂、黒色鉱物	暗褐
39	III－3				L	厚2.5㎜浮線文（羽状太刻み付）		礫・砂、白色鉱物	赤褐
40	III－3				RL	厚２㎜浮線文（羽状太刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	黄褐

	分類	口縁	口唇加工	底	地文	文様要素	文様	胎土	色調
41	III－3				RL	厚2㎜浮線文（羽状太刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	褐
42	III－3					厚2㎜浮線文（羽状太刻み付）		砂、白・黒色鉱物	赤褐
43	III－3			4		厚2.5㎜浮線文（太刻み付）		礫・砂	黄橙
44	III－4					幅6㎜平行沈線文		礫・砂	褐
45	III－4					幅6㎜平行沈線文		礫・砂	黄橙
46	III－6				LR			砂、黒色鉱物	灰褐
47	III－6				RL			礫・砂、黒色鉱物	黄橙
48	III－6				RL			礫・砂	褐
49	III－6				LR・RL			礫・砂、黒色鉱物	褐
50	II				LR・RL			繊維、砂	赤褐
51	III－6				RR			礫・砂、黒色鉱物	赤橙
52	III－6				RL			礫・砂、黒色鉱物	灰褐
53	III－6				RL・LR			礫・砂、黒色鉱物	黄橙
54	III－6				LR			砂、黒色鉱物	灰褐
55	III－6				LR			礫・砂、黒色鉱物	灰褐
56	III－6				LR			礫・砂、黒色鉱物	黄橙
57	III－4				RR	幅8㎜平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	赤橙
58	III－8	内湾				幅5㎜爪形文		砂、黒色鉱物	暗褐

108号土坑出土土器

	分類	口縁	口唇加工	底	地文	文様要素	文様	胎土	色調
1	III－4				LR	幅10㎜平行沈線文、単沈線文	格子目文	礫・砂、黒色鉱物	褐
2	IV					幅6㎜爪形文、平行沈線文	横位矢羽根状文	砂、白色鉱物	黄橙
3	III－6			2	RL			礫・砂、黒・白色鉱物	赤橙
4	III－2					幅11㎜爪形文		砂、赤色鉱物	橙
5	III－3	弱内湾A平縁			RL	厚3㎜浮線文		砂	黄橙
6	III－3					厚1.5㎜浮線文（羽状太刻み付）		砂、黒色鉱物	橙
7	III－3				RL	厚1.5㎜浮線文		礫・砂、黒・白色鉱物	灰褐
8	III－4					幅11㎜平行沈線文		礫・砂、黒・赤色鉱物	赤橙
9	III－4					幅7㎜平行沈線文	横位弧線文（背弧型）	砂、黒・赤色鉱物	黄橙
10	III－4					幅7㎜平行沈線文		砂、黒色鉱物	黄橙
11	III－4	外反平縁				幅9㎜平行沈線文		砂、黒・赤色鉱物	赤褐
12	III－4					幅9㎜平行沈線文	菱形区画つ字文	礫・砂、黒・白・赤色鉱物	赤褐
13	III－6				RL			砂、黒色鉱物	暗褐
14	III－6				RL			礫・砂、黒・白・赤色鉱物	赤橙
15	III－6				LR			礫・砂、黒・白・赤色鉱物	橙
16	III－6				LR			砂	橙

109号土坑出土土器

	分類	口縁	口唇加工	底	地文	文様要素	文様	胎土	色調
1	III－4				RL	幅4㎜平行沈線文	入組木葉文	礫・砂、黒・赤色鉱物	褐
2	III－4				LR	幅2㎜平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	褐
3	II				LR・RL			繊維、赤色鉱物	橙
4	III－2				RL	幅8㎜爪形文		礫・砂、黒・白色鉱物	暗褐
5	III－3	内湾平縁	双頭突起		RL	厚1㎜浮線文（羽状細刻み付）	多重渦巻文	礫・砂、黒・赤色鉱物	灰褐
6	III－3				RL	厚1㎜浮線文（羽状細刻み付）		砂、黒・赤色鉱物	黄橙
7	III－3				LR	厚2㎜浮線文（ハ字太刻み付）		砂、白色鉱物	暗褐
8	III－3			1		厚2㎜浮線文（左傾太刻み付）		砂、黒色鉱物	黄橙
9	III－4	外反平縁	縦刻み			幅10㎜平行沈線文		砂、黒色鉱物	黒褐
10	III－2	外反平縁				幅8㎜爪形文		砂、黒・赤色鉱物	黄橙
11	III－4	弱内湾A平縁				幅3㎜平行沈線文		礫・砂、黒・白・赤色鉱物	赤褐
12	III－4	外形平縁			LR	幅6㎜平行沈線文			暗赤褐
13	III－4					幅9㎜平行沈線文	横位弧線文（向弧型）	砂、黒・赤色鉱物	黄橙
14	III－4					幅3㎜平行沈線文	入組木葉文	礫・砂、黒・赤色鉱物	褐

	分類	口　縁	口唇加工	底	地文	文　様　要　素	文　様	胎　土	色調
15	III－4					幅5㎜平行沈線文	菱形文	砂、黒・白色鉱物	橙
16	III－4					幅3㎜平行沈線文		砂、黒・赤色鉱物	黄褐
17	III－4					幅7㎜平行沈線文		砂、白色鉱物	黒褐
18	III－6				L			礫・砂、白・赤色鉱物	赤橙
19	III－6				RL			礫・砂、赤色鉱物	橙
20	III－6				RL			砂、黒・白・赤色鉱物	黄橙
21	III－6				RL			砂、黒・白色鉱物	灰褐
22	III－6				RL			砂、赤色鉱物	赤褐
23	III－6				LR			砂、赤色鉱物	灰褐
24	III－6				RL			礫・砂、赤色鉱物	暗赤褐
25	III－6				LR				赤褐
26	III－6				RL			礫・砂	褐
27	III－6				LR			礫・砂、黒色鉱物	暗褐
28	III－6			2	RL			礫・砂、黒色鉱物	赤橙

111号土坑出土土器

	分類	口　縁	口唇加工	底	地文	文　様　要　素	文　様	胎　土	色調
1	II				LR			繊維、砂	暗褐
2	III－2					幅7㎜爪形文		砂、赤色鉱物	暗赤褐
3	III－2					幅8㎜爪形文		礫・砂、黒・赤色鉱物	黄橙
4	III－2					幅8㎜爪形文（左傾太刻み付）		砂	灰褐
5	III－6				RL			礫・砂、黒色鉱物	黒褐
6	III－6			1	RL			砂、黒色鉱物	黄橙
7	III－6				RL			砂、黒・赤色鉱物	褐
8	III－6				RL			砂	灰褐
9	III－6				RL			礫・砂、黒・赤色鉱物	橙
10	III－6			2	RL			砂、黒・赤色鉱物	黄橙

112号土坑出土土器

	分類	口　縁	口唇加工	底	地文	文　様　要　素	文　様	胎　土	色調
1	II				LR			繊維、砂、白色鉱物	赤橙
2	III－3	弱内湾A平縁	斜刻み		RL	厚1㎜浮線文（右傾太刻み付）		砂、白色鉱物	黄橙

113号土坑出土土器

	分類	口　縁	口唇加工	底	地文	文　様　要　素	文　様	胎　土	色調
1	III－2	外反波状				幅6㎜爪形文、孔		礫・砂、白・赤色鉱物	赤褐
2	III－2	弱外反平縁				幅8㎜爪形文		礫・砂、白・赤色鉱物	灰褐
3	III－2					幅5㎜爪形文（右傾太刻み付）	蕨手文	砂、黒・赤色鉱物	黄褐
4	III－2					幅8㎜爪形文（羽状太刻み付）		礫・砂、赤色鉱物	赤褐
5	III－2				RL	幅7㎜爪形文		砂、黒・白・赤色鉱物	赤橙
6	III－2					幅7㎜爪形文	菱形文	礫・砂、白・赤色鉱物	黒褐
7	III－6				LR			礫・砂、赤色鉱物	橙
8	III－6				RL			礫・砂、黒・白色鉱物	褐
9	III－6				RL			砂	灰褐

116号土坑出土土器

	分類	口　縁	口唇加工	底	地文	文　様　要　素	文　様	胎　土	色調
1	III－4	外反平縁				幅9㎜平行沈線文		砂、黒色鉱物	黄橙
2	III－6				L			砂、黒色鉱物	橙

118号土坑出土土器

	分類	口　縁	口唇加工	底	地文	文　様　要　素	文　様	胎　土	色調
1	III－2	外反平縁				幅10㎜爪形文（右傾太刻み付）		礫・砂、赤色鉱物	黒褐
2	III－6				RL			砂、黒色鉱物	黄橙
3	III－6				RL			砂、赤色鉱物	灰褐
4	III－6				RL			礫・砂、黒・白・赤色鉱物	赤褐

121号土坑出土土器

	分類	口縁	口唇加工	底	地文	文様要素	文様	胎土	色調
1	III－3	内湾波状	渦巻突起			厚1㎜浮線文（羽状細刻み付）	多重渦巻文	礫・砂、黒色鉱物	黄橙
2	III－4			4		幅3㎜平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	赤橙
3	III－2					幅11㎜爪形文（左傾太刻み付）		砂、赤色鉱物	赤褐
4	III－3	内湾平縁				厚3㎜浮線文		礫・砂	赤橙
5	III－3	内湾平縁	渦巻突起			厚1㎜浮線文（羽状細刻み付）		礫・砂、赤色鉱物	橙
6	III－3				RL	厚2㎜浮線文（羽状太刻み付）		砂、赤色鉱物	暗赤褐
7	III－4	外反平縁				幅5㎜平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	赤橙
8	III－4	外反平縁	縦刻み			幅7㎜平行沈線文		砂、赤色鉱物	赤褐
9	III－4				RL	幅4㎜平行沈線文		礫・砂、黒・白・赤色鉱物	赤褐
10	III－4				L	幅7㎜平行沈線文	菱形文	礫・砂、黒・白色鉱物	暗赤褐
11	III－4					幅5㎜平行沈線文		礫・砂、黒・白色鉱物	暗褐
12	III－4					幅5㎜平行沈線文		砂、黒・白色鉱物	暗赤褐
13	III－6	外反平縁			LR			砂、赤色鉱物	暗赤褐
14	III－6	弱内湾A平縁	斜刻み		RL			礫・砂、白・赤色鉱物	暗赤褐
15	III－6				RL			礫・砂、黒・白色鉱物	褐
16	III－6				RL			砂、黒・白色鉱物	赤橙
17	III－6				RL			礫・砂、黒・赤色鉱物	暗赤褐
18	III－6				RL			砂、黒・白色鉱物	赤橙
19	III－6				RL			礫・砂、黒・白・赤色鉱物	赤褐
20	III－6				RL			砂、黒・白色鉱物	黄橙
21	III－6				RL			礫・砂、黒色鉱物	赤橙
22	III－6				LR			砂、赤色鉱物	赤褐
23	III－6				LR・RL			砂、黒色鉱物	黄橙
24	III－6				LR・RL			砂、黒・赤色鉱物	赤褐
25	IV				貝			砂、赤色鉱物	橙
26	IV					幅10㎜変形爪形文、幅2㎜平行沈線文、刺突文			灰褐
27	III－7							砂、赤色鉱物	赤橙
28	III－7							礫・砂、黒・白色鉱物	赤褐
29	IV		条線帯		貝	幅11㎜変形爪形文、左傾ヘラ刻み			黄褐

122号土坑出土土器

	分類	口縁	口唇加工	底	地文	文様要素	文様	胎土	色調
1	III－3	内湾波状			RL	厚2㎜浮線文（RL付）	多重渦巻文	礫・砂	褐
2	II				LR			繊維、礫、黒・赤色鉱物	黄橙
3	III－3					厚2.5㎜浮線文（羽状太刻み付）		砂、黒・赤色鉱物	黒褐
4	III－4	内湾平縁			LR	幅4㎜平行沈線文	鋸歯状文	砂、黒色鉱物	灰褐
5	III－4					幅10㎜平行沈線文	菱形区画小渦巻文	砂、黒・赤色鉱物	暗褐
6	III－4					幅8㎜平行沈線文	菱形文	砂、黒色鉱物	赤橙
7	III－4					幅4㎜平行沈線文	菱形文	砂、赤色鉱物	灰褐
8	III－4					幅5㎜平行沈線文		礫、白・黒色鉱物、砂	暗褐
9	III－4	弱内湾A平縁				幅4㎜平行沈線文		砂、黒・赤色鉱物	橙
10	III－4					幅6㎜平行沈線文		砂、黒・赤色鉱物	赤褐
11	III－4					幅4㎜平行沈線文		砂、黒色鉱物	黒褐
12	III－4					幅5㎜平行沈線文		砂、黒色鉱物	褐
13	III－6	外反平縁			RL			砂、黒・赤色鉱物	赤褐
14	III－6				RL			砂、黒・赤色鉱物	暗赤褐
15	III－6				RL			礫・砂、黒・赤色鉱物	赤褐
16	III－4				L	幅5㎜平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	赤褐
17	III－6				RL			礫・砂、黒色鉱物	赤褐

123A号土坑出土土器

	分類	口縁	口唇加工	底	地文	文様要素	文様	胎土	色調
1	III－4			3	RL	幅5㎜平行沈線文		礫・砂、黒・白色鉱物	黄橙
2	III－2					幅7㎜爪形文（羽状太刻み付）		礫・砂、黒・赤色鉱物	橙
3	III－4	外反波状	双頭突起			幅6㎜平行沈線文		砂	赤褐
4	III－4	外反波状	双頭突起			幅5㎜平行沈線文		砂	赤褐
5	III－4					幅4㎜平行沈線文	木葉文	礫・砂、黒色鉱物	橙
6	III－6				RL			礫・砂、白・黒色鉱物	褐
7	IV					幅2㎜平行沈線文、幅10㎜変形爪形文、刺突	横位矢羽根状文	礫・砂、黒色鉱物	灰褐

123B号土坑出土土器

	分類	口縁	口唇加工	底	地文	文様要素	文様	胎土	色調
1	III－3				LR	厚2㎜浮線文（羽状細刻み付）		礫・砂、白・黒・赤色鉱物	黄橙
2	III－3					厚1㎜浮線文（右傾細刻み付）	多重渦巻文	礫・砂	黄橙
3	III－4	弱外反平縁	眼鏡隆線			単沈線文		礫・砂、白・黒・赤色鉱物	橙
4	III－4					幅5㎜平行沈線文		砂、黒色鉱物	灰褐
5	III－4					幅4㎜平行沈線文		礫・砂、黒・赤色鉱物	暗褐
6	III－4					幅5㎜平行沈線文	菱形文	砂、黒・赤色鉱物	暗褐
7	III－4	内湾平縁		4	RL	幅5㎜平行沈線文	菱形区画つ字文	礫・砂、白・黒・赤色鉱物	赤褐
8	III－6				RL			砂、黒色鉱物	黄橙
9	III－6			2	RL			礫・砂、黒・赤色鉱物	赤褐
10	IV				貝			砂、白色鉱物	橙

124A号土坑出土土器

	分類	口縁	口唇加工	底	地文	文様要素	文様	胎土	色調
1	III－2	外反平縁				幅7㎜爪形文（左傾太刻み付）		礫・砂、赤色鉱物	褐
2	III－2					幅9㎜爪形文、径12㎜円形竹管文	蕨手文	砂、黒・白色鉱物	褐
3	III－3				LR	厚1.5㎜浮線文（太刻み付）	枠状文	礫・砂、黒・赤色鉱物	黄橙
4	III－3					厚1㎜浮線文（羽状太刻み、列点付）	風車状渦巻文	礫・砂、赤色鉱物	黄橙
5	III－3					厚0.5㎜浮線文（羽状太刻み、列点付）		礫・砂、赤色鉱物	橙
6	III－4	外反波状				幅4㎜平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	灰褐
7	III－4					幅7㎜平行沈線文、径7㎜円形管竹文	格子目文	礫・砂、黒・赤色鉱物	赤褐
8	III－7							礫、白・黒・赤色鉱物	灰褐
9	IV				貝			砂、白色鉱物	黄橙

124B号土坑出土土器

	分類	口縁	口唇加工	底	地文	文様要素	文様	胎土	色調
1	III－4				RL	幅3㎜平行沈線文		礫・砂、黒・白色鉱物	黄橙

124C号土坑出土土器

	分類	口縁	口唇加工	底	地文	文様要素	文様	胎土	色調
1	III－4	内湾平縁				幅5㎜平行沈線文		礫・砂、白・黒色鉱物	褐
2	III－4				RL	幅5㎜平行沈線文		礫・砂、白・黒・赤色鉱物	赤褐
3	III－4				RL	幅6㎜平行沈線文		砂、黒・赤色鉱物	暗褐
4	III－6			4	RL			礫・砂、白・黒・赤色鉱物	赤褐

130、131号土坑出土土器

	分類	口縁	口唇加工	底	地文	文様要素	文様	胎土	色調
1	II	外反			LR			繊維、砂、黒色鉱物	黄褐
2	III－2					幅7㎜爪形文（左傾太刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	赤橙
3	III－3				RL	厚2㎜浮線文（羽状太刻み付）		砂、黒色鉱物	灰褐
4	III－3				RL	厚2㎜浮線文（羽状ハ字太刻み付）		礫・砂	赤橙
5	III－3				RL	厚1.5㎜浮線文（RL付）		礫・砂	赤橙

	分類	口縁	口唇加工	底	地文	文様要素	文様	胎土	色調
6	III－3				RL	厚1㎜浮線文(羽状ハ字細刻み付)		礫・砂、黒色鉱物	橙
7	III－3				RL	厚1.5㎜浮線文（羽状細刻み付）		砂	赤橙
8	III－3				RL	厚1.5㎜浮線文（羽状細刻み付）		砂、黒色鉱物	赤橙
9	III－4	外反波状				幅8㎜平行沈線文	菱形区画つ字文	砂	赤褐
10	III－4				RL	幅5㎜平行沈線文		砂、黒色鉱物	赤橙
11	III－4					幅8㎜平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	暗褐
12	III－4				LR	幅8㎜平行沈線文(左傾太刻み付)		礫・砂	橙
13	III－4					幅5㎜平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	赤橙
14	IV					幅5㎜平行沈線文、幅5㎜爪形文	菱形文	砂	黄橙
15	III－6				RL			砂、黒・白色鉱物	橙
16	III－6				RL			砂、黒色鉱物	黄橙
17	III－6				RL			礫・砂、赤色鉱物	赤橙
18	III－6				LR			礫・砂、黒色鉱物	褐
19	III－6				LR			礫・砂、黒・白色鉱物	黄橙
20	III－6				LR			礫・砂、黒色鉱物	赤褐

132号土坑出土土器

	分類	口縁	口唇加工	底	地文	文様要素	文様	胎土	色調
1	III－2					幅10㎜爪形文（羽状太刻み付）		砂、赤色鉱物	黄橙
2	III－2					幅10㎜爪形文（右傾太刻み付）		砂	黒褐
3	III－2					幅8㎜爪形文	横位弧線文（向弧型）	礫・砂、黒色鉱物	赤橙
4	III－2				RL	幅11㎜爪形文		礫・砂、黒色鉱物	黒褐
5	III－3	弱内湾A平縁			LR	厚1.5㎜浮線文（右傾太刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	赤褐
6	III－3				RL	厚2㎜浮線文（羽状太刻み付）		礫・砂	橙
7	III－3					厚1㎜浮線文（右傾太刻み付）	π字蕨手文（渦巻型）	礫・砂、黒・白色鉱物	褐
8	III－3				LR・RL	厚2㎜浮線文（左傾太刻み付）		礫・砂、白色鉱物	暗褐
9	III－3					厚1㎜浮線文（羽状太刻み付）		礫・砂	橙
10	III－3				RL	厚2㎜浮線文（ハ字状刻み付）		砂	褐
11	III－3				RL	厚2㎜浮線文（左傾太刻み付）		砂	黄橙
12	III－3				LR	厚1.5㎜浮線文（左傾太刻み付）		砂、黒色鉱物	黄橙
13	III－3				RL	厚1㎜浮線文（羽状細刻み付）		砂	橙
14	III－3					厚0.5㎜浮線文(ハ字細刻み、列点付)		礫・砂	橙
15	III－4′					幅11㎜平行沈線文、厚1㎜隆帯(左傾太刻み付)		砂、黒色鉱物	黒褐
16	III－4	外反平縁	縦刻み			幅6㎜平行沈線文		砂、黒色鉱物	赤褐
17	III－4	内湾波状				幅5㎜平行沈線文		砂、白・赤色鉱物	赤褐
18	III－4					幅8㎜平行沈線文		砂、黒・赤色鉱物	暗赤褐
19	III－4				L	幅4㎜平行沈線文	横位弧線文（背弧型）	礫・砂、黒色鉱物	赤褐
20	III－4					幅9㎜平行沈線文	横位弧線文（背弧型）	砂、黒色鉱物	灰褐
21	III－4					幅5㎜平行沈線文	菱形文	砂、黒色鉱物	赤橙
22	III－4					幅7㎜平行沈線文	菱形文	砂、黒色鉱物	赤橙
23	III－6				RL			砂	赤橙
24	III－6				RL			砂、赤色鉱物	暗褐
25	III－6			3	RL			砂、黒・白色鉱物	赤橙
26	III－8					幅6㎜爪形文、幅5㎜平行沈線文、孔	木葉文	礫・砂、赤色鉱物	橙

134号土坑出土土器

	分類	口縁	口唇加工	底	地文	文様要素	文様	胎土	色調
1	II				RL			繊維、砂	赤橙
2	III－4					幅6㎜平行沈線文	多重渦巻文	砂、黒色鉱物	赤橙
3	III－6				RL			砂、黒色鉱物	赤橙
4	III－6			2	LR			礫・砂	赤橙

137号土坑出土土器

	分類	口　縁	口唇加工	底	地文	文　様　要　素	文　様	胎　土	色調
1	II				RL			繊維、砂、黒色鉱物	赤橙
2	III－2	外反波状				幅10㎜爪形文		礫・砂、黒・赤色鉱物	暗褐
3	III－2					幅８㎜爪形文		礫・砂、赤色鉱物	赤橙
4	III－2				RL	幅10㎜爪形文	蕨手文	礫・砂、白色鉱物	赤橙
5	III－3	弱内湾Ａ波状	単頭突起		LR	厚2.5㎜浮線文（羽状太刻み付）	π字蕨手文（渦巻型）	礫・砂、赤色鉱物	黄橙
6	III－3				RL	厚1.5㎜浮線文(ハ字、羽状太刻み付)		礫・砂、赤色鉱物	橙
7	III－3				L・R	厚２㎜浮線文（左傾太刻み付）		礫・砂、赤色鉱物	橙
8	III－3				RL	厚２㎜浮線文（羽状太刻み付）		礫・砂、赤色鉱物	暗赤褐
9	III－3					厚1.5㎜浮線文（羽状太刻み付）	（眼鏡状文）	砂、黒色鉱物	橙
10	III－3					厚１㎜浮線文（羽状細刻み付）	（梯子状文）	礫・砂、赤色鉱物	赤褐
11	III－4	外反平縁	双頭突起			幅８㎜平行沈線文		砂	橙
12	III－4	外反平縁				幅６㎜平行沈線文		礫・砂、赤色鉱物	灰褐
13	III－4	外反波状				幅７㎜平行沈線文		砂	暗赤褐
14	III－4					幅７㎜平行沈線文	菱形文	砂、黒・白色鉱物	赤褐
15	III－4					幅10㎜平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	暗褐
16	III－4					幅８㎜平行沈線文	横位弧線文（背弧型）	礫・砂、黒色鉱物	暗褐
17	III－6	内湾波状	斜刻み		RL			礫・砂	暗赤褐
18	III－6				RL			礫・砂、赤色鉱物	灰褐
19	III－6				RL			砂、黒・白色鉱物	赤褐
20	III－6				RL			礫・砂、赤色鉱物	赤橙
21	III－6				LR			礫・砂、赤色鉱物	橙
22	III－6				RL			礫・砂、赤色鉱物	灰褐
23	III－6				RL			礫・砂	赤橙
24	III－6				LR			砂	黒褐
25	III－6				LR・RL			礫・砂	橙
26	III－8							礫・砂、金色鉱物	橙
27	III－6			4	L			礫・砂、白色鉱物	赤褐
28	III－6			4	RL			礫・砂、黒色鉱物	橙

138号土坑出土土器

	分類	口　縁	口唇加工	底	地文	文　様　要　素	文　様	胎　土	色調
1	III－4					幅５㎜平行沈線文	横線文	礫・砂、黒・白色鉱物	赤橙
3	III－2′				LR	幅12㎜爪形文、厚２㎜隆帯（左傾太刻み付）		砂、黒色鉱物	灰褐
4	III－2					幅９㎜爪形文		砂、赤色鉱物	灰褐
5	III－2				RL	幅８㎜爪形文		砂、黒色鉱物	黄橙
6	III－2					幅８㎜爪形文		礫・砂	褐
7	III－3				RL	厚１㎜浮線文（羽状細刻み付）		砂、黒色鉱物	褐
8	III－3				L	厚1.5㎜浮線文（右傾太刻み付）		礫・砂、黒・白色鉱物	黒褐
9	III－3				RL	厚１㎜浮線文（羽状細刻み付）		礫・砂、黒・赤色鉱物	黄橙
10	III－3				RL	厚３㎜浮線文（左傾太刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	褐
11	III－3				RL	厚１㎜浮線文（左傾細刻み付）		砂、黒色鉱物	黒褐
12	III－3			2	RL	厚２㎜浮線文（RL付）		礫・砂、黒・赤色鉱物	黄褐
13	III－4	弱内湾Ａ平縁	獣面突起		RL	幅３㎜平行沈線文	π字蕨手文（渦巻型）	砂、黒色鉱物	暗褐
14	III－4	弱外反波状	眼鏡隆線			幅４㎜平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	黄橙
15	III－4	弱外反平縁				幅６㎜平行沈線文		礫・砂、白色鉱物	橙
16	III－4	外反平縁				幅４㎜平行沈線文	格子目文	砂、黒・白色鉱物	赤褐
17	III－4					幅５㎜平行沈線文	多重渦巻文	砂、黒・白色鉱物	褐
18	III－4					幅６㎜平行沈線文		砂、黒色鉱物	暗褐
19	III－4				RL	幅５㎜平行沈線文		礫・砂、黒・白・赤色鉱物	赤橙
20	III－4				RL	幅３㎜平行沈線文		礫・砂、黒・白・赤色鉱物	黄橙
21	III－4					幅４㎜平行沈線文	菱形文	砂、白色鉱物	橙
22	III－4				L	幅５㎜平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	褐
23	III－4				L	幅５㎜平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	褐
24	III　6				RL			礫・砂、黒色鉱物	赤橙

	分類	口縁	口唇加工	底	地文	文様要素	文様	胎土	色調
25	III—6				RL			礫・砂、黒・赤色鉱物	暗褐
26	III—6				RL			礫・砂、黒・赤色鉱物	褐
27	III—7			4				礫・砂、黒・赤色鉱物	赤橙
28	III—8							砂	橙
29	IV					幅12㎜変形爪形文、幅3㎜平行沈線文	菱形文	砂、白色鉱物	褐
30	IV				貝			砂、白色鉱物	橙
31	IV				貝			砂、白色鉱物	橙

139号土坑出土土器

	分類	口縁	口唇加工	底	地文	文様要素	文様	胎土	色調
1	III—3					厚0.5㎜浮線文（羽状太刻み付）		礫・砂、黒・赤色鉱物	橙
2	III—3				RL	厚0.5㎜浮線文（RL付）		礫・砂、黒色鉱物	暗赤褐
3	III—3			2		厚0.5㎜浮線文（右傾太刻み付）		礫・砂、黒・赤色鉱物	橙
4	III—4	外反波状				幅4㎜平行沈線文	菱形文	砂	赤褐
5	III—4				RL	幅4㎜平行沈線文	菱形文	礫・砂、黒・赤色鉱物	暗赤褐
6	III—4					幅5㎜平行沈線文		礫・砂	暗赤褐
7	III—4	外反平縁				幅5㎜平行沈線文		礫・砂	赤褐
8	III—6				RL			砂	黄橙
9	III—8							礫・砂、黒色鉱物	赤橙

140号土坑出土土器

	分類	口縁	口唇加工	底	地文	文様要素	文様	胎土	色調
1	III—3	内湾波状	獣面突起			厚2.5㎜浮線文（羽状太刻み付）	π字蕨手文（渦巻型）	礫・砂、黒・白色鉱物	暗褐
2	III—4					幅9㎜平行沈線文	大波状文	礫・砂、黒色鉱物	暗赤褐
3	IV				貝	幅7㎜爪形文、幅7㎜平行沈線文	菱形文	礫・砂、黒・赤色鉱物	灰褐
4	III—4					幅9㎜平行沈線文	菱形区画小渦巻文	礫・砂、黒・赤色鉱物	暗赤褐
5	III—6			1	LR			礫・砂、黒・赤色鉱物	赤褐
6	III—2					幅8㎜爪形文（左傾太刻み付）	蕨手文	礫・砂、黒色鉱物	赤褐
7	III—8					幅7㎜爪形文		礫・砂、赤色鉱物	暗赤褐
8	III—3	弱内湾A平縁	獣面突起			厚2㎜浮線文（羽状太刻み付）	π字蕨手文（渦巻型）	砂、赤色鉱物	赤橙
9	III—3	弱内湾A平縁	波状隆線			厚1.5㎜浮線文（太刻み付）		砂、黒・赤色鉱物	黄橙
10	III—3				RL	厚2㎜浮線文（羽状太刻み付）		礫・砂、黒・赤色鉱物	赤橙
11	III—3				RL	厚1.5㎜浮線文（太刻み付）		礫・砂、黒・赤色鉱物	橙
12	III—3					厚1.5㎜浮線文（太刻み付）		礫・砂	赤橙
13	III—4	外反平縁				幅12㎜平行沈線文	格子目文	礫・砂、黒・赤色鉱物	橙
14	III—4					幅4㎜平行沈線文	菱形文	砂、白・赤色鉱物	赤褐
15	III—4					幅9㎜平行沈線文	大波状文	礫・砂、白・黒・赤色鉱物	灰褐
16	III—4					幅9㎜平行沈線文	鋸歯状文	礫・砂、黒・赤色鉱物	暗褐
17	III—4					幅4㎜平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	黄橙
18	III—4					幅2㎜平行沈線文		礫・砂、赤色鉱物	赤褐
19	III—6				RL			礫・砂、黒・赤色鉱物	黄橙
20	III—6			2	RL			礫・砂	黄橙
21	IV				貝			礫・砂、黒・赤色鉱物	橙

141号土坑出土土器

	分類	口縁	口唇加工	底	地文	文様要素	文様	胎土	色調
1	III—2	外反平縁				幅9㎜爪形文		砂、黒色鉱物	黄橙
2	III—2					幅8㎜爪形文		砂、白色鉱物	橙
3	III—3					厚0.5㎜浮線文		礫・砂	褐
4	III—4	外反平縁				幅4㎜平行沈線文		砂、黒・白色鉱物	赤褐
5	III—6				RL			礫・砂、黒・白色鉱物	赤橙
6	III—6				LR				

142B号土坑出土土器

	分類	口　縁	口唇加工	底	地文	文　様　要　素	文　様	胎　土	色調
1	III－2					幅10㎜爪形文		礫・砂、黒色鉱物	赤橙
2	III－3				LR	厚1.5㎜浮線文（羽状太刻み付）		礫・砂、白色鉱物	暗褐
3	III－6				LR			礫・砂、黒・赤色鉱物	灰褐
4	III－6				LR			礫・砂、黒色鉱物	橙

143号土坑出土土器

	分類	口　縁	口唇加工	底	地文	文　様　要　素	文　様	胎　土	色調
1	III－2	外反平縁				幅７㎜爪形文		礫・砂	灰褐
2	III－3				RL	厚1.5㎜浮線文（左傾太刻み付）		礫・砂	黄橙
3	III－4					幅10㎜平行沈線文		砂	褐

144号土坑出土土器

	分類	口　縁	口唇加工	底	地文	文　様　要　素	文　様	胎　土	色調
1	III－2					幅11㎜爪形文		砂、黒・赤色鉱物	赤褐
2	III－2					幅７㎜爪形文		礫・砂	赤褐
3	III－3				RL	厚0.5㎜浮線文（羽状細刻み付）		礫・砂	褐
4	III－3				RL	厚0.5㎜浮線文（羽状細刻み付）		礫・砂、黒・赤色鉱物	橙
5	III－3				RL	厚0.5㎜浮線文（羽状細刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	赤褐
6	III－4	外反平縁				幅６㎜平行沈線文	菱形区画つ字文	砂、黒・白色鉱物	赤褐
7	III－4	内湾波状				幅５㎜平行沈線文	鋸歯状文	礫・砂	黄橙
8	III－4				LR	幅３㎜平行沈線文		礫・砂	黄橙
9	III－4				RL	幅４㎜平行沈線文	多重渦巻文	礫・砂、黒色鉱物	赤褐
10	III－4				L	幅６㎜平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	褐
11	III－4				L	幅６㎜平行沈線文		礫・砂、黒・白色鉱物	赤褐
12	III－4					幅４㎜平行沈線文		砂、黒・白色鉱物	赤褐
13	III－4				L	幅８㎜平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	赤橙
14	III－4				LR	幅５㎜平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	赤橙
15	III－6				R			礫・砂、黒色鉱物	赤褐
16	III－4				RL	幅12㎜平行沈線文		砂、黒・金色鉱物	黄橙
17	III－6				LR			砂、黒色鉱物	赤橙
18	III－8							砂	橙
19	IV				貝			砂	橙

145A号土坑出土土器

	分類	口　縁	口唇加工	底	地文	文　様　要　素	文　様	胎　土	色調
1	III－2				LR	幅８㎜爪形文（左傾太刻み付）	蕨手文	礫・砂、黒色鉱物	橙
2	III－2				RL	幅８㎜爪形文（羽状太刻み付）、円形竹管文	蕨手文	礫・砂、黒・赤色鉱物	黒褐
3	III－4	外反平縁				幅７㎜平行沈線文、径７㎜円形竹管文	横位弧線文（向弧型）	砂	灰褐
4	III－2	外反平縁				幅４㎜爪形文		砂、黒色鉱物	黄橙
5	III－2					幅６㎜爪形文	蕨手文	砂、黒色鉱物	灰褐
6	III－2				RL	幅８㎜爪形文、径10㎜円形竹管文		砂、黒色鉱物	赤褐
7	III－3				RL	厚１㎜浮線文（羽状太刻み付）		礫・砂、白色鉱物	赤橙
8	III－6				RL			礫・砂	赤褐

147号土坑出土土器

	分類	口　縁	口唇加工	底	地文	文　様　要　素	文　様	胎　土	色調
1	III－6	内湾平縁	瘤		RL			礫・砂、黒色鉱物	赤褐
2	III－6				RL			礫・砂、黒色鉱物	褐
3	III－6			3	RL			砂、黒・赤色鉱物	橙
4	II	内湾			RL			繊維、礫・砂、黒色鉱物	橙
5	III－2	二単位波状				幅８㎜爪形文（左傾太刻み付）、孔		砂、黒色鉱物	赤褐
6	III－2	外反波状	単頭突起、凹み			幅10㎜爪形文（左傾太刻み付）		礫・砂、黒・赤色鉱物	橙
7	III－2					幅９㎜爪形文		砂、黒・赤色鉱物	赤橙

	分類	口　縁	口唇加工	底	地文	文　様　要　素	文　様	胎　土	色調
8	III－2				RL	幅6㎜爪形文		砂	黄橙
9	III－2					幅6㎜爪形文（羽状太刻み付）		砂	暗褐
10	III－3	弱外反平縁			RL	厚2.5㎜浮線文（左傾太刻み付）	横線文	礫・砂	橙
11	III－3	内湾波状			R	厚1.5㎜浮線文（右傾太刻み付）		砂	橙
12	III－3					厚2㎜浮線文（羽状太刻み付）	π字蕨手文（渦巻型）	礫・砂	赤橙
13	III－3				RL	厚1㎜浮線文（羽状太刻み付）		礫・砂、黒・白色鉱物	赤橙
14	III－3				RL	厚1㎜浮線文（羽状太刻み付）		礫・砂	褐
15	III－3				RL	厚1.5㎜浮線文（羽状太刻み付）		砂、黒色鉱物	赤橙
16	III－3				RL	厚0.5㎜浮線文（羽状太刻み付）		礫・砂	赤橙
17	III－3				RL	厚2㎜浮線文（羽状太刻み付）		礫・砂、赤色鉱物	赤橙
18	III－3				RL	厚1㎜浮線文（右傾太刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	赤橙
19	III－3				RL	厚1㎜浮線文（RL付）		礫・砂	赤橙
20	III－3				RL	厚2.5㎜浮線文（RL付）		砂	暗褐
21	III－3				RL	厚1.5㎜浮線文（羽状太刻み付）	（梯子状文）	砂、黒色鉱物	赤褐
22	III－3				RL	厚1㎜浮線文（羽状太刻み付）		砂	赤褐
23	III－3					厚1.5㎜浮線文（羽状太刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	赤褐
24	III－4	外反平縁				幅12㎜平行沈線文		砂、黒色鉱物	赤橙
25	III－4				RL	幅5㎜平行沈線文	π字蕨手文（渦巻型）	礫・砂、白色鉱物	赤橙
26	III－4					幅10㎜平行沈線文		砂、白・赤色鉱物	赤橙
27	III－4				L	幅8㎜平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	暗褐
28	III－4				RL	幅6㎜平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	褐
29	III－4				L	幅7㎜平行沈線文		礫・砂	赤橙
30	III－4					幅5㎜平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	暗褐
31	III－4				RL	幅5㎜平行沈線文		礫・砂、黒・白色鉱物	赤橙
32	III－4				RL	幅5㎜平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	赤橙
33	III－6				RL			礫・砂	赤褐
34	III－6				RL			砂、黒色鉱物	橙
35	III－6				RL			礫・砂、黒色鉱物	暗赤褐
36	III－6			4	RL			礫・砂	赤褐
37	III－6			3	R			礫・砂、黒・白色鉱物	赤褐
38	IV				貝	幅7㎜平行沈線文		砂	黄橙
39	IV				貝			礫・砂	赤橙
40	IV				貝			砂	黄橙

148号土坑出土土器

	分類	口　縁	口唇加工	底	地文	文　様　要　素	文　様	胎　土	色調
1	III－4	内湾平縁	双頭突起		RL	幅7㎜平行沈線文	菱形区画小渦巻文	礫・砂、黒色鉱物	赤橙
2	II							繊維、砂、黒色鉱物	黄褐
3	III－2	外反波状			L	幅7㎜爪形文		礫・砂、黒・赤色鉱物	赤橙
4	III－3				RL	厚1.5㎜浮線文（ハ字太刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	赤橙
5	III－4				R	幅5㎜平行沈線文		礫・砂、白・黒色鉱物	赤褐
6	III－4				RL	幅4㎜平行沈線文		礫・砂、黒・赤色鉱物	褐
7	III－4				L	幅5㎜平行沈線文		礫・砂、白・黒色鉱物	赤褐
8	III－4				RL	幅6㎜平行沈線文		礫・砂、白・黒・赤色鉱物	赤褐
9	III－6				RL			礫・砂、黒・赤色鉱物	黄橙
10	III－7							礫、黒・赤色鉱物	黄橙

149号土坑出土土器

	分類	口　縁	口唇加工	底	地文	文　様　要　素	文　様	胎　土	色調
1	II	内湾				列点文		繊維、礫・砂、赤色鉱物	黄褐
2	II	内湾			LR・RL			繊維、礫・砂	黄橙
3	III－3				RL	厚2㎜浮線文（右傾太刻み付）	枠状文	礫・砂、黒・赤色鉱物	褐
4	III－3				RL	厚1.5㎜浮線文（羽状太刻み付）		砂、白・黒・赤色鉱物	赤褐
5	III－3				RL	厚1.5㎜浮線文（羽状太刻み付）		砂、赤色鉱物	灰褐
6	III－3					厚0.5㎜浮線文（左傾太刻み付）		砂、黒色鉱物	暗赤褐
7	III－3					厚1.5㎜浮線文（羽状太刻み付）		礫・砂、白・黒色鉱物	赤褐
8	III－4	外反平縁				幅5㎜平行沈線文		礫・砂、黒・赤色鉱物	暗褐

	分類	口　縁	口唇加工	底	地文	文　様　要　素	文　様	胎　土	色調
9	III－4					幅5㎜平行沈線文	多重渦巻文	礫・砂、黒・赤色鉱物	黒褐
10	III－4					幅4㎜平行沈線文		礫・砂	黒褐
11	III－4					幅4㎜平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	赤褐
12	III－4					幅5㎜平行沈線文		礫・砂、白・黒色鉱物	暗褐
13	III－6				RL			礫・砂	赤褐
14	III－6				RL			砂、白・黒・赤色鉱物	灰褐
15	III－6				RL			礫・砂、白・黒色鉱物	赤褐
16	III－6			4	L			砂、白・黒・赤色鉱物	暗褐

151号土坑出土土器

	分類	口　縁	口唇加工	底	地文	文　様　要　素	文　様	胎　土	色調
1	III－3				RL	厚2㎜浮線文（羽状太刻み付）		砂、黒・赤色鉱物	暗褐
2	III－4					幅7㎜平行沈線文		砂、白・黒色鉱物	赤褐
3	III－4				L	幅7㎜平行沈線文		礫・砂、黒・赤・白色鉱物	赤橙
4	III－6	外反平縁			RL			礫・砂、黒・赤色鉱物	赤褐
5	III－6	外反平縁			RL			礫・砂、赤色鉱物	暗褐

152号土坑出土土器

	分類	口　縁	口唇加工	底	地文	文　様　要　素	文　様	胎　土	色調
1	III－2					幅8㎜爪形文		砂、黒・赤色鉱物	赤褐
2	III－2					幅7㎜爪形文	横位弧線文（背弧型）	砂、黒色鉱物	灰褐
3	III－4					幅7㎜平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	灰褐
4	III－7			2				礫・砂、黒・赤色鉱物	黄橙

3Ｐ出土土器

	分類	口　縁	口唇加工	底	地文	文　様　要　素	文　様	胎　土	色調
1	III－3					厚2㎜浮線文（左傾太刻み付）		砂	黄褐
2	III－3				RL	厚3㎜浮線文（羽状太刻み付）		砂、黒・赤色鉱物	黄褐
3	III－6	外反平縁			LR			礫・砂、白・金色鉱物	赤褐

5Ｐ出土土器

	分類	口　縁	口唇加工	底	地文	文　様　要　素	文　様	胎　土	色調
1	III－3				RL	厚1.5㎜浮線文（左傾太刻み付）		礫・砂、白・黒・赤色鉱物	褐
2	III－6				RL			礫・砂、黒・赤色鉱物	赤褐

6Ｐ出土土器

	分類	口　縁	口唇加工	底	地文	文　様　要　素	文　様	胎　土	色調
1	III－2					幅8㎜爪形文		礫・砂、赤色鉱物	赤褐
2	III－3				RL	厚2㎜浮線文（羽状細刻み付）		礫・砂、白・黒・赤色鉱物	赤褐
3	III－4	外反平縁				幅11㎜平行沈線文		礫・砂、黒・赤色鉱物	赤橙
4	III－4					幅6㎜平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	褐
5	III－6				LR・RL			礫・砂、黒・赤色鉱物	赤褐

8Ｐ出土土器

	分類	口　縁	口唇加工	底	地文	文　様　要　素	文　様	胎　土	色調
1	III－2					幅10㎜爪形文（太刻み付）		礫・砂、黒・赤色鉱物	赤褐
2	III－2	外反平縁				幅9㎜爪形文（左傾太刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	赤褐
3	III－2					幅8㎜爪形文（左傾太刻み付）		砂、黒色鉱物	赤橙
4	III－3				RL	厚1.5㎜浮線文（太刻み付）		砂、白・黒色鉱物	橙
5	III－6	外反平縁	縦刻み		RL			砂、黒・赤色鉱物	灰褐

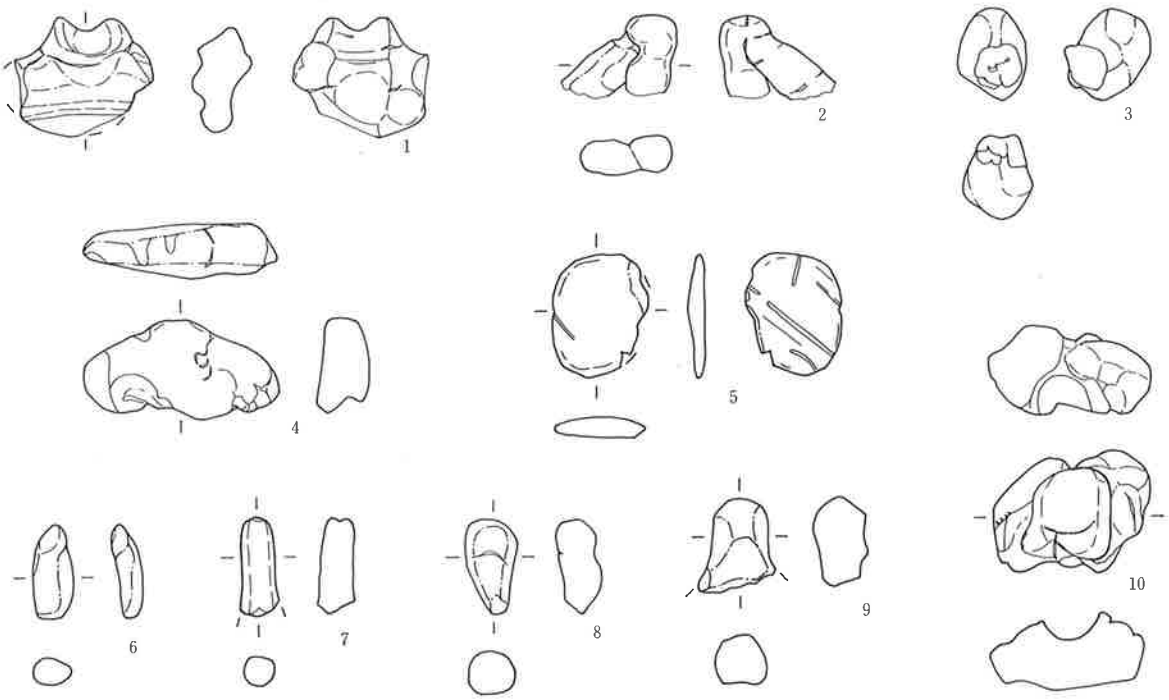
遺構外出土土器

	分類	口　縁	口唇加工	底	地文	文　様　要　素	文　様	胎　土	色調
1	I	外反			撚糸			礫・砂、黒色鉱物	黄橙
2	II	外反				列点文		繊維、礫・砂	橙
3	II	外反				列点文		繊維、砂、赤色鉱物	黄橙
4	II	外反				列点文		繊維、砂、黒色鉱物	暗褐
5	II					列点文、幅６㎜平行沈線文		繊維、砂	黄橙
6	II				ループ	幅５㎜平行沈線文		繊維、礫・砂、白色鉱物	暗褐
7	II				ループ L	単沈線文		繊維、礫・砂	暗褐
8	II	内湾			L			繊維、礫・砂	橙
9	II	外反			LR・RL			繊維、砂、赤色鉱物	黄橙
10	III—１	外反平縁				櫛歯文、径10㎜円形竹管文	波状文（多段型）	砂、黒色鉱物	赤橙
11	III—２	外反平縁				幅10㎜爪形文（羽状太刻み付）		砂、黒・赤・白色鉱物	黄橙
12	III—２	外反平縁	斜刻み			幅８㎜爪形文（羽状太刻み付）		砂、黒・赤色鉱物	黄橙
13	III—２	外反波状				幅７㎜爪形文（右傾太刻み付）		砂、黒・赤色鉱物	黄褐
14	III—２′	外反平縁	縦刻み			幅11㎜爪形文、厚２㎜隆帯（ハ字太刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	赤橙
15	III—２′	外反平縁				幅６㎜爪形文、厚３㎜隆帯	山形文	礫・砂、黒色鉱物	黄橙
16	III—２′	外反平縁				幅６㎜爪形文、厚３㎜隆帯（Ｄ字刺突付）	山形文	礫・砂、黒色鉱物	黄橙
17	III—２					幅８㎜爪形文		砂、赤色鉱物	灰褐
18	III—２					幅10㎜爪形文（Ｄ字刺突付）	渦巻文	砂、黒・赤色鉱物	黄橙
19	III—２					幅８㎜爪形文	横位弧線文（向弧型）	礫・砂、赤色鉱物	黄橙
20	III—２	二単位波状				幅９㎜爪形文（Ｄ字刺突付）		礫・砂、黒・赤色鉱物	黄橙
21	III—２					幅10㎜爪形文（左傾太刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	褐
22	III—２					幅10㎜爪形文	蕨手文	礫・砂、黒色鉱物	赤橙
23	III—２					幅９㎜爪形文		砂	黄橙
24	III—２					幅７㎜爪形文		砂、黒色鉱物	黄褐
25	III—２					幅11㎜爪形文、径13㎜円形竹管文	蕨手文	礫・砂、黒・白・赤色鉱物	灰褐
26	III—２					幅10㎜爪形文（羽状太刻み付）		礫・砂、黒・赤色鉱物	赤橙
27	III—２					幅８㎜爪形文	渦巻文	砂、白色鉱物	暗褐
28	III—２					幅９㎜爪形文（右傾太刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	黒褐
29	III—２					幅９㎜爪形文（右傾太刻み付）		礫・砂、赤色鉱物	橙
30	III—２′					幅９㎜爪形文、厚２㎜隆帯（羽状太刻み付）	渦巻文	礫・砂、黒・赤色鉱物	黄橙
31	III—２				RL	幅６㎜爪形文、径11㎜円形竹管文	横位弧線文（背弧型）	砂、黒・白色鉱物	黄褐
32	III—２				RL	幅５㎜爪形文		礫・砂、赤色鉱物	暗赤褐
33	III—３	弱内湾Ａ波状	獣面突起			厚２㎜浮線文（羽状太刻み付）		礫・砂	赤褐
34	III—３	弱内湾Ａ波状	獣面突起			厚２㎜浮線文（羽状太刻み付）		礫・砂、黒・赤色鉱物	灰褐
35	III—３	弱内湾Ａ平縁	縦刻み		LR	厚2.5㎜浮線文（LR付）	横線文	砂、黒・赤色鉱物	赤橙
36	III—３					厚２㎜浮線文（羽状太刻み付）	π字蕨手文（渦巻型）	砂	黄橙
37	III—３	内湾波状	眼鏡隆線			厚１㎜浮線文（羽状太刻み付）		砂、黒色鉱物	灰褐
38	III—３	弱外反平縁				厚５㎜浮線文（羽状太刻み付）円形竹管文		礫・砂、黒色鉱物	黄橙
39	III—３					厚0.5㎜浮線文(右傾太刻み、列点付)	風車状渦巻文	礫・砂	赤橙
40	III—３				LR・RL	厚2.5㎜浮線文（左傾太刻み付）		礫・砂、黒色鉱物	暗橙
41	III—３			2		厚1.5㎜浮線文、径８㎜円形竹管文	（眼鏡状文）	礫・砂、黒・赤色鉱物	橙
42	III—４	内湾波状	渦巻突起			幅５㎜平行沈線文		礫・砂	赤橙
43	III—４	内湾波状	瘤状突起			幅５㎜平行沈線文	横位弧線文（背弧型）	砂、黒色鉱物	黄橙
44	III—４	外反平縁				幅12㎜平行沈線文	横位弧線文（背弧型）	砂、黒・白色鉱物	灰褐
45	III—４	外反平縁			RL	幅４㎜平行沈線文	横位弧線文（背弧型）	砂、黒・赤色鉱物	赤橙
46	III—４	外反平縁			L	幅５㎜平行沈線文	菱形区画木葉文	礫・砂、黒・白色鉱物	赤褐
47	III—４	外反平縁				幅５㎜平行沈線文	菱形文	礫・砂、黒・白色鉱物	赤褐
48	III—４	外反平縁				幅４㎜平行沈線文	菱形文	砂、黒色鉱物	橙
49	III—４	外反平縁	刻み			幅５㎜平行沈線文	菱形文	礫・砂、黒色鉱物	暗褐

	分類	口　縁	口唇加工	底	地文	文　様　要　素	文　様	胎　土	色調
50	III—4	外反平縁			RL	幅7㎜平行沈線文	菱形文	砂、黒色鉱物	赤橙
51	III—4	外反平縁				幅3㎜平行沈線文	山形文	砂	黄橙
52	III—4	外反平縁				幅5㎜平行沈線文	格子目文	砂、黒色鉱物	褐
53	III—4	外反平縁				幅3㎜平行沈線文		砂、黒色鉱物	赤橙
54	III—4				RL	幅4㎜平行沈線文	多重渦巻文	礫・砂	橙
55	III—4				RL	幅5㎜平行沈線文	π字蕨手文（渦巻型）	礫・砂、赤色鉱物	赤橙
56	III—4					幅6㎜平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	赤橙
57	III—4					幅8㎜平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	灰褐
58	III—4					幅10㎜平行沈線文、幅10㎜爪形文		礫・砂、黒・赤・白色鉱物	赤橙
59	III—4				RL	幅6㎜平行沈線文	弧線区画縦位背弧線文	砂、黒色鉱物	赤橙
60	III—4				RL	幅5㎜平行沈線文	横位弧線文（向弧型）	砂、黒色鉱物	赤褐
61	III—4					幅7㎜平行沈線文	横位弧線文（向弧型）	礫・砂、黒色鉱物	赤橙
62	III—4					幅7㎜平行沈線文		礫・砂、黒・赤色鉱物	褐
63	III—4					幅6㎜平行沈線文		砂、黒色鉱物	赤橙
64	III—4				RL	幅5㎜平行沈線文		礫・砂、黒・白色鉱物	赤褐
65	III—4				RL	幅10㎜平行沈線文	鋸歯状文	礫・砂、黒・赤色鉱物	黄橙
66	III—5					幅3㎜集合沈線文	縦位矢羽根状文	礫・砂	赤褐
67	III—4					幅5㎜平行沈線文、径6㎜円形竹管文	格子目文	砂、黒・白色鉱物	赤橙
68	III—4					単沈線	格子目文	礫・砂、黒色鉱物	黒褐
69	III—4				RL	幅6㎜平行沈線文	格子目文	礫・砂、黒色鉱物	黄橙
70	III—4				L	幅5㎜平行沈線文		砂、黒色鉱物	赤橙
71	III—4				RL	幅5㎜平行沈線文		礫・砂、黒色鉱物	黄橙
72	III—4				RL	幅5㎜平行沈線文		砂、黒・白色鉱物	赤橙
73	III—6				LR			礫・砂、白・黒・赤色鉱物	赤褐
74	III—6				L・R			砂、黒色鉱物	赤橙
75	III—6				LR・RL			砂、赤色鉱物	黄橙
76	III—6				LR・RL			砂	黄橙
77	III—8	内湾	波状隆線					砂、赤色鉱物	赤橙
78	III—8					幅6㎜爪形文、孔		砂、赤色鉱物	橙
79	III—8	内湾	隆帯			爪形文	木葉文	礫・砂	赤橙
80	III—8					爪形文	木葉文	砂	黄橙
81	IV	外反	斜刻み			幅13㎜変形爪形文、幅9㎜平行沈線文		砂	橙
82	IV	外反				凹凸文		礫・砂、黒色鉱物	黄橙
83	IV					幅9㎜変形爪形文、幅7㎜平行沈線文		砂、黒色鉱物	褐
84	IV					幅9㎜変形爪形文、幅6㎜平行沈線文	横位矢羽根状文	砂	黄橙
85	IV				貝	幅7㎜平行沈線文		砂	黄橙
86	IV					幅7㎜爪形文、幅7㎜平行沈線文		砂、黒色鉱物	黄橙
87	IV				貝	横位刻み		砂、黒色鉱物	灰褐
88	IV				貝			砂、黒色鉱物	褐
89	V				RL	厚1㎜凸帯文（羽状細刻み付）	（X字文）	砂	黄橙
90	V				RL	厚1㎜凸帯文（羽状細刻み付）	（梯子状文）	砂	黄橙
91	VI	外反			RL	隆帯、沈線文		砂、黒色鉱物	赤橙
92	VI	内湾						礫・砂、赤色鉱物	赤橙
93	VI				RL	沈線文		砂	赤橙
94	VI				RL	隆帯、沈線文		礫・砂、黒色鉱物	黒褐
95	VI				RL	隆帯、沈線文		砂、白色鉱物	赤橙
96	VII				RL	沈線文		砂、黒色鉱物	黄橙
97	VII				LR	沈線文		砂、黒・白・赤色鉱物	黄橙
98	VII	外反			L			礫・砂、黒色鉱物	暗赤褐

(2) 焼成粘土塊、土製品など

1は左側面に新しい剝落痕があるがほぼ完存する。深鉢の突起部のような形状で指頭による凹み痕、複数の粘土塊の接合痕を残す。表面下側に棒状工具による沈線状の押圧が認められる。2は棒状の粘土紐を折り曲げたか、あるいは、2片の粘土塊を合わせたような形状で、両端部はちぎったような状態を呈する。3は大きめの粘土塊に小さな粘土塊を貼り付けただけである。4は山形突起のような形状を呈する。厚い板状の塊で、表裏面とも器面の調整はしていない。上側面には何らかの調整を加えた可能性はある。左右及び下側面は粘土をちぎったまま手を加えていない。5は薄く板状を呈する。右端部が欠損しているが、全体的には隅丸方形、もしくは台形状を呈するか？裏面はほぼ平坦で、表面は端部が薄く、中央部が厚くなっている。裏面にはごく浅い沈線が認められるが、意図的に施文したかどうか不明である。6は短い棒状の塊で、先端が捩れている。器表にはヒビ割れが認められる。7は棒状を呈する。下端を除くと丁寧な器面調整が成されており、製品の一部と思われる。8は涙滴型の塊であり器面は比較的整っているが、ヒビ割れも認められる。また裏面には横長の工具を押しつけたような凹みがある。装飾品等の製品である可能性は否定できない。9は下側に剝離痕があり、左右側面は調整が施される。顔面表現は認められないが、形状から獣面把手の可能性が考えられる。10は複数の粘土塊を寄せ集めたものである。表面中央には指で押さえ付けた凹みがある。裏面にも3ケ所に浅い凹みが認められ、凹みの形状から左手の小指を除く4指で表裏面を押さえ付けたものと思われる。下側面には棒状工具を押しつけた痕跡が認められる。1は1号住居、2、3は4号住居、4～7は75号土坑、8は84号土坑、9は123B号土坑、10は147号土坑から出土した。いずれも白色・黒色鉱物を含み、1は暗赤褐色～黒褐色、2はにぶい橙色～黒褐色、3は浅黄橙色、4は黒褐色、5は浅黄橙色～黒褐色、6は黒褐色、7は橙色、8は浅黄橙色、9は橙色～明赤褐色、10は明赤褐色を呈する。2と7は赤色鉱物も含む。

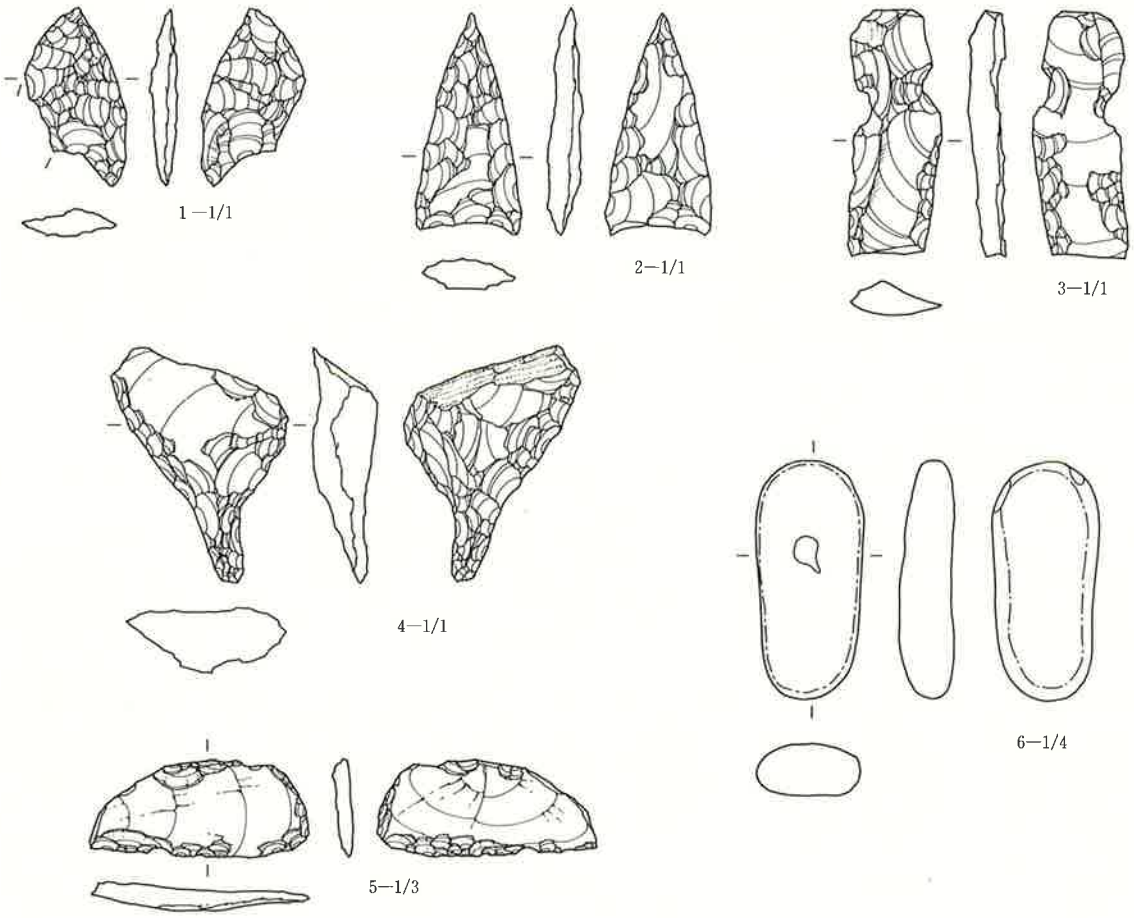


第128図　焼成粘土塊・土製品

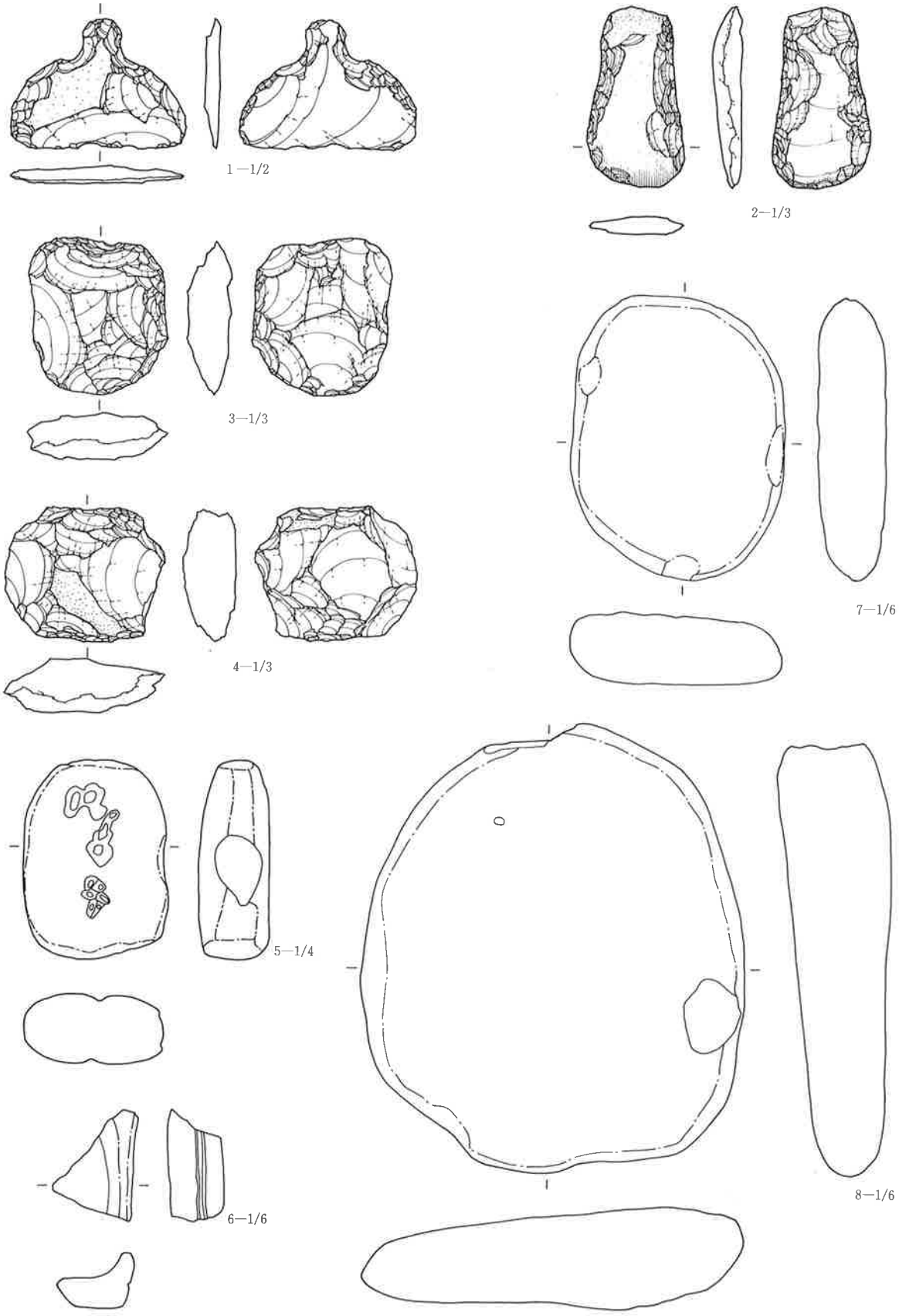
(3)　出土石器

第5表　出土石器数量表

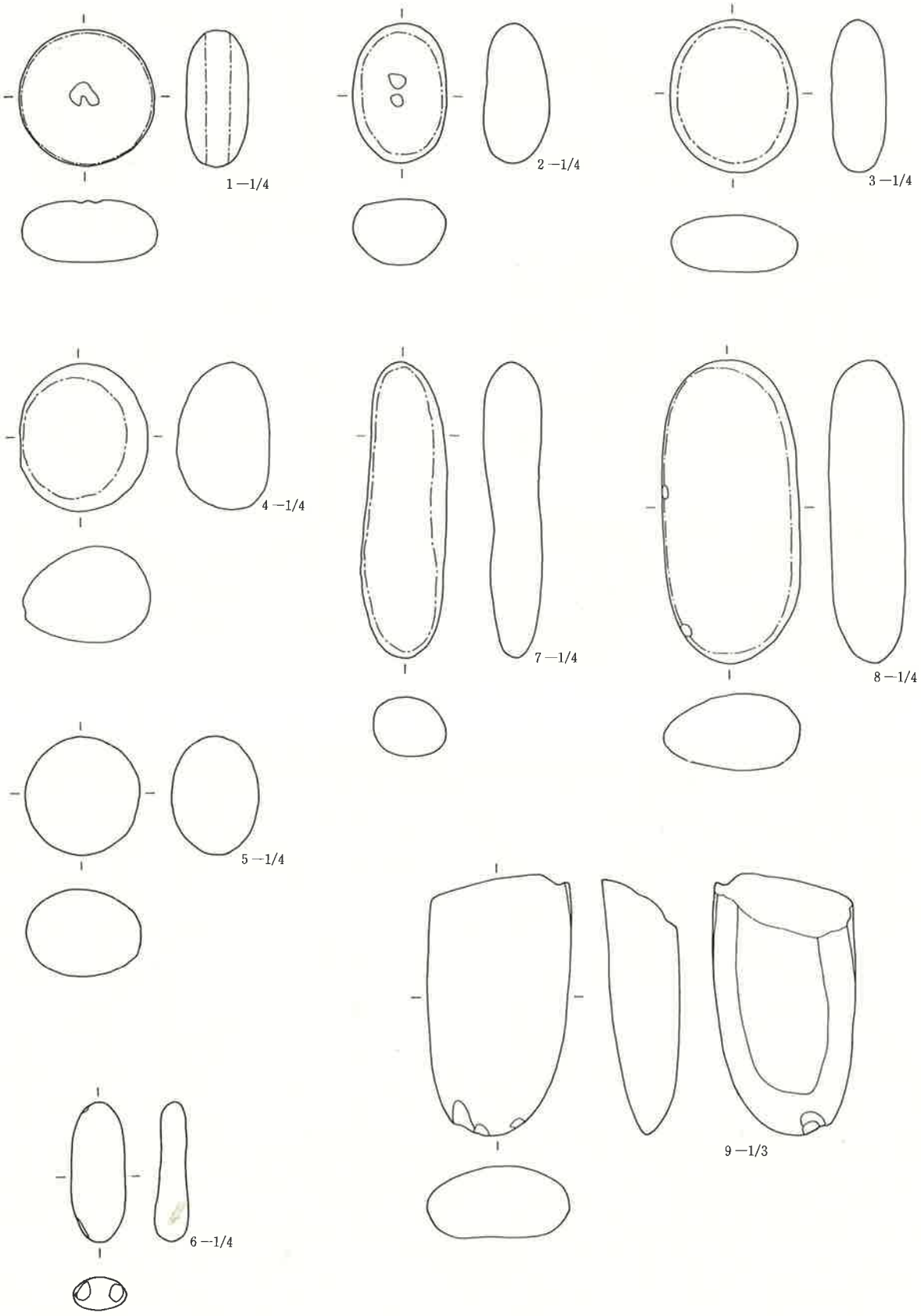
遺構名	石鏃	石錐	石匙	打製石斧	磨製石斧	磨石・凹石	石皿	多孔石	剥片石器	その他	石器類計	剥片	合計
1号住居	4	4	1	6	0	4	0	1	8	礫器3	31	85	116
2号住居	0	0	1	3	0	3	2	0	5	台石1	15	19	34
3号住居	0	0	0	6	1	9	0	0	4	敲石等10	30	67	97
4号住居	5	3	1	18	1	16	2	0	41	スタンプ石等10	97	178	275
5号住居	1	1	0	3	0	1	0	0	3	砥石等4	13	55	68
6号住居	0	0	0	0	0	3	1	0	1		5	6	11
7号住居	2	0	3	1	0	2	0	0	4	台石等2	14	47	61
8号住居	0	0	0	0	0	3	0	0	6		9	37	46
9号住居	0	0	0	0	0	4	1	0	2		7	8	15
10号住居	1	0	0	6	1	7	0	0	22	礫器2	39	90	129
11号住居	0	0	0	3	0	5	1	0	3		12	23	35
12号住居	0	0	0	1	0	0	0	0	0		1	0	1
住居跡合計	13	8	6	47	3	57	7	1	99	32	273	615	888
土坑合計	1	2	1	11	2	17	4	2	58	7	105	210	315
遺構外合計	3	0	2	22	1	12	4	0	49	3	96	79	175
総合計	17	10	9	80	6	86	15	3	206	42	474	904	1378



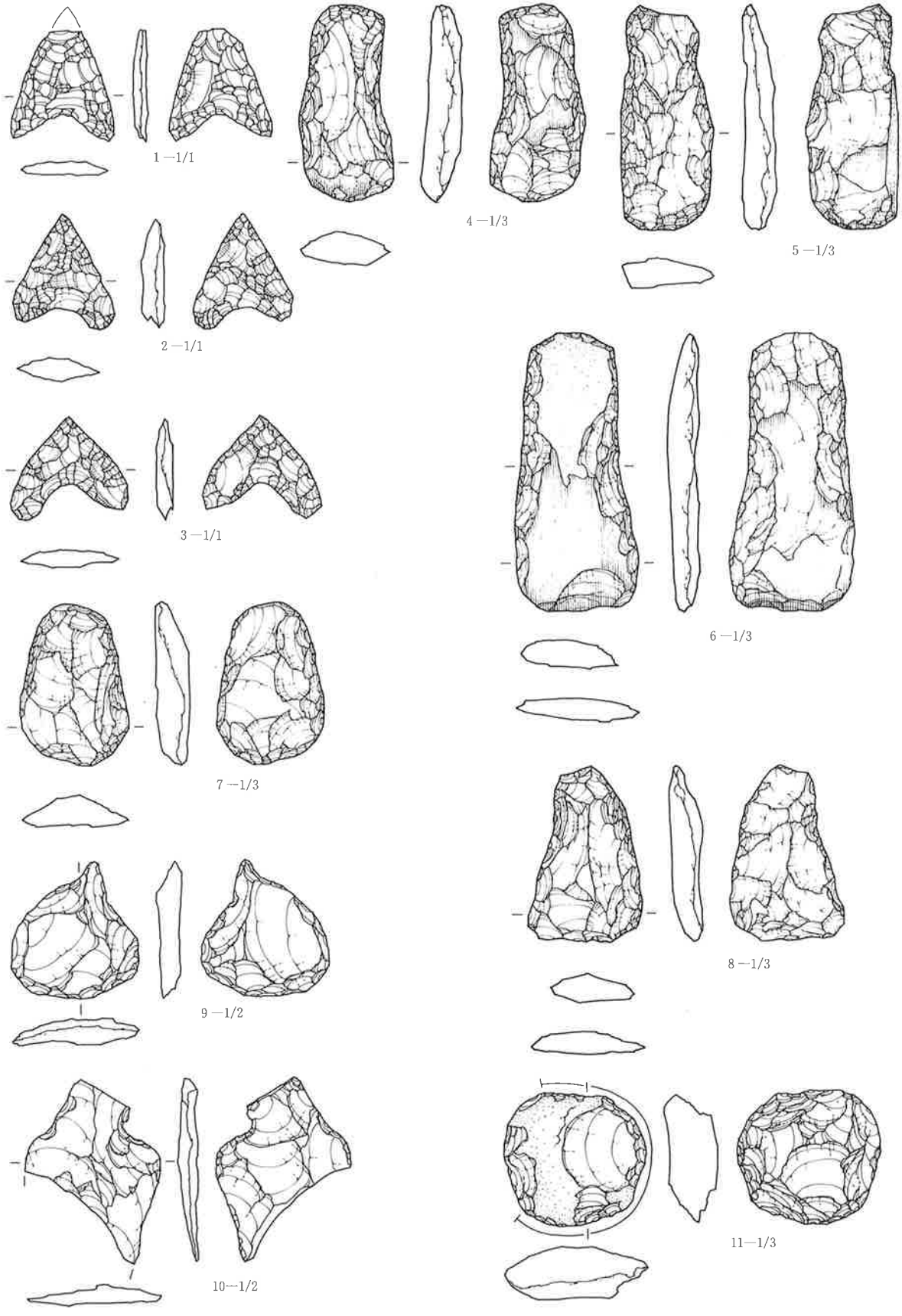
第129図　1号住居跡出土石器



第130図　2号住居跡出土石器

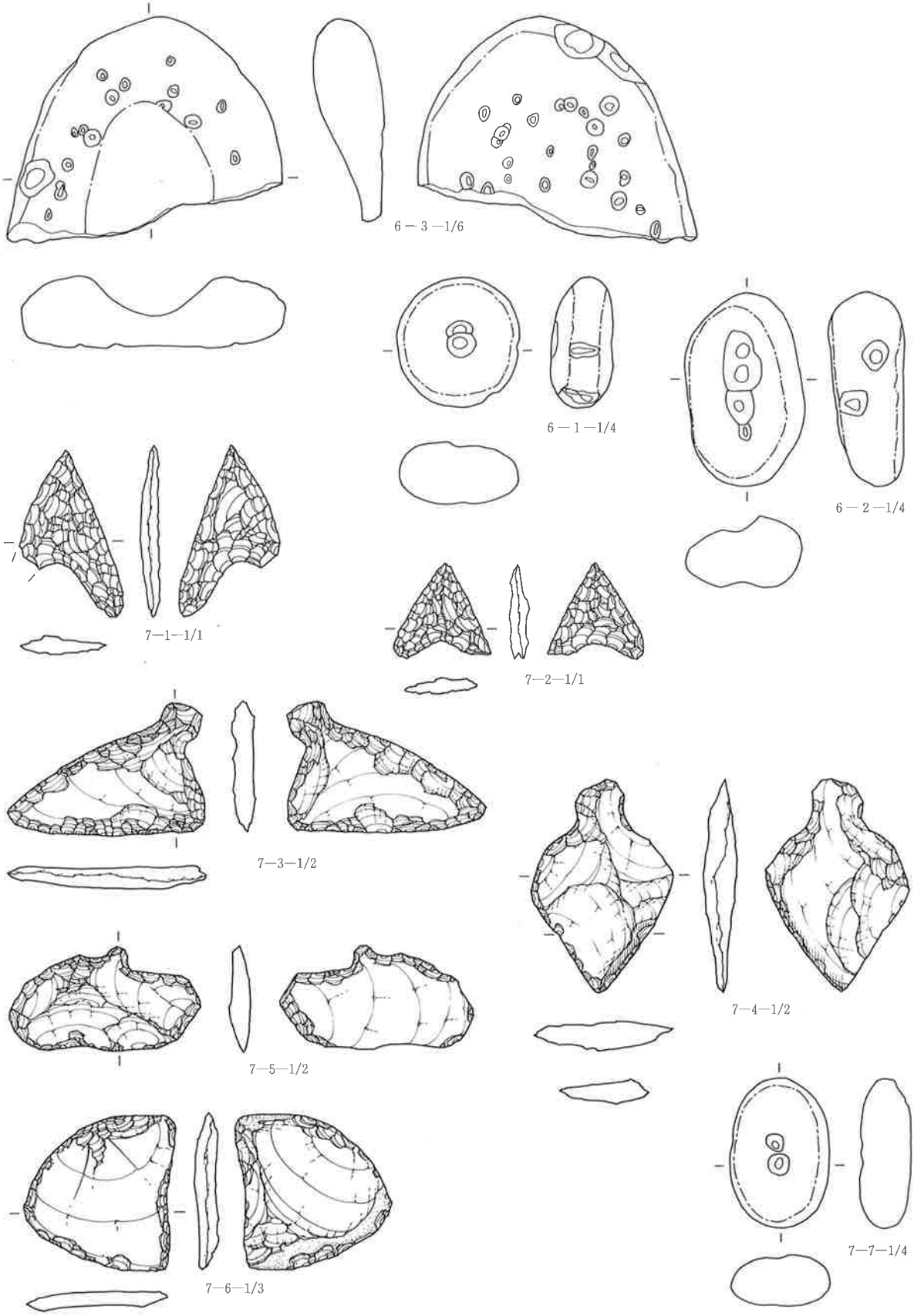


第131図　3号住居跡出土石器

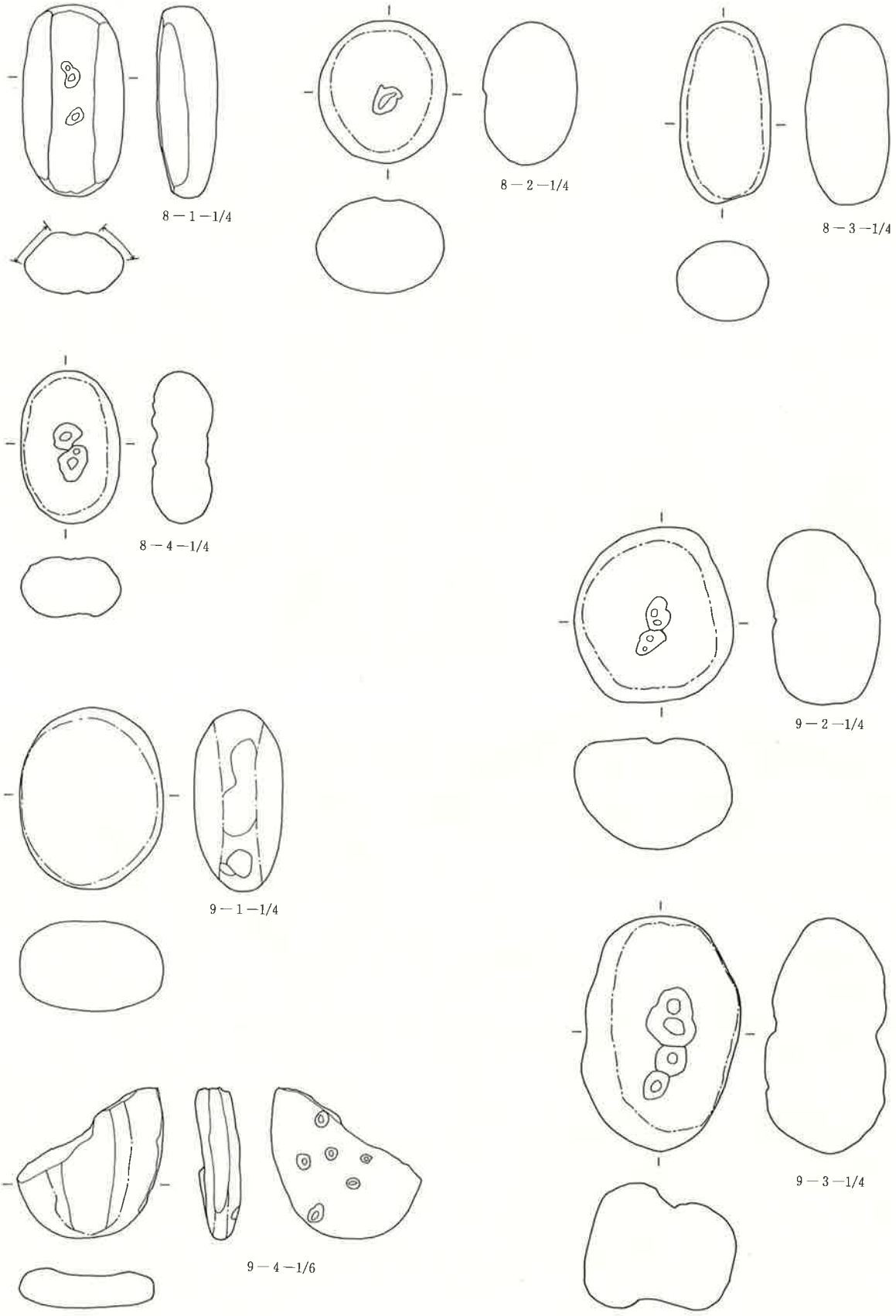


第132図　4 号住居跡出土石器（１）

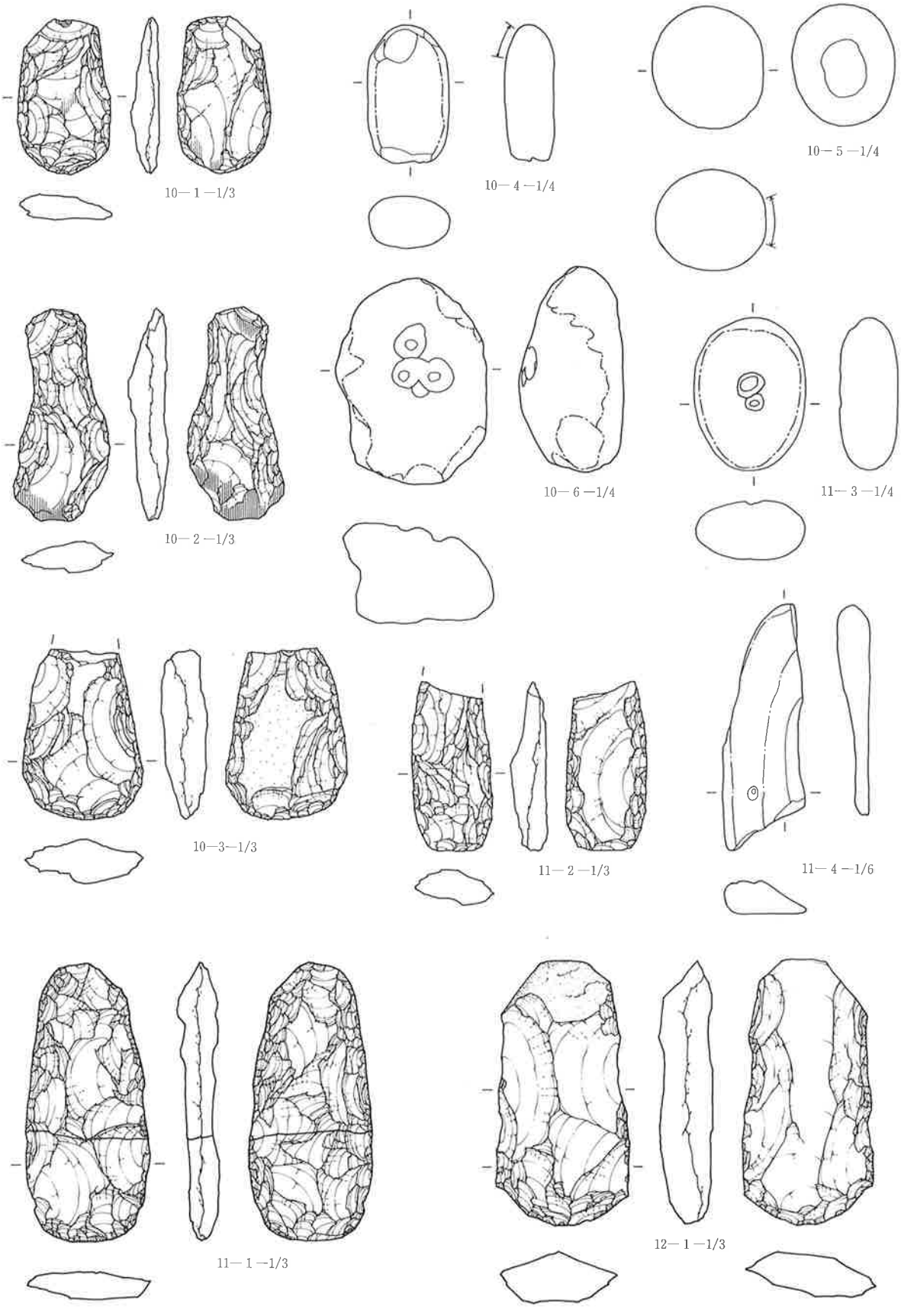
第133図　4号住居跡出土石器（2）



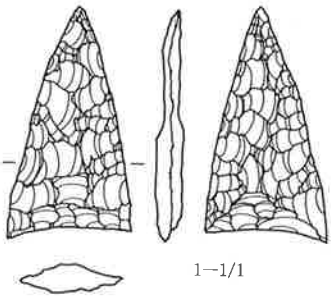
第134図　6・7号住居跡出土石器

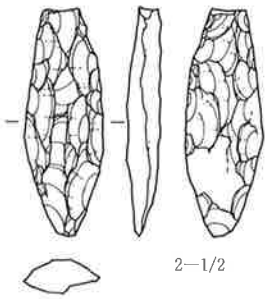


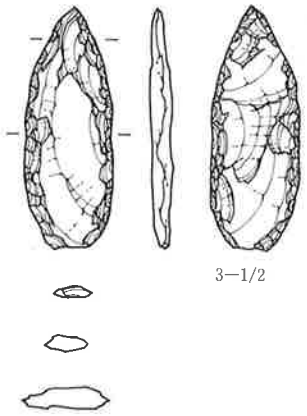
第135図　8・9号住居跡出土石器

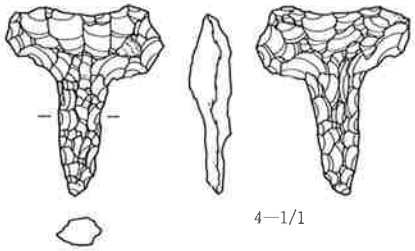


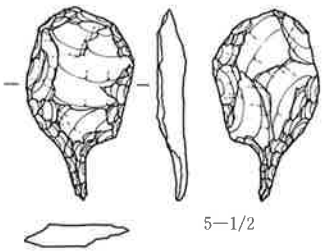
第136図　10・11・12号住居跡出土石器

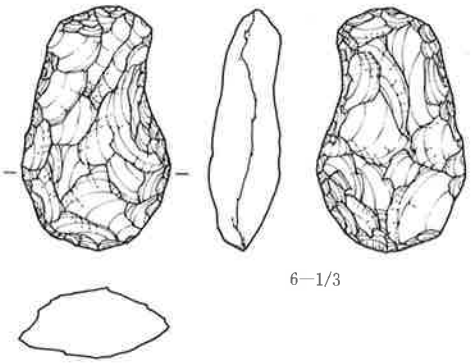

1—1/1

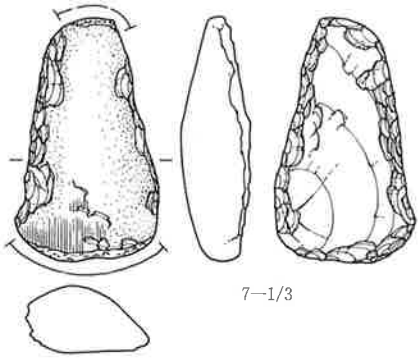

2—1/2

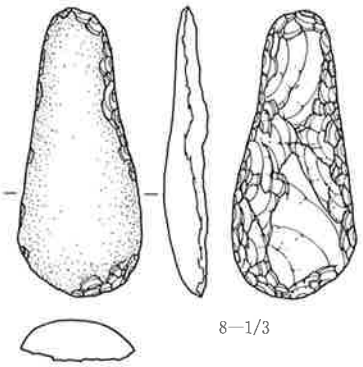

3—1/2

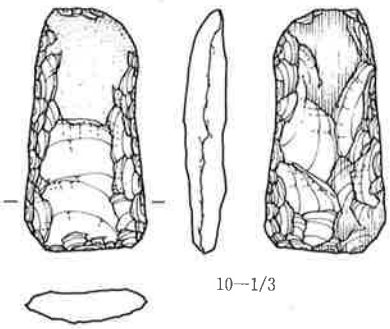

4—1/1

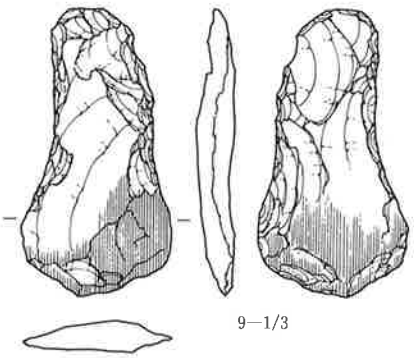

5—1/2


6—1/3

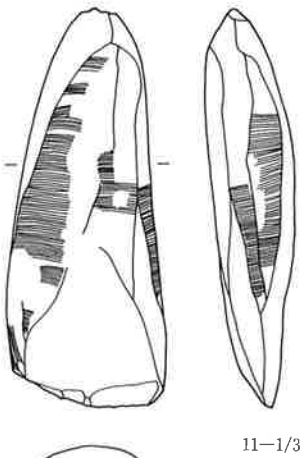

7—1/3

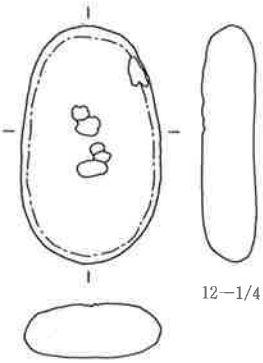

8—1/3

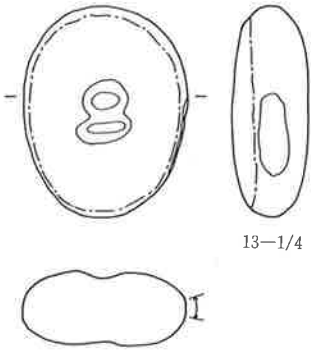

10—1/3

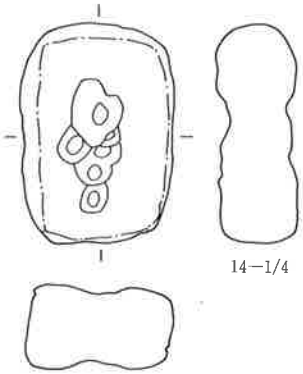

9—1/3

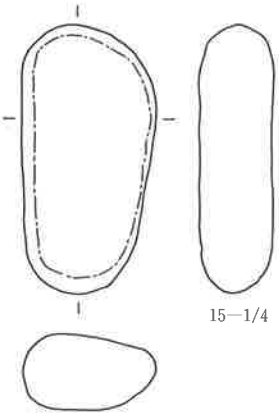
第137図　土坑出土石器（1）

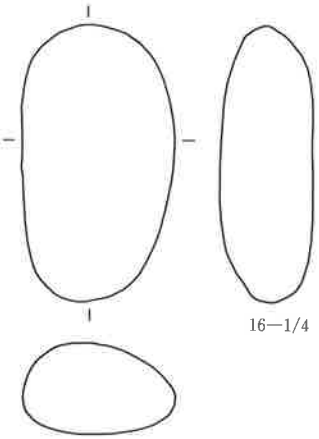

11—1/3

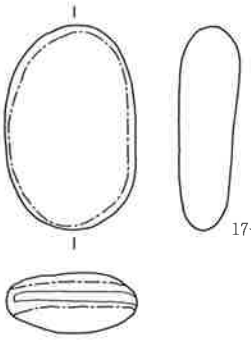

12—1/4

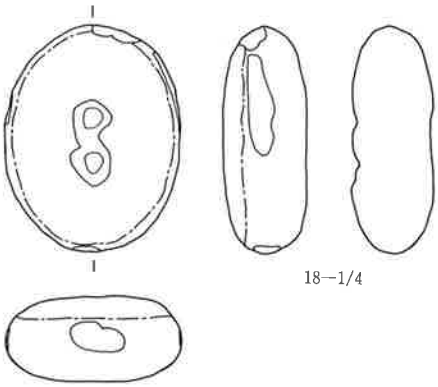

13—1/4

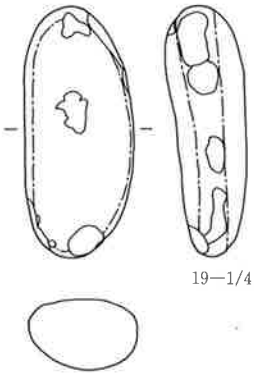

14—1/4

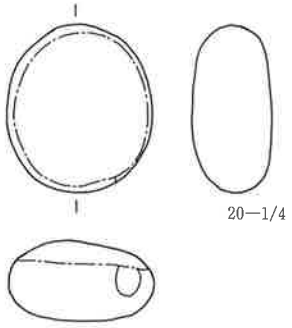

15—1/4

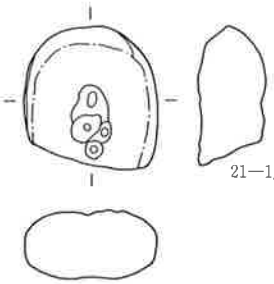

16—1/4


17—1/4


18—1/4

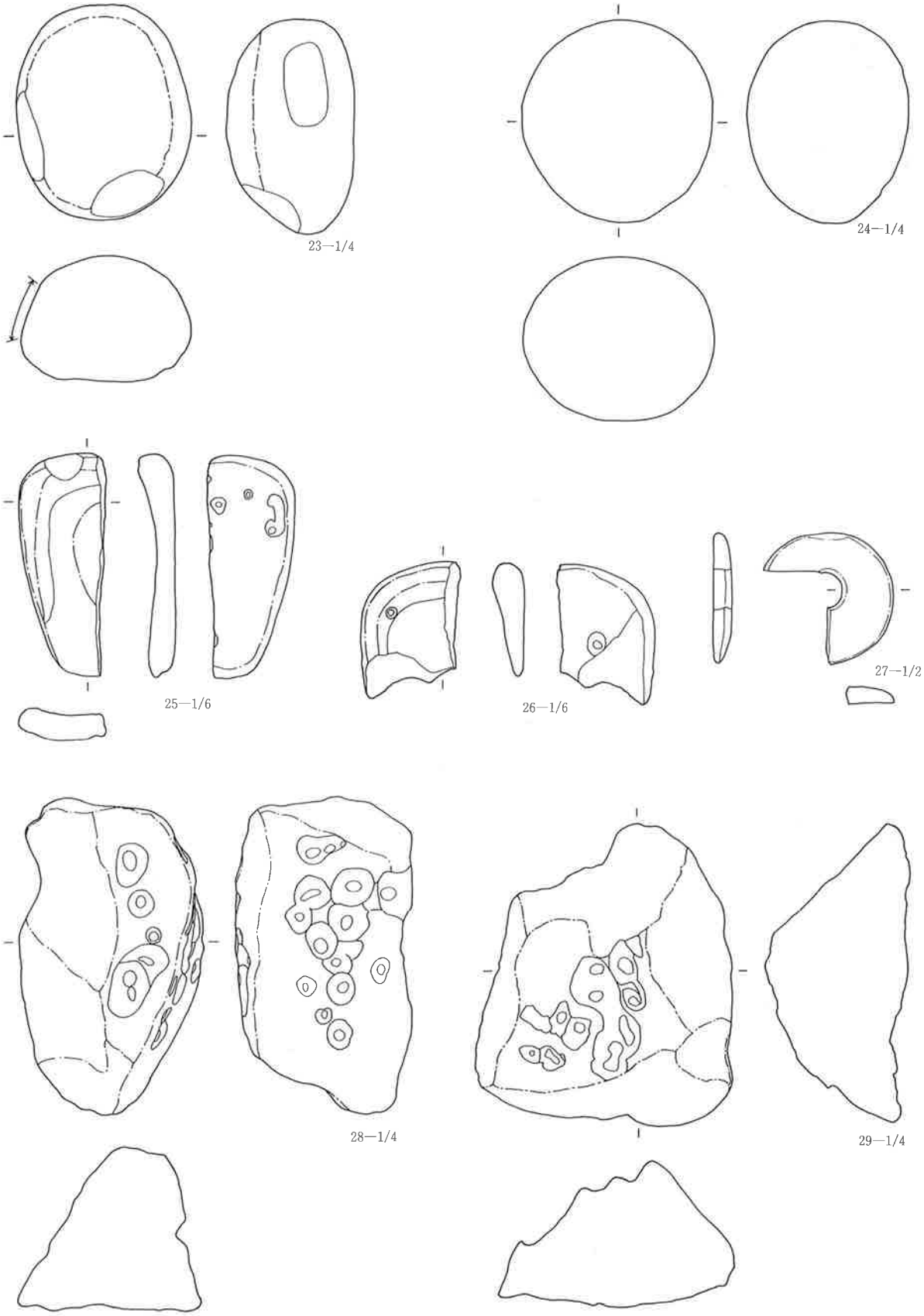

19—1/4


20—1/4

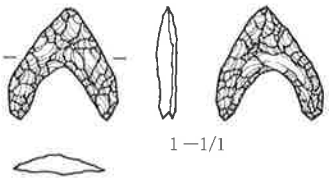

21—1/4

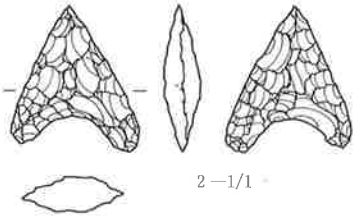
22—1/4

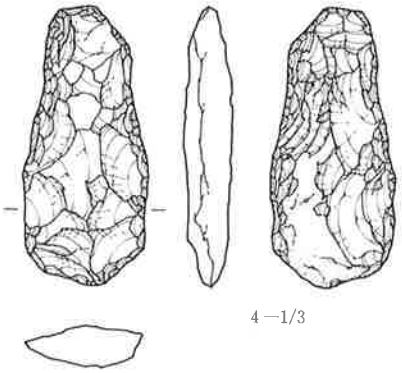
第138図　土坑出土石器（２）

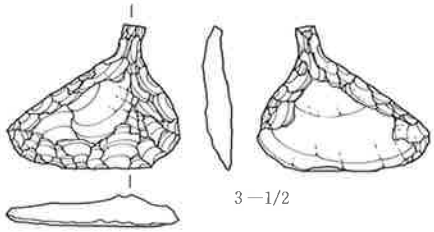


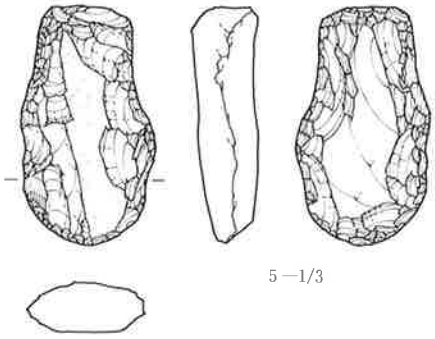
第139図　土坑出土石器(3)

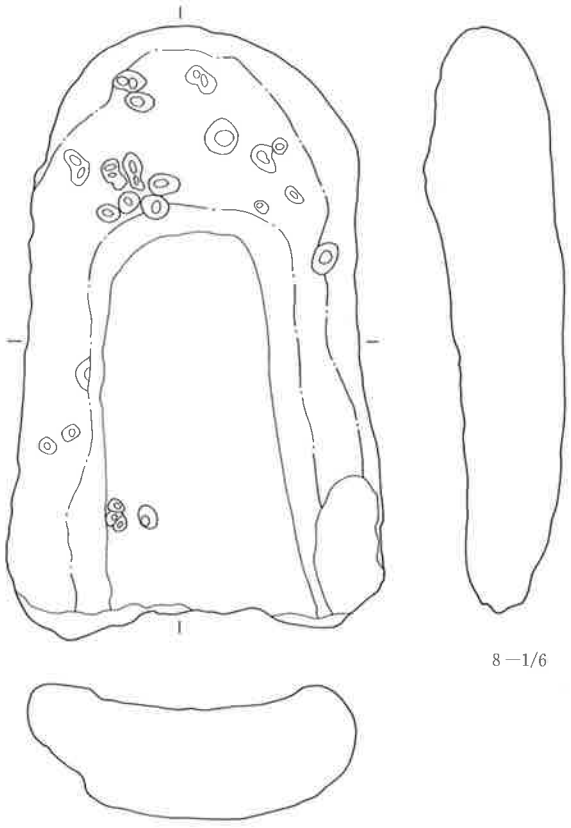

1 —1/1

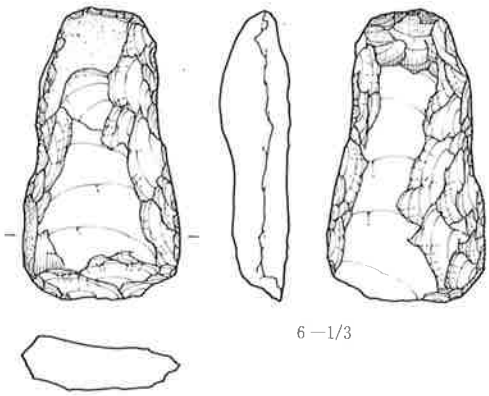

2 —1/1

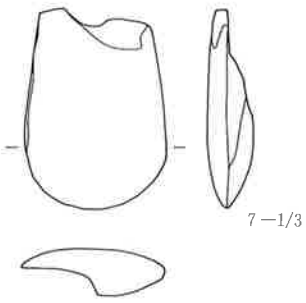

4 —1/3


3 —1/2


5 —1/3


8 —1/6


6 —1/3


7 —1/3

第140図　遺構外出土石器

第6表　愛宕山遺跡出土石器一覧表

1号住居跡出土石器

番号	出土位置	器　種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石　材	備　考
1	覆土	石鏃	23.0	(13.0)	3.5	(0.7)	黒曜石	基部欠損
2	覆土	石鏃	29.0	14.0	3.0	1.3	黒色安山岩	
3	覆土	石匙	(32.0)	(12.0)	5.0	1.45	黒曜石	先端欠損
4	覆土	石錐	(31.0)	(23.0)	8.5	4.15	チャート	
5	覆土	スクレイパー	38.0	86.0	11.5	26.15	黒色頁岩	
6	重複土坑	磨石	127.0	57.0	29.0	350	灰色安山岩	表面浅い凹み、上下端部敲打痕。

2号住居跡出土石器

番号	出土位置	器　種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石　材	備　考
1	覆土	石匙	44.0	60.0	5.5	14.05	黒色頁岩	
2	覆土	打製石斧	92.0	49.0	14.5	74.8	黒色頁岩	
3	覆土	礫器	80.0	72.0	23.5	146.3	黒色頁岩	
4	覆土	礫器	69.0	83.0	27.0	179.3	黒色頁岩	
5	覆土	磨石・凹石	137.0	100.0	48.5	910	粗粒安山岩	表裏・側面に凹み。
6	覆土	石皿	115.0	85.0	58.0	330	粗粒安山岩	小破片
7	南西部床直	台石	291.5	218.5	73.0	7,060	粗粒安山岩	
8	東壁際床直	台石	460.0	395.0	117.0	31,200	粗粒安山岩	

3号住居跡出土石器

番号	出土位置	器　種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石　材	備　考
1	南溝部床直	磨石・凹石	102.5	92.5	41.5	510	粗粒安山岩	表面に浅い凹み。
2	覆土	磨石・凹石	145.0	63.5	45.0	410	粗粒安山岩	表面に浅い凹み。
3	覆土	磨石	103.0	86.5	38.0	510	粗粒安山岩	
4	覆土	磨石	100.0	86.0	63.0	700	粗粒安山岩	左側面に凹み。
5	西壁際覆土	磨石	80.0	80.0	59.0	520	石英閃緑岩	
6	覆土	棒状石器	94.5	36.5	22.5	510	粗粒安山岩	側面4隅に敲（擦？）痕
7	南壁寄覆土	棒状石器	200.0	40.0	40.0	700	灰色安山岩	自然礫？
8	北壁寄覆土	磨石	205.5	93.0	60.0	1620	粗粒安山岩	
9	南壁寄覆土	磨製石斧	(130.0)	72.0	40.0	(620)	輝緑岩	基部欠損

4号住居跡出土石器

番号	出土位置	器　種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石　材	備　考
1	覆土	石鏃	(18.0)	17.5	2.5	(0.7)	黒曜石	先端欠損
2	覆土	石鏃	40.0	(35.0)	8.0	0.9	黒曜石	
3	覆土	石鏃	41.0	(41.0)	6.0	0.65	黒曜石	
4	北東隅覆土	打製石斧	101.0	48.0	21.0	109.4	黒色頁岩	
5	北壁寄覆土	打製石斧	115.0	47.0	17.5	112.5	黒色頁岩	
6	南東隅覆土	打製石斧	144.0	64.0	16.0	180.6	黒色頁岩	
7	覆土	打製石斧	84.0	55.0	18.0	95.8	黒色頁岩	
8	覆土	打製石斧	101.0	58.5	16.5	74.1	黒色頁岩	
9	覆土	石錐？	47.0	44.0	9.0	16.0	黒色頁岩	
10	覆土	石匙	(73.0)	(47.0)	7.0	(13.3)	黒色頁岩	欠損
11	中央部床直	礫器	69.0	73.0	27.0	164.1	黒色頁岩	
12	覆土	磨石・凹石	116.0	65.0	42.0	440	粗粒安山岩	表裏・両側面に凹み。
13	西壁際覆土	磨石・凹石	93.0	55.0	37.0	340	花崗岩	表裏ごく浅い凹み。
14	南壁寄床直	磨石・凹石	114.0	79.0	52.0	600	粗粒安山岩	表裏・両側面に凹み。
15	覆土	磨石	131.5	72.0	36.5	530	粗粒安山岩	表面左上・右下に磨面。
16	覆土	磨石・凹石	138.0	80.0	54.0	630	粗粒安山岩	凹みは浅く不明瞭。
17	覆土	磨石・凹石	(104.0)	73.0	43.0	(400)	粗粒安山岩	欠損。焼石。表裏・両側面に凹み。
18	南東隅寄床直	磨石	135.5	103.5	57.0	1,160	粗粒安山岩	浅い凹みあり。熱を受けている。
19	覆土	磨石・凹石	70.0	64.0	45.0	310	粗粒安山岩	焼石。表裏凹み。
20	覆土	磨石・凹石	(82.0)	69.0	41.0	(270)	粗粒安山岩	欠損。表裏凹み。
21	覆土	石皿	(101.5)	(80.0)	(42.5)	(240)	粗粒安山岩	小破片。裏面に凹み。
22	北壁際覆土	スタンプ石	104.5	79.5	49.0	630	粗粒安山岩	
23	北壁際覆土	装飾品	(49.0)	(16.0)	8.0	9.5	蛇紋岩	欠損。石篦状。

番号	出土位置	器　種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石　材	備　考
24	北壁際床直	環状耳飾り	(18.0)	19.0	13.0	4.4	蛇紋岩	先端欠損
25	覆土	軽石製品	37.5	28.5	15.5	20	凝灰岩	側縁に抉込みあり

6号住居跡出土石器

番号	出土位置	器　種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石　材	備　考
1	中央部床直	磨石・凹石	89.0	84.5	43.0	460	細粒安山岩	表裏・側面に凹み。
2	中央部床直	磨石・凹石	133.0	81.0	51.5	560	粗粒安山岩	焼石。表裏・右側面に凹み。
3	中央部床直	石皿	(209.5)	(274.0)	76.0	(5,600)	粗粒安山岩	欠損。表裏面凹み。

7号住居跡出土石器

番号	出土位置	器　種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石　材	備　考
1	覆土	石鏃	29.0	(17.5)	3.5	(1.0)	チャート	基部欠損
2	覆土	石鏃	16.0	(17.0)	3.5	(0.5)	チャート	基部欠損
3	北壁際床直	石匙	45.0	67.5	7.5	24.6	黒色頁岩	
4	覆土	石匙	73.0	49.0	11.0	27.9	黒色頁岩	
5	覆土	石匙	36.0	66.0	7.5	18.4	ハリ質安山岩	
6	南壁際床直	スクレイパー	80.0	79.0	12.0	79.0	黒色頁岩	
7	覆土	磨石・凹石	103.0	68.0	35.0	360	細粒安山岩	表裏の凹み不明瞭。左側面に凹み。

8号住居跡出土石器

番号	出土位置	器　種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石　材	備　考
1	覆土	磨石・凹石	132.0	67.0	41.0	530	粗粒安山岩	表両側縁に磨面。表裏面に凹み。
2	南東部床直	磨石・凹石	97.5	87.5	65.0	690	粗粒安山岩	表面に凹み。
3	覆土	磨石	124.0	63.0	57.5	650	粗粒安山岩	全面磨き？
4	南東部床直	磨石・凹石	105.0	68.0	41.0	420	粗粒安山岩	表裏面凹み。

9号住居跡出土石器

番号	出土位置	器　種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石　材	備　考
1	覆土	磨石	124.0	98.0	61.0	1,120	粗粒安山岩	
2	覆土	磨石・凹石	119.0	108.5	77.5	1,230	粗粒安山岩	焼石。表裏面凹み。
3	覆土	磨石・凹石	111.0	108.0	85.0	1,770	粗粒安山岩	焼石。表裏面凹み。
4	覆土	石皿	(125.0)	(142.0)	42.0	(880)	粗粒安山岩	欠損。裏面に凹み。

10号住居跡出土石器

番号	出土位置	器　種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石　材	備　考
1	10住覆土	打製石斧	(80.0)	48.0	15.0	64.0	黒色頁岩	
2	10住覆土	打製石斧	109.5	55.0	20.0	94.8	黒色頁岩	
3	10住覆土	打製石斧	(88.0)	62.0	24.0	(141.4)	黒色頁岩	
4	10住覆土	磨石	95.0	56.0	35.0	340	石英閃緑岩	側面4隅に擦面。表面左上に磨面。
5	10住覆土	磨石	85.0	85.0	70.0	670	粗粒安山岩	丸石。
6	10住覆土	凹石	142.0	105.0	73.0	1,180	粗粒安山岩	焼石。表面に凹み。

11号住居跡出土石器

番号	出土位置	器　種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石　材	備　考
1	覆土	打製石斧	144.0	63.0	21.0	188.3	黒色頁岩	
2	覆土	打製石斧	(87.0)	41.5	18.5	(74.7)	黒色頁岩	
3	覆土	磨石・凹石	106.0	77.0	41.0	510	粗粒安山岩	表裏面浅い凹み。
4	覆土	石皿	(256.0)	(86.0)	33.0	(1,130)	点紋緑色片岩	欠損。

12号住居跡出土石器

番号	出土位置	器　種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石　材	備　考
1	覆土	打製石斧	137.0	68.0	27.5	306	黒色頁岩	

土坑出土石器

番号	出土位置	器　種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石　材	備　考
1	98土	石鏃	31.0	16.0	3.5	(1.35)	チャート	
2	60土	尖頭器	(60.0)	21.0	9.0	(11.45)	黒色頁岩	
3	147土	尖頭器	63.5	23.5	7.0	11.35	黒色頁岩	
4	38土	石錐	24.0	20.5	5.5	1.55	チャート	
5	74土	石錐	50.0	28.0	8.0	7.6	黒色頁岩	
6	75土	打製石斧	93.5	59.0	27.5	155.5	黒色頁岩	
7	123A土	打製石斧	96.0	56.0	27.0	161.6	黒色頁岩	
8	138土	打製石斧	112.5	60.0	15.0	90.2	黒色頁岩	
9	138土	打製石斧	112.5	49.5	17.0	95.7	黒色頁岩	
10	143土	打製石斧	96.0	48.0	16.5	92.2	黒色頁岩	
11	144土	磨製石斧	(157.0)	62.0	35.0	(465)	変輝緑岩	
12	30土	磨石・凹石	125.0	72.0	30.0	420	粗粒安山岩	表面に浅い凹み。
13	31土	磨石・凹石	112.0	86.0	40.0	590	粗粒安山岩	表裏面凹み。
14	35土	磨石・凹石	116.0	81.0	46.5	630	粗粒安山岩	表裏・両側面に凹み。
15	51土	磨石	142.5	72.0	40.0	680	粗粒安山岩	
16	57土	磨石	146.0	81.0	49.0	920	灰色安山岩	
17	107土	磨石	108.0	69.5	32.0	370	粗粒安山岩	
18	111土	磨石・凹石	119.5	93.0	43.5	650	粗粒安山岩	表裏凹み。4側面敲打痕。
19	121土	磨石	133.0	58.0	42.0	490	輝緑岩	表裏面浅い凹み。側面隅に擦痕。
20	122土	磨石	89.0	77.0	42.5	440	粗粒安山岩	
21	140土	磨石・凹石	(77.0)	70.0	36.0	(260)	粗粒安山岩	欠損。表裏面に凹み。上端刃状に擦る。
22	143土	磨石・凹石	113.0	89.0	68.0	890	粗粒安山岩	焼石。表裏・両側面に凹み。
23	30土	磨石	147.0	118.5	87.5	2,220	粗粒安山岩	
24	71土	磨石	138.0	130.5	111.5	2,850	粗粒安山岩	丸石。
25	71土	石皿	227.0	(89.0)	37.0	(1,040)	緑泥変岩	欠損。
26	84土	石皿	(141.5)	(100.5)	31.5	(570)	緑泥変岩	欠損。
27	74土	玦状耳飾り	44.0	(44.0)	6.0	10.1	蛇紋岩	欠損。
28	29土	多孔石	280.0	125.0	120.0	3,270	粗粒安山岩	表・右側面に凹み。
29	71土	多孔石	206.0	177.0	100.0	3,010	粗粒安山岩	表面に凹み。

遺構外出土石器

番号	出土位置	器　種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石　材	備　考
1	1号住南包含層	石鏃	14.5	14.0	3.0	0.3	黒曜石	
2	4号住周辺	石鏃	19.0	17.0	4.5	0.85	チャート	
3	8号住西	石匙	38.0	45.5	8.0	9.9	黒色頁岩	
4	4号住周辺	打製石斧	110.0	59.0	19.0	115.2	黒色頁岩	
5	4号住周辺	打製石斧	98.0	52.5	24.0	154.3	黒色頁岩	
6	1号倒木	打製石斧	115.0	62.0	27.0	215	黒色頁岩	
7	1号倒木	磨製石斧	79.0	56.0	19.0	90	蛇紋岩	
8	5－6G	石皿	487.0	300.0	111.0	15,800	粗粒安山岩	表面に凹み。

4．その他の時代の遺構

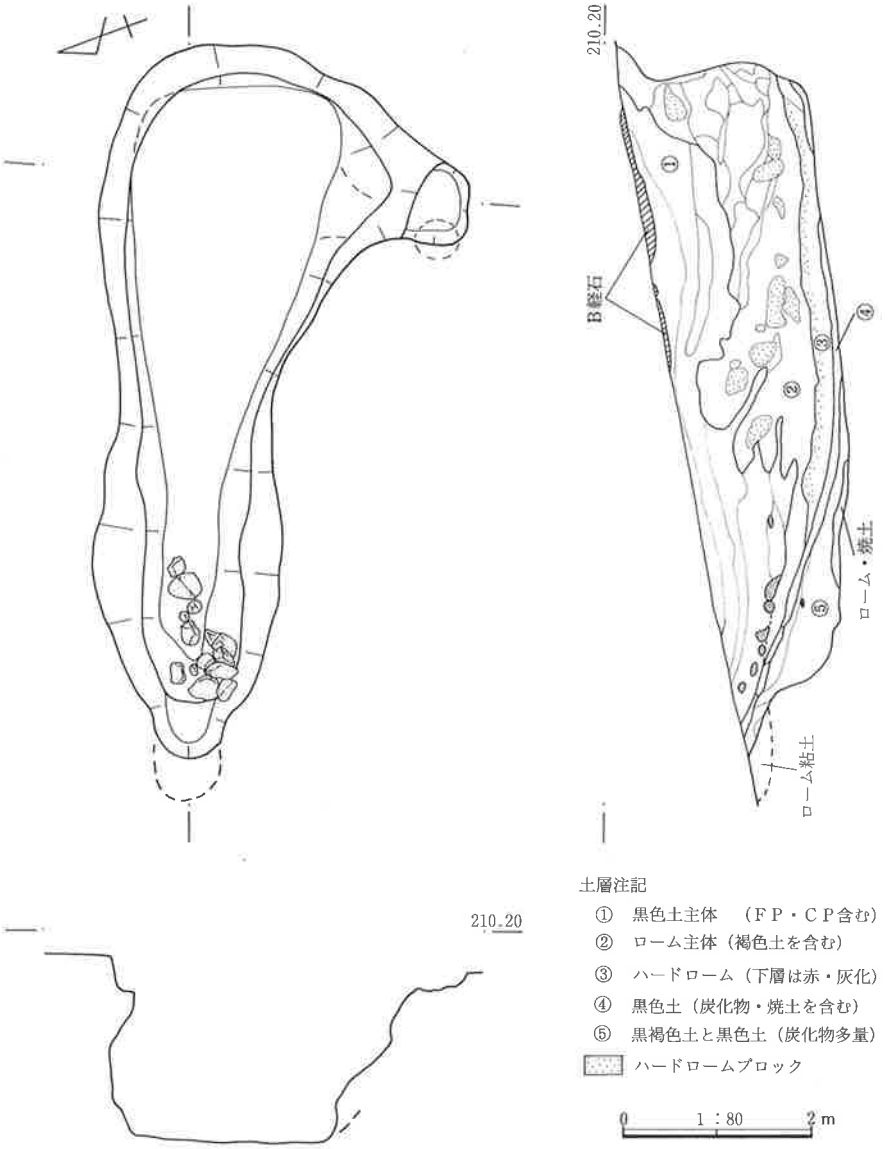
(1) 炭窯跡

9－7・8グリッドに位置する。調査区北端の西向き斜面に位置する。

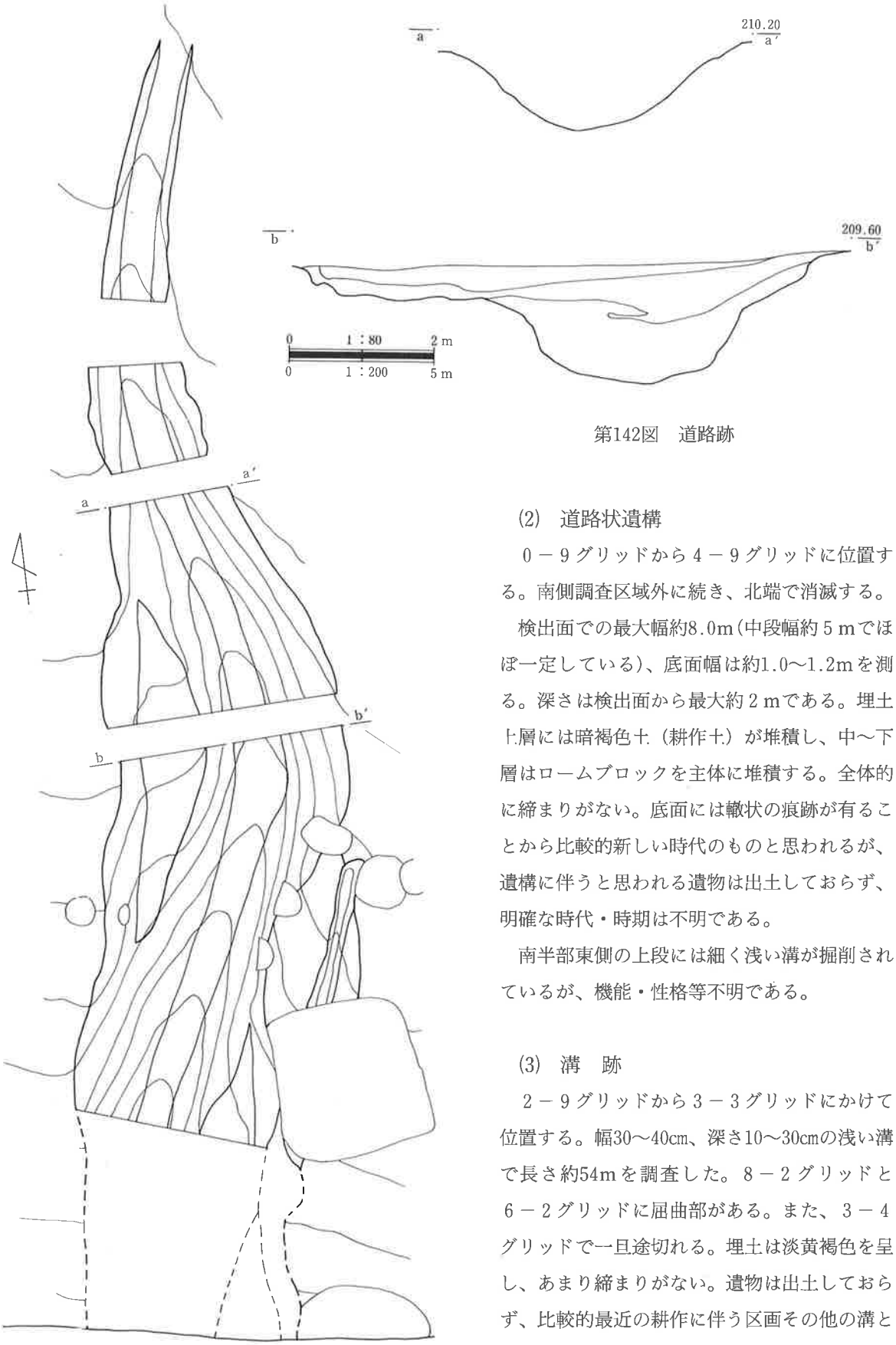
長さ8.0m、最大幅3.0mでほぼ中央がくびれた細い瓢箪型を呈する。深さは東端で約2.0mである。焚口は谷側で、補強の為に用いられていたと思われる礫が内部に流れこんだ状態で出土している。焚口底面は浅く掘り凹められ、ローム粘土を貼って補強している。煙道は最奥部手前から南に開口するが、完掘していない。煙道部壁面は還元焼成により青黒色に変色している。

覆土の最上層には薄く浅間B軽石が堆積する。上層は浅間C軽石と榛名FP軽石を含む黒色土が堆積する。中～下層は褐色土・黄褐色土主体で、天井部崩落によりローム粘土ブロックが多量に堆積する。さらに下層にはロームと炭化物・焼成灰・焼土粒の互層が堆積し、上面は踏み固められている。底面直上には焚口から流れ込む状態で炭化物を含む黒色土が薄く堆積し、この土層下の燃焼部には、炭化物・焼土粒を含む黒色土、黒褐色土が互層となって堆積する。

炭化材以外の遺物は出土していないため明確な時期は不明であるが、浅間B軽石が上層に堆積することから平安時代以前の遺構と思われる。



第141図 炭窯跡



第142図　道路跡

(2)　道路状遺構

0－9グリッドから4－9グリッドに位置する。南側調査区域外に続き、北端で消滅する。

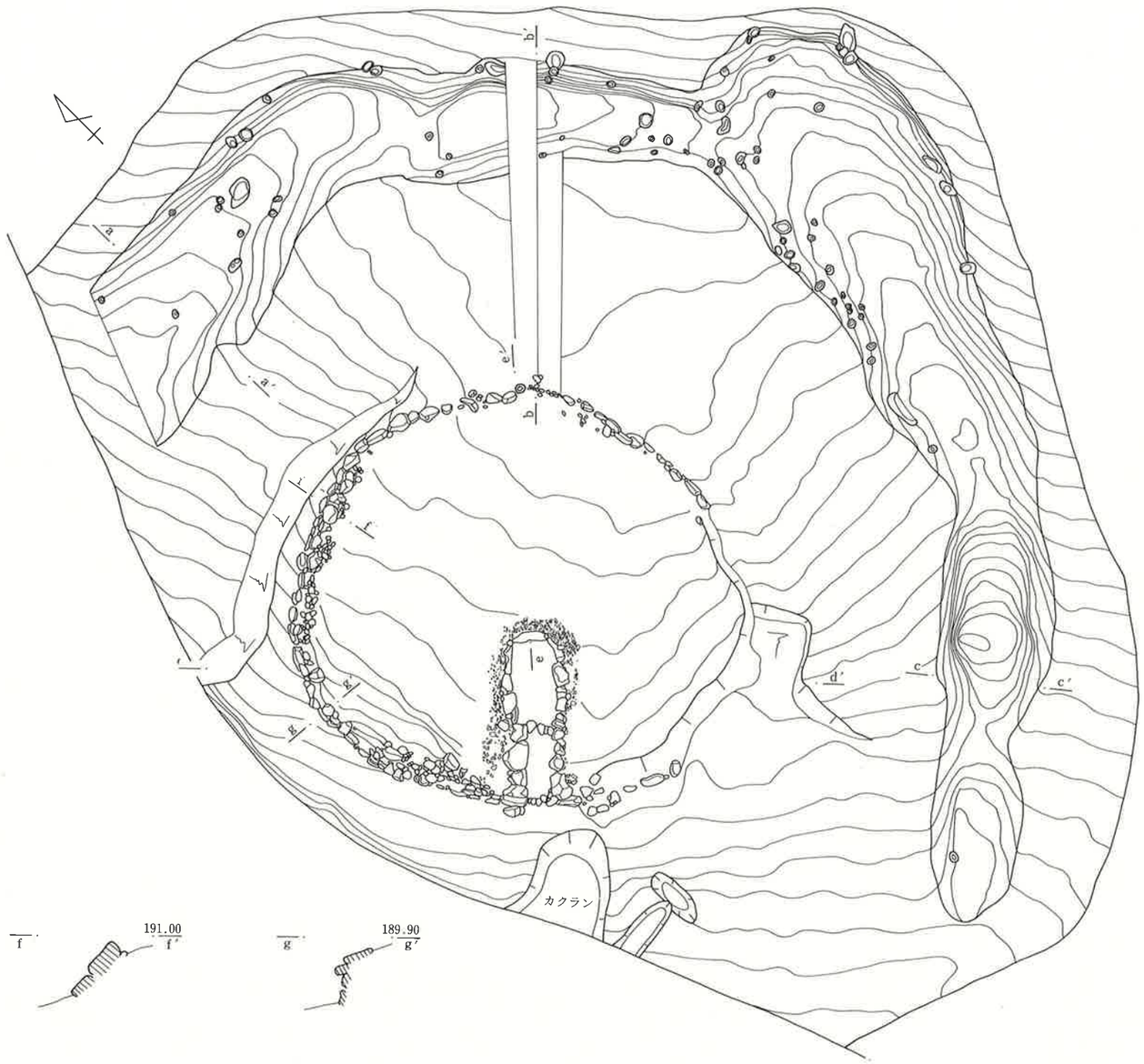
検出面での最大幅約8.0m(中段幅約5mでほぼ一定している)、底面幅は約1.0～1.2mを測る。深さは検出面から最大約2mである。埋土上層には暗褐色土（耕作土）が堆積し、中～下層はロームブロックを主体に堆積する。全体的に締まりがない。底面には轍状の痕跡が有ることから比較的新しい時代のものと思われるが、遺構に伴うと思われる遺物は出土しておらず、明確な時代・時期は不明である。

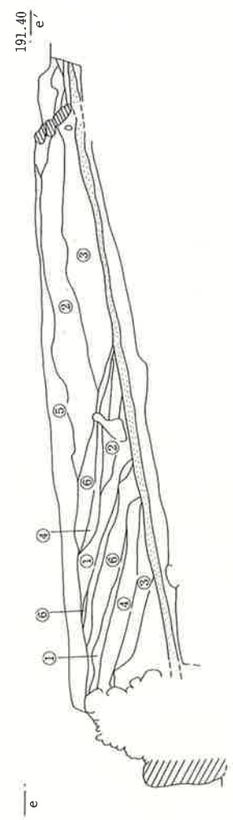
南半部東側の上段には細く浅い溝が掘削されているが、機能・性格等不明である。

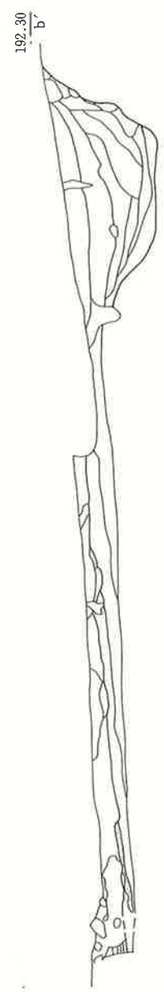
(3)　溝　跡

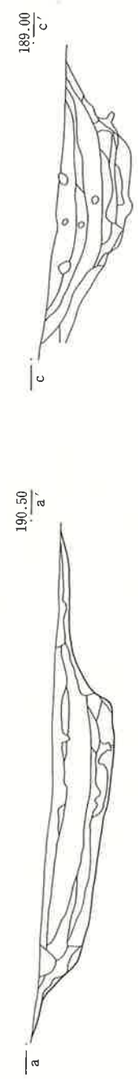
2－9グリッドから3－3グリッドにかけて位置する。幅30～40cm、深さ10～30cmの浅い溝で長さ約54mを調査した。8－2グリッドと6－2グリッドに屈曲部がある。また、3－4グリッドで一旦途切れる。埋土は淡黄褐色を呈し、あまり締まりがない。遺物は出土しておらず、比較的最近の耕作に伴う区画その他の溝と思われる。

墳跡
古遺跡
室宕遺跡
初愛向日



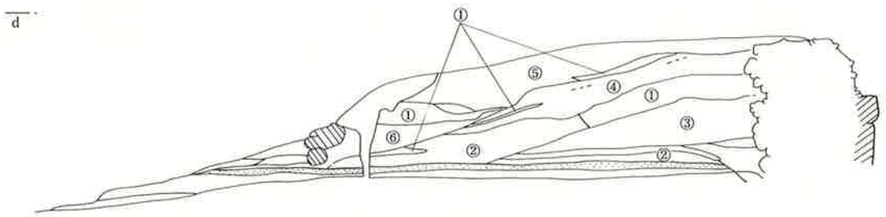


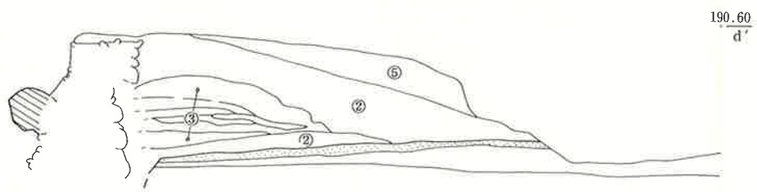




墳丘土層注記

① 黒色土層（C軽石を含む）
② FAを含む黒色土層
③ FAを多量に含む黒色土層と黒色土層の互層
④ ローム（ブロック）を含む黒色土層
⑤ 褐色土とローム主体層
⑥ ローム主体層
FA層





0 1：200 5 m
0 1：80 2 m

第143図　初室古墳全体図

III　初　室　古　墳

〈現状〉

十二山の南西麓に位置し、地形的にも南西に下る斜面上に位置する。いわゆる山寄せ式の古墳である。西側は現用の農道であり調査していない。現状は桑畑として利用されており、墳丘南端を筆境として北と南の２筆の畑に別れていた。南北の畑で２ｍほどの比高差があった。墳丘北側は馬入道のため削平されている。

本跡は富士見村誌に掲載された古墳であり、村誌編さん（昭和29年刊行）の際に行われた、群馬大学史学研究室による調査の際には、玄室南端の天井石を除けばほとんど石室が完存していたものである。

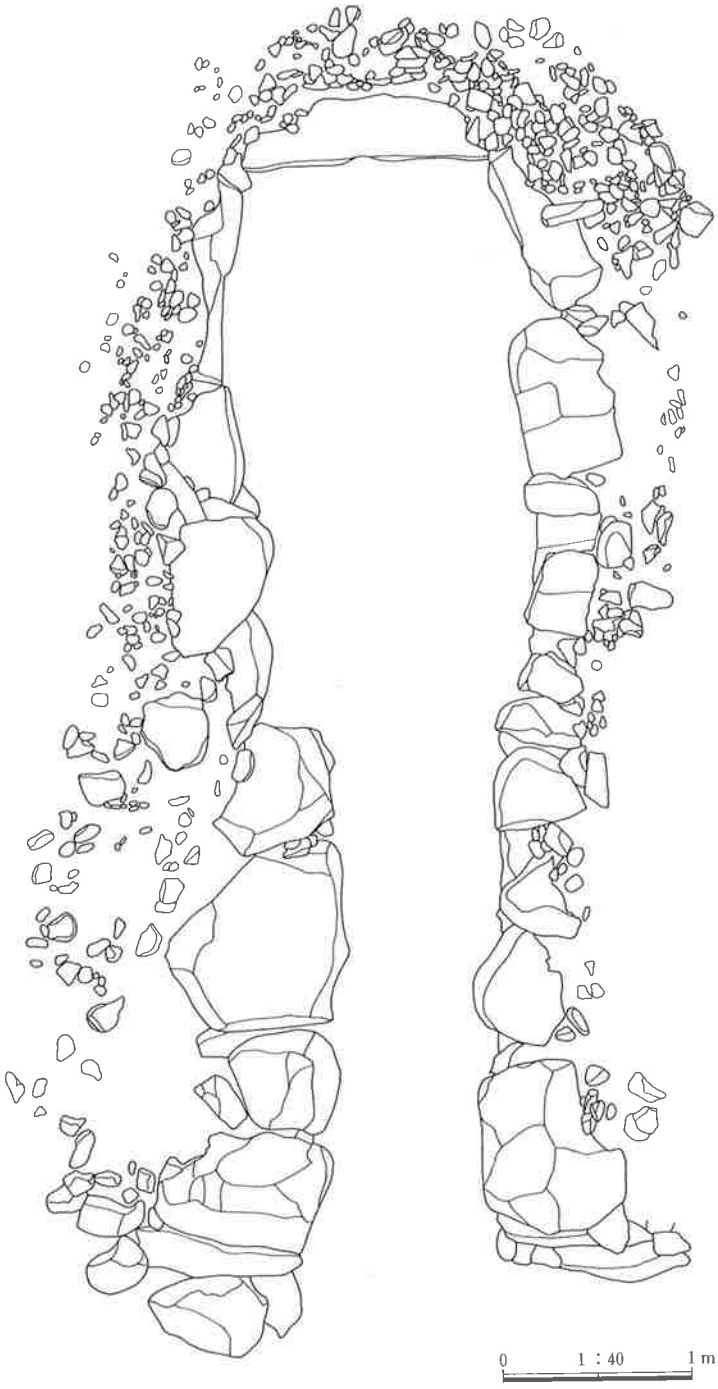
〈周堀〉

西側が未調査であり、断定できないが、墳丘を巡って山側に馬蹄形に掘削されていると思われる。墳丘との間には６～９ｍのテラス面がある。幅、深さともに一定していない。土坑状に連続して掘っていった結果として馬蹄形に巡ったような感じである。幅は最大で8.0m、検出面からの深さは最大1.6mを測る。

周堀の壁面や底面に約70基の柱穴が検出されている。配列には特に規則性は看取できず、性格については不明であるが、山側に集中するようであり、あるいは古墳構築時に掘削された可能性も考えられる。

〈墳丘〉

墳丘の上部は耕作により削平されており、平坦になっている。南西～北～東にかけては葺石根石がほぼ残存するが、南東側は後世の耕作等によ



第144図　石室検出状況及び裏込

る撹乱を受けており、根石は残存しない。しかし、墳丘下部の削平は比較的少なく、大まかな形状は留めていると思われる。葺石根石部分で南西～北東は約15m、北西～南東は残存部分で約16mを測る。平面形状は全体的には若干石室主軸方向が短い円形を呈するが、細部を観察すると直線的に根石が配列されており、作業単位を反映しているとも思われる。東～北側は根石だけであるが、北～西側には最高で4段程度残存する部分もある。葺石の材質は在地の山石で、根石は長さ50～80cm前後、上段は根石と同大のものもわずか用いられているが、ほとんどは人頭大で、拳大のものもある。

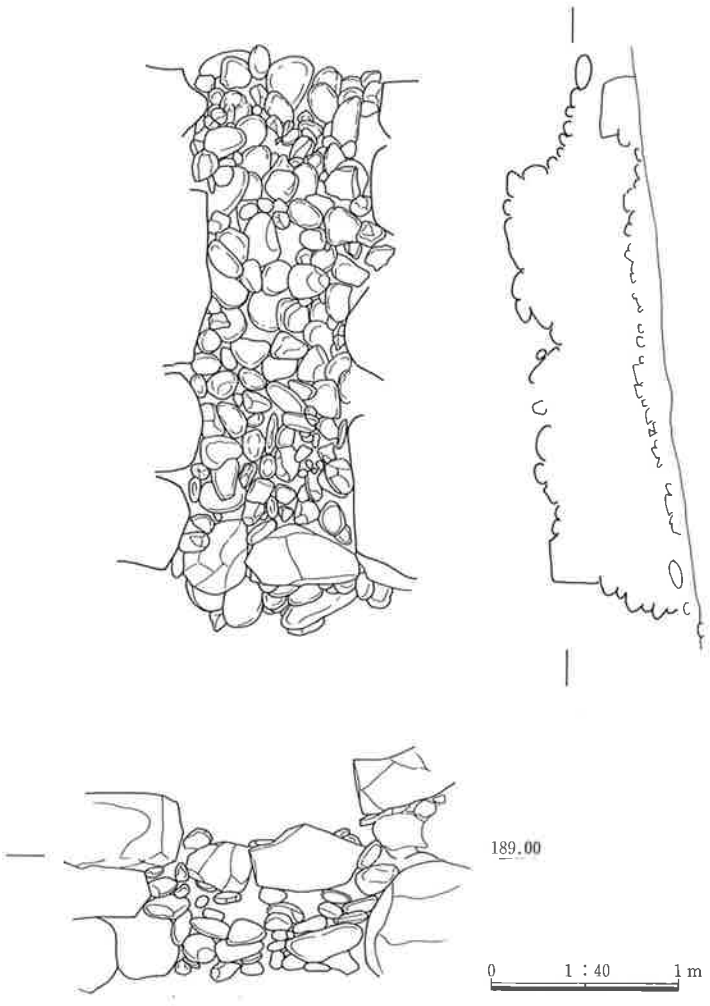
前庭等の墓前施設は検出されていないが、石室入口右側の葺石根石は入口のラインよりも若干前方にずれており、これが原位置を留めているとすれば何らかの施設が付設されていた可能性も否定できない。

墳丘の下にはＦＡ火山灰層が堆積しており、この上の黒褐色土層を基盤に構築されたものと思われる。

〈羨道部〉

羨道部には閉塞施設がほぼ完存する。石室入口の石積みに面を揃え、約40cmの高さまでは河原石を小口、あるいは横積みに積み上げている。最上段には山石2個を用いて押さえている。玄室側にも河原石が小口積みされていたが、上端は崩落している。閉塞の上面は長さ20cm前後の扁平な河原石で約10cmの厚さに充填され、中層約10cmは拳大の山石、下層約20cmは鶏卵大以下の山石と使い分けられている。閉塞上面のレベルは水平ではなく、構築基底面(掘り方)の傾斜に合わせ約9°の角度で入口から玄室側へと上っている。

石室入口の石積みは左右ともに3石が残存するが、右側は2石目が崩壊しており、閉塞部分の石積みによって辛うじて旧状を留めているような状態であった。また、左側も根石が前面に押し出され、2段目以上も前面にずり落ちかかり、押し出された根石の端に辛うじて乗っているような状態であった。羨道部側壁は左側が2段、右側は一部3段が残存する。石材はいずれも在地の山石で、根石は基本的に左右とも長さ80cm強の2石構成で、上になるにしたがって徐々に小振りな石材を用いて積み上げている。なお、床面については閉塞の用材との間に明瞭な区別がなく、玄室下面の敷石レベルで一旦実測を行っている。

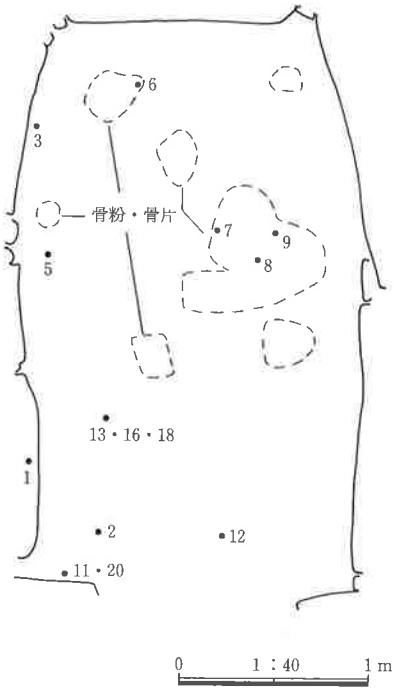


第145図　羨道部閉塞状態

〈玄室〉

玄室入口は縦長の用材で玄門構造になっている。床面には長さ30～40cmの河原石が並び羨道部と区切っているが、閉塞端の石積みの用材とも考えられる。玄室平面は弱い胴張り状を呈する。側壁の根石は左壁３石、右壁２石構成で、２段目以上は小振りな用材を積み上げている。基本的に羨道部も含めて通し目積みを意識していると思われる。奥壁は１段だけが残存する。壁材は羨道部と同じく全て在地の山石を用いている。羨道部、玄室ともに用材の処所に石室破壊の際に付けられたと思われる傷痕が残っている。床面は上面だけは薄く１～２段に鶏卵大の河原石を敷いており、それ以下の約20cmは拳大から鶏卵大の山石を敷き詰めている。床面の状態は部分的には盗掘の際に撹乱されたと思われる部分もあるが、概ね良好である。

石室開口方向はＳ－43°－Ｗである。規模は、石室全長(右壁)5.8m、玄室長（右壁）3.04m、玄室幅1.4m（奥)、1.8m（最大)、1.68m（前)、羨道長2.8m、羨道幅約1.0mを測る。高麗尺で換尺すると、羨道長８尺、幅３尺、玄室長8.5尺となる。玄室幅は基本的に５尺で、玄室入口から６尺の所から奥壁に向かい左右等しく0.5尺ずつを減じ、奥で４尺となる。



第147図　遺物出土状態

〈掘り方〉

３ケ所の墳丘断割トレンチで､各トレンチともに1.6m前後石室プランよりも広い掘り込みが確認されている。深さは奥壁部分で地山面より約90cmの深さを測る。玄室部掘り込みの上幅5.6mである。

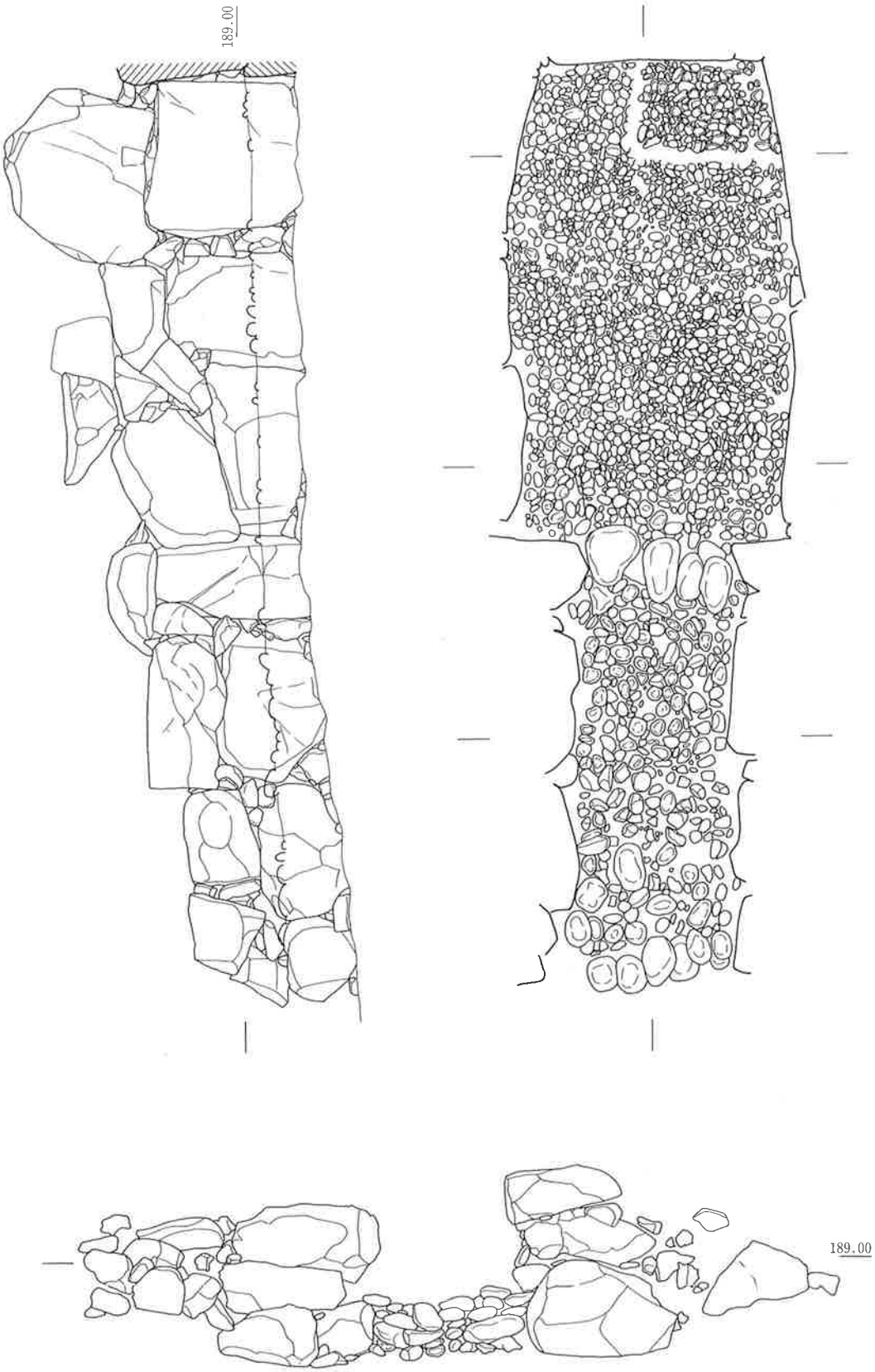
〈遺物出土状態〉

石室は既に盗掘されている。東京国立博物館には本墳出土と伝えられる太刀４振りが所蔵されている。群馬大学の石室等実測調査の際には玄室から須恵器が出土したということである。

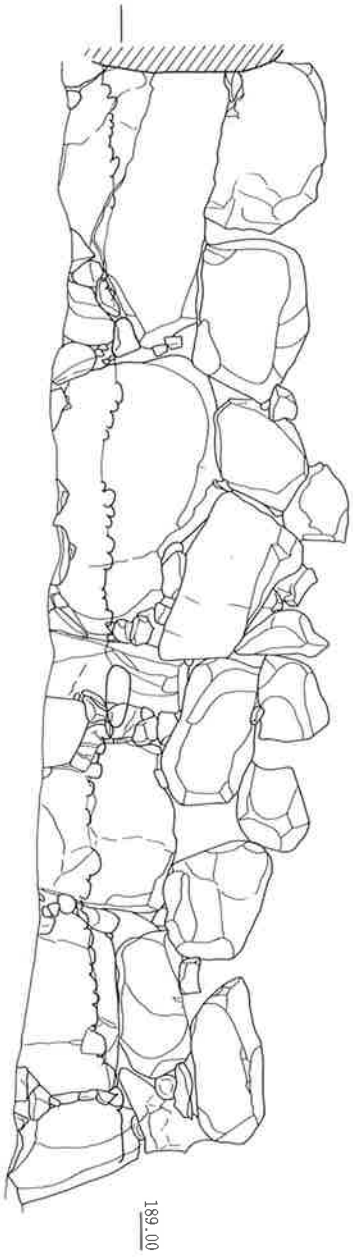
出土遺物は少量であるが、刀装具・馬具・耳環・土器類等が残存していた。

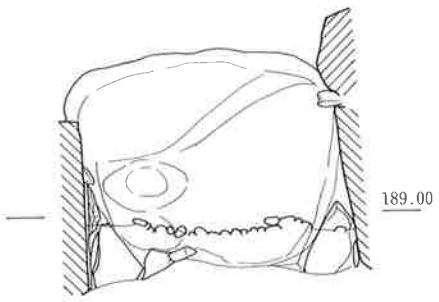
頭椎太刀柄頭は左壁の根石と２段目の石材の間の隙間から出土した。当然原位置を留めていないものと思われるが、どのような経緯でこの場所に位置したかは不明である。柄頭の中には少量の土と布切れが入っていた。他の刀装具もすべて左壁際から散在して出土している。根石の位置で奥石のほぼ中央部に切羽、奥石と中石の間にコイル状製品、玄門側の根石から若干の距離があるが奥寄りにハトメ金具、手前に縁金具が出土した。馬具は玄門寄りに出土している。床面の中央から奥部にかけて骨粉・歯片が散乱している。耳環３点は最も骨粉が集中している玄室中央寄りから、他の１点は左壁寄り奥の骨粉の中から出土している。鉄鏃類の残りは悪く、ほとんどは小片となっていた。玄室の土を振るって採集したもので、出土位置は不明である。また、振るった土の中からは多量の鉄片も出土しているが、太刀の残欠と思われる。

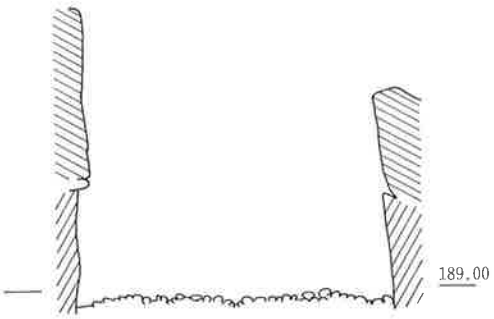
玄室に崩落した撹乱土や主に墳丘の西寄りから多量の須恵器破片が出土しているが、形状を復元できるものはほとんどなかった。土師器坏１点が墳丘西側から出土している。



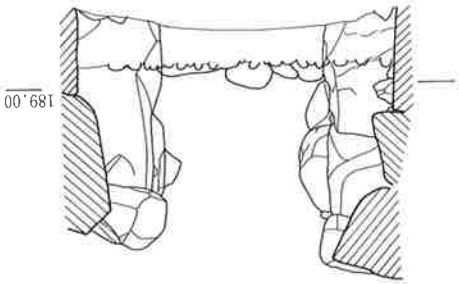
第146図　石室展開図

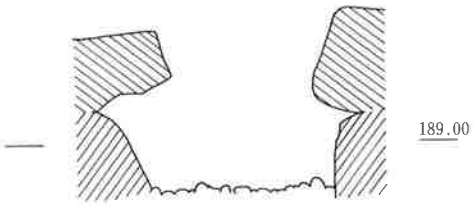

189.00


189.00

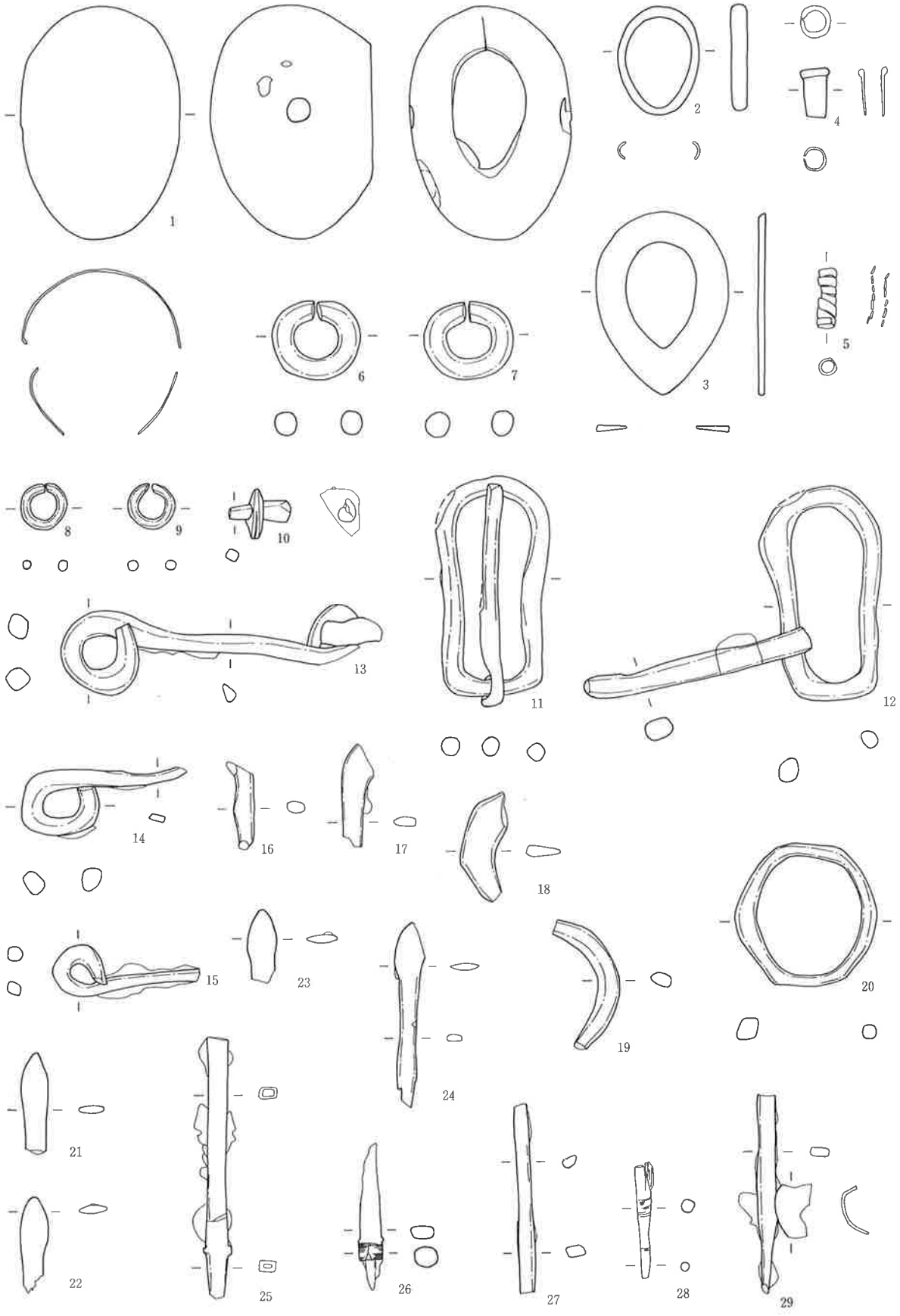

189.00

189.00

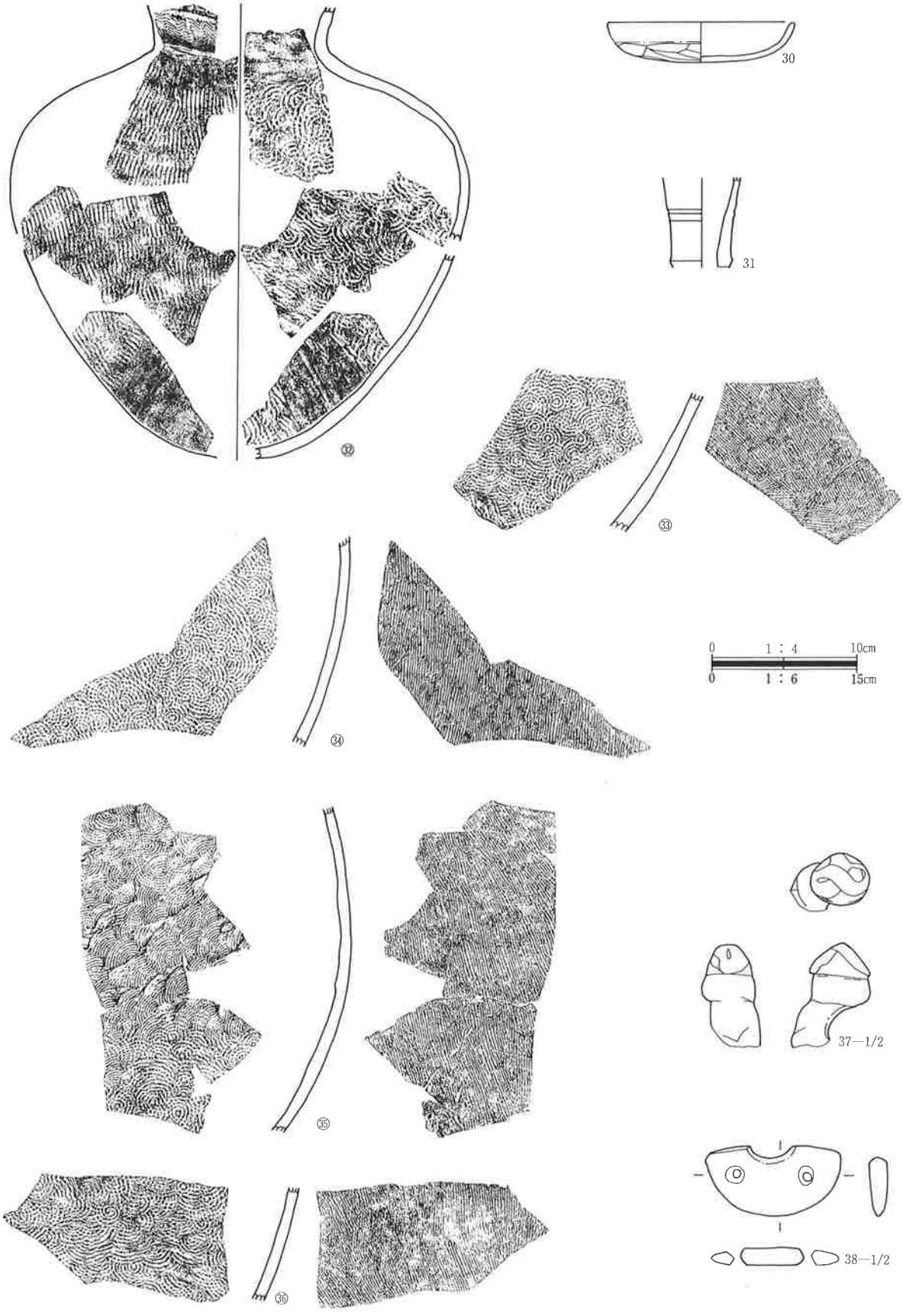

189.00


189.00

0
1 : 40
1 m


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
0　1：2　5cm

第148図　出土遺物（1）



第149図　出土遺物（２）

第7表　初室古墳出土遺物観察表

〈金属製品〉

番号	器　種	出土位置	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	特　徴　な　ど
1	頭椎大刀柄頭	左壁根石上	8.1	5.6	5.7	金銅製。無畦目式。柄孔径4.8×2.6cm、鳩目孔径0.8cm。
2	縁金具	玄室入口左	3.7	2.9	0.6	金銅製。倒卵形。内径3.7×2.3cm。
3	切羽	玄室左壁奥際	6.3	4.7	0.3	金銅製。倒卵形。内径3.6×2.5cm。
4	鳩目金具	玄室中	1.75	外径1.05	内径0.7	金銅製。
5	コイル状銅製品	玄室左壁中際	2.1	外径0.65		金銅製。
6	耳環	玄室奥壁寄り	2.8	3.1	0.8～0.85	金銅製。
7	耳環	玄室中央右寄	2.7	3.1	0.75～0.9	金銅製。
8	耳環	玄室中央右寄	1.6	1.7	太さ0.4	金銅製。
9	耳環	玄室中央右寄	1.6	1.6	太さ0.4	金銅製。
10	刀	玄室中	(2.2)			断面四角。茎部破片。鉄目釘が残る。
11	絞具	玄室左袖	7.75	4.05	0.6～0.7	刺金7.8cm。
12	絞具	玄室入口	7.3	4.2	0.7～1.0	刺金8.25cm。
13	轡	玄室左壁	10.5	2.9	0.7～	断面形状四角気味。残存長11.25cm。
14	轡	玄室中	(5.8)	2.3	0.75	15と一連か？
15	轡	玄室中	(5.15)	1.75	0.5	
16	不明	玄室中	(3.0)	0.7	0.4	
17	轡？	玄室左壁寄り	(3.6)	1.3	0.35	破片。素環鏡板？
18	轡？	玄室左壁寄り	(3.8)	1.2	0.35	破片。素環鏡板？
19	轡	玄室左壁寄り	(4.6)	0.75	0.45	破片。素環鏡板
20	轡	玄室左袖	(5.05)	5.0	0.45～0.7	素環鏡板
21	鉄鏃	玄室中	(3.5)	0.95	0.3	鏃身片。鑿箭式。
22	鉄鏃	玄室中	(3.1)	1.0	0.3	鏃身片。鑿箭式。
23	鉄鏃	玄室中	(2.5)	1.1	0.3	鏃身片。鑿箭式。
24	鉄鏃	玄室中	(6.4)	1.1	0.25	鏃身～頸部片。鑿箭式。
25	鉄鏃	玄室中	(9.0)	0.9	0.4	頸部～茎部片。
26	鉄鏃	玄室中	(5.1)	0.8	0.7	頸部～茎部片。
27	鉄鏃	玄室中	(6.5)	0.7	0.4	頸部片。
28	鉄鏃	玄室中	(3.9)	軸径0.5		茎部片。
29	鉄鏃	玄室中	(6.9)	0.7	0.35	茎部片。

〈土器〉

番号	器　種	出土位置	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	特　徴　な　ど
30	坏（土師器）	墳丘西側	12.8	—	2.8	外面口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ、内面ヨコナデ。
31	？（須恵器）	墳丘西側	—	—	—	頸部破片。
32	甕（須恵器）	墳丘西側	—	—	—	口縁部外面波状文、外面平行叩目、内面青海波。
33	甕（須恵器）	墳丘西側	—	—	—	胴部破片。外面平行叩目、内面青海波。33～36同一個体。
34	甕（須恵器）	墳丘西側	—	—	—	胴部破片。外面平行叩目、内面青海波。
35	甕（須恵器）	墳丘西側	—	—	—	胴部破片。外面平行叩目、内面青海波。
36	甕（須恵器）	墳丘西側	—	—	—	胴部破片。外面平行叩目、内面青海波。

〈その他〉

番号	器　種	出土位置	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	特　徴　な　ど
37	土製品？	墳丘西側	(3.5)			深鉢の把手の可能性あり。先端に眼鏡状隆帯。右脚部欠損。胎土は砂粒を含み、浅黄橙～橙色を呈する。
38	垂飾	墳丘西側	4.7	2.4	0.6	蛇紋岩。表裏から穿孔。孔径3mm、開口部径5～6mm。

Ⅳ　愛宕遺跡

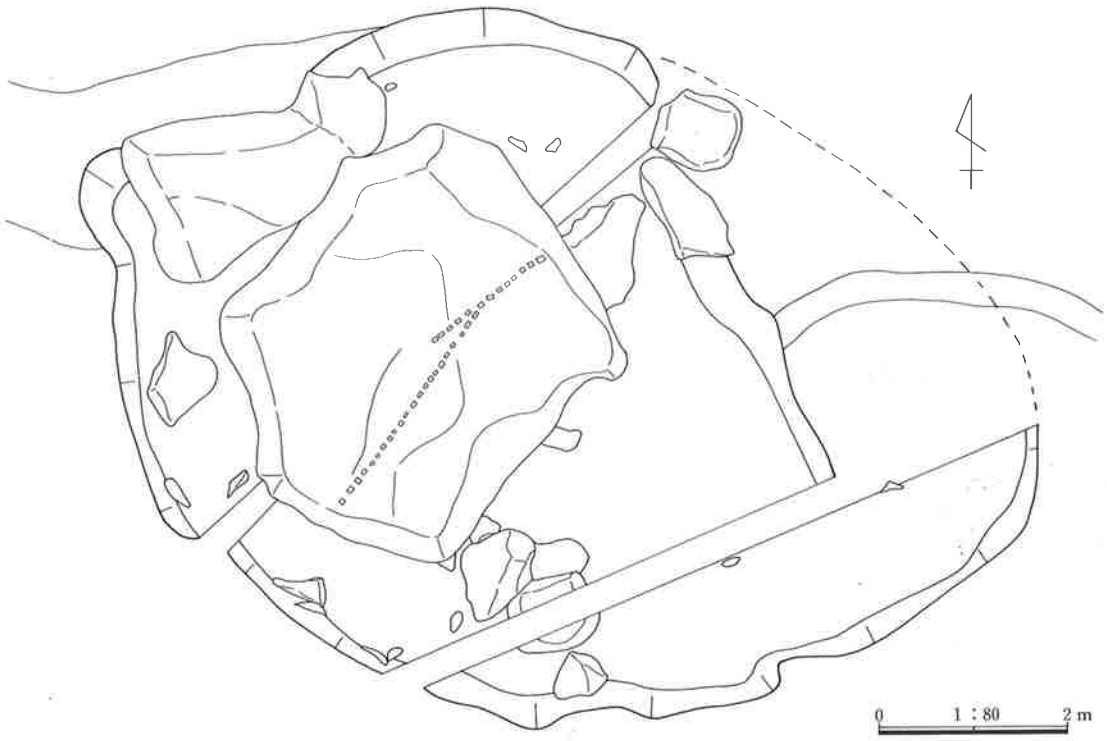
調査前の状況は、周辺の畑地も含めて自然石（岩）が地表面に散在的に露出していた。富士見村誌によると付近に古墳が存在したとのことであるが、発見できなかった。調査区域内で露出していた石は「矢」痕の刻まれた１号石と２号・５号石であるが、表面変化の程度から、１・２号はある程度古い時期に、５号は比較的最近露出したものと考えられる。

調査の結果明瞭に人為的な作業の痕跡を残すものは１号だけである。他のものは自然崩壊は認められるものの、岩の表面に加工痕跡は認められず、周囲の地山を掘り込んだ痕跡もない。全くの自然な状態である。岩の周囲以外の地山面にも、調査範囲内では岩を抜きっ取ったような痕跡は認められない。

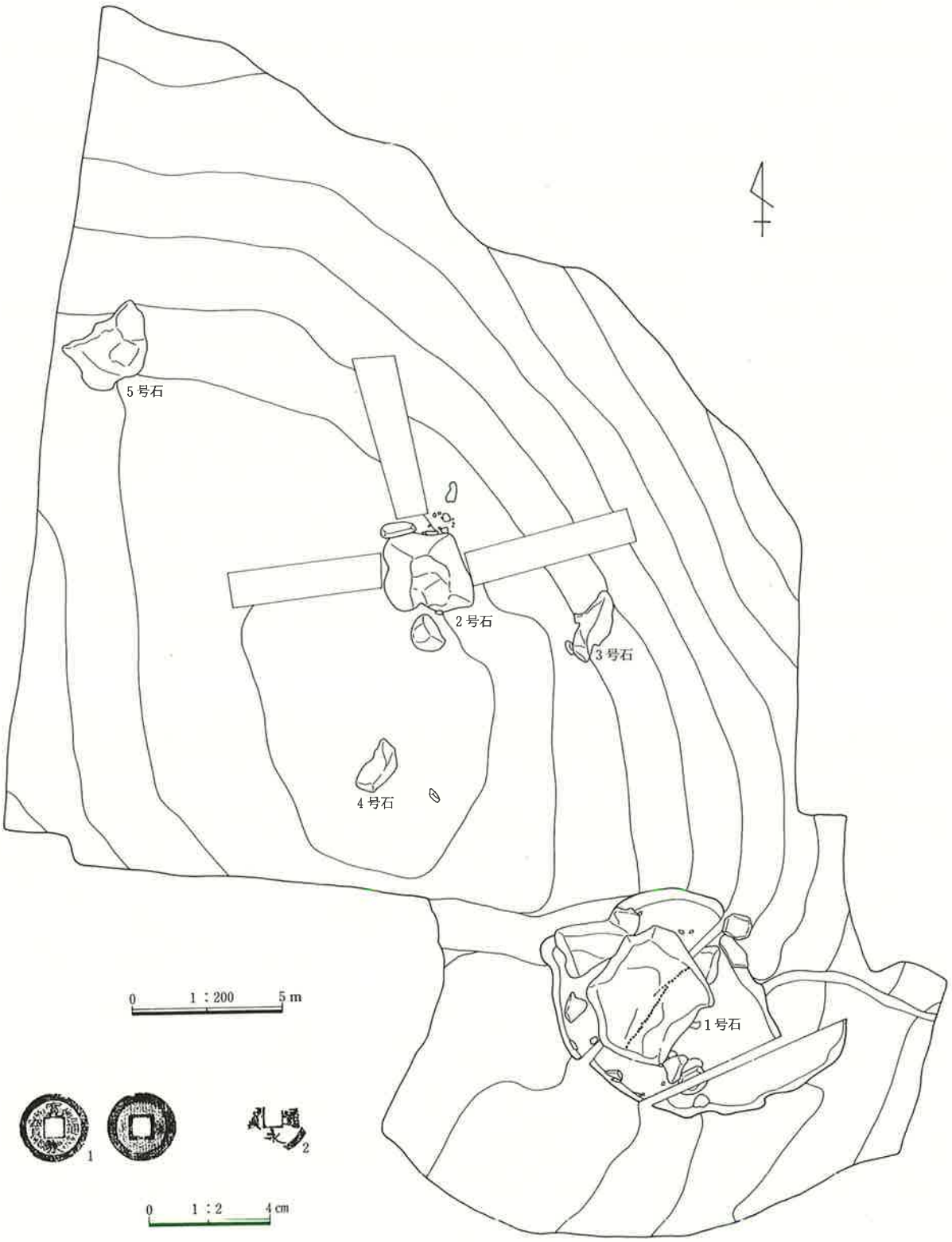
１号石の規模は約4.2×3.5m、厚さ約２ｍを測り、平面的にはほぼ５角形状を呈する。石（岩）の上面は北東端は平坦であるが、それ以外の過半部は南西方向に傾斜しており、中央部は凹んでいる。下面もほぼ平坦で、水平な状態である。北東側の側面は直立し、やはり平坦である。北西、南東面も急角度で上面に至る。「矢」は北東面と上面に穿たれている。北東面の「矢」列は面の中央に垂直方向に穿たれており、上面の中頃まで直線的に続いている。上面にはさらに南辺にほぼ平行して別の「矢」列が穿たれている。

１号石の周囲は約11×７ｍの規模で楕円形に地山を掘り下げている。１号石は他の岩に乗るような形で底面から浮いている。掘り込みの覆土内には多量のハツリ屑が混入している。

遺物は１号石の掘り込み覆土中から寛永通宝と少量の陶磁器類が出土した。また、２号石の際から寛永通宝、遺構外から縄文時代後期の土器破片が少量出土しているが、寛永通宝以外は資料化していない。



第151図　採石跡（１号石）



第150図　愛宕遺跡全体図及び出土遺物

Ⅴ　日向遺跡

検出された遺構は溝と柱穴である。溝は西端に屈曲部があり、東（南）方へは直線的に伸びている。直線的な部分の掘り込みは西端の底面レベルで屈曲部分と約80cmの比高差がある。

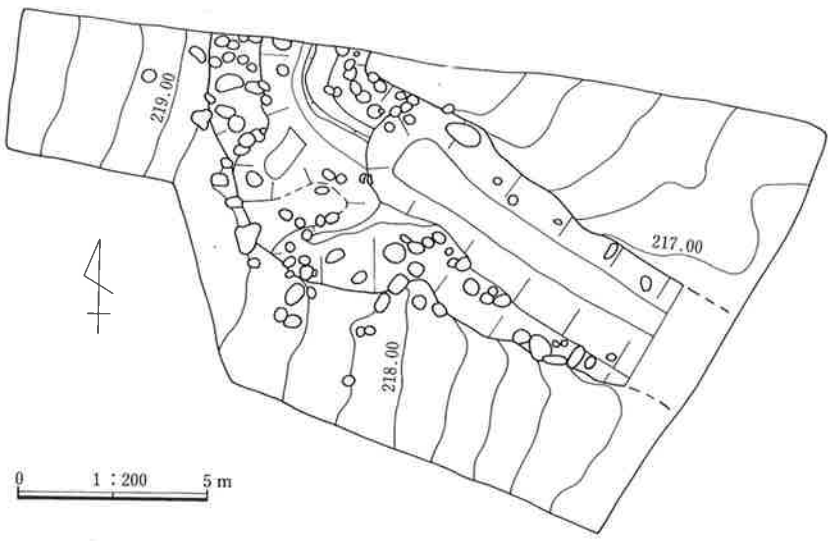
直線的な深掘りの部分を仮にＡ溝、屈曲部分をＢ溝として説明すると、Ａ溝の規模は西端を除いて幅3.2～4.5m、底面は西端から徐々に幅を減ずるものの、ほぼ90cm前後を測る。壁面は急角度で立ち上がるが、北側の方がより急角度である。深さは検出面から約２ｍを測る。走向はＮ－120°－Ｅである。底面は平坦でおおむね10°の傾斜で東方に下っている。覆土は上層から中央にかけては暗褐色土主体に堆積する。壁際から下層にかけては黒色土主体に堆積する。底面上には黄褐色土・褐色土が南壁側から流入している。

Ｂ溝の底面には２段の掘り込みが認められるが、土層断面を観察した結果、底面幅の狭い溝（旧溝）から広い溝（新溝）に掘り替えたことが判明した。規模は断面観察部分で上端幅約4.3m、深さ約２ｍを測る。底面幅は全体的には１ｍ前後、旧溝部分だけでは20～60cmを測る。底面は新溝部分は平坦であるが、旧溝部分は中央が凹んでいる。壁面の立ち上がりはＡ溝よりもやや緩やかである。

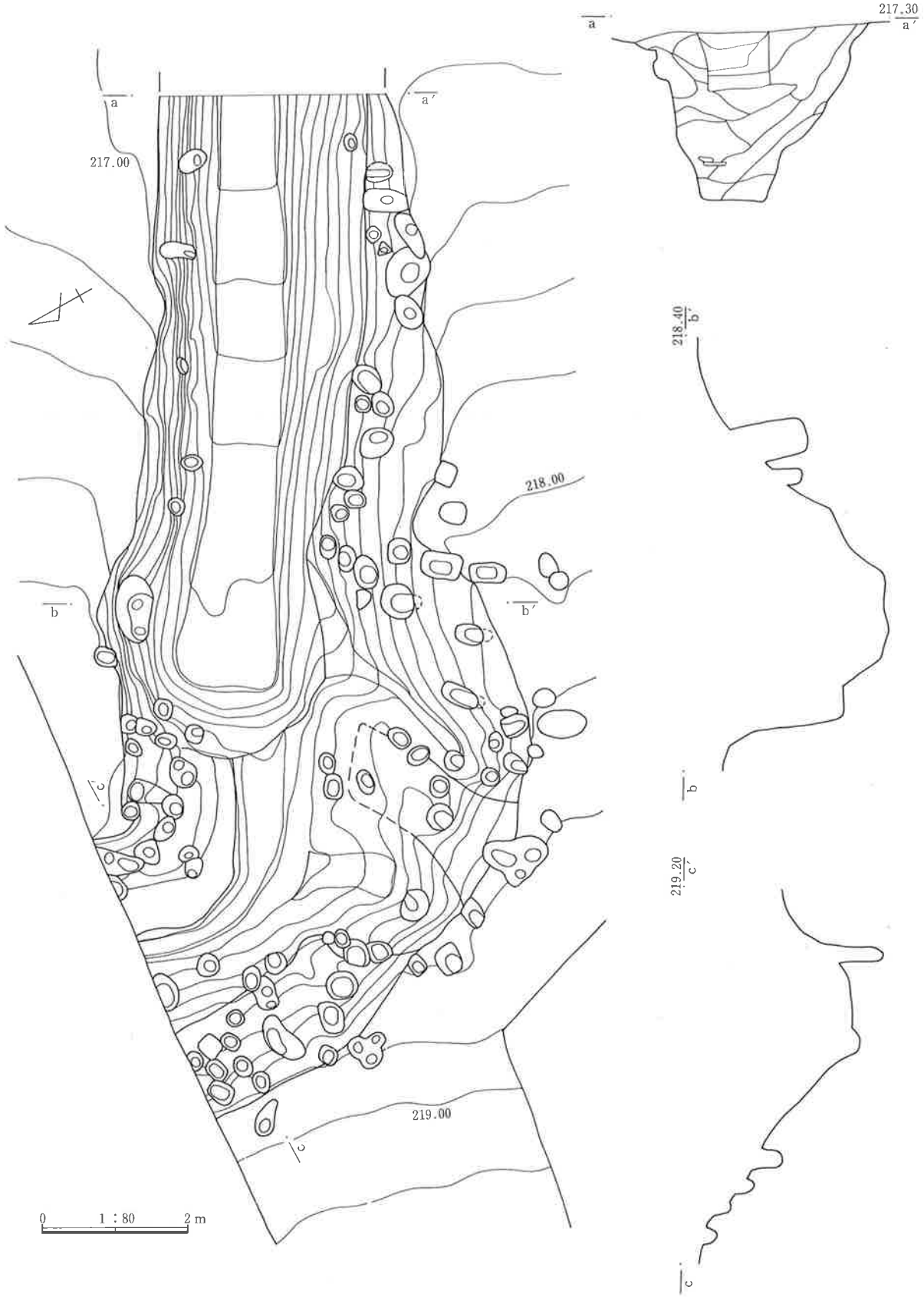
Ｂ溝の屈曲部からわずか南に下った部分は壁面が土坑状に南方にえぐれている。この部分の底面はＢ溝の南北方向の延長上に位置しており、他の部分との関連は不明なものの、現状のように屈曲せず、直線的に掘削されただけの時期があった可能性もある。また、Ａ溝の西端部には南西方向に向かって徐々に深さを減じていく細い溝状の部分があり、Ａ・Ｂ溝が接続せず、間に土橋状の施設が設けられていた時期のあったことも考えられる。

溝内部には多数の柱穴が検出されている。溝の内側に位置するものが大半を占め、また、溝の壁面に斜めに穿たれた柱穴もあるため、溝と柱穴が密接な関係を有することは確かである。しかし、先後関係、機能等を含めて、溝と柱穴の関係や柱穴と柱穴の関係は不明である。ただし、たまたまＢ溝北端の土層断面で観察できた柱穴について記すと、新溝底面東端の柱穴は溝の埋没初期には機能していたようである。また、西壁面下位の柱穴は新溝への掘り替え前に埋め戻されていたことが判明している。柱穴の平面形状は円形が大半であるが、方形・長方形を呈するものも南壁側に認められている。深さは20～120cmと一定していない。

遺物は数点の縄文土器が出土しただけであり、遺構の時期は不明であるが、堆積土や溝・柱穴の形状等から中世に属すると考えている。



第152図　日向遺跡全体図



第153図　溝跡

調査の成果と課題

(1)　縄文時代前期後半諸磯ｂ～ｃ式土器（第Ⅲ群土器）の考察

愛宕山遺跡では縄文時代前期の諸磯ｂ～ｃ式土器が充実している。ここでは諸磯ｂ～ｃ式土器について考察してみたい。なお考察過程はやや煩雑なため、結論だけ知りたい方は１と５を読まれることを希望する。

１、諸磯ｂ～ｃ式土器の属性分類

２、愛宕山遺跡遺構出土土器の検討

３、他遺跡出土資料との比較検討

４、諸磯ｂ～ｃ式の細分段階の命名

５、まとめ―諸磯ｂ～ｃ式土器の細分

６、補足

１．諸磯ｂ～ｃ式土器の属性分類

諸磯ｂ～ｃ式土器の内容を明かにする為に、ここではまず諸磯ｂ～ｃ式土器の属性を分類、提示してみる。属性と一口に言っても数多くあり、その全てを分析する事は不可能なので、ここでは編年上有効な、文様要素、文様、口縁部形態、口唇部加工、地文、底部、浅鉢形土器の７項目を検討対象にした。なお、この分類を作成するに際しては、他遺跡の資料も参考にし、愛宕山遺跡以外の土器にも適用できるようにした。

(1)　**文様要素**（第154図）

１類；櫛歯文（同図１）　先端に刻みを付けた半截竹管で、三～五条の平行線を同時に描出したもの。

２類；爪形文（同図２～５）　半截竹管などを用いて、爪形の刺突を付けたもの。爪形文の断面中央部が蒲鉾状に膨らむもの（凸型[1]；２）と、へこむもの（凹型；３）があるが、前者が圧倒的に多い。平行する爪形文間には棒状工具による太い刻みを付けたもの（４）やＤ字刺突を付けたもの（５）がある。刻みには右傾するもの、左傾するもの、羽状のもの，横位のものなどがある。

２′類；爪形文＋隆帯（同図６）　爪形間に隆帯をもつもの。隆帯上にはたいてい太い刻みが付く。

３類；浮線文（同図７～13）　器面に粘土紐を貼付したもの。浮線上の加飾から以下の様に細分した[2]。

ａ種；浮線上に何も付けないもの（７）。

ｂ種；浮線上に太い刻みを付けたもの（８）。施文具は棒状工具と思われる。

ｃ種；浮線上に細い刻みを付けたもの（９）。施文具は細い棒又はヘラ状工具と思われる。

ｄ種；浮線上に縄文を付けたもの（10）。

ｅ種；浮線間に列点刺突を付けたもの（11）。

ｆ種；浮線上に爪形文を付けたもの（12）。

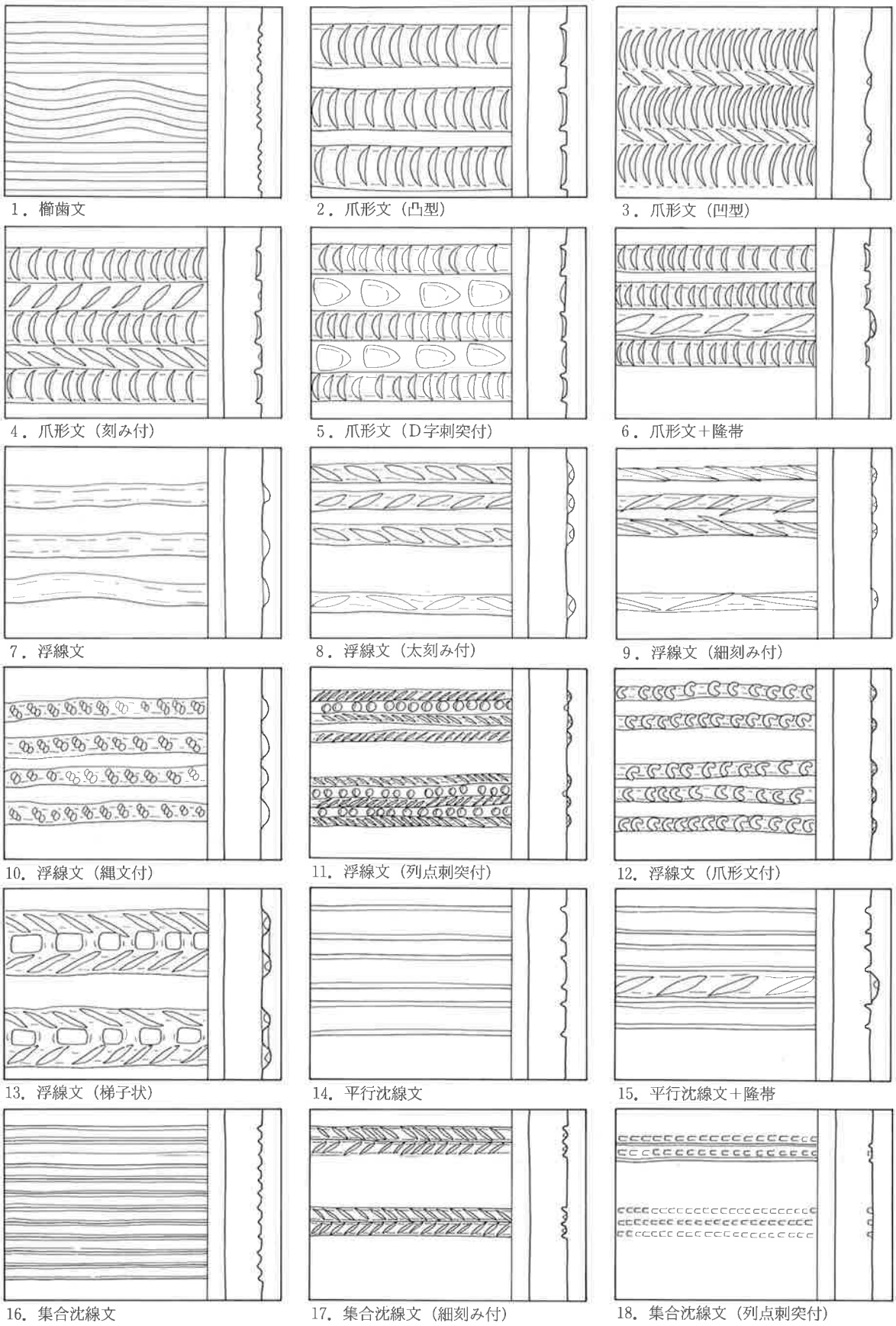
なお刻みには右傾、左傾、羽状、ハ字状の、縄文ではＲＬ、ＬＲのバラエティーがある。

４類；平行沈線文（同図14）　半截竹管などによって二本の平行する沈線を引いたもの。

４′類；平行沈線文＋隆帯（同図15）　平行沈線間に隆帯をもつもの。隆帯には大抵刻みが付く。

５類；集合沈線文（同図16～18）　三本（以上）の沈線が平行しているもの。ここでは平行沈線文を引く時、前に引いた平行沈線の一辺に重なるようにして施文したものに限定した。細い刻みを付けたもの（17）や列点刺突を伴うもの（18）がある。

この１～５類のほかに、数は極少量だが、一本描きの単沈線や、円形竹管文などがある。



第154図　諸磯ｂ式土器の文様要素

(2) 文様（第155－1～3図）

諸磯式土器の文様の施文部位は口縁部、頸部、胴部、底部直上に大別できる。しかし多いのは口縁部文様又はそれが胴部まで拡大したものである。本論では以下、特に断わらない限り、文様と言えば口縁部文様をさすことにする。口縁部文様は種類が多いので、ここでは類似した文様を、類型としてまとめ、説明する。

1類；木葉文類型（同図2、20～22、25、49）　弧線を向かい合わせ、木葉状の文様を描いたもの。木葉文を直線で連結した連結木葉文（22）、一つ一つが分離した分離木葉文（25）、木葉文が入り組んだ入組木葉文（21）がある[3]。また木葉文を区画文で囲ったものを区画線付木葉文と呼ぶが、それには、弧線で区画したもの（2、20）や菱形文で区画したもの（49）がある。

2類；蕨手文類型（同図1、3～5、23、26、29、46、50）　植物の蕨の様に線が渦を巻いたもの。この文様は文様帯の上下区画後、更に弧線文や大波状文、山形文（46）、菱形文で区画（二次区画）（50）を行い、その中へ充塡するのが通例。蕨手文の先端には必ず「止め」[4]がある。この「止め」を出発点と見なした時に、平行する線が同一方向に曲がるもの（蕨手文）と、異方向に（π字状に）分岐するもの（π字蕨手文）がある。また蕨手文で渦の巻き方の強いものを渦巻型と称する。故に蕨手文は蕨手文（3、26）、蕨手文（渦巻型）（1、29）、π字蕨手文（5、23）、π字蕨手文（渦巻型）（4）に分類できる。

3類；枠状文[5]類型（同図35）　横走する線で横区画を行なった後に、その間に窓枠状（長楕円状）の文様を描いたもの。この文様を特殊なものと見る考えがあるが、長楕円文と長楕円文の間に着目するとπ字蕨手文（35の上段中央）を見ることができ、π字蕨手文を祖形とする可能性も想定される。

4類；渦巻文類型（同図7、9、11、14、15、32）　蕨手文の「止め」がない渦巻文（32）、渦の巻き方の多い多重渦巻文（7）、弧線が向かい合った形をとる向弧渦巻文[6]（9）、向かい合った弧線がかみ合う風車状渦巻文[7]（11、14）、それが簡素化し、渦巻く線が短く、巻きも緩い短渦巻文（15）がある。

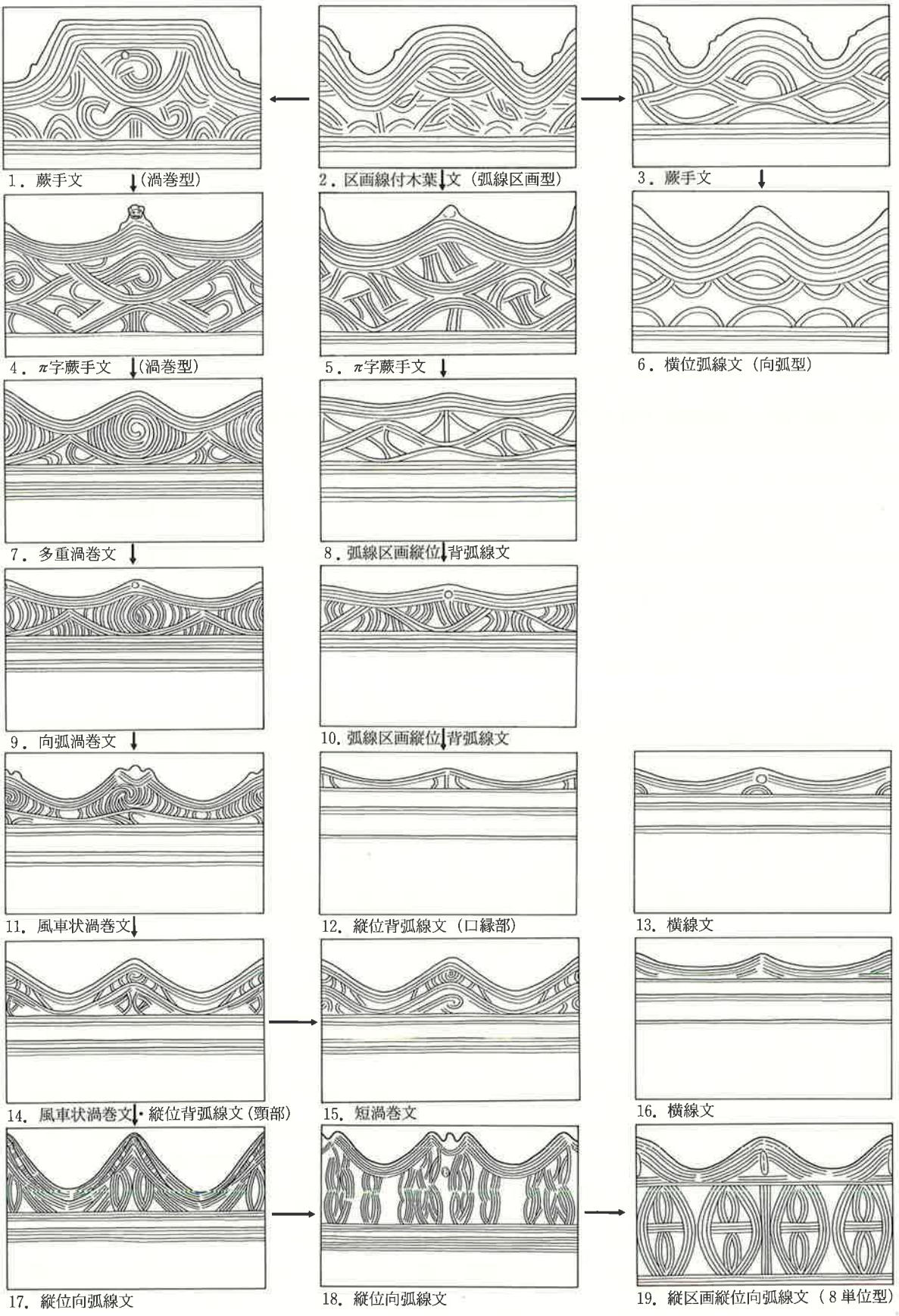
5類；縦位背弧線文類型（同図8、10、12、14）　二つの弧線を背中合わせに描いた背弧線を縦位に配したもの。弧線区画を伴う弧線区画縦位背弧線文（8、10）と、伴わない縦位背弧線文（12）がある。後者は風車状渦巻文をもつ土器の口頸部文様に採用されたものでもある（14）。

6類；縦位向弧線文類型（同図17、18）　二つの弧線を向かい合わせに描いた向弧線文を縦位に配したもの。風車状渦巻文を描く土器の口頸部文様にあるもの（17）では縦に連なる向弧の数は一つしかなく、その長さも短いが、この口頸部文様が広く器面に展開したものでは縦に二個程度連なるため、その長さも長い（18）。向弧線文の垂下する位置も、前者では波頂部に限られるが、後者では波底部付近にも垂下するため、その垂下列の数が多い。18では縦位の弧線文は全体で16列も垂下している。

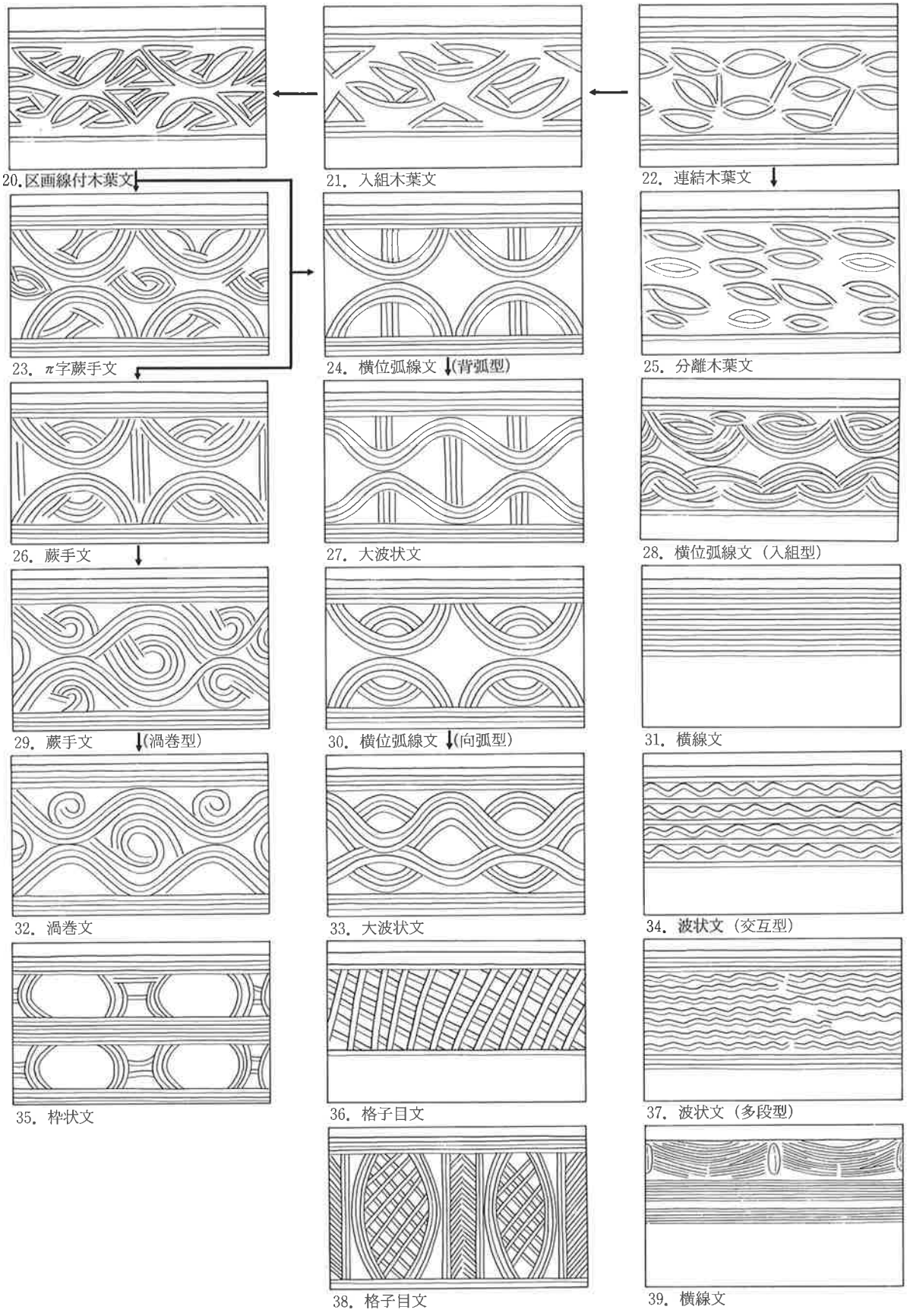
7類；縦区画縦位向弧線文（19、52、55、58）　縦区画線を垂下させ、間に縦位の向弧線文を垂下させたもの。縦区画線は器全体で四本垂下するが、縦区画線の幅細いものでは縦位弧線文は八列垂下し（8単位型）（19、52）、縦区画線の幅広いものでは四列垂下する（4単位型）（55）。また縦区画線による器面四分割の原則が崩れたもの（58）を崩壊型と呼ぶ。崩壊型では向弧線文が菱形文に近いものさえある。二個一対のボタン状貼付文が付くが、四単位型では主に口縁に、崩壊型では胴部全面に多く貼付される。

8類；横位弧線文類型（同図6、24、27、28、30、33）　横方向に展開する弧線文が描かれたもの。弧線が向い合った形をなすものを向弧型（6、30）、背中合わせの形をなすものを背弧型（24）、コンパス状に噛み合ったものを入組型（28）という。これらの弧線文は横に連続して並ぶが、それらを一筆で書くと周期の大きな波状文、つまり大波状文になる（27、33）。なお24、27には支柱が付いている。

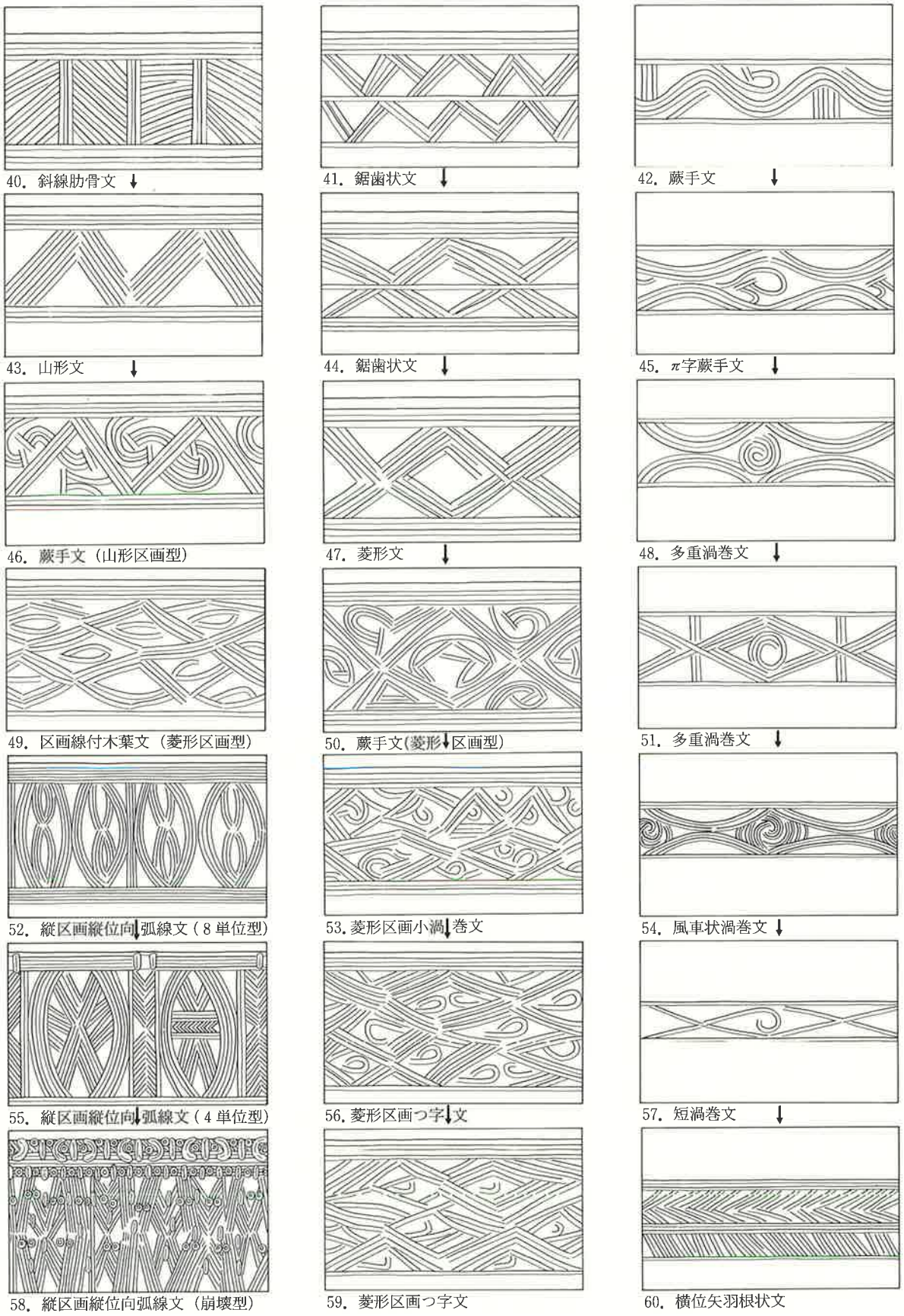
9類；山形文類型（同図40、43）　山形の文様を描くもの（43）。その祖形に斜線肋骨文（40）がある。山



第155-1図　諸磯b式土器の文様(1)　波状縁



第155-2図　諸磯ｂ式土器の文様（2）　平縁



第155-3図　諸磯b式土器の文様(3)　平縁

形文は区画文としての性格ももち、蕨手文を区画したりする（46）。

10類；鋸歯状文類型（同図41、44）　鋸歯状の文様を描いたもの（41）。通常一～二段であるが、上下に並ぶ鋸歯の山谷、谷山がうまく揃ったもの（44）がある。鋸歯状文→菱形文の変化が想定される。

11類；菱形文類型（同図47、53、56、59）　菱形の文様を描いたもの（47）。菱形文は区画文としての性格をもち、中に蕨手文を描いたりする（50）。これに似て菱形文内部に小さな渦巻を入れた菱形区画小渦巻文（53）がある。またその小渦巻文がつ字状になった菱形区画つ字文（56、59）がある。

12類；横位矢羽根状文類型（同図60）　横位展開する矢羽根状文を描いたもの。

13類；波状文類型（同図34、37）　波状の線が描かれたもの。直線と波状文が交互に引かれる交互型（34）と波状文が数段連続的に重ねられる多段型（37）がある。

14類；格子目文類型（同図36、38）　格子目状の文様を描くもの。36の施文順序は格子目文→文様帯区画線描出の順をとり、諸磯式に一般的な施文順序とは異る。38は縦区画縦位向弧線文内に描いた例である。

15類；横線文類型（同図13、16、31、39）　口縁に平行する線が引かれただけのもの。

胴部文様（同図42、45、48、51、54、57、60）　口縁部文様帯とは別に胴部に設けた文様帯内に描かれる文様。文様の種類は口縁部文様とほぼ共通する。代表例を図示したが、42は蕨手文、45はπ字蕨手文、48、51は多重渦巻文である。また54は風車状渦巻文、57は短渦巻文、60は横位矢羽根状文である。

頸部文様　内湾口縁をもつ土器の中に頸部に段をもつものがあり、そこに文様が付けられることがある。梯子状文（第161図33）、眼鏡状文（第167図30）、眼鏡状文がX字と縦線の組み合わさった文様に変化した変形眼鏡状文（第169図５）がある。

底部直上文様　頸部文様同様、梯子状文や眼鏡状文（第167図17）が付くことがある。

(3)　口縁部形態（第156―１、２図）

諸磯ｂ～ｃ式の深鉢形土器の口縁部形態は波状縁（同図１～13）と平縁（同図14～24）に分けられる。また口縁の開く角度から以下の様に細分した。

１類；外反口縁（同図１～３、14～16）　１、２は二単位波状縁の、３は四単位波状縁の外反口縁である。１は台形、２は扇形をなす。14～16は平縁の外反口縁であるが、16は強く頸部がくびれるものである。

２類；弱外反口縁（同図４、17、18）　口縁が弱く外反するもので、やや内湾気味と呼んでもよいもの。４は波状縁、18は平縁の弱外反口縁である。17は口縁に輪積痕を残すものである。

３類；弱内湾口縁（同図５、12、13、19、20）　口縁が内湾するが、その程度が弱いのもの。

弱内湾口縁Ａ種；通常の弱内湾口縁。（５、19、20）　20には頸部に段がある。

弱内湾口縁Ｂ種；波状縁で頸部が強くくびれ、その上に弱内湾口縁が付くもの。(12)

弱内湾口縁Ｃ種；波状縁で頸部はなく、胴下部から全体的に内湾するもの。(13)

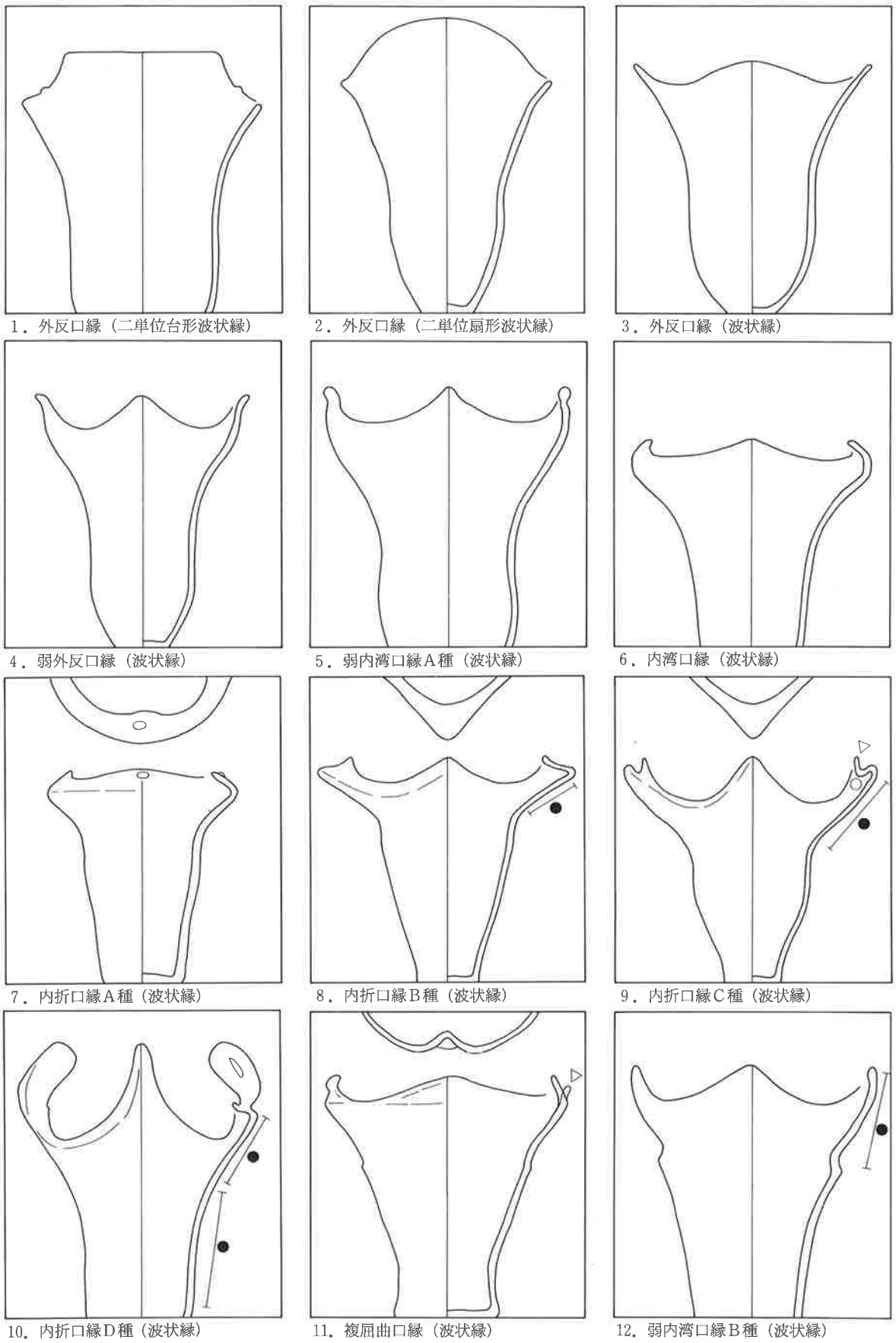
４類；内湾口縁（同図６、21）　６は波状縁、21は平縁の内湾口縁である。

５類；内折口縁（同図７～10、23、24）　７～10波状縁、23、24は平縁である。内湾度が著しく、強く屈折しているため、内折口縁と呼んだ。屈曲度により以下のように細分した。

内折口縁Ａ種；内折ライン[8]が水平で、上面観が円形であるもの（７）。

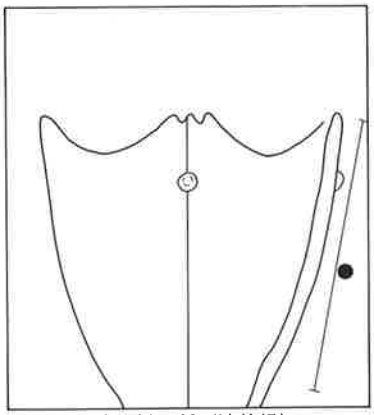
内折口縁Ｂ種；内折ラインが波状をなし、三角形の平坦な口頸部文様帯（８の●部分）をもち、上面観が方形をなすもの（８）。

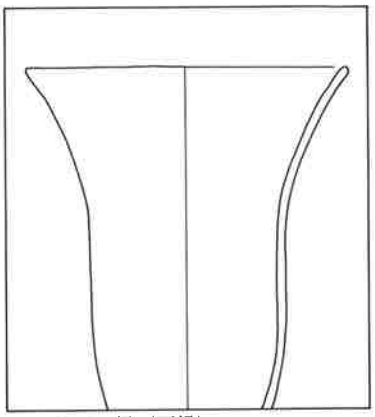
内折口縁Ｃ種；内折ラインが波状をなし、三角形の口頸部文様帯（９の●部分）をもち、上面観が方形をなす点ではＢ種と同じだが、Ｂ種より波状がきつく、口唇部が「靴先状」[9]に外反するもの（９の△部分）。

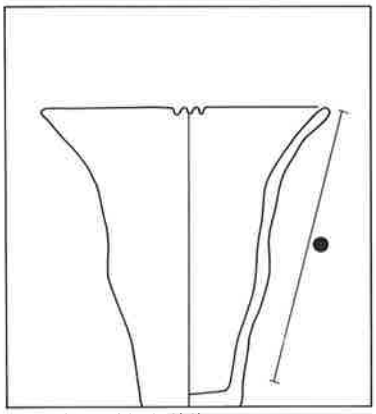


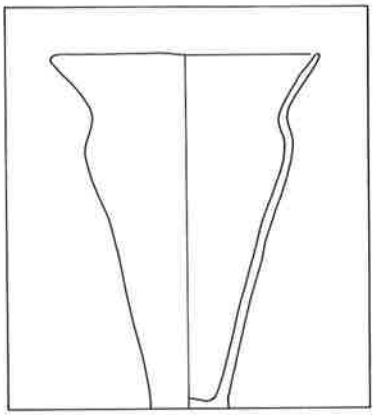
1．外反口縁（二単位台形波状縁）
2．外反口縁（二単位扇形波状縁）
3．外反口縁（波状縁）
4．弱外反口縁（波状縁）
5．弱内湾口縁Ａ種（波状縁）
6．内湾口縁（波状縁）
7．内折口縁Ａ種（波状縁）
8．内折口縁Ｂ種（波状縁）
9．内折口縁Ｃ種（波状縁）
10．内折口縁Ｄ種（波状縁）
11．複屈曲口縁（波状縁）
12．弱内湾口縁Ｂ種（波状縁）

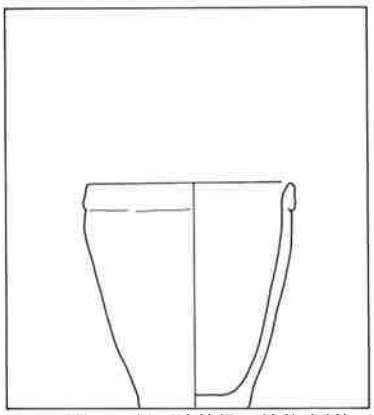
第156-１図　諸磯ｂ式土器の口縁部形態（１）

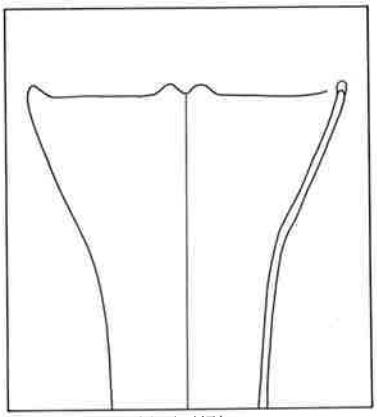

13．弱内湾口縁Ｃ種（波状縁）

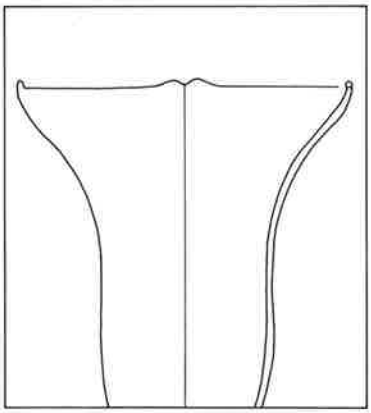

14．外反口縁（平縁）

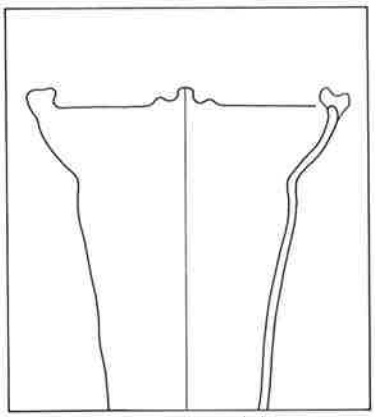

15．外反口縁（平縁）

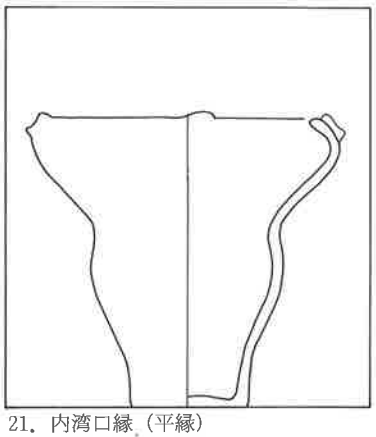

16．外反口縁（平縁）

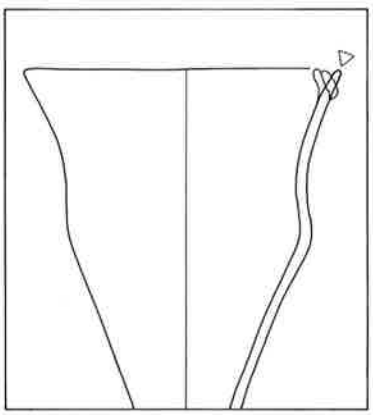

17．弱外反口縁（波状縁・輪積痕付）

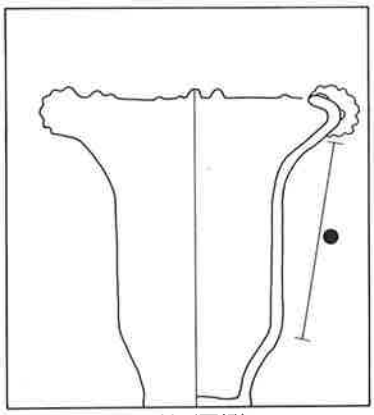

18．弱外反口縁（平縁）

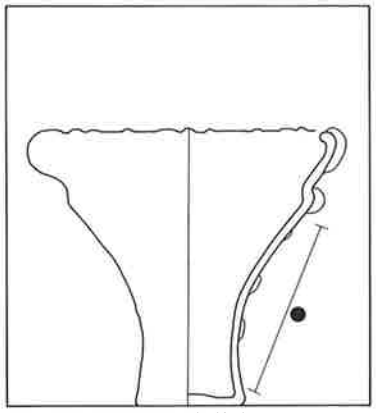

19．弱内湾口縁Ａ種（平縁）


20．弱内湾口縁Ａ種（平縁）


21．内湾口縁（平縁）


22．複屈曲口縁（平縁）


23．内折口縁Ｅ種（平縁）


24．内折口縁Ｆ種（平縁）

第156-２図　諸磯ｂ式土器の口縁部形態（２）

口縁内側は袋状になる（９の○部分）。口頸部文様帯はＢ種より直立し、縦長三角形となる。

内折口縁Ｄ種；Ｃ種と似るが、波頂部に扁平な篦状突起が付くもの（10）。

内折口縁Ｅ種；強く屈折するが、口縁は平らで、棒状突起が付く（23）。

内折口縁Ｆ種；Ｅ種に似るが、頸部は段状にくびれ、口縁に貝殻状突起がつくもの（24）。

６類；複屈曲口縁（同図11、22）　一つの土器に内折と外反（11、22の△部分）の複数の屈曲をもつもの。11は波状口縁であるが、波頂部のみが凹むため、上面観は花弁状をなす。22は平縁のものである。

⑷　口唇部加工（第157図）

口唇部加工には陰刻、隆線貼付、突起がある。

１類；陰刻（同図１～４、10、11）　口唇部を工具で凹ませたもの。

ａ種；刻み（１、２）　口縁に直交する縦位刻み（１）と、斜行する斜位刻み（２）がある。

ｂ種；凹み（３）　指や太い棒状工具によって凹ませたもの。

ｃ種；爪形文（11）　爪形文を押捺したもの。爪形文の両脇は爪形の刺突を受けて、隆起し、その隆起上には刻みが付いたりする。また爪形文の始点と終点は瘤を付けていることが多い。

ｄ種；平行沈線文（10）　平行沈線文を引いたもの。沈線の始点と終点は瘤が付いている。

ｅ種；Ｄ字刺突（４）　半截竹管などによりＤ字状の刺突を付けたもの。

２類；隆線（同図５～９）　口唇上に粘土紐を貼付したもの。

ａ種；縦位隆線（５）　口縁に直交する縦の隆線を貼付したもの。隆線上には刻みが付く例が多い。

ｂ種；波状隆線（６）　波状に隆線（粘土）を貼付したもの。隆線上は無文である。

ｃ種；眼鏡状隆線（７、８）　眼鏡状に隆線を貼付したもの。隆線上は無文である。７は縦線が付かないＡ種、８は縦線が付いたＢ種である。後者では縦線の本数が一本のものから三本のものまである。

ｄ種；鋸歯状隆線（９）　鋸歯状に隆線（粘土）を貼付したもの。隆線上には刻みが付く。

３類；突起（同図12～28）　口縁に粘土を付けて、盛り上げたもの。

ａ種；単頭突起（14）　山が一つの突起をもつもの。

ｂ種；双頭突起（15）　山が二つの突起をもつもの。

ｃ種；三頭突起（12、16）　山が三つの突起をもつもの。

ｄ種；鰭状突起（13）　魚の背鰭状の突起をもつもの。

ｅ種；環状突起（17）　環状に粘土を貼付したもの。18では上端に刻みが付いている。

ｆ種；渦巻突起（18）　豚の尾のように渦巻く突起をつけたもの。

ｇ種；獣面突起（19～22）　猪を模した様な顔をもつ突起。簡素型（20）と目鼻が付いた顔面表現型（21）、円形貼付文を一個または三個付けて顔面表現を代用した貼付型（19、22）がある。

ｈ種；円形貼付文（23）　比較的偏平な円形貼付文を一つ付けたものである。

ｉ種；瘤状突起（24）　円形貼付文よりも大きく、高さの高い瘤状の貼付文が付いたもの。

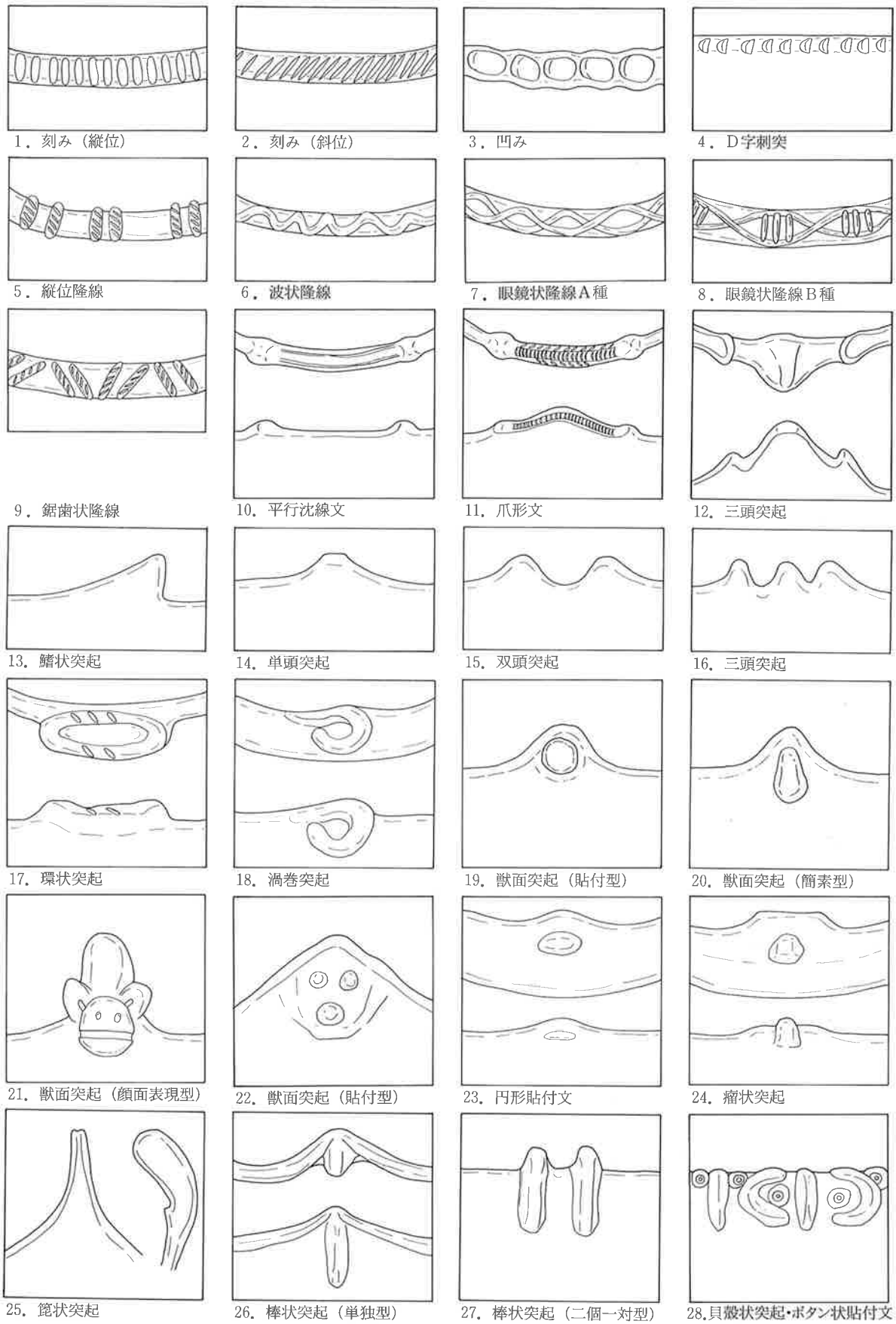
ｊ種；篦状突起（25）　薄く、扁平な篦状の突起をもつもの。透かし孔があくものがある。

ｋ種；棒状突起（26、27）　縦長棒状の粘土を貼り付けたもの。26は一個付けた単独型、27は二個一単位で付けた二個一対型である。

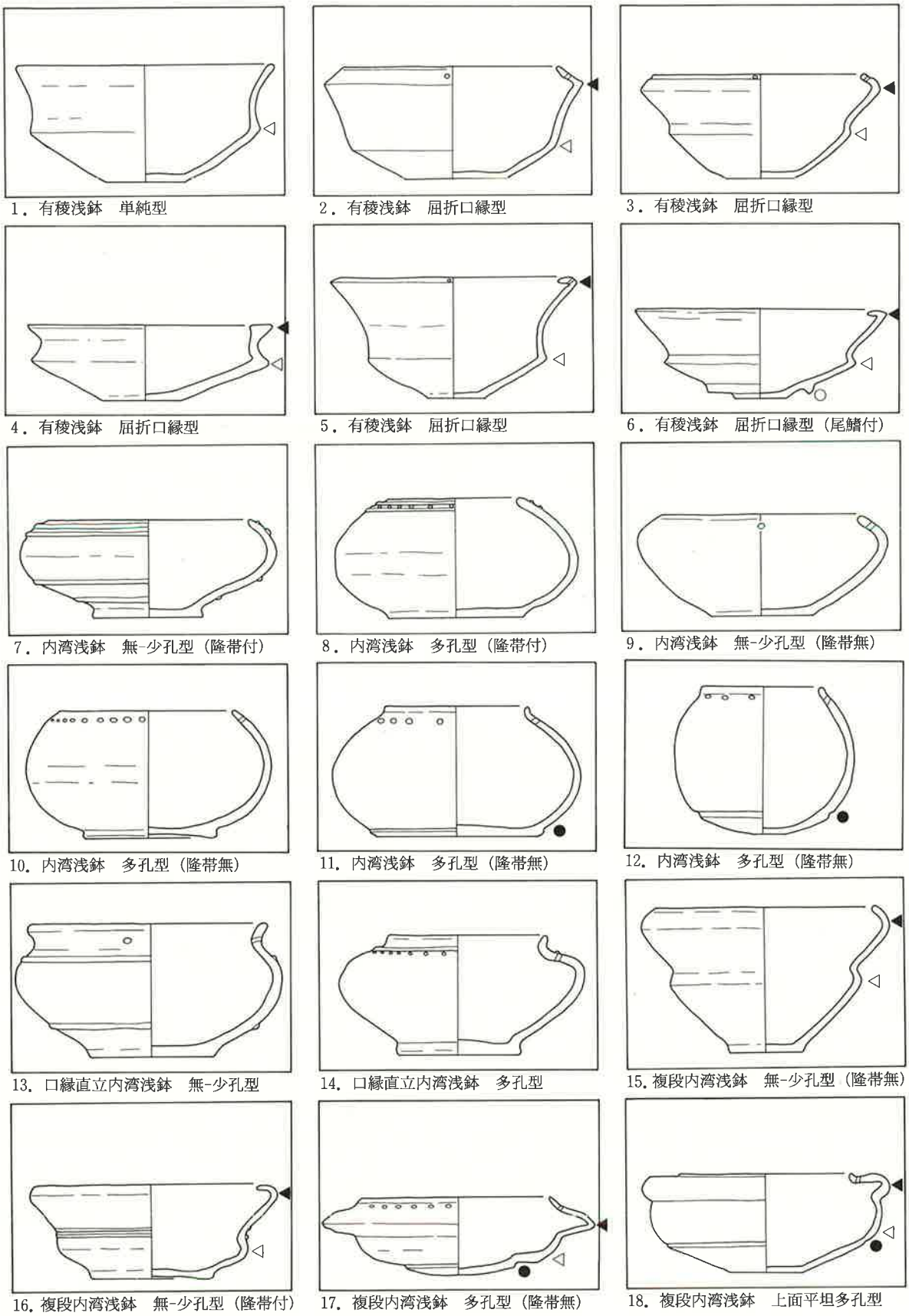
ｌ種；貝殻状突起[10]（28）　貝殻状突起を付けたもの。他にボタン状貼付文も付く。

⑸　地　　文

地文は縄文が大半である。縄文を節の種類から分類すると、無節（Ｒ、Ｌ）、単節（ＲＬ、ＬＲ）、複節（Ｒ

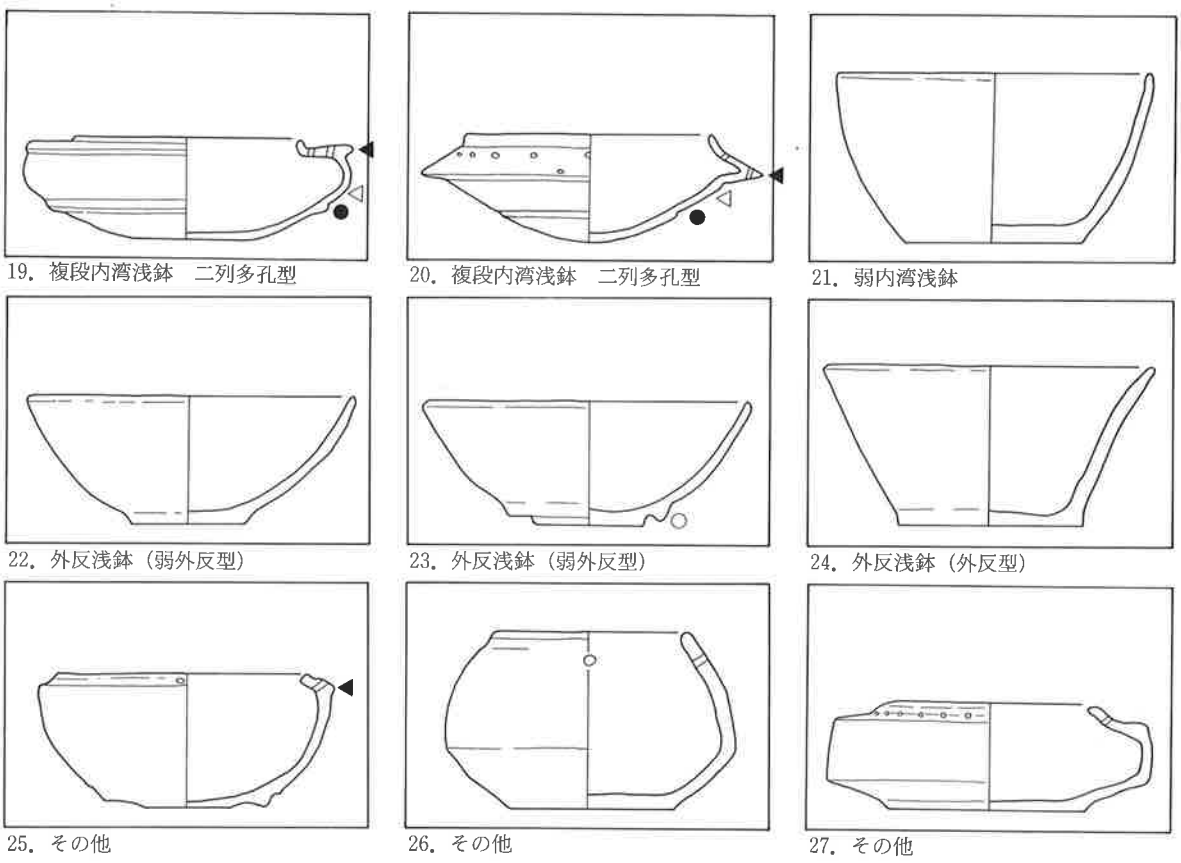


第157図　諸磯ｂ式土器の口唇部加工

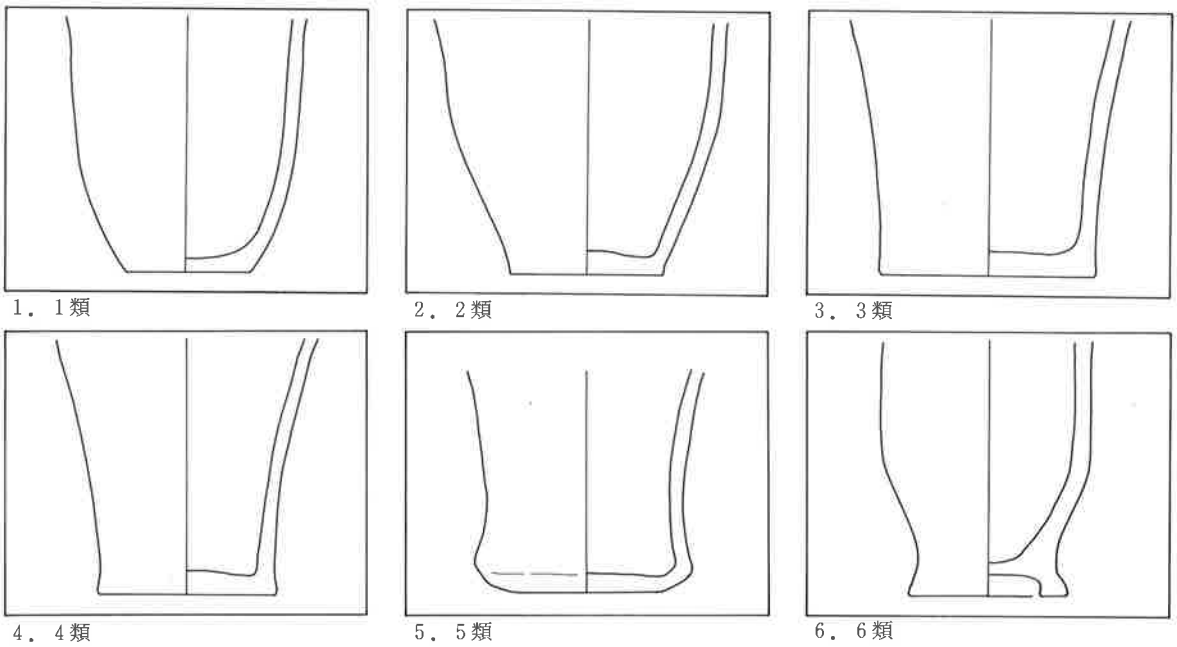


1．有稜浅鉢　単純型
2．有稜浅鉢　屈折口縁型
3．有稜浅鉢　屈折口縁型
4．有稜浅鉢　屈折口縁型
5．有稜浅鉢　屈折口縁型
6．有稜浅鉢　屈折口縁型（尾鰭付）
7．内湾浅鉢　無-少孔型（隆帯付）
8．内湾浅鉢　多孔型（隆帯付）
9．内湾浅鉢　無-少孔型（隆帯無）
10．内湾浅鉢　多孔型（隆帯無）
11．内湾浅鉢　多孔型（隆帯無）
12．内湾浅鉢　多孔型（隆帯無）
13．口縁直立内湾浅鉢　無-少孔型
14．口縁直立内湾浅鉢　多孔型
15．複段内湾浅鉢　無-少孔型（隆帯無）
16．複段内湾浅鉢　無-少孔型（隆帯付）
17．複段内湾浅鉢　多孔型（隆帯無）
18．複段内湾浅鉢　上面平坦多孔型

第158-1図　諸磯b式土器の浅鉢形土器（1）



第158-２図　諸磯ｂ式土器の浅鉢形土器（２）



第159図　諸磯ｂ式土器の底部

ＬＲ、ＬＲＬ）の区別がある。また条の方向により、単斜縄文と羽状縄文に分類できる。また縄文の中には節の細かいものや、硬い植物繊維を用いたような粗いものがある。縄文以外では、ハイガイ等の放射肋をもつ貝殻の背圧痕を付けたものがある。

⑹　**底部**（第159図）

１類；底部から胴部にかけて丸みをもちながら移行するもの（１）。

２類；底部がやや直立し、その上方から胴部にかけて丸みをもちながら移行するもの（２）。

３類；底部からまっすぐに立ち上がり、胴部にかけて開くもの（３）。

４類；張り出し底（４）。

５類；算盤玉状に底部直上が膨らむもの（５）。

６類；上底（６）。

⑺　**浅鉢形土器**（第158―１、２図）

浅鉢を、主に器形、孔の数や隆帯の有無を重視して、以下のように分類した。

１類；有稜浅鉢（同図１～６）　胴部に屈折部（稜）（同図△部分）をもつ浅鉢。

ａ種；単純型（１）　稜部より上が単純に外反して開くもの。円孔はあいていない。

ｂ種；屈折口縁型（２～６）　稜部より上に屈折する口縁部（同図▲）をもつもの。

屈折口縁型では稜部の径に比べ、口縁部の径が断然大きいものが多い。口唇上面が傾くもの（２、３）と、平らなもの（４～６）があり、特に５、６ではその断面形が紡錘形をなす。口縁上には隆線や沈線で文様が描かれることがある。また口縁に円孔があくものがある。浅鉢につく孔の数には０個のもの、対角線上に一個ずつ（計二個）付くもの、多数巡るものがあり、それぞれ無孔型、少孔型、多孔型と呼ぶが、屈折口縁型有稜浅鉢は無孔型または少孔型しかない。また６は胴下部に尾鰭（同図○）をもつものである。

２類；内湾浅鉢（同図７～12）　口縁が（強く）内湾するもの。

ａ種；無-少孔型（隆帯無）（９）　孔は無い又は二個だけ付くもので、隆帯はないもの。

ｂ種；無-少孔型（隆帯付）（７）　孔は無い又は二個だけ付くもので、隆帯があるもの。

ｃ種；多孔型（隆帯付）（８）　多くの円孔が器面を一周するもので、隆帯が付くもの。

ｄ種；多孔型（隆帯無）（10～12）　多くの円孔が器面を一周するもので、隆帯はないもの。11、12は口唇部がやや直立気味。胴下部に一条の段（同図●）が巡る。12は球形に近く、底部は丸く、不安定。

３類；口縁直立内湾浅鉢（同図13、14）　内湾浅鉢に直立する口縁部が付いたもの。

ａ種；無-少孔型（13）　孔は無い又は二個だけ付くもの。隆帯が付くものが一般的である。

ｂ種；多孔型（14）　多くの円孔が器面を一周するもの。隆帯が付くものが一般的である。

４類；複段内湾浅鉢（同図15～20）　湾曲部が上下二段重なったもの。上段の湾曲部に▲、下段の湾曲部に△印を付けたが、有稜浅鉢の屈折口縁型（同図６、７）と形態的に類似し、関連が想起される。

ａ種；無-少孔型（隆帯無）（15）　孔は無い又は二個だけ付くもので、隆帯はないもの。

ｂ種；無-少孔型（隆帯付）（16）　孔は無い又は二個だけ付くもので、隆帯が付くもの。

ｃ種；多孔型（隆帯付）　多くの円孔が巡り、隆帯が付くもの。隆帯は厚さが薄く、痕跡的である。

ｄ種；多孔型（隆帯無）（17）　多くの円孔が巡り、隆帯が無いもの。器高は低い。上段は強く湾曲し、下段は一条の段がある（17の●）。底部は丸底で、不安定なものが多い。

ｅ種；上面平坦多孔型（18）　多孔型（隆帯無）だが、上段の上面（▲より上）が平らなもの。

ｆ種；二列多孔型（19、20）　多孔型（隆帯無）だが、上段の湾曲部（19、20の▲）が特徴的に張り出

第８表　遺構別第Ⅲ群土器の文様要素出土総数（縄文・無文・浅鉢形土器の個数も含む。）

遺　構	1類	2類	2′類	3類	4類	4′類	5類	縄文	無文	浅鉢	総数
1号住居		64		81	143		51	130	171	6	646
2号住居		40		2	30			59	21	2	154
3号住居	4	90	1	8	43			124	63	4	337
4号住居	8	846	5	114	276	2		877	279	15	2422
5号住居		44		40	45			109	47	6	291
6号住居		9		17	11			21	12	1	71
7号住居		9		31	48		4	33	28	3	156
8号住居		19		26	61		8	39	55	1	209
9号住居		14		23	57			55	28	2	179
10号住居		73		167	407			241	215	10	1113
11号住居		13		39	133			85	98	8	376
2号土坑		4			2			6	1		13
4号土坑		4						3			7
5号土坑		2									2
8号土坑		3		1				7			11
10号土坑		4			2			1			7
11号土坑		5		1	1			2			9
17号土坑		2									2
18号土坑								1			1
19号土坑		11			2			3	1	1	18
29号土坑		10		1	2			4	5		22
30号土坑	1	23		2	6			8	2		42
31号土坑		15	1		4			6	1	1	28
32号土坑								1			1
33号土坑		4	1	1	1			5			12
34号土坑					1			1			2
35号土坑		12			5			31	8		56
36号土坑		16		3	4			15	7		45
37号土坑		8			3			7	4	1	23
38号土坑	1	8		4	8			18	3		42
39号土坑		25	1	22	21			31	12	3	115
41、42号土坑		6		6	6			3	2		23
42号土坑				1							1
52号土坑		1			2			1			4
53号土坑		5			9			9	6		29
55号土坑		3						5			8
56号土坑								1			1
57号土坑		4		1	4			6			15
58号土坑				2	1			1			4
59号土坑									2		2
60号土坑		4		1	3			8	1		17
64号土坑		1			3			2	1		7
66号土坑					1			1			2
67号土坑	1	32		1	8			18	7		67
68号土坑	1	29			10			34	7		81
71号土坑		12		12	3			9	2	1	39
72号土坑		1							1		2
73号土坑				1				1			2

遺　構	1類	2類	2′類	3類	4類	4′類	5類	縄文	無文	浅鉢	総数
74号土坑		2		6	5			1	1		15
75号土坑		13		6	4			4	3		30
80号土坑		1		1	6			2	3		13
81号土坑					3			6	1		10
82号土坑					27			6	5		38
83号土坑				1				1			2
84号土坑		10			3	1		2	2		18
91号土坑		1							1		2
92号土坑	1	5		2				2			10
94号土坑		8			4			3	2		17
99号土坑	3	16	1	6	6			14	2		48
100号土坑		3						5			8
105号土坑		1						2			3
107号土坑		33		21	4			16		1	75
108号土坑		1		3	5			5	1		15
109号土坑		4		7	11			17	3		42
111号土坑		3						6	1		10
112号土坑				1							1
113号土坑		6						3			9
116号土坑					1			1			2
118号土坑		1						3			4
121号土坑		3		11	9			33	7		63
122号土坑				2	15			10	2		29
123A号土坑		3		1	8			2	4		18
123B号土坑		2		2	17			13	3		37
124A号土坑		2		4	5			4	2		17
124B号土坑					1						1
124C号土坑					5			3			8
130号土坑		1		5	6			7	3		22
132号土坑		4		13	18			28	7	1	71
134号土坑					1			7			8
137号土坑		5		8	9			16		1	39
138号土坑		8		11	23			13	11	1	67
139号土坑				3	11			1		1	16
140号土坑		2		8	17			10			37
141号土坑		2		1	1			3			7
142B号土坑		1		1				2			4
143号土坑		1		1	1						3
144号土坑		2		3	12			3	1	1	22
145A号土坑		19		1	2			4	1		27
147号土坑		10		21	10			26	5		72
148号土坑		1		1	5			1	1		9
149号土坑				5	7			10	1		23
150号土坑				1	2			6			9
152号土坑		2			2			1	2		7
3 P				3				2			5
5 P				1				1			2
6 P		1		1	2			1			5
8 P		3		1				4			8

し、その先端部に別の円孔が開き、合計二列の円孔が巡るもの。

5類；弱内湾浅鉢（同図21）　口縁が弱く内湾するもの。

6類；外反浅鉢（同図22～24）　22、23は弱く外反し、24は強く外反。23は胴下部に尾鰭が付く（○）。

その他；（同図25～27）　25は内湾するが、口縁の屈曲度が有稜浅鉢屈折口縁型に似ており、内湾浅鉢と有稜浅鉢屈折口縁型の折衷形態とでも呼ぶべきもの。26も内湾するが、胴下部に稜をもち、上半が直線的なもの。内湾浅鉢と有稜浅鉢の折衷形態であろうか。27は角張った内湾浅鉢と言うべきものである。

2．愛宕山遺跡遺構出土土器の検討

以上のような各属性が実際いかなる組み合わせで出土するのかを見る為、愛宕山遺跡遺構出土土器の検討をしてみる。遺構出土資料を選んだのは、それが単なる包含層一括出土資料より短期間に廃棄されたものが多いと思われ、編年作業を行なう際の基礎的一単位として有効であると考えたからである。愛宕山遺跡の遺構出土資料の文様要素の存在数と比率は第8表、第163図、文様の存在数と比率は第12表、第165図に示した。

これらを見ると住居跡出土資料（6号住居を除く）は質、量ともに充実しているが、文様要素、文様の点から見ると、愛宕山1期：2号住居、3号住居覆土（床面は有尾式併行の土器が出土）→愛宕山2期：4号住居→愛宕山3期：5号住居→愛宕山4期：11、10号住居→愛宕山5期：9号住居→愛宕山6期：7、8号住居→愛宕山7期：1号住居の順で推移したと考えられる。そこで、各期ごとに、諸属性がいかなる分布をもっているか調べてみる。

(1)　愛宕山1期；愛宕山遺跡2号住居、3号住居跡覆土出土資料（第160図）

文様要素（第163図）；櫛歯文、爪形文と平行沈線文からなる。浮線文は極く少量出土しているが、本来はなかったと思われる。爪形文土器の中には隆帯をもつものがあり、浮線文の発生への関与が考えられる。

爪形文の幅は主に3～10㎜の範囲に分布し、特に5～8㎜が多い。沈線も3～10㎜に分布し、5～7㎜付近が多い（第164図、第9～11表参照）。爪形文では爪形文間に太い刻みが付くものが多いが、稀にD字爪形文が付くものもある。また爪形文の文様の空白部に円形竹管文が刺突されるものがある。

文様（第12表、第165図）；木葉文類型、蕨手文類型、渦巻文類型、横位弧線文類型、菱形文類型、波状文類型、格子目文類型、横線文類型がある。蕨手文類型では蕨手文（第160図3号住居資料8）、渦巻文類型では渦巻文（同図9）がある。横位弧線文類型では向弧型、背弧型（11）ともあり、大波状文も存在する。菱形文類型では菱形文、菱形区画小渦巻文がある。

胴部文様では蕨手文（同図8）、渦巻文（10）、大波状文（14）などがあり、口縁部文様と一致する。

口縁部形態（第13表）；平縁と波状縁では平縁が多い。波状縁には二単位台形のものがある。また口縁形態は外反口縁、弱外反口縁がほとんどである。

口唇部加工（第14表）；陰刻では刻み、隆線では縦位隆線、突起では単頭突起がある。

地文（第15表）；単節ＲＬが圧倒的に多く、それにＬＲが次ぐ。無節縄文は少量。羽状縄文は全くない。

底部（第15表）；1類、2類と言った、丸く膨らんだ形態のものからなる。

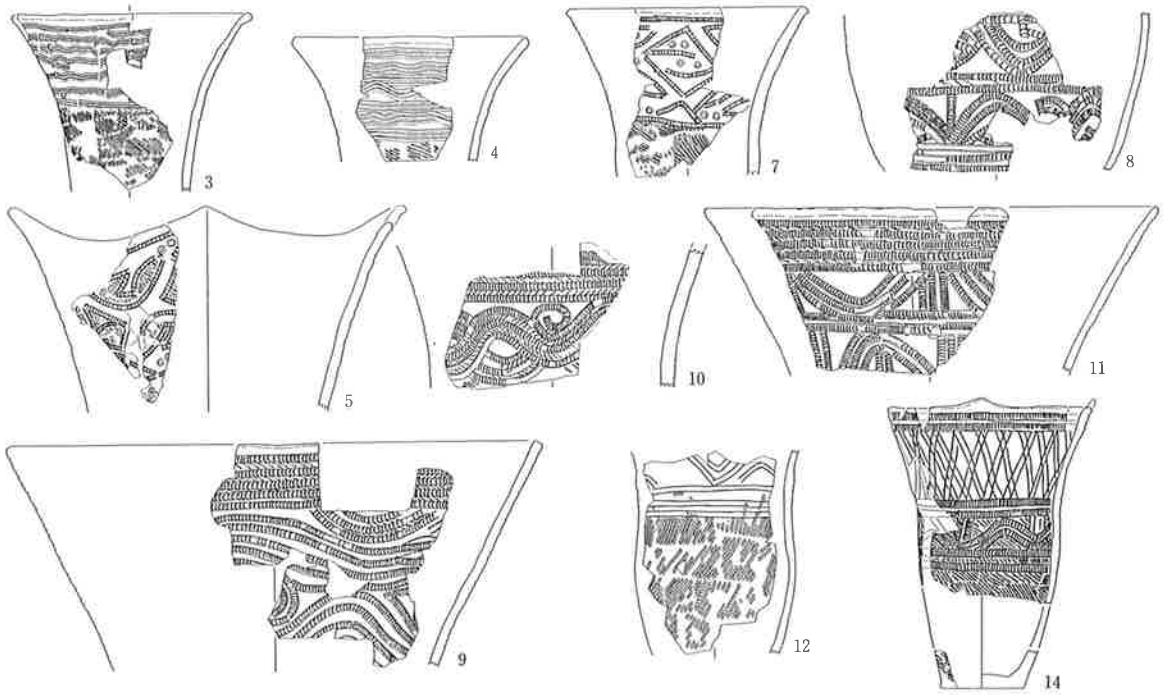
浅鉢（第16表）；有稜浅鉢と外反浅鉢が確実に存在する。弱内湾浅鉢もある。

他地域の土器型式；伴出していない。

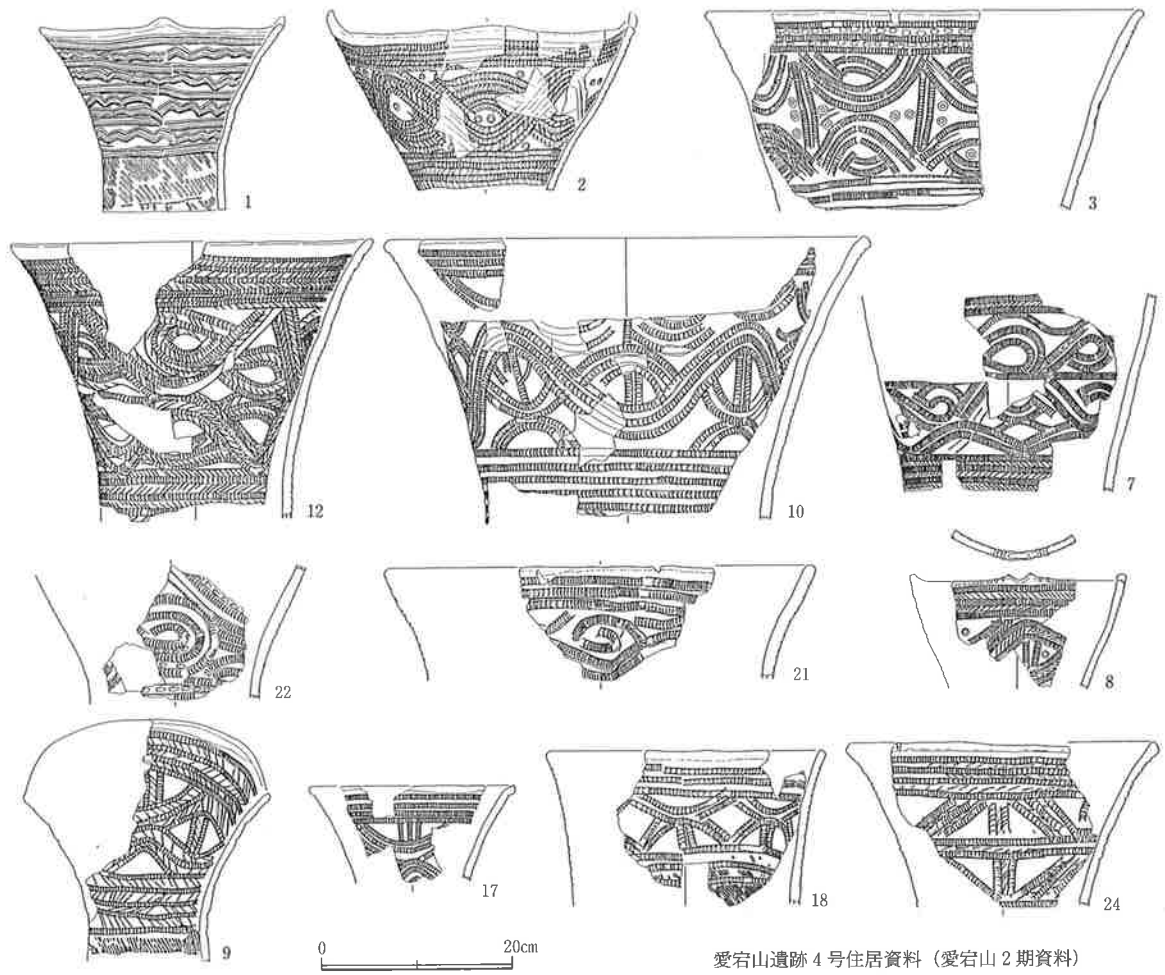
類似資料；愛宕山遺跡2号、8号、37号、68号、145号土坑出土資料など。

(2)　愛宕山2期；愛宕山遺跡4号住居跡出土資料（第160、161図）

文様要素（第163図）；櫛歯文、爪形文、浮線文、平行沈線文が存在するが、爪形文の量が多く、主体を占



愛宕山遺跡３号住居覆土資料（愛宕山１期資料）



愛宕山遺跡４号住居資料（愛宕山２期資料）

第160図　愛宕山遺跡出土資料（１）

める。爪形文や平行沈線文土器に隆帯がついたものも少量あり、浮線文との関係が注目される。

爪形文や沈線文の幅は２～12㎜に分布し、その中心は６～８㎜付近にある。爪形文間には太い刻みがつくことが多く、少量Ｄ字爪形文が付くものがある。浮線文の厚さは１～2.5㎜付近に分布し、３㎜のものまである。浮線上には太い刻みが付くものが多く、細い刻みが付くことは少ない。縄文が付いたものも少量ある(第９～11表参照)。また爪形文や浮線文の文様の空白部に円形竹管文が刺突されるものがある。

文様（第12表、第165図）；木葉文類型、蕨手文類型、枠状文類型、渦巻文類型、横位弧線文類型、山形文類型、鋸歯状文類型、菱形文類型、波状文類型、格子目文類型、横線文類型がある。木葉文類型では連結木葉文、分離木葉文、入組木葉文がある。蕨手文類型では蕨手文（第160図４号住居資料２、３など）の他、π字蕨手文があり、両者ともその渦巻型（同図22）が存在する。枠状文類型では枠状文、渦巻文類型は渦巻文（21）が存在する。多重渦巻文もあるが、渦の巻き方はそれほど多くないものである。横位弧線文類型では横位弧線文向弧型（８～10)、背弧型（17、18)、大波状文があり、菱形文類型では菱形文、菱形区画小渦巻文がある。波状文（１）もあるが、その占める比率は低くなっている。

胴部文様としては蕨手文、大波状文、鋸歯状文、横位弧線文、枠状文などがあり口縁部文様と一致する。

頸部文様が新たに現われ、浮線文による梯子状文が付けられる。

口縁部形態(第13表)；波状縁と平縁では平縁の方が多い。波状縁では二単位波状口縁があるが、台形、扇形のものがある。口縁部形態は文様要素と相関関係があり、爪形文や沈線文では外反ないし、弱外反口縁が多いが、浮線文では弱く内湾したもの（弱内湾口縁Ａ種）が多い。

口唇部加工(第14表)；陰刻では刻み、凹み、爪形文が付く。隆線では縦位、波状、眼鏡状、鋸歯状隆線など多種が揃っている。眼鏡状隆線ではＡ種とＢ種があるが、Ｂ種においても縦線の本数は一～二本程度と少ないものである。突起では単頭突起、双頭突起、三頭突起、鰭状突起、獣面突起、環状突起などがある。獣面突起は顔面表現のない簡素型がある。

地文（第15表)；単節ＲＬが優位で、ＬＲがそれに次ぐ。結束のある羽状縄文が出現することが特徴。

底部（第15表)；丸みを帯びた１類、２類が主体である。直立する３類は少ない。

浅鉢(第16表)；有稜浅鉢では単純型の他に、屈折口縁型が確実に存在する(第161図４号住居資料62、63)。内湾浅鉢もあるが、みな多孔型（隆帯付）である。ほかに外反浅鉢がある。

他地域の土器型式；浮島Ⅰｂ式土器が１片出土している（第71図388)。

類似資料；愛宕山遺跡99号、107号土坑出土資料など。

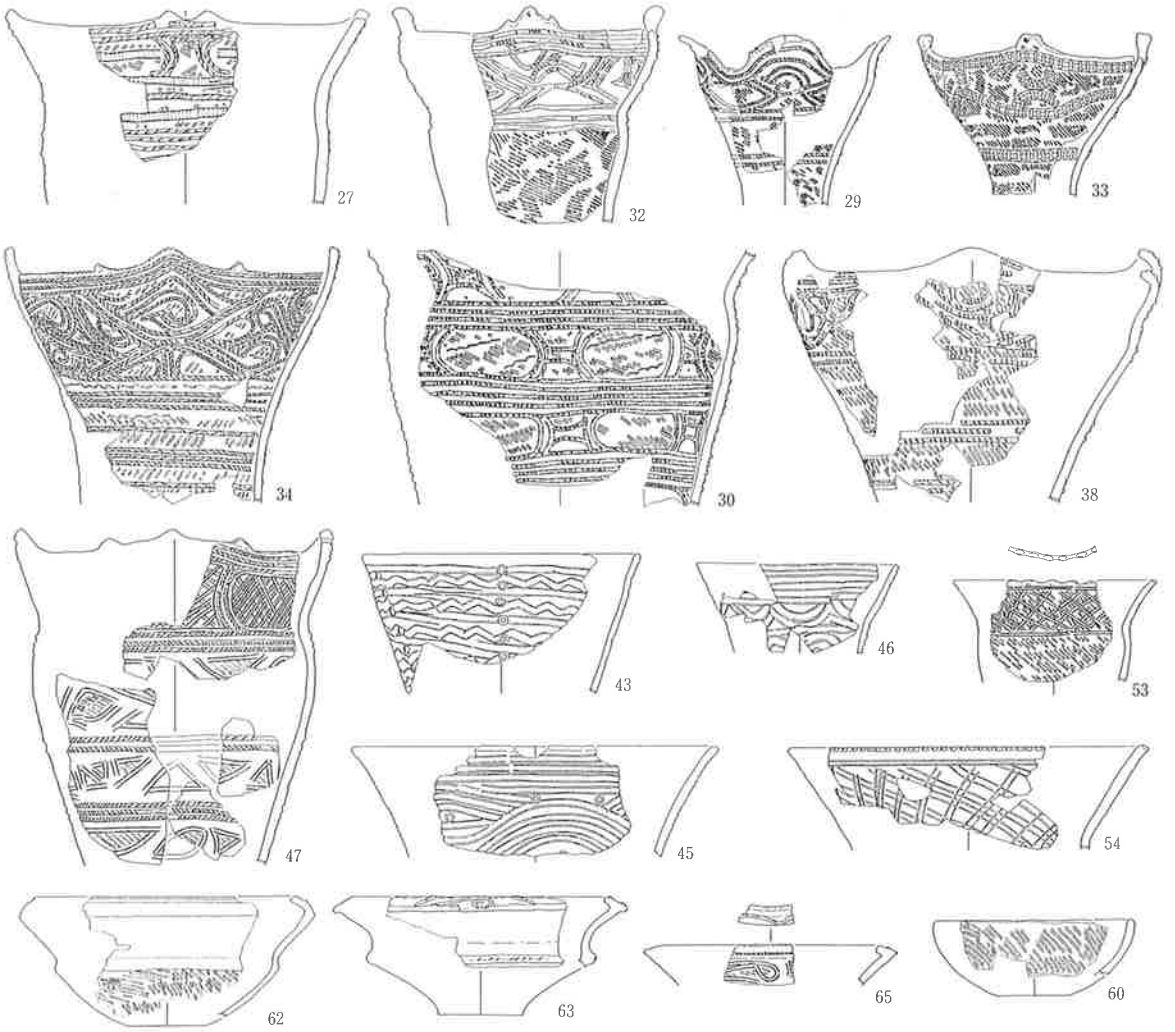
⑶　愛宕山３期；愛宕山遺跡５号住居跡出土資料（第161図）

文様要素（第163図)；爪形文、浮線文、平行沈線文があるが、三者がほぼ同量存在する。櫛歯文はない。

爪形文や沈線文の幅は５～12㎜に分布し、その中心は６～８㎜前後にある（第164図)。爪形文間には太い刻みがつくことが多い。浮線文の厚さは１～２㎜付近に分布し、３㎜のものまである。浮線上には太い刻みが付くものが多く、細い刻みが付くことは少ない。縄文が付いたものも少量ある(第９～11表参照)。また爪形文や浮線文の文様の空白部に円形竹管文が刺突されるものがある。

文様（第12表、第165図)；木葉文類型、蕨手文類型、枠状文類型、渦巻文類型、横位弧線文類型、山形文類型、鋸歯状文類型、菱形文類型、波状文類型、格子目文類型、横線文類型がある。木葉文類型では入組木葉文がある。蕨手文類型では蕨手文とπ字蕨手文、渦巻文類型では渦巻文が存在する。波状文は極く少量。

口縁部形態(第13表)；波状縁と平縁では平縁の方が多い。波状縁では二単位波状口縁はなく、皆四単位である。爪形文や沈線文の土器では外反、弱外反が多いが、浮線文土器では弱内湾口縁Ａ種が多い。



第161図　愛宕山遺跡出土資料（２）

口唇部加工(第14表)；陰刻では刻みや爪形文が付く。隆線は波状隆線しかない。突起は単頭突起、双頭突起、鰭状突起、獣面突起があり、獣面突起は顔面表現型（第161図５号住居資料27）がある。

地文（第15表)；単節ＲＬが優位で、ＬＲがそれに次ぐ。結束のある羽状縄文もある。

底部（第15表)；丸みを帯びた１類、２類が主体である。直立する３類は少ない。

浅鉢(第16表)；有稜浅鉢と内湾浅鉢がある。有稜浅鉢では屈折口縁型が存在する。内湾浅鉢では多孔型(隆帯付)がある。第161図５号住居資料５は隆帯間に木葉類似文様をもつが、それは半截竹管による単沈線手法により描かれている。これは一見ヘラ状工具による単沈線かと思われるが、沈線脇に竹管内皮の痕跡が見えるため、施文具は半截竹管で、半截竹管を一方に傾けて施文したため単沈線となったと考えられる。

他地域の土器型式；特に出土していない。

類似資料；愛宕山遺跡39号、71号、74号土坑出土資料など。

⑷　愛宕山４期；愛宕山遺跡11号、10号住居跡出土資料（第161、162図）

文様要素（第163図)；浮線文と平行沈線文が存在する。爪形文は極少量しか出土していないため、本来はなかったものと考えられる。櫛歯文もない。

沈線文の幅は４～８㎜付近に分布するが、主体は５㎜前後である。浮線文の厚さは、0.5～２㎜付近に分布するが、主体は11号住居では1.5㎜、10号住居では0.5～１㎜にある（第164図)。浮線文上に付く刻みは11号住居では太い刻みが多いが、10号住居では細い刻みが多い。また縄文付きものもある(第10、11表参照)。浮線文の文様の空白部に円形竹管が刺突されるものはほとんどない。

文様（第12表、第165図)；木葉文類型はない。蕨手文類型、枠状文類型も少ない。代って渦巻文類型の多重渦巻文が優勢となる（第161図11号住居資料２)。縦位背弧線文類型の弧線区画縦位背弧線文も出現する。横位弧線文類型や山形文はほとんどなく、かわって鋸歯状文類型（第162図10号住居資料５、６)、菱形文類型がやや多い。菱形文類型では菱形区画つ字文が多く存在するのが特徴である(同図７、11)。波状文はほとんどなく、格子目文、横線文（10）は少量ある。

口縁部形態(第13表)；波状縁と平縁では平縁の方が多いが、波状縁の比率がやや高い。波状縁では二単位波状口縁はない。浮線文土器では内湾したものが主体をなす。

口唇部加工（第14表)；陰刻は刻み、凹みが少しある。隆線は眼鏡状隆線Ｂ種（第162図10号住居資料１）しかない。突起では単頭突起、双頭突起、三頭突起の他、獣面突起（簡素型、顔面表現型)、渦巻突起（同図５）などがある。

地文（第15表)；単節ＲＬが優位で、ＬＲがそれに次ぐ。無節縄文や結束のある羽状縄文もある。

底部（第15表)；丸みを帯びた２類よりも、直立する３類、張り出す４類が多い。

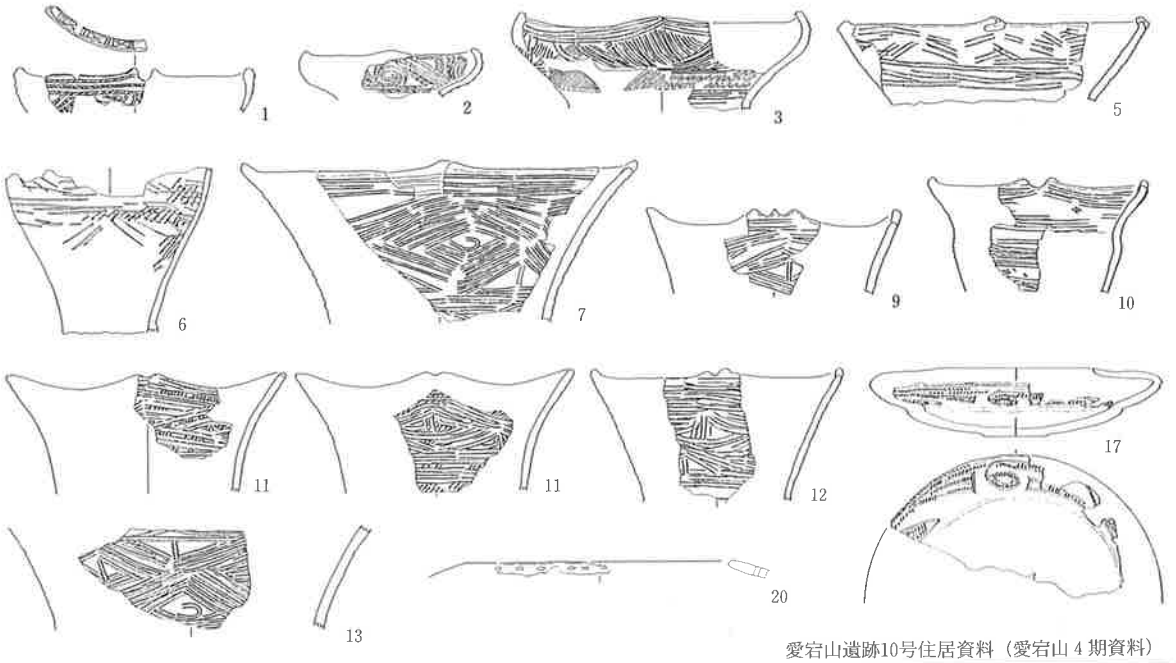
浅鉢（第16表)；有稜浅鉢は少ない。内湾浅鉢では、無-少孔型（隆帯付）の他に、多孔型（隆帯無）が加わる（第162図10号住居資料20)。複段内湾浅鉢でも多孔型（隆帯無）がある。そのうち同図17は半截竹管による単沈線手法が用いられ、さらに沈線間に刻みを入れ、爪形文に似せている。文様は入組木葉文が渦巻化した文様で、浅鉢形土器独自の文様である。

他地域の土器型式；11号住居では第161図３、４、10号住居では第86図195～205がある。一部浮島Ⅲ式に似たものがあるが、おおむね浮島Ⅱ式土器に比定できるものからなっている。

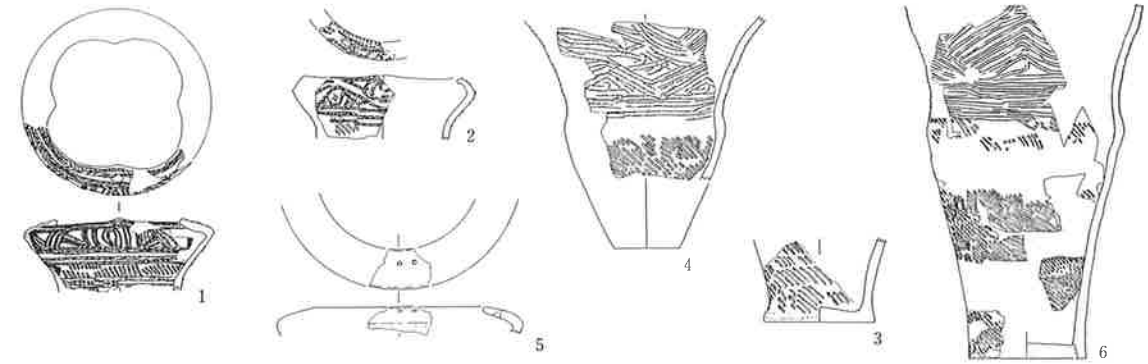
類似資料；愛宕山遺跡80号、82号、121号土坑出土資料など。

⑸　愛宕山５期；愛宕山遺跡９号住居跡出土資料（第162図）

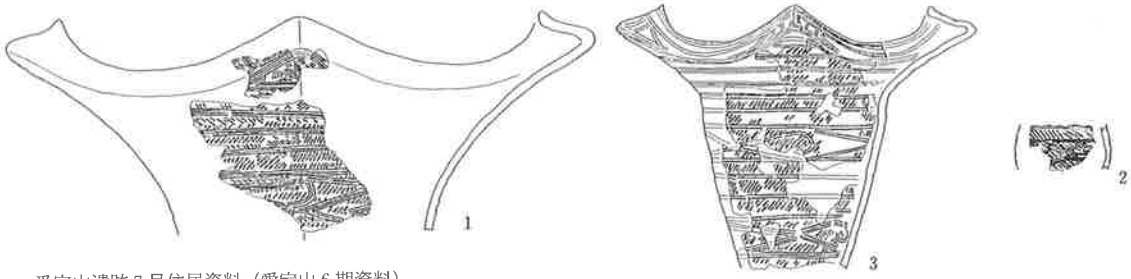
文様要素（第163図)；浮線文と平行沈線文が存在する。爪形文は極少量しか出土していないため、本来は



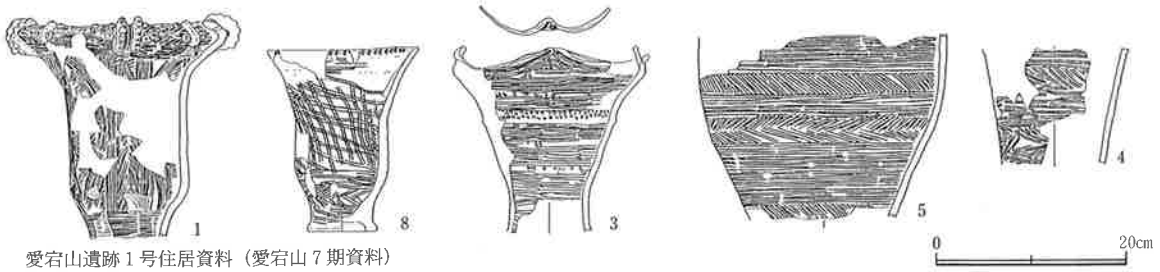
愛宕山遺跡10号住居資料（愛宕山４期資料）



愛宕山遺跡９号住居資料（愛宕山５期資料）



愛宕山遺跡７号住居資料（愛宕山６期資料）



愛宕山遺跡１号住居資料（愛宕山７期資料）

第162図　愛宕山遺跡出土資料（３）

なかったものと考えられる。櫛歯文もない。

沈線文の幅は４～８㎜付近に分布するが、主体は５㎜前後にある(第164図)。浮線文の厚さは、0.5㎜付近に分布の中心がある。浮線文上に付く刻みは細い刻みが多い。また浮線文の両側に列点がついたものや爪形文が刺突されたものも極く少量ある（第10、11表参照)。

文様（第12表、第165図)；木葉文、枠状文類型はない。蕨手文類型も少なく、本来なかったものと思われる。渦巻文類型では渦巻文、多重渦巻文（第162図９号住居資料２）のほかに向弧渦巻文（同図１）が出現することを最大の特徴とする。また縦位背弧線文類型の弧線区画縦位背弧線文、菱形文類型の菱形文、菱形区画つ字文などが存在する（４、６)。横線文も少量ある。

口縁部形態(第13表)；波状縁と平縁では波状縁の方が多い。しかしここで言う波状縁は波状の起伏があまり大きくなく、平縁に近いものが大半である。浮線文では内湾したものや、強く折れ曲る内折口縁Ａ種がある。沈線文の土器では内湾口縁と、外反口縁の両方がある。

口唇部加工(第14表)；陰刻は刻み、凹みが少しある。隆線は眼鏡状隆線Ｂ種しかない。突起では双頭突起の他、円形貼付文がある（第162図９号住居資料１)。獣面突起や渦巻突起はない。

地文（第15表)；単節ＲＬが優位で、ＬＲがそれに次ぐ。無節縄文や結束のある羽状縄文もある。

底部（第15表)；直立する３類、張り出す４類が多い。

浅鉢（第16表)；有稜浅鉢はない。内湾浅鉢多孔型（隆帯無)（第162図９号住居資料５）が存在している。

他地域の土器型式；一片出土しており、浮島II式土器と捉えられる（第80図61)。

(6)　愛宕山６期；愛宕山遺跡７、８号住居跡出土資料（第162図)

文様要素（第163図)；平行沈線文、集合沈線文に限定される。住居からは爪形文や浮線文の破片も出土しているが、少量のため、混在と考えられる。

沈線文の幅は３㎜～８㎜の範囲に大方入るが、４、５㎜が多い（第164図、第10表参照)。

文様（第12表、第165図)；木葉文、蕨手文、枠状文類型はほとんどない。渦巻文類型では多重渦巻文もあるが、風車状渦巻文や短渦巻文があるのが最大の特徴である（第162図７号住居資料１、３)。またその風車状渦巻文土器の口頸部文様帯には縦位背弧線文がある。他に、鋸歯状文、菱形文、格子目文、横線文などもある。

胴部文様として風車状渦巻文や短渦巻文がある。それらの渦巻文は横位矢羽根状の文様で挟まれている。

口縁部形態(第13表)；波状縁と平縁では波状縁の方が多い。口縁部形態では口縁が更に強く屈折する内折口縁Ｂ種（第162図７号住居資料１、３）が出現するのが最大の特徴だが、外反口縁も併存するようである。

口唇部加工（第14表)；陰刻、隆線は全くない。突起も少なく、瘤状突起があるくらいである。

地文（第15表)；単節ＲＬが優位で、ＬＲがそれに次ぐ。無節縄文や結束のある羽状縄文もある。

底部（第15表)；直立する３類、張り出す４類が多い。

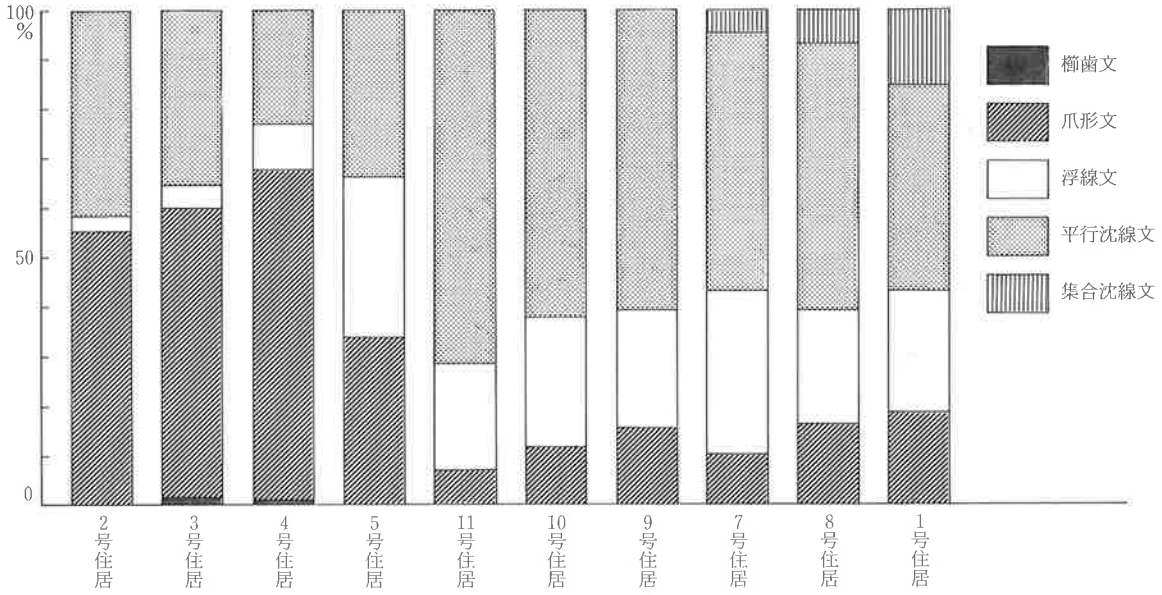
浅鉢（第16表)；７号住居では口縁直立内湾浅鉢多孔型（隆帯付）が、８号住居では外反浅鉢がある。前者は本来伴ったものかは疑わしい。

他地域の土器型式；７号住居では第76図57～61、８号住居では第78図63、65に変形爪形文の土器があり、これは浮島III式土器とも言える。第76図62は興津Ｉ式土器である。

(7)　愛宕山７期；愛宕山遺跡１号住居跡出土資料（第162図)

文様要素（第163図)；平行沈線文、集合沈線文のみあり。爪形文や浮線文は、みな混入であろう。

沈線の幅は２～７㎜程度に存在するが、分布の中心は３㎜にある（第164図、第10表参照)。



第163図　愛宕山遺跡住居別文様要素出現頻度

第９表　爪形文の幅の分布数

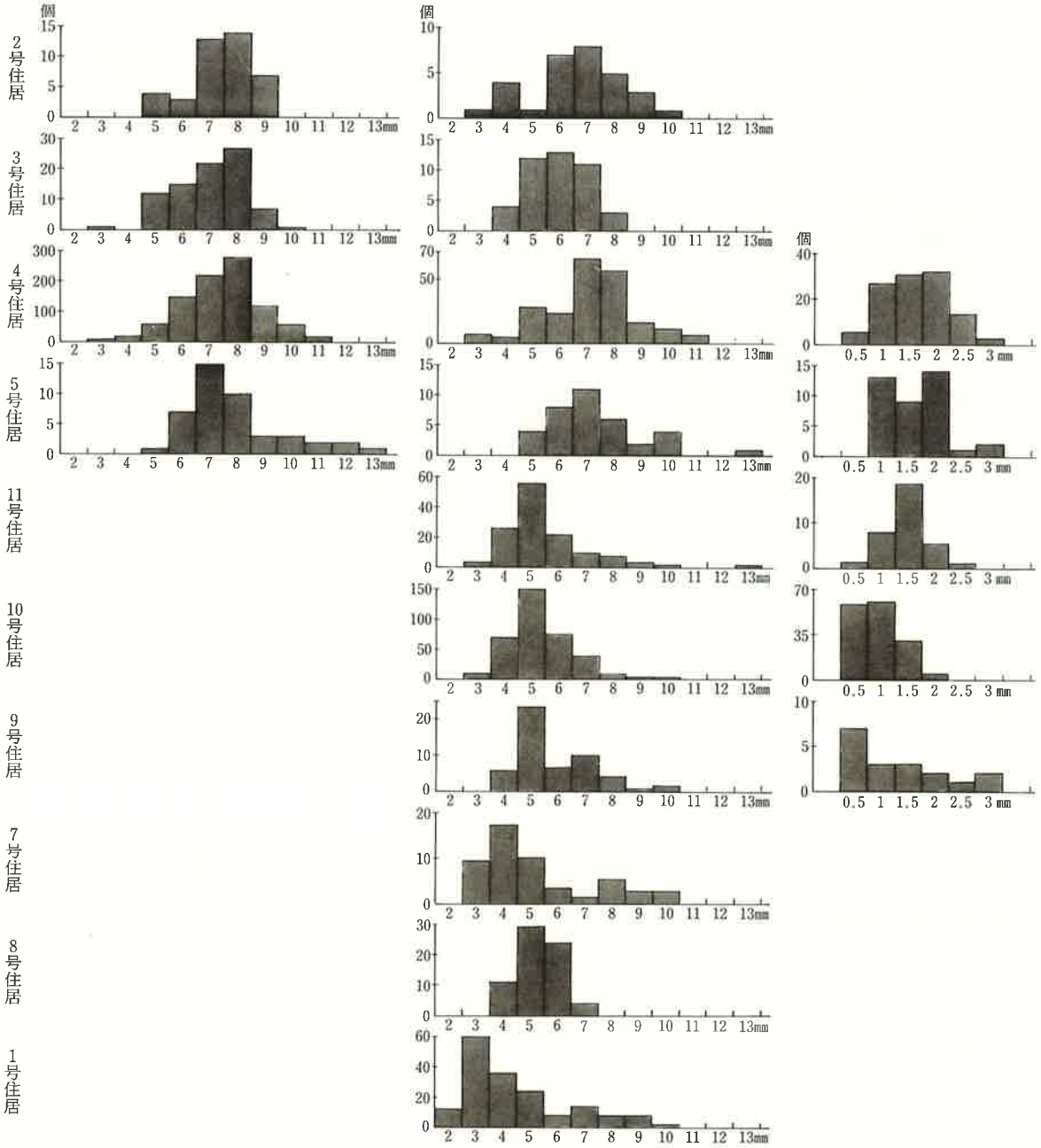
	爪形文の幅												
	2 mm	3 mm	4 mm	5 mm	6 mm	7 mm	8 mm	9 mm	10mm	11mm	12mm	13mm	14mm
2 号住居				4	3	13	14	7					
3 号住居覆土		1		12	15	22	27	7	1				
4 号住居		1	6	22	55	147	282	119	63	22	1		
5 号住居				1	7	15	10	3	3	2	2		1

第10表　沈線文の幅の分布数

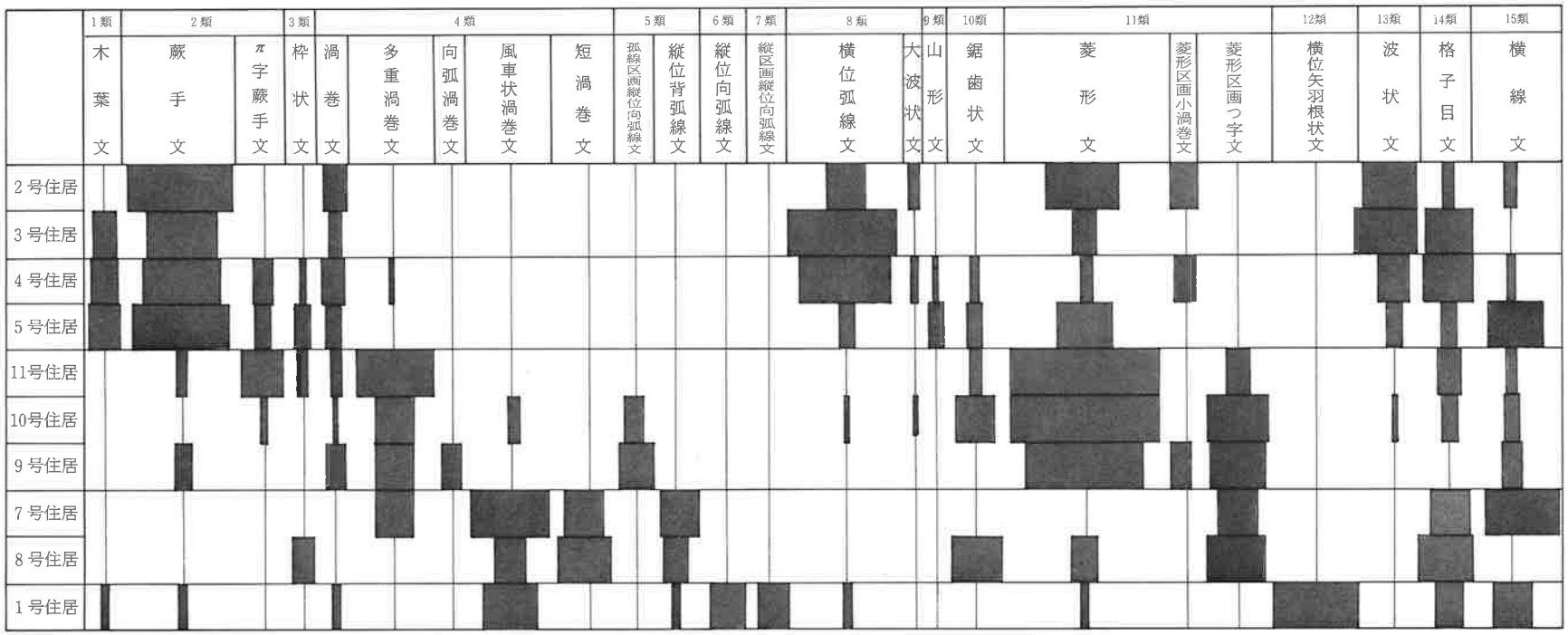
	沈線文の幅												
	2 mm	3 mm	4 mm	5 mm	6 mm	7 mm	8 mm	9 mm	10mm	11mm	12mm	13mm	14mm
2 号住居		1	4	1	7	8	5	3	1				
3 号住居覆土			4	12	13	11	3						
4 号住居	1	7	5	29	23	65	56	17	11	6	1		
5 号住居				4	8	11	6	2	4				1
11号住居		3	25	56	22	10	7	3	2			1	
10号住居		9	70	151	73	38	8	3	4	2		1	
9 号住居			6	23	7	10	4	1	2				
7 号住居		9	17	10	3	1	5	3	3				
8 号住居			11	29	24	4							
1 号住居	12	57	36	24	8	14	7	8	1				

第11表　浮線文の厚さ、加工の分布数

	浮線文の厚さ							浮線上加工					
	0.5mm	1 mm	1.5mm	2 mm	2.5mm	3 mm		無し	太刻み	細刻み	縄文	列点	爪形文
2 号住居		1	2						3				
3 号住居覆土		3	3	1				1	3	3			
4 号住居	5	26	30	32	14	3		3	95	4	6		
5 号住居		13	9	14	1	2		7	28	2	2		
11号住居	1	8	19	5	1			1	22	7	2	1	
10号住居	60	62	30	5				12	47	87	10		
9 号住居	7	3	3	2	1	2		2	8	11		1	1



第164図　愛宕山遺跡住居別文様要素分布



第165図　愛宕山遺跡住居別文様出現頻度

第12表　文様の分布数

	1類	2類		3類	4類					5類		6類	7類	8類		9類	10類	11類			12類	13類	14類	15類		総数
	木葉文	蕨手文	π字蕨手文	枠状文	渦巻文	多重渦巻文	向弧渦巻文	風車状渦巻文	短渦巻文	弧線区画縦位向弧線文	縦位背弧線文	縦位向弧線文	縦区画縦位向弧線文	横位弧線文	大波状文	山形文	鋸歯状文	菱形文	菱形区画小渦巻文	菱形区画つ字文	横位矢羽根状文	波状文	格子目文	横線文	その他	
2号住居		8			2									3	1			5	2			4	1	1		27
3号住居覆土	2	6			1									10				2				5	4		1	31
4号住居	14	39	10	3	14	1								50	4	1	3	5	1			15	25	5		190
5号住居	2	6	1	1	1									1		1	1	3				1	1	3		22
11号住居		1	4	1	1	7											1	12		2			2	1		32
10号住居			1		1	8		1		4				1	1		8	27		13		1	3	3		72
9号住居		1			1	2	1			2								6	1	3				1		18
7号住居						1		2	1		1									1			1	2		9
8号住居				1				1	2		1						2	1		2			2		1	13
1号住居	1	1			1			5	2		1	4	3	1				1			9	1	3	4		37

第13表　口縁部各形態の分布数

				爪形文土器				浮線文土器						沈線文土器											
	二単位波状縁	四単位波状縁	平縁	外反口縁	弱外反口縁	弱内湾口縁A	内湾口縁	外反口縁	弱外反口縁	弱内湾口縁A	内湾口縁	内折口縁A	内折口縁B	外反口縁	弱外反口縁	弱内湾口縁A	弱内湾口縁B	弱内湾口縁C	内湾口縁	内折口縁A	内折口縁B	内折口縁C	内折口縁D	内折口縁E	内折口縁F	複屈曲口縁
2号住居	1	2	8	3	2									3	1	1					1					
3号住居覆土	2	1	17	12										8												
4号住居	20	22	91	63	14			1	1	15	2			28	2	2										
5号住居		1	14	3	3				1	3				4	1											
11号住居		6	15						1	1	3			11	1	3			1							
10号住居		20	29					1	1	2	3			30	5	2			4	1						
9号住居		8	4					1		1	1	1		6		1			1							
7号住居		5																			5					
8号住居		4	1											2		1		1		1						
1号住居		12	13											9	5				2		2			1		6

第14表　口唇部加工の分布数

	陰刻					隆線					突起														
	刻み	凹み	爪形文	平行沈線文	D字刺突	縦位隆線	波状隆線	眼鏡隆線A	眼鏡隆線B	鋸歯状隆線	単頭突起	双頭突起	三頭突起	鰭状突起	環状突起	渦巻突起	獣面簡素型突起	獣面顔面表現型突起	獣面貼付型突起	円形貼付文	瘤状突起	篦状突起	棒状単独型突起	棒状二個一対突起
2号住居	1					1					1													
3号住居覆土	1		1			2					7													
4号住居	17	8	3			12	5	1	1	1	10	6	1	4	2		1							
5号住居	5		1				2				1	1		1				1						
11号住居	1	2							1			2				1		3						
10号住居	3								2		4	3	2			2	1	1						
9号住居	2	2							2			1								1				
7号住居																								
8号住居												1									2			
1号住居					1						1												1	1

第15表　縄文、底部形態の分布数

	縄文						底部					
	R	L	RL	LR	羽状	他	1類	2類	3類	4類	5類	6類
2号住居			61	5			2	1				
3号住居覆土		4	108	17			4	2				
4号住居	3	4	565	119	50	1	19	32	6	4		
5号住居		4	72	39	12		5	4	1			
11号住居	2	2	66	30	3			1	1	1		
10号住居		7	169	82	10			2	13	8		
9号住居	1	3	51	16	4			2	3	4		
7号住居		4	23	11	8				4	1		
8号住居	4	3	32	10	1				2	2		
1号住居	6	11	89	28	5				2	4		1

第16表　浅鉢の分布数

	有稜浅鉢		内湾浅鉢				口縁直立		複段内湾浅鉢						弱内湾浅鉢	外反浅鉢	他
	単純型	屈折口縁型	無・少（隆帯無）孔型	無・少（隆帯付）孔型	多孔型（隆帯付）	多孔型（隆帯無）	無・少孔型	多孔型	無・少（隆帯無）孔型	無・少（隆帯付）孔型	多孔型（隆帯付）	多孔型（隆帯無）	上面平坦多孔型	二列多孔型			
2号住居	1				1												
3号住居覆土	1														1	3	
4号住居	1	4		2	1										1	2	1
5号住居		1		1	1												
11号住居				1	1							1					
10号住居		1		1	2	1						2					
9号住居						1											
7号住居		1						1									
8号住居																1	
1号住居						2							1				2

第17表　諸磯ｂ～ｃ式土器各段階の代表資料

	神奈川県	東京都	埼玉県	群馬県	その他	愛宕山遺跡	小群
諸磯ｂ式古段階	鷺沼遺跡１号住居 成瀬西遺跡１号住居	池田山遺跡23号住居 稲荷丸北遺跡11号住居 下山北遺跡１号住居 多摩ニュー№457　3号住居	上南原遺跡８号住居 塚屋遺跡11、23号住居 15、127、147号土坑 深作東部遺跡４号住居 中川貝塚３号住居 金堀沢遺跡５号住居 鷺森遺跡12号住居 北宿遺跡44号住居	善上遺跡Ｊ7号住居 大下原遺跡Ｊ6号住居 鞘戸原Ｉ遺跡11号住居 中棚遺跡ＮＪ3号住居		愛宕山１期 2、3号住居	a
中１段階前葉	細田遺跡５号住居	本町田遺跡Ｊ4号住居	上南原遺跡７号住居	清水山遺跡29号土坑 鞘戸原Ｉ遺跡７号竪穴 上大屋遺跡７号住居	上台貝塚Ｋ地点住居 浮島貝ケ窪第一群 釈迦堂ＳＩ区12号住居	愛宕山２期 ４号住居	b
中１段階後葉	鷺沼遺跡３号住居 細田遺跡９号住居	本町田遺跡Ｊ2号住居 七社神社遺跡２号住居	上南原遺跡10、12住居 塚屋遺跡20号住居	三島台遺跡１号住居 田中田遺跡Ｊ１号住居 小仁田遺跡５号住居	北前貝塚１号住居 長崎遺跡１号住居 御所遺跡１号住居	愛宕山３期 ５号住居	c
中２段階前葉	稲荷森遺跡１号住居 舞岡リサーチパーク 遺跡１、２号住居	四葉遺跡Ｄ区14号住居	塚屋遺跡21、24号住居 茶屋遺跡６号土坑 上南原遺跡３、４号住居 裏山遺跡１号住居	小仁田遺跡７、９号住居 道木原遺跡２号住居 中棚遺跡ＮＴＪ４号住居	長崎遺跡１号土坑 花鳥山遺跡４号住居	愛宕山４期 11、10住居	d
中２段階中葉	細田遺跡10号住居	三矢田遺跡10、16号竪穴	塚屋遺跡５号住居 62、63号土坑 上南原遺跡11号住居 裏山遺跡３号住居 山崎遺跡１号住居 東光寺裏遺跡７号住居		寺平遺跡１号住居	愛宕山５期 ９号住居	e
中２段階後葉		稲荷丸北遺跡５号住居 下山遺跡70号住居	東光寺裏遺跡８号住居	向吹張遺跡Ｊ６号住居 三島台遺跡２号住居 鞘戸原Ｉ遺跡９号住居	向山貝塚住居 寺平遺跡４号土坑		f
新段階前葉			東光寺裏遺跡５号住居	堀下八幡遺跡１号住居	鍛冶屋遺跡27号土坑	愛宕山６期 7、8号住居	g
新段階後葉			登戸遺跡４号住居	荒砥二之堰遺跡５号住居 滝遺跡３号住居 糸井宮前遺跡53号住居 70、113号住居	大倉崎遺跡１号住居		h
諸磯ｃ式仮１段階		半蔵窪遺跡１号住居		糸井宮前遺跡81号住居 向吹張遺跡Ｊ１号住居 広面遺跡３号住居			i
仮２段階				糸井宮前遺跡15号住居 66、115号住居 向吹張遺跡Ｊ10号住居 中善地宮地遺跡２号住居 三峰神社遺跡Ｊ１号住居 広面遺跡１号住居		愛宕山７期 １号住居	j
仮３段階				糸井宮前遺跡77号住居 芳賀北曲輪遺跡８号住居 12号住居 広面遺跡５、７住居			k

文様（第12表、第165図）；木葉文、蕨手文、枠状文類型はほとんどない。渦巻文類型では風車状渦巻文が優勢である。縦位背弧線文類型では縦位背弧線文、縦位向弧線文類型では、縦位向弧線文、縦区画縦位向弧線文がある（第162図１号住居資料１）。ほかには横位矢羽根状文、格子目文（同図８）、横線文（３）も存在する。

胴部文様もあり、横位矢羽根状文が多い（４、５）。

口縁部形態（第13表）；波状縁と平縁がほぼ同量ある。内折、複屈曲口縁（第162図１号住居資料３）が目立つが、他にも外反口縁、弱外反口縁、弱内湾口縁Ｃ種、内湾口縁などもある。

口唇部加工（第14表）；陰刻ではＤ字刻みがある（第162図１号住居資料８）。隆線はない。突起では棒状突起（同図１）がある。

地文（第15表）；ＲＬが優位で、ＬＲがそれに次ぐ。羽状縄文もある。無節縄文はやや多くある。

底部（第15表）；張り出し底４類が最も多い。３類は少ない。上げ底もある（第162図１号住居資料８）。

浅鉢（第16表）；内湾浅鉢多孔型（隆帯無）、複段内湾浅鉢上面平坦多孔型などがある。複段内湾浅鉢では第45図163のように、口唇部がやや直立した傾向が見られる。

他地域の土器型式；変形爪形文をもつもの（第45図169～172）は浮島Ⅱ式やⅢ式土器に最も近い。しかし同図175は爪形刺突があり、興津Ⅰ式と捉えられる。

３．他遺跡遺構出土土器との比較検討

諸磯ｂ～ｃ式を出す遺跡の報告書を見ると、該期の遺構出土資料は現在約400例ほどある。それらは厳密には一つも同じものはないが、主として文様要素、文様に着目して見ると、愛宕山１～７の各期資料に類似した組成のものを見いだすことができる。第17表は、その内の資料が豊富なものを選んで載せたものである。

以下は第17表を見ながら愛宕山１～７期と類似した資料を紹介すると共に、その資料と愛宕山資料の異同を、各属性について検討してみたい。

(1)　愛宕山１期類似資料；第17表ａ群資料等

文様要素；愛宕山遺跡例の組成とほぼ等しい（第166図１～10塚屋遺跡15号土抗出土土器参照）。下山北遺跡、北宿遺跡、中棚遺跡例では浮線文が出土しているが、量は少ないので、その浮線文は本来はなかったものと考えられる。また爪形文と隆帯を併せもつ土器が池田山北遺跡、上南原遺跡、善上遺跡などにあり、浮線文土器の祖形として注目される。

文様；愛宕山遺跡例の組成とほぼ等しいが、小差もある。愛宕山遺跡にあった格子目文は群馬県以外の例には僅少である。また愛宕山遺跡例にはないが、横位矢羽根状文、斜線肋骨文（第166図４）をもつ例がある。

口縁部形態；愛宕山遺跡例の組成とほぼ等しい。

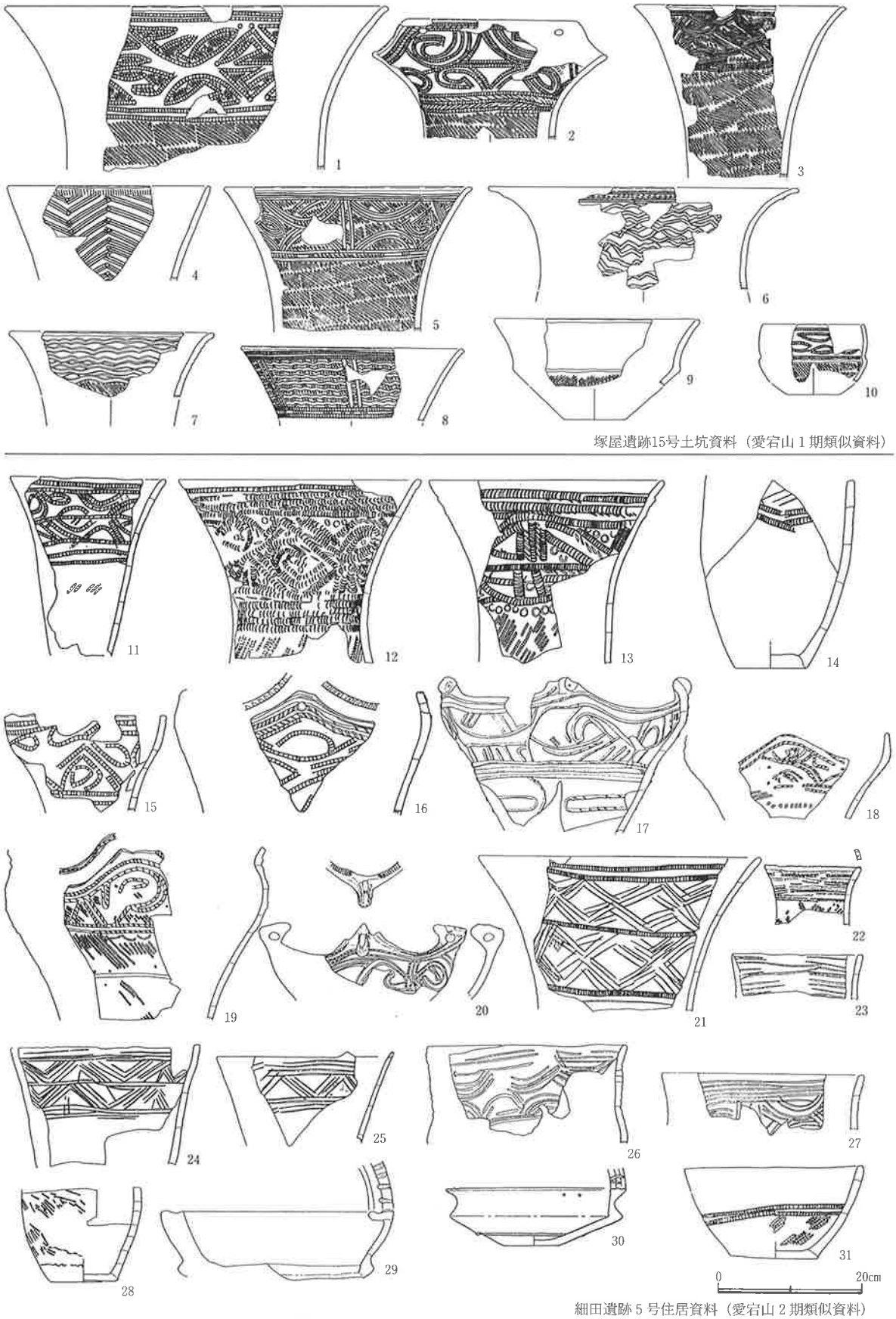
口唇部加工；愛宕山遺跡例では陰刻では凹み、隆線では縦位隆線しかないが、鷺沼遺跡、北宿遺跡例などでは他にも陰刻では爪形文がある。特に二単位波状口縁に付く爪形文は特徴的である。

地文；愛宕山遺跡例の組成とほぼ等しい。しかし南関東の鷺沼遺跡や多摩ニュータウンNo.457遺跡例などでは羽状縄文が少量ながら存在しており、愛宕山遺跡例とは異なる。

底部；愛宕山遺跡例の組成とほぼ等しい。

浅鉢；愛宕山遺跡例の組成の他、深作東部遺跡資料では内湾浅鉢無-少孔型（隆帯無）や第158図26のような浅鉢が出土している。また鷺森遺跡12号住居では複段内湾浅鉢無-少孔型（隆帯無）が出土している。

他地域の土器型式；鷺沼遺跡、池田山遺跡、鞘戸原Ⅰ遺跡例では北白川下層Ⅱｃ式土器が存在する。また



第166図　他遺跡出土資料（１）

多摩ニュータウンNo.457遺跡にも類似資料がある。深作東部遺跡例では浮島Ⅰａ～Ⅰｂ式土器が出土している。

⑵　愛宕山２期類似資料；第17表ｂ群資料等

文様要素；愛宕山遺跡例とほぼ等しい。南関東の細田遺跡（第166図11～31）や本町田遺跡例では平行沈線文の量が多い。また爪形文と隆帯を併せもつ土器が本町田遺跡、細田遺跡（同図16）や鞘戸原Ⅰ遺跡33号住居、山梨県釈迦堂遺跡SⅠ区43号住居などにある。

文様；愛宕山遺跡例の組成とほぼ等しい。しかし枠状文や菱形区画小渦巻文は数が少なく、遺跡によっては出土しないし、愛宕山遺跡にある格子目文は関東では群馬県以外にはあまりない。一方南関東の本町田遺跡や細田遺跡例では菱形文、鋸歯状文の量が多い（同図21、24、25）。

口縁部形態、口唇部加工、地文、底部；愛宕山遺跡例の組成とほぼ等しい。

浅鉢；愛宕山遺跡例の組成とほぼ等しい。有稜浅鉢や内湾浅鉢では胴下部に隆帯が一条巡るもの（同図30）があり、後の尾鰭の祖形として注目される。また内湾浅鉢多孔型や弱内湾浅鉢を出土するものがある。

他地域の土器型式；細田遺跡例では北白川下層Ⅱｃ式土器が出土している。また千葉県上台貝塚例や浮島貝ケ窪貝塚第一群土器では浮島Ⅰｂ式土器が出土している。

⑶　愛宕山３期類似資料；第17表ｃ群等

文様要素；愛宕山遺跡例の組成とほぼ等しい。第167図１～15に塚屋遺跡20号住居出土資料を掲載したが、愛宕山遺跡例との類似が見てとれよう。南関東の資料では文様要素に沈線文が多い。

文様；愛宕山遺跡例の組成とほぼ等しい。愛宕山遺跡では格子目文があるが、他遺跡にはあまりない。また南関東の細田遺跡や本町田遺跡例では鋸歯状文や菱形文が多く、当地域の特色を出している。

頸部文様、底部直上文様として、浮線文により梯子状文が描かれるものがある。

口縁部形態；愛宕山遺跡例の組成とほぼ等しい。

口唇部加工；愛宕山遺跡では陰刻に刻み、隆線に波状隆線しかない。他遺跡では陰刻に凹み、隆線に縦位隆線、眼鏡状隆線もある。突起では単頭突起と獣面突起があり、後者では顔面表現型が多い（第167図７）。

地文、底部；愛宕山遺跡例の組成とほぼ等しい。

浅鉢；愛宕山遺跡例同様、有稜浅鉢と内湾浅鉢多孔型（隆帯付）があるが、有稜浅鉢屈折口縁型では口縁上面の平坦面に隆線や単沈線で文様が描かれるもの（同図14）や、胴下部に尾鰭が付くものがある。また愛宕山遺跡例にはないが、口縁直立内湾浅鉢や複段内湾浅鉢無-少孔型（13）、弱内湾浅鉢が出土している例もある。

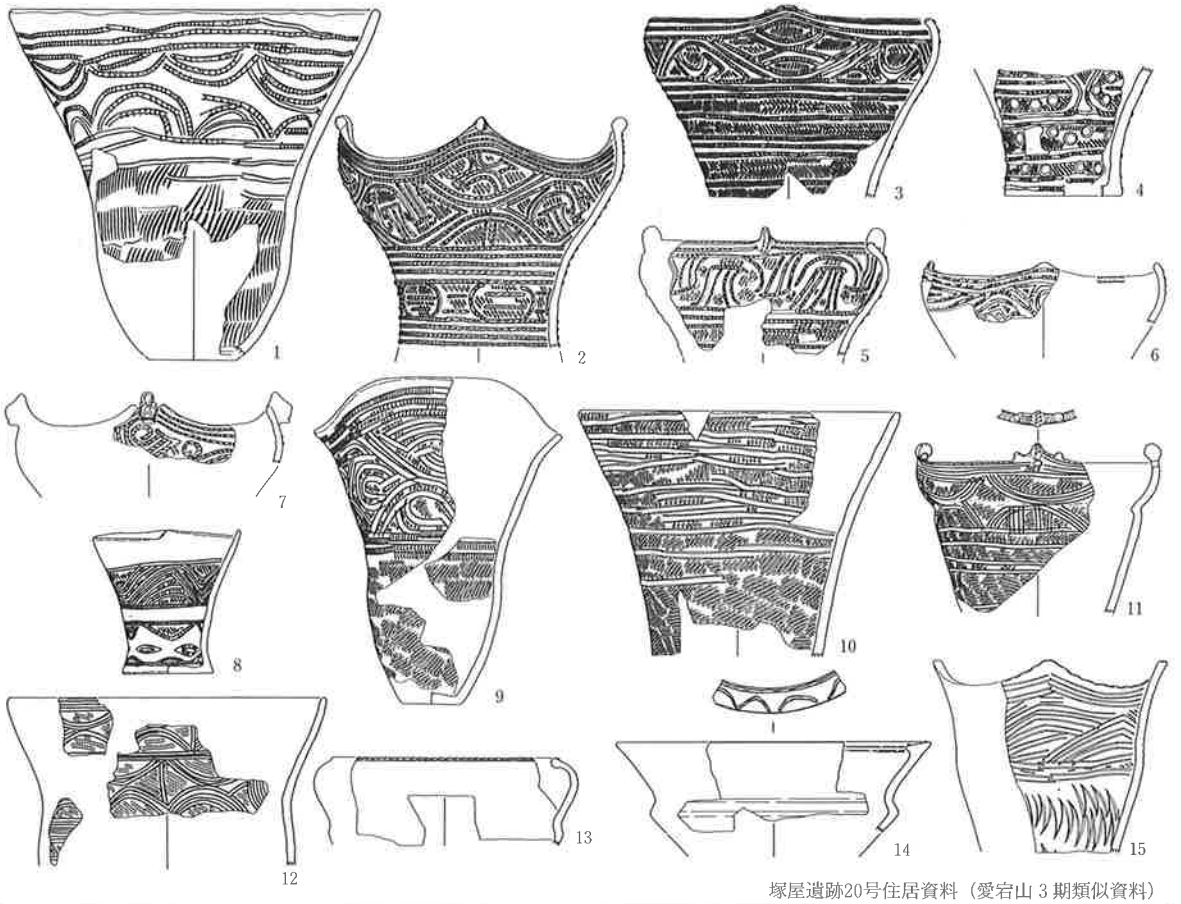
他地域の土器型式；細田遺跡例や七社神社遺跡例では浮島Ⅰｂ式～Ⅱ式土器と北白川Ⅱｃ式土器が出土している。鷺沼遺跡例や山梨県御所遺跡例では北白川下層Ⅱｃ式土器が、塚屋遺跡例では浮島Ⅰｂ～Ⅱ式土器が出土している（同図15）。また千葉県北前貝塚や長崎遺跡では浮島Ⅰｂ式、Ⅱ式土器が出土している。

⑷　愛宕山４期類似資料；同表ｄ群

文様要素；愛宕山遺跡例の組成とほぼ等しい。ただ南関東の遺跡では沈線文の方が多い。

文様；第167図16～24の小仁田遺跡７号住居資料に代表されるように、他遺跡資料も愛宕山遺跡例の組成とほぼ等しいものがある。しかし愛宕山遺跡にある格子目文は他遺跡には少ない。また愛宕山遺跡例には少ないが、横位弧線文は稲荷森遺跡や山梨県花鳥山遺跡に安定して存在しているし、横位矢羽根状文が舞岡リサーチパーク内遺跡などから出土している。これらは平行沈線文が多い南関東地方の地方色であろう。

頸部文様として、浮線文により眼鏡状文が描かれる。



第167図　他遺跡出土資料（２）

口唇部加工；愛宕山遺跡例の組成とほぼ等しい。獣面突起は愛宕山遺跡では獣面突起顔面表現型、簡素型しかないが、四葉遺跡例や小仁田遺跡例、道木原遺跡例では獣面突起貼付型がある。また上南原遺跡例や裏山遺跡例では円形貼付文があり、次の愛宕山５期にかなり接近している。

口縁部形態、地文、底部；愛宕山遺跡例の組成とほぼ等しい。

浅鉢；愛宕山遺跡では有稜浅鉢屈折口縁型、内湾浅鉢多孔型（隆帯付、隆帯無）、複段内湾浅鉢多孔型（隆帯無）が存在した。愛宕山遺跡には無いものの、内湾浅鉢無-少孔型（隆帯無）と（隆帯付）が中棚遺跡例、口縁直立内湾浅鉢（第167図23）と複段内湾浅鉢無-少孔型（隆帯付）（同図22）が小仁田遺跡例、外反浅鉢が上南原遺跡例にある。また内湾浅鉢の胴下部に尾鰭が付いたものがあり、これが長く伸びて、地面についたものもある。

他地域の土器型式；舞岡リサーチパーク内遺跡例では浮島Ⅱ式土器と北白川下層Ⅱｃ式土器が出土している。また稲荷森遺跡例と小仁田遺跡例、千葉県長崎遺跡例には浮島Ⅱ式土器がある（同図24）。

⑸　愛宕山５期類似資料；同表ｅ群

文様要素；愛宕山遺跡例の組成とほぼ等しいが、細田遺跡例や三矢田遺跡例では平行沈線文の量が多く、南関東の地域色を出している。

文様；愛宕山遺跡例の組成とほぼ等しい。第167図25～31、第168図１～11は塚屋遺跡５号住居出土資料で良好なセットをなす。弧線区画縦位背弧線文や菱形区画つ字文などは少なく、組成から欠落するものがある。また南関東の例では平行沈線で描かれる鋸歯状文、菱形文などが多い。

頸部文様、底部直上文様として浮線文による眼鏡状文がある。４期資料に比べ、菱形に近いものがある（第167図29、30）。

口縁部形態；愛宕山遺跡同様、内湾口縁、内折口縁Ａ種が一般的で、外反口縁は少ない。しかし南関東では外反口縁、弱外反口縁が安定して存在し、中には口縁部に輪積痕をもつものすらある。

口唇部加工；愛宕山遺跡例の組成とほぼ等しい。獣面突起貼付型や同簡素型（第168図２）、円形貼付文（第167図26、27、第168図３）が付く。

地文；南関東では撚りが粗い縄文やハイガイなどの貝殻の背圧痕を付けたものがある。

底部；３、４類が多いが、底部直上が算盤玉状に膨らむ５類がある。

浅鉢；愛宕山遺跡例同様、内湾浅鉢多孔型（隆帯無）があるが、他に複段内湾浅鉢多孔型（隆帯無）や外反浅鉢がある。内湾浅鉢では尾鰭が付くものもあるが、底部は小さく、丸みを帯び、不安定なものがある。

他地域の土器型式；塚屋遺跡５号住居では浮島Ⅱ式がある（第168図11）。同遺跡63号土坑では三角文はないものの、条線帯を持つ変形爪形文土器が出土しており、浮島Ⅱ式後半～浮島Ⅲ式土器と考えられる。

⑹　愛宕山６期類似資料；同表ｇ群

文様要素；愛宕山遺跡例の組成とほぼ等しい。集合沈線文には細刻み付きや列点刺突付きがある。第168図21～25には長野県鍛冶屋遺跡27号土坑出土資料を載せたが、同図21は列点刺突付きの好例である。

文様；愛宕山遺跡例の組成とほぼ等しいが、格子目文は他遺跡にはほとんどない。

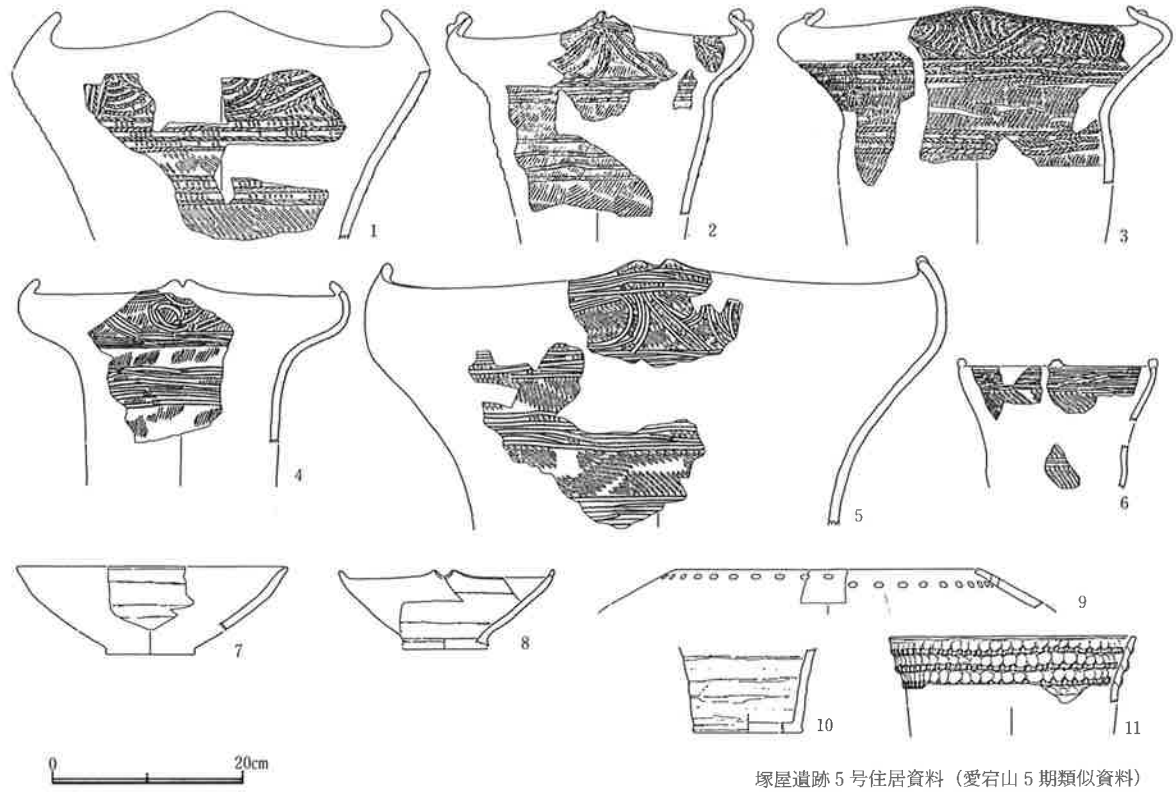
口縁部形態；内折口縁Ａ種、Ｂ種が主だが、鍛冶屋遺跡では外反口縁（第168図25）もある。

口唇部加工、地文；愛宕山遺跡例の組成とほぼ等しい。

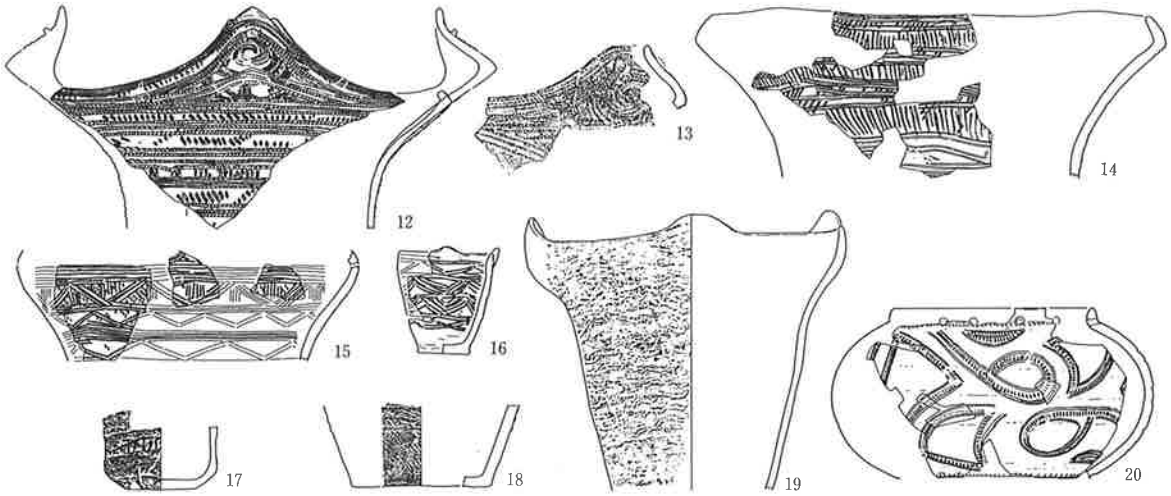
底部；愛宕山遺跡例同様、３、４類が多いが、底部直上が算盤玉状に膨らむ５類もある。

浅鉢；数は少なく、内湾浅鉢多孔型（隆帯無）がある位である。口唇部が僅かに直立する特徴を持つ。

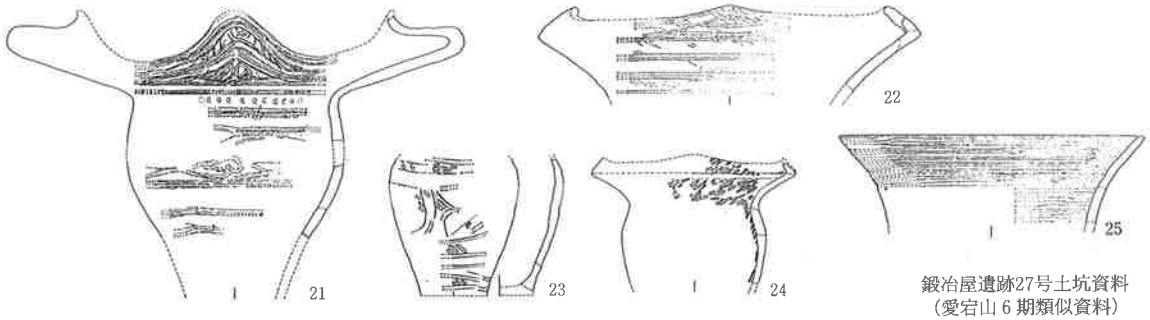
他地域の土器型式；良好な伴出例は無い。



塚屋遺跡５号住居資料（愛宕山５期類似資料）



稲荷丸北遺跡５号住居資料（第17表ｆ群資料）



鍛冶屋遺跡27号土坑資料
（愛宕山６期類似資料）

第168図　他遺跡出土資料（３）

⑺　愛宕山７期類似資料；同表ｊ群

文様要素；愛宕山遺跡例の組成とほぼ等しい。

文様；愛宕山遺跡例の組成とほぼ等しい。格子目文は群馬県内資料に頻繁に見られる。第169図15～22には糸井宮前遺跡66号住居の資料を掲げておいた。

口縁部形態；愛宕山遺跡例の組成とほぼ等しいが、糸井宮前遺跡例では内折口縁Ｄ種（同図20）もある。

口唇部加工、地文；愛宕山遺跡例の組成とほぼ等しい。

底部；３、４類が主。５類は類例がないが、中善地宮地遺跡では台状の底部があり、関連が伺われる。

浅鉢；愛宕山遺跡例の組成とほぼ等しい。内湾浅鉢、複段内湾浅鉢では口唇部が短く直立する傾向がある。胴下部には一条の段が巡り、底は丸底で、不安定である（同図21、22）。

他地域の土器型式；愛宕山例では興津Ⅰ式土器が出土したが、糸井宮前遺跡115号住居では興津Ⅱ式土器の小破片が出土している。また三峰神社裏遺跡Ｊ１号住居では大木５式類似土器が出土している。

このように愛宕山遺跡で見られた諸磯ｂ式～ｃ式にかけての七つの段階設定は他遺跡の類例を数個以上もち、またこのように細分段階を設定することで、複数の属性において、その連続的な変化をよりスムーズに捉えることができることから、この細分は妥当性が高いと言える。しかしこの七細分で、該期の関東地方の一括出土資料をすべて律しきれるわけではない。特に、関東地方内において、以上七段階の各特徴とは異なった、別のある特徴をもつという共通項でくくられる資料群が存在する。それは具体的には第17表ｆ群、ｈ群、ｉ群、ｋ群の四群である。

⑻　第17表ｆ群資料

文様要素；浮線文、平行沈線文があるので愛宕山４、５期に似るが、浮線文列点刺突付、爪形文付をもつ。第168図12～20は稲荷丸北遺跡５号住居出土資料であるが、13は浮線文爪形文付の好例である。

文様；多重渦巻文、風車状渦巻文（同図12、13）、縦位背弧線文、鋸歯状文（15、16）、菱形区画つ字文、横線文などからなる。

胴部文様としては風車状渦巻文や鋸歯状文がある。頸部文様や底部直上文様としては梯子状文（同図12）や眼鏡状文（17）がある。

口縁部形態；内折Ａ種（同図14）の他、愛宕山６期に見られる内折口縁Ｂ種（12）がある特徴をもつ。外反口縁もある。南関東の例には輪積痕付きのもの（16）がある。

口唇部加工；突起に単頭突起（同図16、19）、三頭突起、円形貼付文（13）、瘤状突起（12）がある。

地文；単節斜行縄文が一般的である。稲荷丸北遺跡では南関東に多い粗い縄文（同図19）が存在する。

底部；３、４類が主体であるが、５類の算盤玉状をしたものもある（同図17）。

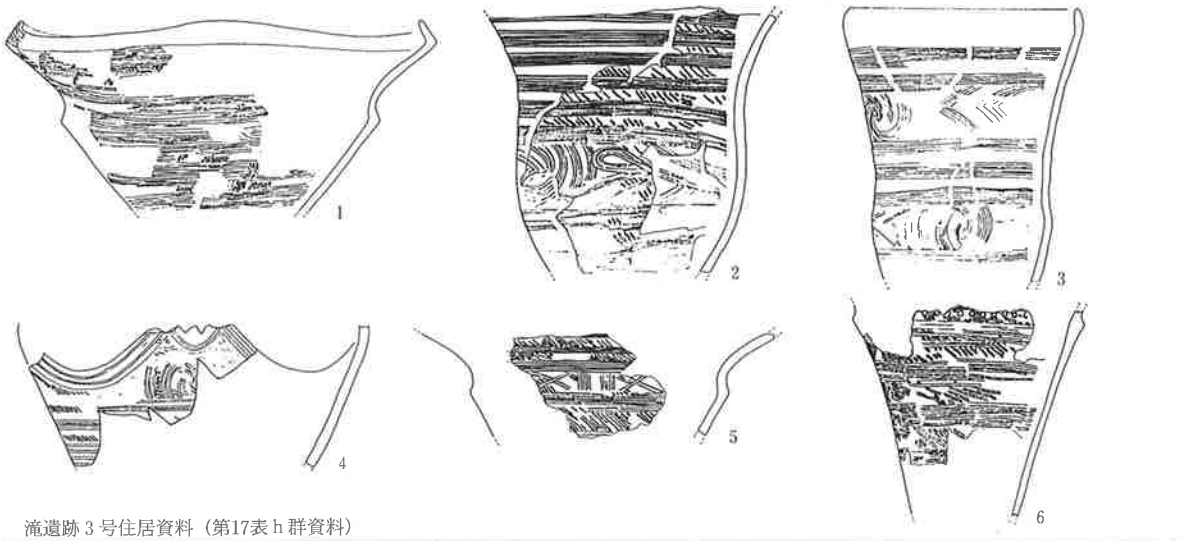
浅鉢；向吹張遺跡や稲荷丸北遺跡例では内湾浅鉢、複段内湾浅鉢多孔型（隆帯無）や同口縁平坦型があるが、共に口唇部が短く直立している（同図20）。また内湾浅鉢多孔型の角ばったもの（第158図27）もある。

他地域の土器型式；向吹張遺跡や稲荷丸北遺跡、下山遺跡、東光寺裏遺跡例などでは三角文の土器はないものの、条線帯をもつ変形爪形文土器が出土している。同時期と考えられる浮島式土器圏内の茨城県向山貝塚では浮島Ⅲ式土器が出土しており、上記四遺跡の土器も浮島Ⅲ式土器と思われる。

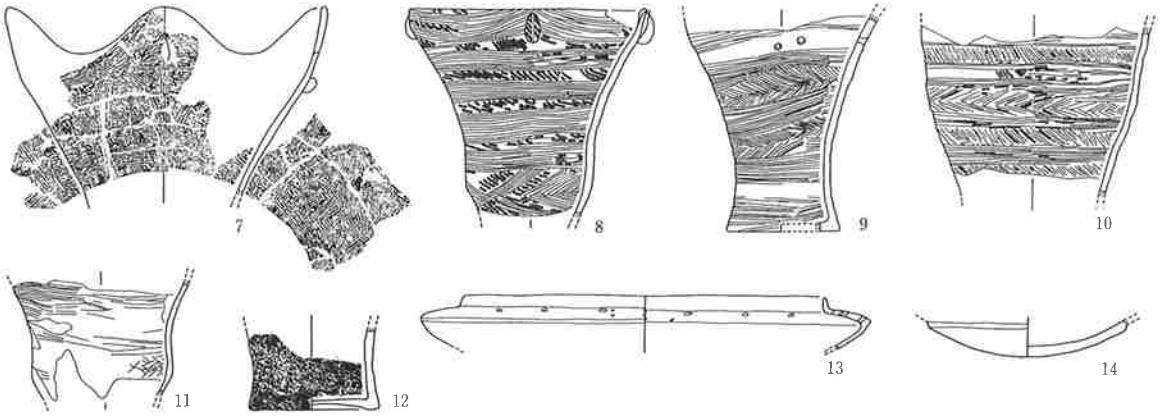
⑼　第17表ｈ群資料；

文様要素；平行沈線文と集合沈線文のみが存在する。集合沈線文では細刻み付や列点刺突付が少しある。

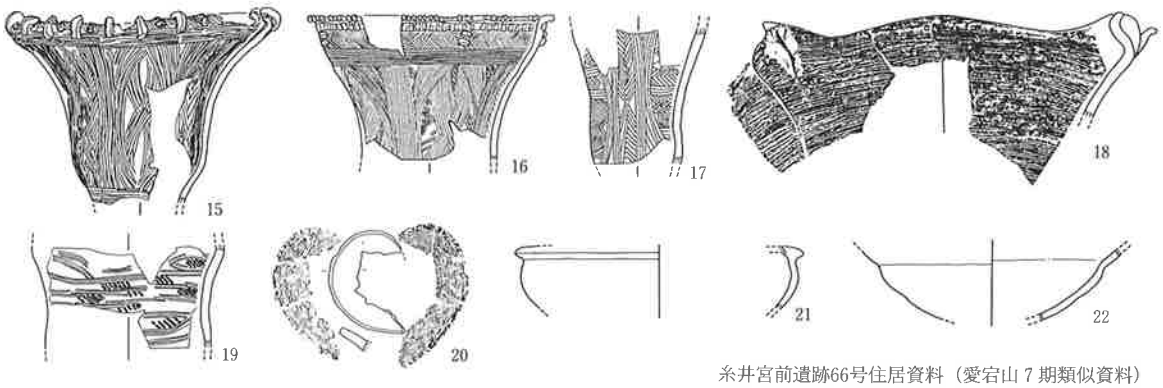
文様；第169図１～６に代表として滝遺跡３号住居出土資料を掲載した。風車状渦巻文（同図４）、短渦巻文、縦位背弧線文、縦位向弧線文などがある。このうち縦位向弧線文は愛宕山６期の縦位背弧線文が変化し



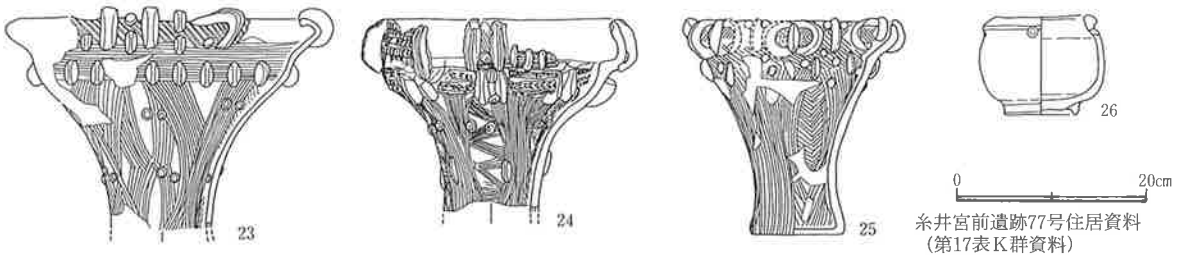
滝遺跡３号住居資料（第17表ｈ群資料）



糸井宮前遺跡81号住居資料（第17表ｉ群資料）



糸井宮前遺跡66号住居資料（愛宕山７期類似資料）



糸井宮前遺跡77号住居資料
（第17表Ｋ群資料）

第169図　他遺跡出土資料（４）

てできたと思われ、諸磯ｃ式の縦区画縦位向弧線文の祖形と考えられる。

胴部文様としては矢羽根状文に挟まれた風車状渦巻文（同図３）、頸部文様では沈線による変形眼鏡状文（５）がある。

口縁部形態；内折口縁Ａ種、Ｂ種、Ｃ種、弱内湾口縁Ｂ、Ｃ種（同図４）が特徴的である。長野県大倉崎遺跡例では外反口縁もある。

口唇部加工；突起では三頭突起、瘤状突起があり、棒状突起はない。弱内湾口縁Ｂ、Ｃ種では波頂部に刻みが付く特徴がある（同図４）。

地文；関東の例では単節斜行縄文が多いが、大倉崎遺跡例では羽状縄文がかなりある。

底部；３、４類が主体である。

浅鉢；内湾浅鉢多孔型（隆帯無）、複段内湾浅鉢上面平坦型がある。底部は丸く不安定である。

他地域の土器型式；良好な伴出例なし。

⑽　第17表ｉ群資料；

文様要素；平行沈線文、集合沈線文のみ。集合沈線文では細刻み付や列点刺突付のものが少しある。

文様；第169図７～14は代表的な糸井宮前遺跡81号住居資料を掲載した。風車状渦巻文、縦位背弧線文、縦区画縦位向弧線文（８単位型）（同図７）、横位矢羽根状文、横線文（８）がある。このうち縦区画縦位向弧線文（８単位型）はｈ群の縦位向弧線文が変化したものと考えられる。胴部文様には横位矢羽根状文（８～11）が多くある。

口縁部形態；内折口縁Ａ種、Ｂ種、Ｃ種、複屈曲口縁（同図８）の他、外反、弱外反、弱内湾口縁Ｂ、Ｃ種（７）もある。

口唇部加工；陰刻ではＤ字刺突が少量ある。突起では棒状突起（単独型）（同図７、８）がある。

底部；４類が主体であるが、若干上げ底気味のものもある（同図12）。

浅鉢；広面遺跡では内湾浅鉢多孔型（隆帯無）や複段内湾浅鉢上面平坦型があるが、口唇部が短く直立する。糸井宮前遺跡では複段内湾浅鉢二列多孔型がある（同図13）。底部には一条の段が巡り、底は丸い。

他地域の土器型式；良好な伴出例はない。

⑾　第17表ｋ群資料；

文様要素；平行沈線文、集合沈線文のみである。

文様；第169図23～26は糸井宮前遺跡77号住居資料だが、縦区画縦位向弧線文（崩壊型）（同図23）がある。

口縁部形態；内折口縁Ｆ種がある（同図23など）。

口唇部加工；突起では貝殻状突起が多い（同図23、25）。ボタン状貼付文も増え、口縁部だけでなく、胴部にも付く（23、24）。

地文；地文に縄文をもたないものが圧倒的に多い。

底部；４類が主体である。

他地域の土器型式；群馬県広面遺跡５、７号住居では興津Ⅱ式土器が出土している。

このように第17表ｆ、ｈ、ｉ、ｋ群は資料もそろっており、主体的な特徴があり、それぞれ一時期をなすものと考えられる。そしてこの四資料群の時間的位置であるが、各属性の連続的消長を考慮すると、第17表や第170、171図に示したように、ｆ群は愛宕山５期と６期の間、ｈ群とｉ群は愛宕山６期と７期の間、ｋ群は７期の後に置くのが最適である。こうすれば第170、171図にあるように、各属性の項目がきれいに連続するように配列されるからである。

4．諸磯ｂ～ｃ式の細分段階の命名

愛宕山遺跡出土および、ほぼ同時期の他遺跡出土の諸磯ｂ～ｃ式土器を検討した結果、該期には少なくとも11の段階を設定することが可能であった。ではこれらの各段階をいかに命名したらよいのだろうか。それを考えるために、近年までの論考で、各研究者がいかなる細分段階、細分型式名を使用しているのかを確認し、それと、この11の段階がどんな関係になるのか表にまとめてみた（第18表）。

諸磯ｂ式土器の細分では、従来、文様要素の組み合わせが着目されていた。単純に言えば、爪形文と平行沈線文のみの組成をなすもの（愛宕山１期）を古段階、浮線文が主体となるもの（愛宕山４、５期）を中段階、（集合）沈線文のみのもの（愛宕山６期）は新段階という具合にである。しかし爪形文と浮線文は共伴する例（愛宕山２、３期）があり、それに対しては古段階とする人と、中段階（ｂ２式）にする人がいる[11]。また新段階に関しては、文様要素の他に、特徴的な靴先状口縁（本論で言う内折口縁Ｂ、Ｃ種）がメルクマールとされたため、類似した口縁をもつ浮線文土器（本論ｆ群）を新段階とする人もいる[12]。

しかし私は区分基準を文様要素に統一した方がわかり易いと考え、文様要素の組成が爪形文と平行沈線文からなるもの（愛宕山１期）を古段階、爪形文と浮線文と平行沈線文からなるもの（愛宕山２、３期）を中１段階、浮線文と平行沈線文からなるもの（愛宕山４、５期、ｆ群）を中２段階、平行沈線文と集合沈線文からなるもの（愛宕山６期、ｈ群）を新段階とした[13]。そしてさらに中１段階は爪形文と浮線文の割合から、爪形文＞浮線文の組成をもつもの（愛宕山２期）を前葉、爪形文≒浮線文の組成をもつもの（愛宕山３期）を後葉として、細分した。中２段階も主要文様から、多重渦巻文をもつもの（愛宕山４期）を前葉、向弧渦巻文をもつもの（愛宕山５期）を中葉、風車状渦巻文をもつもの（ｆ群）を後葉として、細分した。新段階も風車状渦巻文をもつもの（愛宕山６期）を前葉、縦位向弧線文ももつもの（ｈ群）を後葉として、細分した。

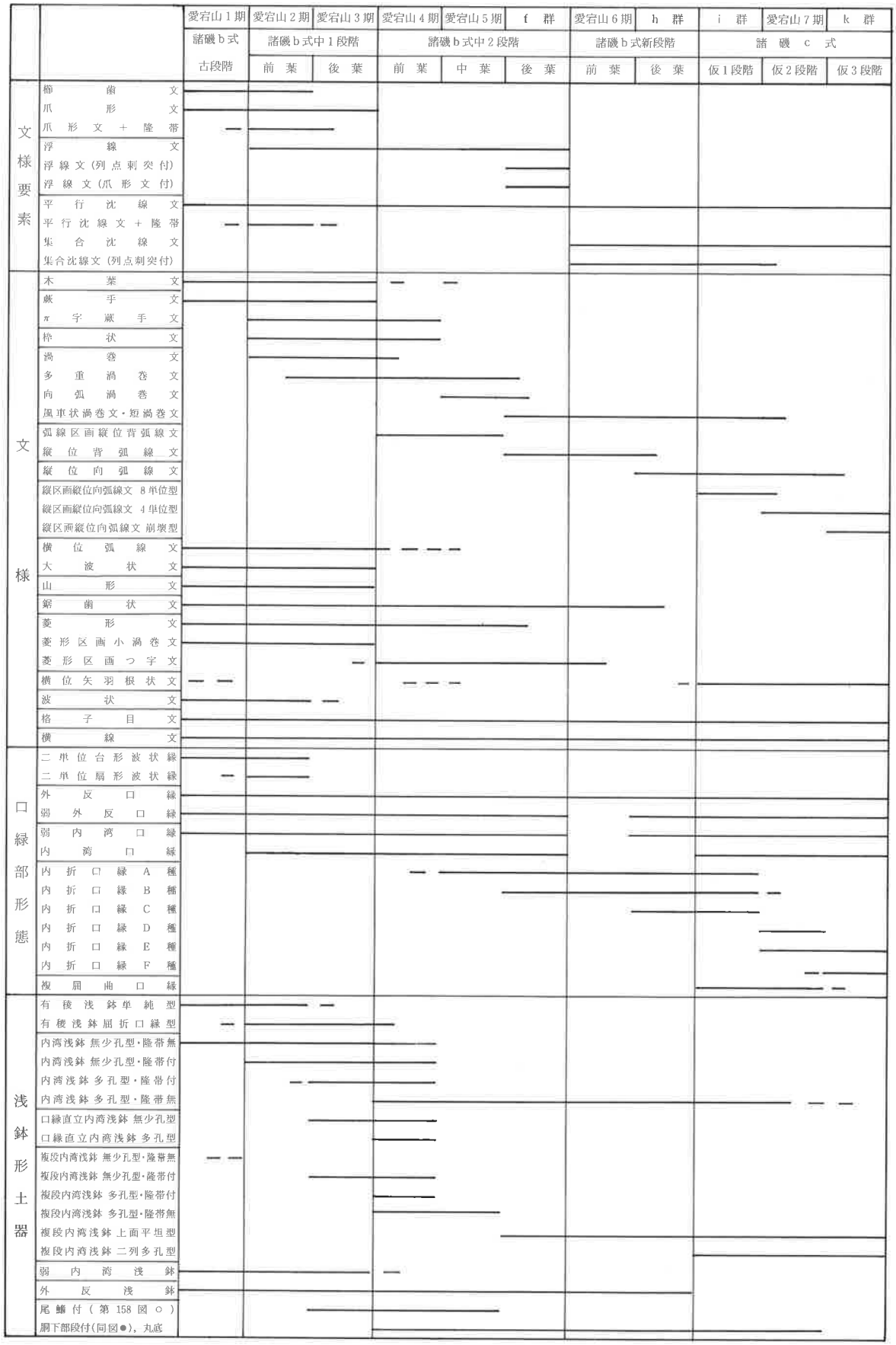
諸磯ｂ式とｃ式の境界は近年の資料の増加で線引きが難しくなってきた。愛宕山７期やｋ群資料は以前より諸磯ｃ式と扱われていたが、問題はｉ群の扱いである。以前今村啓爾氏は施文順序に着目し、諸磯ｂ式は貼付文→沈線文、諸磯ｃ式は沈線文→貼付文という規則を指摘したが[14]、それに従えば、ｉ群は諸磯ｂ式になる。しかし文様構成を見ると、ｈ群までは横区画なのに対し、ｉ群では縦区画縦位向弧線文の出現により縦区画が行なわれるようになっている。私はこの転換を重視して、ｉ群から以降を諸磯ｃ式に含めることにした。今回扱った（ｉ群）、愛宕山７期、ｋ群は今村氏の分類では諸磯ｃ式古段階になるが、本論は諸磯ｃ式全体の細分を目指したものではないので、仮に仮１、２、３段階と命名しておくことにする[15]。

5．まとめ―諸磯ｂ～ｃ式土器の細分

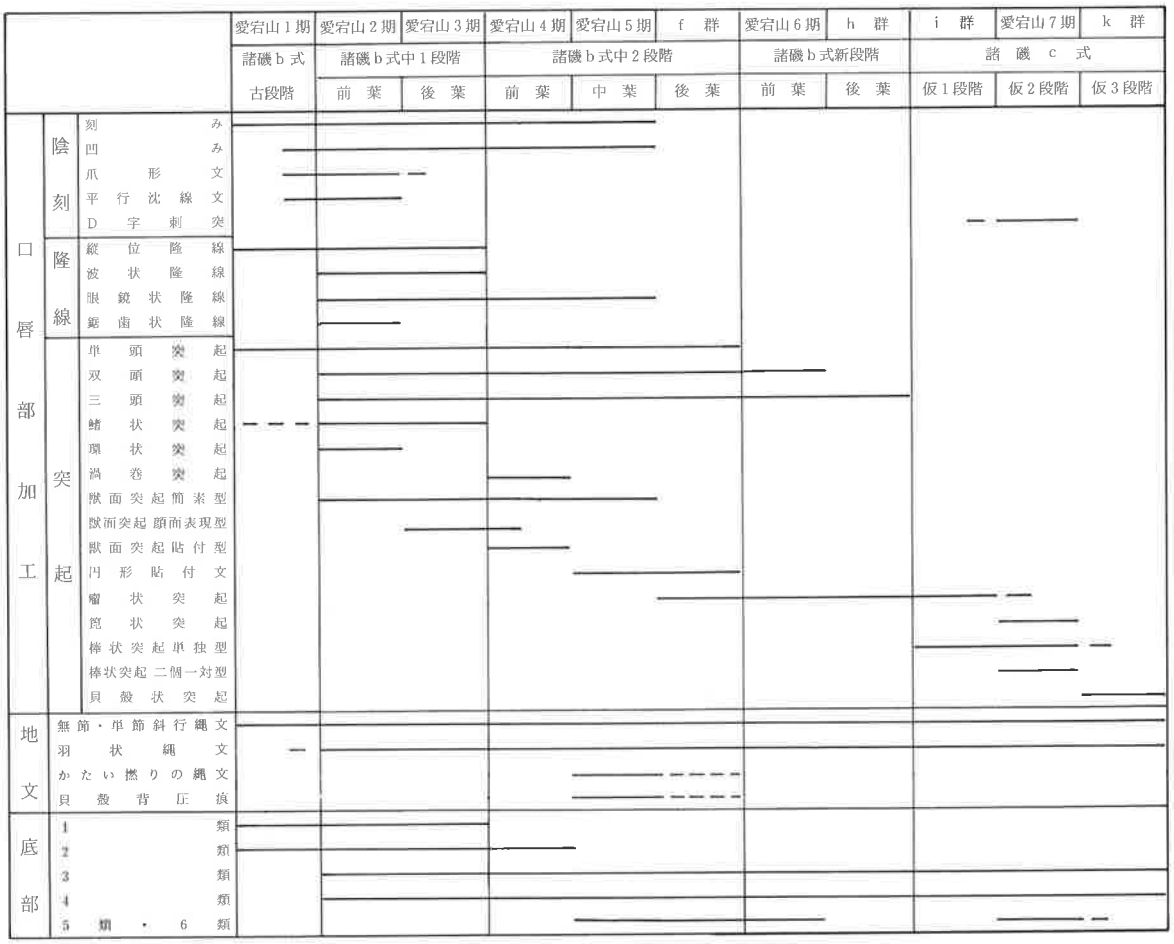
このようにして、諸磯ｂ式土器は古段階、中１段階前葉、同後葉、中２段階前葉、同中葉、同後葉、新段階前葉、同後葉に分けられ、諸磯ｃ式も少なくとも三段階の区別が存在することが明らかになった。ここではまとめとして、各属性のたどった時間的推移を説明していきたい。

(1)　文様要素（第170図参照）

諸磯ｂ式古段階は、櫛歯文、爪形文と平行沈線文を主要文様要素としてもつ。中１段階になると爪形文と平行沈線文に加えて浮線文が主要文様要素に加わる。特にその前葉は爪形文が多いが、後葉には浮線文が増えて、爪形文と同量程度となる。また櫛歯文も後葉ではほとんどなくなる。中２段階では爪形文がなくなり、浮線文と平行沈線文が主要文様要素となる。なお古段階～中段階にかけて、南関東では平行沈線文が多い傾向がある。さらに新段階には浮線文もなくなり、主要文様要素は平行沈線文や集合沈線文のみとなる。諸磯



第170-1図　諸磯b～c式の諸属性の分布状況(1)



第170-2図　諸磯ｂ～ｃ式の諸属性の分布状況（2）

第18表　諸磯ｂ～ｃ式細分名称の対比

	愛宕山1期	愛宕山2期	愛宕山3期	愛宕山4期	愛宕山5期	f 群	愛宕山6期	h 群	i 群	愛宕山7期	k 群
山内清男（1961年）	b式古										
西村正衛（1966年）		b式古		b 式							
鈴木徳雄（1979年）	b式(古)			b式(中)				b式(新)		c 式	
中島　宏（1980年）	b式古				b式新					c 式	
鈴木敏昭（1980年）	b_1式	b_2(古)式			b_2(新)式		b_3式				
今村啓爾（1982年）	b式(古)	b式(中)前半		b式(中)後半			b式(新)			c式(古)	
白石浩之（1983年）	b式I期	b式II期			b式III期						
羽生淳子（1987年）	b_1式		b_2式				b_3式			c 式	
鈴木敏昭（1988年）							b_3式		c式直前	c式古・前半	c式古・後半
谷口康浩（1991年）	b式古	b式中		b式中			b式新			c式古	
鈴木敏昭（1991年）		b_2式(古)		b_2式(新)		b_3式(古)	b_3式(新)				
関根慎二（1993年）							b式終末	c式以前 II—a	c式以前 II—b	c式古段階 III—a	c式古段階 III—b
本　論　文（1994年）	b式古段階	b式中$_1$段階		b式中$_2$段階			b式新段階		c 式		
		前 葉	後 葉	前 葉	中 葉	後 葉	前 葉	後 葉	仮1段階	仮2段階	仮3段階

c式も諸磯b式新段階と同様である。

各文様要素に付属する属性について見ると、古段階と中1段階にある爪形文ではその幅は5～9㎜付近が多く、7、8㎜に集中する。爪形文は凸型と凹型があるが、圧倒的に凸型が多い。爪形文間の加工はD字刺突付もあるが、多いのは太い刻み付のものである。また太い刻みが付いた隆帯をもつものがある。

中段階になると登場する浮線文は、爪形文や平行沈線文につく隆帯が変化したと考えられる。浮線文でも時間的な変化があり、中1段階では浮線の厚さは1～3㎜と厚いが、中2段階では0.5、1㎜と薄いものが多い。また前者では浮線上の加工は棒状工具による太刻み付が多いのに対し、後者ではヘラ状工具による細刻み付が多い。また前者では浮線の空白部に円形竹管が刺突されることがある。浮線上加工では他に、縄文付、列点刺突付、爪形文付がある。縄文付きは刻みを模倣したもので、各段階にあるが、列点刺突付と爪形文付は中2段階後葉に限られる。列点刺突は前段階の梯子状浮線文が変化したのだろう（第154図13→11）。

沈線文ではその幅が時間的に変化する。古、中1段階では6～8㎜と太い物が多いが、中2段階では5㎜付近、新段階では4、5㎜付近、諸磯c式では3、4㎜付近の物が多くなり、次第に細くなっていく。また集合沈線はb式新段階から出現する。またb式新段階～c式仮1段階にかけて集合沈線中に細刻み付や列点刺突付のものがあるが、これは浮線文の細刻みや列点刺突が残存したものであろう（同図11→17、18）。

⑵　**文様**（第171－1～4図参照）

諸磯b式古段階では木葉文（分離木葉文、入組木葉文、区画線付木葉文）（第171図1、同図18）、蕨手文（蕨手文、蕨手文渦巻型）（2、19）、渦巻文（3、20）、横位弧線文（向弧型、背弧型、入組型）（4、31）、大波状文、鋸歯状文（32）、山形文、菱形文（33）、菱形区画小渦巻文、波状文（5、34）、格子目文（35）、横線文（36）がある。

中1段階では古段階の組成（6～10、21、37～40）に加え、π字蕨手文（π字蕨手文、π字蕨手文渦巻型）（11）、枠状文（12）、多重渦巻文が加わった。これらは皆、浮線文に採用される文様である。π字蕨手文は木葉文もしくは蕨手文から変化してでき、その渦巻型が多重渦巻文へ変化したと考えられる[16]。中1段階は前葉、後葉に分けたが、文様はほとんど変化しない。

中2段階前葉には大波状文や山形文、菱形区画小渦巻文、波状文は消え、木葉文、蕨手文、π字蕨手文（22）、枠状文、横位弧線文などがわずかに残るが、それらも中葉にはなくなってしまう。代わって多重渦巻文（14、15、23、25）や菱形文（42）の量が増え、弧線区画縦位背弧線文（24、26）、菱形区画つ字文（43、45）が登場する。弧線区画縦位背弧線文はπ字蕨手文、菱形区画つ字文は菱形区画小渦巻文から変化したのであろう。本段階中葉には多重渦巻文から向弧渦巻文（16）が発達し、後葉には風車状渦巻文（17）が完成する。

新段階では単なる渦巻文や多重渦巻文、向弧渦巻文は殆どなく、主体は風車状渦巻文（27、29、30）と短渦巻文である。短渦巻文は風車状渦巻文の簡素化したものであろう。また縦位背弧線文（28）が発達する。これは風車状渦巻文の土器の口頸部文様として多用され、新段階後葉には縦位向弧線文（51）に変化する。他に鋸歯状文（48）や菱形区画つ字文（49）、格子目文、横線文（50）も組成にあるようである。

諸磯c式では縦位向弧線文に加え、縦区画縦位向弧線文、横位矢羽根状文[17]（53、54）が出現する。縦区画縦位向弧線文は縦位向弧線文からできたと思われるが、この縦区画線の採用をもって諸磯c式土器の成立とする。

縦区画縦位向弧線文には小差があり、仮1段階；縦区画縦位向弧線文8単位型の出現→仮2段階；同4単位型の出現→仮3段階；同崩壊型の出現という変遷が考えられる（52→55→59）。また他の文様としては風車状渦巻文、短渦巻文、格子目文（57）、横線文（54、58）などが併存する。格子目文では縦区画縦位向弧線文

中に描かれたものがあり（第155図38）、横線文では口縁部の屈曲に沿ったもの（複屈曲口縁）がある（第171図37、41）。

胴部文様は口縁部文様の中のある一部の文様が採用されるにすぎない。古段階には蕨手文や渦巻文、大波状文などが描かれる。中１段階もほぼ同じであるが、π字蕨手文も少量あったようで、中２段階前葉・中葉には渦巻文、多重渦巻文が描かれ、後葉には風車状渦巻文が描かれる（第155図42→45→48・51→54）。中２段階の胴部文様は稀にしかないが、新段階では量が増え、沈線文による風車状渦巻文、短渦巻文が頻繁に描かれる。それらはたいてい横位矢羽根状の沈線によって挟まれており、それが諸磯ｃ式になると、横位矢羽根状文となって発達したと思われる（第155図54、57→60）。しかし諸磯ｃ式では口縁部文様や口頸部文様が下方に拡大し、口縁部文様帯とは独立した胴部文様がとらえられなくなってしまう。

頸部文様は内湾口縁の出現する諸磯ｂ式中１段階に出現する。中１段階では浮線文により梯子状文が描かれていたが（第161図愛宕山遺跡４号住居33）、中２段階では眼鏡状文が採用される。これは口唇部に貼付されていた文様が、頸部に移植されたものとして注目される。中２段階中葉以降、眼鏡状文は角張り、菱形状を呈するものも現われたが（第167図30）、新段階に至り、沈線文によってＸ字と縦線からなる変形眼鏡状文が完成する（第169図５）。諸磯ｃ式には消滅する。

底部直上文様も数は少ないがある。その文様は底部形態３、４、５類に描かれ、頸部文様と同じく、中１段階では梯子状、中２段階では眼鏡状文が浮線文により描かれる（第168図17）。新段階には文様はなくなる。

⑶　口縁部形態（第170図参照）

諸磯ｂ式古段階では外反口縁、弱外反口縁がほとんどで、内湾は弱いものしかない。第156図16のように頸部がくびれたものもある。中１段階では爪形文を中心に外反口縁が用いられる。浮線文は少量の外反口縁もあるが、多くは内湾口縁に描かれ、弱内湾口縁Ａ種、内湾口縁が出現する。波状縁より平縁が多いが、波状縁には特徴的な二単位波状口縁がある。二単位波状口縁は古段階では台形波状が大半であるが、中１段階には扇形が増加する。弱内湾口縁Ａ種では頸部が段状にくびれるものがある（同図20）。

中２段階では浮線文を中心に内湾口縁が増加する。内湾度は中１段階のものよりきつい。同段階中葉に内折口縁Ａ種、同後葉には内折口縁Ｂ種が出現する。一方沈線文土器では外反口縁も採用されており、南関東では輪積痕をもつものもある。

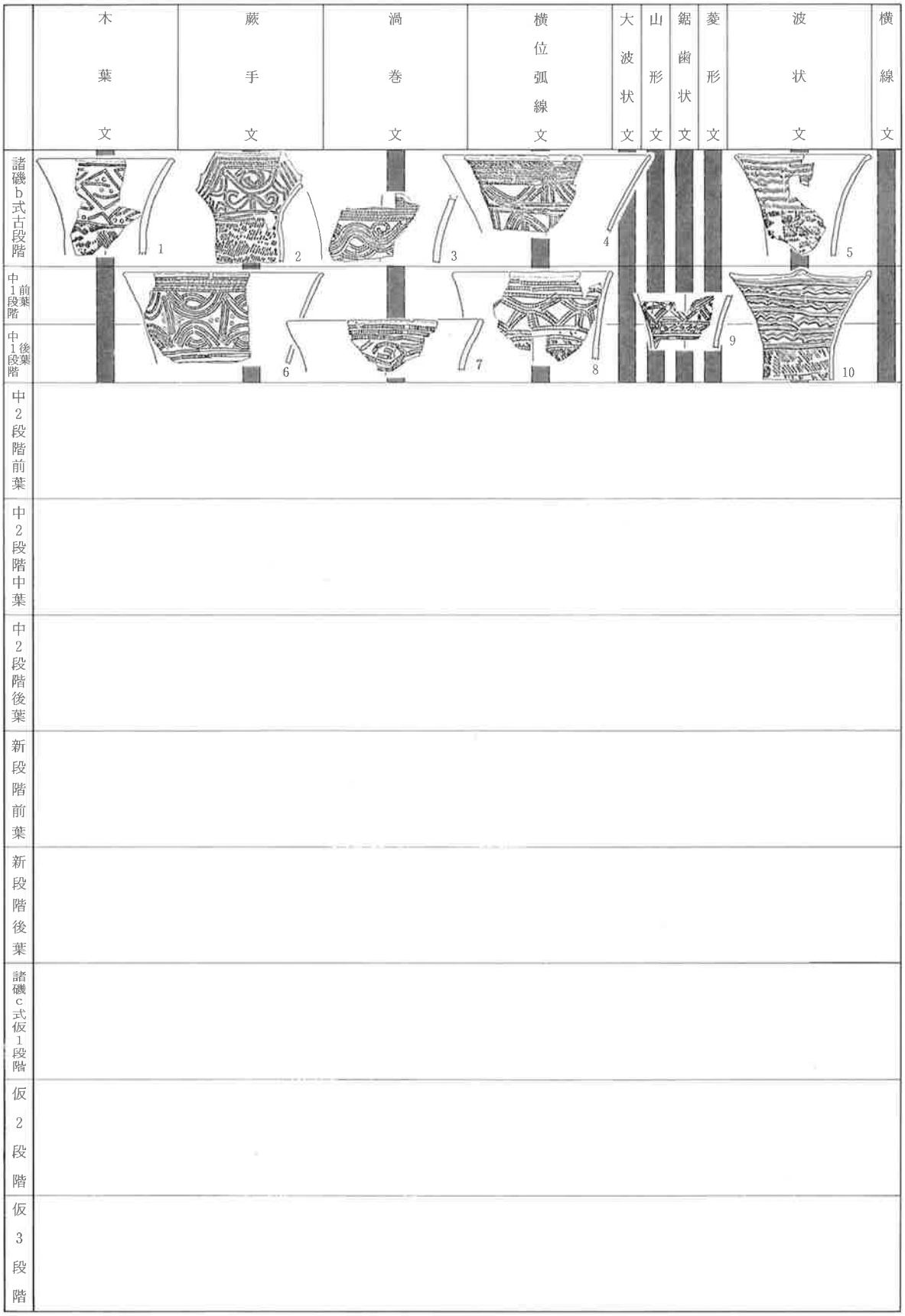
新段階では内折する口縁が主となる。前葉は少量の外反口縁と内折口縁Ａ種、Ｂ種くらいしかなく、種類が少ないが、後葉は内折口縁Ｃ種（同図９）や弱内湾口縁Ｂ、Ｃ種（12、13）が現われ、やや組成が豊かになる。また波状縁と平縁では波状縁の方が多くなる[18]。

諸磯ｃ式では初めて複屈曲口縁（同図11、22）が出現する。その他、外反口縁（15）、弱内湾口縁Ｂ、Ｃ種、内折口縁Ｄ種（10）、Ｅ種（23）、内湾口縁などがあり、特に仮１、２段階では種類が多い。しかし仮３段階は内折口縁Ｆ種（24）が多くなり、波状縁より平縁が増加してくる。

⑷　口唇部加工（第170図参照）

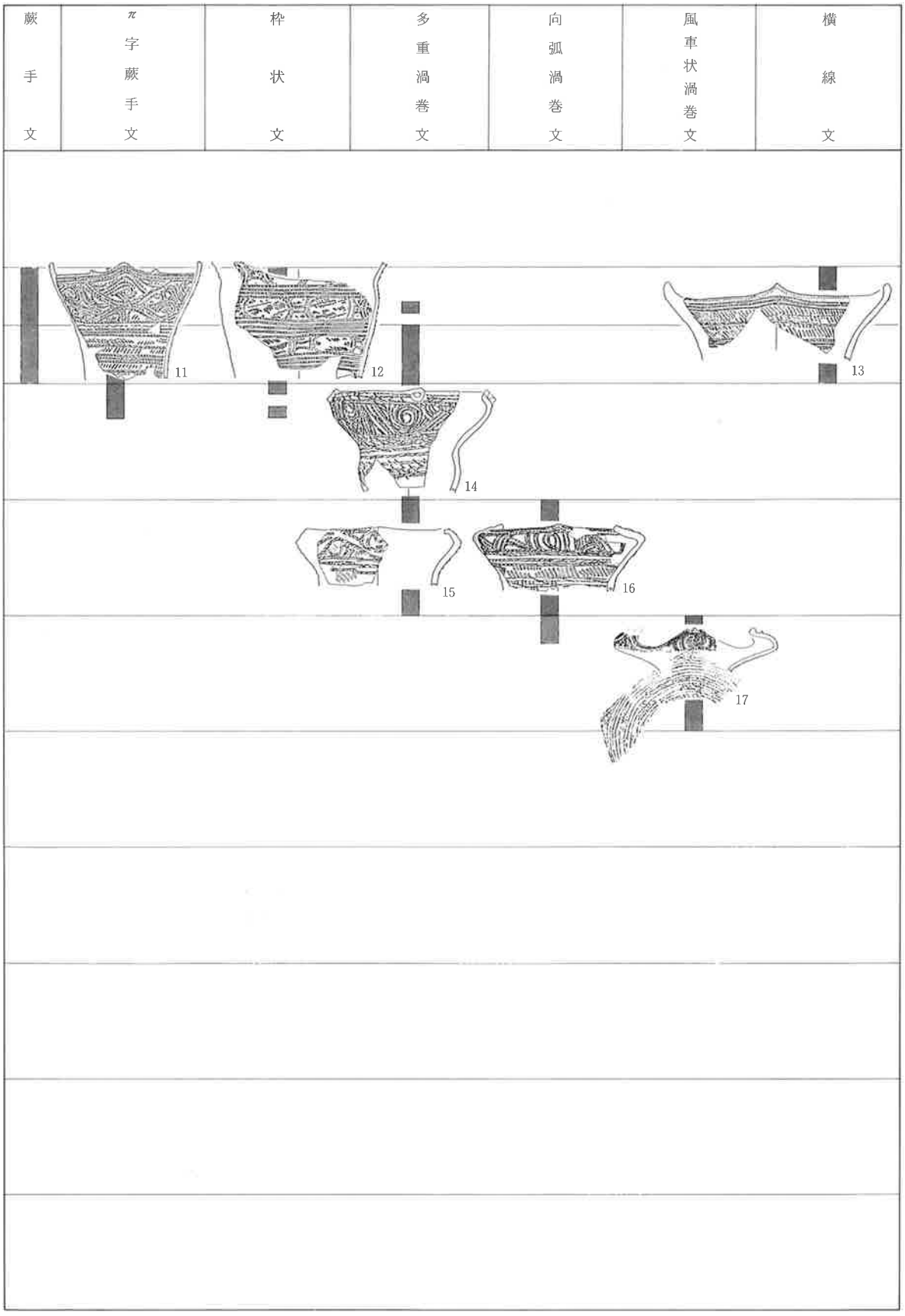
陰刻；諸磯ｂ式古段階では刻みがあるくらいである。凹みや爪形文、沈線も少量あるが、本格的に存在するのは中１段階である。しかし中２段階では刻み、凹みがあるくらいに減少し、新段階には何も無くなってしまう。諸磯ｃ式になると、仮１段階Ｄ字爪形文の刺突が出現し、仮２段階に盛行する。

隆線；諸磯ｂ式古段階では縦位隆線しか存在しない。この隆線にはたいてい刻みが付いている。口唇部に沈線や爪形文を付けたものでは、沈線や爪形文の押捺によってできた両脇の隆起部には刻みが付いており（第157図11）、それが刻み付き隆線へ変化したと考えられる（同図11→５）。



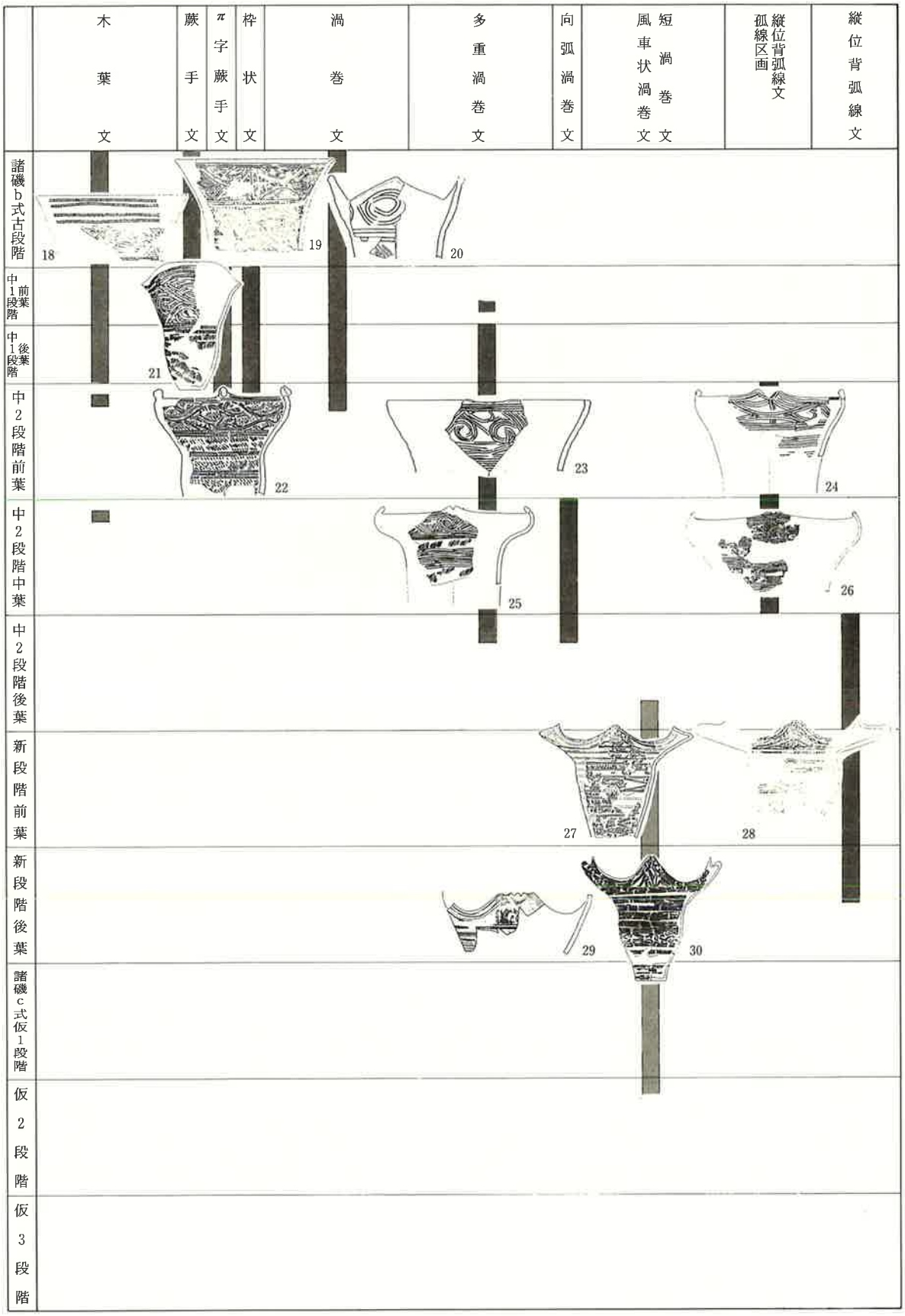
第171-1図　諸磯b～c式土器の変遷－爪形文土器・櫛歯文土器

（1～10：愛宕山）



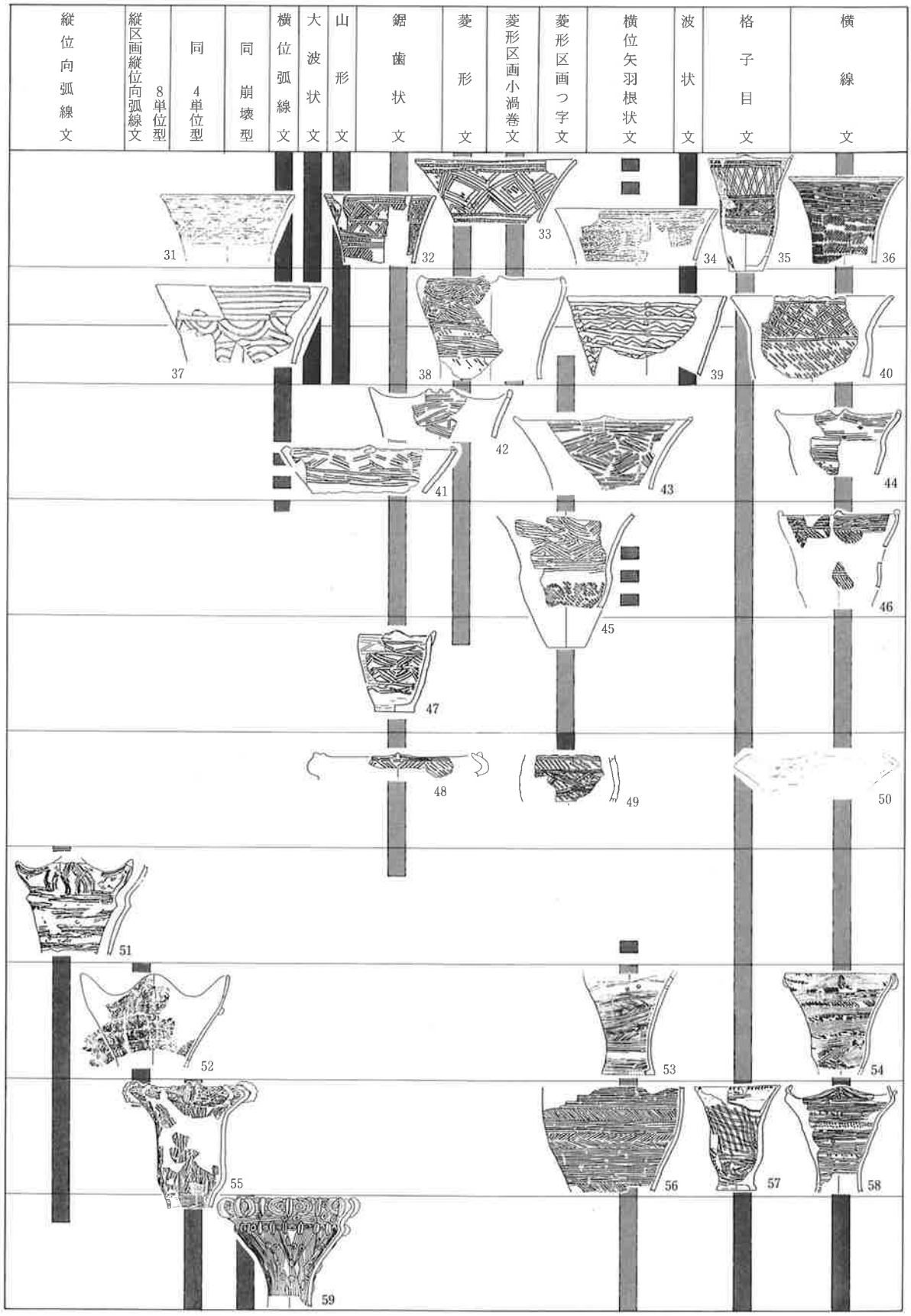
第171-２図　諸磯ｂ～ｃ式土器の変遷－浮線文土器

（11～16：愛宕山，17：向吹張）



第171-3図　諸磯b～c式土器の変遷－沈線文土器（1）

（20・22・23・27：愛宕山、18・19・21・24・25・26：塚屋、28：鍛冶屋、29：滝、30：登所）



第171-4図　諸磯ｂ～ｃ式土器の変遷－沈線文土器（2）

（35・37～45・48・49・55～58：愛宕山、32・33：鷲沼、31・34：上南原、36・46：塚屋、47：稲荷丸北、50：鍛冶屋、51：荒砥二之堰、52～54・59：糸井宮前）

中１段階になると刻みのつく鋸歯状隆線も加わるが、他に刻みのない波状隆線、眼鏡状隆線などが存在する。その形態から、鋸歯状隆線（同図９）→波状隆線（６）→眼鏡状隆線Ａ種（７）→眼鏡状隆線Ｂ種（８）という変化が想定される。このうち眼鏡状隆線は中２段階にも残る。中１段階ではＡ種とＢ種の両者があるが、中２段階ではＢ種に統一される。新段階以降、隆線は皆無となる。

突起；諸磯ｂ式古段階には単頭突起しかない。中１段階になると、単頭突起に加え、双頭突起、三頭突起が出現する。また鰭状突起、獣面突起、環状突起などもある[19]。中２段階には単頭、双頭、三頭突起、獣面突起があり、新たに、渦巻突起が出現する。また同段階中葉以降渦巻突起はなくなり、獣面突起や円形貼付文が付くようになる。中２段階後葉～新段階には円形貼付文の高さの増した瘤状突起が付く。単頭、双頭、三頭突起などはほとんどなくなってしまう。

諸磯ｃ式になると、棒状突起が付く。仮１段階は単独型のみであるが、仮２段階に二個一対型ができあがる。これは文様の縦区画線に対応して器全体で四ケ所に付く。仮３段階では棒状突起がさらに発達し、貝殻状突起になる。これは器面四分割には規制されず、多数付けられる。この他篦状突起がある。これは内折波状口縁Ｄ種に発達したもので、仮２段階に多い。また諸磯ｃ式のメルクマールとされる二個一対のボタン状貼付文は仮２段階に出現し、仮３段階に盛行する。とくに仮２段階では主に口縁部付近に付くが、仮３段階では胴部一面に多数付くという傾向がある。

こうした突起のうち、三頭突起は陰刻の沈線や爪形文に伴う瘤からの発展が考えられる（第157図10、11→12→16）。また環状突起も陰刻の爪形文を祖形とすると考えられ（同図11→17）、後に渦巻突起に変化する（17→18）。また単頭突起（14）は獣面突起簡素型（20、中１段階前葉）→同顔面表現型（21、中１段階後葉～中２段階前葉）→同貼付型（19、22、中２段階前葉）→円形貼付文（23、中２段階中、後葉）→瘤状突起（24、中２段階後葉～新段階）と変化したと考えられる。また瘤状突起から派生した棒状突起も単独型（26、諸磯ｃ式仮１段階）→二個一対型（27、諸磯ｃ式仮２段階）と変化し、貝殻状突起（28、諸磯ｃ式仮３段階）へと変遷したと思われる。諸磯ｃ式のボタン状貼付文も同じころ、瘤状突起から変化して作られたのではないだろうか。

⑸　地　　文

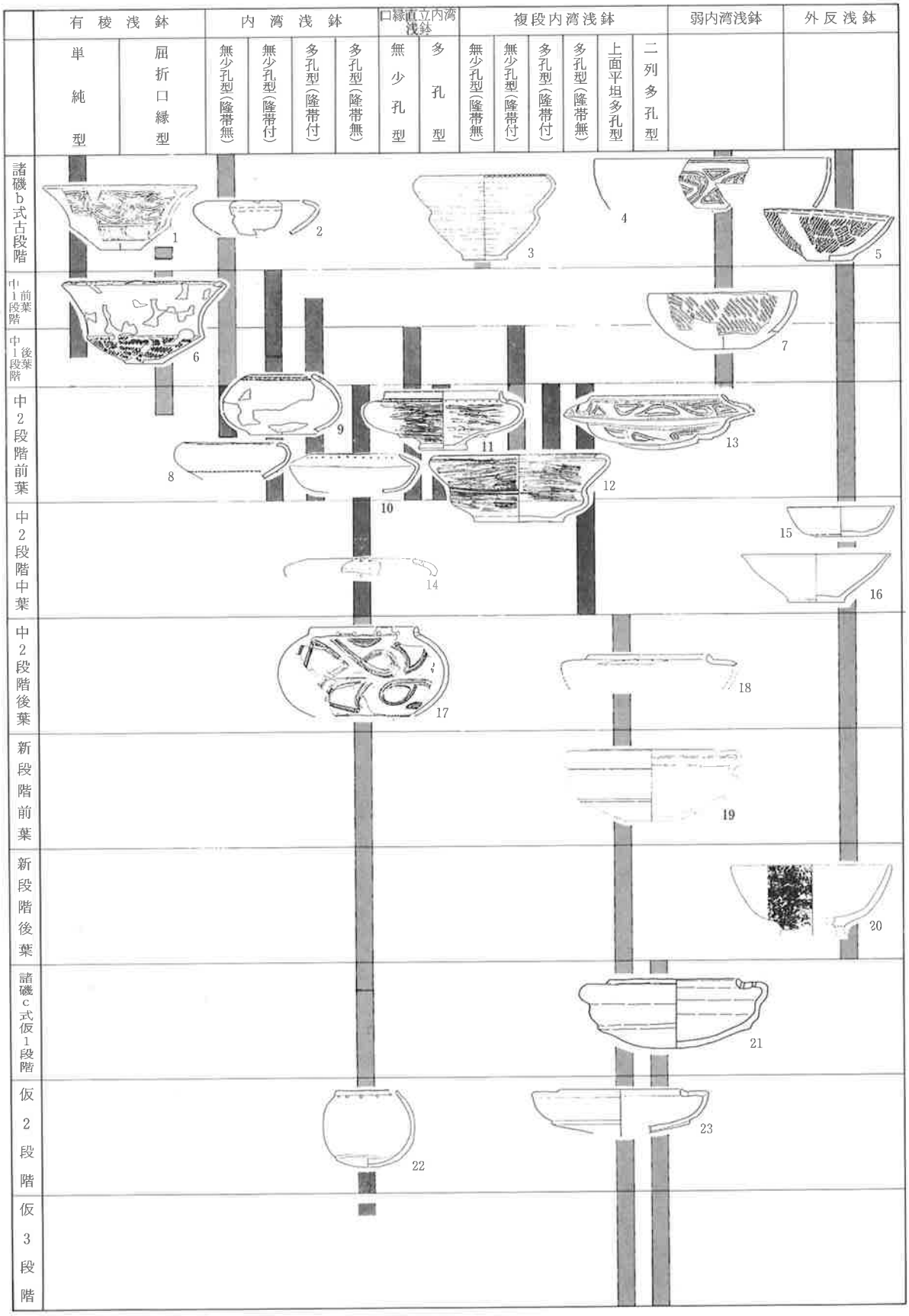
諸磯ｂ式古段階は諸磯ａ式同様、単節縄文ＲＬが圧倒的に多く、単節縄文ＬＲや無節縄文は少量伴う程度である。地域によっては古段階にあるかもしれないが、一般には中１段階になると、突如、単節羽状縄文が出現する。この羽状縄文は愛宕山遺跡ではみな結束をもつものである。羽状縄文は関東地方の諸磯ａ式新段階には少ないが、西日本の北白川下層式や北陸地方の土器には多いため、そちらからの影響も考えられる。

中２段階以降は特に変化はない。ただ南関東において中２段階中葉を中心に撚りの粗い縄文や貝殻背圧痕を付けたものが盛行する。これは地域色が顕在化した現象である。

また諸磯ｃ式では仮１、２段階では縄文が地文としてあるが、やや無節縄文の量が多くなるようである。しかしこれは単節縄文の節が磨滅したことによる可能性もある。器面は集合沈線により覆われているため、視覚的にはあまり意味をもっているとは言えず、仮３段階になると縄文が急減してしまう。

⑹　底　　部（第170図参照）

諸磯ｂ式古段階では丸みを持った１、２類（第159図１、２）が主である。中１段階も２類が多いが、直立する３類（同図３）や張り出し底である４類（４）も少量出現する。中２段階、新段階は１、２類はなくなり、３、４類が主となる。また中２段階中葉～新段階にかけて、底部直上が算盤玉状に膨らむ５類が存在する。また諸磯ｃ式では張り出し底が増加すると共に、上げ底である６類（６）も少量存在する。



第172図　諸磯ｂ～ｃ式土器の変遷－浅鉢形土器

（2・4～6・14：愛宕山，3：鷺森，8・10・13：中棚，11・12：小仁田，15・16：塚屋，17：稲荷丸北，18：向吹張，19：鍛冶屋，20・21：糸井宮前，22・23：三峰神社裏）

(7)　浅鉢形土器（第172図参照）

諸磯ｂ式古段階は有稜浅鉢(単純型)（第172図１）が主で、内湾浅鉢無-少孔型(同図２)、弱内湾浅鉢(４)、外反浅鉢（５）もある。また複段内湾浅鉢無-少孔型（３）も伴うかもしれない。

中１段階には古段階の組成に加え、有稜浅鉢（屈折口縁型）（６）や隆帯付の土器が出現し、その前葉では内湾浅鉢無-少孔型（隆帯付)、内湾浅鉢多孔型（隆帯付)、後葉では口縁直立内湾浅鉢無-少孔型や複段内湾浅鉢無-少孔型（隆帯付）が出来上がる。有稜浅鉢では口縁上面が平坦をなすものがあり、そこには中１段階前葉では隆線が、同後葉では沈線が付けられることが多い。隆線は波状や縦位に配され、沈線は木葉文状に描かれる。器面（胴部）は無文のものの他、半截竹管で文様が描かれるものがある。また胴下部には一条の隆帯が巡るものがあるが、中１段階後葉ではそれが、尾鰭状の突起に変わるようである。

中２段階では有稜浅鉢も少し残存するかもしれないが、主体は内湾浅鉢、複段内湾浅鉢にある。従来の無-少孔型(８、12)に加え、多くの円孔が器面を巡る多孔型が盛行し、内湾浅鉢多孔型(隆帯付)（９)、同(隆帯無)（10)、口縁直立内湾浅鉢多孔型（11)、複段内湾浅鉢多孔型（隆帯付)、同（隆帯無）(13）が併存し、種類が多い。しかし中２段階中葉には種類も減少し、隆帯の無い内湾浅鉢多孔型（隆帯無）(14)、複段内湾浅鉢多孔型（隆帯無）と外反浅鉢（15、16）くらいになる。また中２段階後葉では複段内湾浅鉢の口縁上面が平坦になる（上面平坦型）(18)。

中２段階を通じて、有稜浅鉢屈折口縁型や口縁直立内湾浅鉢、内湾浅鉢、外反浅鉢では胴下半に尾鰭(11)が発達しているが、複段内湾浅鉢では胴下半に一条の段が形成され、底部は丸く、不安定なものが多くなる(13)。胴部に文様が描かれることがあるが、それには半截竹管による単沈線手法が用いられている（13)。この技法は中１段階後葉に出現するが、その単沈線間に刺突を加え、爪形文状にしたものもある。描く文様は浅鉢独自の入組木葉文が渦巻いた文様で(13、17)、深鉢形土器に比べ、文様要素と文様においてやや古手の要素が浅鉢には残存していると言える。

新段階では有稜浅鉢はない。内湾浅鉢、複段内湾浅鉢では上面平坦型（19）があり、口唇部が短く直立する。口縁に隆帯の巡るものは殆どなく、多孔型が一般的である。胴下部には一段の段が付き(19)、底部は丸底である。他に外反型もあるようである（20)。

諸磯ｃ式では諸磯ｂ式新段階とほとんど同じ組成をなすと思われる。新しいものとしては、口縁上端が長く張り出し、そこに別の孔が付く二列多孔型が現われる（21)。浅鉢に竹管文様が描かれることは全くなく、無文のみであるが、当時は漆などで文様が描かれていた可能性がある。

(8)　浮島式土器との関係

諸磯ｂ式古段階には基本的には浮島Ⅰａ式土器が伴うが、一部、浮島Ⅰｂ式土器が重なるかもしれない。諸磯ｂ式中１段階前葉は浮島Ⅰｂ式土器が伴う。しかし中１段階後葉は浮島Ⅰｂ式土器または浮島Ⅱ式土器が伴う。諸磯ｂ式中２段階は、その前葉に浮島Ⅱ式土器、その中葉に浮島Ⅱ式またはⅢ式土器、その後葉は浮島Ⅲ式が伴出する。諸磯ｂ式新段階は興津Ⅰ式土器が伴う。興津Ⅱ式は諸磯ｃ式仮３段階に出現するようである。

６．補　　足

以上のように諸磯ｂ式を四段階八細分、諸磯ｃ式を三細分し、各属性毎に変化を概観したことで、諸磯ｂ式～ｃ式は途切れることなく、連続的に変遷したことが明かにできたと思う。これは従来の研究を受けつつ、それを発展させたものであるが、従来の研究において問題となっていたテーマに関しても、ここで言及する

必要があると思う。ここでは(1)浮線文の発生、(2)諸磯ｃ式の文様の成立、(3)諸磯式土器の地域性、の三つの問題を特に取り上げ、私考を述べておきたい。

(1)　浮線文の発生

従来、諸磯ｂ式の浮線文に関しては、諸磯式の内部発展によるとする考えと、北白川下層式の影響と見る考えが示されてきた。諸磯式内部発展説では、諸磯ｂ式の爪形文間の刻み目が隆起して浮線文に変化したとする考え[20]や、諸磯ｂ式の文様区画文として存在する隆帯が文様帯内に侵入して浮線文となったという考えがある[21]。また北白川下層式に起源を求める人は北白川下層ⅡＣ式の凸帯文の影響と見るのである[22]。

諸磯ｂ式の初期（中１段階）の浮線文は浮線の厚さが厚く、上には刻み目が付いている。この刻みは棒状工具によって付けたと思われる太いもので、諸磯ｂ式の爪形文間や隆帯上に付く刻みとは類似するが、北白川下層ⅡＣ式の凸帯文上の細い刻み目（愛宕山遺跡第127図89、90）とは異なる。厚さにしても、北白川下層ⅡＣ式の凸帯文の厚さは諸磯ｂ式の浮線文に比べ、はるかに薄い。また文様の点でも、浮線文で描かれる蕨手文やπ字蕨手文、渦巻文、横線文などは諸磯ｂ式古段階の爪形文や平行沈線文土器で描かれていた文様で、北白川下層ⅡＣ式と共通するのは枠状文や横線文くらいしかない[23]。故に私は諸磯ｂ式の隆帯（第Ⅲ群土器２′類、４′類）に浮線文の起源を求め、浮線文は諸磯ｂ式内部で作られたとする説をとりたいと思う。

しかしこの場合、区画文として横走する隆帯がいかにして蕨手文やπ字蕨手文、渦巻文になったのかを説明しなければならない。そこで注目されるのが、愛宕山遺跡第64図144や第65図165、171、第125図30などの土器である。それらは弧線や渦巻文を描いた爪形文に沿って隆帯が貼付されたもので、爪形文が消失すればまさに浮線文土器になると思われる土器である[24]。これらの隆帯は爪形文を施文した時の粘土のはみ出しによる高まりではなく、明かに粘土紐を貼付したものである。今村啓爾氏や鈴木徳雄氏が言われるように[25]、おそらく、始め区画文として横走していただけの隆帯が爪形文の文様に合わせて区画内文様に進出し、さらに爪形文が消滅した結果、浮線文になったのだろう。

しかし愛宕山遺跡では遺構内で伴出していないが、諸磯ｂ式古段階に北白川下層ⅡＣ式が伴出することがある。現在のところ、遺構内伴出の確実な例は神奈川県鷺沼遺跡１号住居、東京都稲荷丸北遺跡11号住居、池田山遺跡23号住居、群馬県鞘戸原Ⅰ遺跡11号住居などが知られている。今後、遺構内伴出例も増加すると思われるが、古段階の時点で、関東地方にもおぼろげながら粘土紐貼付技法（北白川下層ⅡＣ式でいう凸帯文）が浸透していたことはまちがいない。故に北白川下層ⅡＣ式の関東への流入を契機として、諸磯ｂ式にすでにあった隆帯が刺激され、浮線文という文様を発展させたと考えたい。

(2)　諸磯ｃ式の文様の成立

諸磯ｂ式は横位に文様帯が区画されるのに対し、諸磯ｃ式は縦位に区画される。この横から縦にという変化は文様構成上かなり劇的な変化であり、文様の変遷がたどりにくい所以である。これに対し、鈴木敏昭氏は諸磯ｂ式中２段階後葉～新段階に存在する内折口縁Ｂ種の口頸部文様帯（氏のいうⅠｂ文様帯）に着目し、そこに描かれる縦長の文様が諸磯ｃ式の縦位文様へ発展したという考えを提示した[26]。私も氏の卓見を出発点としており、ここでは今回の細分段階に従って、いかに諸磯ｃ式の文様が成立するか見てみたい。

鈴木氏も着目したように、諸磯ｃ式の文様の祖形と考えられるのは諸磯ｂ式中２段階後葉にある縦位背弧線文であろう。これは内折口縁Ｂ種に新たにできた口頸部文様帯（第156図８●）に描かれる文様である（第155図14）。この口頸部文様は新段階に縦位向弧線文に変わる（同図17）。新段階前葉は内折口縁Ｂ種に加え同Ｃ種が出現し、口頸部文様帯も縦長となるため、縦位向弧線文は縦の長さが長くなる（第156図９●）。しかし口頸部文様帯が三角形をなすという規制はかわらないため、向弧線文は波頂部には一～二個程度しかない。

だが新段階後葉において弱内湾口縁Ｂ、Ｃ種が完成すると、頸部文様は広い画面に描かれることになり（第156図12、13●）、垂下する向弧線文は波底部にも描かれ、その列数が増加する（第155図18、第171図51）。これに縦区画線が付くことにより諸磯ｃ式の縦区画縦位向弧線文（第155図19、第171図52）が成立したと考えられる。その後その文様は外反口縁や内折口縁Ｄ種、Ｅ種、Ｆ種など新たにできた器形の口縁～胴部（第156図10、15、23、24●）に施文されるため、文様が一層大きく描かれることになる。

諸磯ｃ式仮１段階では縦区画線は四単位の波頂下に引かれるので、器全体で四単位垂下することになる。文様は縦区画線を引いたのち、区画内に、縦区画一個につき通常二個の向弧線文描くので、器全体では八単位配されることになる（８単位型、第155図19、52）。しかし仮２段階には縦区画が幅広化し、縦区画線は縦位の矢羽根状文や斜線が描かれたり、縦区画線の上端には二個一対の棒状突起が付いたりする。縦区画線は依然として四本であるが、縦区画線の幅広化に伴い、縦区画内のスペースは狭くなり、区画内の隣合う向弧線文同士は結合されて、器全体で四個配されるのみとなる（４単位型、第155図55）。向弧線文内の文様は仮１段階では弧線が描かれるだけであったが、仮２段階には弧線文の他、縦位矢羽根状文や格子目文、Ｘ字状の文様が描かれ、バラエティに富むようになる。

ここで、縦区画線がもっと幅を広げ、向弧線文の弧線文と区別がつかなくなってくると、区画線と区画内文様という関係が崩れてくる。それが仮３段階の縦区画縦位向弧線文（崩壊型）の成立である（第155図58）。特に仮２段階では縦区画線と区画内向弧線文の双方に矢羽根状文やＸ字状の文様が書かれていたため、両者は混同されやすい関係にあったこともその一因であろう。また仮２～３段階には波状口縁がなくなり、平縁ばかりとなったことも、縦四単位の原則を崩す契機となったと思われる。文様は菱形ないしはＸ字状の文様と縦線が順送り的に施文され[27]、その上に貝殻状突起やボタン状貼付文が多数付けられるようになる。

⑶　諸磯式土器の地域性―群馬県の場合

諸磯式土器は千葉県や茨城県、栃木県の一部を除いた関東地方一円および、山梨県や長野県など中部地方の一部にも主体的型式として分布している。しかしこうした広範囲な分布を示す割には地域色は小さい。

従来より多摩丘陵地方や神奈川県方面の南関東では、文様要素において、平行沈線文が卓越することが地域的特性として指摘されている[28]。その傾向は諸磯ｂ式中２段階に著しく、撚りの粗い縄文や貝殻背圧痕の付いた土器、輪積痕をもつ外反口縁も存在している。しかしそれ以外では、群馬県をはじめ埼玉県や長野県、山梨県方面にまで、よく似た土器が分布しているのである。これは縄文時代前期前半の土器型式に比べると、かなり広域に分布する土器型式と言うことができる。

しかし細かなレベルで分析すれば、各地域の土器も若干ながら地域色をもっている。群馬県の諸磯式土器について言えば、特に格子目文土器の存在、羽状縄文が目立つこと、諸磯ｂ式新段階～ｃ式土器の量的卓越、等が地域的特性として指摘できよう。

愛宕山遺跡資料の分析では、格子目文は諸磯ｂ式古段階から、羽状縄文は中１段階から突如として出現することがわかった。この格子目文は群馬県中棚遺跡、芝山遺跡、上大屋遺跡群、大下原遺跡、糸井宮前遺跡などで好例が出土しているが[29]、関東地方の他県ではあまり出土しない。またそれは、文様の祖形が諸磯ａ式に辿れない点、施文順序が格子目文描出→文様帯区画線描出という順序をとり、通例の諸磯式土器の施文順序（文様帯区画線描出→文様描出）とは逆になっている点、同時期の諸磯ｂ式の施文具に比べ極端に幅の狭い施文具が使用される点において、一般的な諸磯式とは明かに異なっている。また同時期に出現する結束ある羽状縄文も群馬県の諸磯ａ式新段階とは連続しないものである。この両者は長野県北部や新潟県方面にも存在していることから、将来、越後地方からの系譜が辿れるかもしれない[30]。

また諸磯ｃ式土器の豊富さは第17表をみても明かであろう。先に前項で、諸磯ｂ式新段階からｃ式への変遷について述べたが、そうした変遷は埼玉県北部から群馬県方面の限られた資料から構築しえたものである。目下のところ、関東他県に同時期の資料が希薄である。これは未発見なのか、本来遺跡が少ないのかは、現時点では判断することができない。しかし、たとえ、今後他県で出土例が増加しても、群馬県地方が諸磯ｃ式土器の成立において中心的役割を果たしていたことは変わらないであろう。

さらに諸磯ｃ式期は、群馬県の土器と長野県中部や山梨県方面の土器は異なり、後者では集合沈線が少なく、結節浮線文が卓越するという特色があることが指摘されている[31]。何故、関東平野の中心部ではなく、その外縁部（山岳地帯）にこのように諸磯ｃ式土器が多く、かつ地域色を強めていったのだろか。これは今後の研究課題として追究していきたい。

注

[1]ここで言う凸型、凹型は小杉康氏（小杉1985）のW型、M型に近い部分がある。
[2]浮線文の分類は鈴木敏昭氏（鈴木敏1991）の分類を参考にした。
[3]木葉文の名称は川名広文氏の名称（川名1987）を参考にした。
[4]「止め」は鈴木敏昭氏（鈴木敏1991）も注目している。
[5]鈴木敏昭氏（鈴木敏1991）はこれを原浮線文として注目している。
[6]鈴木敏昭氏（鈴木敏1991）は入れ子状対弧文と呼んでいる。
[7]土肥孝氏（土肥1975）に従った。関根慎二氏（関根1993ｂ）は木葉状弧線と呼んでいる。
[8]鈴木敏昭氏（鈴木敏1991）も内屈ラインと呼び注目している。
[9]中島宏氏（中島1980）の用語に従った。
[10]耳朶状、耳状とも言われる（中島1980、鈴木1988）。
[11]浮線文は古段階にあるとするのは今村啓爾氏（今村1982）、中段階からとするのは鈴木敏昭氏（鈴木敏1980）らがいる。
[12]今村啓爾氏（今村1982）や鈴木敏昭氏（鈴木敏1991）らが該当する。
[13]私は浮島式土器を扱った論文で、諸磯ｂ式古段階を、浮島Ⅰａ式が伴う古１段階、浮島Ⅰｂ式が伴う古２段階に分けたことがある（松田1992）。その時は弧線文が蕨手文より早く発生したと考え、古１段階の基準を横位弧線文の成立、古２段階の基準を蕨手文の成立においたが、その後の諸磯ｂ式土器の検討ではそうした変化は考えにくいとの結論に達したため、本論では古段階を細分しないことにした。
[14]今村啓爾氏（今村1981）
[15]この細分の作成には関根慎二氏（関根1986、1993ｂ）の考えを参考にした。
[16]この間の変化は鈴木徳雄氏（鈴木徳1979、1987）が詳しく述べている。
[17]横位矢羽根状文は南関東では諸磯ｂ式古、中段階にもあるが、諸磯ｃ式と連続するかは不明。
[18]鈴木敏昭氏（鈴木敏1991）はいち早く指摘している。
[19]鰭状突起は諸磯ａ式にもあるので、諸磯ｂ式古段階にあるかも知れない。
[20]中島宏（1977）
[21]今村啓爾（1982）、鈴木徳雄（1987）
[22]谷口康浩（1980）、鈴木敏昭（1991）
[23]枠状文に関しても諸磯ｂ式古段階の文様からの連続を考えさせる資料もある。愛宕山遺跡４号住居27の土器の中央（枠状の楕円部分の中間）を見ると、枠状文は下から縦に伸びるπ状蕨手文からなると見ることもできる。
[24]この種の好例は群馬県鞘戸原Ⅰ遺跡33号住居（井上1992）や山梨県釈迦堂遺跡Ｓ１区12号住居（小野1986）にある。
[25]今村啓爾（1982）、鈴木徳雄（1987）
[26]鈴木敏昭（1980、1988）。
[27]施文順序は諸磯ｃ式仮１、２段階では縦区画線描出→区画内文様描出、仮３段階では順送り的文様描出であったと思われる。仮１、２段階の土器を見ると、縦区画線が区画内の向弧線文より後に引かれているものも確かに存在するため、惑わされるが、そうした個体は縦線を再度書き加えたものと考えられる。諸磯ｃ式土器では線が接すべき所はみなきちんと接して描かれているが、これは一筆書きでは難しく、おそらく頻繁になぞり直しや書き足しが行なわれたと思われる。
[28]羽生淳子（1987）、岩橋陽一他（1992）等
[29]富沢敏弘（1985）、長谷川福次（1993）、山下歳信（1986）、関根慎二（1993ａ、1986）
[30]格子目文土器は寺崎裕助氏（1991）がまとめているように、長野県大倉崎遺跡や新潟県豊原遺跡、刈羽貝塚、竜泉寺遺跡、丸山遺跡などから出土している。関東地方には諸磯ａ式期の格子目文はないが、竜泉寺遺跡にはあることから、格子目文は越後地方に起源が求められそうである（中村孝三郎1963）。羽状縄文も大倉崎遺跡や刈羽貝塚などから多く出ている（高橋桂1976、八幡一郎1958）。
[31]石原正敏（1989）、細田勝（1992、1993）、赤塩仁、三上徹也（1993）

参考文献

青木義脩　1985『北宿遺跡発掘調査報告書』浦和市遺跡調査会報告54　浦和市遺跡調査会、埼玉県
赤塩仁、三上徹也　1993「中部高地における縄文時代前期末葉土器群の編年」『第６回　縄文セミナー　前期終末の諸様相』縄文セミナーの会
秋元一夫　1985『千葉県流山市長崎遺跡』流山市遺跡調査会報告５　流山市遺跡調査会、千葉県

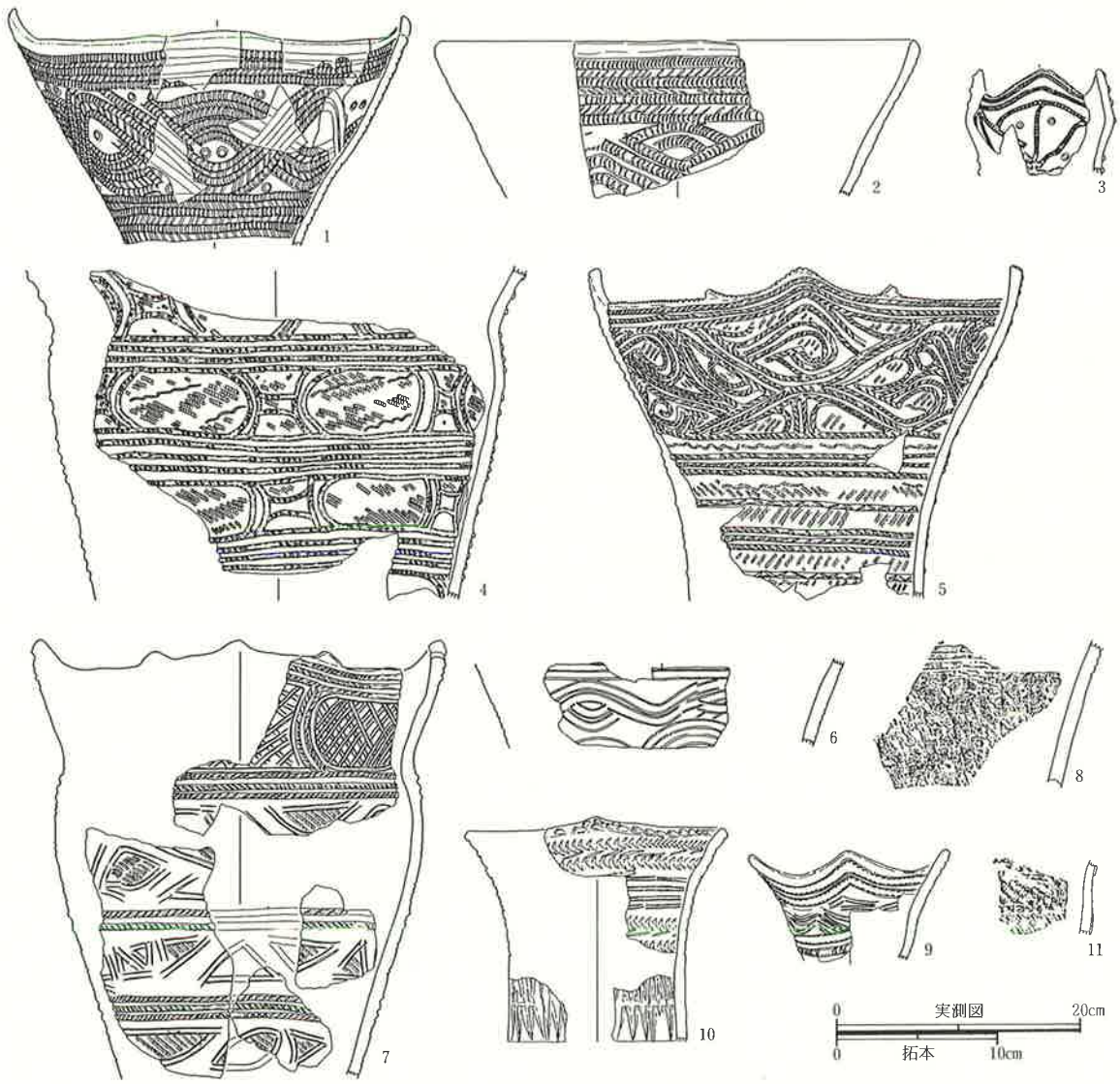
網谷克彦　1982「北白川下層式土器」『縄文文化の研究３　縄文土器Ⅰ』雄山閣
網谷克彦　1989「北白川下層式土器様式」『縄文土器大観１　草創期・早期・前期』小学館
石坂茂他　1981『荒砥二之堰遺跡』群馬県埋蔵文化財調査事業団
石原正敏　1989「諸磯ｃ式土器再考」『新潟史学』22
石原正敏　1993「新潟県の諸磯式土器」『第６回　縄文セミナー　前期終末の諸様相』縄文セミナーの会
依田賢仁　1993「四葉地区遺跡・縄文時代前期後半の地点貝塚」『牟邪志』６　武蔵考古学研究会
伊庭彰一　1988『群馬県藤岡市　滝前・滝下遺跡　発掘調査報告書』滝前・滝下遺跡調査会
市川修他　1982『上南原　一般国道140号（寄居町・花園村工区）埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書10　埼玉県埋蔵文化財調査事業団
市川修他　1983『塚屋・北塚屋　一般国道140号（寄居町・花園村工区）埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書25　埼玉県埋蔵文化財調査事業団
井上太他　1992『鞘戸原Ⅰ、鞘戸原Ⅱ、西平原　野上地区遺跡群発掘調査報告書』富岡市埋蔵文化財発掘調査報告14　富岡市教育委員会、群馬県
今村啓爾　1980「諸磯ｂ式ｃ式土器の変遷と細分」『伊豆七島の縄文文化』武蔵美術大学考古学研究会
今村啓爾　1981「施文順序からみた諸磯式土器の変遷」『考古学研究』27-４
今村啓爾　1982「諸磯式土器」『縄文文化の研究３　縄文土器Ⅰ』雄山閣
岩橋陽一他　1992「諸磯ｂ式土器の展開とその様相－多摩丘陵からの視点」『研究論集Ⅺ』東京都埋蔵文化財センター
梅原末治　1935『京都北白川小倉町石器時代遺跡調査報告』京都府史跡名勝天然記念物調査報告16
大賀健　1985『北貝戸・川上・小仁田遺跡』山武考古学研究所
小川英文他　1982『下山遺跡Ⅰ』世田谷区教育委員会、東京都
岡野隆男　1973『平台貝塚』
小野正文1986『釈迦堂Ⅰ』山梨県埋蔵文化財センター調査報告17　山梨県教育委員会
金井正三　1979「縄文前期の特殊浅鉢形土器について」『信濃』31-４
金子正人他　1990『芳賀北曲輪遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団
川島雅人他　1982「多摩ニュータウン遺跡№457遺跡」『多摩ニュータウン遺跡　昭和56年度第３分冊』東京都埋蔵文化財センター
川名広文他　1987『鷲森遺跡の調査』郷土資料33　埼玉県上福岡市教育委員会
栗原文蔵　1961『中川貝塚発掘報告』大宮市教育委員会、埼玉県
黒坂禎二他　1984『深作東部遺跡群』大宮市遺跡調査会報告10
黒済和彦　1988『七社神社前遺跡Ⅰ』北区教育委員会、東京都
古内茂　1986「浅鉢形土器出現の背景」『研究紀要』10　千葉県文化財センター
古賀登　1992『池田山北遺跡２』品川区埋蔵文化財調査報告書10　品川区遺跡調査会、東京都
小杉康　1985「鳥浜貝塚における搬入土器、模倣土器の研究(1)―分類細目とカタログ作成」『鳥浜貝塚1984年度調査概報・研究の成果―縄文前期を主とする低湿地遺跡の調査５』
小杉康　1985「木の葉文浅鉢形土器の行方」『季刊考古学』12　雄山閣
小杉康　1991『真光寺・広袴Ⅶ―三矢田遺跡―』真光寺・広袴遺跡調査団、東京都
斉藤祐司　1985『裏山遺跡』入間市埋蔵文化財調査報告６　入間市教育委員会、埼玉県
白石浩之　1981『細田遺跡』神奈川県埋蔵文化財調査報告23
白石浩之　1983「諸磯ｂ式土器の型式細分とその問題点」『人間・遺物・遺跡―わが考古学論集１』
鈴木敏昭　1980『足利遺跡』久喜市教育委員会、埼玉県
鈴木敏昭　1980「諸磯ｂ式土器の構造とその変遷（再考）」『土曜考古』２
鈴木敏昭他　1984『茶屋遺跡』白岡町埋蔵文化財調査報告書２　白岡町教育委員会、埼玉県
鈴木敏昭　1988「諸磯ｂ式からｃ式への土器変遷」『紀要』15　埼玉県立博物館
鈴木敏昭　1991「土器群の変容一例えば諸磯ｂ式土器の場合」『埼玉考古学論集』埼玉県埋蔵文化財調査事業団
鈴木徳雄　1979『白石城』埼玉県遺跡調査会報告36
鈴木徳雄　1987「諸磯式土器研究の問題点」『第１回縄文セミナー　縄文前期の諸問題』群馬県考古学研究所他
関根慎二　1986『糸井宮前遺跡Ⅱ』関越自動車道（新潟線）地域埋蔵文化財発掘調査報告書14　群馬県埋蔵文化財調査事業団
関根慎二他　1993ａ『大下原遺跡・吉田原遺跡』群馬県安中市教育委員会
関根慎二　1993ｂ「群馬県における前期終末の様相」『第６回　縄文セミナー　前期終末の諸様相』縄文セミナーの会
高木宏和　1993『舞岡リサーチパーク内遺跡（資料編）』舞岡リサーチパーク内遺跡調査団、神奈川県
高橋桂他　1976「北信濃大倉崎遺跡調査報告」『信濃』28-４
田口一郎他　1988「中善地・宮地遺跡」『群馬県史　資料編』１
谷口康浩他　1980『藤の台遺跡Ⅲ』、東京都
谷口康浩　1989「諸磯式土器様式」『縄文土器大観１　草創期・早期・前期』小学館
谷藤保彦　1986『中畦・諏訪西遺跡』群馬県埋蔵文化財調査事業団
谷藤保彦　関根慎二　1987「研究動向　群馬県」『第１回　縄文セミナー　縄文前期の諸問題』群馬県考古学研究所他
寺崎裕助　1991「縄文時代前期後半の格子目文土器について」『新潟考古学談話会会報』８　新潟考古学談話会
土肥孝　1975『針ケ谷北通遺跡発掘調査報告書』埼玉県遺跡調査会報告26
戸田哲也1990『東京都町田市成瀬西遺跡群発掘調査報告書』成瀬西区画整理地内遺跡調査団
戸田有二　1983『稲荷森遺跡発掘調査報告書』稲荷森遺跡発掘調査団、神奈川県
富沢敏弘　1985『中棚遺跡―長井坂城跡』関越自動車道（新潟線）地域埋蔵文化財発掘調査報告書（ＫＣ―Ⅵ）　群馬県昭和村教育委員会
長沢宏昌　1989『花鳥山遺跡・水呑場北遺跡』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書45
長沢宏昌　1993「有孔土器の変遷―有孔土器理解のための序説」『考古論集―潮見浩先生退官記念論文集』潮見浩先生退官記念事業会

中島宏　1977『金堀沢遺跡発掘調査報告書』入間市金堀沢遺跡調査会
中島宏　1980『伊勢塚・東光寺裏遺跡』埼玉県遺跡発掘調査報告書26　上越新幹線埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ
中村孝三郎他　1963「新潟県中魚沼郡中里村竜泉寺遺跡調査報告」『上代文化』33
中村哲也　1989『東京都八王子市東京純心女子学園構内　半蔵窪遺跡発掘調査報告』学校法人東京純心女子学園
西村正衛　1966「茨城県稲敷郡浮島貝ヶ窪貝塚」『学術研究』15　早稲田大学教育学部
西村正衛　1967「茨城県北相馬郡取手町向山貝塚」『学術研究』16　早稲田大学教育学部
長谷川福次他　1993『芝山遺跡』北橘村埋蔵文化財発掘調査報告書11　北橘村教育委員会、群馬県
羽鳥政彦　1986『田中田遺跡・窪谷戸遺跡・見眼遺跡』富士見村教育委員会、群馬県
羽鳥政彦　1987『向吹張遺跡・岩之下遺跡・田中遺跡・寄居遺跡』富士見村教育委員会
羽生淳子　1981「前期後半の土器群」『伊皿子貝塚遺跡』港区伊皿子遺跡調査会、東京都
羽生淳子他　1983『稲荷丸北遺跡』稲荷丸北遺跡調査団　ニューサイエンス社
羽生淳子　1983「縄文土器の類似度」『史学』55-２、３　三田史学会
羽生淳子　1987「諸磯ｂ式土器」『季刊考古学』21　雄山閣
羽生淳子　1988「縄文時代前期における集落の規模（Numbers of Pit Dwellings in Early Jomon Moroiso Stage Sites）」『人類学雑誌』96-２　日本人類学会
原雅信　1985『清水山遺跡　昭和53年度　群馬県渡良瀬養護学校建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』群馬県教育委員会
原雅信　1988「道木原遺跡」『群馬県史　資料編１　原始古代１』
原雅信　1990『堀下八幡遺跡――般国道17号（上武道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』群馬県埋蔵文化財調査事業団報告111　群馬県埋蔵文化財調査事業団
細田勝　1992「諸磯ｃ式土器研究への一視点」『埼玉考古』29
細田勝　1992『在家遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団
細田勝　1993「関東地方南半における前期終末の様相」『第６回　縄文セミナー　前期終末の諸様相』縄文セミナーの会
堀越正行　1988『上台貝塚』市立市川考古博物館研究調査報告４　市立市川考古博物館、千葉県
増田修　1990『群馬県桐生市川内町三島台遺跡90発掘調査概報』桐生市文化財調査報告12　桐生市教育委員会
松田光太郎　1992「浮島式土器の成立について―東関東における縄文時代前期後半土器文様の伝統」『古代』93　早稲田大学考古学会
間庭稔　1986『三峰神社裏遺跡、大友館址遺跡』関越自動車道（新潟線）地域埋蔵文化財発掘調査報告書　Ｋ.Ｃ.Ⅷ　月夜野町教育委員会
間庭稔　1986『善上遺跡』関越自動車道（新潟線）地域埋蔵文化財発掘調査報告書　Ｋ.Ｃ.Ⅷ　月夜野町教育委員会、群馬県
美里町　1986「第二節縄文時代　登戸遺跡」『美里町史　通史編』、埼玉県
翠川泰弘　1988『鍛冶屋遺跡―緊急発掘調査報告書』東部町教育委員会、長野県
宮下昌文　1990『沼田西部地区遺跡群Ⅰ　滝遺跡』群馬県沼田市教育委員会
村田一二他　1979『野田市北前貝塚』野田市文化財報告４　野田市郷土博物館、千葉県
村田文夫　1969『本町田』立正大学文学部考古学研究室調査報告１　ニューサイエンス社
茂木由行　1985『黒熊遺跡群発掘調査報告書(4)―本文編、図版編』吉井町教育委員会、群馬県
茂木由行　1985『入野遺跡』吉井町教育委員会
持田春吉　1989『川崎市宮前区鷺沼　鷺沼遺跡出土土器図版集』高津図書館友の会郷土史研究部、神奈川県
百瀬新治　1985「長野県下における諸磯式土器について」『長野県埋蔵文化財センター紀要』２
山口逸弘　1992『書上本山遺跡、波志江六反田遺跡、波志江天神山遺跡』群馬県埋蔵文化財調査事業団報告140　群馬県埋蔵文化財調査事業団
山下歳信　1986『上大屋・樋越地区遺跡群』群馬県勢多郡大胡町教育委員会
山梨大学考古学研究会　1978「御所遺跡発掘調査報告書」『丘陵』５　甲斐丘陵考古学研究会
山根弘人　1981『山梨県大泉村御所遺跡―第２次発掘調査報告書』山梨大学考古学研究会調査報告２　山梨大学考古学研究会
山内清男　1939「諸磯式」『日本先史土器図譜』２　先史考古学会
山村貴輝　1986『小黒坂南遺跡群』境川村埋蔵文化財調査報告３　境川村教育委員会、山梨県
八幡一郎　1958『刈羽貝塚』北方文化博物館研究報告１
和田哲　1968「八王子市平町縄文前期遺跡」『古代』51　早稲田大学考古学会

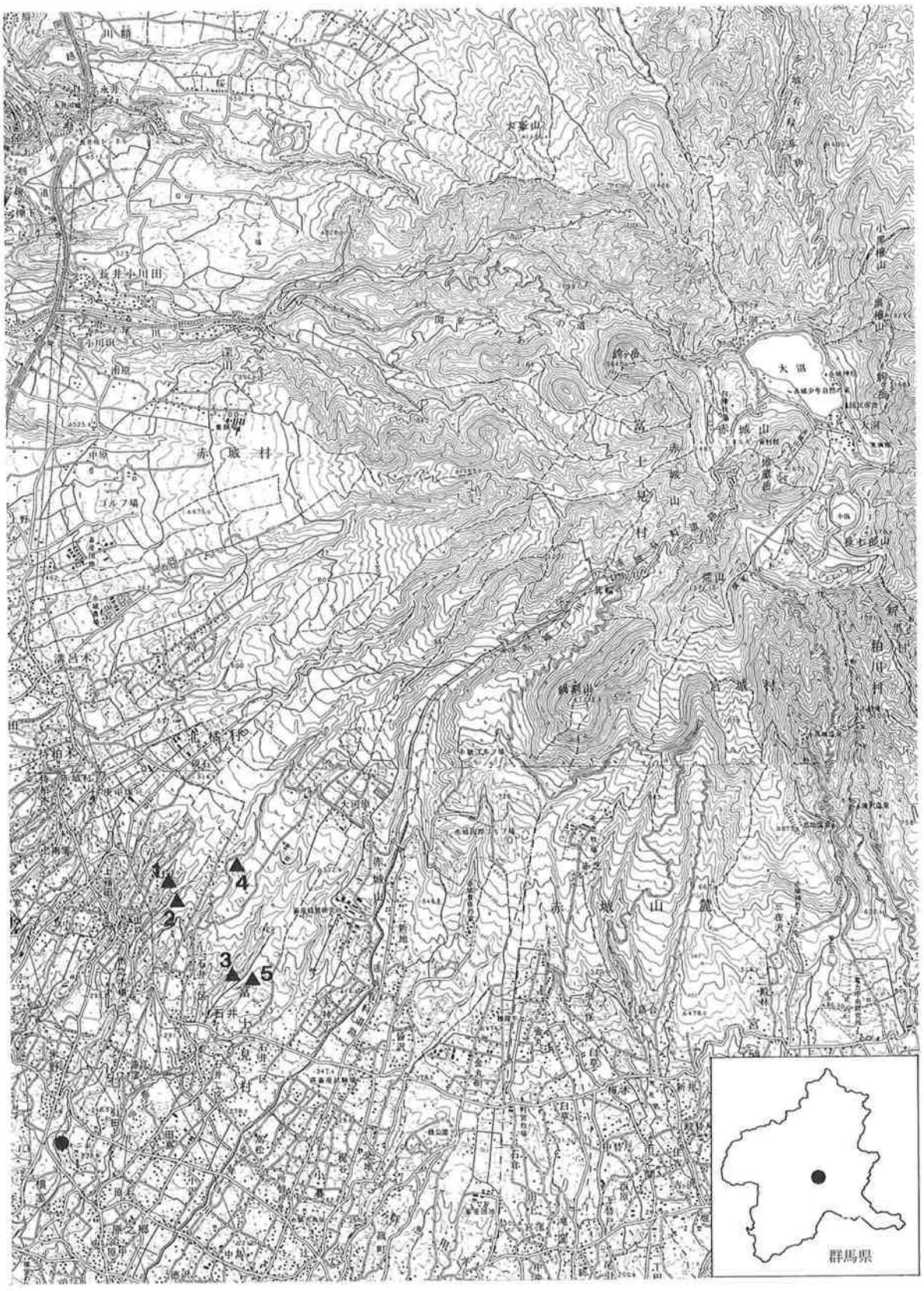
(2) 愛宕山遺跡出土の縄文時代前期後半土器の胎土分析

1．分析の目的

赤城山南麓に位置する愛宕山遺跡では縄文時代前期後半の土器として、第III群土器(諸磯式土器)、第IV群土器（浮島、興津式土器)、第Ⅴ群土器（北白川下層IIｃ式土器）が出土している。これらは主として器面に付けられた属性（文様、文様要素など）から分類、比定したもので、従来の研究では、諸磯式土器は群馬県を含む西関東、浮島・興津式土器は茨城県や千葉県などの東関東、北白川下層式土器は中部～近畿地方に、それぞれ分布する型式ということがわかっている。では本当に愛宕山遺跡から出土した諸磯式土器は西関東で作られ、浮島・興津式土器は東関東、北白川下層式土器は中部～近畿地方で作られたのだろうか。ここでは、近年何人かの研究者によって行われている偏光顕微鏡による土器の胎土分析[1]を通じて、それらの土器の製作地について考えてみたい。



第173図　胎土分析試料（1～7：諸磯ｂ式土器、8～10：浮島Ⅰｂ、II式土器、11：北白川下層IIｃ式土器）



●愛宕山遺跡 ▲河川砂採取地点（1：法華沢川第１地点、2：同第２地点、3：細ケ沢川第１地点、4：同第２地点、5：同第３地点）

第174図　愛宕山遺跡と河川砂採取地点（国土地理院発行　５万分の１地形図　前橋・沼田より作成）

2．分析方法

上記の目的を達成するため、まず分析する土器を11点選んだ（試料1～11）（第173図）。内訳は、諸磯ｂ式土器７点（試料１～７）、浮島Ⅰｂ、Ⅱ式土器３点（試料８～10）、北白川下層Ⅱｃ式土器１点（試料11）である。なるべく同一時期のものを比較するため、諸磯ｂ式土器の全てと、浮島Ⅰｂ式土器は遺物の最も多かった４号住居跡から選んだ。また、これらの土器が遺跡周辺で製作されたか否かを判定する比較材料として、赤城山麓を開析する遺跡周辺の二つの河川、細ケ沢川、法華沢川で採集した砂（試料12～16）を分析の対象とした[2]。河川砂の採取地点は第174図に記した。

土器は器面の特徴を肉眼で観察し、考古学的記録をした後、表面を洗浄し、岩石切断機で約3×2.5cm程度の大きさに切断した。土器は岩石に比べ非常に軟らかいので、切断後、エポキシ樹脂を浸透させて固めた。固まった土器は研磨剤を用いて表面を研磨し、平滑にする(一次研磨)。そしてその研磨面にエポキシ系接着剤を塗り、スライドガラスに貼り付ける。一日程度おき、完全に接着した後、裏返し、ガラスに接着した土器を再度切断、研磨し、0.025㎜くらいの薄さまで薄くする（二次切断、研磨)。薄くなった試料は十分乾燥させて、カナダバルサムを塗り、カバーガラスを被せて、薄片は完成する。河川砂も基本的には同様の手順で薄片を作成したが、河川砂に関しては、切断前に、乾燥、篩い分けを行い、エポキシ樹脂内に密封して固化する工程が加わる。篩い分けでは、土器の中の岩片、鉱物の平均的な大きさに合わせるため、0.25～0.5㎜の粒径に篩い分けられたものを分析試料とした。

薄片は偏光顕微鏡で観察した。観察は薄片試料中に存在する鉱物、岩片（岩石の砕けたもの）の同定を行うと同時に、その量比を比較するため、ポイントカウンターによるカウントを行なった[3]。薄片一枚につき、ポイントカウンターにより、2000ポイントの鉱物、岩片をカウントしたが、ポイントカウンターのステージの移動間隔は原則として長辺方向に0.3㎜、短辺方向に0.2㎜とした。粒径0.05㎜以上の岩片鉱物を計測対象とし、それ以下のものは小さくて同定困難なため、マトリックス（基質）として扱った。また顕微鏡写真も撮影し、単ポーラー、直交ポーラー[4]の両方で観察したものを掲載した（考ＰＬ１～３)。なお、写真図版中の記号は次の通りである。

Qtz：石英（Quartz）　　Pl：斜長石（Plagioclase）
Opx：斜方輝石（Orthopyroxene）　　Cpx：単斜輝石（Clinopyroxene）

3．分析結果

(1) 土　器

観察の結果は第19表に載せた[5]。まず鉱物について見ると、石英と斜長石は区別がつかないものもあったが、確実なものをカウントした場合、諸磯ｂ式土器（試料１～７）では斜長石が多く、石英が少ない。一方浮島式土器（試料８～10）や北白川下層式土器（試料11）では斜長石もあるが、石英の方が断然多いことがわかる。また重鉱物[6]では輝石（斜方輝石、単斜輝石）や角閃石は諸磯式土器の方が浮島式土器よりも多く含まれているようである。また、岩片について見ると、肉眼観察でもある程度はわかるように[7]、諸磯式土器では岩片が多い。しかもそれは輝石安山岩が大半で、それ以外はチャート等と思われるものが少量ある程度である。一方、浮島式土器や北白川下層式土器には岩片が少なく、あってもそこには安山岩はほとんどなく、浮島式土器ではチャートが目立っている。また岩石名は不明だが、石英が集合したようなものもあった。しかし岩片は小さいことから、岩石の同定はかなり困難で、不明のものも多かった。

同様の傾向は顕微鏡写真（考ＰＬ１～３）からも伺える。諸磯ｂ式土器の単ポーラーの写真（考ＰＬ１－

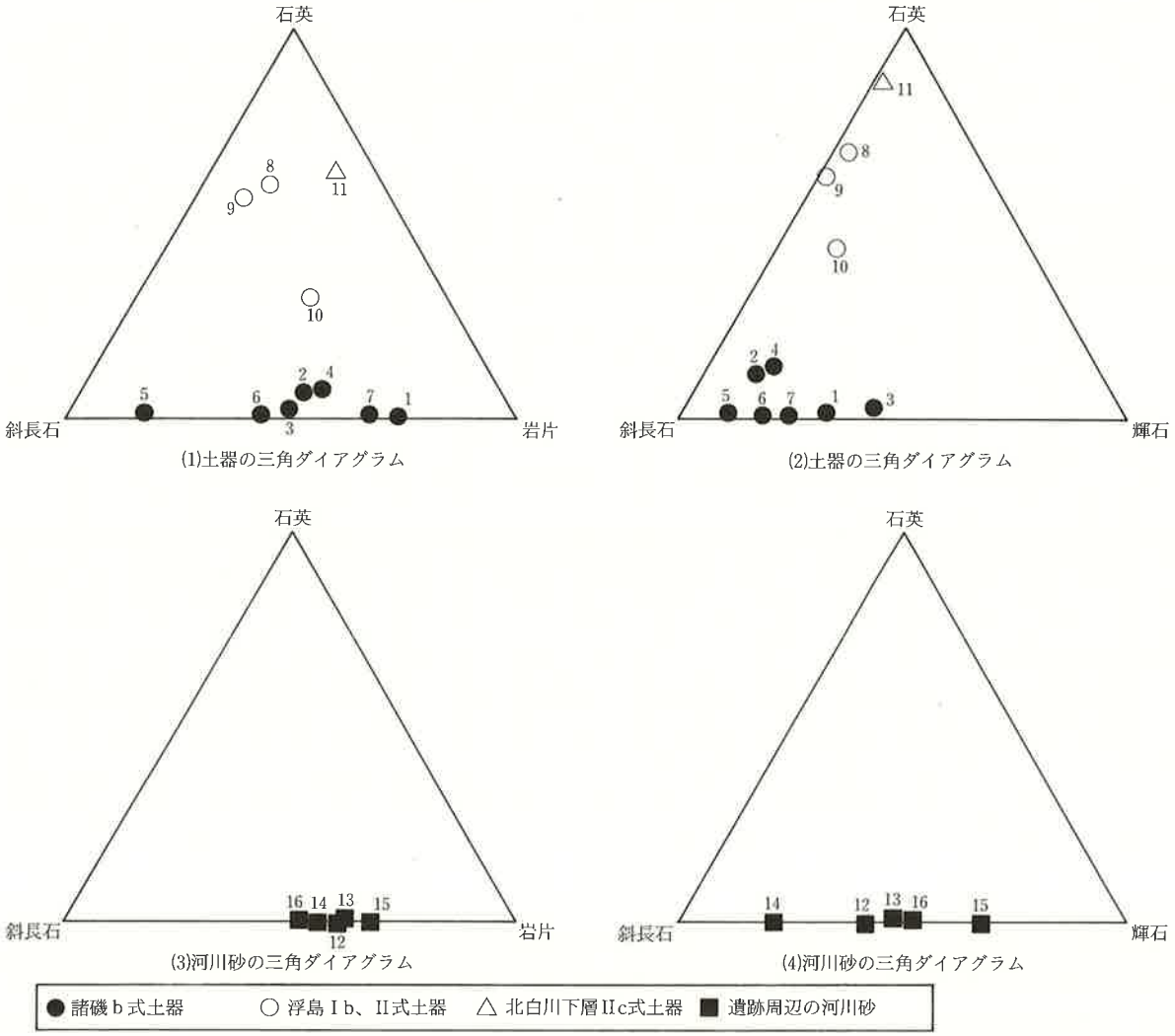
第19表　愛宕山遺跡出土試料・河川砂試料の岩石・鉱物（ポイント数）

試料番号		試料1	試料2	試料3	試料4	試料5	試料6	試料7	試料8	試料9	試料10	試料11	試料12	試料13	試料14	試料15	試料16
採取地点		4号住	4号住	4号住	4号住	4号住	4号住	4号住	4号住	11号住	11号住	包含層	法華沢1	法華沢2	細ヶ沢1	細ヶ沢2	細ヶ沢3
型式、河川砂		諸磯b	諸磯b	諸磯b	諸磯b	諸磯b	諸磯b	諸磯b	浮島Ib	浮島II	浮島II	北白川	河川砂	河川砂	河川砂	河川砂	河川砂
文様要素		爪形文	爪形文	浮線文	浮線文	浮線文	沈線文	沈線文									
鉱物	石英	3	15	10	26	4	2	1	162	111	77	291		9	2		4
	斜長石	118	92	156	134	216	219	121	67	64	74	41	318	277	314	203	152
	石英又は斜長石	1	18	26	12	26	16	13	85	89	68	43	4	2	10	3	4
	カリ長石								1	2	2		2			3	3
	斜方輝石	22	1	53	7	7	4	6	6	+	9		17	43	14	70	158
	単斜輝石	35	12	68	19	19	46	33	1	1	13	3	213	217	72	134	311
	角閃石	3	22	4	13	9	8	55	1	3	6	+	17	13	7	8	12
	黒雲母	4	7	2	1	+	2	+	3	6	11	2					
	白雲母										1	1					
	緑れん石		+		+					3	+						
	褐れん石	2	+														
	電気石						+										
	不明	20	1				19		8	5	6	4	4	20	50	10	84
岩片	安山岩	327	72	116	170	39	165	155					477	445	398	418	167
	チャート							84	22	10	81						
	石英の集合		14	11	4				17	11	8	130					
	不明		17	24		5		5	1		5		5		2	3	
赤色粒子		42	38	10	1	44	20	7	3		2		11	7	4		3
基質		1423	1691	1520	1613	1631	1499	1520	1623	1695	1637	1485	932	967	1127	1148	1102
合計		2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000

1、3、5、考ＰＬ２－１、２）を見ると、粘土は褐色のマトリックスと見え、その中央に大きな白色ないしは薄茶色の塊が写っている。これは岩石の破片すなわち岩片で、その中をさらによく見ると、細粒もしくは針状の粒子と大形の粒子からなっているのがわかる。これらは共に鉱物で、前者は石基、後者は斑晶、こうした組織は斑状組織と呼ぶが、それらは火山岩の特徴とされている。さらに直交ポーラー(考ＰＬ１－２、４、６、考ＰＬ２－２、４)も併用して、鉱物の形、へき開[8]、屈折率[9]の他に、干渉色[10]や消光角[11]などを調べ、鉱物の同定をすると、斑晶には斜長石（図版中のＰ１)、斜方輝石（同Opx)、単斜輝石（同Cpx)、角閃石などがあり、石基は大部分が斜長石であることがわかる。こうした特徴をもつ岩石は安山岩で、含む斑晶の鉱物によって、輝石安山岩、角閃石安山岩などと分類されている。また岩片の周囲の鉱物も安山岩を構成する鉱物が多く、斜長石、斜方輝石、単斜輝石（考ＰＬ１－８の桃色の鉱物）などが多くある。特に斜長石（考ＰＬ１－４）は長柱状をなし、累帯構造[12]をもっており、火山岩起源の斜長石であると思われる。

それに対し、浮島式土器や北白川下層式土器では岩片の量が少なく、あっても試料８～11の写真中央にあるような、それは石英の集合したものである(考ＰＬ２－５、７、考ＰＬ３－１、３)。特に試料８や10の写真中央はチャートと考えられる。斑状組織をもつ岩片はなく、鉱物でも石英(図版中のQtz)が多く、斜長石、斜方輝石、単方輝石などは少ない。

以上のことを考慮して、石英一斜長石一岩片、石英一斜長石一輝石（斜方輝石、単斜輝石を含む）の二種の三角ダイヤグラムを作ってみた。それらを見ると、諸磯ｂ式土器は三角形の下方に集まり、浮島式土器、北白川下層式土器から分離されることがわかる。これは、第175図(1)において、諸磯式土器が他二種の土器型式に比べ石英が少なく、斜長石と岩片に富むことに起因する。特に岩片には輝石安山岩が多いため、第175図(2)でも諸磯式土器は石英が少なく、斜長石、輝石の比率が多い部分に偏っている。一方浮島式土器や北白川



第175図　土器・河川砂の三角ダイアグラム

下層式では石英が多いことから、同図(1)、(2)ではやや上方に位置している。

(2) 河　川　砂

第19表を見てもわかるように、細ケ沢川、法華沢川の河川砂は共に、鉱物では石英が少なく、斜長石や斜方輝石、単斜輝石が多い。また岩片も多く、その内訳はほとんどが安山岩からなっている。顕微鏡写真を見ても考ＰＬ３－５、７には斑状組織をなす岩片が多く、その斑晶の鉱物を見ると、斜長石（Ｐ１）や斜方輝石（Opx)、単斜輝石（Cpx）からなり、周囲に散在する鉱物も同種のもので占められている。考ＰＬ３－８にも斜長石や単斜輝石があるが、中央の斜長石は明瞭な累帯構造が発達しており、火山岩起源の斜長石であると思われる。また石英一斜長石一岩片、石英一斜長石一輝石（斜方輝石、単斜輝石を含む）の二種の三角ダイヤグラムを作ってみると、河川砂は三角形の下方に集まることがわかる（第175図(3)、(4)）。これもやはり石英が少なく、斜長石や岩片、輝石が多いことに起因している。

以上から諸磯ｂ式土器に含まれる鉱物、岩片組成は遺跡周囲の河川砂中の鉱物、岩片組成とかなり類似しており、浮島式土器や北白川下層式土器のそれは河川砂組成とは違いが大きいことが明かとなった。

4．分析試料の製作地に関する考察

鉱物同定および鉱物組成の検討の結果、諸磯ｂ式土器と浮島式、北白川下層式土器ではその胎土の鉱物、岩片組成が異なること、諸磯ｂ式土器の組成は遺跡近傍の二河川の砂の鉱物、岩片組成と極めて類似していることがわかった。それではそれらの土器は遺跡周辺で作られた在地土器であろうか、それとも遠隔地で作られ、当地に搬入された搬入土器であろうか。

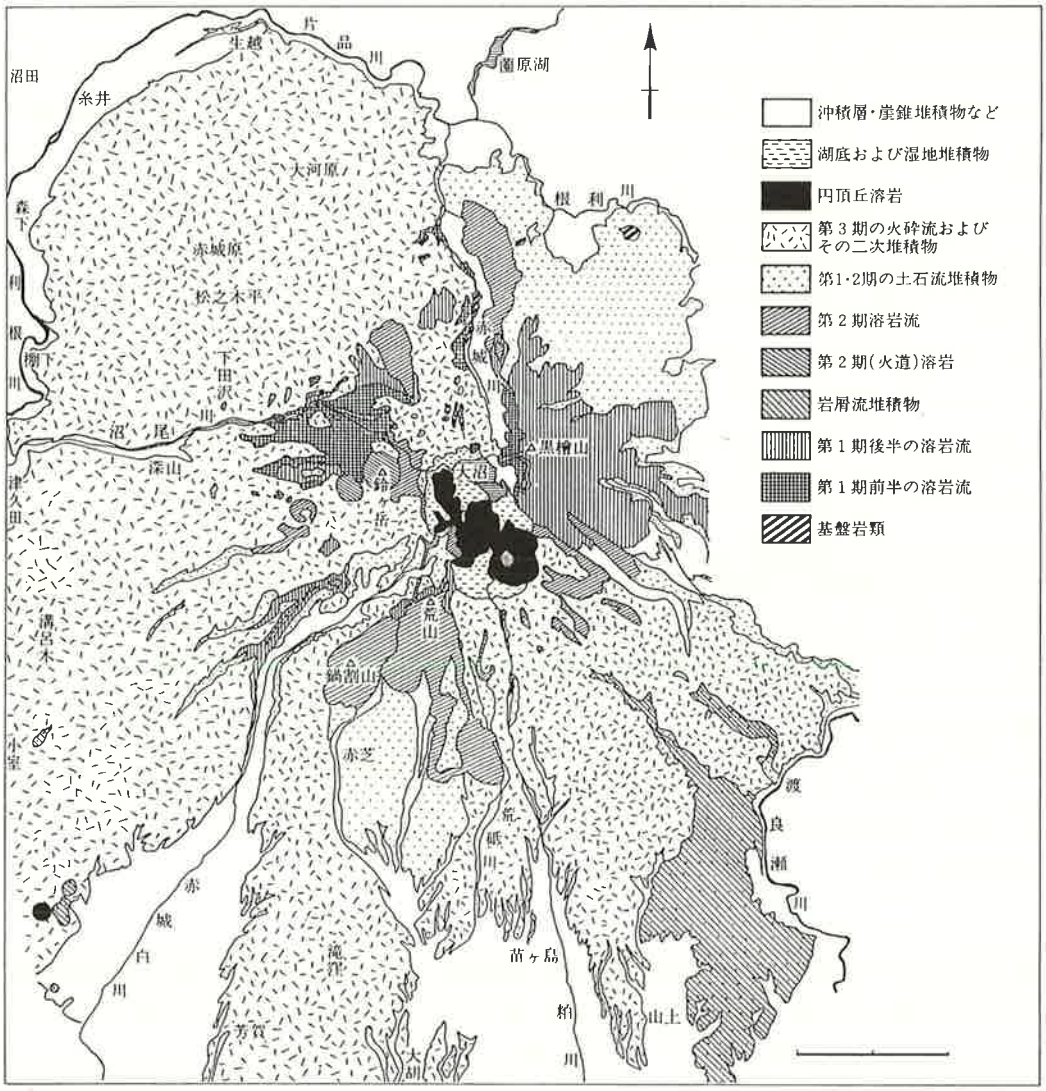
縄文土器の場合、その製作場所や原料の土の採取地はよくわかっていない。しかし現在ほど流通手段が発達していなかったと思われる当時において、もし土器を遺跡の周辺で作ったとすれば、周囲の粘土や土を採集して原料にした可能性がある。また土器は粘土だけではできず、つなぎとして砂などの混和物が必要なので、近くで砂を採集して、混入したことも考えられる。したがって、土器を遺跡の周囲で製作すれば、土器の胎土の鉱物、岩片組成は遺跡周辺の土壌、砂の鉱物、岩片組成とよく似ることが考えられる。また逆に土器の胎土と遺跡周辺の土、砂を比較し、両者の類似度が低ければその可能性も低いと言えそうである。

そのように考えると、遺跡周辺の河川砂と類似性をもつ諸磯ｂ式土器は遺跡周辺で作られた在地土器であり、浮島式土器や北白川下層土器は他地域で作られた搬入土器である可能性が考えられる。また諸磯ｂ式土器には爪形文、浮線文という文様要素の異なる土器があり、中には北陸との関係が注目される格子目文土器（試料７）や北白川下層式との関係も考えられる浮線文による枠状文（試料４）の土器もあるが、それらもみな、在地土器と考えられる。

しかしここで確認しなければならない問題がある。私は遺跡の周囲の河川砂を、在地土器の判定材料として取り上げたが、岩片の大半が安山岩で、重鉱物として輝石や少量の角閃石を含む河川砂がはたして遺跡の立地する赤城山の地質と一致するのであろうか。

第176図に赤城山の地質構造発達史に詳しい守屋以智雄氏による地質図[13]を載せてみた。氏は赤城山の形成史を四期に分けた上で、愛宕山遺跡の背後にある十二山は第Ⅰ期の岩屑流堆積物、愛宕山遺跡の位置する台地については第３期の火砕流およびその二次堆積物（凝灰質の亜角礫岩層）からなると書いている。また遺跡上流には第１期の溶岩や、第１、２期の土石流堆積物が存在している（第176図）。そして第１、２期の溶岩は安山岩質であり、重鉱物組成も第１、２期は輝石が多いのであるが、第３期になると角閃石が加わることが指摘されている[14]。第３期の凝灰質の角礫岩とは粒度の大きさと形に基づく分類であって[15]、守屋氏はその岩質については述べていないが、その角礫の供給源は安山岩からなる山頂付近にあるので、おそらく安山岩質になると思われる。こうしてみると、河川砂の鉱物組成は周囲の地質をうまく反映しており、胎土中に安山岩や輝石を多く含む諸磯ｂ式土器は在地土器で、安山岩をほとんど含まない浮島式土器や北白川下層式土器は搬入土器である可能性はかなり高いと言えよう。

しかし今なお、いくつかの問題が残っている。それは、在地土器と一口にいっても、その製作地を限定できたわけではないこと、浮島式土器や北白川下層式土器の具体的な製作地はわかっていないことなどである。在地土器の判断基準として胎土中に安山岩や斜長石や輝石が多く含まれることをあげたが、それらは何も赤城山に限ったものではない。安山岩は日本列島の第四紀火山において広く一般的に認められるものであり、輝石安山岩をとってみても、榛名山や子持山、浅間山、草津白根山などの近傍の火山にも存在するのである。したがって同じ安山岩が存在する地域内を土器が動いてもそれはこの方法ではとらえることはできないのである。本遺跡出土土器に関しては、今回のような方法では、関東平野から山岳地域へ移動したと思われる浮島式土器は搬入土器と認定できても、諸磯ｂ式土器に関しては、群馬県北部や西部、長野県方面からの搬入品であることを完全に否定することはできないのである[16]。



176図　赤城山麓の地質図（守屋(1986)より作成）

また浮島式土器に関しては、諸磯ｂ式に比べ胎土は石英に富み、岩片が少ないことがわかり、これは古城泰氏が指摘した傾向と一致する[17]。それゆえ、私は愛宕山遺跡の浮島式土器を搬入品と考えたが、それは茨城県、千葉県を中心に広く分布しており、その内のどの地域で製作したのかまではわかっていない。また北白川下層式土器の製作地に関しても不明のままである。こうした問題を解決するため、今後は広範囲かつ綿密に、各地域の地質学的特質と在地土器の胎土の組成に関するデーターを集めると共に、分析方法の改良を行っていきたい。

なお本研究を進めるにあたり、早稲田大学教育学部地学教室の鞠子正教授、小笠原義秀助教授、力田正一氏、大森聰一氏、安藤生太氏、小林健太氏、文学部考古学研究室の中山弘樹氏にお世話になりました。文末ながら、お礼を申し上げる次第です。

注

[1]清水芳裕氏（1973）、今村啓爾氏（1980）、古城泰氏（1980、1981）、河西学氏他（1989）、水沢教子氏（1994）らの研究がある。また重鉱物を扱った研究も上條朝宏氏（鈴川1973）、増島淳氏（1989）が行っている。

[2]河川砂を用いて成果を上げたものに河西他(1989)などがある。今回遺跡近くの河川砂を採集しようとしたが、護岸工事がなされており、不純物が混じっている恐れがあるため、第174図のようにかなり上流で採取せざるをえなかった。

[3]ポイントカウンターとは顕微鏡のステージ上に置いたプレパラートを等間隔で移動させ、視野の中心下にきた鉱物や岩片を同定し、カウントしていく装置である。カウント総数を決めておき、その総数に達した時の、各鉱物や岩片のカウント数を読むことで、単位面積当たりの鉱物、岩片組成率を求めようとするもの。

[4]偏光顕微鏡は偏光という振動方向の限定された特殊な光を岩石薄片に通して観察する顕微鏡であるが、普通の光を偏光に変える装置をポーラーと言う。ポーラーは顕微鏡の上方と下方に直交するように二個付いており、下方ポーラーだけを入れて観察するのを単ポーラー、上、下方ポーラーを入れて観察するのを直交ポーラーという。

[5]薄片中には存在するが、ポイントカウントにはかからなかった微量の鉱物は表で＋と表記した。

[6]比重がブロモホルム（鉱物分離に用いる重液）の比重2.85よりも大きい鉱物。

[7]肉眼でも、諸磯式土器には礫が多く含まれ、浮島式土器にはあまり含まれず、砂が多いことは観察でき、土器観察表胎土欄（第４表）に書いておいた。しかし細かな岩石名までは判別できない。また同表の諸磯式土器に大抵含まれている黒色鉱物は角閃石で、白色鉱物は長石であると思われる。この黒色鉱物は浮島式土器や北白川下層式土器には少ないことは観察表を見てもわかる通りである。

[8]特定の結晶面に平行に割れる現象。鉱物にはへき開のあるものと無いものがあり、有るものでも、その方向や強弱に鉱物独自の特色があらわれる。考ＰＬ１－１、７の輝石に走る線状の筋などが該当する。

[9]光が鉱物を通過する際に曲がる率。鉱物によって異なる。

[10]直交ポーラーで観察した時の鉱物の色。

[11]顕微鏡のステージを回転すると干渉色は変化し、真黒になるところがある。その位置を消光位と言うが、消光位と鉱物のへき開や結晶軸のなす角度が消光角である。

[12]鉱物の結晶には中心部と周縁部で組成が違うものがある。組成の違いは干渉色の差となってあらわれ、考ＰＬ１－４や考ＰＬ３－８のような縞模様を呈する。これを累帯構造と言う。

[13]守屋以智雄（1986）

[14]守屋以智雄（1968）

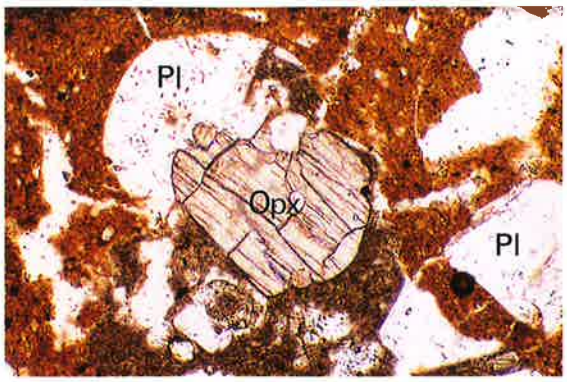
[15]Schmid（1981）の分類では角礫岩は粒度が64㎜以上の火山砕屑物の堆積岩とされている。

[16]もっと狭く土器の製作地を限定するには、鉱物の元素組成を調べるなどの方法も必要であろう。

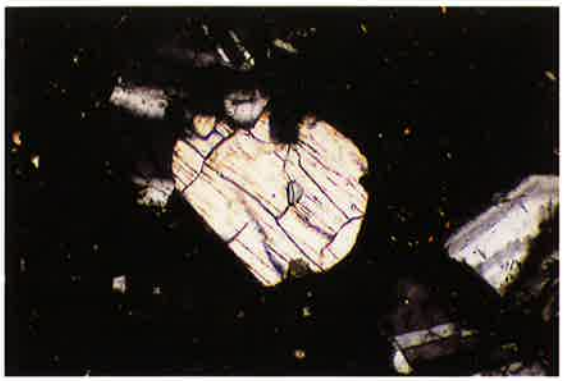
[17]古城泰（1980、1981）

参考文献

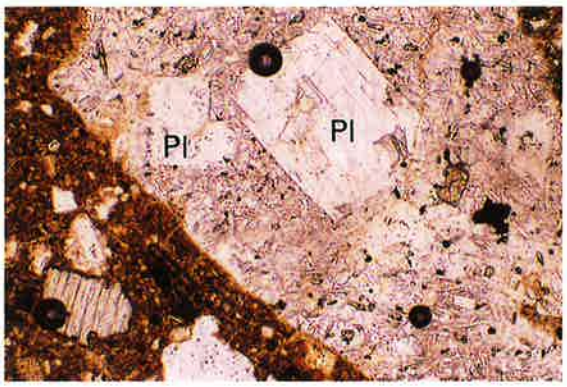
今村啓爾　1980「胎土中の岩石・鉱物からみた土器の製作地」『伊豆七島の縄文文化』武蔵野美術大学考古学研究会
上條（鈴川）朝宏他　1973「縄文土器の胎土分析―町田市鶴川M地点遺跡の資料から」『物質文化』22
河西学他　1989「八ケ岳南麓地域とその周辺地域の縄文時代中期末土器群の胎土分析」『帝京大学山梨文化財研究所研究報告』１　帝京大学山梨文化財研究所
久城育夫他　1989『日本の火成岩』岩波書店
黒田吉益他　1983『偏光顕微鏡と岩石鉱物　第２版』共立出版
古城泰　1980「興津貝塚出土土器の胎土分析」『古代探叢―滝口宏先生古稀記念考古学論集』
古城泰　1981「縄文土器の遺跡間移動（Ｉnter-Site Pottery Movements in the Jomon Period）」『人類学雑誌』89-１　日本人類学会
清水芳裕　1973「縄文時代の集団領域について―土器の顕微鏡観察から―」『考古学研究』19-４　考古学研究会
地学団体研究会　1981『増補改訂　地学事典』平凡社
増島淳　1989「静岡県東部地域における縄文土器の作製地について―胎土中の重鉱物組成から見た―」『沼津市博物館紀要』14　沼津市歴史民俗資料館
水谷伸治郎他　1987『日本の堆積岩』岩波書店
都城秋穂他　1972『岩石学Ⅰ　偏光顕微鏡と造岩鉱物』共立出版
都城秋穂他　1975『岩石学Ⅱ　岩石の性質と分類』共立出版
守屋以智雄　1968『赤城火山の地形及び地質』前橋営林局
守屋以智雄　1986「赤城火山」『日本の地質３　関東地方』共立出版



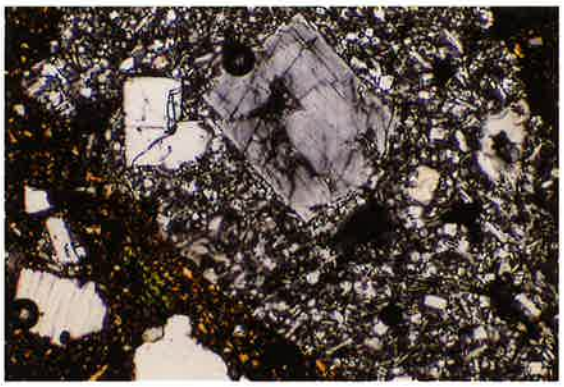
1．試料１（諸磯ｂ式土器）・単ポーラー



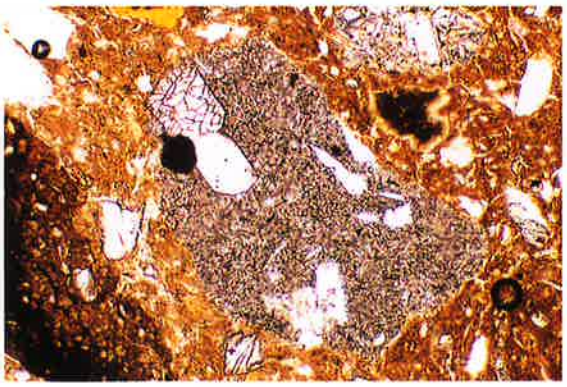
2．試料１・直交ポーラー



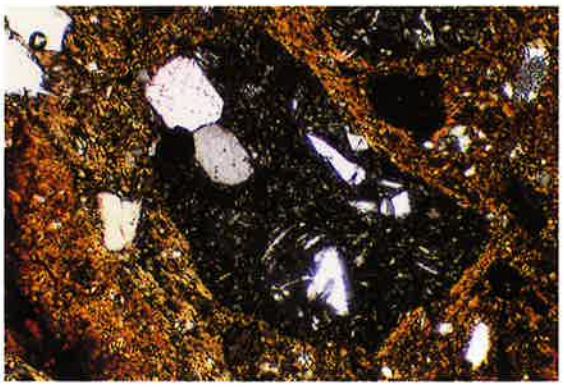
3．試料２（諸磯ｂ式土器）・単ポーラー



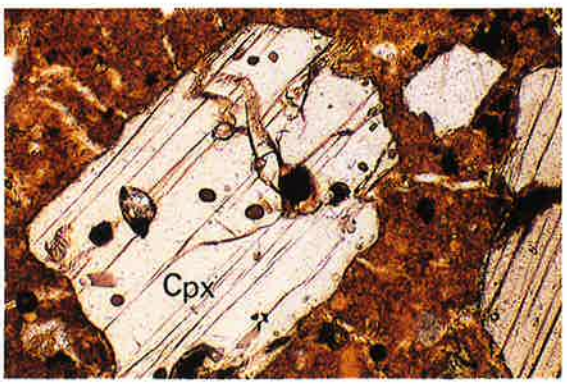
4．試料２・直交ポーラー



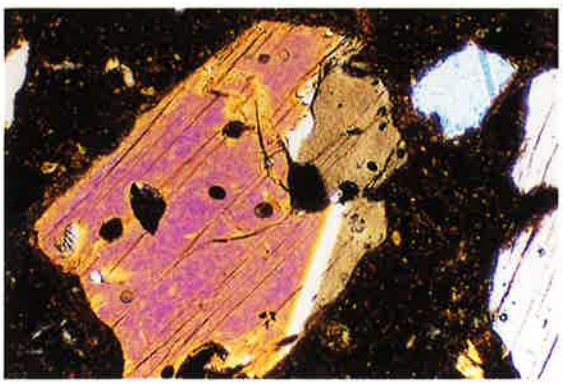
5．試料３（諸磯ｂ式土器）・単ポーラー



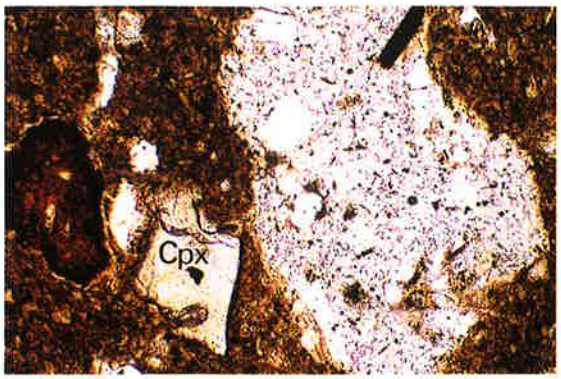
6．試料３・直交ポーラー



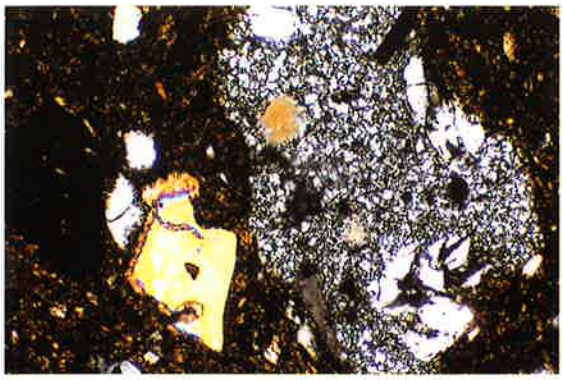
7．試料５（諸磯ｂ式土器）・単ポーラー



8．試料５・直交ポーラー

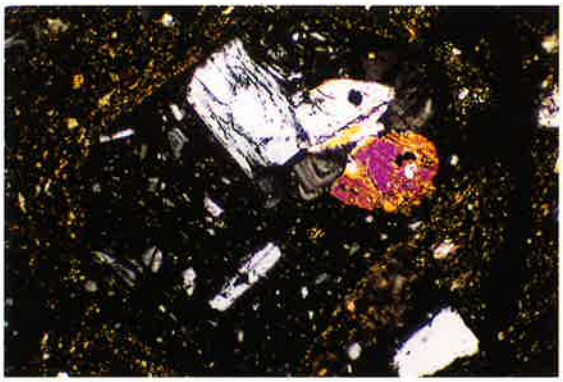


1．試料６（諸磯ｂ式土器）・単ポーラー

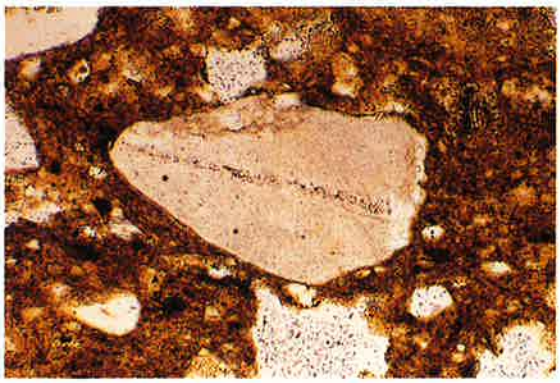


2．試料６・直交ポーラー

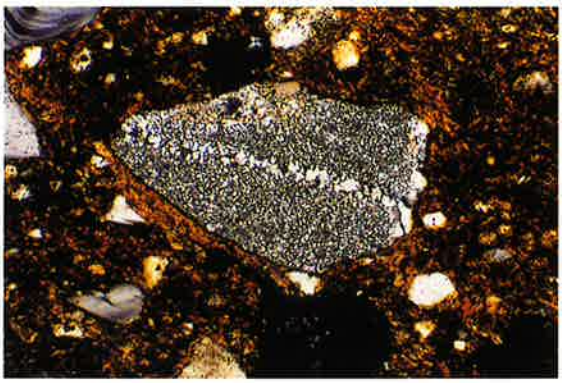
3．試料７（諸磯ｂ式土器）・単ポーラー



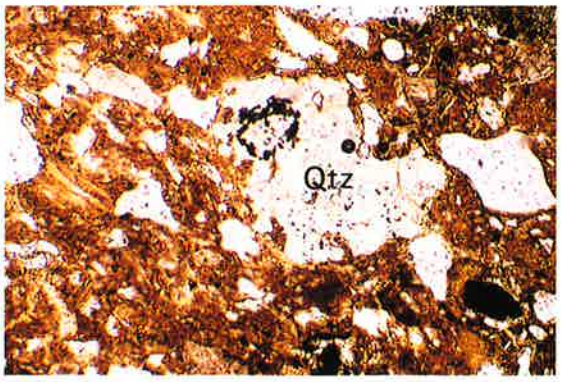
4．試料７・直交ポーラー



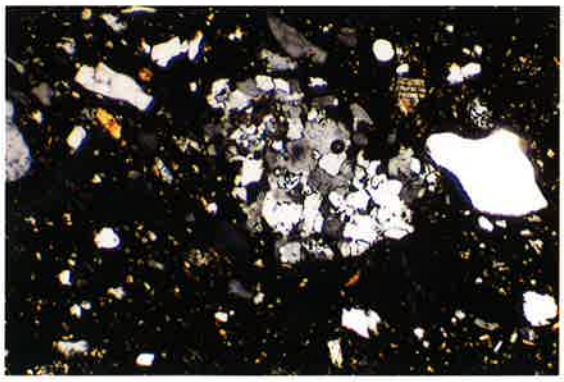
5．試料８（浮島Ⅰｂ式土器）・単ポーラー



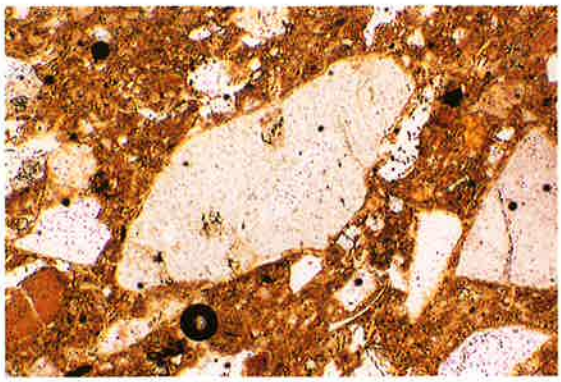
6．試料８・直交ポーラー



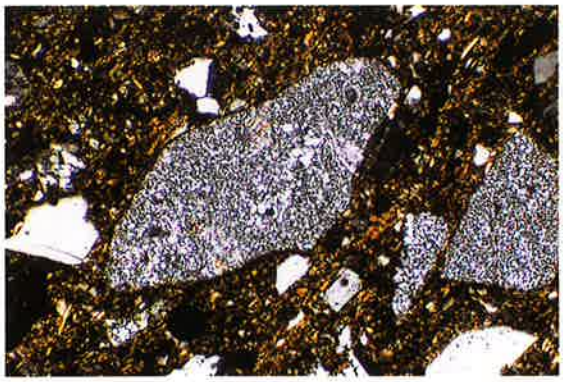
7．試料９（浮島Ⅱ式土器）・単ポーラー



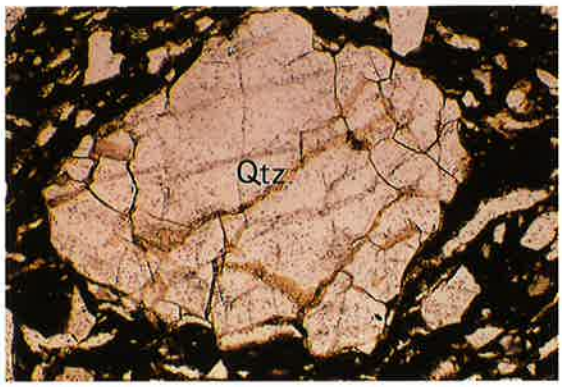
8．試料９・直交ポーラー



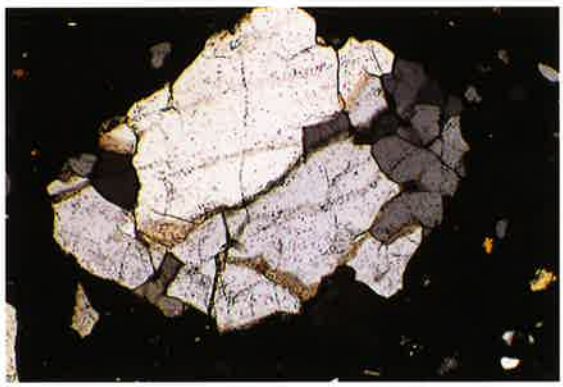
1．試料10（浮島Ⅱ式土器）・単ポーラー



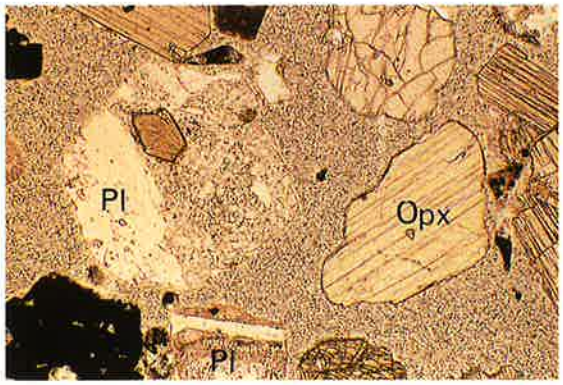
2．試料10・直交ポーラー



3．試料11(北白川下層Ⅱｃ式土器)・単ポーラー

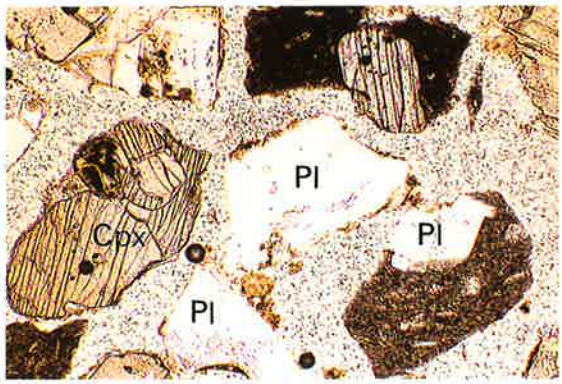


4．試料11・直交ポーラー



5．試料14(細ケ沢川河川砂)・単ポーラー

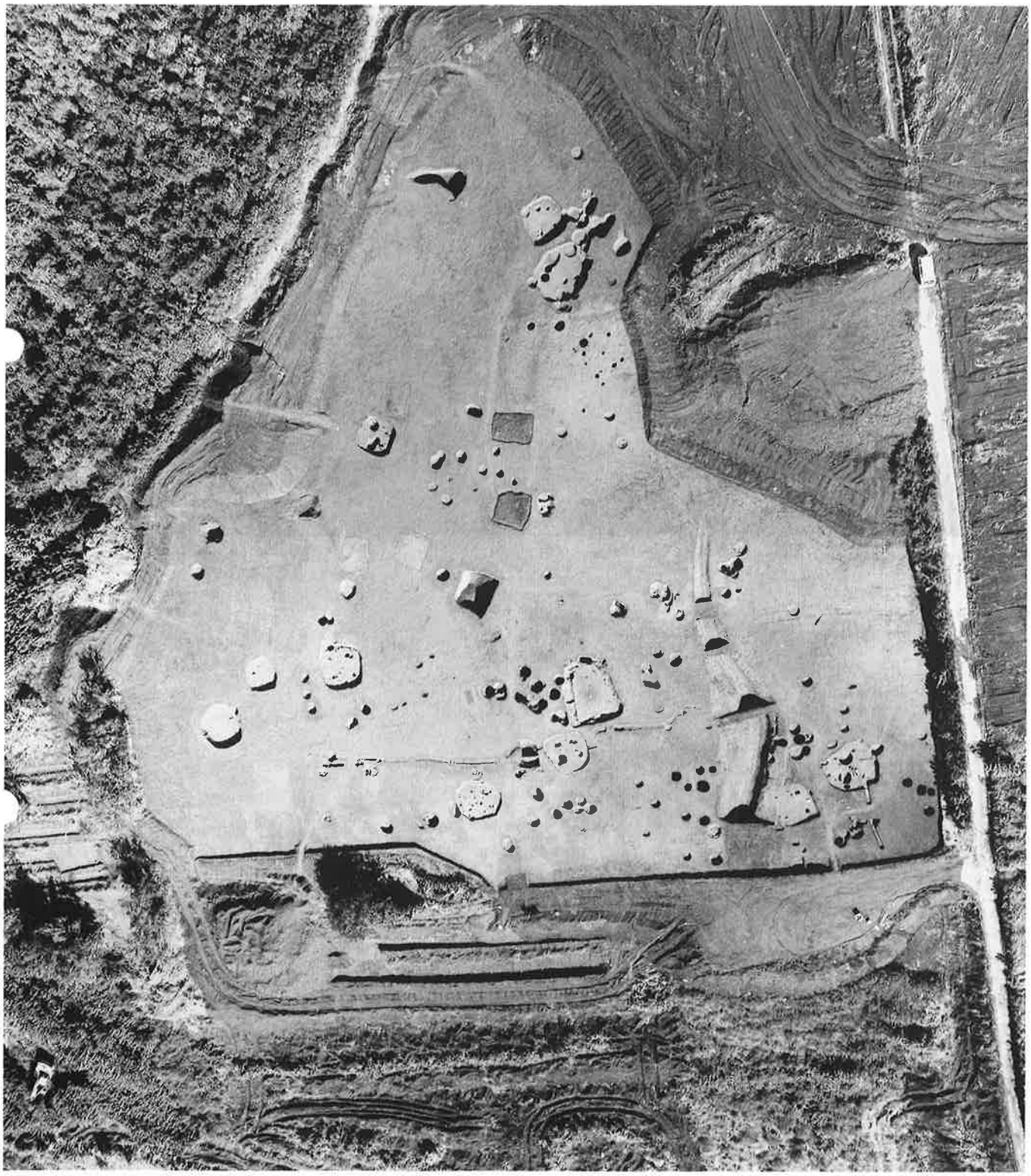
6．試料14・直交ポーラー



7．試料15(法華沢川河川砂)・単ポーラー

8．試料15・直交ポーラー

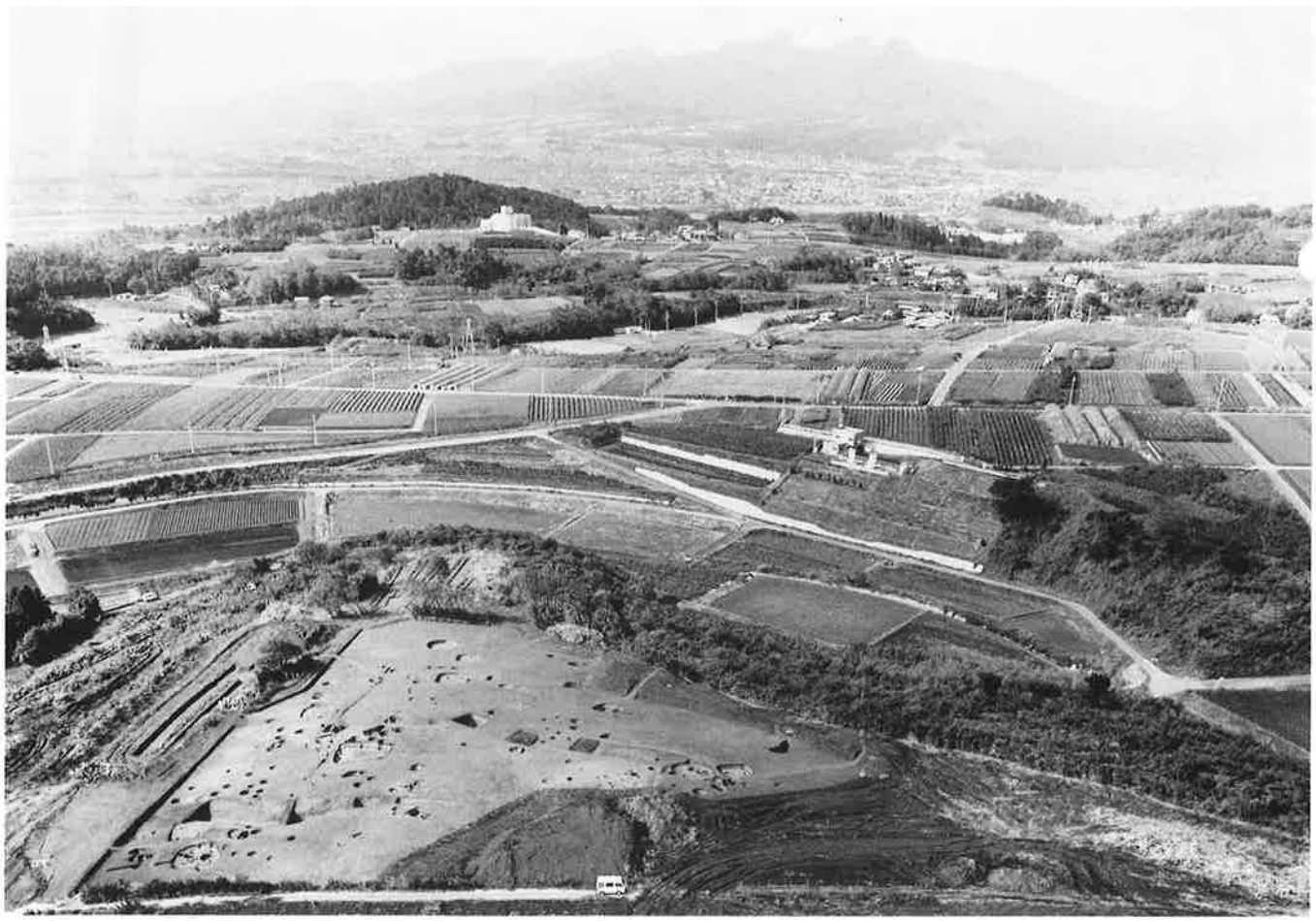
写　真　図　版



愛宕山遺跡全景（上空から―上が北）

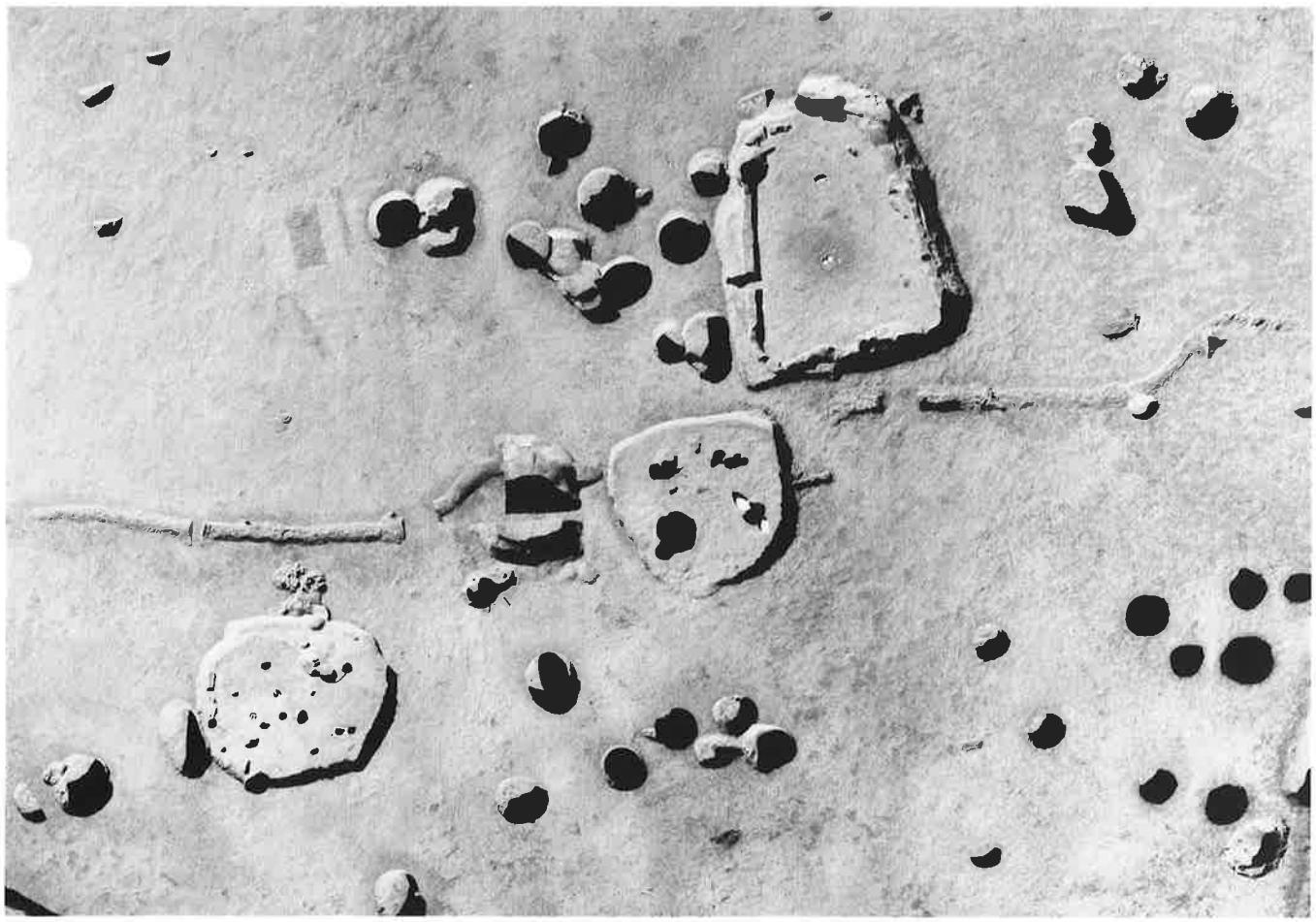
ＰＬ２　愛宕山遺跡

１．愛宕山遺跡遠望

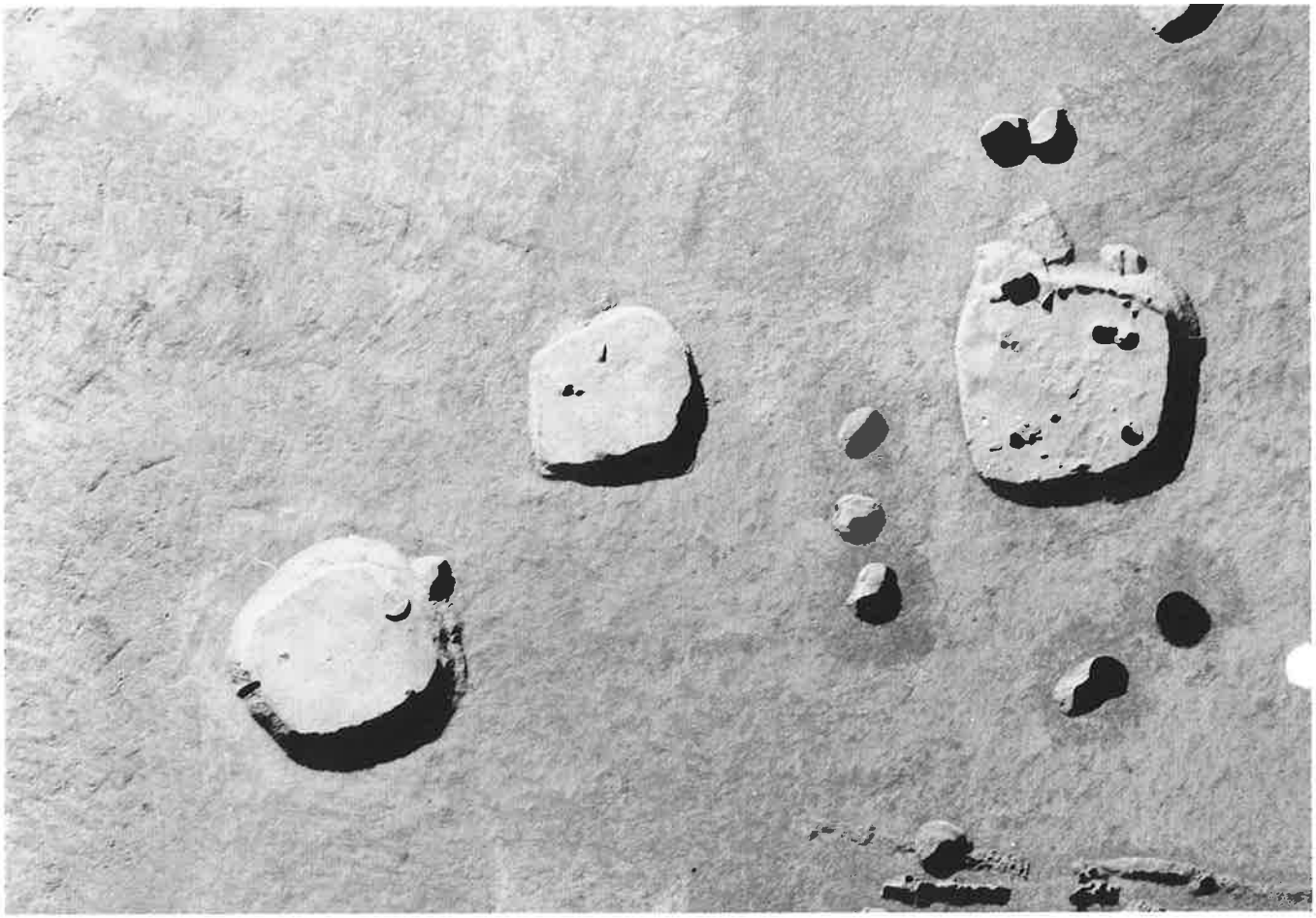


２．愛宕山遺跡東上空より榛名山を望む

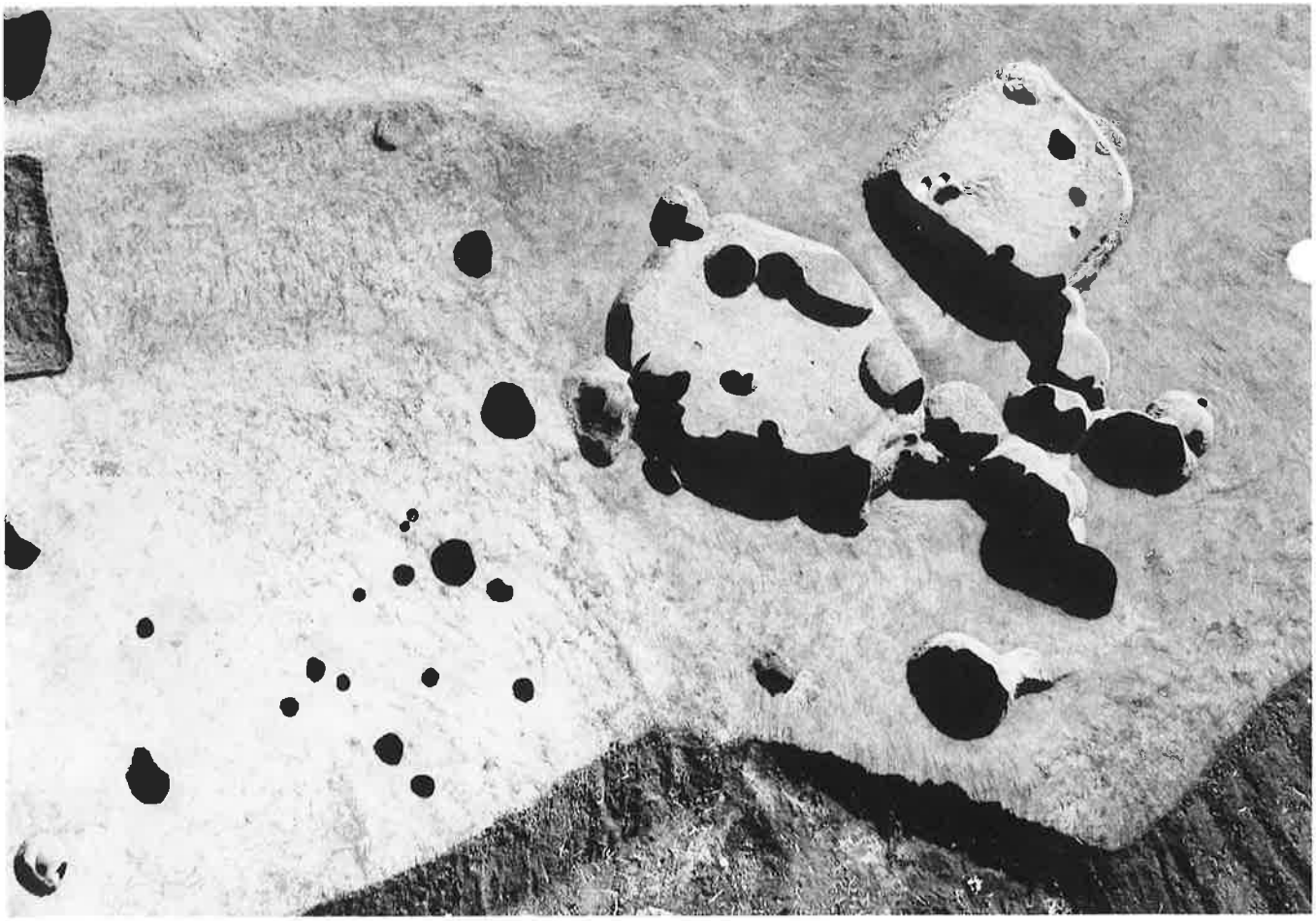
1．１・２号住居跡周辺（上空より―上が北）



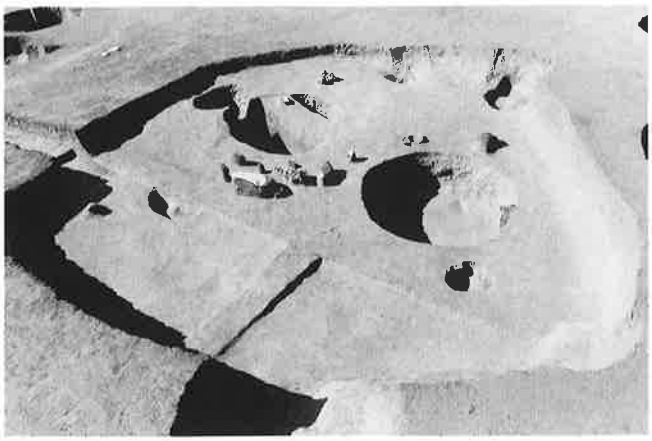
2．３・４・８号住居跡周辺（上空より－上が北）



１．５・６・７号住居跡周辺（上空より―上が北）



２．10・11号住居跡周辺（上空より―上が北西）



1．１号住居跡全景（北東から）

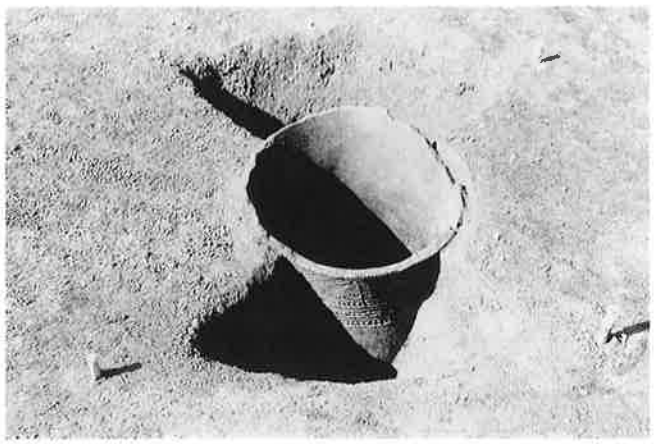
2．同遺物出土状態（北西から）

3．同近接（東から）

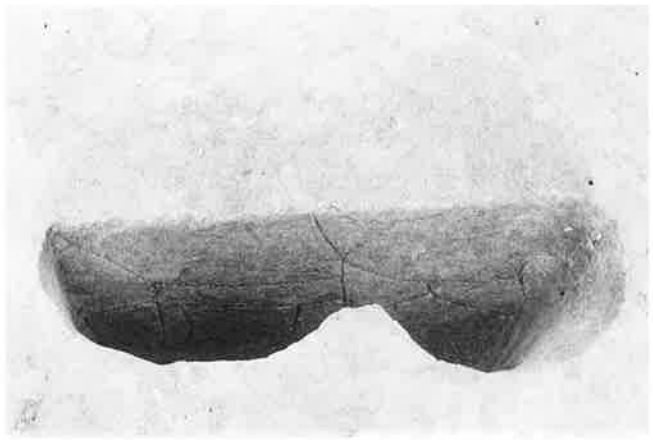
4．同ウメガメ（東から）

5．２号住居跡全景（北から）

6．同遺物出土状態（東から）



7．同ウメガメ



8．同柱穴セクション（南から）

1．３号住居跡全景（南東から）

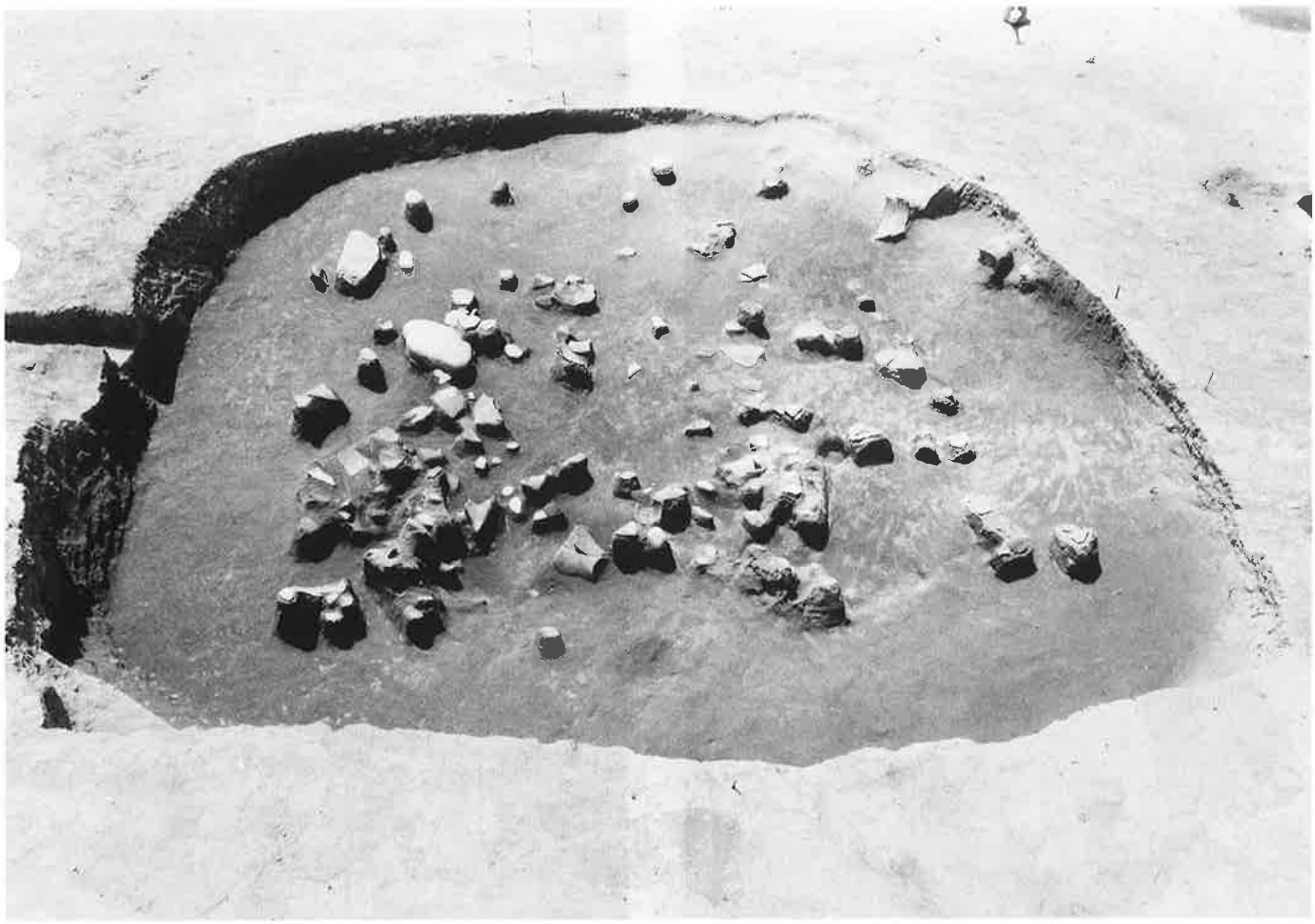
2．同全景（北から）

3．同床面遺物出土状態近接（南西から）

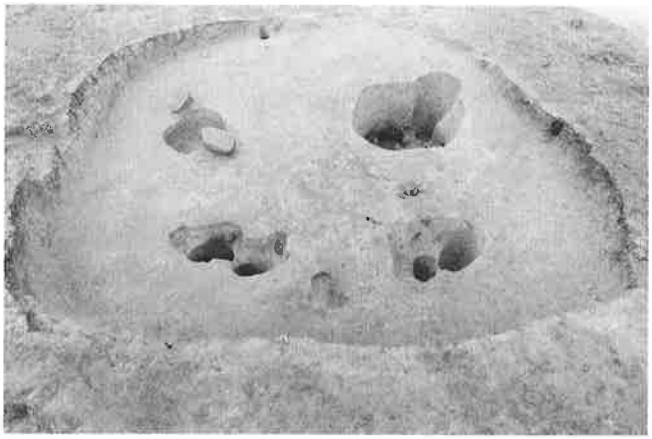
4．同覆土上層遺物出土状態（西から）

5．同覆土上層遺物出土状態（南から）

１．４号住居跡覆土上層遺物出土状態（東から）

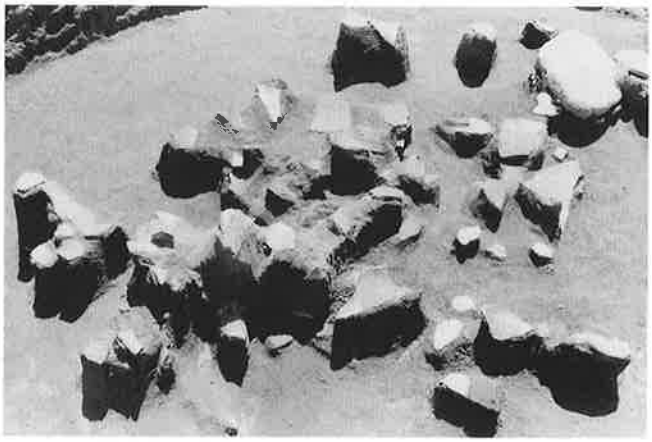


２．同覆土下層～床面遺物出土状態（北から）



1．４号住居跡掘上全景（北から）

2．同遺物出土状態（南から）



3．同遺物出土状態（北西から）

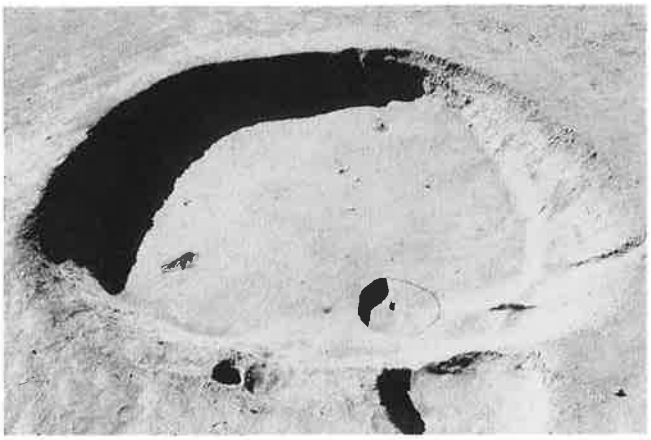
4．同遺物出土状態

5．５号住居跡全景（東から）

6．同遺物出土状態（北西から）

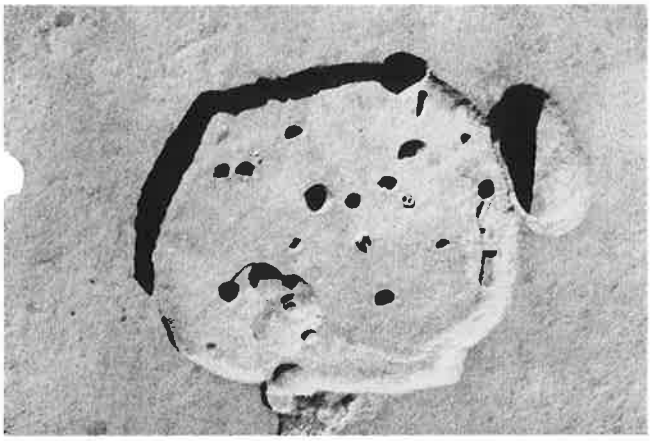
7．６号住居跡全景（南から）

8．同遺物出土状態（東から）



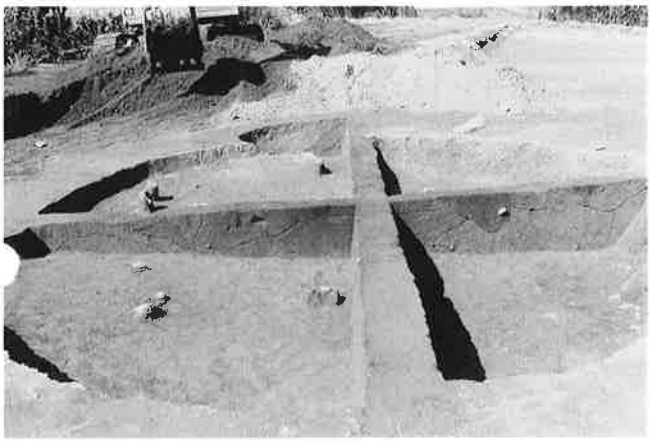
1．７号住居跡全景（東から）

2．同遺物出土状態（北東から）



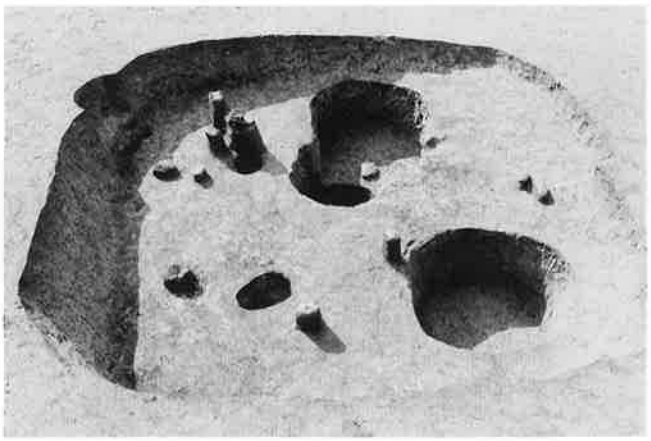
3．８号住居跡全景

4．同遺物出土状態（東から）



5．同セクション（東から）

6．同ウメガメ（北から）



7．９号住居跡全景（北から）

8．同遺物出土状態（東から）

ＰＬ10　愛宕山遺跡

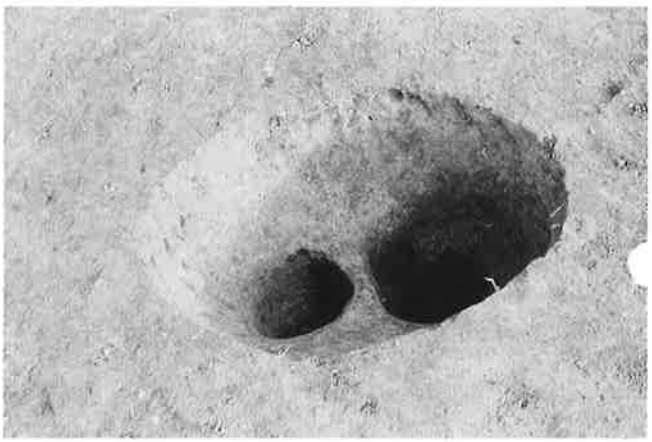
1．9号住居跡セクション（南から）

2．同柱穴（北東から）

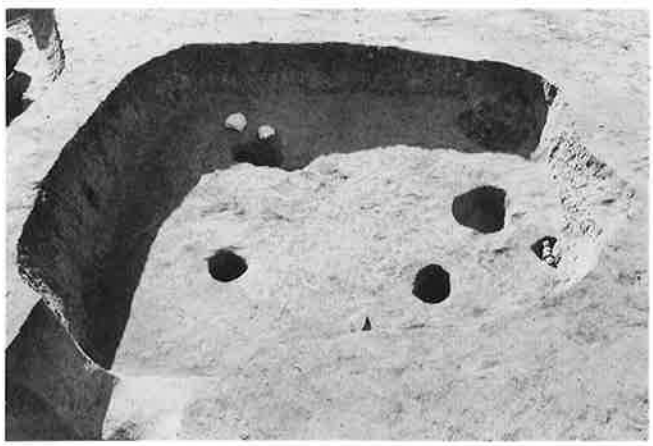
3．10号住居跡全景（北東から）

4．同遺物出土状態（南東から）

5．同ウメガメ（北東から）

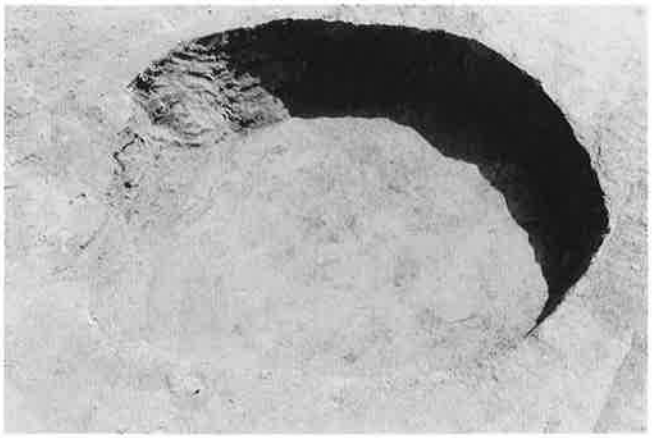


6．同柱穴（北西から）



7．11号住居跡全景（東から）

8．同遺物出土状態（東から）



1．1号土坑

2．3号土坑

3．2号土坑

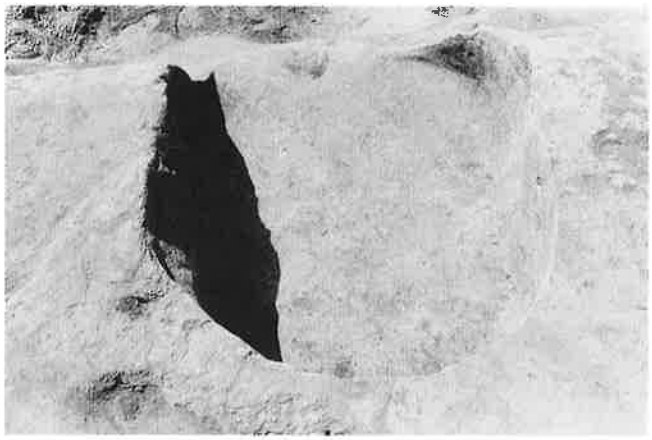
4．2号土坑セクション（南から）

5．2号土坑遺物出土状態（東から）

6．4号土坑

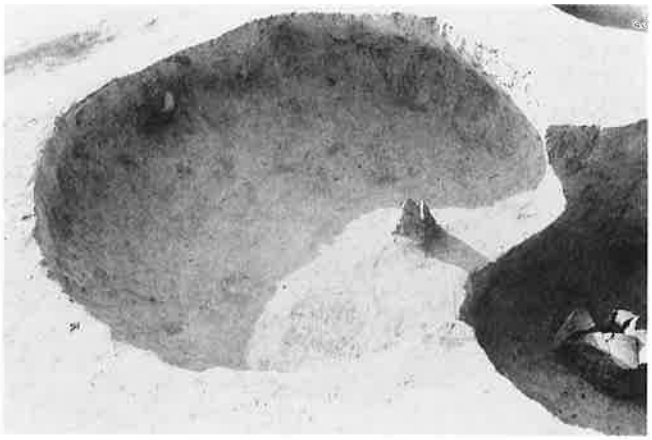
7．5号土坑

8．7号土坑

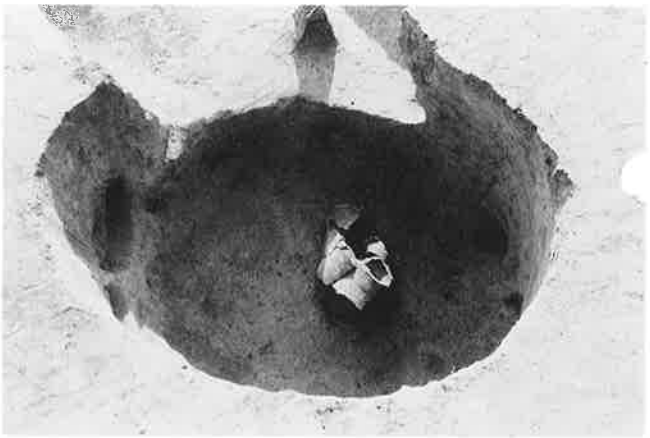


1．８・９号土坑（東から）

2．同遺物出土状態（南西から）



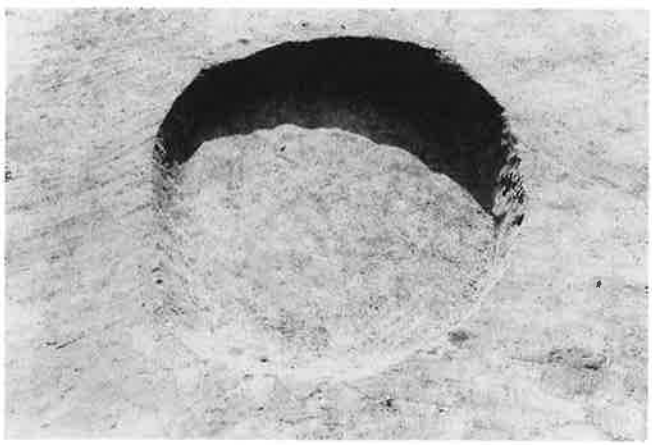
3．10号土坑（南東から）



4．11号土坑（東から）

5．12・13号土坑（東から）

6．12号土坑セクション（南から）



7．14号土坑（東から）

8．16号土坑（西から）

1．17号土坑（北から）

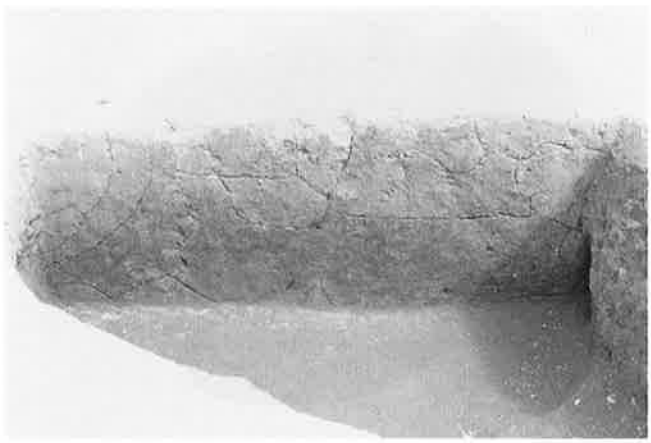
2．18号土坑（北から）

3．19号土坑（東から）

4．20号土坑（北から）

5．21号土坑（北から）

6．22号土坑（北から）



7．23号土坑セクション（南から）

8．29号土坑（南西から）

1．30・33・36・37号土坑（北東から）

2．33号土坑（北東から）

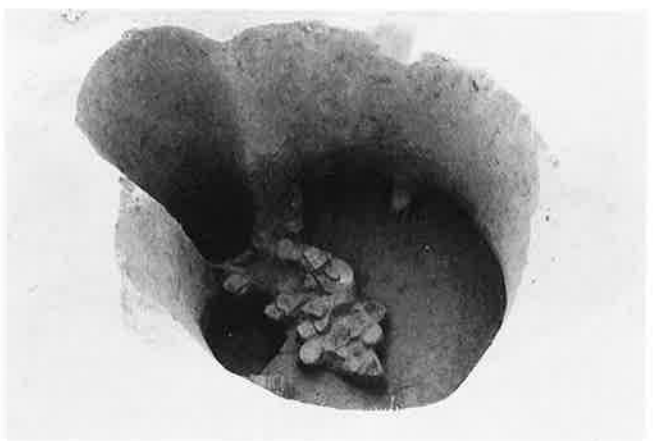
3．30・36号土坑（北から）

4．37号土坑（東から）

5．31号土坑（東から）

6．同覆土上層遺物出土状態（東から）

7．34号土坑（北から）

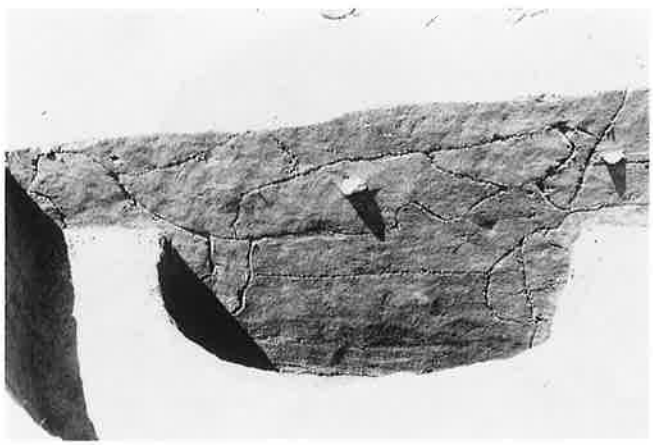


8．35号土坑（東から）

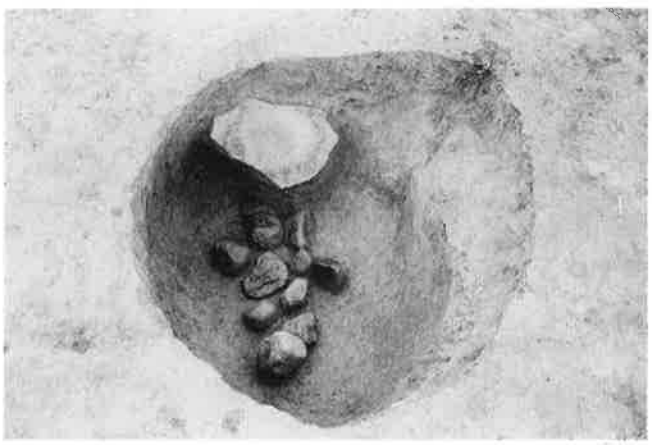
1．39号土坑（西から）

2．38号土坑遺物出土状態（北から）

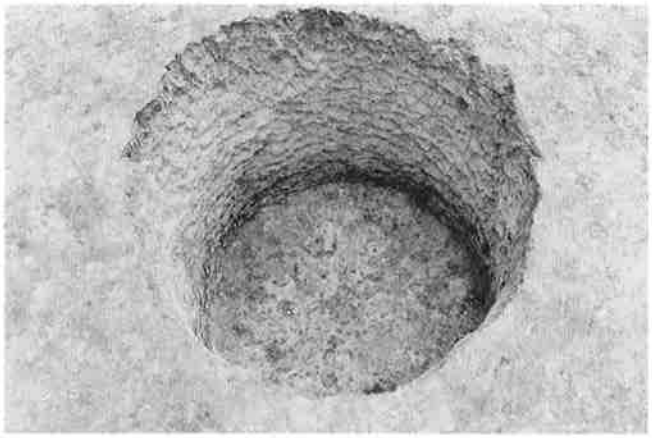
3．39号土坑遺物出土状態（西から）



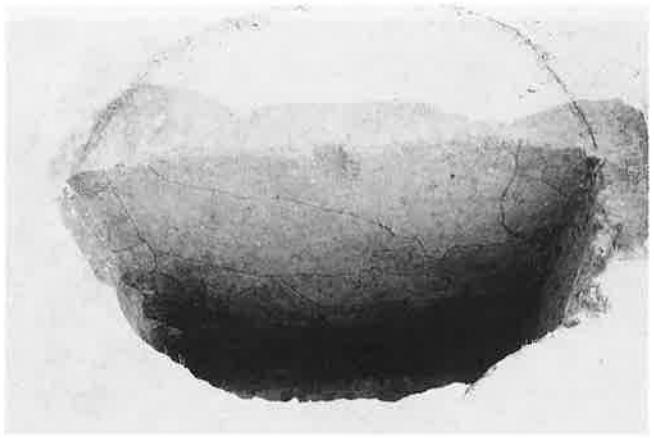
4．41号土坑セクション（東から）



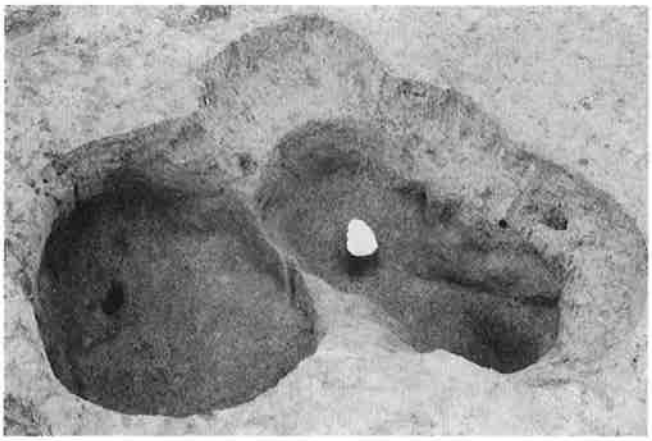
5．45号土坑（北東から）



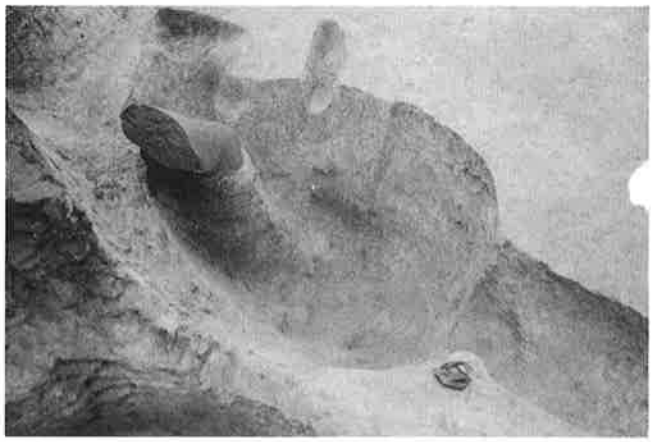
1．44号土坑（北西から）



2．同セクション（南から）



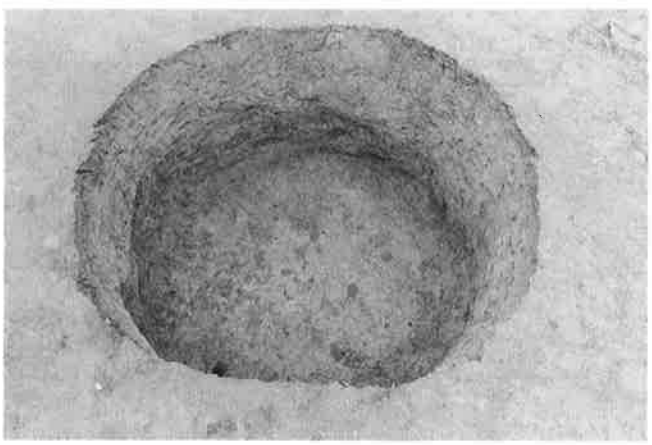
3．46・47・48号土坑（北西から）



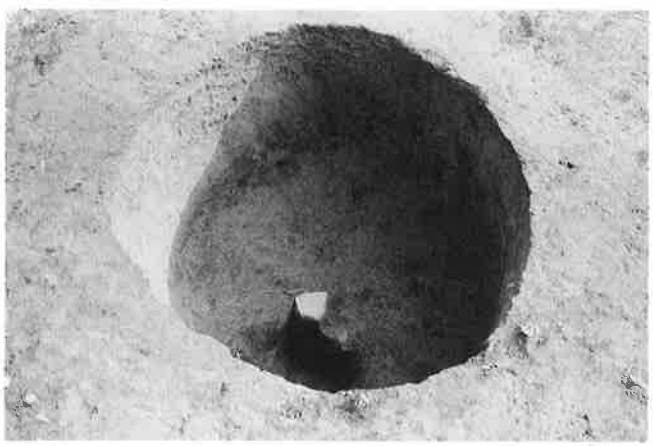
4．50号土坑（南西から）

5．51号土坑（北から）

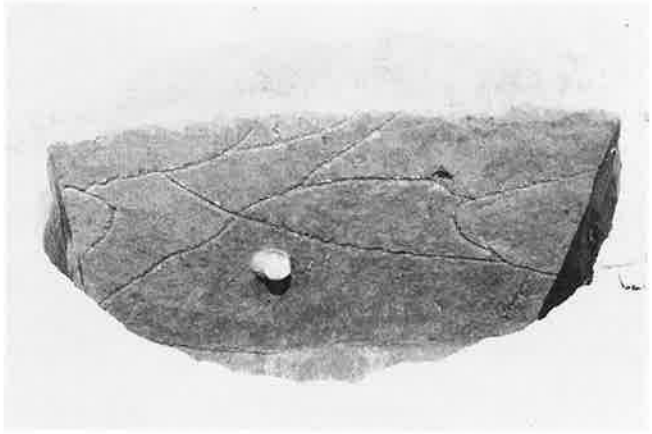
6．52号土坑（北から）



7．53号土坑（北から）

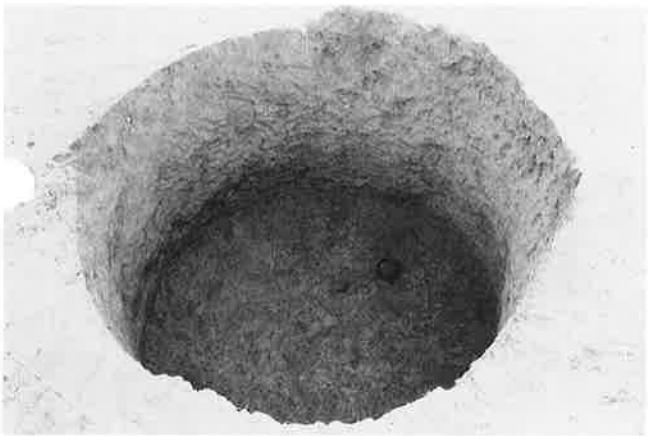


8．54号土坑（北から）

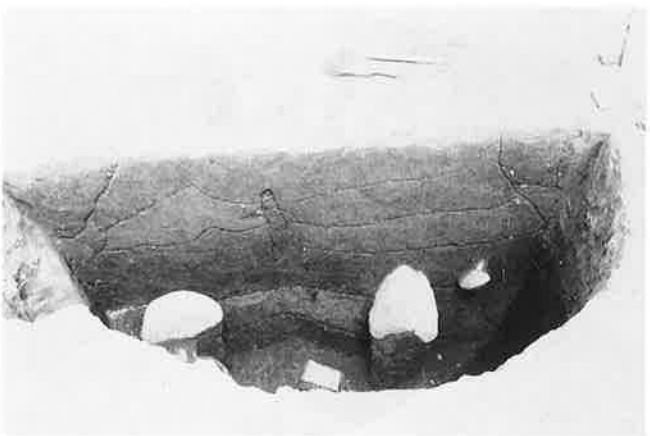


1．55号土坑セクション（南から）

2．56号土坑セクション（南から）

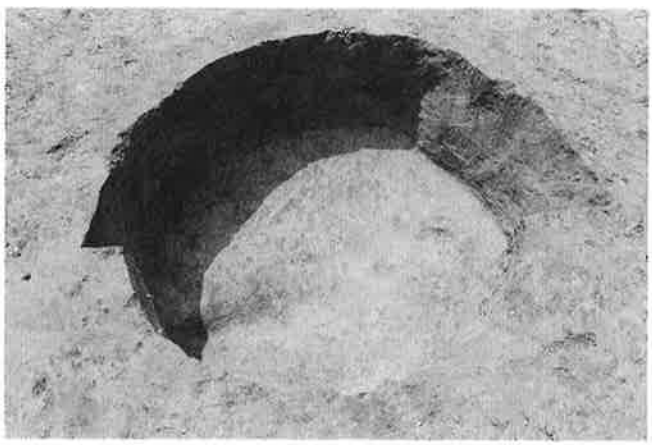


3．57号土坑（東から）

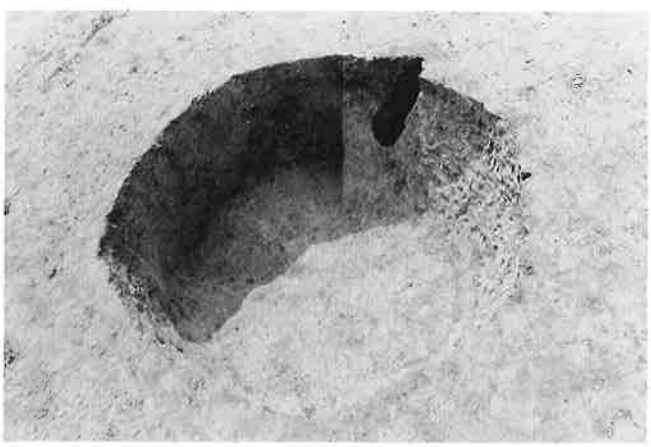


4．同セクション（南から）

5．同遺物出土状態（北から）



6．58号土坑（北から）



7．59号土坑（東から）

8．60号土坑（西から）

PL18　愛宕山遺跡

1．61号土坑（北から）

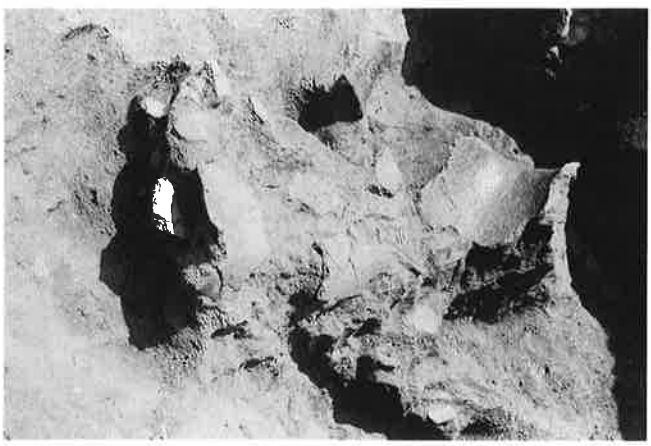
2．63号土坑（東から）

3．66号土坑（北から）

4．72号土坑（北から）

5．67号土坑（北から）

6．同遺物出土状態（北東から）

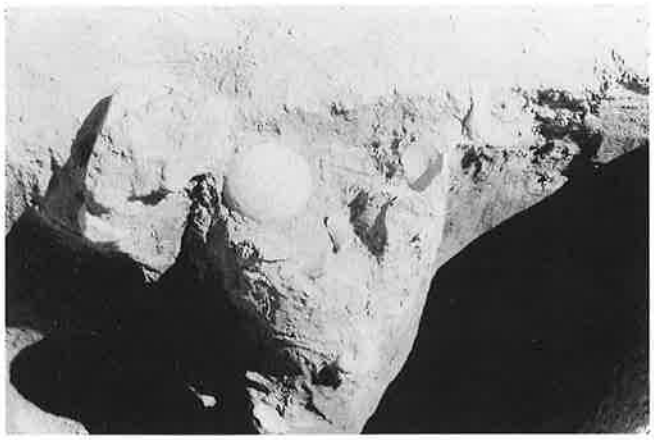


7．同遺物出土状態（北西から）

8．同土玉出土状態（南から）

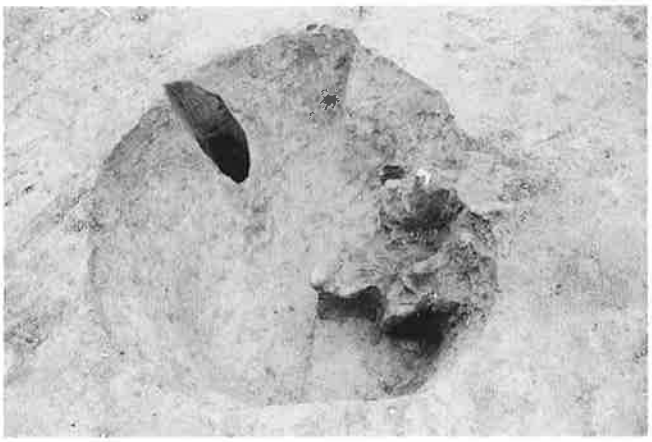
1．68号土坑（北から）

2．71号土坑（北から）



1．71号土坑覆土上層遺物出土状態（南から）

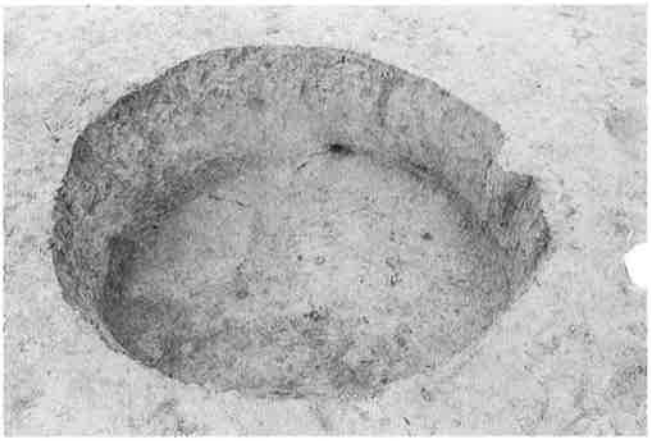
2．74号土坑（北から）



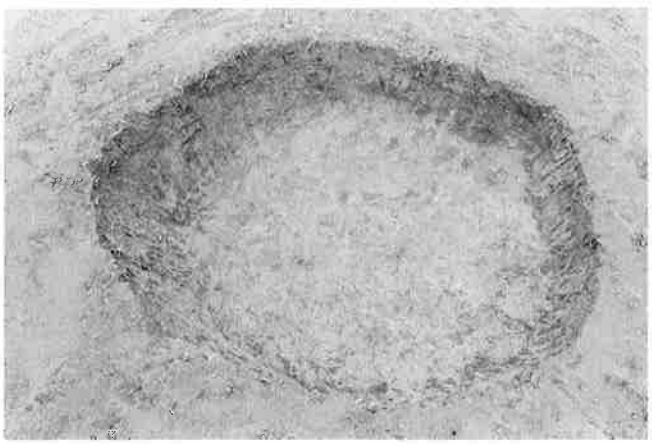
3．75号土坑（東から）

4．80号土坑（北から）

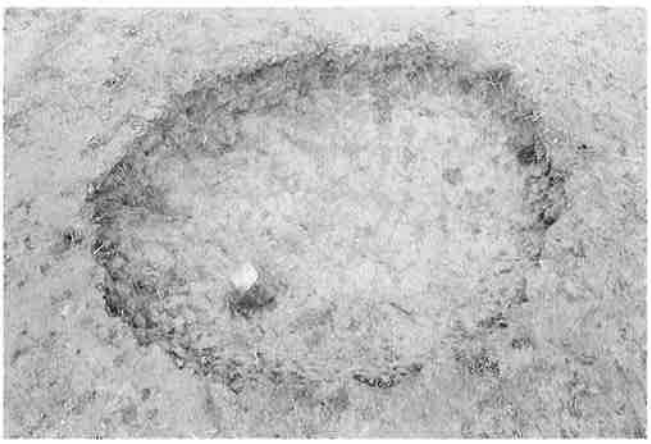
5．81号土坑（北から）



6．82号土坑（北から）



7．95号土坑（北から）

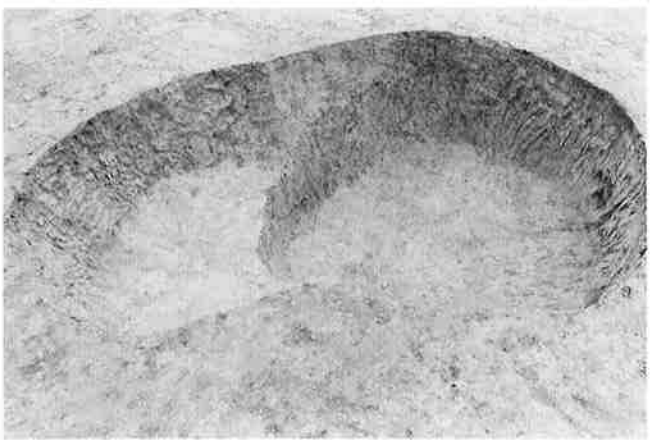


8．96号土坑（北から）

1．97号土坑（北から）

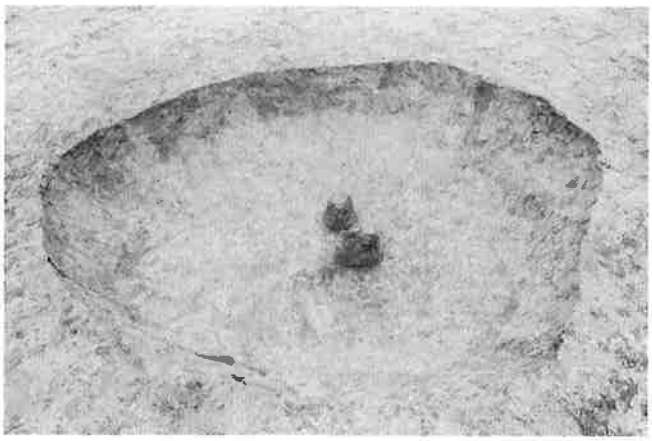
2．99号土坑底面遺物出土状態（南西から）

3．99号土坑（北西から）

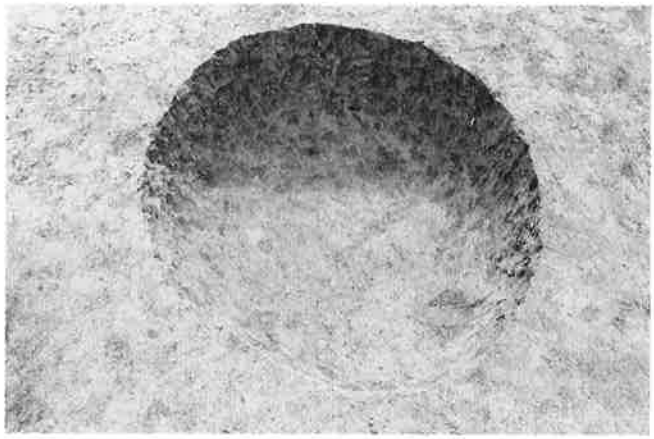


4．100・101号土坑（北から）

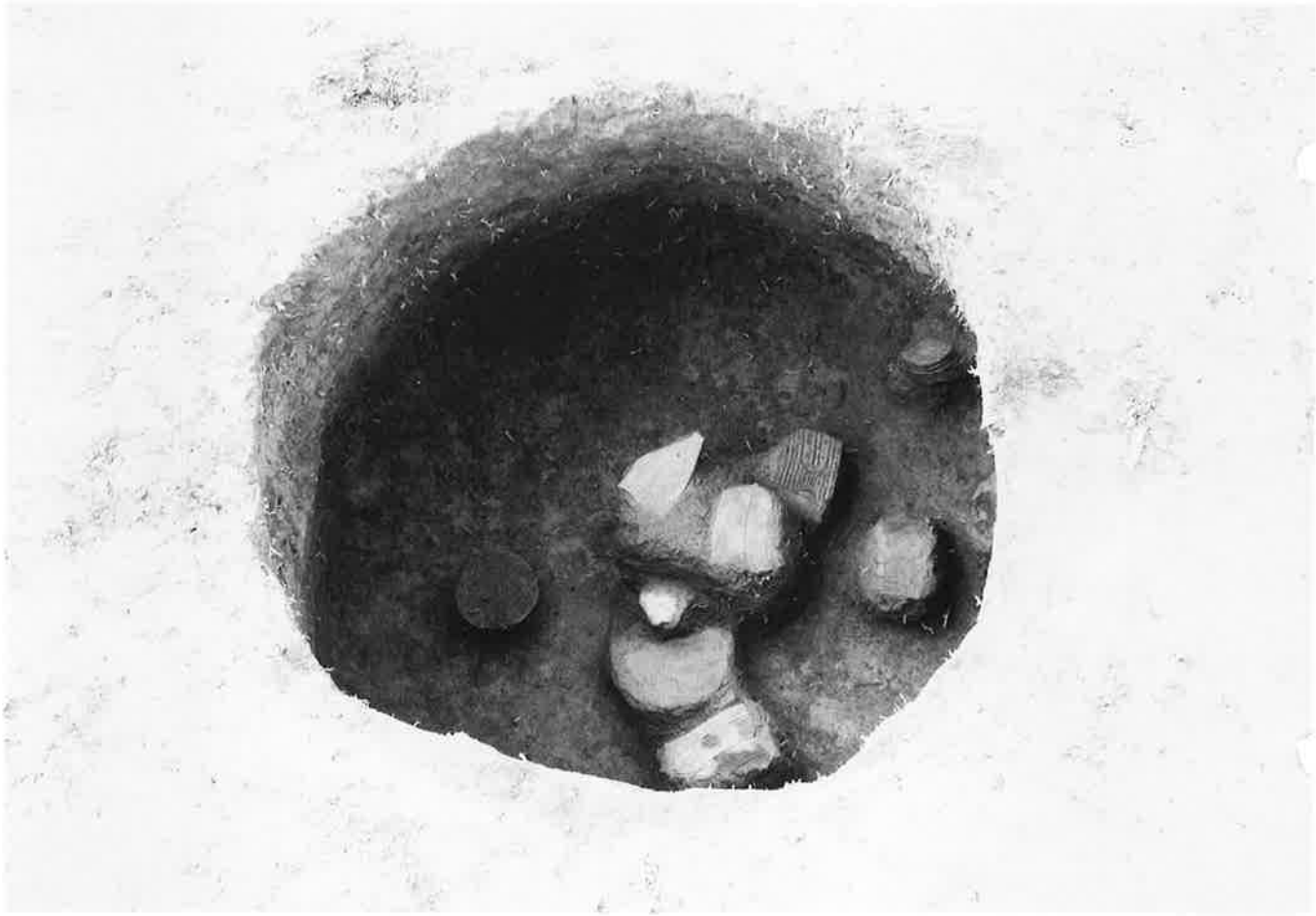
5．104号土坑（南から）



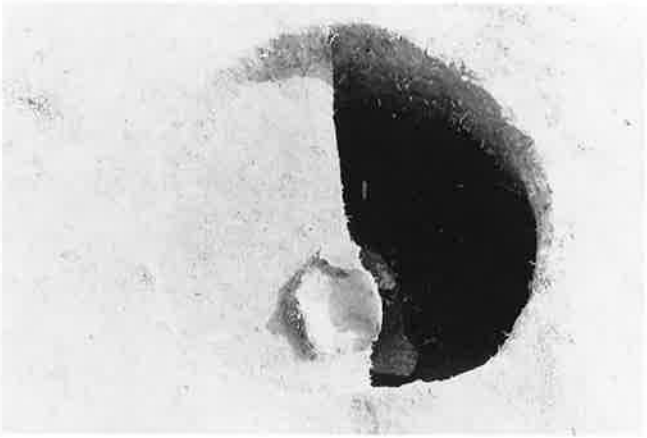
1．105号土坑（北東から）



2．106号土坑（北西から）

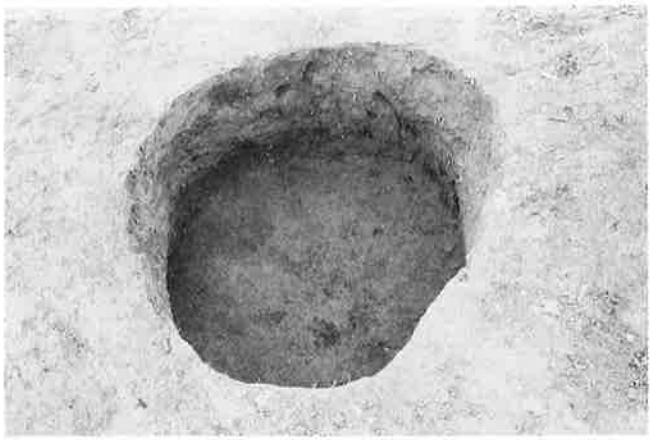


3．107号土坑（北から）



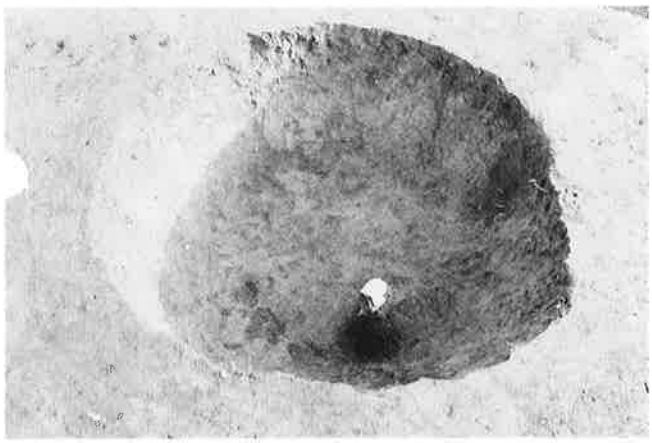
4．107号土坑覆土上層遺物出土状態（西から）

5．108号土坑（東から）

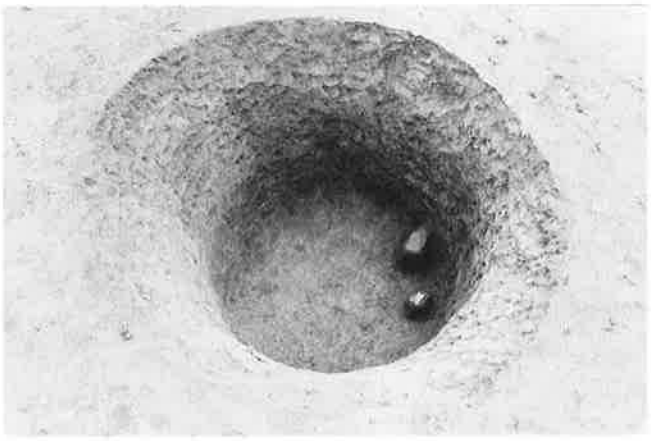


1．109号土坑（北東から）

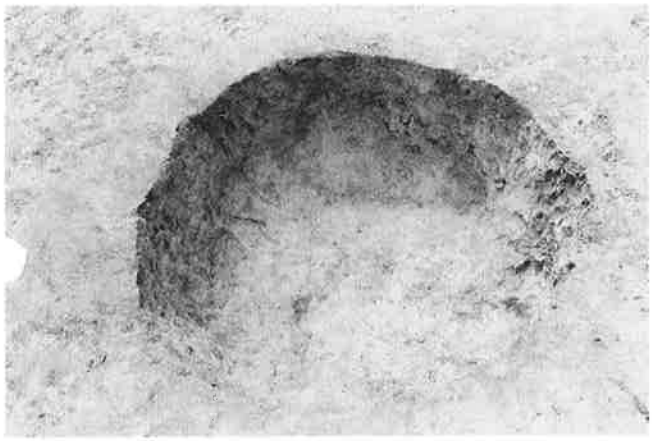
2．111号土坑（東から）



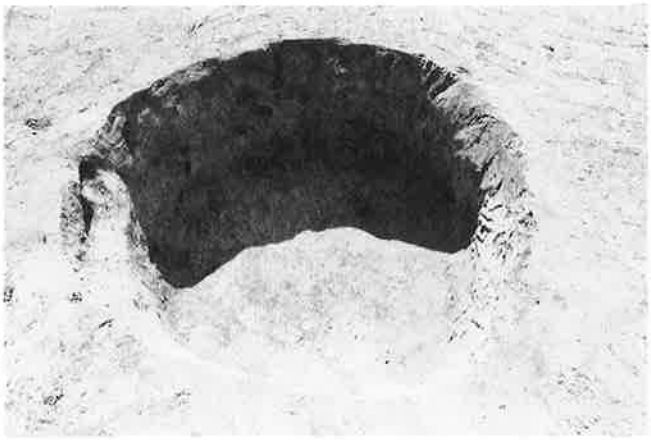
3．112号土坑（北西から）



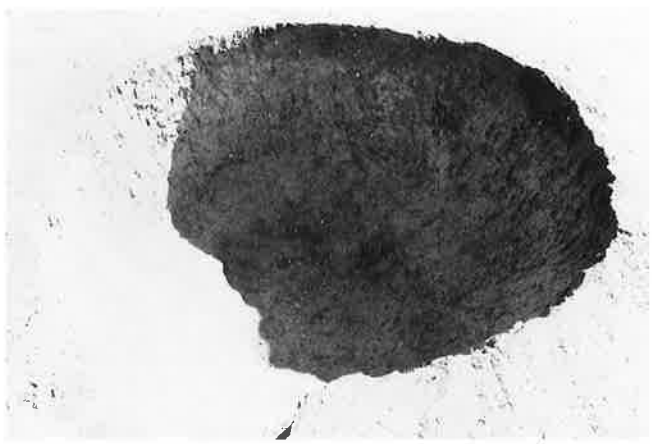
4．113号土坑（北から）



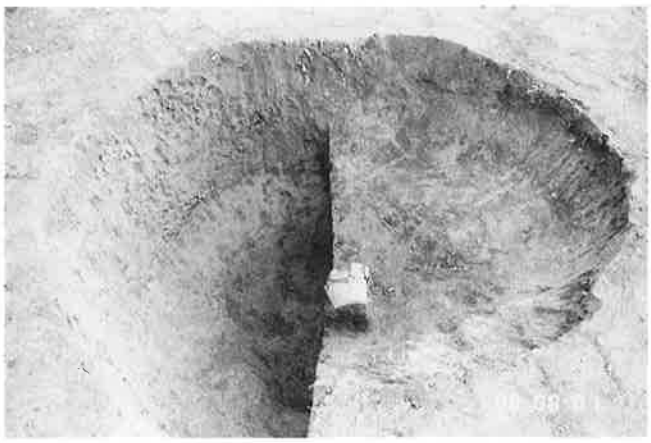
5．117号土坑（北から）



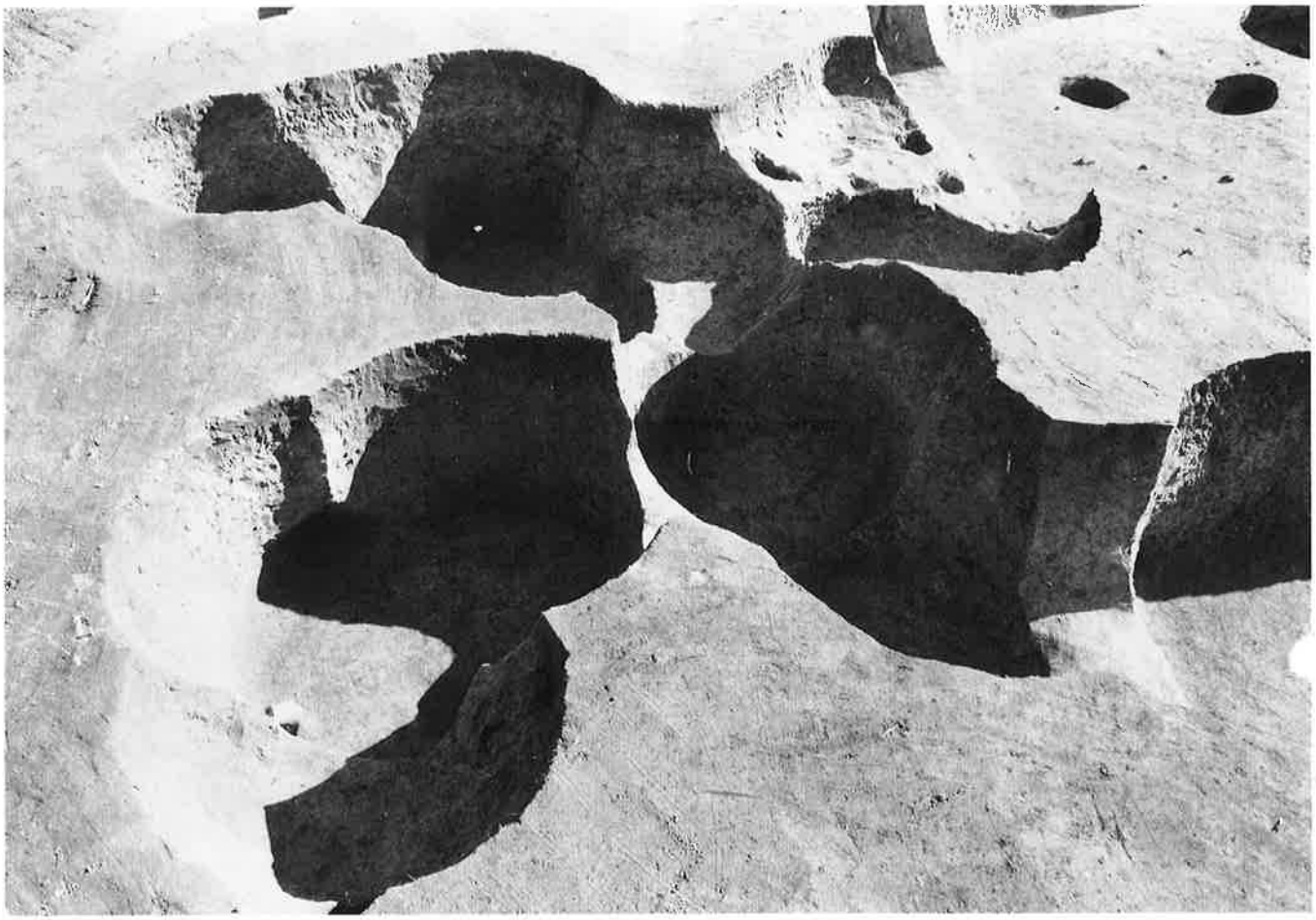
6．118号土坑（北から）



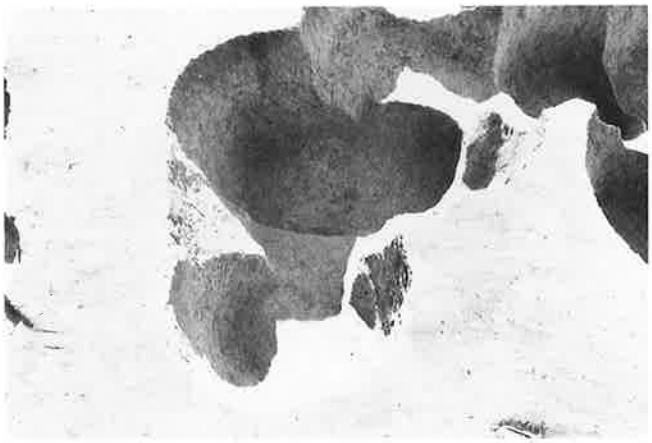
7．121号土坑（北西から）



8．同覆土上層遺物出土状態

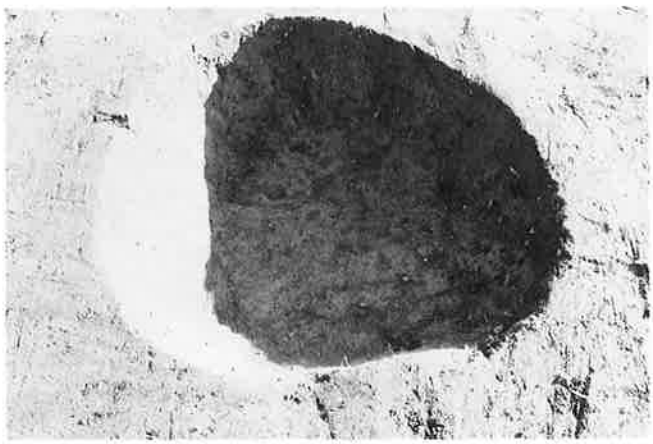


1．10号住東土坑群（北から）

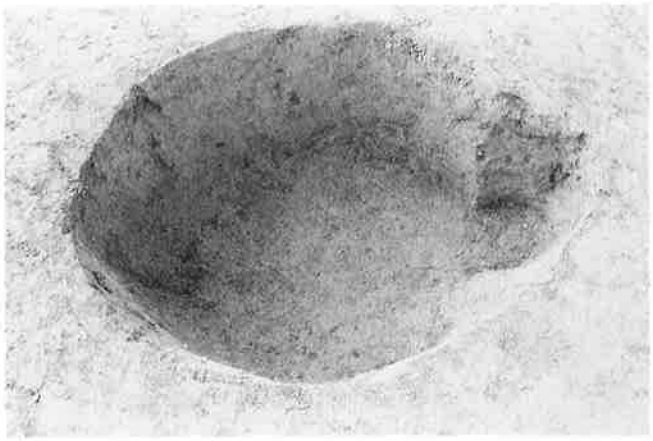


2．122・123号土坑（東から）

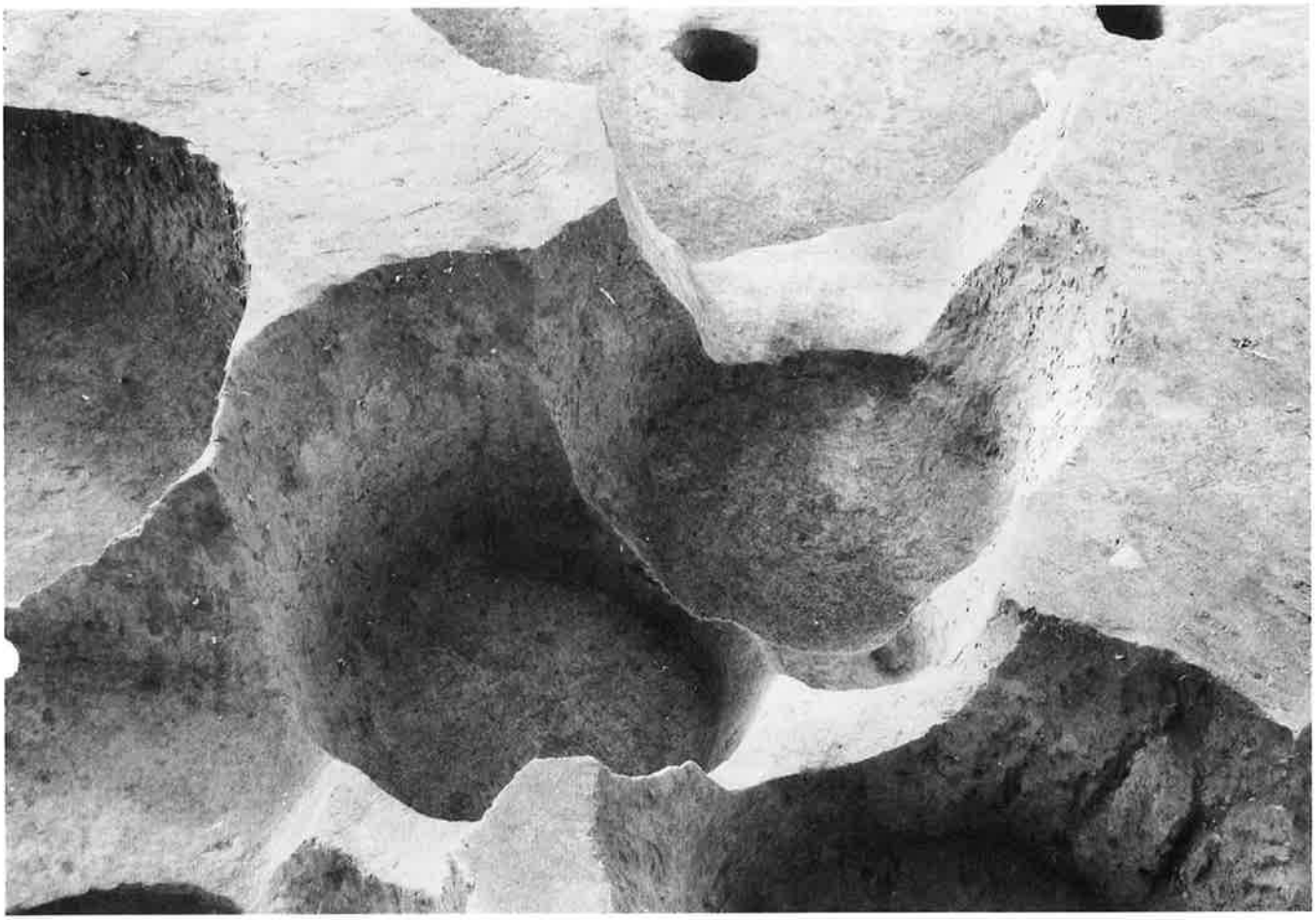
3．124号土坑（北西から）



4．125号土坑（北から）

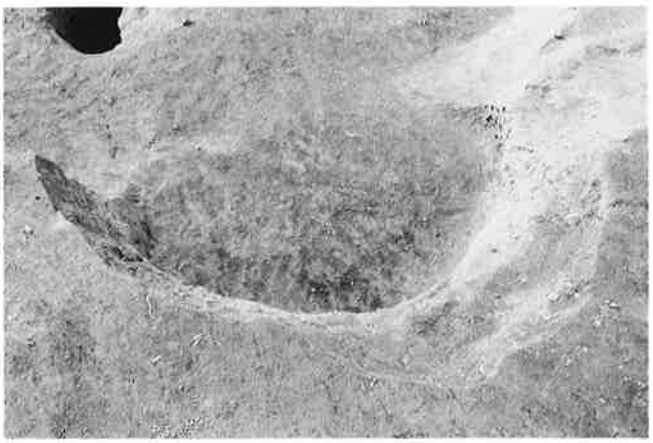


5．128号土坑（南から）



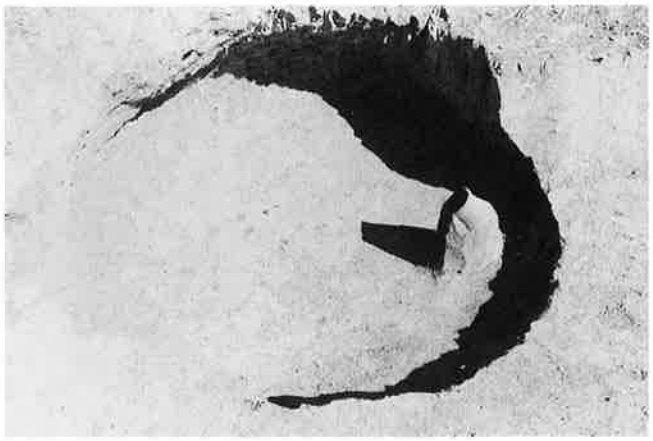
1．130・131・132号土坑（東から）

2．133・138号土坑（北東から）



3．134号土坑（東から）

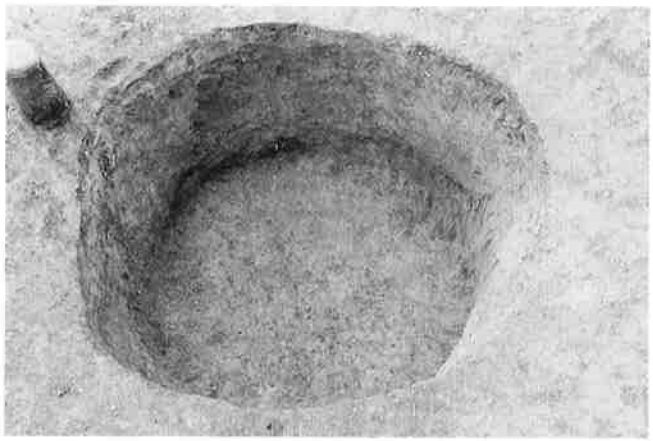
4．135号土坑（東から）



5．137号土坑（南から）

1．139号土坑（南から）

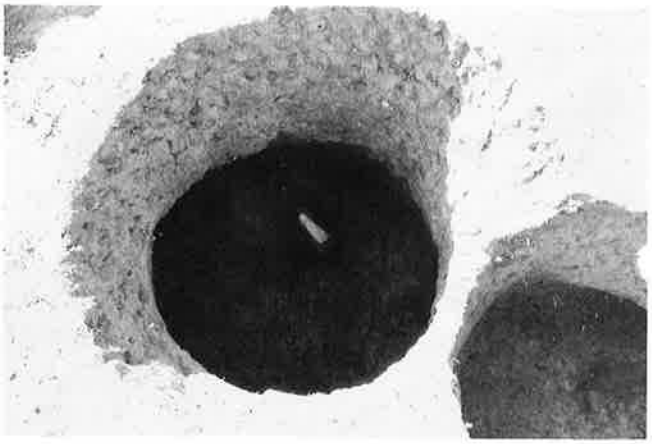
2．140号土坑（北東から）



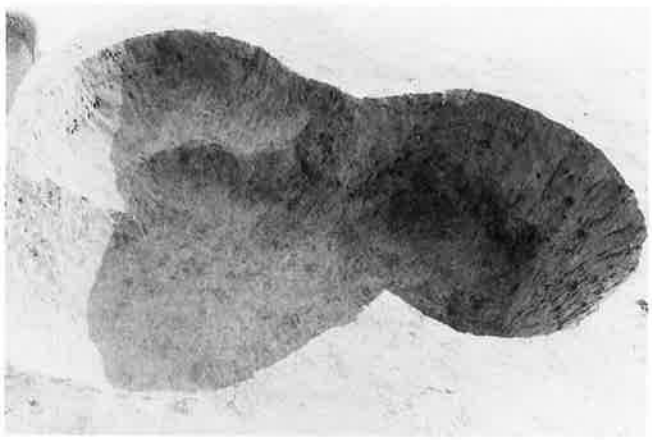
3．141号土坑（北から）

4．142号土坑（西から）

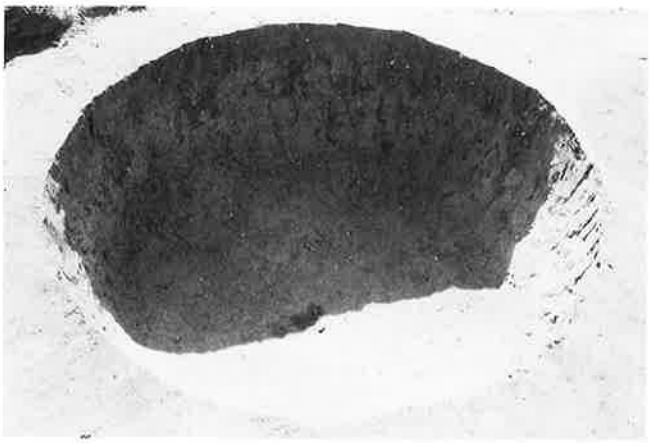
5．143号土坑（南から）



6．144号土坑（南東から）

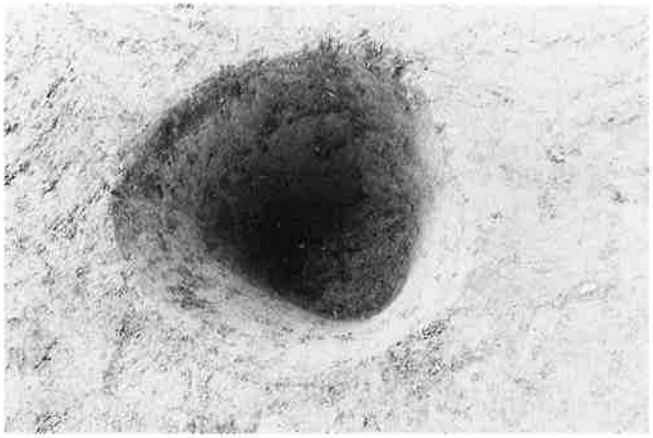


7．145・146号土坑（北から）

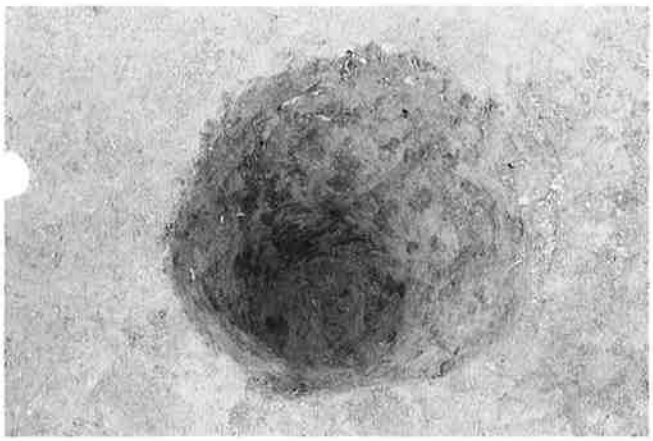


8．147号土坑（北から）

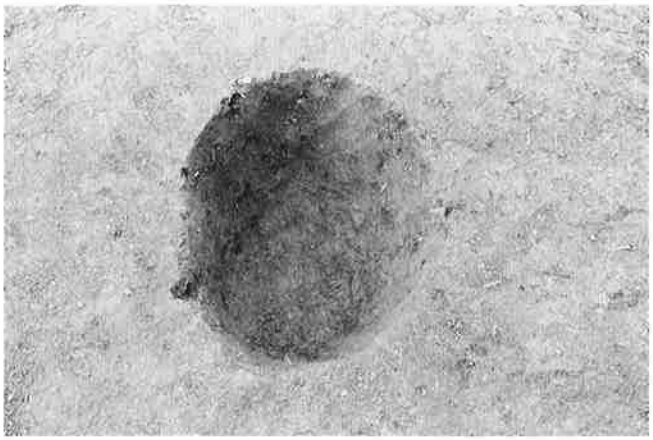
1．148～152号土坑（北から）



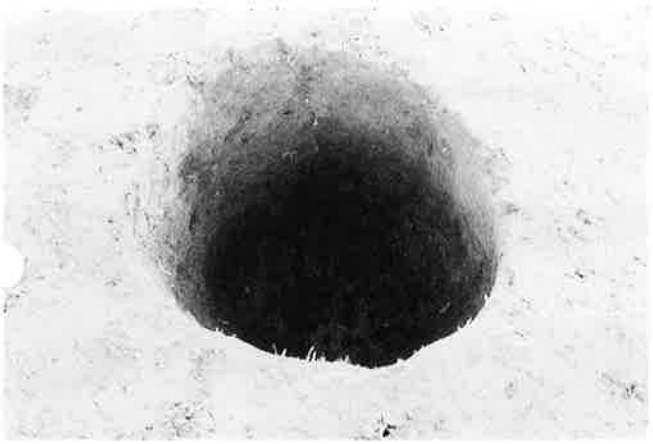
2．129号土坑（北東から）



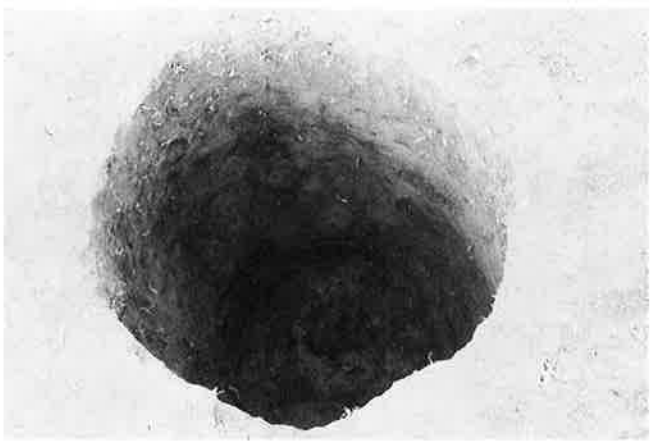
3．2号ピット（北西から）



4．4号ピット（西から）

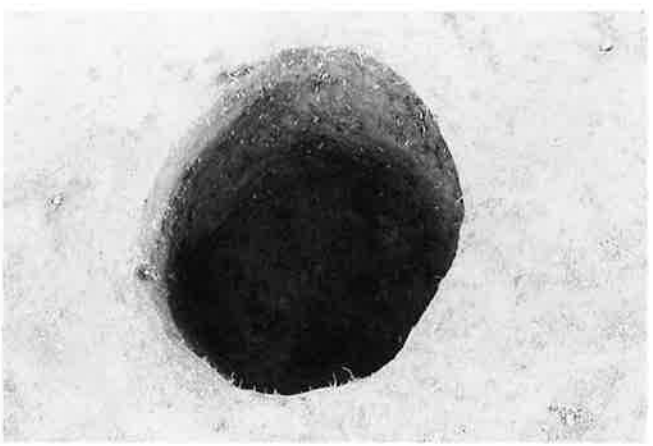


5．5号ピット（北西から）



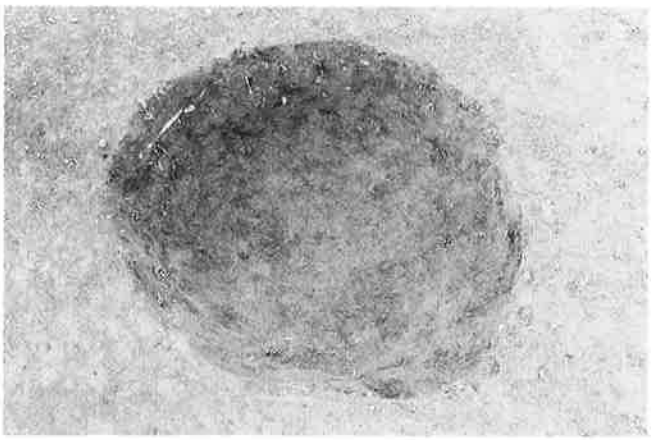
6．6号ピット（北西から）

7．7号ピット（南から）

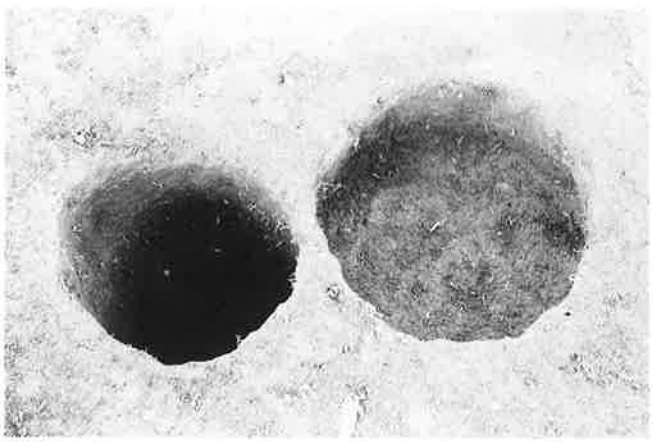


8．8号ピット（北から）

ＰＬ28　愛宕山遺跡



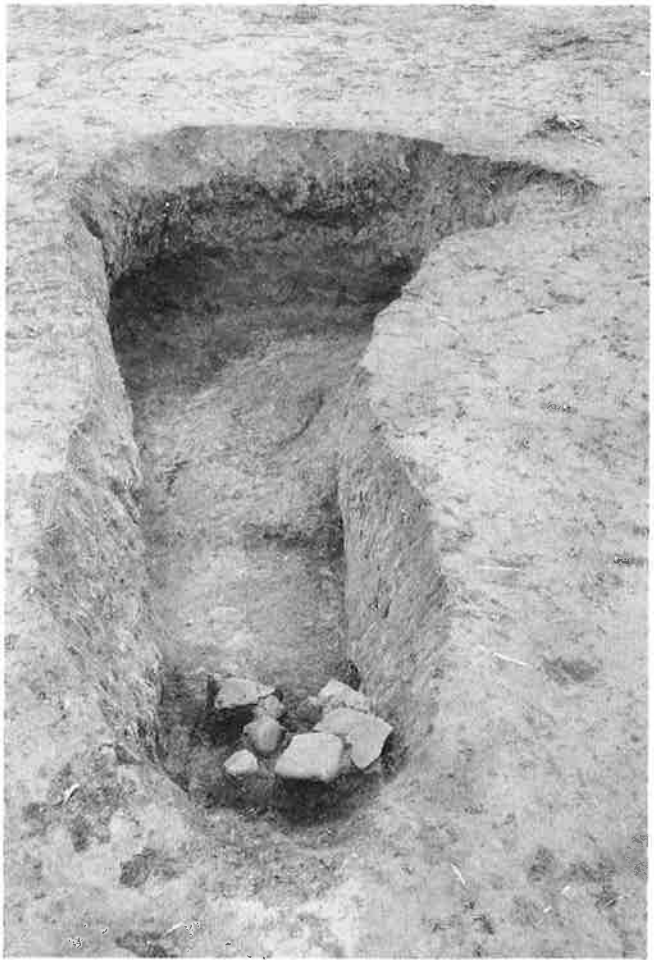
1．９号ピット（南から）



2．10・11号ピット（東から）

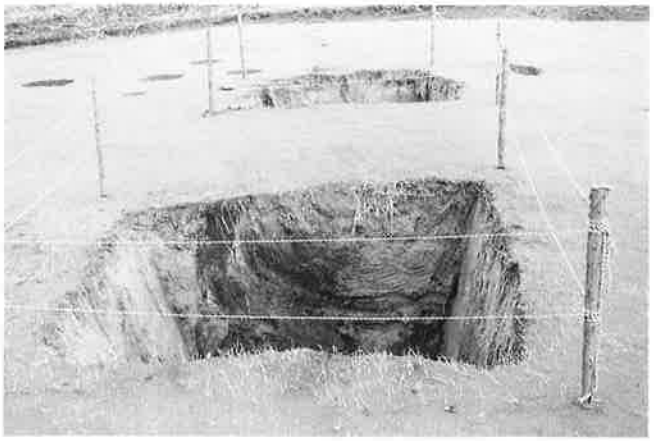
3．12号ピット（北から）

4．ピット群（北東から）



5．１号炭焼窯（西から）

6．道路跡（南から）



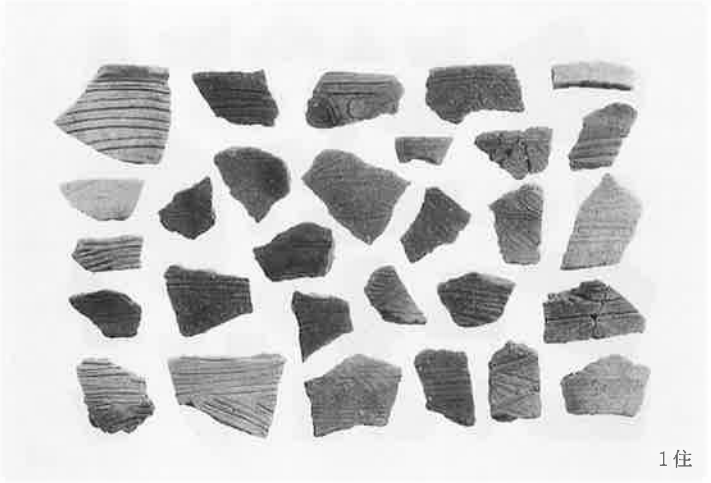
7．撹乱坑（南西から）

1住－1

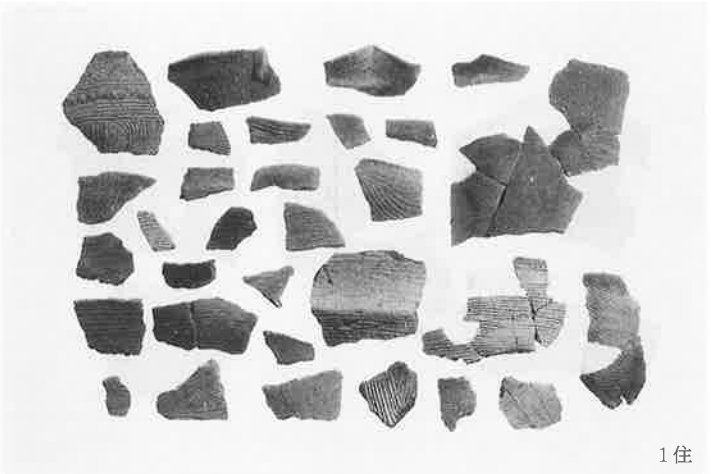
1住－3

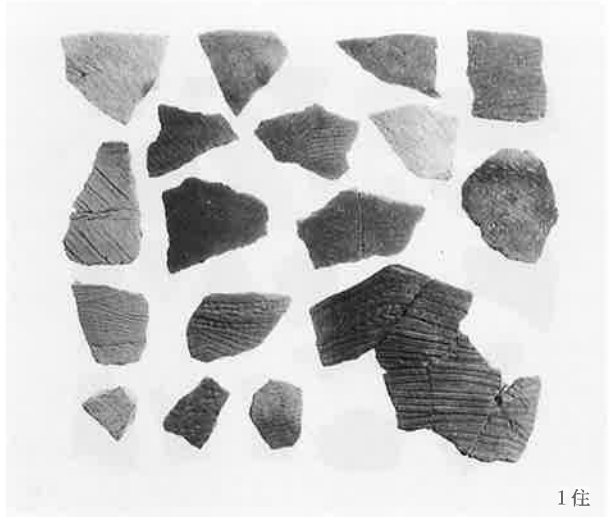
1住－2

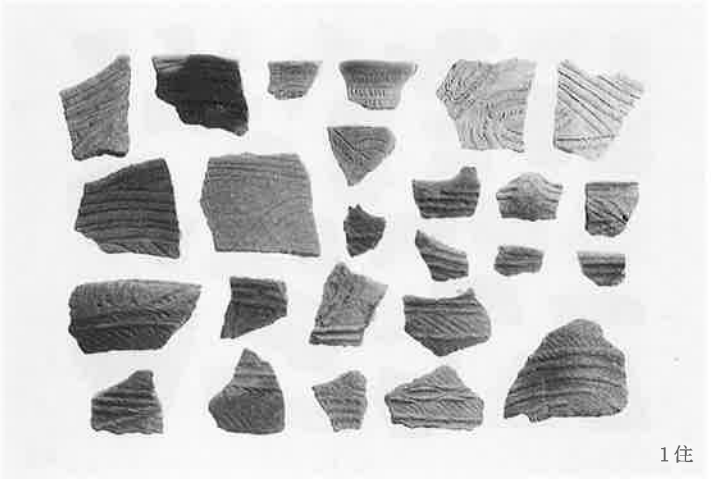
1住－5


1住

1住－8


1住

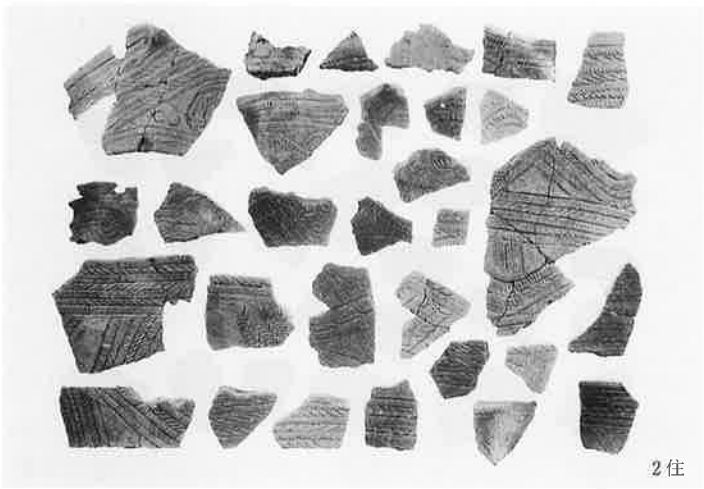

1住

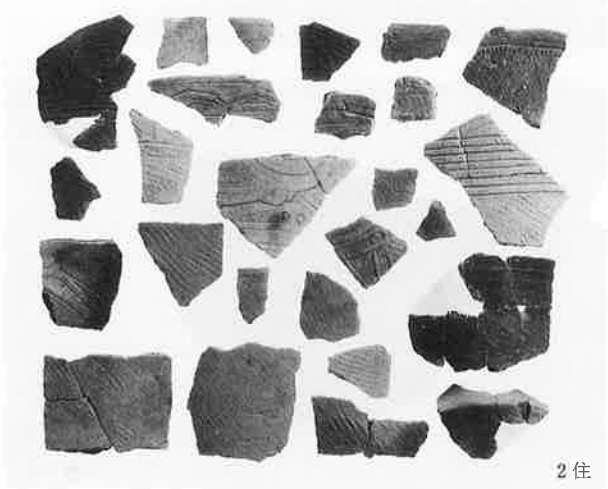

1住

1号住居跡出土土器

2住－2

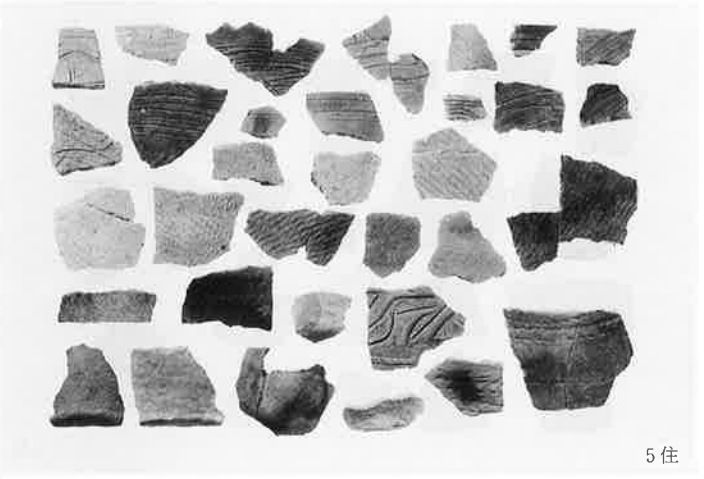
2住－4

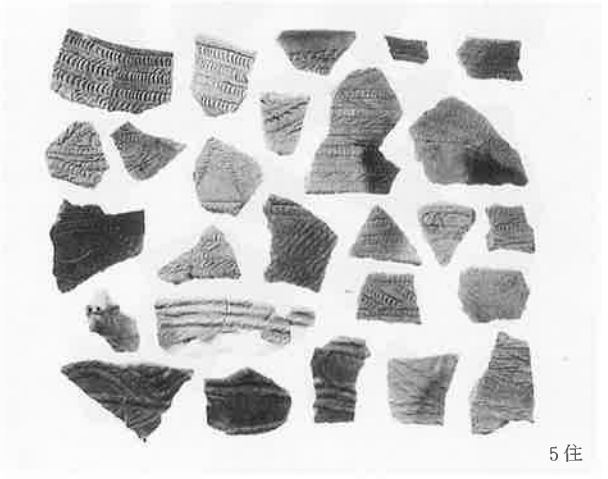

2住


2住

5住

5住－4


5住


5住

2・5号住居跡出土土器

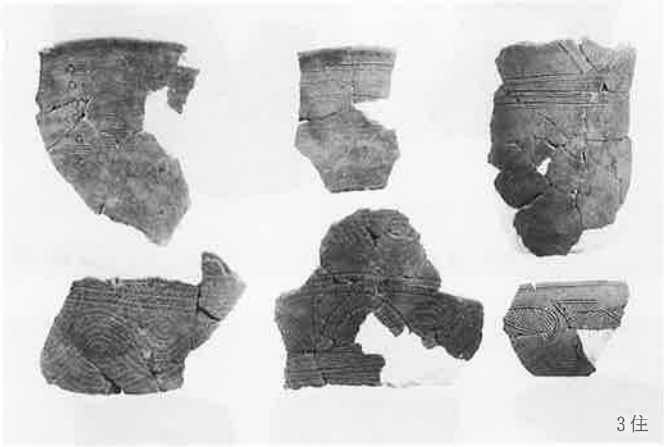
3住－1

3住－5・7

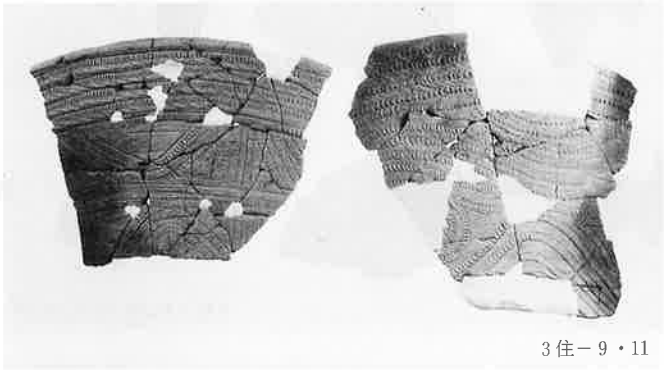
3住

3住－13

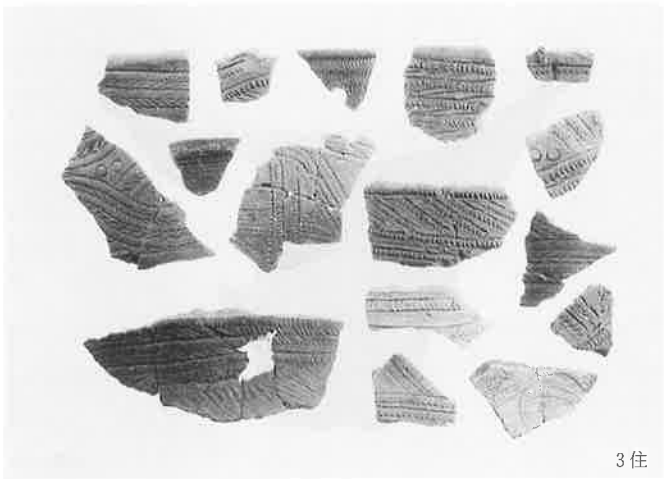
3住－14

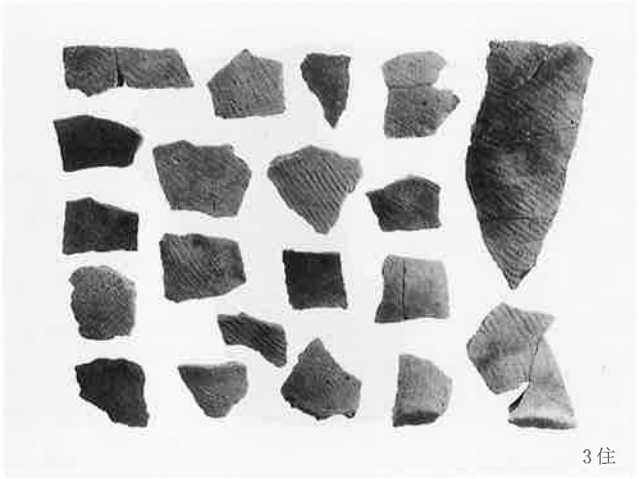

3住

3住


3住－9・11

3住


3住


3住

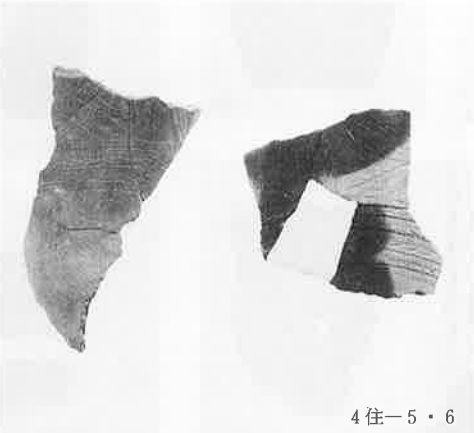
3号住居跡出土土器

4住－1

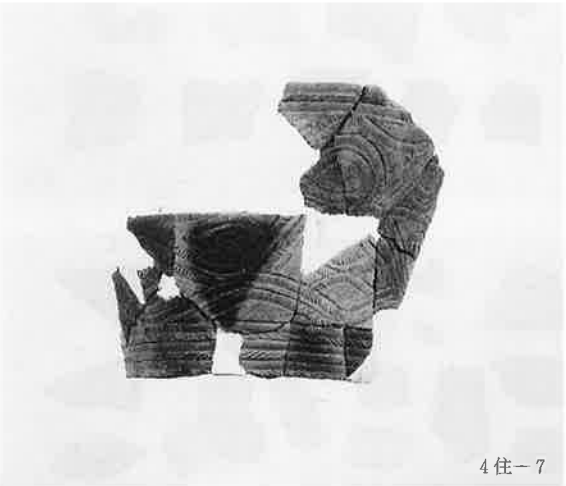
4住－2

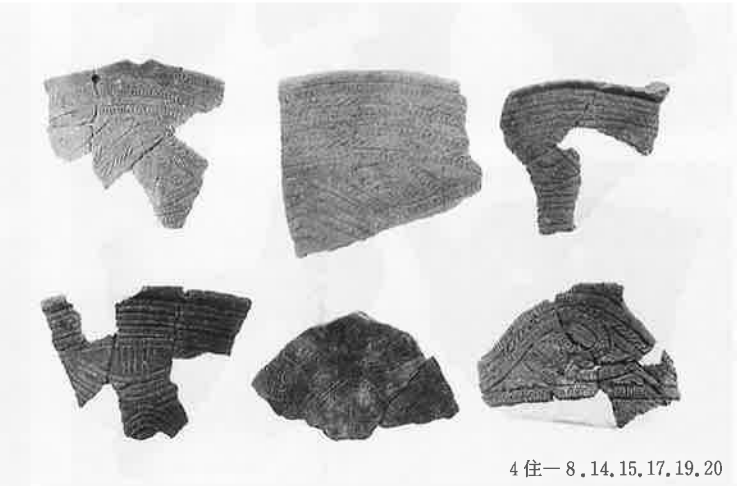
4住－4

4住－3


4住－5・6

4住－13


4住－7


4住－8.14.15.17.19.20

4住－9

4住－9

4号住居跡出土土器(1)

4住—10

4住—12

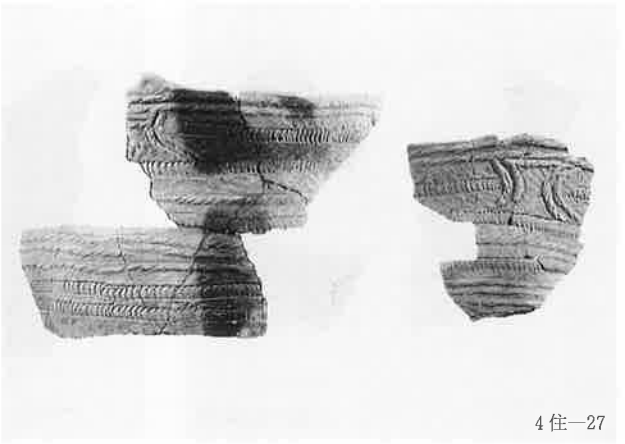
4住—18

4住—16

4住—21.22.25.26

4住—24

4住—23


4住—27

4住—30

4住—32

4住—32

4号住居跡出土土器（２）

4住—29

4住—33

4住—34

4住—37

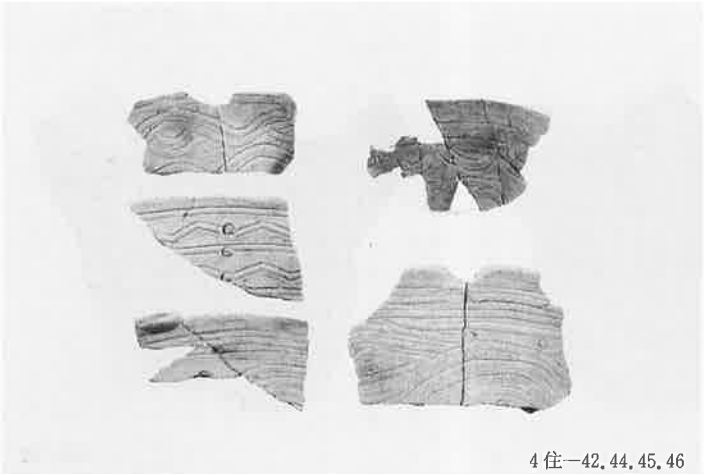
4住—38

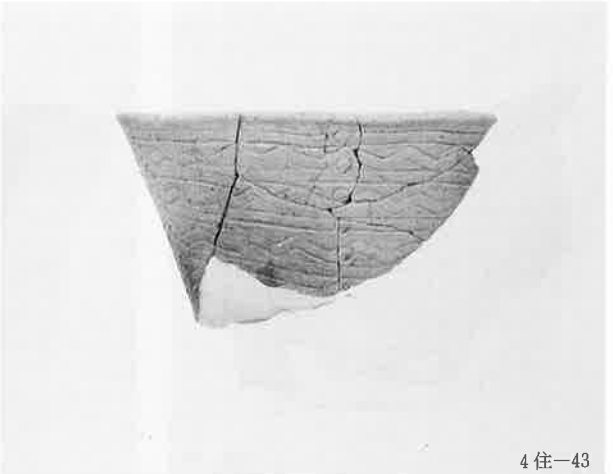
4住—31

4住—28.36.39

4住—40

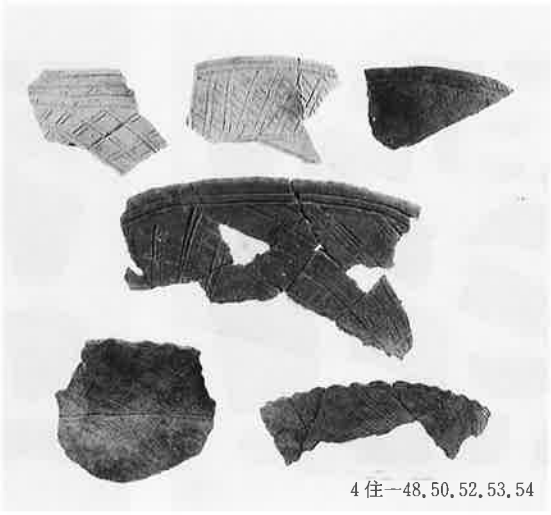
4住—41


4住—42.44.45.46


4住—43

4号住居跡出土土器（３）

4住—47


4住—48.50.52.53.54

4住—49

4住—59

4住—51

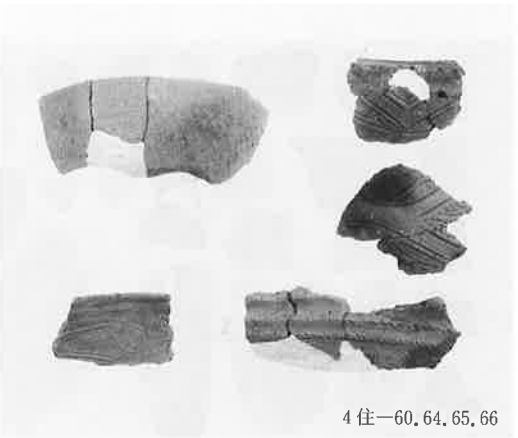
4住—55

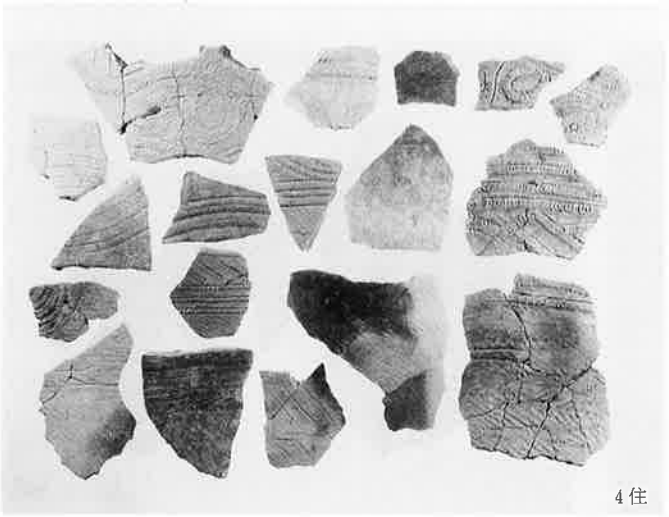
4住—56

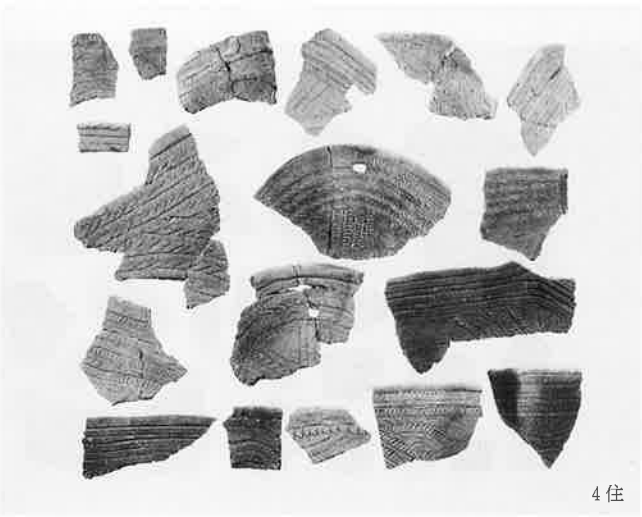
4住—57

4住—58

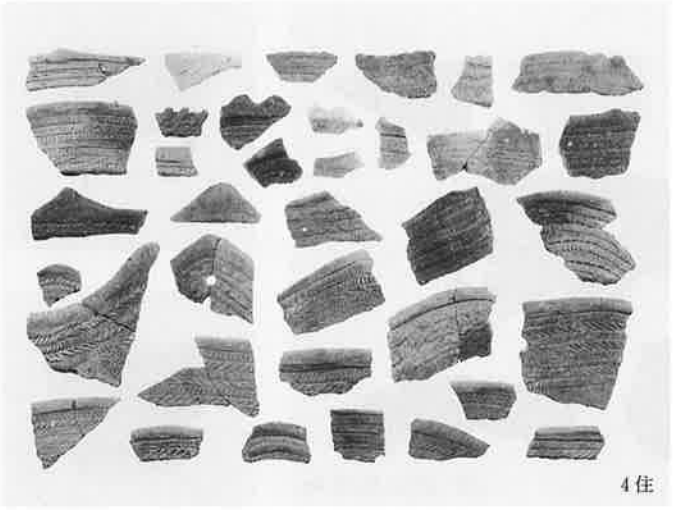
4住—62

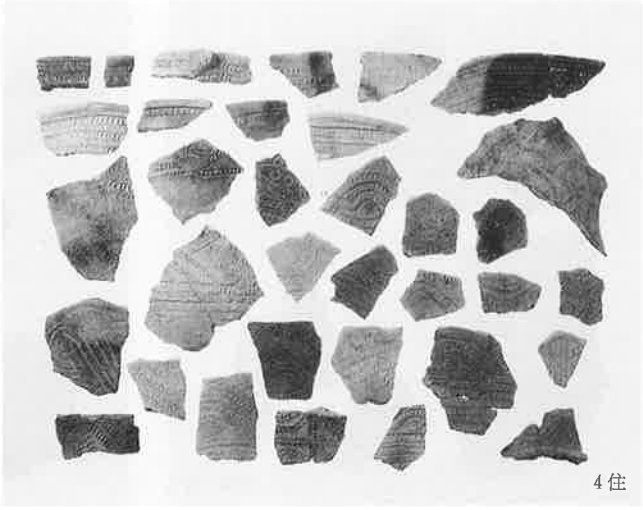

4住—60.64.65.66

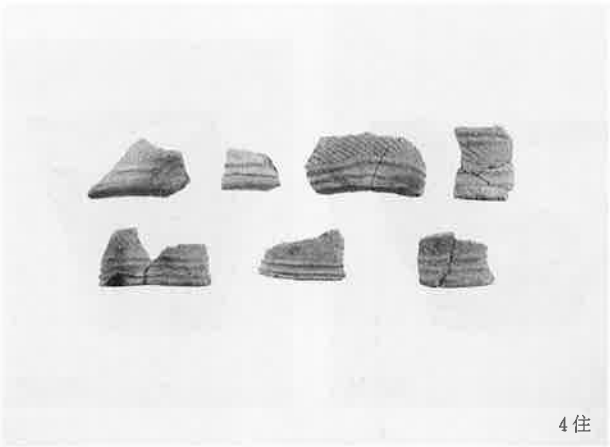

4住

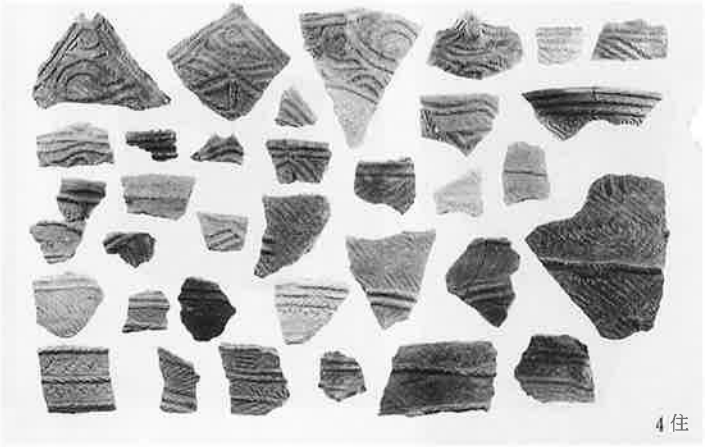

4住

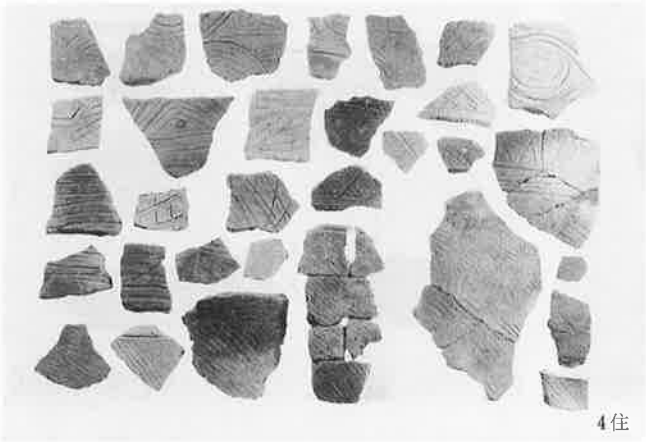
4号住居跡出土土器(4)

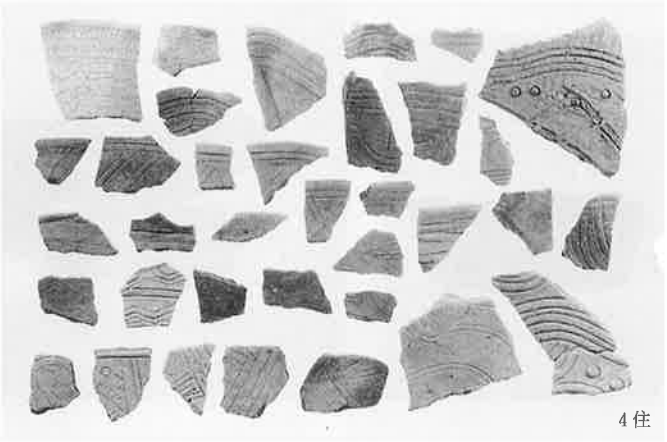

4住

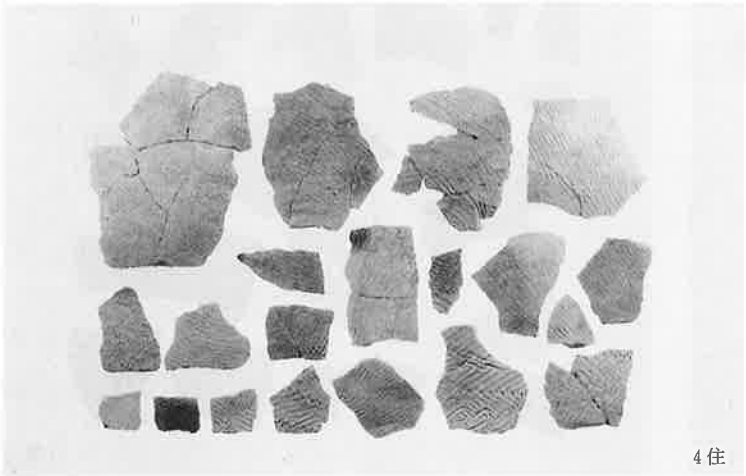

4住

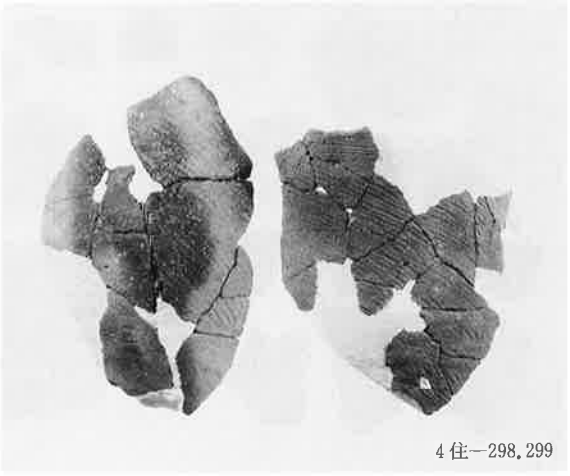

4住


4住


4住


4住

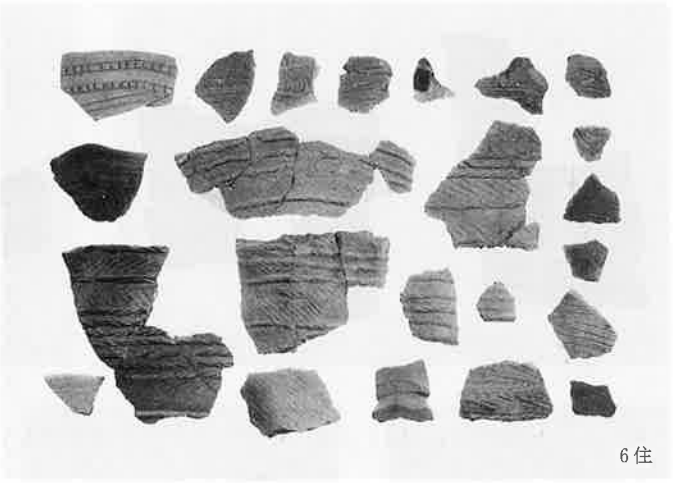

4住


4住—298.299

4号住居跡出土土器(5)

6住－1

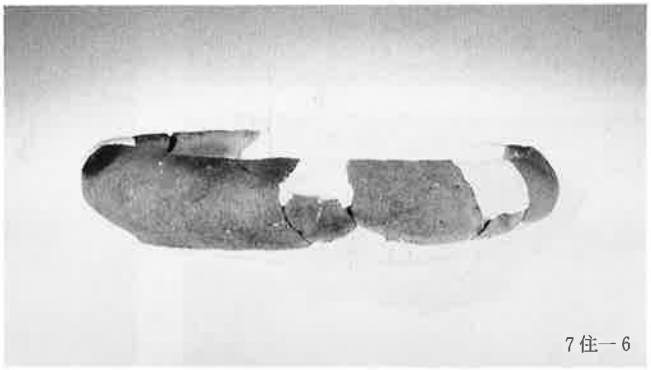
6住－3


6住

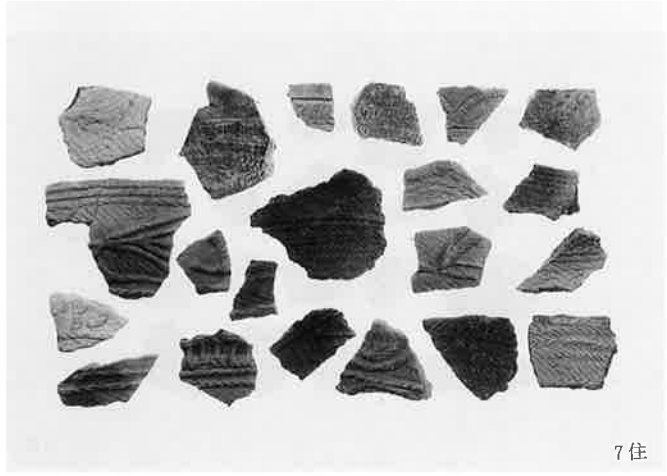
7住－1

7住－3

7住－54

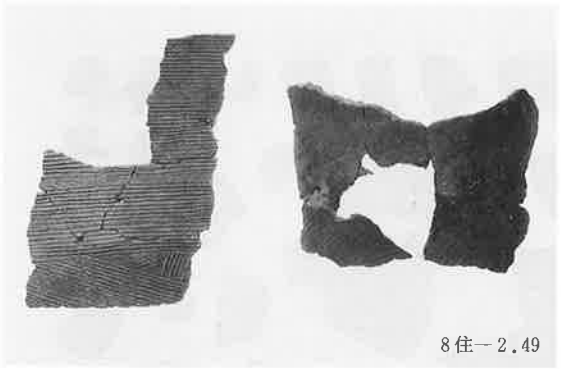

7住－6

7住－4

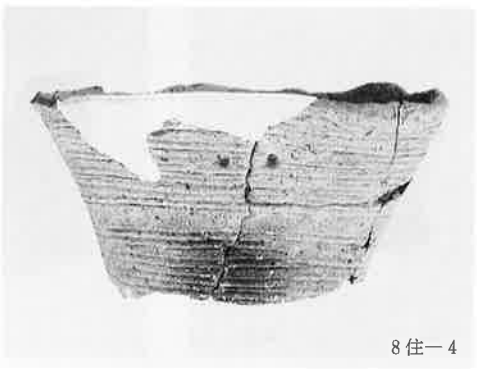

7住

7住

6・7号住居跡出土土器

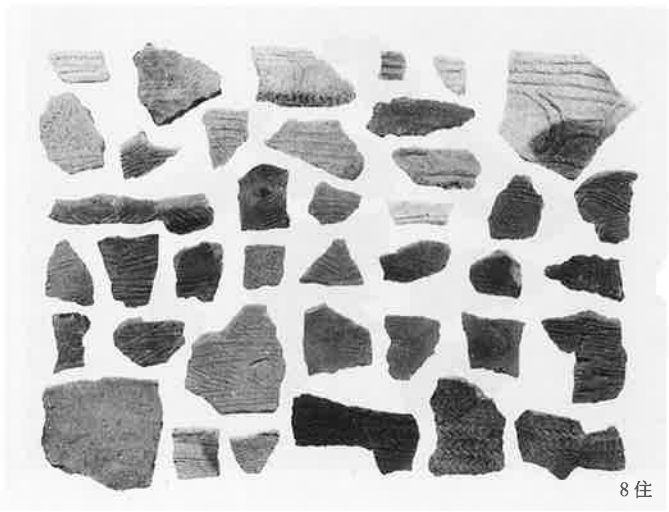

8住－2.49

8住－7


8住－4

8住－5

8住－3


8住

9住－1

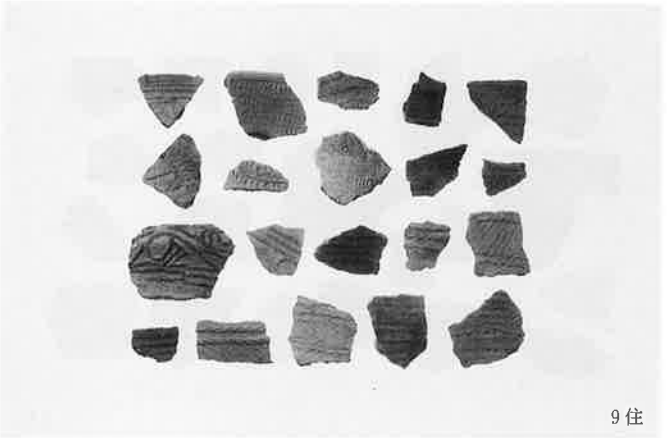
9住－1

9住－6

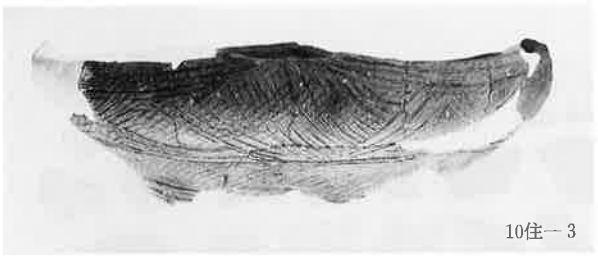
9住－4

9住－3

9住

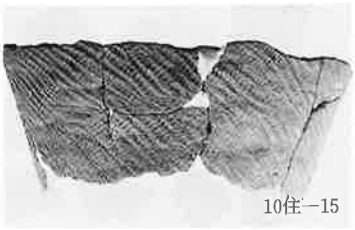

9住

8・9号住居跡出土土器


10住－3

10住－14

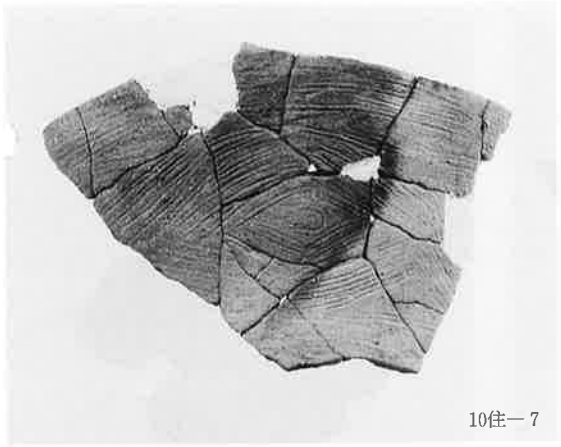
10住－8

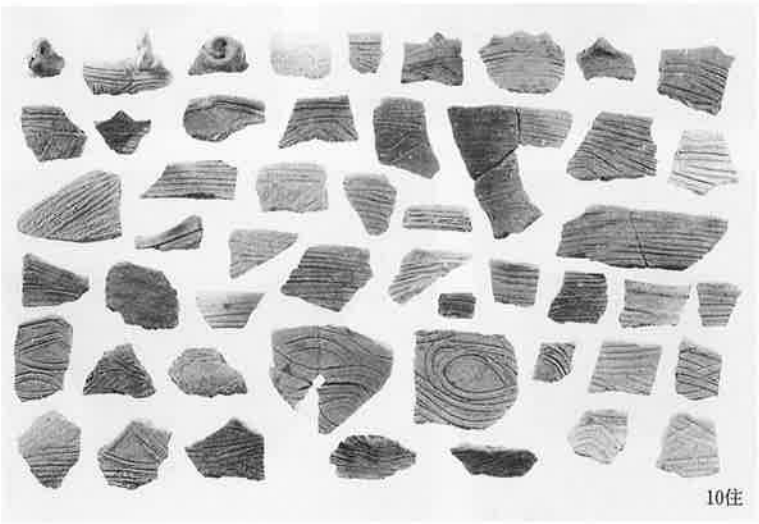

10住－15

10住－5

10住－6

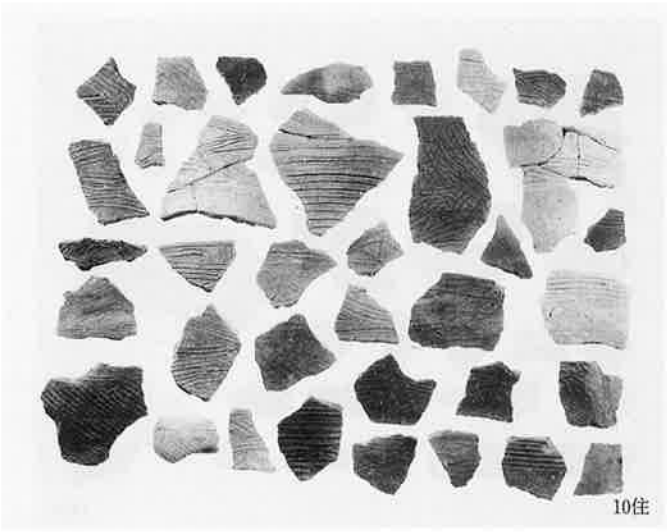
10住－16

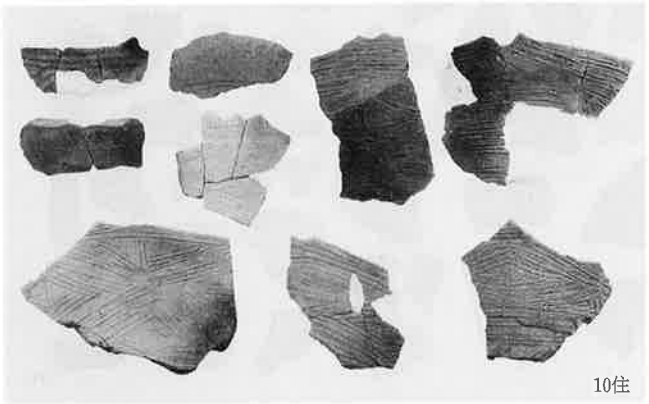

10住－7


10住

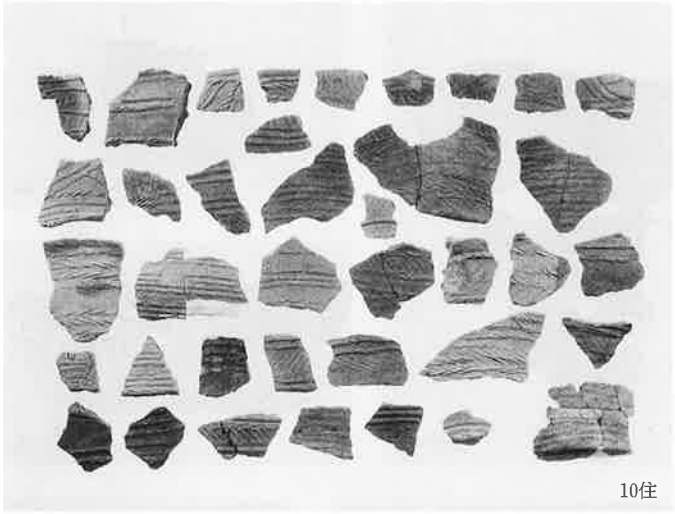
10住－17

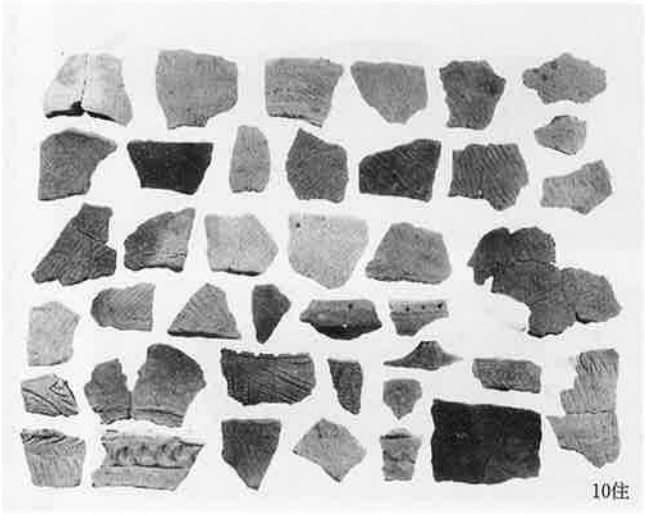
10住


10住


10住

10号住居跡出土土器（1）


10住


10住

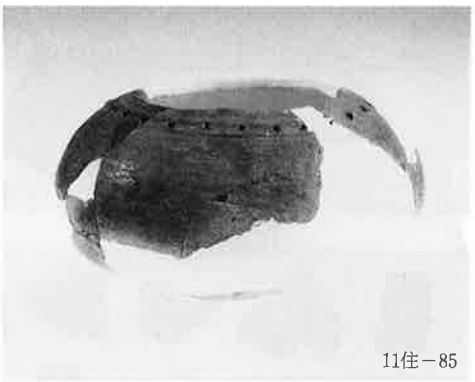
11住－1

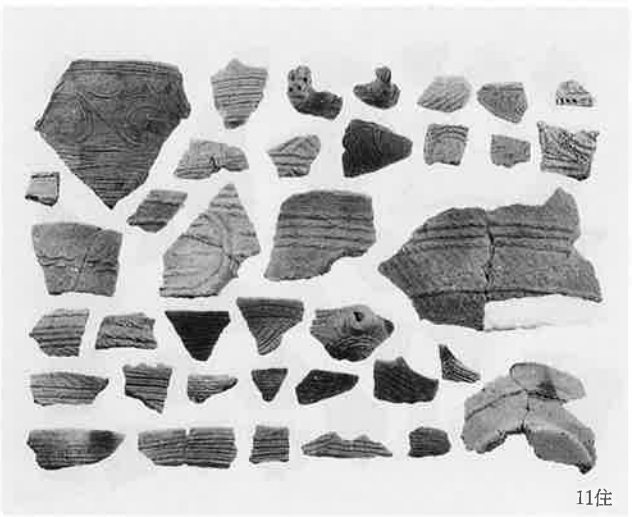
11住－4

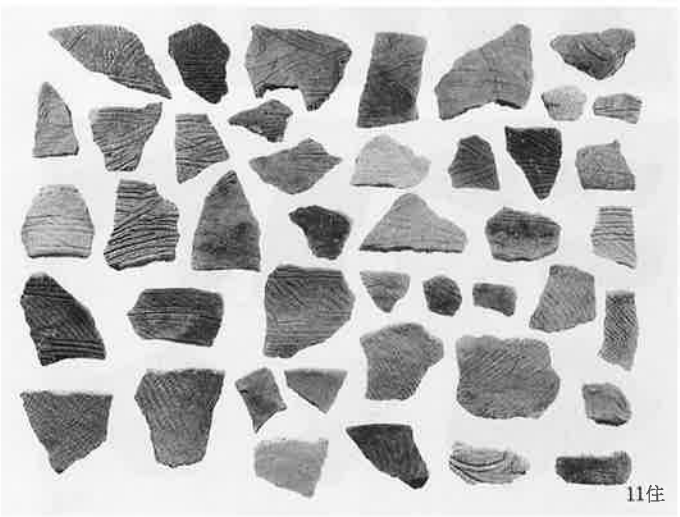
11住—85

11住－5

11住－3


11住－85

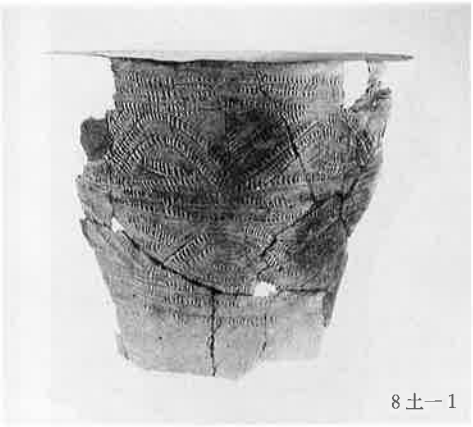

11住


11住

10—（２）・11号住居跡出土土器

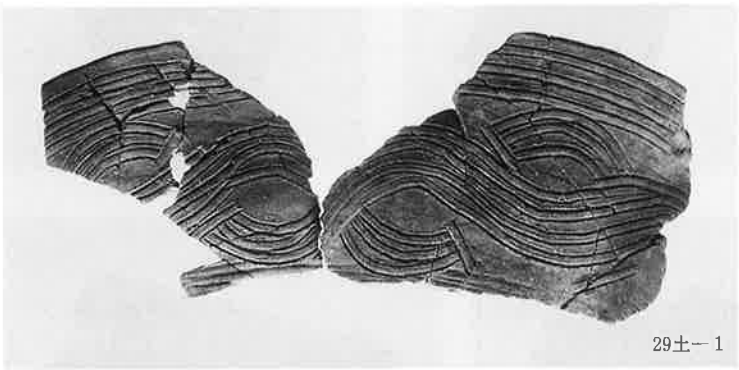
2土－1

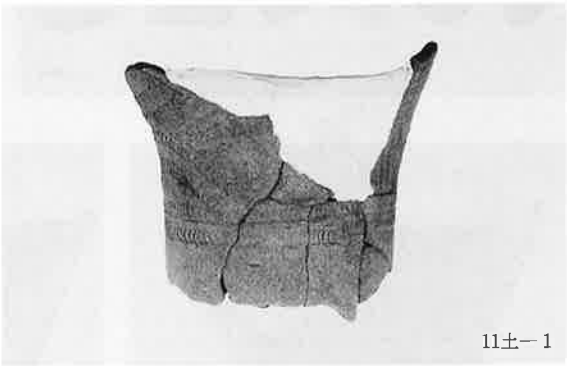
4土－1

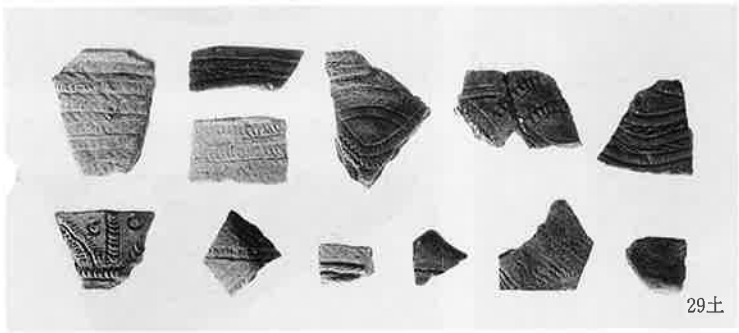

8土－1

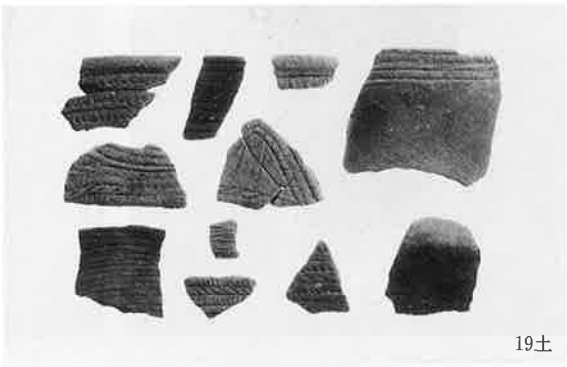
10土

11土－6

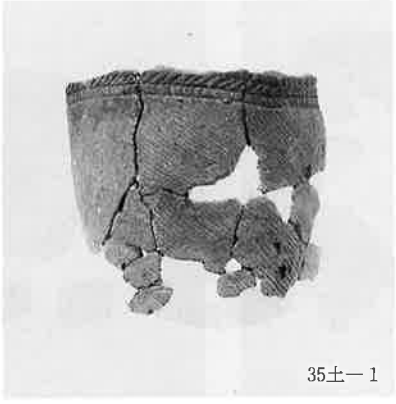

29土－1

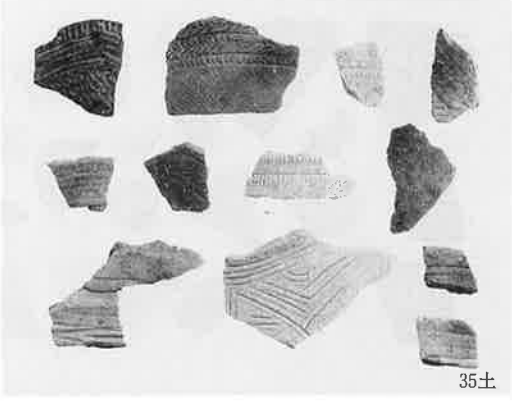

11土－1


29土


19土

35土－15a，b


35土－1

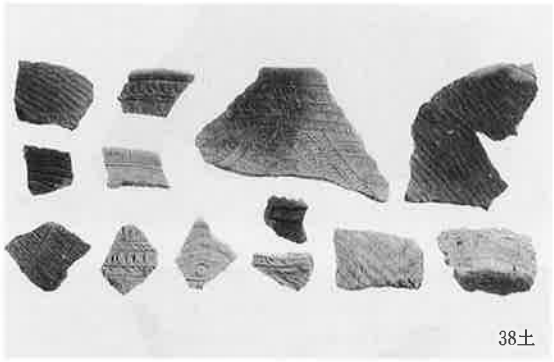

35土

2・4・8・10・11・19・29・35号土坑出土土器

38土－1

38土－1

38土－1


38土

39土－1

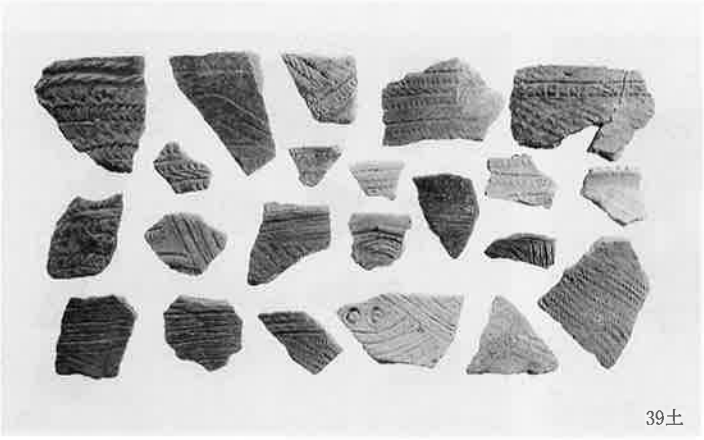
39土－2

39土－3

39土－3

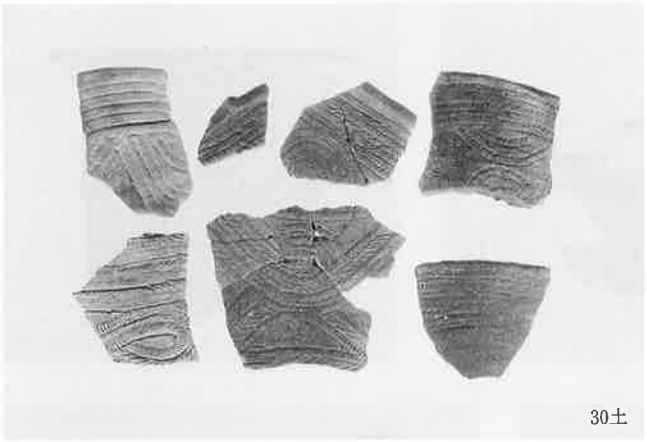
39土－5

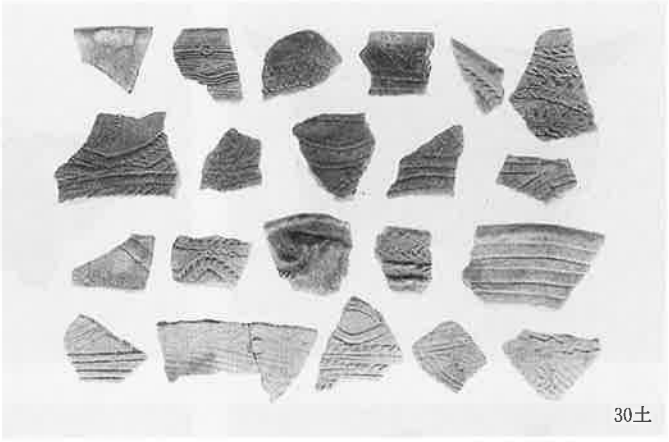
39土－5


39土

39土

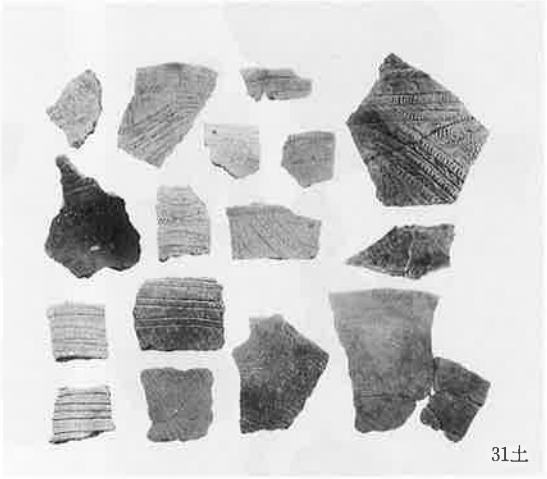
38・39号土坑出土土器

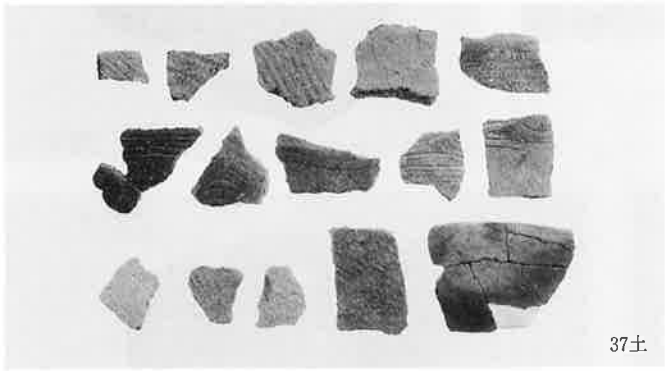

30土

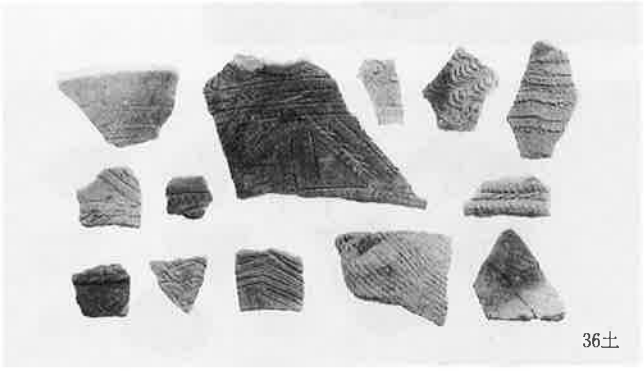

30土

37土－1

30土


31土


37土

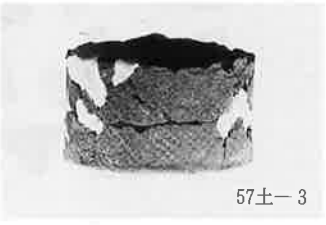

36土

41、42土

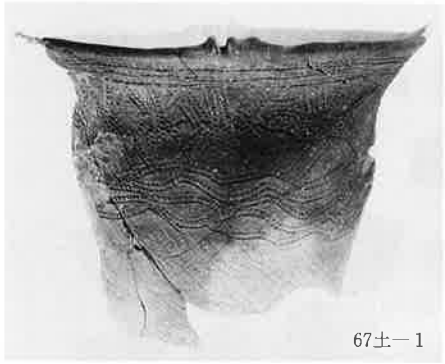
57土－1

57土－2

64土－1

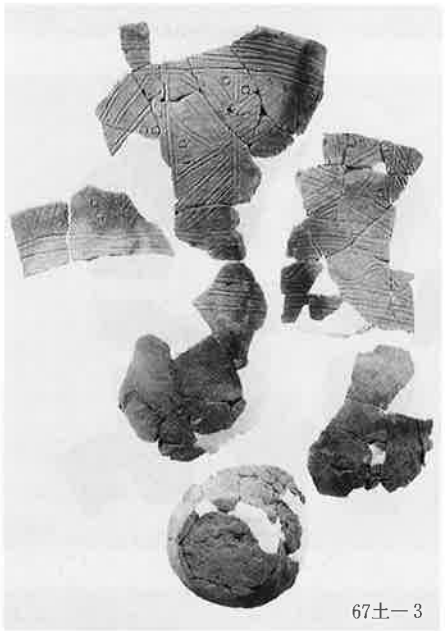

57土－3

30・31・36・37・41・42・57・64号土坑出土土器

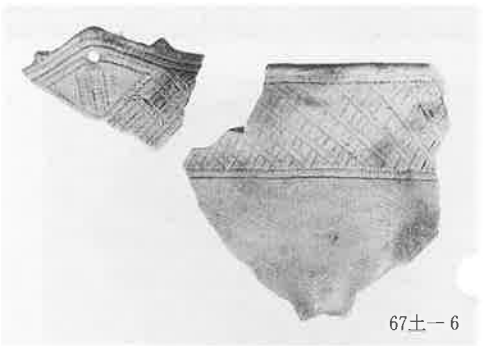

67土－1

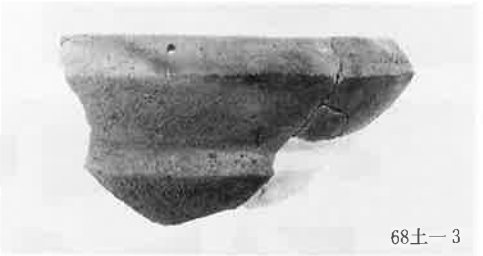
67土－2

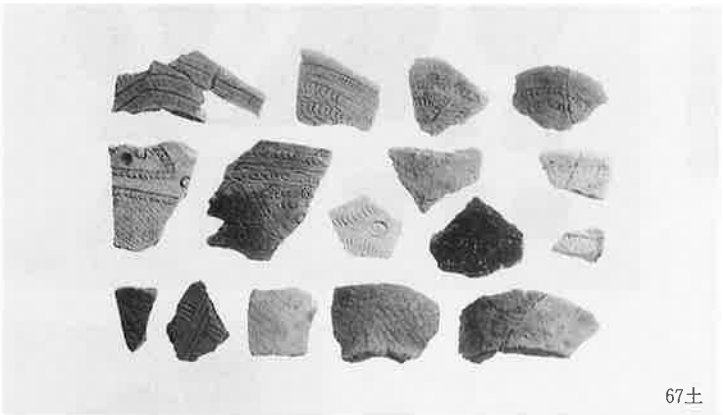
67土－4

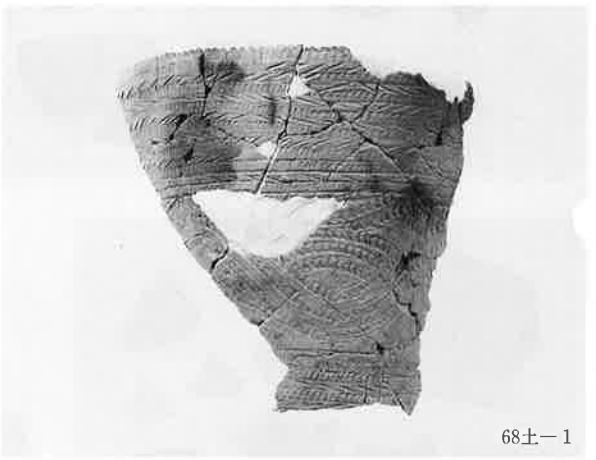

67土－3

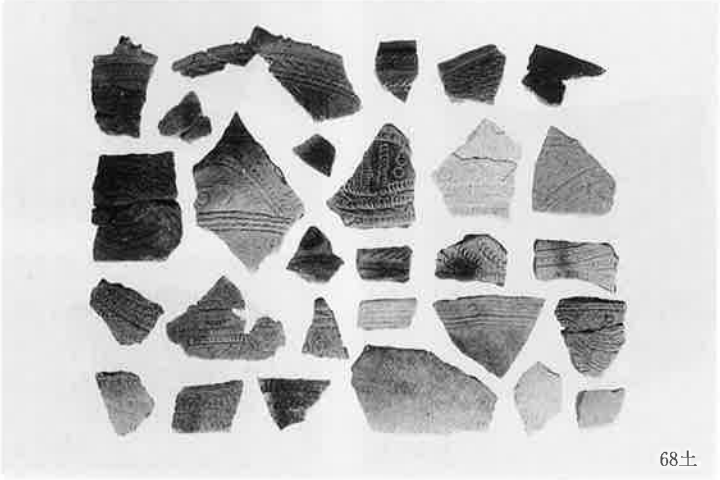
67土－5


67土－6


68土－3

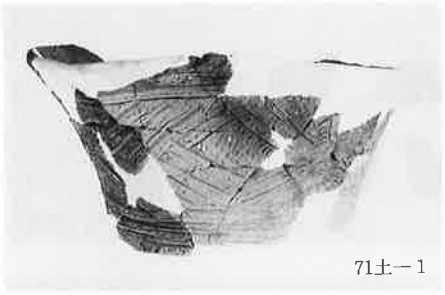

67土

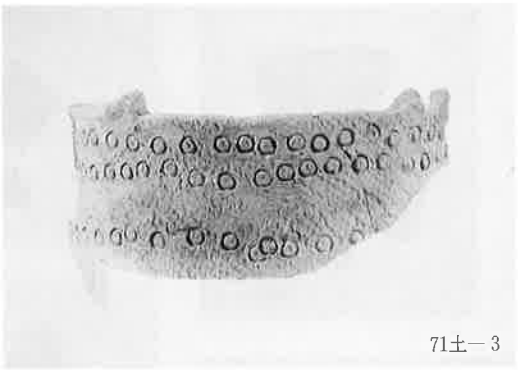

68土－1

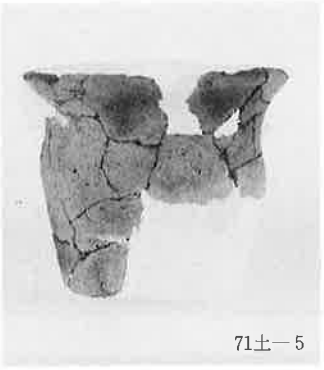

68土

68土－2

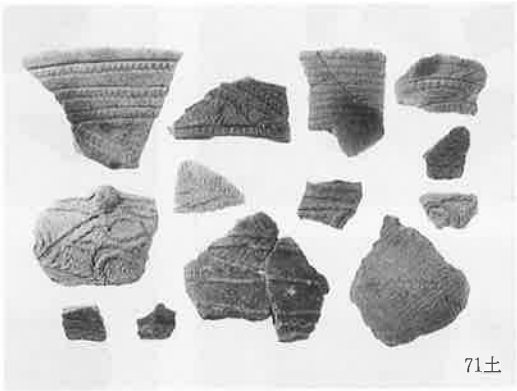
67・68号土坑出土土器


71土－1


71土－3

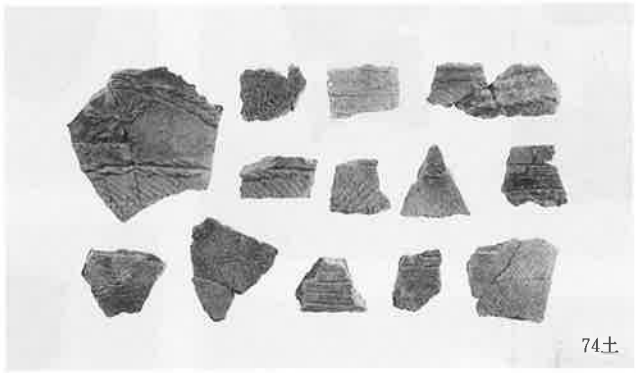

71土－5

71土－2


71土

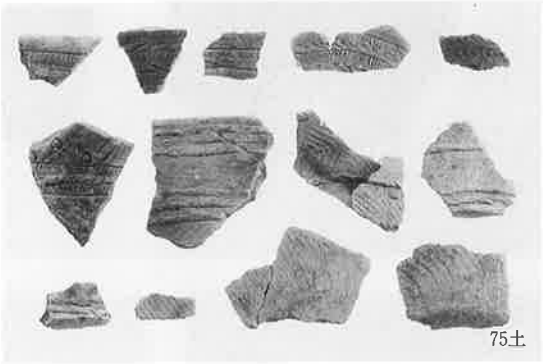
71土－4

71土－2


74土

75土－20

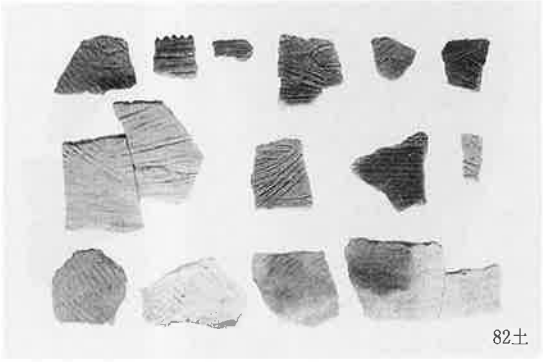
74土－1


75土

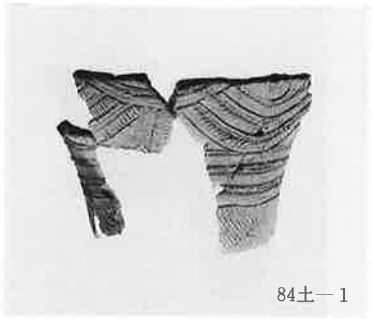
74土－1

80土

82土－1


82土

71・74・75・80・82号土坑出土土器

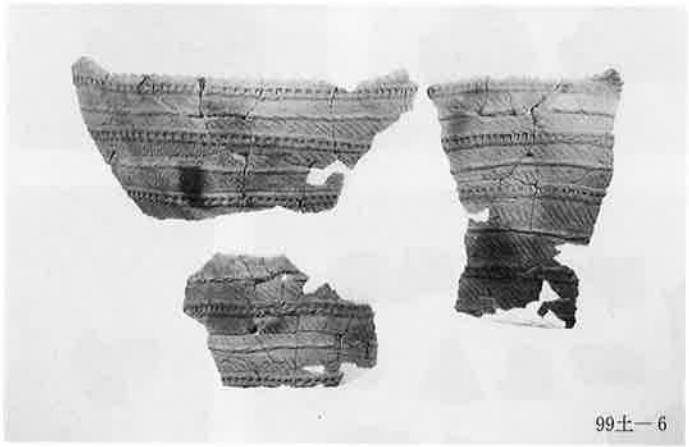

84土－1

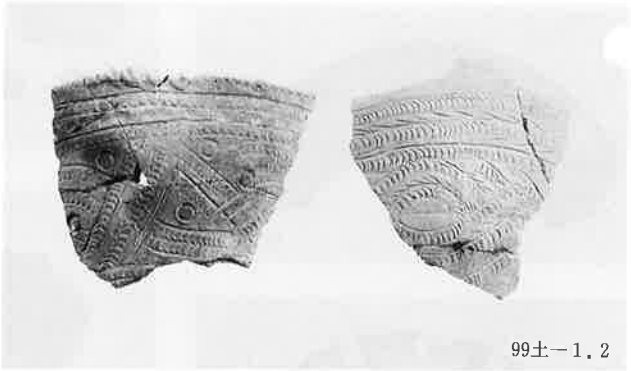
84土－2

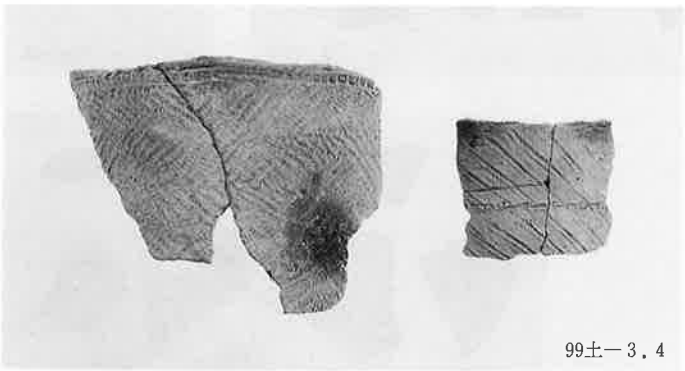
92土

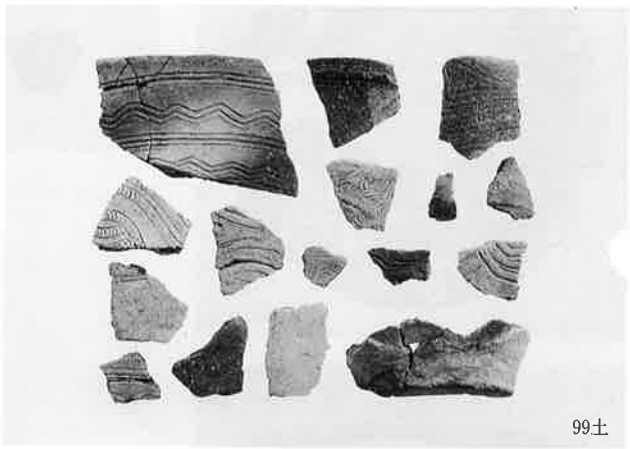
84土

94土

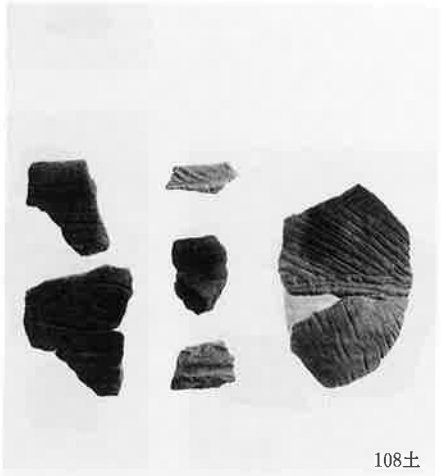

99土－6


99土－1．2


99土－3．4

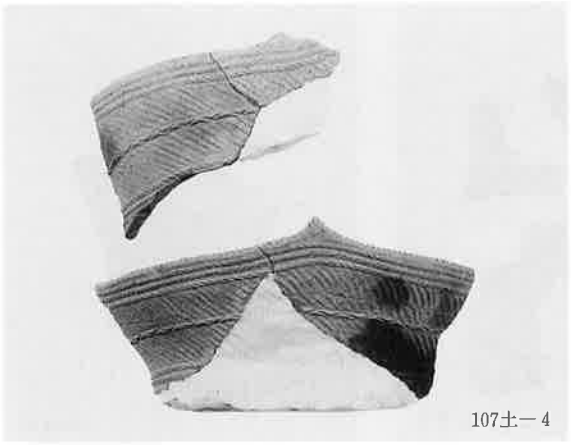

99土

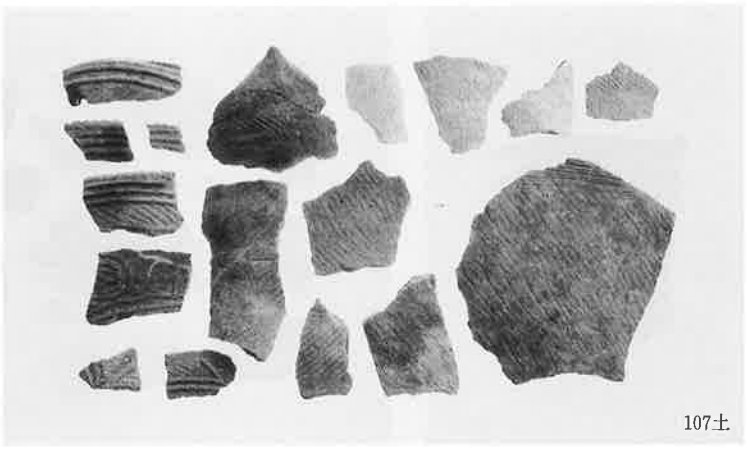
108土－1


108土

105土

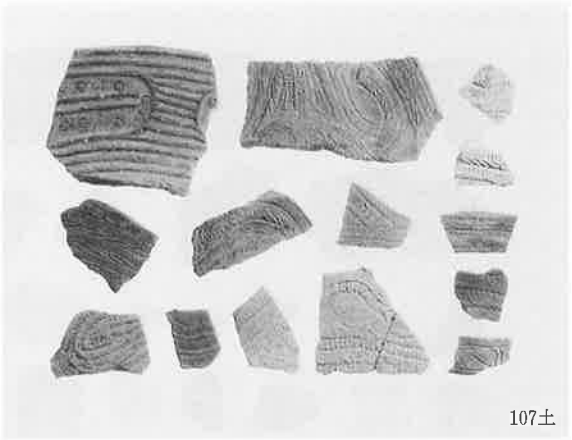
84・92・94・99・105・108号土坑出土土器

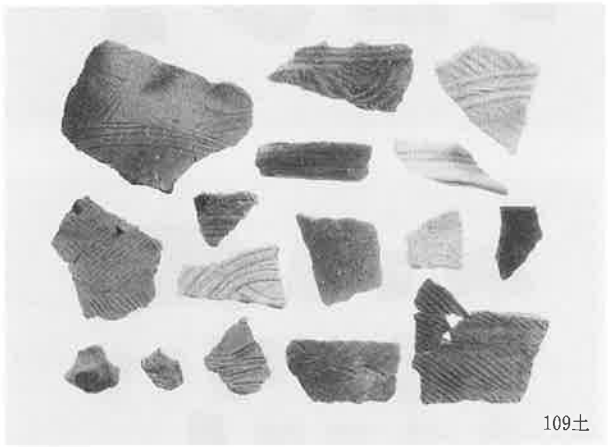

107土－4

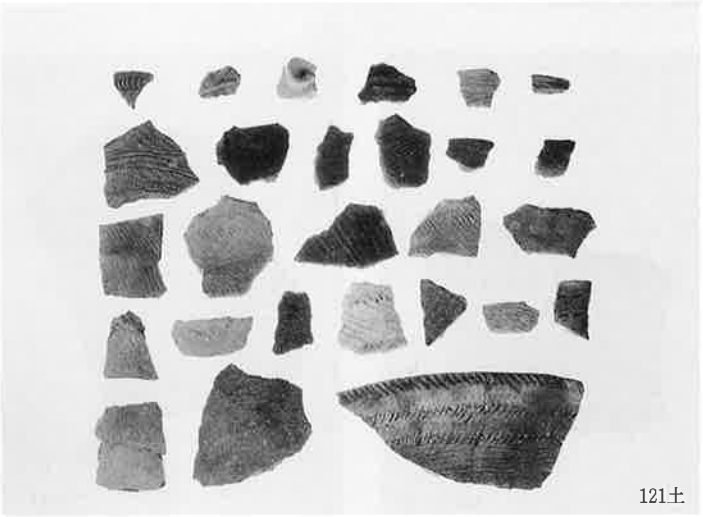

107土

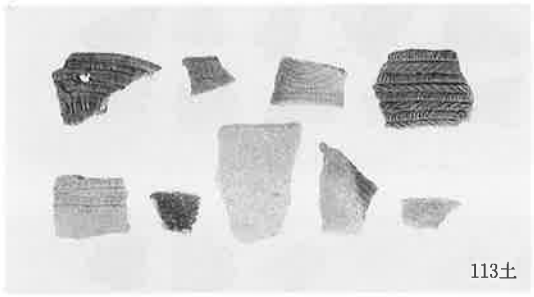
107土－5

109土－2


107土


109土


121土

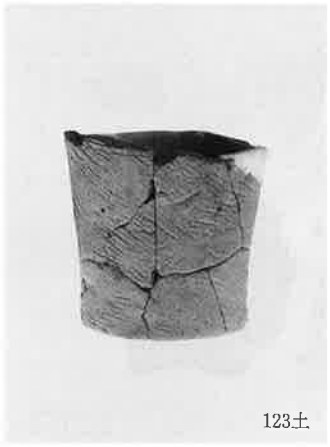

113土

122土

121土－1

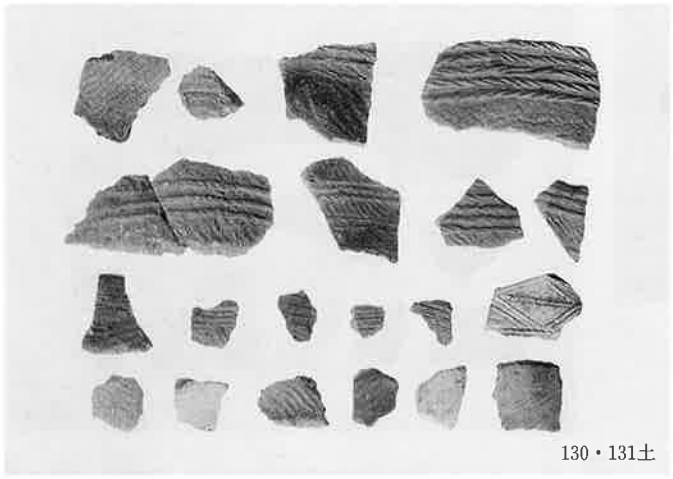
121土－2

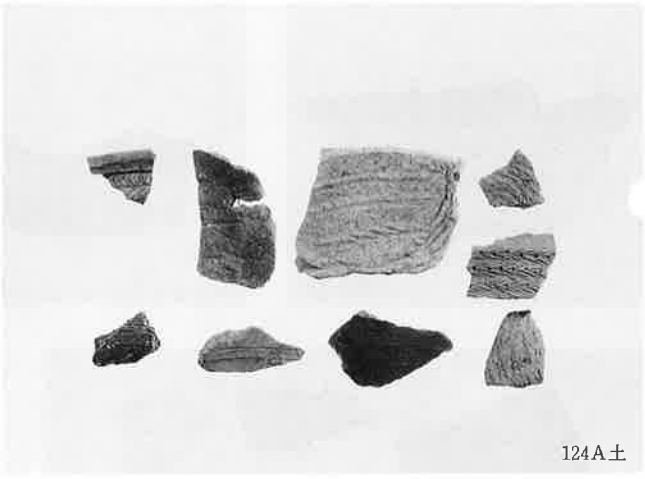
107・109・113・121・122号土坑出土土器


123土

123A・B土

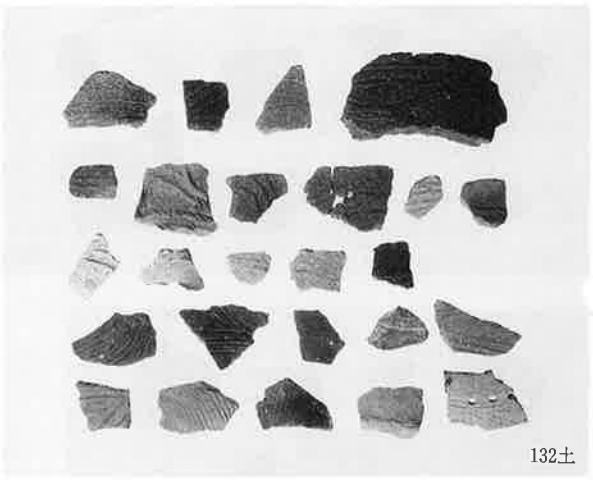
124B土

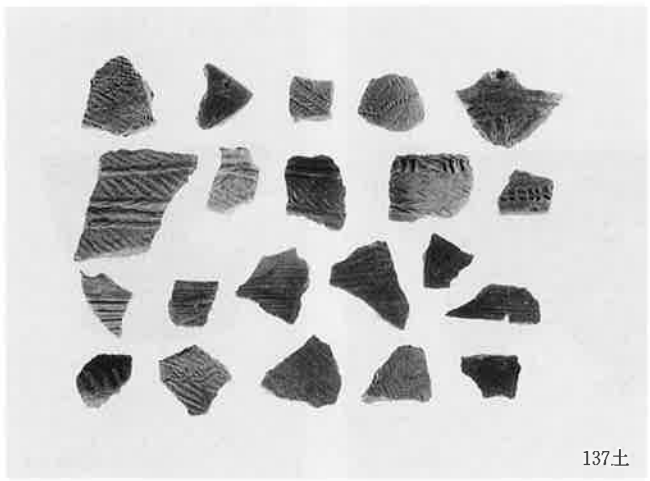

130・131土

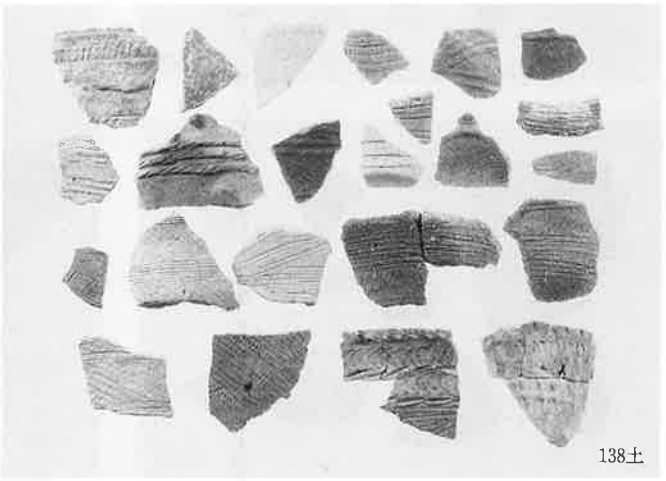

124A土

137土—28

138土—1


132土

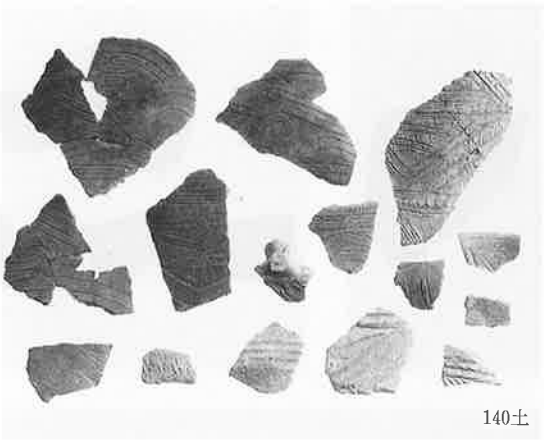

137土

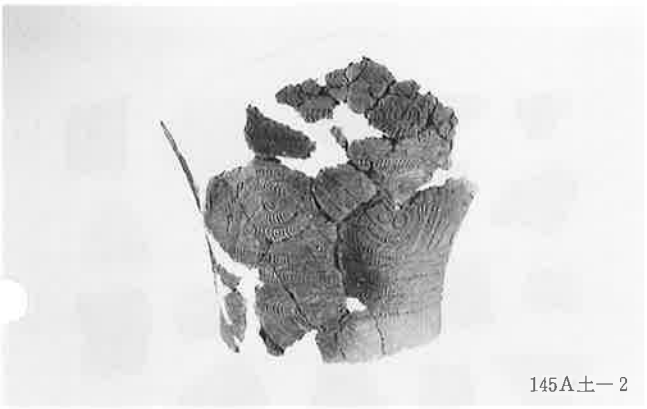

138土

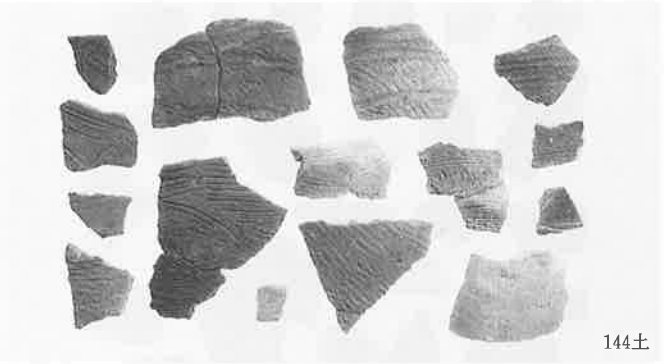
123・124・130・131・132・137・138号土坑出土土器

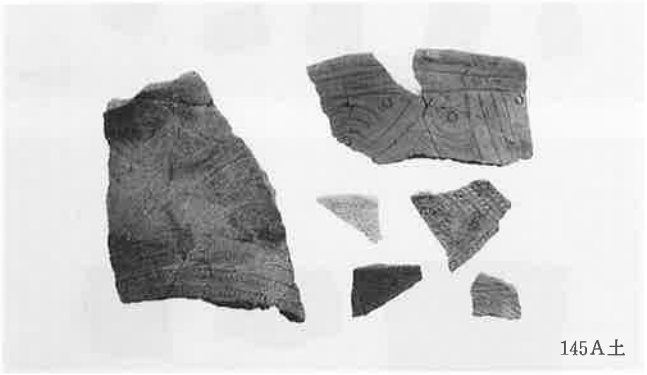
140土－1

140土－5


140土

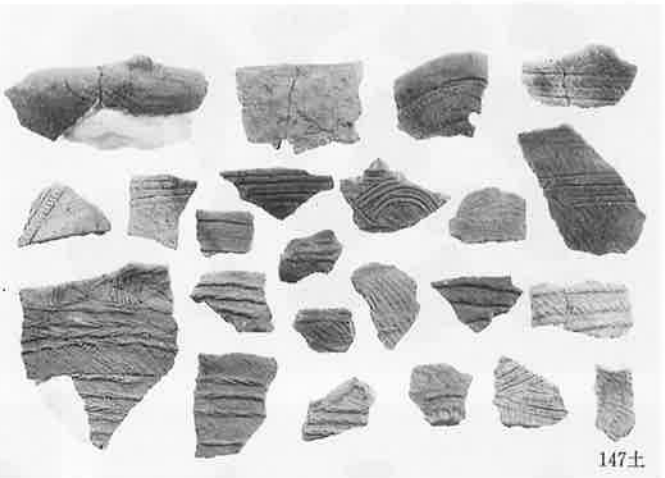

145A土－2


144土

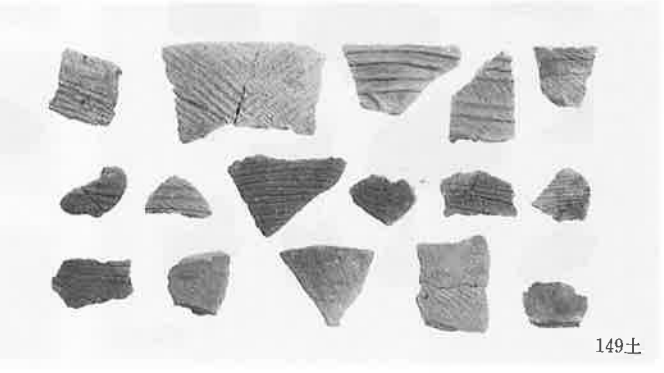

145A土

147土－36

147土－2・3

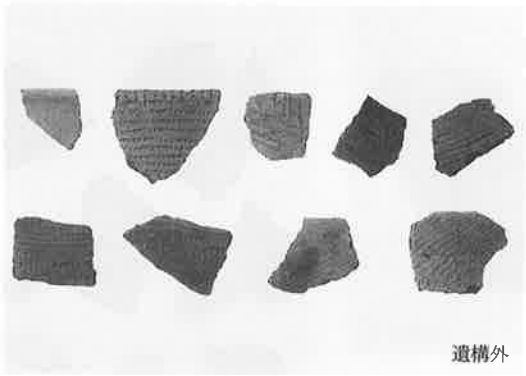

147土

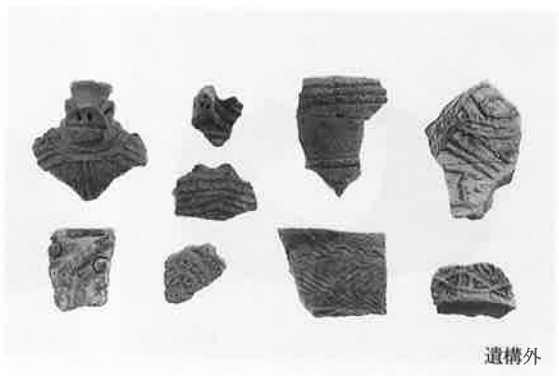
148土－1

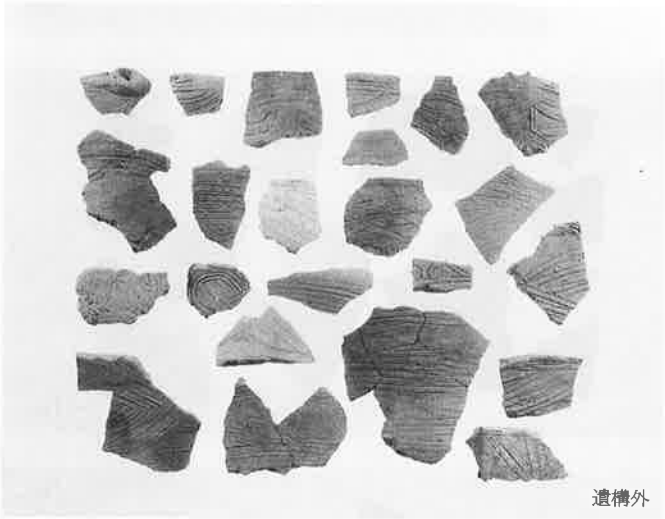

149土

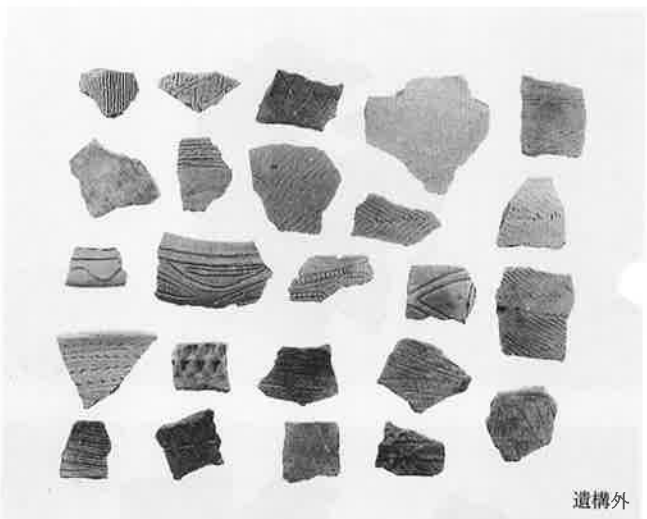
140・144・145・147・148・149号土坑出土土器

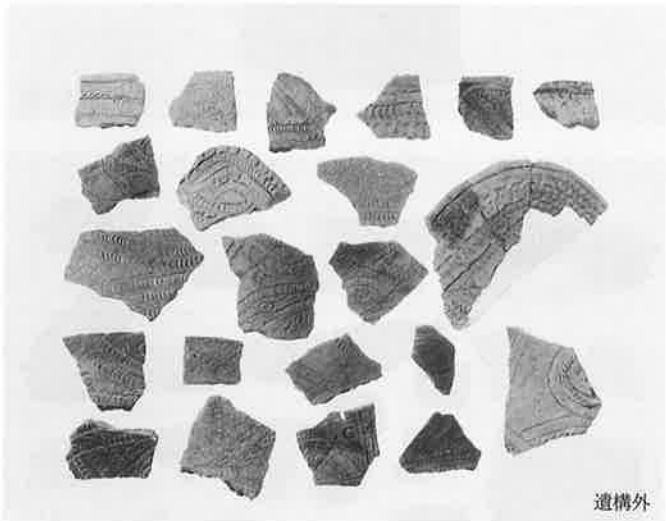
遺構外

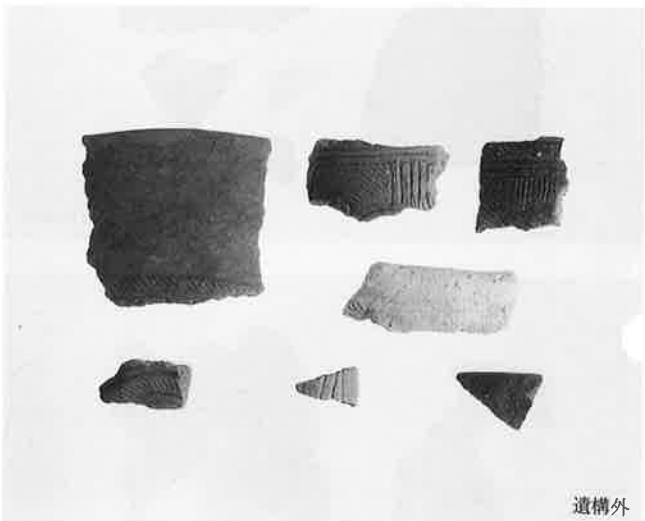

遺構外


遺構外


遺構外

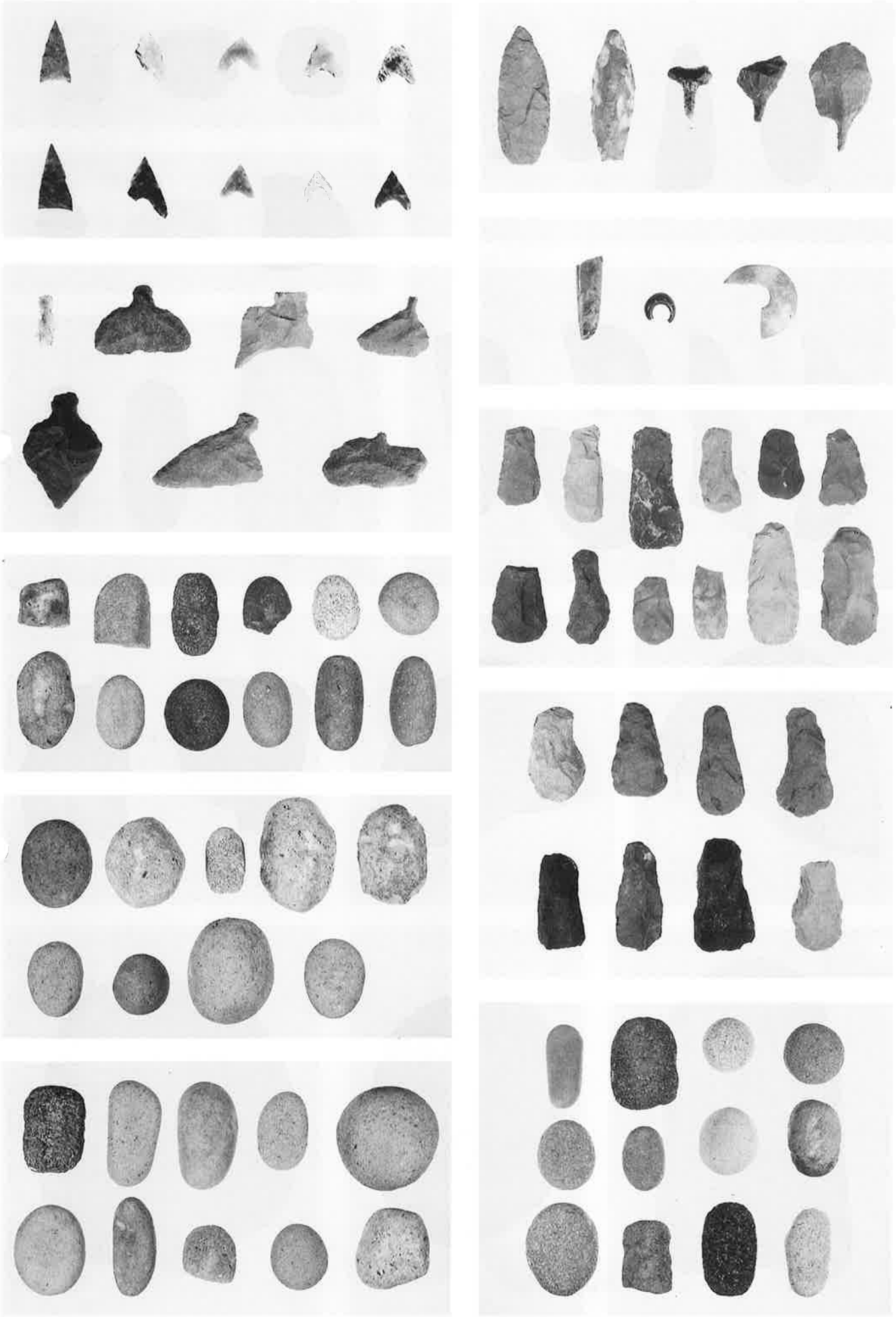

遺構外


遺構外

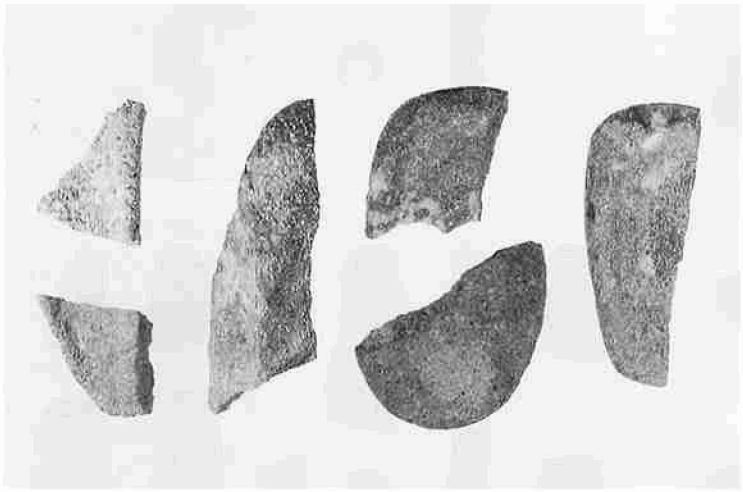

遺構外

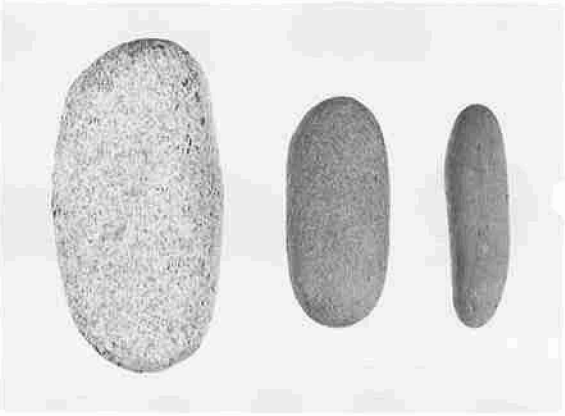
獣面把手

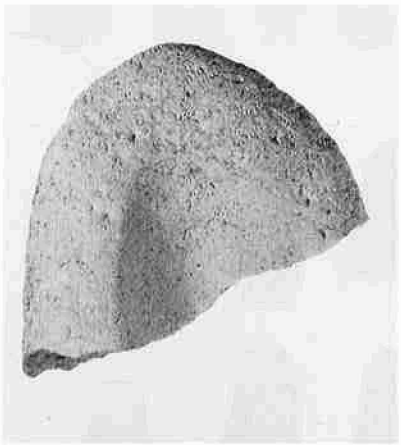
遺構外出土土器、獣面把手、焼成粘土塊等

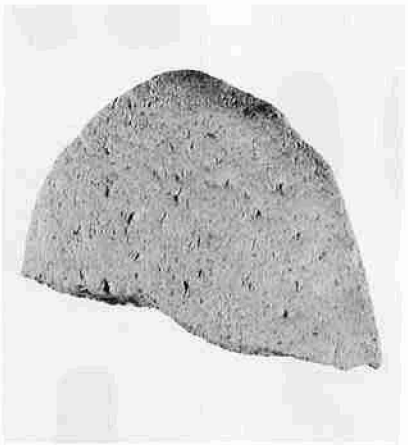


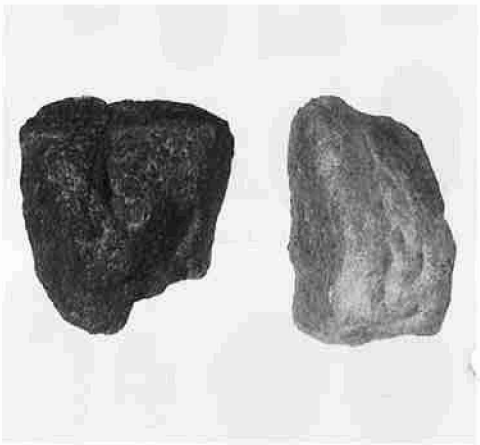
愛宕山遺跡出土石器（1）

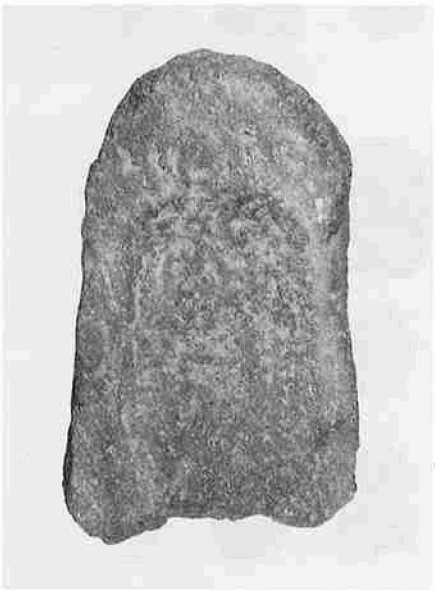


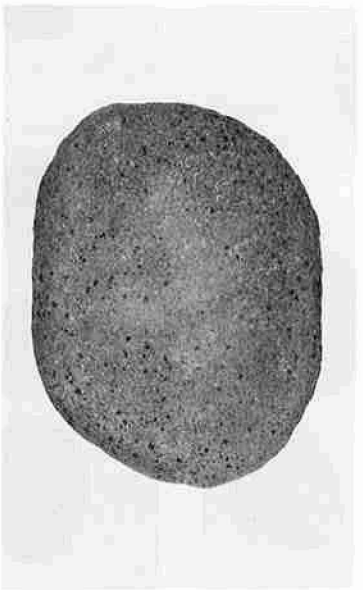


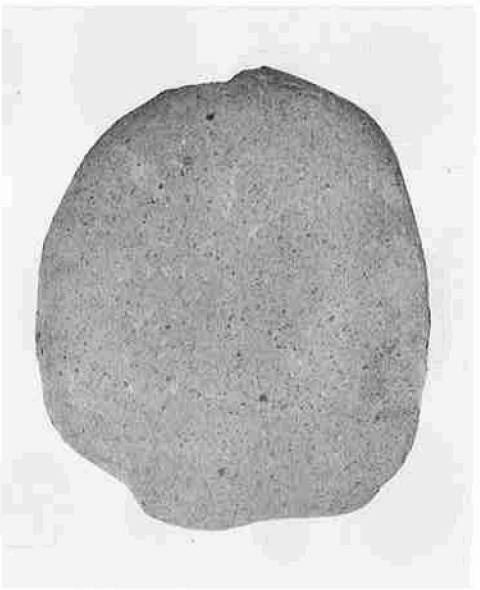












愛宕山遺跡出土石器（２）

1．初室古墳全景（北上空から）

2．初室古墳石室全景（南西から）

1．初室古墳調査前遠望（十二山山頂より）

2．調査前一石室周辺（南から）

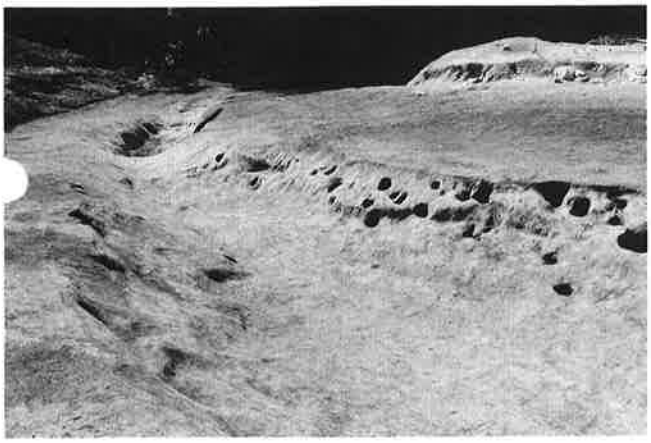
3．葺石崩落状況一墳丘西側

4．葺石崩落状況一墳丘北側

5．葺石残存状況一墳丘北側

1．葺石残存状況―墳丘西側

2．葺石残存状況―墳丘西側



3．周堀

4．周堀セクション

5．石室閉塞

6．羨道部閉塞状況

7．閉塞及び玄門部

8．奥壁

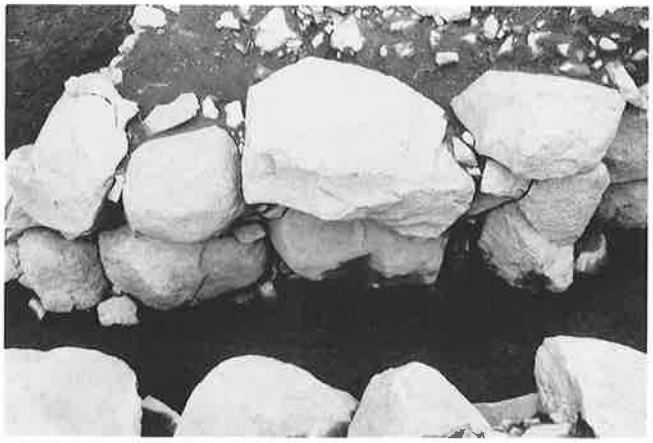
ＰＬ56　初室古墳

1．玄室床面

2．玄室硝石

3．玄室左壁

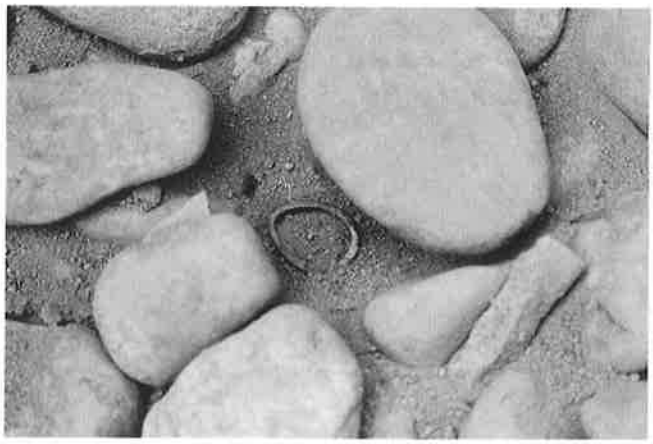
4．羨道部左壁



5．羨道部右壁

6．玄室右壁

7．頭椎太刀柄頭出土状態



8．縁金具出土状態

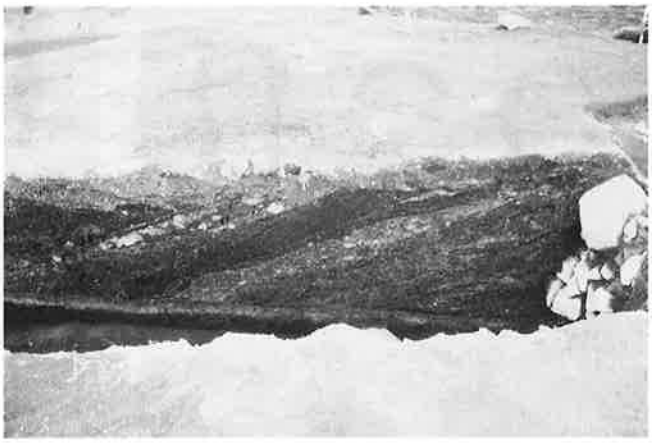
1．切羽出土状態

2．耳環出土状態

3．鉸具出土状態

4．鉸具出土状態

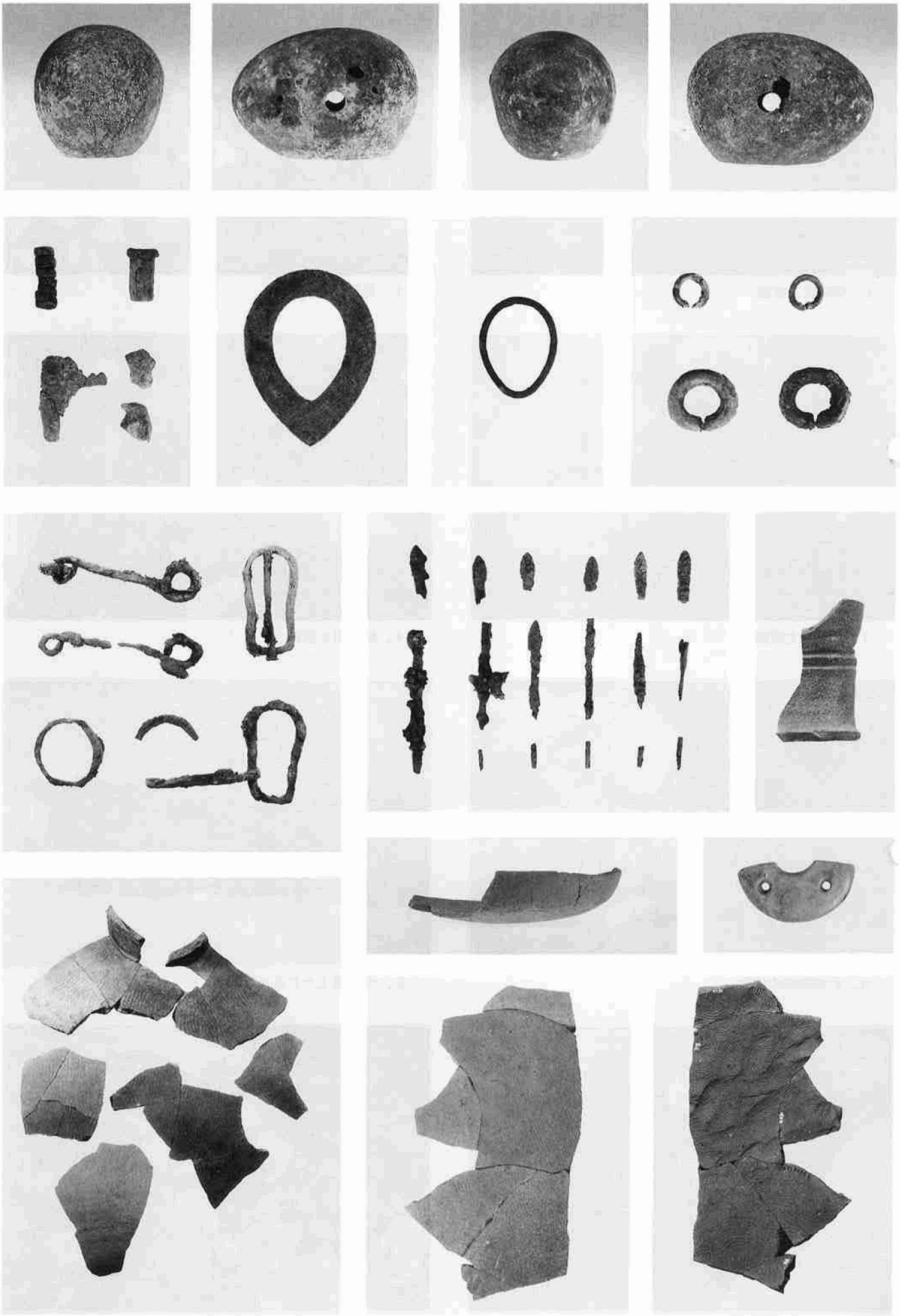
5．石室裏込め状況



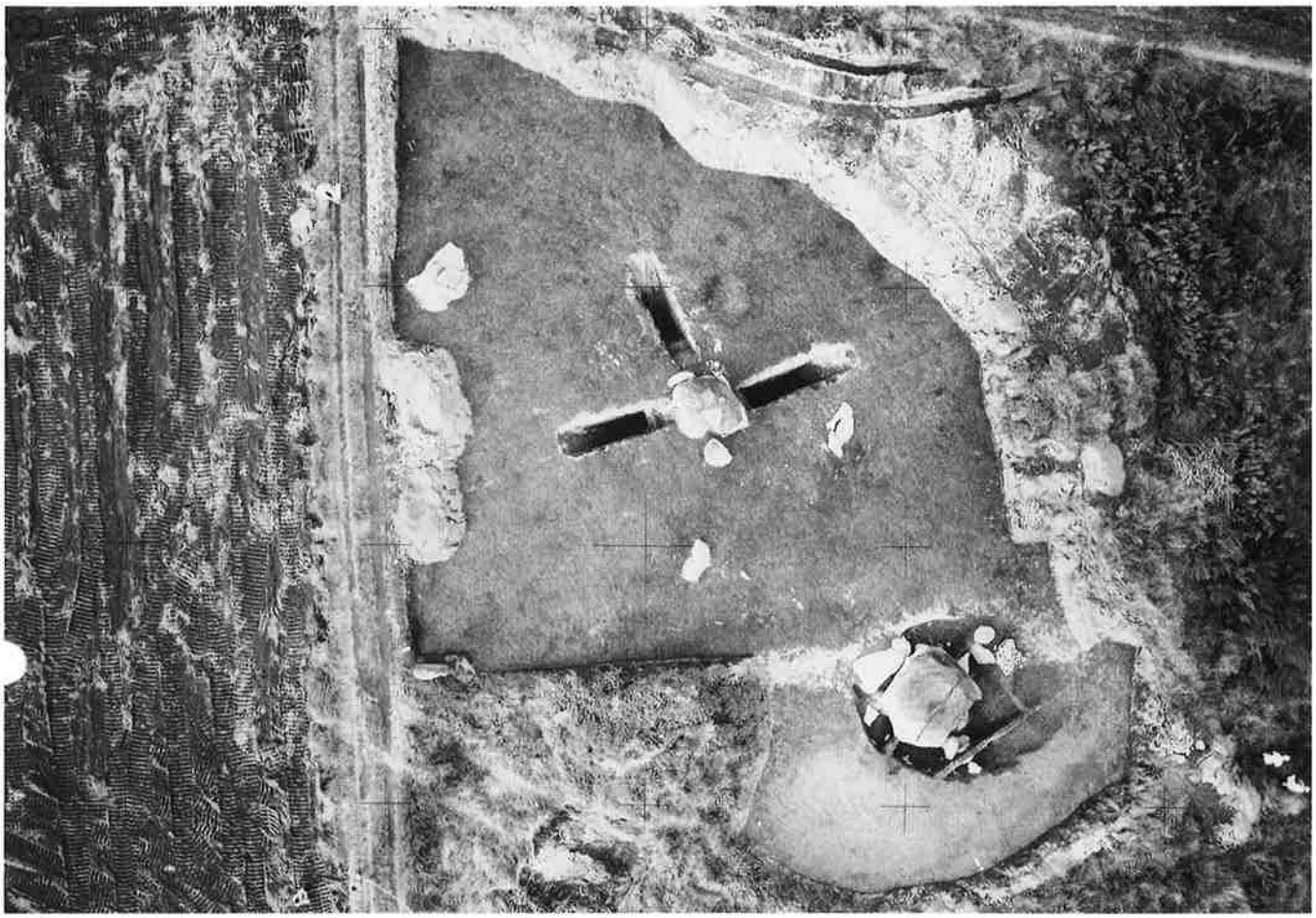
6．墳丘盛土セクション

7．石室裏込め状況

8．作業風景



初室古墳出土遺物



1．愛宕遺跡全景（上空から―上が北）

2．1号石

3．1号石

4．2号石

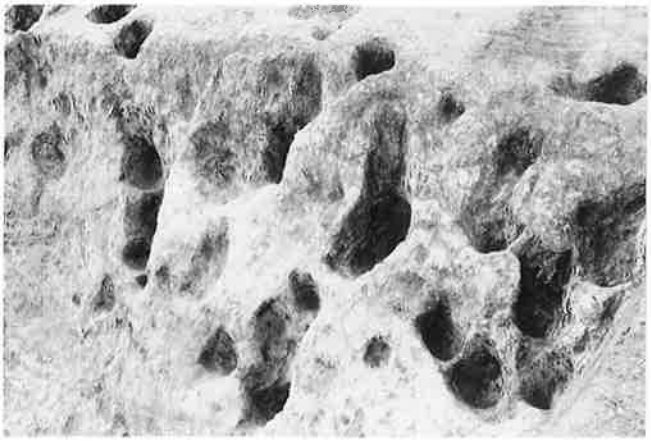
5．3号石

1．日向遺跡全景（上空から―上が北）

2．溝跡

3．同

4．同



5．同

富士見地区遺跡群
愛宕山遺跡
初室古墳
愛宕遺跡
日向遺跡
平成2年度県営圃場整備事業富士見地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成6年3月20日 印刷
平成6年3月25日 発行

編集・発行/群馬県勢多郡富士見村教育委員会
群馬県勢多郡富士見村大字田島866-1
電話（0272）88—6111

印刷/朝日印刷工業株式会社